

奄美群島最南端の島

与論島の魚類

*Field guide to fishes of Yoron Island
in the middle of the Ryukyu Islands, Japan*

本村浩之・松浦啓一

Hiroyuki Motomura and Keiichi Matsuura



奄美群島最南端の島
与論島の魚類



Field guide to fishes of Yoron Island
in the middle of the Ryukyu Islands, Japan

本村浩之・松浦啓一（編）



目次

序	3	シマガツオ科	226
凡例	4	ハチビキ科	229
調査	5	フエダイ科	230
謝辞	7	タカサゴ科	240
		クロサギ科	244
ヌタウナギ科	9	イサキ科	245
トラザメ科	10	イトヨリダイ科	248
メジロザメ科	11	フエフキダイ科	250
カグラザメ科	12	タイ科	260
ツノザメ科	13	ツバメコノシロ科	261
アイザメ科	16	ヒメジ科	262
カラスザメ科	17	ハタンボ科	270
オンデンザメ科	20	イスズミ科	273
イセゴイ科	22	メジナ科	275
ハリガネウミヘビ科	23	チョウチョウウオ科	276
イワアナゴ科	24	キンチャクダイ科	298
ウツボ科	25	カワビシヤ科	310
ホラアナゴ科	40	シマイサキ科	311
ウミヘビ科	42	ユゴイ科	312
アナゴ科	43	イシダイ科	315
ニシン科	45	ゴンベ科	316
サバヒ一科	50	カワスズメ科	320
ゴンズイ科	51	スズメダイ科	321
ムネエソ科	52	ペラ科	377
エソ科	54	ブダイ科	425
ハダカイワシ科	59	トラギス科	440
ギンメダイ科	60	ベラギンボ科	445
チゴダラ科	61	トビギンボ科	445
カクレウオ科	63	ヘビギンボ科	446
フサイタチウオ科	63	イソギンボ科	463
カエルアンコウ科	68	ウバウオ科	485
アカグツ科	69	ネズツボ科	486
ボラ科	70	カワアナゴ科	490
トウゴロウイワシ科	76	ヤナギハゼ科	491
トビウオ科	78	ハゼ科	492
サヨリ科	81	オオメワラスボ科	546
ダツ科	82	クロユリハゼ科	546
カダヤシ科	83	マンジュウダイ科	550
キンメダイ科	84	アイゴ科	552
イットウダイ科	86	ツノダシ科	557
ウミテング科	101	ニサダイ科	558
カミノリウオ科	102	カマス科	577
ヨウジウオ科	103	クロタチカマス科	578
ヘラヤガラ科	111	タチウオ科	579
ヤガラ科	112	サバ科	580
ヘコアユ科	112	オオメメダイ科	583
フサカサゴ科	114	ダルマガレイ科	584
ダンゴオコゼ科	136	ペロガレイ科	587
メバル科	136	ササウシノシタ科	587
ハオコゼ科	137	モンガラカワハギ科	592
オニオコゼ科	137	カワハギ科	607
コチ科	138	ハコフグ科	610
ハタ科	141	ウチワフグ科	612
メギス科	169	フグ科	613
タナバタウオ科	178	ハリセンボン科	621
キントキダイ科	182	地方名一覧	623
テンジクダイ科	186	引用文献	626
キツネアマダイ科	212	標準和名索引	629
ムツ科	213	学名索引	637
シイラ科	213	著者一覧	645
アジ科	214	編者	646

This book covers the inshore, offshore, and freshwater fish faunas of Yoron Island in the middle of the Ryukyu Islands. It contains accounts of 697 species of fishes belonging to 323 genera in 111 families, illustrated with 1808 color photographs.



For bibliographic purposes, this book should be cited as follows:

本村浩之・松浦啓一 (編). 2014. 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市・国立科学博物館, つくば市. 648 pp., 1808 figs.

Motomura, H. and K. Matsuura (eds.). 2014. Field guide to fishes of Yoron Island in the middle of the Ryukyu Islands, Japan. The Kagoshima University Museum, Kagoshima and the National Museum of Nature and Science, Tsukuba. 648 pp., 1808 figs.

序

鹿児島大学総合研究博物館では、「鹿児島県魚類多様性調査プロジェクト」の一環として毎年各島嶼海域の魚類相調査を行っている。2008年～2009年には屋久島の調査を行い、同島から標本に基づく初記録374種を含む951種を報告した(Motomura & Matsuura, 2010)。2010年～2011年には地理的に屋久島と県本土の中間に位置する三島村(硫黄島、竹島、昭和硫黄島)の調査を行い414種を報告した(本村ほか, 2013)。

2011年～2014年には与論島の魚類調査を行った。与論島周辺海域の包括的な魚類調査はこれまで実施された記録がない。本調査によってヨロンスズメダイ *Chromis insularis* やホムラトラギス *Parapercis randalli*、ヒメトゲウミヤッコ *Halicampus spinostris* が、日本初記録などによって新標準和名が提唱され(西山ほか, 2012; 日比野ほか, 2013; 松沼ほか, 2013)、オニボラ *Ellochelone vaigiensis* やアカヒレハダカハゼ *Kelloggella cardinalis*、ゼブラハゼ *Ptereleotris zebra*、イレズミオオメエソ *Synodus oculus*、コケテンハギ *Pseudomonacanthus macrurus* などが分布の空白地を埋める記録として報告された(畑ほか, 2012; 岩坪・本村, 2013a,b; 笹木ほか, 2013; Matsuura & Chiba, 2013)。また、キホシスズメダイ *Chromis yamakawai* は今回の調査によって得られた標本に基づいて新種として記載された(Iwatsubo & Motomura, 2013)。

本調査によって、与論島周辺海域から **111科323属697種**が記録された。本書ではこれら全種を1808枚のカラー写真で紹介する。上記のすでに出版済の種

の他に、本書には5種が日本初記録として掲載されている(全て新称: スズランヒメウツボ *Gymnothorax fuscomaculatus*、チュラブシホウネンエソ *Polyipnus ovatus*、フジナハナダイ *Plectranthias wheeleri*、ヒメクロコバンハゼ *Gobiodon ater*、アシナガシマイソハゼ *Trimmatom macropodus*)。本書は与論島海域に広く普通に生息する種が概ね網羅されていると思うが、未だ同海域における魚類相を十分に解明したとは言えない。本書を基礎資料として、今後のさらなる調査が期待される。なお、与論島における魚類の呼び名一覧を巻末に掲載した。

- 畑 晴隆・伊東正英・本村浩之. 2012. 鹿児島県薩摩半島西岸と与論島から得られたボラ科魚類オニボラ *Ellochelone vaigiensis* の記録. *Nature of Kagoshima*, 38: 73-77.
- 日比野友亮・本村浩之・木村清志. 2013. 鹿児島県与論島から得られた日本初記録のホムラトラギス(新称) *Parapercis randalli*. *魚類学雑誌*, 60: 129-134.
- 岩坪洗樹・本村浩之. 2013a. 鹿児島県与論島から得られたアカヒレハダカハゼ *Kelloggella cardinalis* の記録. *Nature of Kagoshima*, 39: 59-61.
- 岩坪洗樹・本村浩之. 2013b. 奄美群島与論島から採集されたクロユリハゼ科魚類ゼブラハゼ *Ptereleotris zebra*. *Nature of Kagoshima*, 39: 67-70.
- Iwatsubo, H. & H. Motomura. 2013. Redescriptions of *Chromis notata* (Temminck and Schlegel, 1843) and *C. kennensis* Whitley, 1964 with description of a new species of *Chromis* (Perciformes: Pomacentridae). *Species Diversity*, 18: 175-182.
- 松沼瑞樹・瀬能 宏・本村浩之. 2013. 琉球列島から得られた日本初記録のヨウジウオ科ヒメトゲウミヤッコ(新称) *Halicampus spinostris*. *魚類学雑誌*, 60: 157-161.
- Matsuura, K. & S. N. Chiba. 2013. First record of the filefish, *Pseudomonacanthus macrurus* (Bleeker, 1856), from Yoron-jima Island, Ryukyu Islands (Actinopterygii, Tetraodontiformes, Monacanthidae). *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A*, 39: 211-213.
- 本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一(編). 2013. 鹿児島県三島村—硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市・国立科学博物館, つくば市. 390 pp., 883 figs.
- Motomura, H. & K. Matsuura (eds.). 2010. *Fishes of Yaku-shima Island - A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan*. National Museum of Nature and Science, Tokyo. viii + 264 pp., 704 figs.
- 西山 肇・渡井幹雄・瀬能 宏・本村浩之. 2012. 鹿児島県与論島から採集されたスズメダイ科魚類 *Stegastes insularis* ヨロンスズメダイ(新称)とその分布特性. *魚類学雑誌*, 59: 155-162.
- 笹木大地・本村浩之・木村清志. 2013. イレズミオオメエソ *Synodus oculus* の鹿児島県与論島からの記録. *Nature of Kagoshima*, 39: 27-29.

本村浩之

2014年3月7日



凡例

各種の解説は Carpenter & Niem (1999–2001)、Randall (2005)、中坊 (2013)、神奈川県立生命の星・地球博物館の「魚類写真資料データベース」(<http://fishpix.kahaku.go.jp/fishimage/index.html>)などを基本的な参考資料とし、各種の最新の文献を個別に参照して書かれている。右解説例の赤丸番号が以下の番号に対応する。

①対象種の目、科、属の和名。本書の科の掲載順は Nelson (2006) に準拠

②標準和名。与論島における地方名は本書の巻末に掲載

③学名。属名と種小名の二語。亜種の場合は三語

④学名の命名者と記載年。括弧付は原記載（新種発表時）以降、属名が変わったことを示す

⑤形態的特徴の記載。計数形質は「数」を省略（例えば、脊椎骨数は脊椎骨と表記）。種の一般的な記載であるが、与論島から採集された標本に基づく記載の場合は、備考にその旨を明示

⑥色彩的特徴の記載。生鮮時の写真や生時の水中写真などに基づく（一部、固定後の標本の色彩を記載）。一部、神奈川県立生命の星・地球博物館の「魚類写真資料データベース」も参照

⑦分布は概ね Carpenter & Niem (1999–2001)、中坊 (2013)、本村ほか (2013)、「魚類写真資料データベース」に基づく。一部、各著者の未発表研究データも含まれる。種子島、屋久島、硫黄島、竹島などは大隅諸島、トカラ列島以南は琉球列島と表記した

⑧近縁種との比較や分類学的問題点の記述。一部の種には生息環境や生態情報も記載

⑨解説文の著者名。本書全体ではなく、特定の種を引用する場合は、次のように書く：本村浩之。2014。プチフサカサゴ。Pages 132–133。本村浩之・松浦啓一（編）。奄美群島最南端の島—与論島の魚類。鹿児島大学総合研究博物館，鹿児島市・国立科学博物館，つくば市。

⑩写真の説明。標本写真は「標準和名、学名、標本番号、サイズ」の順。標本番号は博物館における写真個体の登録番号で、BSKUは高知大学理学部海洋生物学研究室、FRLM

⑪



⑩ ■ プチフサカサゴ *Sebastes fowleri* KAUM-I. 45856. 22.1 mm SL

① カサゴ目 フサカサゴ科 マダラフサカサゴ属

② プチフサカサゴ

③ *Sebastes fowleri*

④ (Pietschmann, 1934)

⑤ 形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 15–16; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 30–34。体側上方の鱗は密鱗。口蓋骨歯はない。涙骨下縁には3棘あり、後方棘は下向き。涙骨側棘はない。眼下骨棘は2本で、第1棘は眼の下方、2棘は眼の後方に位置する。第1眼下骨棘の下方に棘はない。鼻棘は単尖頭で、しばしば皮下に埋没する。眼隔域中央隆起、眼隔棘、額棘、お

よび余棘はない。眼上棘と眼後棘は単尖頭で、耳棘より小さい。後頭棘はなく、ほぼ平ら。後頭域の前後縁に明瞭な隆起線はない。下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主腮蓋骨上方・下方棘は単尖頭。

⑥ 色彩 体色は変異に富む。色彩における性的二型は知られていない。

⑦ 分布 インド・太平洋域に広く分布する。国内では伊豆半島東岸、高知県、大隅諸島、琉球列島から標本が得られている。

⑧ 備考 本項の計数形質の記載は日本産15個体に基づく。本種は口蓋骨歯がないこと

から、長い間オニカサゴ属に帰属されていた。しかし、近年はマダラフサカサゴ属であると考えられている。本種は口蓋骨歯がないことから、同属があるマダラフサカサゴ属全種から容易に区別されるが、他にも涙骨後方棘が下向きであること（同属他種では後向き）からも識別される。

プチフサカサゴの最大体長は37 mmで、フサカサゴ科魚類の中で最も小型であり、体長18 mmで成熟したメス個体もみついている。これは標準和名プチフサカサゴの由来でもある。

⑨ (本村浩之)

は三重大学大学院水産実験所、KPM-NIは神奈川県立生命の星・地球博物館、KAUM-Iは鹿児島大学総合研究博物館、NSMT-Pは国立科学博物館の機関略号。写真個体のサイズはSL (Standard length: 標準体長) あるいはTL (Total length: 全長) で表記。雌雄が明らかな写真には学名と標本番号の間に性 (Male・Female) を加筆。標本写真以外に撮影者と撮影日を記載

⑪ 全て与論島の魚の写真。他水域から採集された魚の写真は一切使用していない。標本の処理と撮影方法は本村 (2009) と Motomura & Ishikawa (2013) に準拠

引用文献

Carpenter, K. E. & V. H. Niem (eds.). 1999–2001. FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vols. 4–6. FAO, Rome. 2069–4218 pp.

本村浩之（編）。2009。魚類標本の作製と管理マニュアル。鹿児島大学総合研究博物館，鹿児島市。70 pp. Download: <http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>

本村浩之・羽田慎一・古田和彦・松浦啓一（編）。2013。鹿児島県三島村—硫黄島と竹島の魚類。鹿児島大学総合研究博物館，鹿児島市・国立科学博物館，つくば市。390 pp., 883 figs. Download: <http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>

Motomura, H. & S. Ishikawa (eds.). 2013. Fish collection building and procedures manual. English edition. The Kagoshima University Museum, Kagoshima and the Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto. 70 pp. Download: <http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>

中坊徹次（編）。2013。日本産魚類検索 全種の同定，第三版。1–3巻。東海大学出版会，秦野市。xlix + 2428 pp.

Nelson, J. S. 2006. Fishes of the world. Fourth edition. John Wiley & Sons, Inc., Hoboken. xix + 601 pp.

Randall, J. E. 2005. Reef and shore fishes of the South Pacific. New Caledonia to Tahiti and the Pitcairn Islands. University of Hawaii Press, Honolulu. xii + 707 pp.



調査期間

与論島の魚類調査は2011年8月から2014年1月までの7回（2011年8月1～24日、10月31日～11月9日、2012年4月14～24日、8月11～24日、10月20日～11月1日、2013年6月29日～7月4日、2014年1月20日～25日）、合計約80日間行われた。調査隊のメンバーは鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室を中心に、国立科学博物館、高知大学、三重大学、神奈川県立生命の星・地球博物館、広島大学などの研究者や学生、ボランティアの合わせて延べ70名。

上記期間外にも与論町漁業協同組のご協力で魚類のサンプル確保を行った。

調査地

与論島の沿岸性魚類の主な調査地点は右図のとおり。淡水魚の調査地点の詳細は松沼ほか（2012）を参照。

調査方法

沿岸性魚類の調査は、曳網、スクーパーダイビング（手網・追込網など）、釣りなど様々な方法で行い、深海性あるいは沖合に生息する魚類については深海船釣りや地元の市場調査によって標本を確保した。調査風景の写真は次の頁を参照。

採集された魚は、博物館と大学に研究用標本として登録されている。採集後、DNA解析用の組織切片を各個体から採取し、展鱗、写真撮影、固定作業を行った。その後、固定標本の形態観察を行い、レファレンスコレクションや文献との比較検討に基づいて種の同定を行った。

引用文献

松沼瑞樹・龍野勝志・本村浩之. 2012. 鹿児島県与論島で採集された汽水・淡水産魚類. *Nature of Kagoshima*, 38: 109-114.



標本作製のために鹿児島大学与論活性化センターに持ち帰った採集魚類



ボートダイビング調査



スキューバダイビングによる採集



スキューバダイビングによる追込網採集



素潜り採集



"陸地に住む魚" ヨダレカケの採集



深海籠漁



大型曳網採集



中型曳網採集



深海釣り採集



浅海釣り採集



深夜の集魚灯採集



深夜の集魚灯採集



タイドプール採集調査



市場調査



採集された魚の展覧作業



魚類標本の撮影



魚類標本作製作業



魚類標本作製作業

謝 辞

鹿児島大学与論活性化センターの高橋 肇氏と竹村浩之氏、ヨロンダイビングサービスの竹下敏夫氏、岩下富孝氏、竹下尚登氏、与論町漁業協同組の酒匂兼峯氏、林 慶子氏、箕作広光氏、高野壽師氏、裾分 徹氏、鬼塚祐二氏、与論町役場の龍野勝志氏、山下高明氏、与論町教育委員会の町岡光弘氏、与論町商工会の岩村中里氏、与論町の港 信介氏、神奈川県立生命の星・地球博物館魚類ボランティアの内野啓道氏、鹿児島大学大学院連合農学研究科の荻原豪太氏、元鹿児島大学水産学部の中村千愛氏、オーストラリア博物館の J. Leis 氏、ビクトリア博物館の M. Gomon 氏と D. Bray 氏、南アフリカ水棲生物多様性研究機関の O. Gon 氏、ニュージーランド国立博物館の C. Struthers 氏、オークランド戦争記念博物館の T. Trnski 氏、琉球大学の栗岩 薫氏、NHK 鹿児島放送局の川添哲也氏、鹿児島大学水産学部の金出侑佳氏と江口慶輔氏には魚類の採集調査や標本作製にご協力頂いた。与論町の高元博志氏、斉藤一司氏、田畑健吉氏、関野裁沢氏には深海籠漁の漁獲物を提供して頂いた。与論町の町 英八郎氏と阿野忠義氏には採集調査のご協力を頂くとともに漁獲物の写真を提供して頂いた。与論町の前田洋和氏には魚類の地方名を教えて頂いた。鹿児島大学水産学部の鈴木廣志氏と鹿児島市の出羽慎一氏には与論島の陸水域に関する情報を提供して頂いた。国立科学博物館の篠原現人氏には所蔵標本を調査する機会を頂いた。大阪市立自然史博物館の波戸岡清峰氏には *Kaupichthys japonicus* の記載年とミナミミゾレウツボの国内での分布についてご助言を頂いた。沖縄美ら島財団の吉野哲夫氏には *Plectorhinchus picus* の記載年についてご助言を頂いた。北海道大学大学院水産科学研究院の今村 央氏にはコチ科魚類の同定にご協力頂いた。国立科学博物館の田城文人氏にはホラアナゴ科魚類の歯列・歯数の種内変異に関する情報を提供頂いた。沖縄美ら島財団の宮本 圭氏には名護市場産のクロアナゴの標本についての情報を提供頂いた。兵庫県川西市の細川正富氏にはキカイカエルウオの同定についての助言を頂いた。高知大学大学院の鈴木貴志氏と内藤大河氏には標本の軟 X 線写真を撮影して頂いた。台湾国立海洋生物博物館の H.-C. Ho 氏には文献の入手にご協力を頂いた。鹿児島大学総合研究博物館の内村公大氏には与論島の地図を作成して頂いた。神奈川県立生命の星・地球博物館の高橋里恵氏や鹿児島大学総合研究博物館の高山真由美氏をはじめとする魚類ボランティアの方々には標本や画像の登録・整理にご協力頂いた。これらの方々には深くお礼申し上げる。

「与論島魚類多様性調査プロジェクト」は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」、国立科学博物館の「黒潮プロジェクト（浅海性生物の時空間分布と巨大海流の関係を探る）」、JSPS 科研費（19770067、23570114、23580259、24370041、24501278）、JSPS アジア研究教育拠点事業「東南アジアにおける沿岸海洋学の研究教育ネットワーク構築」、総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイバビリティの向上プロジェクト」、鹿児島大学「奄美群島における生態系保全の教育研究プロジェクト」の援助を受けて実施された。



与論の海（与論町）

ヌタウナギ目 ヌタウナギ科 ヌタウナギ属

ムラサキヌタウナギ

Eptatretus okinoseanus
(Dean, 1904)

形態 前列片側舌歯 11-13；後列片側舌歯 10-12；前列片側癒合舌歯 3；後列片側癒合舌歯 2；外鰓孔 8；鰓囊 8。体は長く、円筒形で、尾部後方は側扁する。腹側に皮褶をもつ。肛門は著しく後方に位置する。体側には粘液孔が体側方向に 1 列に並ぶ。外鼻孔側縁に 2 対、口の側部に 1 対の触鬚がある。眼は皮下に埋没し痕跡的。導出鰓管は 8 個の外鰓孔に開く。口蓋中央に針状歯を 1 本もつ。舌があり、舌上には 2 列の櫛状舌歯がある。鱗は尾鱗のみで鱗条を欠く。

色彩 体は一様に暗褐色で、口、外鰓孔、肛門、および腹側正中線上の皮褶の辺縁は白い。白色眼点をもつ。

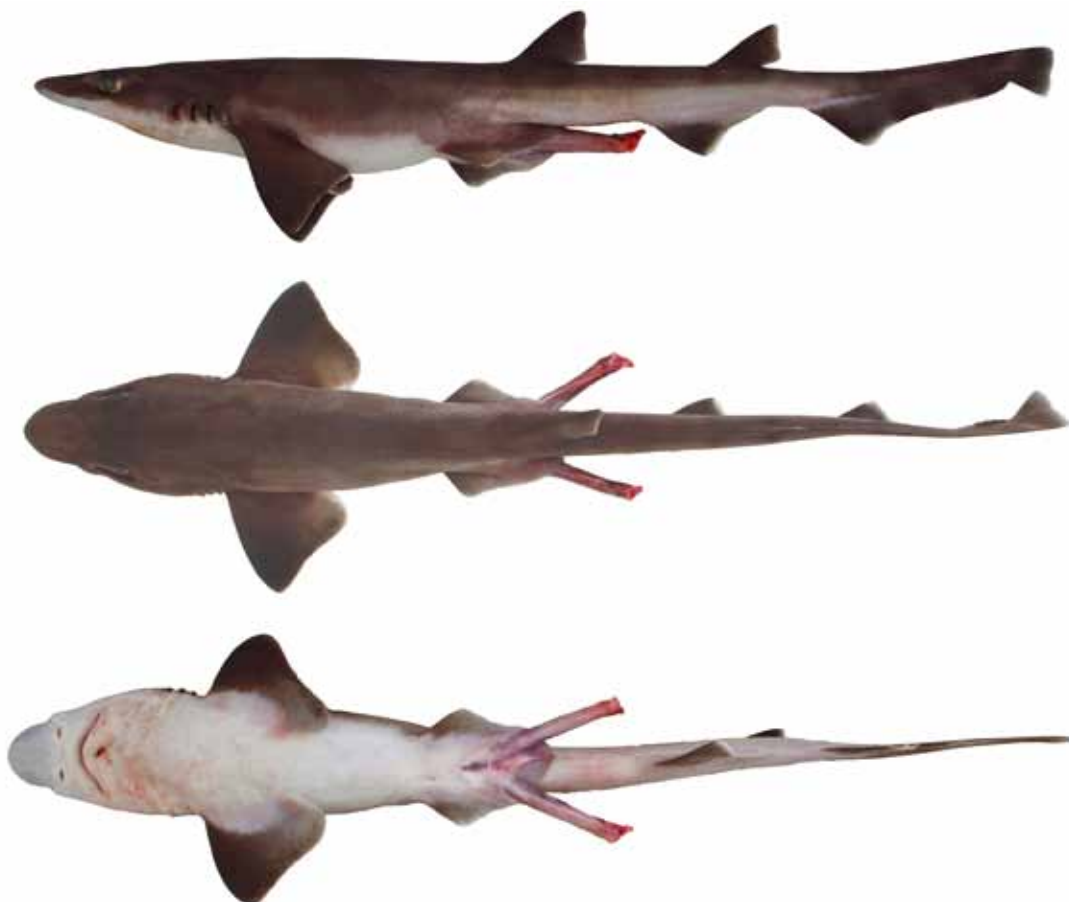
分布 国外では台湾のみから知られており、国内では福島県から土佐湾にかけての太平洋岸、富山湾および沖縄舟状海盆から標本に基づく記録がある。

備考 本種はヌタウナギ *E. burgeri* (Girard, 1855) と類似しているが、背面に皮褶がないこと（ヌタウナギでは淡色の皮褶をもつ）、外鰓孔が 8 対であること（6 または 7 対）、体が暗褐色であること（褐色）によって区別される。

本種は水深 200 m から 765 m に生息する深海性魚類で、籠漁や底曳網で漁獲される。外的刺激を受けると粘液孔から大量の糸状粘液を分泌する。本種の生態はほとんど知られていないが、熊野灘沿岸では秋に成熟した個体が採集されている。

(日比野友亮)

■ ムラサキヌタウナギ *Eptatretus okinoseanus* KAUM-I. 51408, 574.8 mm TL■ ムラサキヌタウナギ *Eptatretus okinoseanus* FRLM 43028, 610.0 mm TL■ ムラサキヌタウナギ *Eptatretus okinoseanus* KAUM-I. 51408, 574.8 mm TL



■ ニホンヤモリザメ *Galeus nipponensis* Male KAUM-I. 51266, 680.0 mm TL

メジロザメ目トラザメ科ヤモリザメ属

ニホンヤモリザメ

Galeus nipponensis
Nakaya, 1975

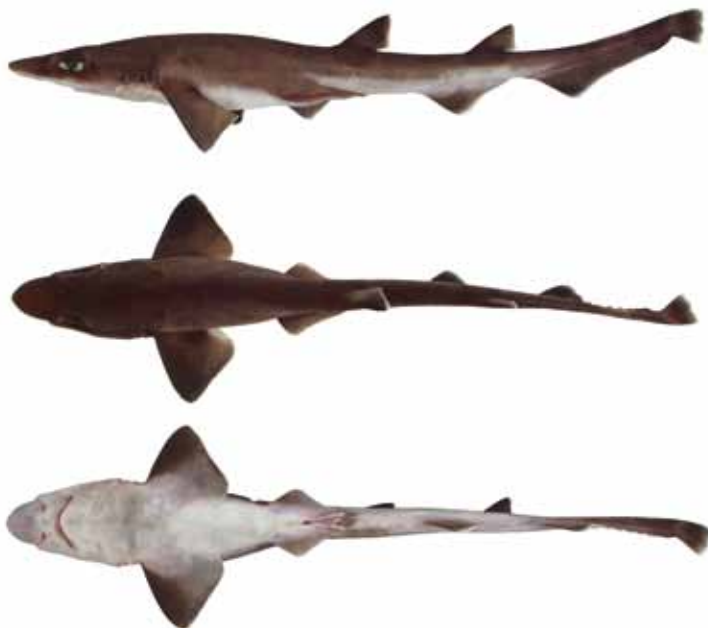
形態 体は紡錘形で細長く、頭部は尖る。体高はやや低く、胸鰭基底後端の位置で最大となる。眼は背側にあり、腹面からは見えない。鼻孔前吻長は眼径より大きい。背鰭は2基。第1背鰭起部は腹鰭基底後端の直上に位置する。第2背鰭は臀鰭基底中央の直上よりやや後方に位置する。尾鰭上葉はやや長く、先端付近に欠刻がある。

色彩 体は焦げ茶色で、側部中央は淡く、腹面は白色。各鰭は濃いこげ茶色。

分布 千葉県以南の太平洋岸沖、与論島を含む沖縄諸島周辺、九州・パラオ海嶺に分布する。

備考 性的二型があり、雄の臀鰭は雌より全長の2%ほど短い。卵生。最大で約66 cmまで達する。深海性で、水深250–840 mに生息する。与論島では、延縄漁で水深500–600 mで採集された。

(福井美乃)



■ ニホンヤモリザメ *Galeus nipponensis* Young male KAUM-I. 51267, 582.0 mm TL



■ クロトガリザメ *Carcharhinus falciformis* Female KAUM-I. 51341, 774.0 mm TL

メジロザメ目 メジロザメ科 メジロザメ属

クロトガリザメ

Carcharhinus falciformis
(Müller & Henle, 1839)

形態 体は紡錘形で細長く、頭部は尖る。体高はやや高く、背鰭起部でもっとも高い。背鰭は2基。第1背鰭は丸みを帯び、その起部は胸鰭内角より後方につく。第1背

鰭後端は腹鰭起部より前。第2背鰭はひじょうに小さい。第2背鰭起部は臀鰭基底の中央直上にある。臀鰭がある。胸鰭は大きい。尾鰭上葉は著しく長い。上顎歯列数は片側14以上。第1背鰭と第2背鰭の間に背中隆起線がある。

色彩 体は黒色。側部から下方にかけて淡くなる。腹部は白色。臀鰭、腹鰭および尾鰭下葉の先端は黒色がかかる。

分布 全世界の熱帯・亜熱帯域に分布する。日本では本州中部太平洋側と琉球列島に分布する。

備考 通常は外洋域の表層付近から水深500 mまでに生息するが、稀に沿岸の水深18 m付近に出現する。胎生。一度の出産で2-14個体を産出する。遊泳速度が速く、人間を襲うこともある。

(福井美乃)



■ エドアブラザメ *Heptranchias perlo* Male KAUM-I. 51264, 830.0 mm TL



■ エドアブラザメ *Heptranchias perlo* Female FRLM 42851, 662.0 mm TL

カグラザメ目 カグラザメ科 エドアブラザメ属

エドアブラザメ

Heptranchias perlo
(Bonnaterre, 1788)

形態 体は紡錘形で細長く、頭部は小さく吻は尖る。眼は大きい。口は下位につく。下顎には5列の大きく櫛状の歯がある。鰓孔は7対。背鰭は1基で腹鰭の直後にある。臀鰭がある。尾鰭の上葉は長く、先端

付近には欠刻がある。側線は閉じており、溝状ではない。

色彩 体は明灰色で、腹部から下方につれて明るくなる。頭部下方は白色がかかる。背鰭を除く各鰭の縁辺は白い。背鰭の先端は明灰色。生鮮時、眼は蛍光のある緑色。

分布 北半球の東太平洋を除く温帯から熱帯域に分布。国内では北海道南部から九州南部の太平洋・日本海・東シナ海沿岸、

小笠原諸島および沖縄諸島に分布する。

備考 通常水深300–600 mに生息するが、水深27–1070 mからも記録されている。与論島では水深500–600 m、延縄漁で採集された。胎生。最大139 cmまで達する。雄は75–85 cmで、雌は90–105 cmで成熟する。硬骨魚類のほか、頭足類も食す。
(福井美乃)



■ ツマリツノザメ *Squalus brevirostris* Female KAUM-I. 51268, 994.0 mm TL

ツノザメ目 ツノザメ科 ツノザメ属

ツマリツノザメ

Squalus brevirostris
Tanaka, 1917

形態 体は紡錘形で細長く、頭部は尖る。口は下位につく。両顎歯とも主尖頭が幅広い。鼻孔前縁の皮弁は短く、二叉する。鼻孔前吻長は鼻孔後吻長より短い。背鰭は2基でそれぞれに発達した棘をもつ。臀鰭がない。胸鰭内角はよく尖る。胸鰭後端は、第1背鰭棘起部より前方にある。尾鰭に欠刻がない。

色彩 体は暗灰色、鼻孔から鰓孔下部、腹部にかけては白色。

分布 日本では青森県八戸、千葉県銚子から九州南岸の太平洋沿岸、玄海灘、与論島以南の琉球列島に分布する。

備考 深海性で水深100–640 mで記録されている。与論島では、延縄漁により水深500–600 mで採集された。

(福井美乃)



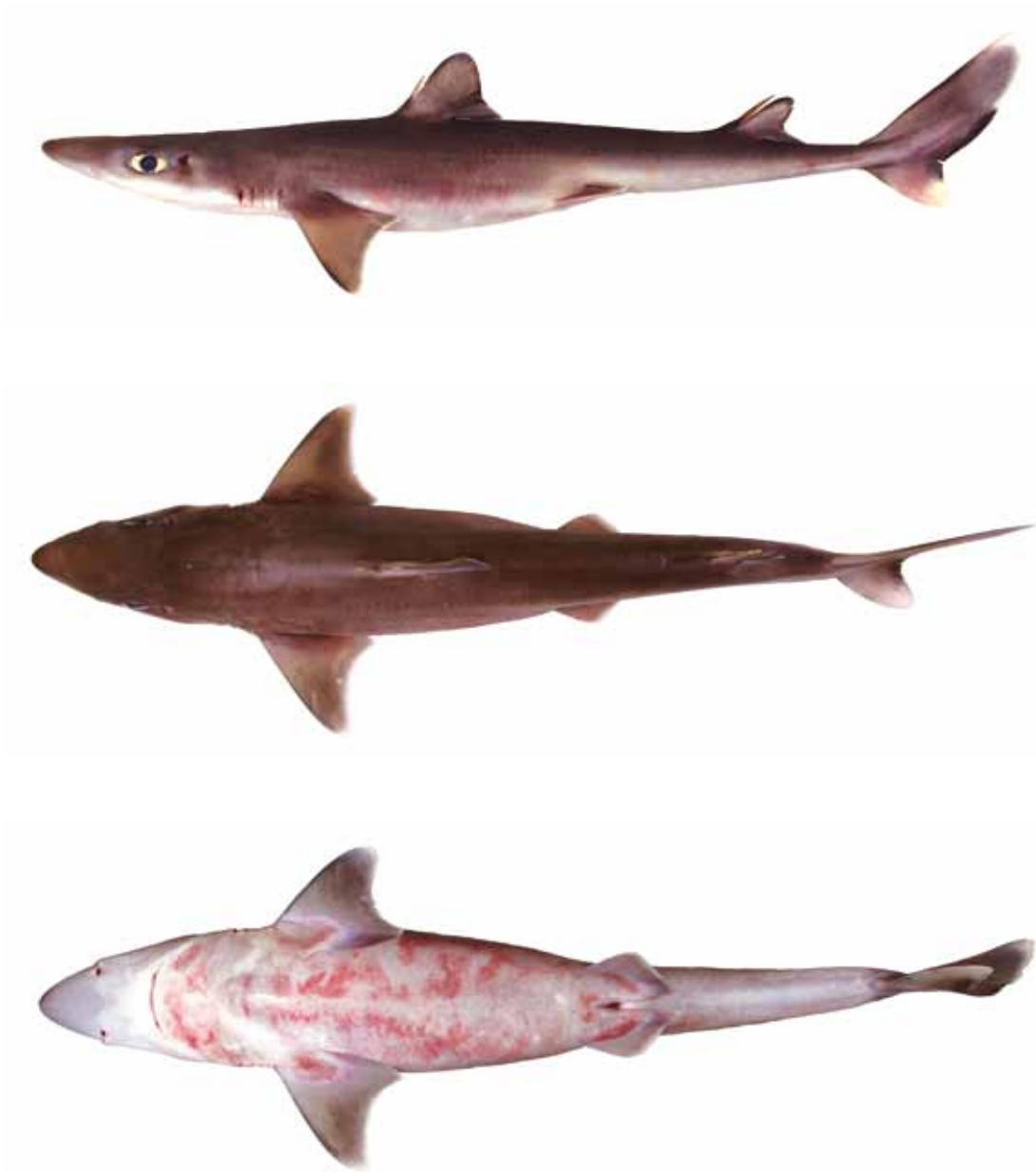
■ ツマリツノザメ *Squalus brevirostris* Larva (from KAUM-I. 51268) KAUM-I. 51269, 104.9 mm TL



■ トガリツノザメ *Squalus japonicus* Male KAUM-I. 58553, 557.0 mm TL



■ トガリツノザメ *Squalus japonicus* Male KAUM-I. 58559, 524.9 mm TL



■トガリツノザメ *Squalus japonicus* Female KAUM-I. 58821, 669.0 mm TL

ツノザメ目 ツノザメ科 ツノザメ属

トガリツノザメ

Squalus japonicus
Ishikawa, 1908

形態 体は紡錘形で細長く、吻は尖る；吻端から口までの距離は口の幅よりも長い。口は下位につく。背鰭は2基で発達した棘をともなう。臀鰭はない。

色彩 頭部と体は暗灰色で腹面は白色。尾鰭縁辺は湾入部からその上方にかけて広い黒色域があり、その上下は淡色から白色。

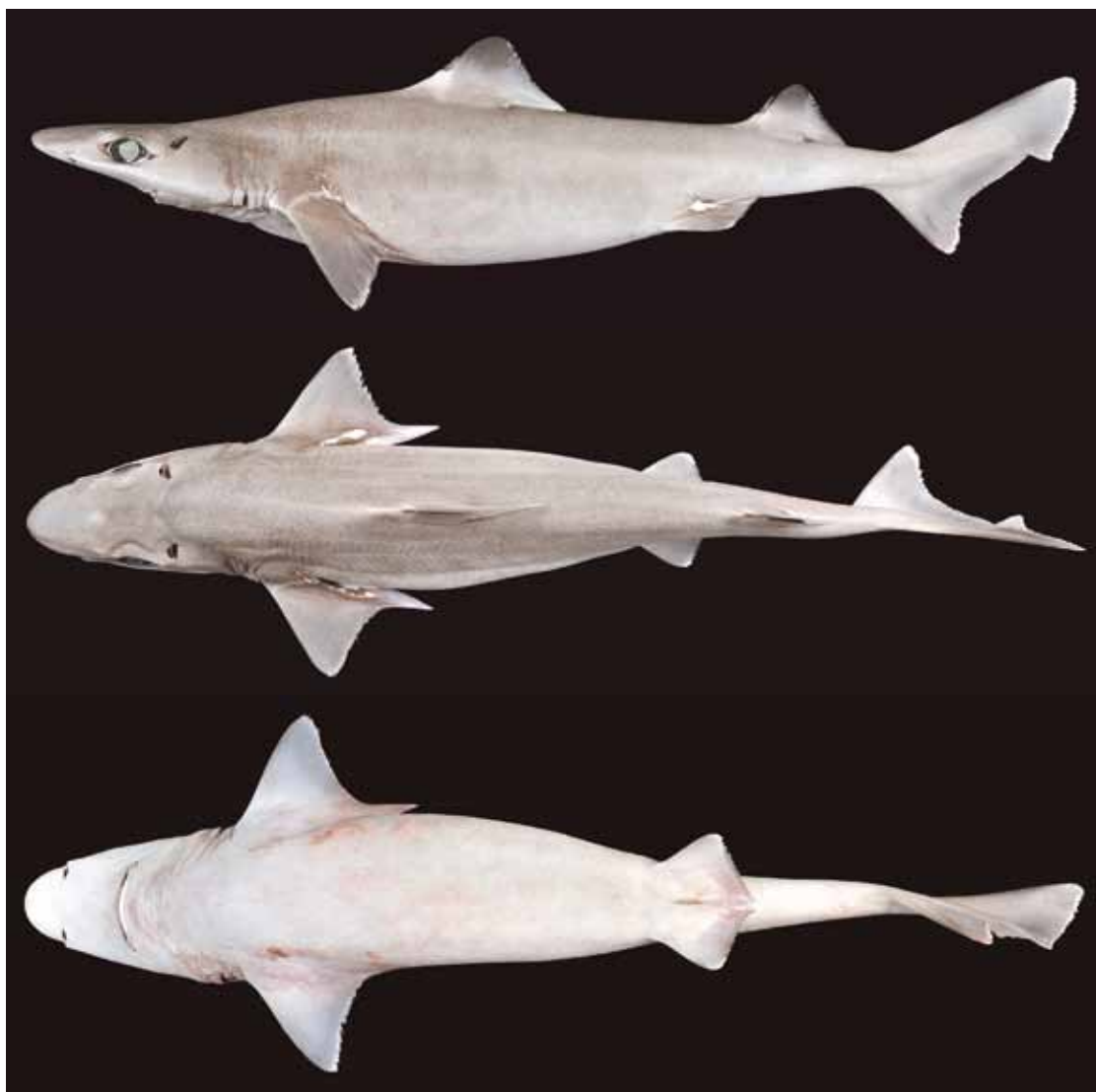
分布 日本国内では小笠原諸島、千葉県以南の南日本太平洋沿岸、琉球列島、および東シナ海に分布する。国外では朝鮮半島南岸と台湾から知られる。

備考 同定は White & Iglésias (2011) と

波戸岡ほか (2013a) によった。なお、White & Iglésias (2011) は台湾産の標本を基に新種 *S. formosus* を記載し、波戸岡 (2000) や波戸岡ほか (2013 a) のヒレタカツノザメ *Squalus* sp. 1 を本種に同定している。

水深 114–835 m に生息する。与論島では沖合の水深 350–600 m から籠漁で採集された。

(松沼瑞樹)



ツノザメ目 アイザメ科 アイザメ属

ゲンロクザメ

Centrophorus tessellatus
Garman, 1906

形態 体は中庸で紡錘形。体高はやや高く、腹部は丸みを帯びる。頭部はやや尖る。吻は中庸。眼は大きい。背鰭は2基で、それぞれに棘がある。尻鰭尾鰭上葉は幅広く、上部に欠刻がある。鱗は無柄でブロック状に並ぶ。

色彩 体は明灰色で背中側は濃い色を呈する。頭部下方および腹部は白色。体に無数の白色点を有する。両背鰭上部は黒みがる。

分布 国内では相模灘と熊野灘、および与



■ ゲンロクザメ *Centrophorus tessellatus* Female KAUM-I. 45787, 894.0 mm TL

論島以南の琉球列島に分布する。国外では西沙諸島とハワイ諸島から記録されている。

備考 深海性で水深 260–820 m に生息する。与論島産の標本は釣りで採集された。
(福井美乃)



■ ホソフジクジラ *Etmopterus brachyurus* Female KAUM-I. 58573, 243.9 mm TL

ツノザメ目 カラスザメ科 カラスザメ属

ホソフジクジラ

Etmopterus brachyurus
Smith & Radcliffe, 1912

形態 体は細長く、吻端は丸い。口は下位につき、上顎歯は多尖頭で下顎歯は単尖頭。背鰭は2基で鋭い棘をともなう。臀鰭はない。鱗は棘状で規則的に並ぶ。

色彩 頭部と体は黒褐色。各鰭は黒褐色

で縁辺にむかうにつれ薄くなる。腹鰭後方の腹部側面に黒色斑がある；斑紋は前後に細長い黒色縦線をともなう。尾鰭の下葉と上葉に細長い黒色縦線がある。

分布 北西太平洋に分布し、日本国内では千葉県以南の南日本太平洋沖、琉球列島および沖縄舟状海盆から記録されている。

備考 Last & Stevens (2009) や波戸岡ほか (2013b) は本種の分布にオーストラリアを含めたが、Ebert et al. (2011) によれば

本種は北西太平洋にのみ分布し、オーストラリアから本種として報告されているものは複数の未記載種である。また、波戸岡ほか (2013b) はアフリカ南岸を本種の分布に含めたが、アフリカから本種として報告されたものは Ebert et al. (2011) により新種 *E. sculptus* として記載された。

大陸棚斜面の水深 400–915 m に生息し、与論島からは沖合の水深 500–600 m から籠漁で採集された。

(松沼瑞樹)



■ フトカラスザメ *Etmopterus princeps* Female KAUM-I. 51387, 595.0 mm TL

ツノザメ目 カラスザメ科 カラスザメ属

フトカラスザメ

Etmopterus princeps
Collett, 1904

形態 体は中庸で太短く、頭部は丸みを帯びる。下顎は丸い。上顎歯は多尖頭だが、下顎歯は単尖頭。背鰭は2基。第1背鰭

起部は胸鰭基底後端の直上より後方にある。第2背鰭後端は尾鰭下葉起部に接近する。腎鰭が無い。鱗は列をなし、表皮は筋があるように見える。

色彩 体は焦げ茶色、腹部にむかうにつれて淡くなる。各鰭も焦げ茶色で、縁辺にむかうにつれて淡くなる。

分布 国内では熊野灘、与論島および九州・パラオ海嶺、国外では北大西洋とヨーロッパ沿岸に分布する。

備考 大陸棚斜面の567–2,213 mに生息する。雄は全長55 cmで成熟し、最大全長75 cmに達する。与論島からは初記録で、水深1,000 mから採集された。

(福井美乃)



■ カラスザメ *Etmopterus pusillus* Male KAUM-I. 58551, 427.1 mm TL

ツノザメ目 カラスザメ科 カラスザメ属

カラスザメ

Etmopterus pusillus
(Lowe, 1839)

形態 体は中庸で細長く、吻端は丸い。口は下位につき、上顎歯は多尖頭で下顎歯は単尖頭。背鰭は2基で鋭い棘をともなう。

臀鰭はない。鱗は先端が平たく、整列しない。

色彩 頭部と体は黒褐色で、腹面はさらに暗い。各鰭は体と同様に黒褐色で縁辺にむかうにつれ薄くなる。

分布 ハワイ諸島を含む西太平洋、インド洋および大西洋の亜熱帯域から温帯域に

かけて分布する。国内では北海道から土佐湾の太平洋岸、琉球列島、東シナ海と九州・パラオ海嶺に分布する。

備考 大陸棚上から大陸棚斜面の275–1120 mに生息する。全長50 cmほどまで成長する。与論島からは沖合の水深500–600 mから籠漁で採集された。
(松沼瑞樹)



■ ユメザメ *Centroscymnus owstonii* Female KAUM-I. 51402, 341.0 mm TL

ツノザメ目 オンデンザメ科 ユメザメ属

ユメザメ

Centroscymnus owstonii
Garman, 1906

形態 体は中庸で細長い。口は下位につく。下顎歯は強く側方に傾く。背鰭は2基で、微小ながら棘がある。第1背鰭起部は胸

鰭基底後端より後ろにつく。第2背鰭は第1背鰭より大きい。第2背鰭起部は腹鰭基底後端より後ろに位置する。臀鰭が無い。躯幹部腹側縁辺に隆起線がある。鱗は小さい。

色彩 体は焦げ茶色。各鰭も焦げ茶色で、縁辺にむかうにつれ淡くなる。

分布 世界ではオーストラリア南岸、ペルー

中部沖、メキシコ湾、北東・南大西洋に分布する。国内では千葉県以南の南日本、伊豆諸島、与論島、八重山諸島に分布する。

備考 水深500–1,400 mの大陸斜面に生息する。与論島では750–820 mで採集された。最大で全長1.2 mに達する。胎生。一回で30個体ほどの子を産む。

(福井美乃)



■ピロウドザメ *Zameus squamulosus* Female KAUM-I. 51392, 483.9 mm TL

ツノザメ目 オンデンザメ科 ピロウドザメ属

ピロウドザメ

Zameus squamulosus
(Günther, 1877)

形態 体は中庸で細長い。口は下位につく。下顎縫合歯はほぼ対称。第1背鰭と第2背鰭の大きさはほぼ等しい。第1背鰭起部は胸鰭後端より後方につく。第2背鰭起

部は腹鰭基底後端直上よりやや後方につく。後縁の傾斜はゆるやか。臀鰭が無い。尾鰭上葉に幅広で、先端付近に浅い欠刻がある。鱗に助状隆起がある。

色彩 体はすべて黒色。尾鰭後方にかけてやや淡い茶色になる。

分布 世界ではサハリン両岸、オホーツク海、チュクチ海、ベーリング海からカリフォルニア南部の太平洋沿岸、南西太平洋に

分布する。日本では北海道から高知、および与論島に分布する。

備考 通常水深400–900 mに生息するが、最浅で27 m、最深で2,000 mからも記録されている。与論島では水深750–820 mから採集された。

最大84 cmまで達する。雄は49–51 cmで、雌は59 cmで成熟する。

(福井美乃)

■ イセゴイ *Megalops cyprinoides* KAUM-I. 39852, 90.4 mm SL■ イセゴイ *Megalops cyprinoides* KAUM-I. 39852, 90.4 mm SL

カラワシ目イセゴイ科イセゴイ属

イセゴイ

Megalops cyprinoides
(Broussonet, 1782)

形態 背鰭 16-20；臀鰭 23-31；胸鰭 15；腹鰭 10-11；側線上方横列鱗 6；側線下方横列鱗 8；縦列鱗 30-40；鰓条骨 23-27；第 1 鰓弓上枝鰓耙 15-17；第 1 鰓弓下枝鰓耙 31-35；第 1 鰓弓総鰓耙 46-52；脊椎骨 66-70。体は細長い楕円形で側扁し、体高はやや高く、背鰭起部付近で最大となる。背鰭の最後の軟条は糸状に伸長する。胸鰭の後端は背鰭起部直下に達しない。胸鰭および腹鰭の起部に腋

鱗を備える。臀鰭起部は背鰭基底後端直下よりわずかに後方に位置する。臀鰭基底は背鰭基底より長い。体側鱗は大きく、円鱗。側線を有する。口は端位で大きく、その後端は瞳孔の後縁を越える。喉板を有する。下顎は上顎よりわずかに突出する。

色彩 頭部背面および体背面は暗緑色。頭側面上部および体側面上部は一樣に緑がかった銀色。体側面から体腹面は一樣に銀色。背鰭および尾鰭の各軟条は緑がかった黒色であるが、鰭膜は無色透明。胸鰭、腹鰭および臀鰭の各軟条は白色。

分布 紅海、アフリカ東岸からソシエテ諸島、オーストラリア、台湾、朝鮮半島南岸に至

るインド・太平洋の暖海域に分布する。国内では新潟県以南の日本海・東シナ海沿岸、青森県八戸以南の太平洋沿岸および琉球列島から知られる。

備考 成魚は主に沿岸の浅海域に生息する。広塩性で、また鰓を用いて空気呼吸を行うことが可能なため低酸素に強く、幼魚を中心に汽水域や淡水域にも侵入する。主に魚類や甲殻類を餌とする。本種はレプトセファルス型幼生期を経る。二又した尾鰭を有する特徴的なレプトセファルス型幼生として体長 30 mm 程度まで成長し、その後体長 20 mm 未滿まで収縮した後に変態し、成魚に似た体形となり、再び体長を増す。

(畑 晴陵)



ウナギ目ハリガネウミヘビ科ハリガネウミヘビ属

トビハリガネウミヘビ

Moringua javanica
(Kaup, 1856)



■ トビハリガネウミヘビ *Moringua javanica* KAUM-I. 55138, 446.4 mm TL

形態 総脊椎骨 154；肛門前脊椎骨 101；肛門前感覚孔 99。鰓孔における体高は全長の 1.4%。体はきわめて細長く、円筒形で、尾部後方はわずかに側扁する。尾部は短く、肛門は体中央よりはるかに後方に位置する。頭部は小さい。吻は比較的鈍く、その先端は下顎先端を越えない。下顎は太く先端は鈍い。唇に遊離縁がない。前鼻孔は管状で短く、その長さは眼径と同程度。後鼻孔は眼の直前に開口し、周縁にごく短い皮弁をもつ。眼はひじょうに小さい。口裂の後端は眼の後縁を越える。歯はすべて鋭い円錐歯。両顎歯と鋤骨歯は各 1 列で、後方の鋤骨歯は両顎歯に比べ小さい。下顎歯は前端付近でやや大きく、後半では小さい。上顎間歯は主上顎骨歯に比べやや大きく、上唇内側に沿って円弧状に並ぶ。鰓孔はやや大きく、体側下部に開口する。頭部感覚孔を欠く。側線感覚孔は小さく不明瞭であるがほぼ完全で、尾部後端付近まで達する。背鰭、臀鰭はきわめて低く、尾部後半部より始まり尾鰭と連続する。胸鰭は鰓孔直後に位置し、痕跡的できわめて小さい。

色彩 体背側は暗褐色で尾部後方に向かうにつれ淡くなり黄褐色となる。腹側は暗紫色で銀色の光沢をもつ。頭部はやや赤みを帯びる。背鰭、臀鰭および尾鰭は黄色。

分布 インド・西太平洋とミクロネシア、マルケサス諸島に分布する。国内では与論島を含む琉球列島に分布する。

備考 本項は与論島産の標本に基づき、同定および分布情報は波戸岡 (2013) によった。波戸岡 (2013) は本種の日本での分布は再検討を要するとしたが、今回の調査により国内での分布を裏付ける標本が採集された。

本種のタイプ標本はシタイプであると考えられてきたが、実際には単一の標本に基

づいている可能性があり、現在著者らによって研究が行われている。

日本沿岸からは本種の他にハリガネウミヘビ *M. microchir* Bleeker, 1853 とセグロハリガネウミヘビ *M. bicolor* Kaup, 1856 の 2 種が知られているが、ハリガネウミヘビとは総脊椎骨数が 153–160 であること (105–113)、肛門前感覚孔数が 99–101 であること (63–64)、体高が全長の 1.4% 以下であること (2.0% 以上) などによって、セグロハリガネウミヘビとは総脊椎骨数が 153–160 であること (147–148) および頭長は全長の 5.3–6.3% であること (7.1%) によって区別される。

(日比野友亮)

■ クロヒゲイワアナゴ *Kaupichthys atronasus* KAUM-I. 55159, 62.4 mm TL

ウナギ目 イワアナゴ科 イワアナゴ属

クロヒゲイワアナゴ

Kaupichthys atronasus
Schultz, 1953

形態 総脊椎骨 113；腎臓前脊椎骨 30；胸鰭 11。体は長く、尾部では強く側扁する。尾部は長く、肛門は体中央よりはるかに前方に位置する。吻は長く、その長さは眼径の約3倍で、吻端は鈍い。吻、下顎、眼の周縁、唇に絨毛状皮弁を多数もつ。口は亜端位で、唇に遊離縁がない。前鼻孔は管状で極めて短い。後鼻孔は眼の直前下方で腹側方向に開口し、その外側に皮弁をもつ。眼は大きい。口裂の後端は眼の後縁を越える。主上顎骨歯は2列で、

内列歯は外列歯に比べて長い。上顎間歯は密生し、鋤骨直前の4本は大きい。鋤骨歯は2列で、両列間は完全に分離する。下顎歯は前端部で3列をなすが他は2列で、内列歯の長さは外列歯の2倍程度。眼隔域中央は溝状に窪む。鰓孔は小さく、円孔状。頭部感覚孔は、眼上感覚孔が3個、眼下感覚孔が4個、下顎—前鰓蓋感覚孔が5個で、上側頭感覚孔、眼窩間感覚孔を欠く。側線は不完全で、側線感覚孔は1個のみ鰓蓋部後方にある。体側中線上に微小孔器をもち、尾部後端まで連続する。背鰭および腎臓は高く、背鰭始部は胸鰭後端直上に位置する。背鰭、腎臓、尾鰭は連続する。胸鰭は大きく、鰓孔直後に位置する。

色彩 体はほぼ一様に白色で、体側に雀斑状の褐色不定形斑紋を多数もつ。側中線上の微小孔器は褐色で顕著。前鼻孔とその周縁は明瞭な黒褐色で、眼の周辺も他の斑紋に比べて濃い。鰭はほぼ無色。

分布 紅海を含むインド洋と、インドネシアからフィジーに至る太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では奄美群島の喜界島と与論島のみから知られる。

備考 本種は与論島から採集された標本(写真)に基づき、日比野・木村(2013)によって日本沿岸からの2番目の記録として報告された。

(日比野友亮)

■ イワアナゴ *Kaupichthys japonicus* KAUM-I. 55157, 82.0 mm TL

ウナギ目 イワアナゴ科 イワアナゴ属

イワアナゴ

Kaupichthys japonicus
Matsubara & Asano, 1959

形態 総脊椎骨 113；腎臓前脊椎骨 25-26；胸鰭 14。体は長く、尾部では強く側扁する。肛門は体中央よりはるかに前方に位置する。吻は長く、吻端は鈍い。吻、下顎、眼の周縁、唇および眼隔域に絨毛状皮弁を多数もつ。唇に遊離縁がない。前鼻孔は管状で短い。後鼻孔は眼の直前下方に開口し、その外側に皮弁をもつ。主上顎骨歯は前方では3列で、後方では2列。最内列歯は外列歯に比べて長い。上顎間歯は密生し、鋤骨直前の数本は大きい。鋤骨歯は2列で、両列間は完全に分離する。下顎歯は前端部で4列、後方で3列。鰓孔は円孔状。頭部感覚孔は、眼上感覚孔が3個、眼下感覚孔が4個、下顎—前鰓蓋感覚孔が6個で、上側頭感覚孔、眼窩間感覚孔を欠く。側線は不完全で、側線感覚孔は2個のみ鰓蓋部後方にある。頭部には微小孔器が密集し、側中線に沿って尾部後端まで連続する。背鰭始部は胸鰭基部直後に位置する。胸鰭は大きい。

■ イワアナゴ *Kaupichthys japonicus* KAUM-I. 55154, 140.3 mm TL

色彩 体はほぼ一様に茶褐色で、腹側はやや淡い。頭部感覚孔および側線感覚孔は白色で明瞭。背鰭、腎臓、尾鰭は淡褐色。

分布 少なくとも南シナ海(台湾南部)に分布し、国内では奄美群島の徳之島と与論島のみから知られる。

備考 本種は与論島から採集された標本(写真)に基づき、日比野・木村(2013)によって日本沿岸からの成魚の2番目の記録として報告された。

本種を *K. diodontus* Schultz, 1943 (タイプ産地: サモア諸島) や *K. hyoproroides* Strömman, 1896 (タイプ産地: 北大西洋、

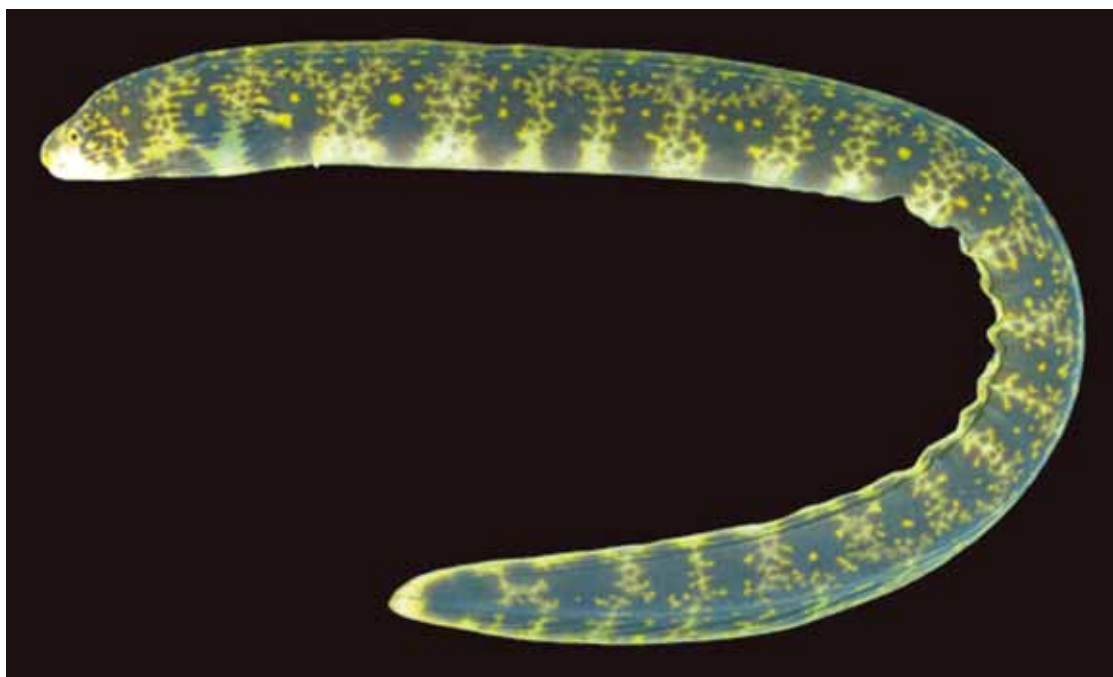
バハマ沖) の新参異名とする意見もあるが、Tighe in Randall & Lim (2000) が南シナ海から根拠を明示せずに有効種 *K. japonicus* として報告し、波戸岡(2013)も *K. japonicus* を採用していることなどから、本項ではイワアナゴの学名を *K. japonicus* とした。

日比野・木村(2013)は Eschmeyer(2013) にしたがって本種の本記載の公表日を1960年1月12日としたが、実際には前刷りが1959年12月30日付で発行されていることから(波戸岡氏、私信)、国際動物命名規約の公表の日付に関する条21.8にしたがって本種の記載年を1959年とした。

(日比野友亮)



■ クモウツボ *Echidna nebulosa* FRLM 43031, 500.5 mm TL



■ クモウツボ *Echidna nebulosa* KAUM-I. 39706, 154.9 mm TL

ウナギ目 ウツボ科 アラシウツボ属

クモウツボ

Echidna nebulosa
(Ahl, 1789)

形態 総脊椎骨 119–127。鰓孔における体高は全長の4.3–7.1%。体は長く、全体にやや側扁する。肛門は体中央よりわずかに前方に位置する。吻は丸く短い。両顎歯は鈍く1列に並び、鋤骨歯は大小さまざまな歯が混在し幅広い歯帯をなす。前上顎

骨板の歯には性的二型がみられ、雌では他の歯と同様に臼歯状であるが、雄では鋭く、鋸歯縁をもつ。背鰭始部は鰓孔直上か、またはそれより前方に位置する。

色彩 地色は白から淡褐色で、腹側の方



■ ゼブラウツボ *Gymnomuraena zebra* KAUM-I. 41110, 650.0 mm TL

が淡い。黄色の縁取りをもつ黒色の不定形の斑紋が2-3列あり、その中に1個または複数の黄色点を含む。斑紋間には黒色斑が散在する。眼の虹彩と前鼻孔は橙色。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では和歌山県以南の南日本から標本に基づく記録がある。

備考 礁湖や浅海岩礁域に生息し、全長70 cmを越える中型種。

(日比野友亮)

ウナギ目 ウツボ科 ゼブラウツボ属

ゼブラウツボ

Gymnomuraena zebra
(Shaw, 1797)

形態 総脊椎骨 129-139。鰓孔における体高は全長の4.8-6.7%。体は長く、全体にやや側扁する。肛門は体中央よりはるかに後方に位置する。頭部は小さいが後頭部は隆起し、吻はきわめて短く吻端は鈍い。歯は臼歯状で、両顎歯は2-3列、鋤骨歯は5-6列の歯帯をなす。背鰭は低く不明

瞭で、その始部は鰓孔直上よりはるかに後方に位置する。

色彩 暗褐色の地色に、白色から淡黄色の細い横帯を多数もつ。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、屋久島以南の大隅諸島および琉球列島から標本に基づく記録がある。

備考 サンゴ礁域の浅所に生息し、少なくとも全長1 mになる大型種。

(日比野友亮)



■ ハワイウツボ *Gymnothorax berndti* KAUM-I. 56954, 580.0 mm TL

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

ハワイウツボ

Gymnothorax berndti
Snyder, 1904

形態 総脊椎骨 130–139。体は延長し、やや側扁する。背鳍起部は鰓孔直上より前方に位置する。肛門は体中央にある。吻は長く、やや尖る。前鼻孔は管状で、吻端に位置する。歯は鋭く、切縁に鋸歯を

もたない。前上顎骨の歯は互いによく離れる。前上顎骨中央部の歯、主上顎骨歯は1列。鋤骨歯は他の歯に比べ小さく鈍い。

色彩 体は淡色で頭部を除く体側全体が黄色がかかる。頭部に黒色斑点が散在する。体側には約30本の不規則な黒色横帯がはいる。眼の虹彩は黄色。

分布 西インド洋と太平洋に分布する。国内では静岡県、和歌山県、琉球列島およ

び尖閣諸島から記録されている。

備考 ハワイウツボはオキノシマウツボ *G. ypsilon* Hatooka & Randall, 1992 と色彩が酷似するが、後者は頭部が一樣に褐色で黒色斑をもたない、体側に走る横帯の幅がやや太く一樣であることなどから容易に識別される。

与論島産の標本は水深200–700 mから深海籠漁で漁獲された。

(田代郷国)



■ ミナミウツボ *Gymnothorax chilospilus* KAUM-I. 40093, 283.4 mm TL

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

ミナミウツボ

Gymnothorax chilospilus
Bleeker, 1864

形態 総脊椎骨 124–136。鰓孔における体高は全長の 5.0–5.6%。体は長く、全体に側扁する。肛門は体の中央か、またはそれよりわずかに前方に位置する。吻長は中庸で吻端はいくらか鈍い。両顎歯は鋭く

扁平で、大きな三角形を呈する。やや粗に並び 1 列であるが、雌では主上顎骨歯の前方は 2 列。前上顎骨板の中央部は 1 列で両顎歯より大きい。鋤骨歯は小さく 1 列。背鰭始部は鰓孔直上よりはるかに前方に位置する。

色彩 褐色の地色に不明瞭な暗褐色横帯をもつ。頭部感覚孔は白く縁取られる。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島と高知県以南の南日本か

ら標本に基づく記録がある。

備考 本州周辺に分布するウツボ *G. kidaiko* (Temminck & Schlegel, 1847) に類似するが、本種の臀鰭には明瞭な白色の縁取りがないこと（ウツボではある）、両顎の頭部感覚孔の周囲は白く縁どられること（縁取りはない）によって区別される。

本種はサンゴ礁域の浅所でみられ、全長 30 cm 程度の小型種。

（日比野友亮）



■ シマウツボ *Gymnothorax enigmaticus* KAUM-I. 46119, 79.6 mm TL

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

シマウツボ

Gymnothorax enigmaticus
McCosker & Randall, 1982

形態 総脊椎骨 126–134。鰓孔における体高は全長の 4.3–6.7%。体は長く、全体に側扁する。肛門は体中央より前方に位置する。吻端はいくぶん尖る。両顎はわずかに湾曲する。歯は鋭い円錐歯で、その

切縁は滑らか。両顎歯、鋤骨歯ともに 1 列。前上顎骨板の歯は大きく犬歯状。背鰭は低く、その始部は鰓孔直上より前方にある。

色彩 濃褐色または黒色の輪状横帯を 17–21 本もつ。尾部後端は通常この横帯がないが、稀にあることもある。地色は幼魚では白から淡黄色であるが成長とともに褐色になる。

分布 紅海とハワイ諸島をのぞくインド・太平洋に分布する。国内では屋久島以南の

大隅諸島と琉球列島から標本に基づく記録がある。

備考 本種はクラカケウツボ *G. ruepelli* (McClelland, 1844) と形態や色彩が類似しているが、左右の横帯が腹面でつながること（クラカケウツボでは躯幹部腹面では通常つながらない）、口角に黒斑がないこと（ある）、尾部後端は通常黒くないこと（黒い）によって区別される。全長 60 cm になる中型種。

（日比野友亮）



■ シマウツボ *Gymnothorax enigmaticus*
KAUM-I. 46119, 79.6 mm TL



■ ゴマウツボ *Gymnothorax flavimarginatus* KAUM-I. 51195, 414.7 mm TL



■ ゴマウツボ *Gymnothorax flavimarginatus* KAUM-I. 51195, 414.7 mm TL

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

ゴマウツボ

Gymnothorax flavimarginatus
(Rüppell, 1830)

形態 総脊椎骨 131–140。鰓孔における体高は全長の5.0–9.1%。体は長く、全体に側扁する。肛門は体の中央よりわずかに前方に位置する。歯は鋭い。主上顎骨歯は小さな歯が比較的密に1列をなし、その

内側に数本の大きな歯が並ぶ。前上顎骨歯は大小の歯が混在し、不規則な2列をなすが、前上顎骨板中央部では数本の歯が1列で並ぶ。鋤骨歯は1列。下顎歯は前方では2列で内側に数本の大きな歯をもつが他は1列。背鰭始部は肛門直上より前方に位置する。

色彩 地色は全体に黄褐色で、頭部前方と尾部後方は暗紫色から暗褐色。体全体に暗褐色の小斑点が密に分布する。眼の虹彩は橙色で、鰓孔周辺は黒色斑となりよく

目立つ。背鰭、臀鰭の後方と尾鰭の辺縁は黄緑色。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島と、高知県以南の南日本から標本に基づく記録がある。

備考 全長1.2 mに達する大型種で、サンゴ礁の浅所から比較的深い場所まで生息する。

(日比野友亮)



■ スズランヒメウツボ *Gymnothorax fuscomaculatus* KAUM-I. 55132, 148.4 mm TL

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

スズランヒメウツボ (新称)

Gymnothorax fuscomaculatus
(Schultz, 1953)

標本 KAUM-I. 55132、全長 148.4 mm、鹿兒島県大島郡与論町浜沖（北緯 27 度 01 分 13 秒、東経 128 度 26 分 26 秒）、水深 12–15 m、2013 年 7 月 1 日、タモ網、T. Trnski、C. Struthers、J. Leis、D. Bray、M. Gomon、O. Gon、本村浩之、吉田朋弘、田代郷国。

形態 体各部位の全長に対する割合は、背鰭前長 40.6%、肛門前長 45.8%、頭長 12.4%、肛門における体高 5.1%、鰓孔における体高 5.7%。体各部位の頭長に対する割合は、背鰭前長 320.2%、口裂長 37.3%、吻長 17.6%、眼径 12.4%、両眼間隔 17.2%、鰓孔径 5.3%。総脊椎骨 117、背鰭前方脊椎骨 37、臀鰭前方脊椎骨 46。

体は伸長し、側扁する。背鰭起部は鰓孔よりかなり後方に位置し、背鰭前長は頭長の 3 倍以上。肛門は体の中央よりやや前方に位置する。臀鰭起部は肛門直後に位

置する。頭部背面は緩やかに曲がり、額はやや隆起する。吻は短く、丸みを帯びる。前鼻孔は管状で、長さは眼径とほぼ等しい。後鼻孔は眼の直上にある。眼は口裂中央に位置する。口は完全に閉じることができ、上顎は下顎より突出する。頭部側線管は明瞭で、開口数は左右で等しい。眼上管の開口数は 3 で、最前端のものは前鼻孔の前下方に、最後端のものは前鼻孔と後鼻孔の中間に位置する。眼下管の開口数は 4 で、前鼻孔の後下方から眼後端の垂直下方にかけてほぼ等間隔に並ぶ。下顎管の開口数は 6。鰓囊上にある側線管の開口数は 2 で、体側中央より上方に位置する。側線管の後方に、開口部の不明瞭な側線孔が 1 直線に並び、尾部後端に達する。

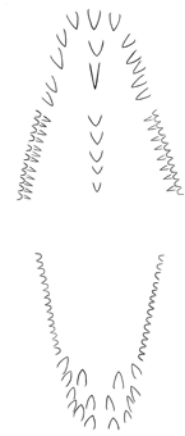
歯はほとんどが鈍い。前上顎骨歯は鋸歯縁のない大きな円錐歯で、全部で 14 本。中央部に 2 本の歯が並び、後方の歯は前方のものより長く鋭い。主上顎骨歯は 2 列で小さく、歯列長は等しい。外列歯は 11–12 本で小さく鈍い。内列歯は 8–11 本で長さは外列歯の約 2 倍で細長く、先端はやや尖る。鋤骨部には大きな 5 本の歯が 1 列に並び、歯列長は主上顎骨の歯列長と等しい。下顎前部には大きく鈍い歯が

11 本並び、その内側に同型の歯が 4 本ある。前端部から後方に向かって片側 14 本の小さく短い歯が 1 列に並ぶ。

色彩 体と鱗は茶褐色で体前方は濃く、後方に向かうにつれて褐色が薄れ黄色味を帯びる。頭部下面と腹部は黄色味を帯びた白色。頭部後方から尾鰭にかけて輪郭の不明瞭な暗褐色斑が散在し、体後方に向かって斑は鮮明になる。眼上管、眼下管および下顎管の開口部周辺は白く縁取られ、後方のものほど白色域は大きくなる。眼の周辺は白く、第 3 眼下管の白色域とつながる。眼の虹彩は黄色に垂直な黒色帯が入り、その幅は瞳孔径とほぼ等しい。

分布 本種はインド洋（コモロ諸島、セーシェル、チャゴス諸島、西オーストラリア）と太平洋（ハワイ諸島、ジョンストン島、ピトケアン諸島、ツアモツ諸島、ライン諸島、クック諸島、ギルバート諸島、マーシャル諸島、サモア、トンガ、ニューカレドニア、チェスターフィールド諸島、西ババア、フィリピン、台湾、与論島）の島嶼域から広く報告されている。

与論島産の 1 標本は本種の日本からの初めての記録である。

■ スズランヒメウツボ *Gymnothorax fuscomaculatus* KAUM-I. 55132, 148.4 mm TL

■ スズランヒメウツボの歯 KAUM-I. 55132, 148.4 mm TL

備考 与論島から得られた1標本は背鰭起部が頭部より著しく後方に位置する。全脊椎骨数117、背鰭前方脊椎骨数37、臀鰭前方脊椎骨数46、体側に輪郭の不明瞭な暗褐色斑をもつなどの特徴が *G. fuscomaculatus* の原記載および Böhlke & Randall (2000) の記載とよく一致した。

ウツボ属 *Gymnothorax* の中で背鰭前長が頭長の2倍以上であるのは *G. fuscomaculatus* と *G. marshallensis* (Schultz, 1953) の2種のみである (McCosker & Rosenblatt, 1975)。 *Gymnothorax fuscomaculatus* は後者と比較して、体側後方に不明瞭な暗褐色斑が散在すること (*G. marshallensis* では暗褐色斑がなく、体色は一樣に淡い)、全脊椎骨数が112-122であること (後者では132) などから識別される。

Schultz (1953) は上記2種をはじめて記載し、他のウツボ属に比べ背鰭起部が著しく

後方に位置することから両種を *Rabula* 属とした。その後、McCosker & Rosenblatt (1975) は *Rabula* 属の再検討を行い、本属の記載に用いられた *R. davisii* Fowler, 1912 のホロタイプが背鰭前部を欠いた奇形の *G. mordax* (Ayer, 1859) であることを標本のX線写真より明らかにし、*Rabula* 属を *Gymnothorax* 属の新参異名とした。その際、彼らは *G. fuscomaculatus* と *G. marshallensis* の両種についても検討を行ったが、背鰭の位置が異なることを除きウツボ属との相違はみられなかった為、両種をウツボ属として扱った。

本種は小型のウツボ属魚類であり、標本に基づく最大全長は198 mm。本報告は *G. fuscomaculatus* の日本における初めての記録となる。本種の口周辺の鈴なりに配列する白色斑と小型種であることに因み新標準和名スズランヒメウツボを提唱する。

(田代郷国・日比野友亮・本村浩之)

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

ミナミミズレウツボ

Gymnothorax intesi
(Fourmanoir & Rivaton, 1979)

形態 総脊椎骨 147-163。鰓孔における体高は全長の6.4%；肛門における体高は全長の4.5%。体は長く、全体に側扁し、尾部は先端に向かうにつれて著しく細くなる。肛門は体中央よりわずかに後方に位置する。吻はやや短く、吻端は鈍い。吻端は下顎先端をわずかに越える。前鼻孔は管状で、吻端にある。後鼻孔は眼の前縁上方に開き、孔状で辺縁にごく短い皮弁をもつ。口は大きく、口裂後端は眼の後縁をはるかに越える。上顎はほとんど湾曲せず、下顎はわずかに湾曲する。両顎歯および前上顎骨歯は明瞭な鋸歯状縁をもつ。主上顎骨歯、下顎歯は扁平でやや後方に

■ ミナミミズレウツボ *Gymnothorax intesi* KAUM-I. 58557, 703.0 mm TL

湾曲した犬歯状歯で、ともに1列をなし、下顎歯は前端部で大きい。前上顎骨板中央には歯をもたず、鋤骨では小歯が1列をなす。背鰭はやや高く、その始部は鰓孔

直上より明らかに前方に位置する。

色彩 体は褐色の地色で、頭部から躯幹部にかけての腹側では淡褐色。体側、背



■ ミナミミゾレウツボ *Gymnothorax intesi* KAUM-I. 58557, 703.0 mm TL

鰭および腎鰭に淡黄色の不定形斑紋をもち、その密度は頭部でもっとも高く、尾部先端に向かうにつれ斑紋は小さくなり、密度も低くなる。吻および下顎では細かい斑紋が密集する。口腔内にも斑紋をもつ。頭部感覚孔および鰓孔は目立った縁取りをもたない。背鰭、腎鰭および尾鰭の辺縁は白色で縁取られる。眼の虹彩は暗黄色で無斑。鮮時には全体的に黄色みを帯びていたが冷凍後解凍すると褪色した。

分布 西太平洋に広く分布する (Smith, 2012)。国内では、紀伊半島および琉球列島から記録がある。与論島産の標本は鹿児島県における本種の初記録。

備考 本項の計数形質の変異幅は波戸岡 (2013) にしたがって、他の記載および色彩は与論島産標本に基づく。本種はミゾレウツボ *G. neglectus* Tanaka, 1911 と類似するが、総脊椎骨数が 147–163 と多いこと (ミ

ゾレウツボでは 141–143)、体側の斑紋は隣り合うものが連続して不定形斑紋をなすこと (斑紋は連続せず点状で小さい) などによって区別される。

本種は沿岸のやや深所に生息し、本標本は与論島南東沖の水深 300–350 m で行われた籠漁によって採集された。全長 1 m 程度になる大型種。波戸岡 (2013) で示された分布には誤りがある (波戸岡氏、私信)。

(日比野亮)



■ シンジュウツボ *Gymnothorax margaritophorus* KAUM-I. 55163, 52.1 mm TL



■ シンジュウツボ *Gymnothorax margaritophorus* KAUM-I. 47834, 149.5 mm TL

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

シンジュウツボ

Gymnothorax margaritophorus
Bleeker, 1864

形態 総脊椎骨 123–133。鰓孔における体高は全長の4.3–5.6%。体は長く、全体にやや側扁する。肛門は体中央より前方に位置する。前上顎骨には長く細いやや湾曲した歯と小円錐歯が交互に並び、前上顎骨板中央部の歯は最大。主上顎骨歯は2列で、外列は小歯が近接して並び、内列は細長い歯が数本ある。鋤骨歯は小さく、

1列。下顎には前方に3対の細長い歯があり、後方では小歯が1列をなす。鰓嚢部腹側面に皺がある。側線感覚孔は背鰭始部付近に明瞭な2個があり、頭部と体側中央に微小孔器が多数存在する。背鰭始部は鰓孔直上より前方に位置する。

色彩 体は褐色の地色で、腹側は淡い。体全体に淡褐色から黄色の横帯をもち、後頭部と躯幹部前方の背側に2–10個程度の黒褐色の縦帯状斑をもつが、幼魚では無紋であり、縦帯状斑は成長にともない不明瞭になる。下顎は淡褐色で、幼魚では白色。鰓嚢部腹側面の皺は暗褐色。吻の

頭部感覚孔は黒褐色で縁取られる。頭部背面に1白色縦線をもつが成長につれて不明瞭になる。眼の虹彩は褐色。背鰭、臀鰭の後半と尾鰭の辺縁は不明瞭な淡黄色。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島と琉球列島から標本に基づく記録がある。

備考 サンゴ礁域の浅所に生息する。全長70 cmになる中型種であるが、40 cm以上は稀。ダイバーによる観察例は少ない。(日比野友亮)

■ シンジュウツボ *Gymnothorax margaritophorus* KAUM-I. 55032, 176.0 mm TL

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

ワカウツボ

Gymnothorax meleagris
(Shaw, 1795)

形態 総脊椎骨 119–130。肛門における体高は全長の 5–8%。体は長く、全体に側扁する。肛門は体の中央より前方に位置する。両顎はいくぶん湾曲する。歯は鋭い。主上顎骨歯は 2 列、下顎歯は前方では 2 列で、両顎ともに内列歯の方が大きい。前上顎骨板中央部の歯は 3 列。背鰭始部は鰓孔より前方に位置する。

色彩 体色はひじょうに変異に富むが、通常あずき色の地色に黄白色の円形から長円形に近い不定形の斑紋と黒色点をもつ。中には黒色点がなく、黄白色の斑紋だけをもつもの、全体が白色のものもある。眼の虹彩は橙色から暗褐色。口腔内は体と同様の色彩。

分布 北西部を除くインド洋と太平洋に広く分布する。国内では房総半島から高知県にかけての太平洋沿岸、小笠原諸島、大隅諸島および琉球列島に分布する。

備考 沿岸の岩礁域やサンゴ礁域の浅所でごく普通にみられる。海外の研究者は本種の学名に *G. eurostus* (Abbott, 1860) を

■ ワカウツボ *Gymnothorax meleagris* KAUM-I. 55134, 186.8 mm TL

用いているが、本書では波戸岡 (2013) の見解にしたがいワカウツボの学名に *G. meleagris* を用いた。なお海外の研究者は *G. meleagris* をハナビラウツボに適用

しているが、本種の学名は実際には *G. chlorostigma* (Kaup, 1856) である (波戸岡, 2013)。全長 60 cm 程度になる中型種。(日比野友亮)



ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

アセウツボ

Gymnothorax pictus
(Ahl, 1789)

形態 総脊椎骨 126-135。鰓孔における体高は全長の4.5-6.6%。体は長く、全体に側扁する。肛門はほぼ体中央に位置する。吻端はやや尖る。両顎の長さは中庸で、口裂後端は眼の後縁をはるかに越える。歯は大きくやや扁平で先端は尖る。両顎歯は1列。鋤骨歯は2列で両顎歯に比べ小さい。前上顎骨板中央部前端と下顎先端には臼歯がある。背鰭始部は鰓孔直上か、またはそれより前方に位置する。

色彩 白色から淡灰色の地色に黒色から黒灰色の小斑点が無数に散らばり、その密度は背側から腹側に向かって低くなる。さらに、不明瞭な円斑が体側に2列に並ぶ。幼魚では輪状紋と小斑点が混在する。眼の虹彩には黒斑がある。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島および琉球列島から標本に基づく記録がある。



■ アセウツボ *Gymnothorax pictus* KAUM-I. 41111, 628.0 mm TL

備考 大型種で全長1.2 mに達する。サンゴ礁域のきわめて浅い場所やタイドプールに出現する。(日比野友亮)



■ アセウツボ *Gymnothorax pictus* KAUM-I. 46118, 158.4 mm TL





■ アセウツボ *Gymnothorax pictus* FRLM 43032, 514.0 mm TL



■ ノコギリウツボ *Gymnothorax pindae* KAUM-I. 55130, 290.1 mm TL



■ ノギリウツボ *Gymnothorax pindae* KAUM-I. 55130, 290.1 mm TL

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

ノギリウツボ

Gymnothorax pindae
Smith, 1962

形態 総脊椎骨 121；背鳍前脊椎骨 5；臀鳍前脊椎骨 44。鰓孔における体高は全長の 9.0%。体は長いがやや太く、全体に側扁する。肛門は体中央より明らかに前方に位置する。吻はやや短く、吻端は鈍い。前鼻孔は管状で、吻端にある。後鼻孔は眼の前縁上方に開き、孔状で辺縁に短い皮弁をもつ。両顎はほぼ同長で、わずかに湾曲する。両顎歯は扁平で大きな三角形を呈し、明瞭な鋸歯状縁をもち、1列。前上顎骨中央には 1 本の大きな歯があり、鋤骨後方では小歯が 1 列をなす。背

鳍はやや高く、その始部は鰓孔直上よりわずかに前方に位置する。

色彩 体は一様に褐色で、背鳍の辺縁は黄褐色であるが、背鳍、臀鳍の後方と尾鳍の辺縁は暗褐色。鰓孔周辺は暗褐色で、頭部感覚孔および眼も暗褐色で縁取られる。眼の虹彩は濃黄色。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島と琉球列島から標本に基づく記録がある。

備考 本項は与論島産の標本に基づく。本種はたびたび *G. moluccensis* (Bleeker, 1864) と混同されてきたが、肛門前長が全長の 41–43% と短いこと (*G. moluccensis* では 50–53%)、総脊椎骨数が 110–124

と少ないこと (130–138) などによって区別される。

日本沿岸では本種に類似する種としてヤミウツボ *G. monochrous* (Bleeker, 1856) が生息するが、鰓孔における体高が 6.7–9.1% と高いこと (ヤミウツボでは 4.5–5.3%)、総脊椎骨数が少ないこと (136–143)、歯に鋸歯状縁をもつこと (ない) などによって区別される。

本種は Hatooka (1988) によって奄美諸島徳之島から採集された全長 358.5 mm の標本に基づいて日本初記録種として報告されており、与論島産の標本は国内では 2 番目の記録である。全長 40 cm 程度になる小型種。

(日比野友亮)



ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

ユリウツボ

Gymnothorax prionodon
Ogilby, 1895

形態 総脊椎骨 134–142。体は延長し、やや側扁する。背鰭起部は鰓孔直上より前方に位置する。肛門は体中央にある。吻はやや尖る。両顎は完全に閉じられる。歯は鋭く、切縁に鋸歯をもたない。前上顎骨と下顎先端部の歯は長く鋭い。前上顎骨中央部の歯、主上顎骨歯は1列。主上顎骨歯の歯列長は鋤骨歯の歯列長より長い。鋤骨歯は他の歯に比べ小さく鈍い。

色彩 体は茶褐色。頭部背面と体側全体に大きな石垣状の淡褐色斑がはいり、体後方に向かうにつれ斑紋は小さくなる。頭部前方に斑紋はない。眼の虹彩は黄色。

分布 西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、千葉県以南の大太平洋沿岸、琉球列島から報告されている。

備考 本種は最大全長 80 cm とやや大型



■ ユリウツボ *Gymnothorax prionodon* KAUM-I. 56955, 610.0 mm TL

になる。与論島産の標本は水深 200–700 m から深海籠漁で漁獲された。

(田代郷国)

ウナギ目 ウツボ科 ウツボ属

サビウツボ

Gymnothorax thyrsoideus
(Richardson, 1845)

形態 総脊椎骨 123–138。鰓孔における体高は全長の 4.5–5.9%。体は長く、全体に側扁する。肛門は体中央より明らかに前方に位置する。頭部は大きい。吻は短く、吻端は丸い。口は小さい。主上顎骨歯の先端はやや尖り、2列で近接して並び、内列のものはやや細い。下顎歯の前方は2–3列で、後方では1列。前方のうち、外列をのぞいた歯は鈍い。前上顎骨板中



■ サビウツボ *Gymnothorax thyrsoideus* KAUM-I. 47836, 48.9 mm TL



■ サビウツボ *Gymnothorax thyrsoideus* KAUM-I. 48094, 277.2 mm TL

中央に1-2本の歯がある。鋤骨歯は2列で前上顎骨板歯とほぼ同大でやや大きく、先端は鈍い。なお下顎歯は主上顎歯に比べ後方まで存在する。背鰭始部は鰓孔直上より前方に位置する。

色彩 淡褐色の地色にそれよりやや濃い小褐色斑点が密に分布し、背側の方が明瞭で濃い。頭部前半は一樣に体色より濃い褐色。眼の虹彩は白色でよく目立つ。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に分布する。国内では三重県以南の南日本から標本に基づく記録がある。

備考 サンゴ礁域の浅所ではごく普通にみられる。中型種で全長60 cmくらいになる。ホルマリン溶液で固定された標本の粘液は緑色になる。

(日比野友亮)



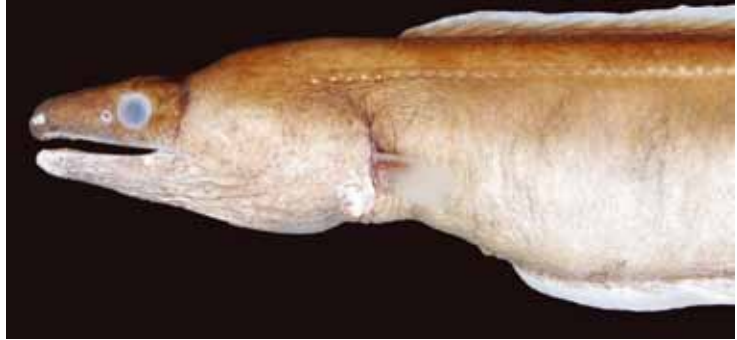
■ サビウツボ *Gymnothorax thyrsoideus* KAUM-I. 39962, 219.2 mm TL



ウナギ目 ホリアアナゴ科 ヒレジロアナゴ属

ヒレジロアナゴ

Meadia abyssalis
(Kamohara, 1938)



■ ヒレジロアナゴ *Meadia abyssalis* KAUM-I. 56958, 673.0 mm TL

形態 総脊椎骨 165–174；肛門前感覚孔 18–19；胸鱗 14–18。体は長く、全体に側扁し尾部では強く側扁する。尾部はきわめて長く、肛門は胸鱗後端直後に位置する。吻は長く、吻端はやや鈍い。吻、下顎全体および両唇に絨毛状皮弁を多数もつ。口は亜端位。前鼻孔は管状をなす。後鼻孔は円形で眼の直前に開口する。眼は大きい。口裂の後端は眼の後縁を越える。主上顎骨歯は2列から4列。上顎間歯は比較的密生する。鋤骨歯は1列から4列。下顎歯は2列から3列。鰓孔は裂孔状で腹側下方に開き、その直径は眼径とほぼ同長。埋没鱗を欠く。頭部感覚孔は眼上感覚孔が3個、眼下感覚孔が6個、下顎—前鰓蓋感覚孔が7個で、上側頭感覚孔および眼窩間感覚孔を欠く。側線は明瞭で、尾部後方まで連続する。眼後部、上側頭部および体側中線上に微小孔器をもち、尾部後方まで連続する。背鱗および臀鱗は比較的高く、背鱗始部は胸鱗中央直上に

位置する。背鱗、臀鱗と尾鱗は連続する。胸鱗は大きく、鰓孔の上方に位置する。

色彩 体と頭部は褐色で、尾部後方をのぞく腹側は淡褐色。前鼻孔、後鼻孔、側線感覚孔および微小孔器は白色で顕著。胸鱗、背鱗および臀鱗の基底は濃褐色を呈し、ほかは白色。

分布 南西インド洋と台湾からハワイ諸島にかけての太平洋に分布する。国内では相模湾以南の太平洋沿岸と山口県、与論

島以南の琉球列島、九州・パラオ海嶺、天皇海山および第二春日海山から知られる。

備考 本種は前上顎域に大型の犬歯をもつとされているが、与論島産の標本からは確認されなかった。さらに、鋤骨歯は従来では1列から2列とされていたのに対し、本標本では4列で、主上顎骨歯および下顎歯も多かった。しかし、歯以外の形質では本種の原記載や Robins & Robins (1976) の記載とほぼ一致することから、この差異は種内変異とみなした。

(日比野亮)

■ コンゴウアナゴ *Simenchelys parasitica* KAUM-I. 51405, 167.2 mm TL■ コンゴウアナゴ *Simenchelys parasitica* KAUM-I. 51406, 227.8 mm TL■ コンゴウアナゴ *Simenchelys parasitica* FRLM 42986, 263.0 mm TL

ウナギ目 ホラアナゴ科 コンゴウアナゴ属

コンゴウアナゴ

Simenchelys parasitica
Gill, 1879

形態 総脊椎骨 115–125；肛門前感覚孔 44–45；胸鱗 14–16。体は細長く、尾部は強く側扁する。肛門は体中央よりわずかに前方に位置する。吻は短く鈍い。眼は小さい。前鼻孔は管状で、後鼻孔は眼の直前中央に開口する。口は小さく眼の前縁に達しない。歯は先の鈍い円錐歯で小さく、

両顎ともに1列で唇に埋没する。舌は幅広く先端は下顎から遊離する。鰓孔は裂孔状で腹面に開くが左右は分離する。体は頭部と胸部をのぞき相互に直角に並ぶ棒状の埋没鱗に覆われる。側線は不完全であるが明瞭。胸鱗は大きい。背鱗始部は胸鱗後端の直上より後方に位置する。背鱗、臀鱗は尾鱗と連続する。

色彩 体は一様に黒褐色から暗褐色。鱗は淡灰色で背鱗、臀鱗後半部と尾鱗の辺縁は暗褐色。

分布 大西洋、インド・太平洋の主に温帯域に分布する。国内では北海道から土佐湾にかけての日本列島太平洋側と琉球列島から標本に基づく記録がある。与論島産の標本は鹿児島県における本種の初記録。

備考 本種は他のホラアナゴ科とは左右の鰓孔が分離すること、鱗があること、吻が短く鈍いこと、肛門が体のほぼ中央に位置することによって容易に区別される。現在知られている本種の生息水深は136–2620 mで、与論島産の標本は水深800 m前後の籠漁で混獲された。

(日比野友亮)



■ ミナミミズアナゴ *Muraenichthys schultzei* KPM-NI 30763, 129.8 mm TL

ウナギ目 ウミヘビ科 ミナミミズアナゴ属

ミナミミズアナゴ

Muraenichthys schultzei
Bleeker, 1857

形態 総脊椎骨 135；腎臓前脊椎骨 52；背臓前脊椎骨 61；肛門前感覚孔 42。体は細長く、頭部から躯幹部にかけては円筒形で、尾部は先端に向かって側扁する。肛門は体中央より前方に位置する。吻端は丸みを帯びる。前鼻孔は管状で、後鼻孔は眼前下部側面に開口し、微小な皮弁をもつ。口裂の後端は眼の後縁をはるかに越える。歯はやや尖った円錐歯。主上顎骨歯は2列で、外列の方が大きい。鋤骨

歯と下顎歯は1列。鰓孔は体側の中央下部に開き、その開口部はやや窄まる。側線は不完全で、肛門直上より前方で途切れる。胸鰭はない。背臓始部は肛門直上より頭長の70%程度後方に位置し、背臓、腎臓は尾臓と連続する。尾臓は微小ながら明瞭。

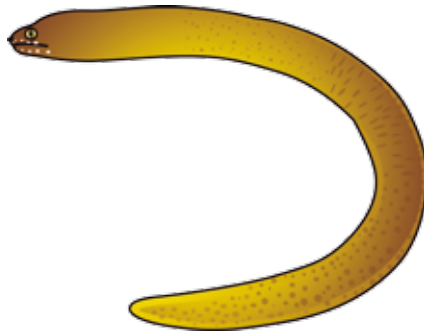
色彩 全体に透明感があり頭部および躯幹部腹側を除き黄褐色。頭部と躯幹部の腹側は白色。

分布 インド・太平洋の熱帯域に分布する。国内では奄美大島以南の琉球列島から標本に基づく記録がある。

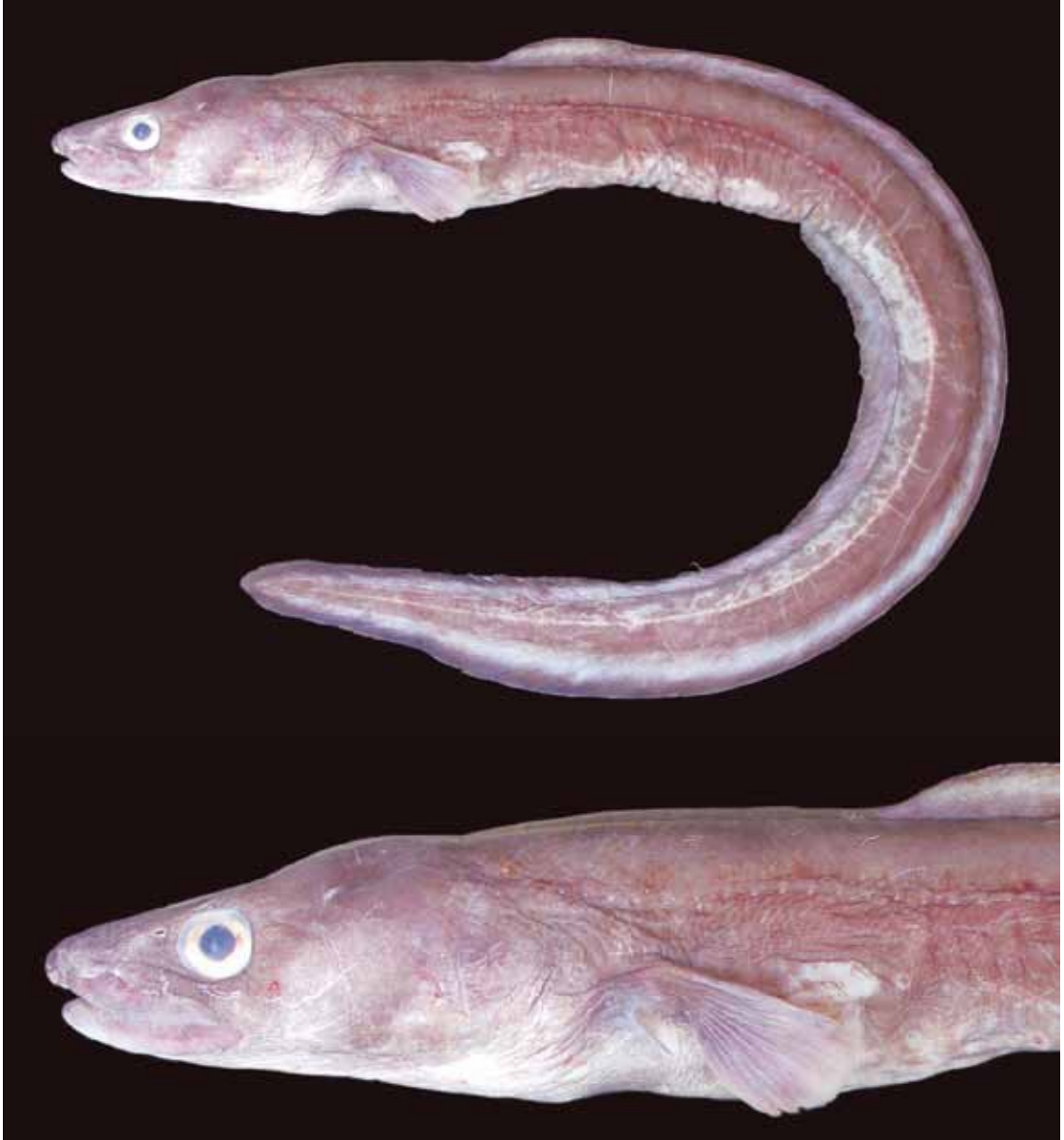
備考 本項の形態と色彩の記載は与論島の標本に基づく。本種のホロタイプ (BMNH 1867.11.28.331、全長 94 mm、インドネシア、ヌサ・カンバンガン島産) は総脊椎骨数が 124、背臓前脊椎骨数が 44 で、与論島を含む日本国内から採集されている標本に比べ明らかに少ない。本種の分布範囲はひじょうに広いと、今後、分布範囲を網羅した多数の標本に基づく分類学的再検討が必要である。

本種はサンゴ礁域の浅所に生息する小型種で、日本産のものは全長 115 mm 程度で成熟する。産卵期は 6 月から 7 月。

(日比野友亮)



■ スズランヒメウツボ *Gymnothorax fuscomaculatus* (p. 30)



■ ダイナンアナゴ *Conger erebennus* KAUM-I. 58556, 799.0 mm TL

ウナギ目 アナゴ科 クロアナゴ属

ダイナンアナゴ

Conger erebennus
(Jordan & Snyder, 1901)

形態 総脊椎骨 137–147；肛門前感覚孔 37–40；胸鱗 19–21。体は細長く、やや側扁した円筒形で尾部は先端に向かって強く側扁する。肛門は体中央より前方に位置する。頭部は大きく、全長の18%。前鼻孔は管状で、後鼻孔は眼の直前に開口する。口は大きく、口裂後端は眼の中央直下。

上唇、下唇ともにきわめて発達し、遊離縁がある。主上顎骨歯は1列で、下顎歯は前端部のみ2–3列の歯帯をなし、後方では1列。鋤骨歯は上顎間歯と連続し、ともに歯帯状。側線はきわめて明瞭。胸鱗は大きい。背鱗始部は胸鱗後端の直上に位置する。

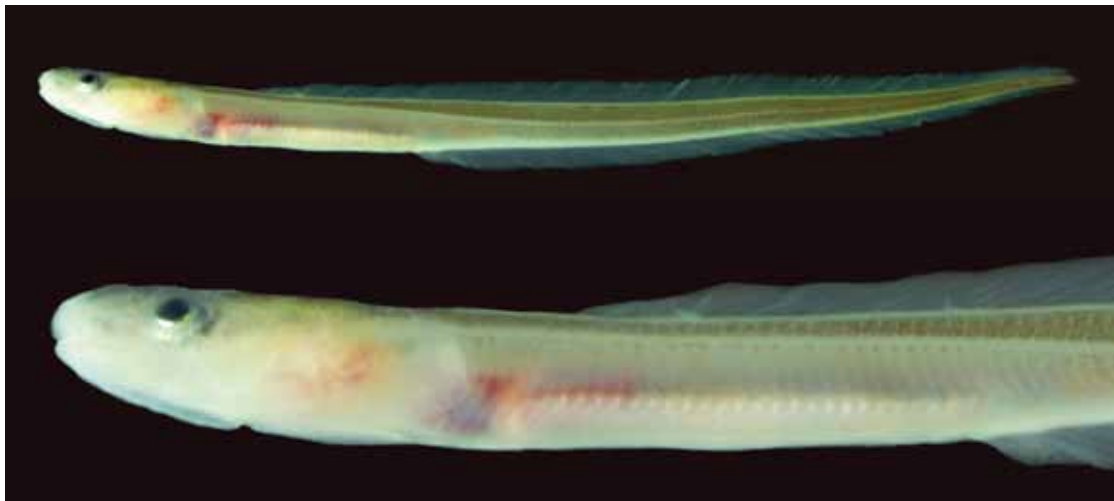
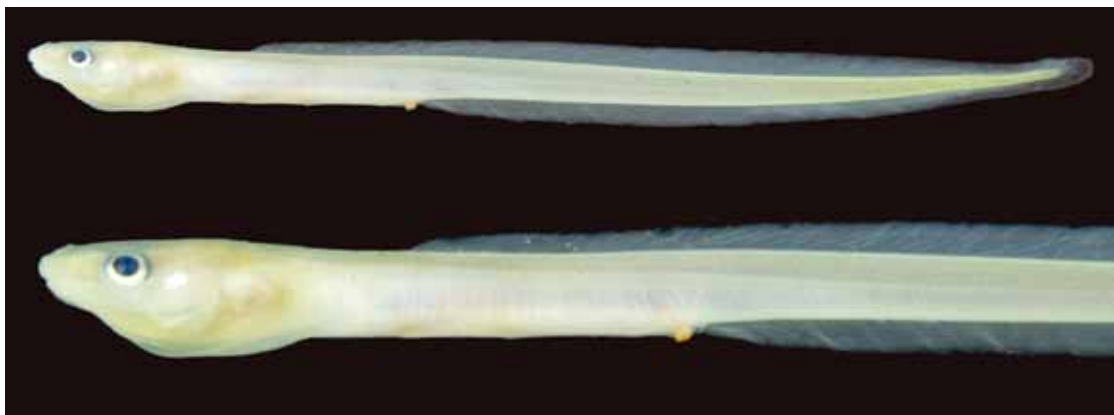
色彩 体は暗紫褐色で、腹側では淡い。背鱗、臀鱗、尾鱗は淡紫色でその辺縁は濃褐色。胸鱗は淡紫色。

分布 国外では韓国釜山のみから知られて

おり、国内では北海道から福岡県までの日本海と、東京湾から紀伊半島にかけての太平洋岸および与論島に分布する。与論島産の標本は鹿児島県における本種の初記録であるとともに本種の南限記録。

備考 本項の計数形質の変異幅は波戸岡(2013)にしたがい、他の記載および色彩は与論島産標本に基づく。本種は水深100 m以浅に生息するとされているが(波戸岡, 2013)、本標本は与論島南東沖の水深600 mから籠漁で採集されており、本種の最深記録である。

(日比野友亮)

■ クロアナゴ *Conger japonicus* KAUM-I. 45857, 60.8 mm TL■ クロアナゴ *Conger japonicus* KAUM-I. 55158, 68.9 mm TL

ウナギ目 アナゴ科 クロアナゴ属

クロアナゴ

Conger japonicus
Bleeker, 1879

形態 総脊椎骨 142–145；肛門前感覚孔 35–39；胸鱗 15–16。体は細長く、尾部は先端に向かって強く側扁する。肛門は体中央より前方に位置する。吻端はやや尖る。頭部はやや小さい。前鼻孔は管状で、後鼻孔は眼の直前に開口する。口は大きく、口裂後端は眼の中央直下。上唇、下唇は発達し、遊離縁がある。歯は小さくて細長く、両顎歯はひじょうに近接して並ぶ。両顎ともに前方の一部のみ 2–3 列で、残りは 1 列。鋤骨歯は上顎間歯と連続し、前方では歯帯状になる。舌は下顎から分離する。

鰓孔は体側下方にあり、胸鱗の直前に開く。側線はきわめて明瞭で完全。胸鱗は大きい。背鱗始部は胸鱗後端の直上か、またはそれより後方に位置する。背鱗と臀鱗は大きく、尾鱗と連続する。

色彩 体は腹側を除き一様に淡褐色から濃褐色。背鱗、臀鱗、尾鱗は淡紫色でその辺縁は黒いことが多い。胸鱗は淡紫色から黒色まで変異に富む。

分布 中国福建省から朝鮮半島沿岸と台湾に分布する。国内では青森県以南の太平洋岸、京都府以西の日本海、瀬戸内海、八丈島、大隅諸島および琉球列島に分布する。

備考 本種はダイナンアナゴ *C. erebennus* (Jordan & Snyder, 1901) としばしば混同されてきたが、後者に比べ頭長が全長比約 14% と短いこと（ダイナンアナゴでは約 18%）、背鱗の始部が胸鱗後端の後方か、稀に直上に位置すること（直上か、またはわずかに前方）、胸鱗条数が 15–16 と少ないこと（19–21）によって区別できる。本属魚類のうち一般に奄美諸島や琉球列島で出現するキリアナゴ *C. cinereus* Rüppel, 1830 とは背鱗始部の位置（キリアナゴでは胸鱗中央付近に位置する）によって区別できる。

これまで本種の琉球列島からの記録は疑問視されてきたが（波戸岡、2013；吉郷、2014）、与論島産の標本により分布が裏付けられた。

(日比野友亮)

■ ヤマトミズン *Amblygaster leiogaster* KAUM-I. 55088, 53.9 mm TL

ニシン目 ニシン科 ヤマトミズン属

ヤマトミズン*Amblygaster leiogaster*
(Valenciennes, 1847)

形態 背鰭 17-18; 臀鰭 18-21; 胸鰭 16-17; 腹鰭 8; 縦列鱗 39-41; 腹鰭前方稜鱗 17-18; 腹鰭後方稜鱗 13-15; 鰓条骨 6; 第 1 鰓弓下枝鰓耙 31-36。体は細長い楕円形でやや側扁し、体高は低い。頭部はやや側扁する。胸鰭の後端は背鰭

起部直下に達しない。腹鰭は胸鰭より短く、起部に腋鱗を備える。臀鰭起部は背鰭基底後端直下より後方に位置する。臀鰭最後の 2 軟条は伸長する。稜鱗を除いて、鱗ははがれやすい。体側鱗は円鱗。背鰭前方鱗は体の正中線上に配列する。脂鱗はよく発達し、厚く、後鼻孔後縁から眼窩後縁まで広がる。口は端位で、下顎は上顎よりわずかに突出する。

色彩 頭部背面および体背面は暗青色。体側から体腹面は一樣に銀色。背鰭、尾

鰭、胸鰭、腹鰭および臀鰭の各軟条は白色、鰭膜は透明。

分布 紅海を含むインド・西太平洋に分布する。国内では琉球列島から標本に基づいて記録されている。

備考 ヤマトミズンは、体側に暗青色点がないこと、第 1 鰓弓下枝鰓耙数が 31-36 であること、腹鰭起部が背鰭第 1-3 軟条起部直下に位置することから、同属他種と識別される。

(畑 晴陵)

ニシン目 ニシン科 ヤマトミズン属

ホシヤマトミズン*Amblygaster sirm*
(Walbaum, 1792)

形態 背鰭 17-19; 臀鰭 15-19; 胸鰭 16-17; 腹鰭 8; 縦列鱗 40-43; 腹鰭前方稜鱗 16-18; 腹鰭後方稜鱗 13-15; 鰓条骨 6; 第 1 鰓弓下枝鰓耙 33-43。体は

細長い楕円形でやや側扁し、体高は低い。頭部はやや側扁する。胸鰭の後端は背鰭起部直下に達しない。腹鰭は胸鰭より短く、起部に腋鱗を備える。臀鰭起部は背鰭基底後端直下より後方に位置する。臀鰭最後の 2 軟条は伸長する。稜鱗を除いて、鱗ははがれやすい。体側鱗は円鱗。背鰭前方鱗は体の正中線上に配列する。脂鱗はよく発達し、厚く、後鼻孔後縁から眼窩後縁まで広がる。口は端位で、下顎は上

顎よりわずかに突出する。

色彩 頭部背面および体背面は暗青色。体側から体腹面の地色は一樣に銀色で、側中線上方にほぼ同大の暗黄褐色斑が鰓蓋上方後方から尾柄にかけて 1 列に並ぶ。頭部側面は一樣に銀色であるが、前鰓蓋骨前縁から前鰓蓋骨後縁にかけては淡い赤色。脂鱗前方下部に暗青色の縦帯が入る。背鰭および尾鰭の各軟条は無色透明



■ ホシヤマトミズン *Amblygaster sirm* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

であるが、鰭膜は黄褐色。胸鰭、腹鰭および臀鰭の各軟条は白色。

分布 紅海を含むインド・西太平洋に分布する。国内では鹿児島県薩摩半島西岸と琉球列島から標本に基づいて記録されている。

備考 ホシヤマトミズンは、体側に1列の暗青色点が並ぶこと、第1鰓弓下枝鰓耙数が33-43であることから、同属他種と識別される。

礁湖やその付近の水域に群れて生活する。日中は海底付近で群れているが、夜間は表層や中層に分散し、摂餌を行う。カイアシ類、貝類の幼生を主な餌とする。幼魚は植物プランクトンも餌とする。

(畑 晴陵)



■ ミズン *Herklotsichthys quadrimaculatus* KAUM-I. 51219, 114.7 mm SL

ニシン目ニシン科ミズン属

ミズン

Herklotsichthys quadrimaculatus
(Rüppell, 1837)

形態 背鰭19-20；臀鰭16-19；胸鰭15-17；腹鰭8；腹鰭前方稜鱗16-19；腹鰭後方稜鱗12-14；鰓条骨6；第1鰓弓上枝鰓耙14-17；第1鰓弓下枝鰓耙33-36；第1鰓弓総鰓耙47-52。体は細長い楕円形で側扁し、体高は低い。胸鰭の後端は背鰭起部直下に達しない。腹鰭は胸鰭より短く、起部に腋鱗を備える。臀

鰭起部は背鰭基底後端直下より後方に位置する。臀鰭最後の2軟条は伸長しない。稜鱗を除いて、鱗ははがれやすい。体側鱗は円鱗。鰓孔後縁に2つの突起を備える。口は端位で、下顎は上顎よりわずかに突出する。第2上主上顎骨の下半分は肥大し、上下非対称となる。

色彩 頭部背面および体背面は暗青色。体側から体腹面は一樣に銀色。背鰭、尾鰭の各軟条は黒色であるが、胸鰭、腹鰭および臀鰭の各軟条は白色。頭部側面は一樣に銀色であるが、鰓孔後縁に1-2個の黄色斑を有する。鰓蓋上部後方から尾柄にかけて青色縦帯が1本入る。

分布 アフリカ東岸からサモアにかけてのインド・西太平洋の熱帯域に広く分布する。ハワイにも導入されている。国内では小笠原諸島、鹿児島県、沖縄県から標本に基づいて記録されている。

備考 成魚は日中、沿岸の浅海域に群れを形成するが、夜間は外洋の深海域に移動し、摂餌を行う。甲殻類の幼生を中心とした動物プランクトンを餌とするが、大型個体ではヤムシや多毛類、エビや小魚も捕食することが知られている。

(畑 晴陵)

■ ミズン *Herklotsichthys quadrimaculatus* KAUM-I. 51218, 104.9 mm SL

ニシン目 ニシン科 キビナゴ属

リュウキュウキビナゴ

Spratelloides atrofasciatus
Schultz, 1943■ リュウキュウキビナゴ *Spratelloides atrofasciatus* KAUM-I. 55089, 38.5 mm SL

形態 背鰭 11-13；臀鰭 10-12；胸鰭 10-12；腹鰭 8；第1鰓弓上枝鰓耙 7-9；第1鰓弓下枝鰓耙 20-24。体は細長い円筒形で、体高は低い。胸鰭の後端は背鰭起部直下に達しない。胸鰭および腹鰭は起部に腋鱗を備える。臀鰭起部は背鰭基底後端直下よりはるかに後方に位置する。体側鱗は円鱗。眼は大きく、眼径は吻長より長い。口は端位で、下顎は上顎よりわずかに突出する。

色彩 体は乳白色の半透明。眼窩前縁から鰓蓋後縁にかけての頭部側面は一樣に銀色。側中線に銀色縦帯があり、その上方に黒色縦帯が入る。体側上方鱗の後縁

は黒色で縁取られる。背鰭、尾鰭の各軟条は黒色であるが、胸鰭、腹鰭および臀鰭の各軟条は白色。

分布 サモア諸島とマーシャル諸島から知られる。国内では琉球列島から記録されている。

備考 リュウキュウキビナゴは、同属のキビナゴ *S. gracilis* (Temminck & Schlegel, 1846) と比較して、眼径が吻長より長いこと（後者では眼径が吻長より短い）、胸鰭

軟条数が 10-12 であること（13-15）、第1鰓弓の鰓耙数が 7-9 + 20-24 であること（10-12 + 34-37）から識別される。また、本種は体長 5 cm 程度にしか成長しないのに対し、キビナゴは体長 10 cm 以上に達する。

Whitehead (1985) や Wongratana et al. (1999) は *S. atrofasciatus* を *S. gracilis* の新参異名とした。しかし、青柳・柳下 (2013) は両名義種を別種とし、本書でもそれに従った。

(畑 晴陵)



■ ミナミキビナゴ *Spratelloides delicatulus* FRLM 42710, 37.6 mm SL



■ ミナミキビナゴ *Spratelloides delicatulus* KAUM-I. 51220, 36.2 mm SL

ニシン目 ニシン科 キビナゴ属

ミナミキビナゴ

Spratelloides delicatulus
(Bennett, 1832)

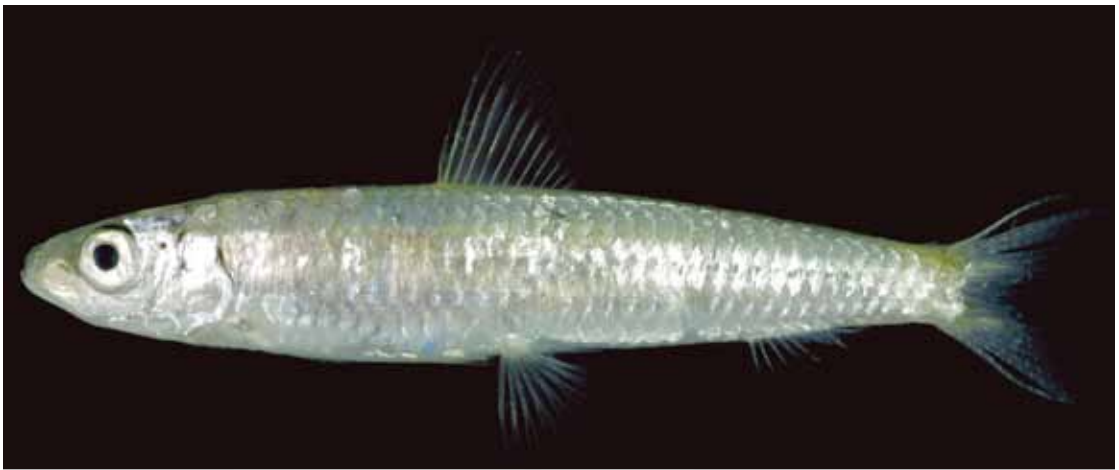
形態 背鰭 12-13；臀鰭 10-11；胸鰭 11-12；腹鰭 8；縦列鱗 35-41；背鰭前方鱗 8-13；鰓条骨 6-7；第1鰓弓上枝鰓耙 9-11；第1鰓弓下枝鰓耙 27-30。体は細長い円筒形で、体高は低い。胸鰭の後端は背鰭起部直下に達しない。胸鰭および腹鰭は起部に腋鱗を備える。臀鰭

起部は背鰭基底後端直下より後方に位置する。体側鱗は円鱗。上顎に歯はない。口は端位で、下顎は上顎よりわずかに突出する。

色彩 頭部背面および体背面は暗青色。体側から体腹面の地色は一様に銀色。尾



■ ミナミキビナゴ *Spratelloides delicatulus* KAUM-I. 51221, 34.4 mm SL



■ ミナミキビナゴ *Spratelloides delicatulus* KAUM-I. 55087, 33.8 mm SL

鰭基底に2本の明瞭な黒色縦帯が入る。背鰭、尾鰭の各軟条は黒色であるが、胸鰭、腹鰭および臀鰭の各軟条は白色。

分布 紅海を含むインド・太平洋に広く分布する。地中海からも1個体が得られてい

る。国内では鹿児島県以南に分布する。

備考 ミナミキビナゴは、体側に銀色帯がないこと、上顎に歯がないこと、第2上主上顎骨の下半分は肥大せず、上下対称であること、背鰭前方鱗数が8-13であること、

縦列鱗数が35-41であることなどから同属他種と識別される。日中は礁湖やその隣接した水域、または藻場などで群れをなしているが、夜間は礁湖の表層や中層に分散し、摂餌を行う。

(畑 晴陵)

■ サバヒー *Chanos chanos* KAUM-I. 39853, 71.5 mm SL■ サバヒー *Chanos chanos* KAUM-I. 39854, 59.5 mm SL

ネズミギス目 サバヒー科 サバヒー属

サバヒー

Chanos chanos
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 13-17；臀鰭 8-11；胸鰭 15-17；腹鰭 9-12；側線鱗 75-91；鰓耙 147-160 + 107-165。体側の鱗は円鱗。体は側扁する。眼に脂瞼がある。口先は尖る。左右の鰓膜はつながる。胸鰭は低位で腹縁に近い。背鰭基底は短く体の中央に位置する。尾鰭は長く、二叉する。

色彩 体は銀白色で、背部は暗色。

■ サバヒー *Chanos chanos* KAUM-I. 48078, 17.1 mm SL

分布 インド・太平洋および東太平洋の温帯から熱帯域に広く分布する。国内では青森県から九州沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 主に沿岸の浅海域に生息するが、

汽水域や淡水域でもみられる。琉球列島以北からは幼魚のみが確認されることが多い。5月から11月に仔稚魚がみられる。全長 1.5 m に達する。東南アジアでは養殖されており、重要な食用魚である。

(中村麻理子)



■ ゴンズイ *Plotosus japonicus* KAUM-I. 48079, 44.5 mm SL



■ ゴンズイ *Plotosus japonicus* FRLM 42989, 30.6 mm SL



■ ゴンズイ *Plotosus japonicus* KAUM-I. 39960, 29.7 mm SL

ナマズ目 ゴンズイ科 ゴンズイ属

ゴンズイ

Plotosus japonicus
Yoshino & Kishimoto, 2008

形態 背鰭 I, 4 + 70-95; 臀鰭 58-75; 尾鰭 10-11; 胸鰭 I, 10-12; 腹鰭 10-13; 鰓条骨 10-12; 鰓耙 5-7 + 16-20 = 21-27; 脊椎骨 48-53。体はやや細長く、

おたまじやくし形。口のまわりに 8 本の長いひげをもつ。第 1 背鰭と胸鰭には毒腺をとみなう鋭い 1 本の棘条をもつ。第 2 背鰭と臀鰭は尾鰭と完全に連続し、尾鰭の後縁は尖る。

色彩 体は茶色で体側の背部と腹部に白色の縦帯をもつ。

分布 房総半島以南の南日本、能登半島、

琉球列島に分布する。

備考 沿岸の岩礁域でみられる。同じ体サイズの個体が濃密な大群をつくることがある。鰭の棘条に刺されるとひどく傷むので注意。与論産のゴンズイ科魚類はすべてゴンズイであり、近縁のミナミゴンズイ *P. lineatus* (Thunberg, 1787) は確認されなかった。

(松沼瑞樹)



■ チュラプシホウネエソ *Polyipnus ovatus* KAUM-I. 55125, 118.1 mm SL

ワニトカゲギス目 ムネエソ科 ホウネエソ属

チュラプシホウネエソ (新称)

Polyipnus ovatus
Harold, 1994

標本 KAUM-I. 55125、標準体長 118.1 mm、鹿児島県与論島赤崎沖（北緯 26 度 55 分、東経 128 度 31 分）、水深 540 m、2013 年 7 月 1 日、釣り、斉藤一司。

形態 背鰭 11 軟条；臀鰭 17 軟条；胸鰭 14 軟条；腹鰭 7 軟条；尾鰭 17 軟条；鰓耙数 18；脊椎骨数 33。

体各部の体長に対する割合 (%) は以下の通り：体高 57.2；体幅 18.3；頭長 34.7；吻長 9.2；眼窩径 13.3；両眼間隔幅 10.4；上顎長 25.7；尾柄高 9.0；尾鰭長 11.5；背鰭前長 56.5；臀鰭前長 71.0；腹鰭前長 62.7；背鰭基底長 22.0；臀鰭基底長 27.1；尾鰭長 20.3；胸鰭長 23.7；腹鰭長 11.2。

体は楕円形でよく側扁する。前鼻孔と後鼻孔は楕円形。後鼻孔は前鼻孔よりも大きく、眼窩前縁から吻長の約 1/3 前方にある。口裂は斜行し、上顎よりも下顎が突出する。主上顎後端は虹彩の前縁に達する。瞳孔は円形であるが、虹彩は卵型で下方に尖る。上顎には 3-4 列の犬歯状歯があり、後方に向かって列数が減り、後部では 1 列になる。下顎には 3-4 列の犬歯状

歯があり、後方に向かって列数が減り、後部では 1 列になる。鋤骨には犬歯が 2 列に並ぶ。胸鰭後端は腹鰭始部よりやや前方に位置する。腹鰭始部は背鰭始部よりやや前方直下に位置する。臀鰭始部は背鰭第 7 軟条基底直下に位置する。脂鰭始部は臀鰭第 11 軟条基底直上に位置する。頭部背面に骨質の隆起縁が発達する。尾鰭は二叉する。尾鰭下葉は上葉よりも長く、後方に延長する。背鰭前黒色帯は幅広く、体側中線を越える。

発光器：腹部発光器 (AB) は 10 個で、腹面に沿って一列に並ぶ。腹部上部発光器 (SAB) は 3 個で、第 1 腹部発光器が最高位に位置し、第 2 腹部発光器が最低位に位置し、第 3 腹部発光器は両発光器の間よりやや下方に位置する。臀鰭前発光器 (PAN) は 5 個で、第 1 および第 5 臀鰭発光器が最高位に位置する。臀鰭上発光器 (SAN) は 3 個で、第 1 臀鰭上発光器が最低位に位置し、第 2 臀鰭上発光器が第 3 臀鰭発光器のやや下方に位置し、第 3 臀鰭発光器が最高位に位置する。臀鰭発光器 (AN) は 9 個で、腹面に沿って一列に並ぶ。尾柄下部発光器 (SC) は 4 個で横一列に並ぶ。

色彩 体側の地色は光沢のある銀白色で、吻端から下顎と吻端から頭頂部にかけては半透明。眼の後端から鰓蓋後縁にかけて不規則な黒色帯がはしる。頭頂部から尾

柄部にかけての体側上方の黒色帯は、鰓蓋上方から側線鱗 3 枚目にかけてなだらかに上昇し、側線鱗 5-6 枚目で下方へ大きく張り出す。その後、前述の黒色帯は背鰭始部直下で上方に大きく切れ込み、背鰭第 6-8 軟条直下でやや下方に張り出す。背鰭基部後端直下から尾柄部にかけての黒色帯の幅は一定。背鰭と胸鰭は透明であるが、鰭条に黒色素胞がやや密に分布する。脂鰭は透明であるが、各鰭の基部および中央付近から縁辺にかけて黒色素胞が分布する。腹鰭と臀鰭は透明であるが、各鰭の基部に黒色素胞が密に分布する。尾鰭は透明であるが、上下葉縁辺の 3 分の 1 は黒色を呈し、先端は黒色。

分布 本種はフィリピンのバガバス湾から得られた 1 個体に基づいて新種記載された。これまでの分布はフィリピンだけであった (Harold, 1994)。与論産の本標本は本種の 2 個体目の記録であり、日本における初めての記録となる。

備考 本種の発光器と各部の名称は、藤井 (1984) および藍澤・土居内 (2013) に従った。

本標本は、体高は高く側扁すること、腹部発光器 (AB) が 10 個であること、腹部上部発光器 (SAB) があること、臀鰭前発光器 (PAN) が 5 個であること、尾鰭下部発光器 (SC) が 4 個であること、臀



■ チュラブシホウネンエソ *Polyipnus ovatus* KAUM-I. 55125, 118.1 mm SL

鰭基底部に透明域がないことなどの特徴から、Harold (1994) や藍澤・土居内 (2013) が定義しているホウネンエソ属 *Polyipnus* の特徴に一致する。さらに、背鰭前黒色帯が体側中央線を越えること、後側頭骨棘が小さく分枝しないこと、竜骨板の縁辺が鋸歯状ではないこと、腎鰭発光器 (AN) 数が 9 であること、胸鰭軟条数が 14 であること、鰓耙数が 18 であること、脊椎骨数が 33 であることなどの特徴が、Harold (1994) による *Polyipnus ovatus* の原記載とよく一致した。

本標本は原記載と比較して、背鰭軟条数 11 (原記載では 12)、腎鰭軟条数 17 (18) および腹鰭軟条数 7 (6) とわずかに異なっていた。この程度の計数形質の差異は同属他種でも同様に知られており、また本種のこれまでに知られている標本がホロタイプのみであることから、本研究では種内変異の範囲であると判断した。

Polyipnus 属は世界で 32 種が有効種とされている (Harold, 1994)。その中でも *P. ovatus* は、腎鰭上発光器 (SAN) が 3 個で、第 1 腎鰭上発光器が最低位に位置し、第 2 腎鰭上発光器が第 3 腎鰭発光器のやや下方に位置し、第 3 腎鰭発光器が最高位に位置すること、背鰭前黒色帯が体側中央線を越えることなどから、タスマン海とニュージーランド沖のみ生息する *Polyipnus kiwiensis* Baird, 1971 と酷似する。しかし、*P. ovatus* は *P. kiwiensis*

と比較して、胸鰭軟条数が 14 と少ないこと (*P. kiwiensis* では 15–16) および鰓耙数が 18 と多いこと (15–17) から識別される (Harold, 1994)。Harold (1994) は 2 種を腎鰭軟条数でも識別できるとしたが、*P. ovatus* の腎鰭軟条数は 17–18 であり (*P. kiwiensis* では 15–17)、範囲が重複することが明らかになった。

日本産ホウネンエソ属魚類は、本種の他にツノホウネンエソ *P. fraseri* Fowler, 1934、ホシホウネンエソ *P. matsubarae* Schultz, 1961、マルホウネンエソ *P. parini* Borodulina, 1979、ノコバホウネンエソ *P. spinifer* Borodulina, 1979、カタホウネンエソ *P. stereope* Jordan & Starks, 1904、スルガホウネンエソ *P. surugaensis* Aizawa, 1990 およびミツユビホウネンエソ *Polyipnus* sp. の 9 種が知られている (藍澤・土居内, 2013; 本研究)。

Polyipnus ovatus は先述の 9 種と比較して、単一の後側頭骨棘と平滑な竜骨板を有することから、分枝した後側頭骨棘と鋸歯状になった竜骨板を有するツノホウネンエソ、マルホウネンエソ、ノコバホウネンエソおよびカタホウネンエソ (Harold, 1994; 藍澤・土居内, 2013) と容易に識別される。また、本種は背鰭前黒色帯が体側中央線を越えることから、背鰭前黒色帯が体側中央線をこえないスルガホウネンエソとミツユビホウネンエソ (Harold, 1994; 藍澤・土居内, 2013) から区別される。本種はホ

シホウネンエソと比較して、背鰭前黒色帯は丸い (ホシホウネンエソでは尖る)、鰓耙数が 18 と少ない (22–24) の特徴により識別される (Harold, 1994; 藍澤・土居内, 2013; 本研究)。

本種はホロタイプ (CAS 33347, 47.0 mm SL) のみしか知られておらず、与論島から得られた標本は世界で 2 番目の標本であるとともに、最大個体である (Harold, 1994; 本研究)。また、カラー写真に基づく本種の生鮮時の色彩は本書で初めて明らかにされた。

与論産の標本は採集後、真空パックで密閉された状態のまま冷凍保存されていた。標本作製における鮮魚の冷凍保存は、これまで魚と水 (海水魚なら海水、淡水魚なら淡水が好ましい) を一緒に入れて冷凍する手法が主であった (本村, 2009; Motomura & Ishikawa, 2013)。真空パックを用いた保存は数日間ではあったが、解凍後の魚体はきわめて美しい状態であった。

きれいに残っている発光器が夜空の美しい星を連想させることに因み、採集された与論島の方言を用いて「美しい」を意味する「チュラ」と「星」を意味する「ブシ」を用いて、新標準名チュラブシホウネンエソを提唱する。

(吉田朋弘・本村浩之)



■ マダラエソ *Saurida gracilis* KAUM-I. 39887, 186.3 mm SL



■ マダラエソ *Saurida gracilis* KAUM-I. 55166, 96.7 mm SL



■ マダラエソ *Saurida gracilis* KAUM-I. 42280, 92.5 mm SL

■ マダラエソ *Saurida gracilis* KAUM-I. 39745, 90.3 mm SL■ マダラエソ *Saurida gracilis* BSKU 108223, 50.2 mm SL

ヒメ目 エソ科 マエソ属

マダラエソ

Saurida gracilis
(Quoy & Gaimard, 1824)

形態 背鰭 10-11；臀鰭 9-10；胸鰭 12-13；側線有孔鱗 45-49；側線上方鱗 3 1/2。体は細長い円筒形。前鼻孔後縁には、中央やや下方に欠刻をもつ三角形の皮弁がある。両顎歯は太短い円錐歯で強く広い歯帯を形成する。口蓋骨歯は先端付近が後方よりも大きい。舌上歯は他の歯に

比べて小さい。内翼状骨歯内側列は前部が2列、後部が3-4列の歯帯をなす。胸鰭後端は腹鰭基底後端を越える。

色彩 体側は褐色で黒色の横帯があり、腹部は白色である。すべての鰭の鰭条に斑紋があり、尾鰭の斑紋は顕著。脂鰭の中心部や先端に黒斑がある。

分布 インド・太平洋。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は尾鰭に斑紋を有することからウチウミマダラエソ *S. nebulosa* Valenciennes, 1850 に最も類似する。本種は内翼状骨歯内側列が後部で3-4列であること（ウチウミマダラエソでは前後部とも2列）、胸鰭後端は腹鰭基底後端を越えること（越えない）、体側の横帯がみられること（みられない）などにより区別される。また、本種はサンゴ礁周辺に多いのに対し、ウチウミマダラエソでは内湾や河口域の砂泥底や藻場に多い。

(笹木大地)

ヒメ目 エソ科 マエソ属

ウチウミマダラエソ

Saurida nebulosa
Valenciennes, 1850

形態 背鰭 10-11；臀鰭 9-10；胸鰭 12-13；側線有孔鱗 49-51；側線上方鱗 3 1/2。体は細長い円筒形。前鼻孔後縁の

皮弁は三角形であり、その高さは幅より大きい。両顎歯は太短い円錐歯で強く広い歯帯を形成する。口蓋骨歯は先端付近が後方よりも大きい。舌上歯は他の歯に比べ小さい。内翼状骨歯内側列はすべて2列である。胸鰭後端は腹鰭基底後端を越えない。

色彩 体側は褐色で小さな黒点があり、腹

部は白色。背鰭、腹鰭、尾鰭に顕著な斑紋がある。脂鰭は褐色。

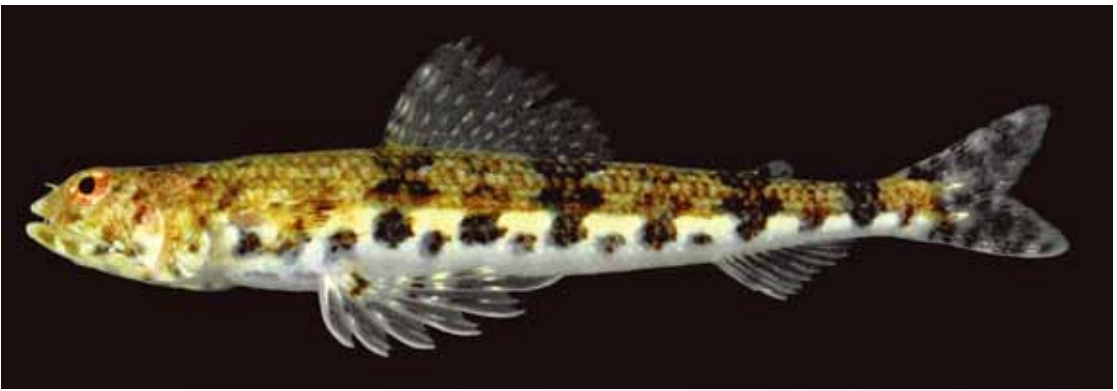
分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 マダラエソとの比較は上記参照。

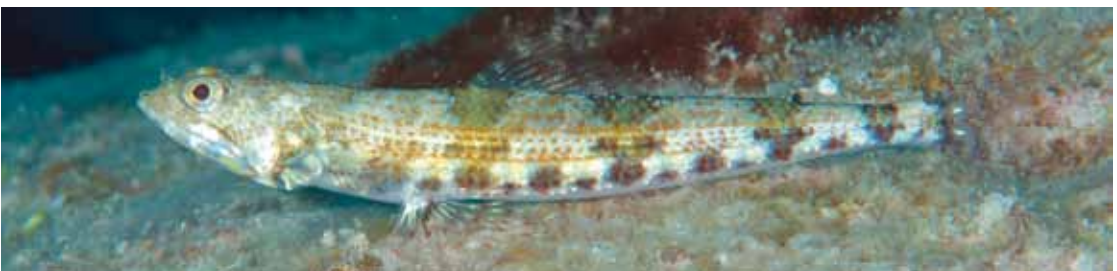
(笹木大地)



■ ウチウミマダラエソ *Saurida nebulosa* KAUM-I. 51326, 135.3 mm SL



■ ニテンエソ *Synodus binotatus* KAUM-I. 41145, 65.7 mm SL



■ ニテンエソ *Synodus binotatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

ヒメ目 エソ科 アカエソ属

ニテンエソ*Synodus binotatus*
Schultz, 1953

形態 背鰭 12-14；臀鰭 8-10；胸鰭 12；腹鰭 8；側線有孔鱗 52-56；側線上方鱗 3 1/2。体は細長い円筒形。吻はやや長く、吻端は丸い。前鼻孔後縁の皮弁は細長い。下顎先端に1対の犬歯状歯がある。先端

付近の口蓋骨歯は後方よりも大きい。舌上歯はよく発達する。胸鰭後端は背鰭始部と腹鰭始部を結んだ線に達するか越える。

色彩 色彩は与論島産の標本に基づく。体側背面は褐色、腹面は白色。体側正中線よりやや下方に黒色の斑紋が大小交互に並ぶ。このうち大型の4斑紋は体側背面まで伸長する。吻背面に2つの小さな黒点がある。尾鰭に明瞭な黒色の斑模様がある。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では与論島を含む琉球列島から記録がある。

備考 本種は吻背面に2つの小黒点が見られること、側線上方鱗数が3 1/2であること、先端付近の口蓋骨歯が後方より大きいこと、鰓蓋上部に黒斑をもたないこと、胸鰭後端が背鰭始部と腹鰭始部を結んだ線に達するか越えることにより日本産同属他種から区別される。

(笹木大地)

■ ミナミアカエソ *Synodus dermatogenys* KAUM-I. 51374, 104.0 mm SL■ ミナミアカエソ *Synodus dermatogenys* KAUM-I. 55167, 79.2 mm SL

ヒメ目 エソ科 アカエソ属

ミナミアカエソ*Synodus dermatogenys*
Fowler, 1912

形態 背鰭 10-13；臀鰭 8-10；胸鰭 11-13；側線有孔鱗 56-64；側線上方鱗 5 1/2。体は細長い円筒形。吻はやや長く、吻端は丸い。前鼻孔後縁の皮弁は細い。下顎先端付近に1対の犬歯状歯がある。先端付近の口蓋骨歯は後方よりも大きい。

舌上歯はよく発達する。

色彩 体色は変異に富む。体側正中線に沿って8-9個の黒色や赤色などの斑紋が並ぶ。胸鰭を除いた各鰭の鰭条には、赤色や黄色などの斑点が並ぶ。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は同属のアカエソ *S. ulae* Schultz, 1953 とヒトスジエソ *S. variegatus* (Lacepède, 1803) に酷似するが、前者とは背鰭軟条数 10-13（アカエソでは 13-14）、側線鱗数 56-64（60-66）、前鼻孔の皮弁が細い（幅広くへら状）などの特徴により区別される。後者とは体側中線に褐色縦帯がみられない（ヒトスジエソでは明瞭な褐色縦帯がみられる）ことから容易に区別される。

(笹木大地)

■ イレズミオオメエソ *Synodus oculus* KAUM-I. 51373, 108.6 mm SL

ヒメ目エソ科アカエソ属

イレズミオオメエソ

Synodus oculus
Cressey, 1981

形態 背鰭 12-13；臀鰭 9-11；胸鰭 12；腹鰭 8；側線有孔鱗 54-57；側線上方鱗 3 1/2；脊椎骨数 55-56。体は細長い円筒形である。吻は短く、側面から見た吻端は尖る。眼は大きい。前鼻孔後縁の皮弁は三角形であり、その幅は高さにはほぼ等しい。下顎先端に 1 対の犬歯状歯がある。口蓋骨歯はすべてほぼ同大で、両顎歯よりも大きい。舌上歯はよく発達する。

色彩 色彩は与論島産の標本に基づく。吻、頭部背面、体背面および体背側面は赤みがかった白色地に淡朱色斑が見られる。頬、鰓蓋および体腹側面はわずかに赤みがかった白色で臀鰭始部より後方は薄桃色。瞳孔の周囲は朱色。背鰭、臀鰭、尾鰭の鰭条は淡朱色で鰭膜は透明である。背鰭の鰭条および鰭膜の先端は白く縁取られる。腹鰭は鰭条、鰭膜ともに白色。尾鰭の下葉先端は白色。

分布 南シナ海、小スンダ列島、オーストラリア北岸、アンダマン海、ソマリア。国内では小笠原諸島と与論島から標本が得られている。

備考 本種は小笠原諸島から標本が記録されたことから Senou et al. (1995) により標準和名が提唱された。笹木ほか (2013) は本種が鹿児島県と与論島から記録されたことから、本種が西太平洋熱帯域から北では琉球列島や小笠原諸島まで広く分布することを示唆した。

与論島から得られた標本では、Senou et al. (1995)、Yamada (2002)、山田・柳下 (2013) が本種の特徴とした生鮮時の眼から後方へ向かう 3 赤色線は顕著ではなかった。しかし、日本産同属他種とは吻端の形状、口蓋骨歯、および体の色彩から容易に区別される。

(笹木大地)

■ ヒトスジエソ *Synodus variegatus* KAUM-I. 51473, 88.8 mm SL

ヒメ目エソ科アカエソ属

ヒトスジエソ

Synodus variegatus
(Lacepède, 1803)

形態 背鰭 11-13；臀鰭 8-11；胸鰭 12-13；側線有孔鱗 60-63；側線上方鱗 5 1/2。体は細長い円筒形。吻はやや長く、吻端は丸い。前鼻孔後縁の皮弁は三角形で、その幅は高さにはほぼ等しい。下顎先端

付近に 1 対の犬歯状歯がある。先端付近の口蓋骨歯は後方よりも大きい。舌上歯はよく発達する。

色彩 体側背面は赤色、腹面は赤みがかった白色。体側中線に沿って褐色の縦帯がある。胸鰭を除いた各鰭の鰭条には赤色の斑紋が並ぶ。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、相模湾以南の

太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はアカエソ *S. ulae* Schultz, 1953 とミナミアカエソ *S. dermatogenys* Fowler, 1912 に酷似するが、体側正中線に明瞭な褐色縦帯がみられること（後者 2 種では褐色縦帯がみられない）から容易に区別される。

(笹木大地)



■ ホクトハダカ *Benthoosema fibulatum* KAUM-I. 39709, 53.8 mm SL

ハダカイワシ目 ハダカイワシ科 ソコハダカ属

ホクトハダカ

Benthoosema fibulatum
(Gilbert & Cramer, 1897)

形態 背鰭 12; 臀鰭 20; 胸鰭 14; 腹鰭 8; 鰓耙 6+1+16=23。頭はやや大きく、頭長は体長の3分の1。吻は短く、吻端は上顎前端に等しい。眼は大きく、眼径は体長の8分の1。鰓蓋の後端は尖る。臀鰭基底は長く、背鰭基底の約1.5倍。胸鰭は長く、臀鰭起部をわずかに越える。眼下発

光器はない。胸鰭上発光器は胸鰭基底上端よりも側線に近い。腹鰭上発光器、第3肛門上発光器および体側後部発光器は、すべて側線下に位置する。体側後部発光器は1個。腹部発光器は4個。尾鰭前発光器は2個で、第2発光器は側線に近い。尾柄上部発光腺は短く、尾鰭に近い。

色彩 体の背面と腹面、尾鰭基底は黒色。虹彩、眼下域、頬部、鰓蓋、側線鱗および発光器は銀白色。

分布 インド洋から中央太平洋の温帯から

熱帯域に分布する。国内では熊野灘以南の南日本から琉球列島、東シナ海に分布する。

備考 本項は与論島産の1標本に基づく。ソコハダカ属の雄には尾柄上部発光腺、雌には尾柄下部発光腺があるが、本種の雌雄はともに両発光腺をもつ。本標本では尾柄部腹面が破損しており、尾柄下部発光腺の存在は確認できなかった。本標本は雌の抱卵個体である。本種は中深層遊泳性で、日周鉛直移動を行う。

(遠藤広光)



■ アラハダカ *Myctophum asperum* KAUM-I. 58304, 69.9 mm SL

ハダカイワシ目 ハダカイワシ科 ススキハダカ属

アラハダカ

Myctophum asperum
Richardson, 1845

形態 背鰭 12-14; 臀鰭 17-20; 胸鰭 12-16; 腹鰭 8-9; 側線有孔鱗 38-41。体は細長く、体高は体長の21.3-24.4%。体側鱗は大きくて硬く、はがれにくい。雄は尾柄上部発光腺を備え、雌は尾柄下部

光腺を備える。

色彩 頭部背面および体背面は黒色。体側から体腹面は一様に銀色。背鰭、尾鰭、胸鰭、腹鰭および臀鰭の各軟条は白色、

鰭膜は透明。

分布 全世界の熱帯・亜熱帯海域に分布する。

備考 与論島北東部に位置する皆田海岸に打ち上がった1個体が採集された。左側の鰹にペンネラによる寄生を受けているのが観察された。

本種は日周鉛直移動を行うことが知られ

る。昼間は主に400 m以深に生息しているが、夜間は表層付近に移動し、小型甲殻類などを摂餌する。また、耳石の縁辺の成長率も夜間に大きいことが知られている。

(畑 晴陵)



ギンメダイ目 ギンメダイ科 ギンメダイ属

オカムラギンメ

Polymixia sazonovi
Kotlyar, 1992

形態 背鰭 V, 35; 臀鰭 IV, 16; 胸鰭 17; 腹鰭 I, 6; 側線上方横列鱗 12; 側線鱗 35; 鰹耙 3+1+7=11; 脊椎骨 13+15=28。体は長楕円形でよく側扁する。頭部はやや大きく、頭長は体長の35%。体を覆う櫛鱗は、三角状の扁平な小棘を多数備える。吻部、眼下骨、喉部と前鰹蓋骨の隅角部は無鱗。吻端は上顎先端より前方に突出しない。吻は寒天質で包まれず、その皮膚は肥厚し、微小皮弁で覆われる。両顎、前鋤骨、口蓋骨、内翼状骨および舌上には絨毛状の歯帯をもつ。喉部に1対のひげをもち、その長さは頭長の85%。背鰭第5棘は短く、頭長の14%。胸鰭はやや短く、体長の18%。胸鰭後端は、背鰭起部の直下をわずかに越え、腹鰭後端直上に達しない。尾柄は太く、尾鰭はよく発達する。

色彩 背側はやや黒みがかった灰青色、体側と腹側は銀白色。眼窩周辺、吻端、



■ オカムラギンメ *Polymixia sazonovi* KAUM-I. 51547, 339.0 mm SL

両顎は黒色。垂直鰭はほぼ一様に暗色で、背鰭の前縁から第5軟条付近までの上方、尾鰭後縁は黒色。生鮮時に胸鰭は一様に黒色、液浸下では灰色で後縁のみ黒色。腹鰭は黒色で、基底付近は白色。

分布 渥美半島沖、与論島沖、九州・パラオ海嶺からの採集記録がある。

備考 本項は与論島産の標本に基づく。本

標本は体長339 mmで、既知の標本の中では最大である(九州・パラオ海嶺産の標本では体長311 mm)。また、本標本の計数・計測形質や形態学的特徴は、*P. sazonovi* Kotlyar, 1992の原記載によく一致するが、生鮮時に胸鰭が一様に黒色であること、背鰭の前方や尾鰭の後縁が黒色であることで異なる。

(遠藤広光)

■ クロダラ *Laemonema robustum* KAUM-I. 56976, 266.0 mm SL

タラ目 チゴダラ科 イトヒキダラ属

クロダラ

Laemonema robustum
Johnson, 1862

形態 背鰭 6-54-55；臀鰭 50-51；胸鰭 29；腹鰭 2；側線鱗 147-150；鰓耙 4+13=17；脊椎骨 14+37-39=51-53。体は延長し、体高はやや高く、尾部では著しく側扁する。第1背鰭の基底は短く、第2鰭条は糸状に伸長する。第2背鰭と臀鰭の基底は長く、臀鰭の後端は背鰭後端より著しく前方に位置する。尾柄は細長く、尾鰭は小さい。腹鰭は伸長し、その後端は臀鰭起部をわずかに越える。頭長は体長の25.2-27.7%。吻は丸く、上顎は下顎より突出する。眼径は頭長の24.7-25.7%。下顎に1本のひげをもつ（写真個体は奇形で前後2本）。口は大きく、上顎後端は眼窩後縁直下を越える。両顎には不規則な円錐歯の狭歯帯を備え、上顎では3-5列、下顎では2-4列で、そのうち1-2列は肥大した犬歯状。鋤骨歯帯は小円形。口蓋骨歯がない。頭と体、垂直鰭と胸鰭の鰭膜の基部側半分は剥がれやすい円鱗で覆われる。吻前縁の無鱗域は狭い。喉部前方には円形の鱗域をもち（写真個体）、鰓膜は無鱗。腹部発光器がない。肛門は臀鰭起部からやや離れる。

色彩 生鮮時、頭と体は黒褐色で、頭部下面と鰓膜はやや白色。腹鰭は白色で、他の鰭は一樣に黒褐色で縁辺は赤味を帯びる（液浸時は白色）。両口唇は黒褐色。

■ クロダラ *Laemonema robustum* KAUM-I. 56956, 228.7 mm SL

分布 西太平洋、ハワイ諸島、東大西洋の水深210–1200 mからの記録がある。国内では与論島、神奈川県横浜（おそらく相模湾産）、九州・パラオ海嶺で採集された。

備考 本項は与論島東方沖の水深200–700 m間での籠漁で採集された2標本に基づく。本標本は下顎にひげをもつ、両眼窩幅が眼窩径より短い、各鰭条数、腹鰭の2鰭条が発達し伸長する、発光器がないことからイトヒキダラ属である。本属には12有効種が知られ、本種は両眼窩間隔が狭い（体長の3.0–7.0%）、第1鰓弓の上

枝の鰓耙数が2以上、背鰭と胸鰭の鰭条数（6, 25–31）、側線に筒状の変形鱗がない、腹鰭が中程度に伸長する（体長の19.6–35.2%）、背鰭と臀鰭後端に黒色斑をもたないことで他種と異なる（Meléndez & Markle, 1997）。日本周辺には、本種のほかにイトヒキダラ *L. longipes* Schmidt, 1938 とパラオイトヒキダラ *L. rhodochir* Gilbert, 1905 が分布する。前種とは両顎先端の位置（上顎が突出 vs. 下顎が突出）と胸鰭の鰭条数（25–30 vs. 15–18）により、後種とは各鰭条数（第2背鰭 50–57 vs. 61–66；臀鰭 47–54 vs. 58–63；胸鰭 25–30 vs. 22–24）、体高（体長の21.9–

27.7% vs. 15.2–19.4）と頭長（体長の24.9–29.9% vs. 22.2–24.9）などにより識別できる（Meléndez & Markle, 1997）。Meléndez & Markle (1997) は原記載以来報告のなかったクロダラ *L. modestum* Franz, 1910（おそらく相模湾産）とホテイトヒキダラ *L. filodorsale* Okamura, 1982（九州・パラオ海嶺産）を、東大西洋のマデイラ諸島沖を基産地とする *L. robustum* Johnson, 1862 の新参異名とみなしたが、本種が不連続な分布を示すことから、これら2種が有効種であるか再検討が必要であろう。

（遠藤広光）



■ チゴダラ属の一種 *Physiculus* sp. KAUM-I. 55972, 200.1 mm SL

タラムチゴダラ科チゴダラ属

チゴダラ属の一種

Physiculus sp.

形態 背鰭8–70；臀鰭77；胸鰭24；腹鰭5；側線鱗115；鰓耙3+8=11；脊椎骨14+41=55。体は延長し、尾部では著しく側扁する。第1背鰭基底は短く、鰭条は糸状に伸長しない。第2背鰭と臀鰭の基底は長い。尾鰭は小さい。頭長は体長の26.6%。吻は丸く、上顎は下顎よりやや突出する。眼径は頭長の22.5%。下顎先端に1本のひげをもつ。口は大きく、上顎後端は眼窩後縁直下に達する。両顎には同サイズの小円錐歯が密に並ぶ歯帯をもち、上顎の縫合部付近では9–10列、下顎では6–7列。前鋤骨と口蓋骨には歯がない。頭と体は円鱗で覆われ、吻前縁の無鱗域

はやや広い。喉部は中央の鱗域（本標本では脱落）以外は無鱗。鱗は剥がれやすい。腹部正中線上に小円形の1発光器をもち、腹鰭起部より後方に位置し、肛門にやや近い。

色彩 生鮮時、頭と体は茶褐色で、腹面は黒褐色。両口唇は明瞭な黒色帯で縁取られる。各鰭は尾鰭後縁を除き一様に暗い赤色で、胸鰭の腋部は黒色。発光器と肛門周辺は黒色。

分布 与論島北東沖の水深750–850 mでの籠漁で採集された。

備考 本項は与論島沖産の1標本に基づく（標準体長200.1 mm）。本標本は下顎にひげをもつ、第1背鰭鰭条が6本で伸長しない、各鰭の鰭条数、吻の無鱗域が広い、喉部に鱗域がある、腹部発光器とその位

置、鰭が一様に赤色であることから、日本産のチゴダラ属6種のうち、アカチゴダラ *P. rhodopinnis* Okamura, 1982 とオシヤレチゴダラ *P. yoshidae* Okamura, 1982 に類似するが、発光器が腹鰭起部より肛門に近い、背鰭下方が黒くない、両口唇が黒色帯で明瞭に縁取られることは、後種に一致する。しかし、本標本は両顎に小円錐歯の広歯帯をもち、上顎後端が眼窩後縁下に達することは、前種の特徴に一致する（後種では疎らな狭歯帯で外列歯が肥大し、上顎後端は眼窩後縁下に達しない）。さらに、本標本の特徴は、ヒレグロチゴダラ *P. nigripinnis* Okamura, 1982 にも概ね一致するが、鰭が一様に赤色、喉部の一部と峡部がすべて鱗に覆われることで異なる（鰭が黒色、喉部と峡部前方は無鱗）。

（遠藤広光）



アシロ目 カクレウオ科 カクレウオ属

アマミカクレウオ

Encheliophis vermicularis
Müller, 1842

形態 腹椎骨 20–23。体はきわめて細長く、強く側扁する。頭部は小さく、全長の約 19%。主上顎骨は皮膚に覆われ露出しない。吻の先端はやや尖る。上顎歯は尖り、外列は内列に比べ大きく犬歯状。内列ではやや小さい円錐歯。下顎歯および口蓋骨歯は円錐歯で 1 列。鋤骨歯は大きく、やや湾曲する。胸鰭、腹鰭はない。背鰭始部は臀鰭始部よりはるかに後方に位置する。背鰭、臀鰭は尾鰭と連続する。



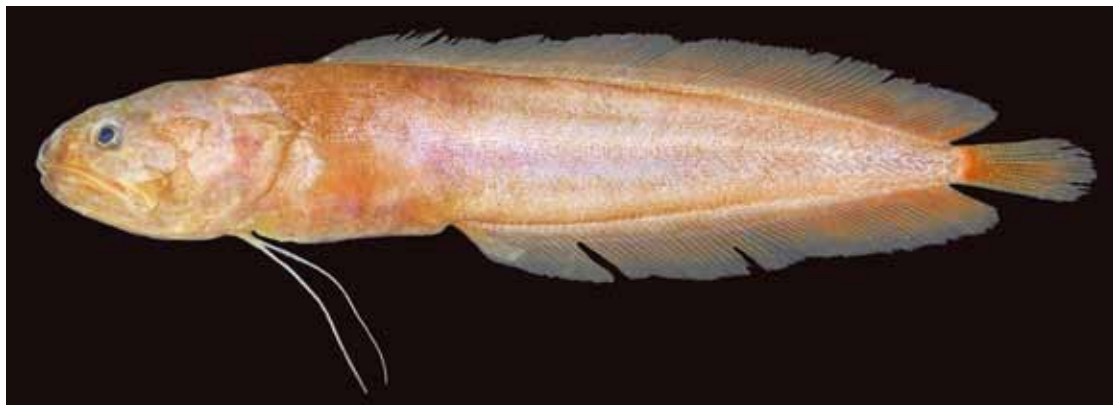
■ アマミカクレウオ *Encheliophis vermicularis* KAUM-I. 39778, 98.3 mm SL

色彩 体は全体に半透明で淡黄色。腹膜と尾部後半には黒色素胞が散在し、尾部先端は褐色。

備考 本種は浅海性の種で、ニセクロナマコ、パイカナマコ、ハネジナマコなどを宿種として利用する。

(日比野友亮)

分布 インド・太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では琉球列島から知られる。



■ リュウキュウイタチウオ属の一種 1 *Alionematichthys* sp. 1 KAUM-I. 55129, 33.6 mm SL

アシロ目 フサイタチウオ科 リュウキュウイタチウオ属

リュウキュウイタチウオ属の一種 1

Alionematichthys sp. 1

形態 背鰭 87；臀鰭 66；胸鰭 23；腹鰭 1；尾鰭 $i+14+i$ ；総耙 $3+13=16$ ；脊椎骨 $11+33=44$ 。体は延長し、尾部に向かい著しく側扁する。頭はやや細く、頭長は体長の 28.0%。前鼻孔は管状で、上唇からやや離れる。眼はやや大きく、眼径は体長の 3.2%。前鰓蓋骨上端に 1 個の感覚孔がある。主鰓蓋骨棘は 1 本。口は大きく、上顎長は体長の 13.1%。両顎、前鋤骨と

口蓋骨には微小な円錐歯からなる歯帯をもつ。上顎歯の縫合部付近と下顎歯の最内列にはやや大きな犬歯状歯がまばらに並ぶ。尾鰭長は体長の 15.1%。体は円鱗で覆われ、頭部は前鰓蓋骨上の頬部 (6–7 列) を除き無鱗。背鰭の第 1 鰭条は第 6 椎体直上に、臀鰭の第 1 鰭条は背鰭第 20 鰭条および第 13 椎体の直下に位置する。

色彩 生鮮時、体、垂直鰭と胸鰭は一樣に茶色。腹鰭は基部付近が茶色で、他は白色。

分布 与論島。

備考 本項は与論島産の 1 標本に基づく。本標本は雌の若魚で、計数・計測形質、体色や前鰓蓋上端に感覚孔を 1 つもつ、頬部の被鱗状態などの特徴は、リュウキュウイタチウオ *A. riukiensis* (Aoyagi, 1954) とハダカリリュウキュウイタチウオ *A. piger* (Alcock, 1890) のものにほぼ一致する。ただし、本標本の胸鰭の鰭条数 (23) は、ハダカリリュウキュウイタチウオの変異幅 (19–22) から 1 本外れ、リュウキュウイタチウオの変異幅 (19–23) に含まれる (Møller & Schwarzhans, 2008)。しかし、これら 2 種の識別的特徴となる主鰓蓋骨棘上の鱗は、本標本では脱落しているか無鱗か判断が困難なため、本属の一種とした。(遠藤広光)



■ リウキュウイタチウオ属の一種 2 *Alionematchthys* sp. 2 KAUM-I. 55140, 40.1 mm SL

アシロ目フサイタチウオ科リウキュウイタチウオ属

リウキュウイタチウオ属の一種 2

Alionematchthys sp. 2

形態 背鰭 85；臀鰭 71；胸鰭 20–21；腹鰭 1；尾鰭 $i+14+i$ ；鰓耙 $3+11=14$ ；脊椎骨 $11+34=45$ 。体は延長し、尾部に向かい著しく側扁する。頭はやや細く、頭長は体長の 26.2%。前鼻孔は管状で、上唇から離れる。眼はやや大きく、眼径は体長の 2.9%。前鰓蓋骨上端に 1 個の感覚孔をもつ。主鰓蓋骨棘は 1 本。口はやや大きく、上顎長は体長の 11.5%。両顎、鋤骨には微小な円錐歯からなる歯帯をもつ。上顎歯の縫合部付近と下顎歯の最内列にはやや大きな犬歯状歯が疎らに並び、下

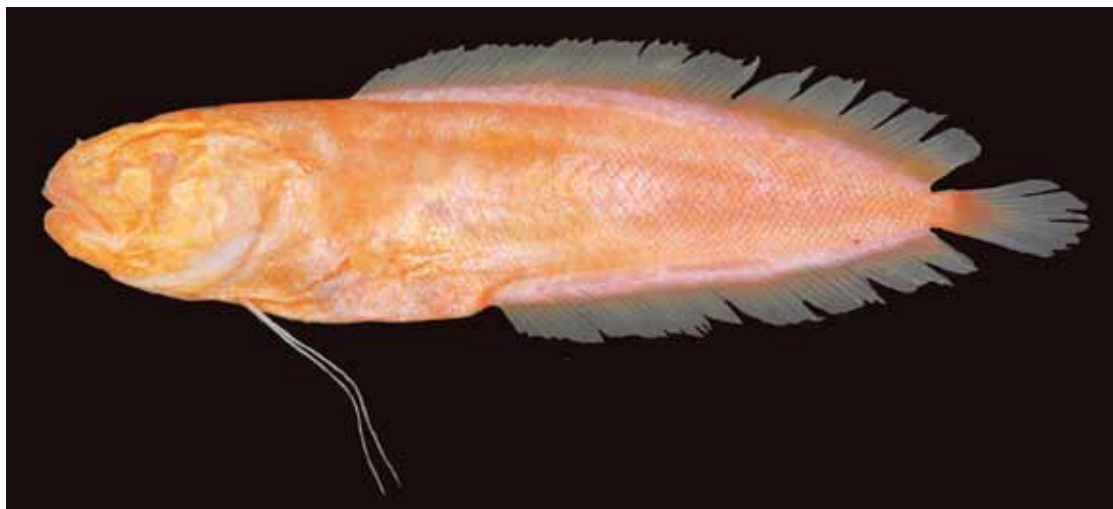
顎では後方に向かい大きくなる。鋤骨の内列外側には数本の、口蓋骨には不規則 2 列のやや大きな円錐歯がある。吻端と下顎先端下面付近の皮膚には微小な突起が疎らにある。尾鰭長は体長の 9.2%。体は円鱗で覆われ、頭部は前鰓蓋骨上の頬部 (6–7 列) と主鰓蓋骨棘上を除き無鱗。背鰭の第 1 鰭条は第 7 椎体直上に、臀鰭の第 1 鰭条は背鰭第 19 鰭条および第 13 椎体の直下に位置する。

色彩 生鮮時、頭と体は茶色でやや黄色みを帯びる。垂直鰭、尾柄付近は黄色みを帯びた橙色。胸鰭は一樣に茶色。尾鰭基底付近は橙色。腹鰭は白色。液浸時、体は淡褐色で、頭部下面と鰭は白色。

分布 与論島。

備考 本項は与論島産の 1 標本に基づく。本標本は雌の若魚で、その計数計測形質、体色や前鰓蓋上端に感覚孔を 1 つもつ、頬部の被鱗状態などの特徴は、リウキュウイタチウオ *A. riukiensis* (Aoyagi, 1954) とハダカリウキュウイタチウオ *A. piger* (Alcock, 1890) のものにほぼ一致する (Møller & Schwarzhans, 2008)。しかし、本標本は吻端と下顎下面先端付近に微小な皮弁をもつが、両種に比べると疎らである。また、本標本の臀鰭の鰭条数 (71) は、前種の変異幅から 1 本外れ (55–70、後種では 59–72)、尾椎骨数 (34) と脊椎骨数 (45) は前種の変異幅から 1 個外れる (29–33 と 41–44、後種では 29–34 と 40–45)。主鰓蓋骨棘上の鱗は脱落しているか判断が困難なため、本属の一種とした。

(遠藤広光)



■トゲイタチウオ *Diancistrus erythraeus* KAUM-I. 55128, 46.4 mm SL

アシロ目 フサイタチウオ科 サンゴタチウオ属

トゲイタチウオ

Diancistrus erythraeus
(Fowler, 1946)

形態 背鰭 70；臀鰭 55；胸鰭 20–21；腹鰭 1；尾鰭 $i+14+i$ ；鰓耙 $4+10=14$ ；脊椎骨 $10+31=41$ 。体は延長し、尾部に向かい著しく側扁する。頭部は丸みを帯び、やや幅広く、頭長は体長の 29.1%。前鼻孔は管状で、後鼻孔より上唇に近い。眼は小さく皮下に埋没し、眼径は体長の 1.4%。前鰓蓋骨上端の感覚孔は 1 個。主鰓蓋骨棘は 1 本でやや太い。口は大きく、上顎長は体長の 14.4%。両顎には微小な円錐歯の歯帯をもつ。下顎歯帯の最内列には犬歯状歯がまばらに並び、後方へ向

かい次第に大きくなる。鋤骨と口蓋骨には、1–3 列の円錐歯が並ぶ。背鰭と臀鰭の基底付近は皮膚に覆われる。腹鰭は伸長し、体長の 28.7%。体は円鱗で覆われ、頭部は前鰓蓋骨上の頬部を除き無鱗。背鰭の第 1 鰭条は第 6 椎体の直上に、臀鰭の第 1 鰭条は背鰭第 18 鰭条および第 13 椎体の直下に位置する。

色彩 生鮮時、体は一様に淡橙色。

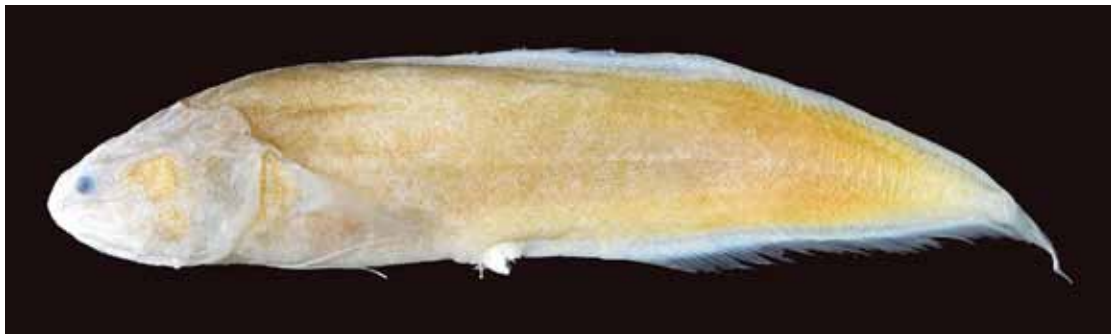
分布 フィリピン諸島と奄美群島以南の琉球列島から標本に基づく記録がある。

備考 本項は与論島産の 1 標本に基づく。本属魚類にはインド・西太平洋のサンゴ礁浅海域に分布する 3 未記載種を含む 30 種が知られ、琉球列島からはトゲ

イタチウオ、サンゴイタチウオ *D. fuscus* (Fowler, 1946)、ランドールイタチウオ *D. jackrandalli* Schwarzhans, Møller & Nielsen, 2005、そして未記載種 *Diancistrus* sp. 1 が報告された (Schwarzhans et al., 2005)。

本標本の尾椎骨数 (31) は既知の変異幅 (28–30) より 1 個多い。また、フサイタチウオ族では雄の交接器の形態が重要な分類形質となるが、本種の雌は背鰭と臀鰭の鰭条数が少ない、脊椎骨数が少ない、眼が小さい (体長の 1.2–1.9%)、頬部に鱗域をもつ、主鰓蓋骨上方に鱗がない、体側鱗は小さい (体長の 2% 以下)、そして体が赤みを帯びることにより本属他種と識別される。

(遠藤広光)



■ サンゴイタチウオ *Diancistrus fuscus* KAUM-I. 55178, 50.1 mm SL (preserved specimen)

アシロ目 フサイタチウオ科 サンゴイタチウオ属

サンゴイタチウオ

Diancistrus fuscus
(Fowler, 1946)

形態 背鰭 79–85；腎鰭 64–67；胸鰭 18–20；腹鰭 1；尾鰭 i+14+i；鰓耙 14–17；脊椎骨 11+32–33=43–44。体は延長し、尾部に向かい著しく側扁する。頭はやや細く、頭長は体長の 24.5–26.6%。前鼻孔は管状で、後鼻孔より上唇に近い。眼はやや大きく、眼径は体長の 2.6–2.9%。前鰓蓋骨上端の感覚孔は 1 個。主鰓蓋骨棘は 1 本。口は大きく、上顎長は体長の 11.8–14.4%。両顎には微小な円錐歯の歯帯をもつ。上顎歯の縫合部付近と下顎歯の最内列には大きな犬歯状歯がまばらに

並び、下顎では後方へ向かい次第に大きくなる。鋤骨と口蓋骨には 2–3 列の円錐歯が並ぶ。体は円鱗で覆われ、頭部は頬部 (5–6 列) と主鰓蓋骨棘の上方 (2 列に並ぶ 3–7 枚の小鱗) を除き無鱗。背鰭と腎鰭の基底付近は皮膚に覆われる。背鰭の第 1 鰭条は第 6–7 椎体の直上に、腎鰭の第 1 鰭条は背鰭の第 20–21 鰭条および第 13 椎体の直下に位置する。雄の外側擬交接着器 (OP) は L 字状の鉤型、内側擬交接着器 (IP) は瘤状で OP の前方やや内縁に接着する。

色彩 アルコール液浸時では、体は一様に淡褐色で、背鰭と腎鰭の基底付近は暗褐色で、その他の鰭は白色。

分布 フィリピン諸島、台湾南部、奄美群

島以南の琉球列島。

備考 本項は与論島産の 5 標本に基づく (標準体長 46.6–51.0 mm)。本種は脊椎骨数、背鰭と腎鰭の鰭条数、背鰭第 1 鰭条の位置 (多くは第 6 椎体上)、頬部と主鰓蓋骨棘の上方の鱗の状態、雄の交接着器の形状などの形質の組み合わせにより、同属他種と識別できる。

また、本種は脊椎骨数と眼径 (43–45、体長の 2.4–3.4%) により、日本に分布するトゲイタチウオ *D. erythraeus* (Fowler, 1946) (39–41、1.2–1.9%) とランドールイタチウオ *D. jackrandalli* Schwarzahns, Møller & Nielsen, 2005 (40–41、1.6–2.1%) から区別される (Schwarzahns et al., 2005)。

(遠藤広光)



■ サンゴイタチウオ属の一種 *Diancistrus* sp. KAUM-I. 55174, 43.3 mm SL (preserved specimen)

アシロ目 フサイタチウオ科 サンゴイタチウオ属

サンゴイタチウオ属の一種

Diancistrus sp.

形態 背鰭 73；腎鰭 54；胸鰭 19–20；腹鰭 1；尾鰭 i+14+i；鰓耙 14；脊椎骨 11+32=43。体は延長し、尾部に向かい著

しく側扁する。頭はやや小さく、頭長は体長の 24.8%。前鼻孔は管状で、後鼻孔より上唇に近い。眼径は体長の 2.2%。前鰓蓋骨上端の感覚孔は 1 個。主鰓蓋骨棘は 1 本。上顎長は体長の 11.0%。両顎には微小な円錐歯の歯帯をもつ。上顎歯の縫合部付近と下顎歯の最内列には大きな犬歯状歯がまばらに並び、下顎では後方へ向かい次第に大きくなる。鋤骨と口蓋骨に

は 1 列の円錐歯をもち、鋤骨には 3 本のやや大きな犬歯状歯をもつ。腹鰭は峡部に近く、腹鰭と腎鰭起部間の長さは体長の 31.2%。背鰭と腎鰭の下方は皮膚に覆われる。体は円鱗で覆われ、頭部は頬部 (6–7 列、19–23 枚) を除き無鱗。背鰭の第 1 鰭条は第 7 椎体の直上に、腎鰭の第 1 鰭条は背鰭の第 22 鰭条および第 15 椎体の直下に位置する。雄の交接着器の OP はや

や肥厚した耳たぶ型、IPは細長いへら状でOPの前方内側に付着し、後方へ伸びる。

色彩 液浸標本では、頭と体の上方は暗褐色、下方は明褐色。背鰭の基底付近は暗褐色で、その他の鰭は白色。

分布 与論島。

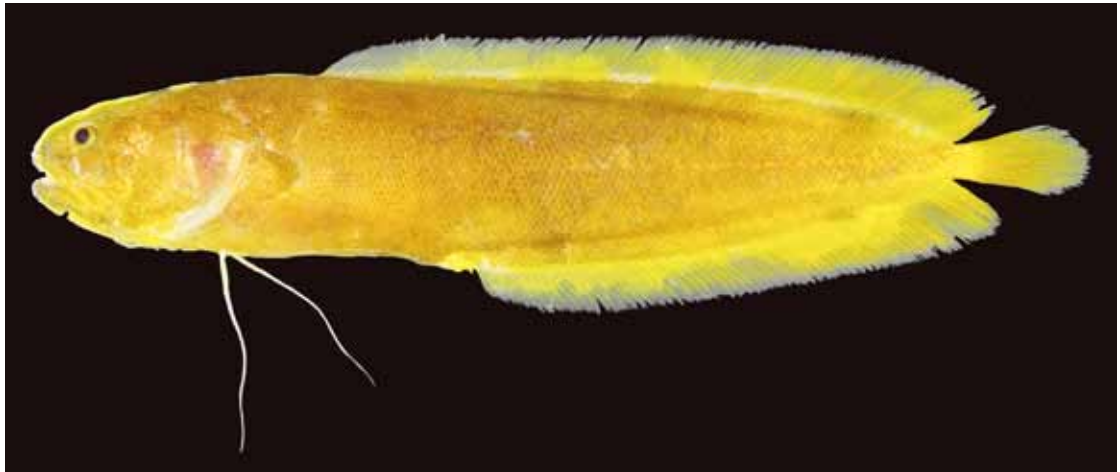
備考 本項は与論島産の1標本に基づく。

本種は日本に分布するサンゴイタチウオ *D. fuscus* (Fowler, 1946) とランドールイタチウオ *D. jackrandalli* Schwarzahns, Møller & Nielsen, 2005 とは、背鰭と臀鰭の鰭条数 (73, 54 vs. 74 以上, 58 以上)、主鰓蓋骨棘上部の鱗 (ない vs. ある) により、トゲイタチウオとは脊椎骨数 (43 vs. 39–41) と眼径 (体長の 2.2% vs. 1.2–1.9%) が異なる。

また、Schwarzahns et al. (2005) が報

告した *Diancistrus* sp. 1 とは背鰭鰭条数 (83–89) が大きく異なる。さらに、計数と計測形質から、本種は本属のうちフィリピン諸島とインドネシアで採集された *D. machidai* Schwarzahns, Møller & Nielsen, 2005 の特徴に概ね一致する。しかし、原記載によると *D. machidai* の交接器の形態はサンゴイタチウオに似ており、本種とは異なる。

(遠藤広光)



■ アカネイタチウオ *Dinematichthys ilucoeteoides* KAUM-I. 55171, 51.1 mm SL

アシロ目 フサイタチウオ科 アカネイタチウオ属

アカネイタチウオ

Dinematichthys ilucoeteoides
Bleeker, 1855

形態 背鰭 83–85; 臀鰭 65–68; 胸鰭 21–22; 腹鰭 1; 尾鰭 $i+14+i$; 鰓耙 15–19; 脊椎骨 11+32–33=43–44。体は延長し、尾部に向かい著しく側扁する。頭はやや細く、頭長は体長の 25.3–28.9%。前鼻孔は管状で、上唇からやや離れる。眼径は体長の 2.9–3.1%。前鰓蓋骨上端と後頭部の感覚孔を欠く。主鰓蓋骨棘は1本。上顎長は体長の 11.6–13.6%。両顎には微小な円錐歯の歯帯をもつ。上顎歯の縫合部付近と下顎歯の最内列には大きな犬

歯状歯がまばらに並び、下顎では後方へ向かい次第に大きくなる。前鋤骨と口蓋骨には2–3列の円錐歯が並ぶ。体は円鱗で覆われる。頭部では前鰓蓋骨と主鰓蓋骨上の被鱗域が頭頂部まで広がり、前方部と下面は無鱗。背鰭の第1鰭条は第6椎体の直上に、臀鰭の第1鰭条は背鰭の第21–23鰭条および第13椎体の直下に位置する。

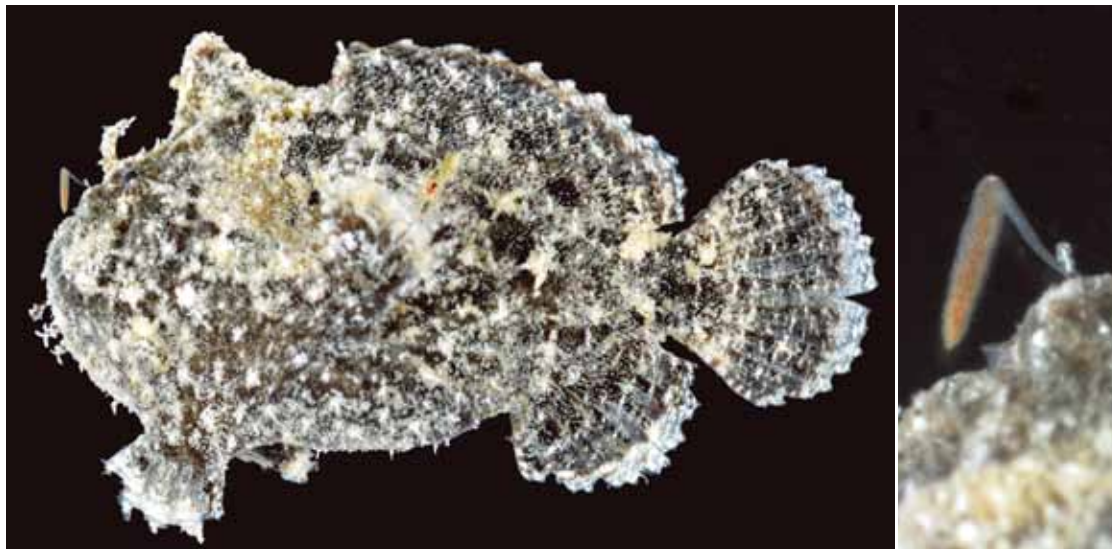
色彩 生鮮時、体は一樣に黄色みを帯びた明褐色。垂直鰭と胸鰭は黄色、腹鰭は白色。液浸時の体と鰭条は一樣に暗褐色で、腹鰭のみ白色。

分布 インド・西太平洋のサンゴ礁域に広く分布する。国内では奄美群島以南の琉

球列島から標本に基づく記録がある。

備考 本項は与論島産の5標本に基づく(標準体長 45.0–62.4 mm)。 *Alionematichthys* Møller & Schwarzahns, 2008 が *Dinematichthys riukuensis* Aoyagi, 1954 リュウキュウイタチウオをタイプ種として設立されたため、属の和名はリュウキュウイタチウオ属へ変更された(中坊・甲斐, 2013)。さらに、*Dinematichthys* は現在2種を含み、本種のみが日本に分布するため、属の和名は新たにアカネイタチウオ属とされた。本属は鰓蓋部と頭頂部が広く被鱗するため、外形がよく似るリュウキュウイタチウオ属とサンゴイタチウオ属とは容易に識別できる。生鮮時、写真標本の体は鮮明な黄色の粘液に覆われていた。

(遠藤広光)

■ カスリカエルアンコウ *Antennarius dorehensis* KPM-NI 30887, 21.0 mm SL

アンコウ目 カエルアンコウ科 カエルアンコウ属

カスリカエルアンコウ

Antennarius dorehensis
Bleeker, 1859

形態 背鰭 I-I-11-13; 臀鰭 7-8; 胸鰭 8-10; 腹鰭 1, 5; 尾鰭 9。体は卵円形で、側扁する。体表は小棘で被われる。吻上棘（イリシウム；背鰭第1棘）は背鰭第2棘よりも短く、その基部は上顎縫合部の後

方にあり、先端に先端が尖る単一の擬餌状体（エスカ）をもつ。背鰭第2棘は孤立し、後方に鰭膜が発達しない。胸鰭鰭条は不分枝。

色彩 体色は変異に富み、地色は白、灰、黒が多く、稀に黄色。背鰭軟条部基底後方に眼径大もしくはそれより小さな黒色眼状斑をもつ場合がある。

分布 インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域

に分布する。国内では伊豆諸島、奄美大島以南の琉球列島から記録されている。

備考 体長 5 cm。岸寄りのタイドプールなど本属魚類の中では最も浅い場所まで生息しており、水深 2.4 m 以浅から記録されている。イリシウムが短く、先端に単一のエスカをもつことで日本産の同属他種から容易に識別される。

(瀬能 宏)

アンコウ目 カエルアンコウ科 カエルアンコウ属

ヒメヒラタカエルアンコウ

Antennarius randalli
Allen, 1970

形態 背鰭 I-II, 12-13; 臀鰭 6-7; 胸鰭 9; 腹鰭 1, 5; 尾鰭 9。体は卵円形で、大いに側扁する。体表は細長い小突起で被われる。吻上棘（イリシウム；背鰭第1棘）は背鰭第2棘よりも短く、その基部は上顎縫合部の後方にあり、先端に糸状突起を備える擬餌状体（エスカ）をもつ。背鰭第2棘後方に鰭膜が発達し、鰭膜は背鰭第3棘に連結する。また、鰭膜の左右いずれかの側にエスカを収める凹みがある。胸鰭鰭条は不分枝。

色彩 体色は変異に富み、地色は茶、赤、黄、白など様々。眼の後下縁直後、胸鰭基部上方の体側、背鰭軟条部起部付近、尾鰭の上・下縁に白色小円形斑をもつ個体が多い。

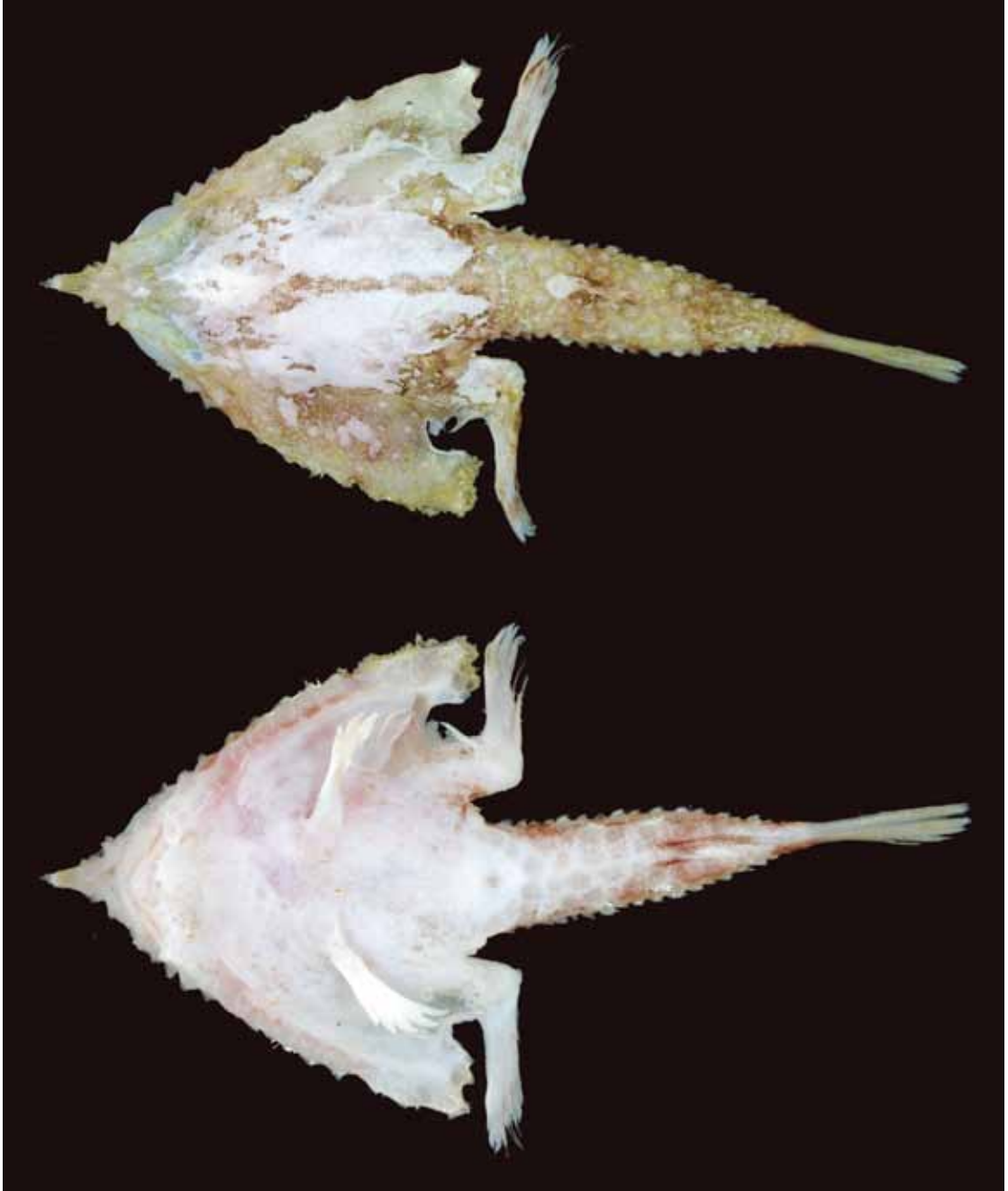
■ ヒメヒラタカエルアンコウ *Antennarius randalli* KAUM-I. 45919, 7.6 mm SL

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆海洋公園以南の南日本、琉球列島から記録されている。

備考 体長 2.1 cm までの小型種で、通常

は水深 8-34 m のサンゴ礁や岩礁のガレ場に生息するが、与論島ではタイドプールで採集された。背鰭第2棘の鰭膜が第3棘に連結することにより、日本産の同属他種から容易に識別される。

(瀬能 宏)



■ フウリュウオ *Malthopsis kobayashii* KAUM-I. 58485, 35.3 mm SL

アンコウ目 アカゲツ科 フウリュウオ属

フウリュウオ

Malthopsis kobayashii
Tanaka, 1916

形態 背鰭 5-6；臀鰭 4；胸鰭 11-12；腹鰭 1, 5。体は平たく背面からみて三角形で、骨質瘤状突起と小棘が散在する。吻

は鋭く尖る。鰓孔は胸鰭の基底付近に開く。額の窪みに背鰭棘が変形した誘引突起をもつ。前鰓蓋骨は側方に突出し、その先端に数本の小棘をそなえる。

色彩 体の背面は灰色から赤褐色で、数個の黒色輪紋が散在する；腹面は白色。

分布 西太平洋。国内では日本海（香住、

隠岐）、駿河湾から土佐湾の太平洋沿岸、東シナ海に分布する。

備考 水深 150-730 m に生息する。与論島からは沖合の水深 470-480 m から籠漁で採集された。

（松沼瑞樹）

■ コボラ *Chelon macrolepis* KAUM-I. 39796, 104.7 mm SL■ コボラ *Chelon macrolepis* KAUM-I. 39795, 99.4 mm SL

ボラ目 ボラ科 メナダ属

コボラ

Chelon macrolepis
(Smith, 1846)

形態 背鰭 IV-8-9; 臀鰭 III, 8-10; 胸鰭 15-18; 縦列鱗 30-34; 幽門垂 4-5。体は紡錘形で、前部は円筒形に近く、後方ほど側扁する。脂鱗は未発達。上唇下部は滑らかで、突起や隆起線などの付属物がない。下唇前縁は薄い縁状。涙骨下縁は曲がるが、欠刻はない。主上顎骨後端は口角よりもはるか後方へ達し、閉口時に露出する。幽門垂は不分枝。体は弱い楯鱗で被われる。尾鰭後縁は湾入する。

色彩 体背部は暗灰色あるいはオリーブ色で、体側から腹部にかけて銀白色。虹彩上部は橙色。胸鰭は灰色もしくはわずかに黄色みを帯び、基底に金色の横帯がある。

■ コボラ *Chelon macrolepis* KAUM-I. 39787, 61.1 mm SL

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では能登半島・宮城県万石浦以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から記録されている。

備考 胸鰭基底の横帯により近似種からの識別は容易。固定標本でも胸鰭基底の斑

紋は黒色素胞の集合として残るため、よい標徴となる。

主に内湾から河川汽水域にかけて生息するが、サンゴ礁域の浅所や港など、沿岸の様々な環境に出現する。

(瀬能 宏)



■ フウライボラ *Crenimugil crenilabis* KAUM-I. 39797, 126.2 mm SL



■ フウライボラ *Crenimugil crenilabis* FRLM 42767, 96.5 mm SL

ボラ目 ボラ科 フウライボラ属

フウライボラ

Crenimugil crenilabis
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 IV-8-9; 臀鰭 III, 8-9; 胸鰭 15-18; 縦列鱗 36-40; 幽門垂 8-10。体は紡錘形で、前部は円筒形に近く、後方ほど側扁する。脂脰は未発達。上唇下部全体に小乳頭状突起が密在し、下唇前縁はひだ状になる。涙骨下縁は曲がるが、欠刻はない。主上顎骨後端は口角よりもはるか後方へ達し、閉口時に溝の中に収納される。幽門垂は不分枝。体は後縁に腹を備える円鱗で被われる。尾鰭後縁は湾入。

色彩 体背部はやや青みを帯びた暗灰色あるいはオリーブ色で、体側から腹部にかけて銀白色。虹彩上部は橙色。胸鰭は黄色みを帯び、基底上端に明りょうな1黒色斑点がある。

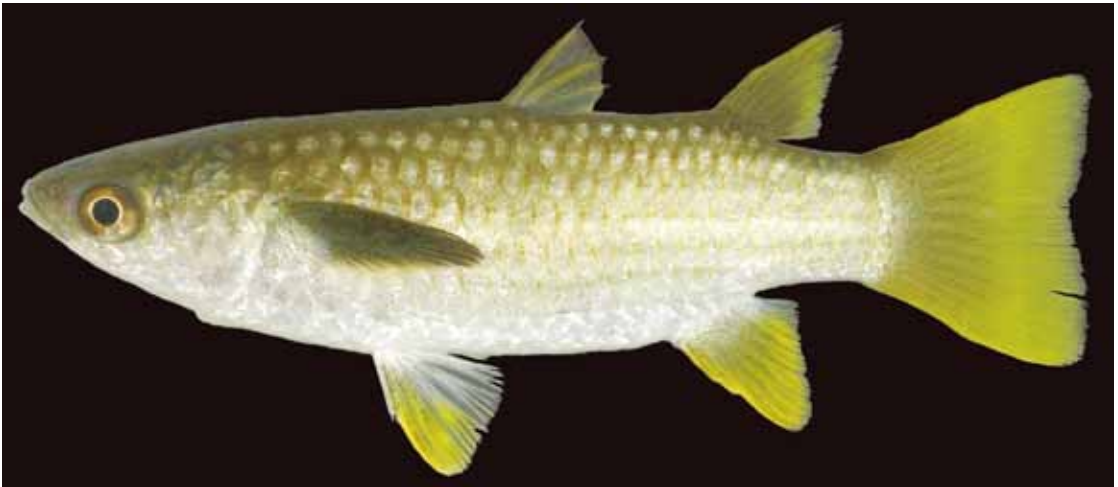


■ フウライボラ *Crenimugil crenilabis* KAUM-I. 39841, 66.8 mm SL

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、山口県(日本海)・千葉県小港以南の南日本、大隅諸島、琉球列島、尖閣諸島から記録されている。

備考 上・下唇に発達する付属物の形態により同定は容易である。成魚の出現は琉球列島に限られる。主にサンゴ礁域の浅所に生息する。九州以北では夏から秋にかけての高水温期に幼魚が岩礁性海岸に多数出現するが、無効分散と考えられる。

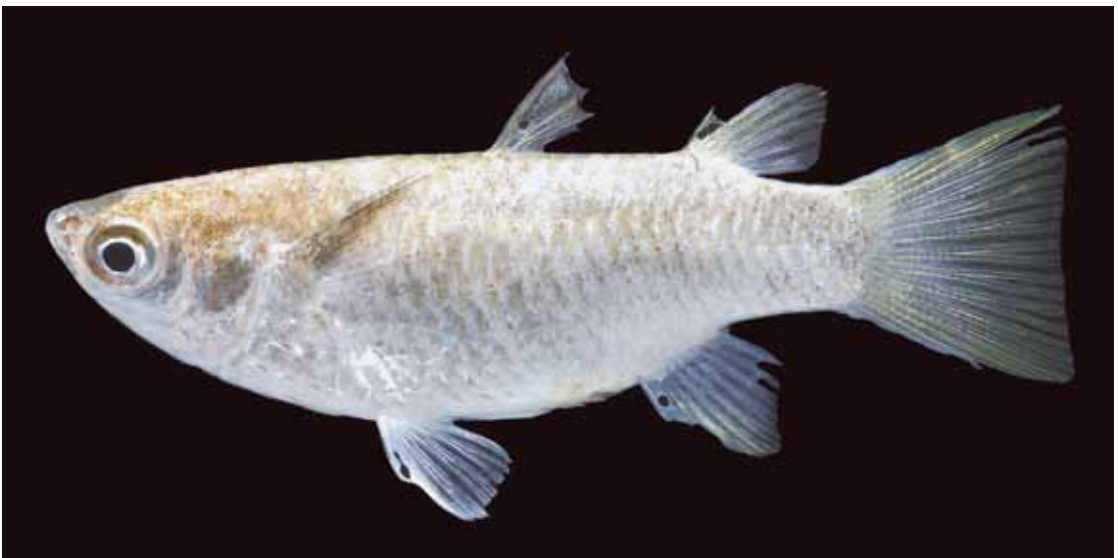
(瀬能 宏)



■ オニボラ *Ellochelon vaigiensis* KAUM-I. 39810, 86.5 mm SL



■ オニボラ *Ellochelon vaigiensis* KAUM-I. 39901, 77.8 mm SL



■ オニボラ *Ellochelon vaigiensis* FRLM 42807, 26.5 mm SL

ボラ目 ボラ科 オニボラ属

オニボラ

Ellochelon vaigiensis
(Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 IV-7-9; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 15-18; 縦列鱗 25-29。体はやや寸詰まりの紡錘形で、前部は円筒形に近く、後方ほど側扁する。脂脰は未発達。上唇下部は滑らかで、突起や隆起縁などの付属物がない。下唇前縁は薄い縁状。涙骨下縁はわずかに曲がる。主上顎骨後端は口角よりもはるか後方へ達し、閉口時に露出する。幽門垂は複雑に分枝する。体は弱い櫛鱗

に被われる。尾鰭後縁はほぼ截形だが、幼魚では湾入する。

色彩 体背部は暗灰色あるいはオリーブ色で、体側から腹部にかけて銀白色。虹彩上部は橙色。胸鰭は幼魚、成魚共に明瞭に黒い。幼魚は第1背鰭全体と第2背鰭の先端が黒く、腹鰭、臀鰭、尾鰭は鮮やかな黄色だが、成長に伴って背鰭の黒は薄れる。また、その他の鰭の黄色みも薄れて、黒ずみが増す。成魚の体側鱗は縁が暗灰色もしくは黒く、菱形の網目模様を形成する。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に

分布する。国内では三重県熊野以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から記録されている。

備考 特徴的な色彩と尾鰭の形状により同定は容易である。幼魚はサンゴ礁域の浅所に生息するが、成魚は内湾や河川汽水域に出現する。成魚の記録は琉球列島に限られる。九州以北では夏から秋にかけての高水温期に幼魚が岩礁性海岸に稀に出現するが、無効分散と考えられる。本種の接岸直後の幼魚は波打ち際に群れており、背部の白色斑が目立つ。危険を察知するとくるくと泳ぎ回るが、これは水面に浮いた水泡が風に吹かれる様に擬態したものと考えられている。

(瀬能 宏)

■ タイワンメナダ *Moolgarda seheli* FRLM 42789, 33.4 mm SL

ボラ目 ボラ科 タイワンメナダ属

タイワンメナダ

Moolgarda seheli
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 IV-8-9; 臀鰭 III, 8-9; 胸鰭 16-19; 縦列鱗 37-41; 幽門垂 7-9。体はやや細長い紡錘形で、前部は円筒形に近く、後方ほど側扁する。脂脰は未発達。上唇下部は滑らかで、突起や隆起縁などの付属物がない。下唇前縁は薄い縁状。涙骨下縁は曲がるが、欠刻はない。主上顎骨後端は口角よりもはるか後方へ達し、閉口時に溝の中に収納される。幽門垂は不分枝。体は後縁に膜を備える円鱗に被われる。第2背鰭は鎌状に伸長しない。尾鰭後縁は湾入する。

色彩 体背部はやや青みを帯びた暗灰色

あるいはオリーブ色で、体側から腹部にかけて銀白色。胸鰭は黄色みを帯び、基底上端に明瞭な1黒色斑点がある。

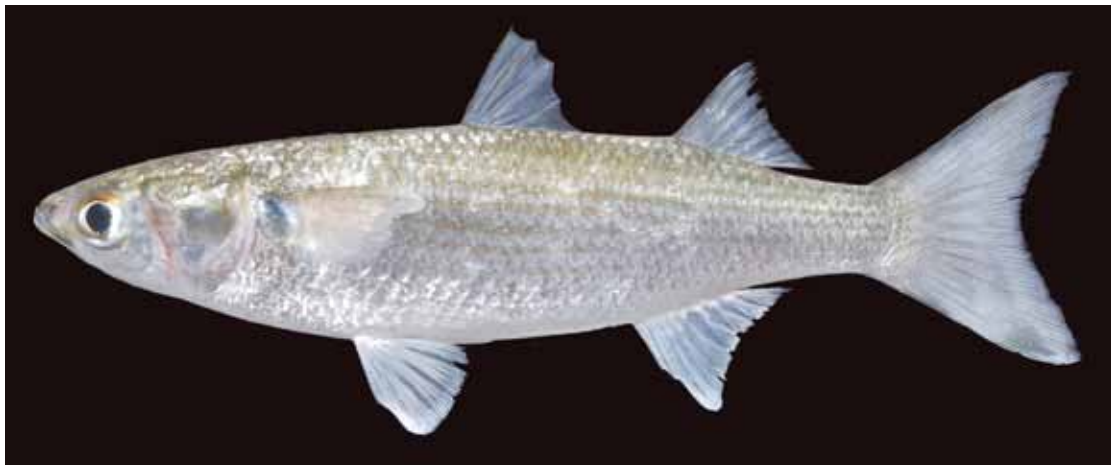
分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では駿河以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 タイワンメナダ属は、上唇や下唇に突起や隆起などの付属物がなく、主上顎骨後端が閉口時に溝の中に完全に収納されること、体側鱗は後縁に膜を備える円鱗であることなどが特徴である。本種の成魚は、脂脰が未発達で、縦列鱗数は37-41枚、第2背鰭は鎌状に伸長しないことにより、日本産の同属他種から容易に識別できる。本属には4種が知られるが、脂脰が未発達の体長3cm程度の幼魚の同定には、縦列鱗数、幽門垂の形態、頭部背面の被鱗域の性状、第1背鰭起部の位置の組み

合わせが有効である。すなわち、カマヒレボラ *M. pedaraki* (Valenciennes, 1836) は縦列鱗数がやや少なく33-37枚で、幽門垂が分枝すること（他種では分枝しない）、モンナンボラ *M. engeli* (Bleeker, 1858) は縦列鱗数が少なく31-34枚で、頭部背面の前端に比較的大きな鱗があり、被鱗域の前縁は前鼻孔よりも前に達すること（他種では達しない）、ナンヨウボラ *M. perusii* (Valenciennes, 1836) は縦列鱗数が少なく31-34枚で、第1背鰭起部は吻端と尾鰭基底のほぼ中間（他種では尾鰭基底に近い）に位置することで、それぞれ識別できる。

幼魚は、河川汽水域に多く、礁池内の波打ち際にも出現する。成魚は河口付近から隣接する内湾、サンゴ礁など、沿岸浅所に広く生息する。成魚の記録は琉球列島に限られる。九州以北では夏から秋にかけての高水温期に幼魚が河口付近に出現するが、無効分散と考えられる。

(瀬能 宏)



■ ボラ *Mugil cephalus cehalus* FRLM 42803, 115.8 mm SL



■ ボラ *Mugil cephalus cehalus* KAUM-I. 39856, 89.2 mm SL

ボラ目 ボラ科 ボラ属

ボラ

Mugil cephalus cehalus
Linnaeus, 1758

形態 背鰭 IV-8-9; 臀鰭 III, 8-9; 胸鰭 16-19; 縦列鱗 37-44; 幽門垂 2。体はやや細長い紡錘形で、前部は円筒形に近く、後方ほど側扁する。脂鱗は著しくよく発達し、成魚では瞳孔を被い、開口部はスリット状になる。上唇下部は滑らかで、突起や隆

起縁などの付属物がない。下唇前縁は薄い縁状。涙骨下縁は直線状。主上顎骨後端は口角の直後で終わる。幽門垂は不分枝。体は弱い櫛鱗に被われる。尾鰭後縁は湾入する。

色彩 体背部はやや青みを帯びた暗灰色あるいはオリーブ色で、体側から腹部にかけて銀白色。虹彩上部は橙色。胸鰭は灰色もしくはわずかに黄色みを帯び、基底上半に1青色斑がある。

分布 北緯51度から南緯42度の全世界の海域に分布する。ただし、熱帯アフリカ西部からモロッコ沿岸には分布しない。また、熱帯域に少ない。国内ではオホーツク海沿岸を除く全域から知られる。

備考 生鮮時であれば胸鰭基底の斑紋により同定は容易である。固定標本では涙骨の形状、縦列鱗数、臀鰭軟条数（大部分が8本）がよい標徴となる。幼魚は河川汽水域や隣接する内湾に生息するが、成長とともに沿岸へ生活の場を移す。
(瀬能 宏)

ボラ目 ボラ科 ワニグチボラ属

ワニグチボラ

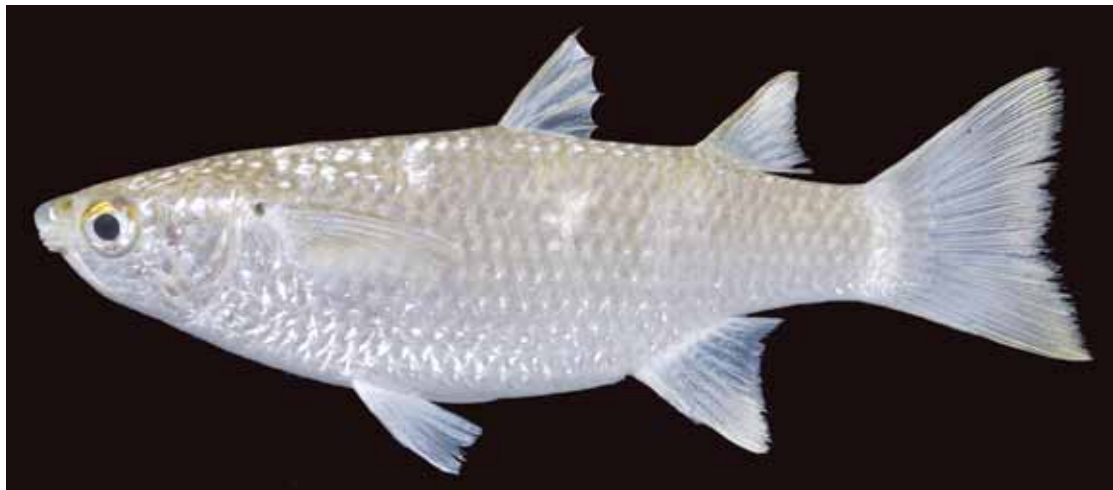
Oedalechilus labiosus
(Valenciennes, 1836)

形態 背鰭 IV-8-9; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 16-

18; 縦列鱗 32-37; 幽門垂 3-4。体はやや寸詰まりの紡錘形で、前部は円筒形に近く、後方ほど側扁する。脂鱗は未発達。上唇下部と中央を除く下唇前縁にやすり状の縁が発達する。涙骨下縁にV字形の欠刻が発達する。主上顎骨後端は口角よりもはるか後方へ達し、閉口時に露出する。幽

門垂は不分枝。体は弱い櫛鱗に被われる。尾鰭後縁はわずかに湾入する。

色彩 体背部は暗灰色あるいはオリーブ色で、体側から腹部にかけて銀白色。虹彩上部は橙色。胸鰭は灰色で、基底上半に明瞭な1黒色小斑点がある。



■ ワニグチボラ *Oedalechilus labiosus* FRLM 41763, 146.1 mm SL



■ ワニグチボラ *Oedalechilus labiosus* KAUM-I. 51324, 100.0 mm SL

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、兵庫県香住・千葉県小湊以南の南日本、琉球列島から記録されている。

備考 口唇や涙骨下縁の形態により同定は容易である。成魚の出現は琉球列島に限られる。九州以北では夏から秋にかけての高水温期に幼魚が岩礁性海岸に多数出現するが、無効分散と考えられる。接岸直後の幼魚は波打ち際に群れており、背部の白色斑が目立つ。危険を察知するとくるくと泳ぎ回るが、これは水面に浮いた水泡が風に吹かれる様に擬態したものと考えられている。

(瀬能 宏)



■ ワニグチボラ *Oedalechilus labiosus* FRLM 42708, 41.4 mm SL

■ ヤクシマイワシ *Atherinomorus lacunosus* KAUM-I. 51237, 113.8 mm SL■ ヤクシマイワシ *Atherinomorus lacunosus* FRLM 42798, 76.8 mm SL

トウゴロウイワシ目 トウゴロウイワシ科 ヤクシマイワシ属

ヤクシマイワシ

Atherinomorus lacunosus
(Forster, 1801)

形態 背鰭 IV-VII + I, 9-11; 臀鰭 I, 12-16; 胸鰭 I, 15-18; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 40-44; 背鰭前方鱗 17-21; 下枝鰓耙 18-24; 脊椎骨 41-46。体はやや側扁し体高は高い。体は円鱗でおおわれる。上顎後端は瞳孔の前縁に達する。眼は大きい。主上顎骨後端はわずかに下方に伸長する。前上顎骨上向突起は太短く、側方突起は前方と後方のいずれもひじょうに低

い。歯骨後端上縁は隆起しない。前鰓蓋骨隆起縁隅角部直上に凹部がある。

色彩 体背側面は緑色がかった灰色または淡い灰色でスケールポケットは黒い。体腹側面は銀白色で、黒点列が見られることもある。体側中央に淡い藍色または銀色の縦帯がありその上縁は黄色または淡い水色で縁どられ、後端は尾鰭基底直後まで伸びる。体側縦帯の下縁は臀鰭始部直上において体第 4 鱗列の中央部付近に達する。鰓蓋部に光沢がみられるが、位置や形状は個体や鮮度により異なる。吻端は黒ずむ。胸鰭先端は黒い。

分布 インド・西太平洋に分布。国内では三重県以南から標本が得られている。

備考 本種は同属のホソオビヤクシマイワシ *A. pinguis* (Lacepède, 1803) に似るが体側縦帯の幅が広く、下縁は体第 4 鱗列の中央付近に達すること(ホソオビヤクシマイワシでは第 3 鱗列の下端付近)や縦列鱗数が 40-44 と多いこと(38-41)などから区別される。

与論島では小河川の河口部や漁港内など淡水の影響を受ける場所から採集された。

(笹木大地)

トウゴロウイワシ目 トウゴロウイワシ科 ヤクシマイワシ属

ホソオビヤクシマイワシ

Atherinomorus pinguis
(Lacepède, 1803)

形態 背鰭 IV-VI + I, 9-11; 臀鰭 I, 12-16; 胸鰭 I, 15-17; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 38-41; 背鰭前方鱗 16-20; 下枝鰓耙 19-23; 脊椎骨 39-43。体はやや側扁し体高は高い。体は円鱗でおおわれる。上顎後端は瞳孔の前縁に達する。眼は大きい。主上顎骨後端はわずかに下方に伸長

する。前上顎骨上向突起は太短く、側方突起は前方と後方のいずれもひじょうに低い。歯骨後端上縁は隆起しない。前鰓蓋骨隆起縁隅角部直上に凹部がある。

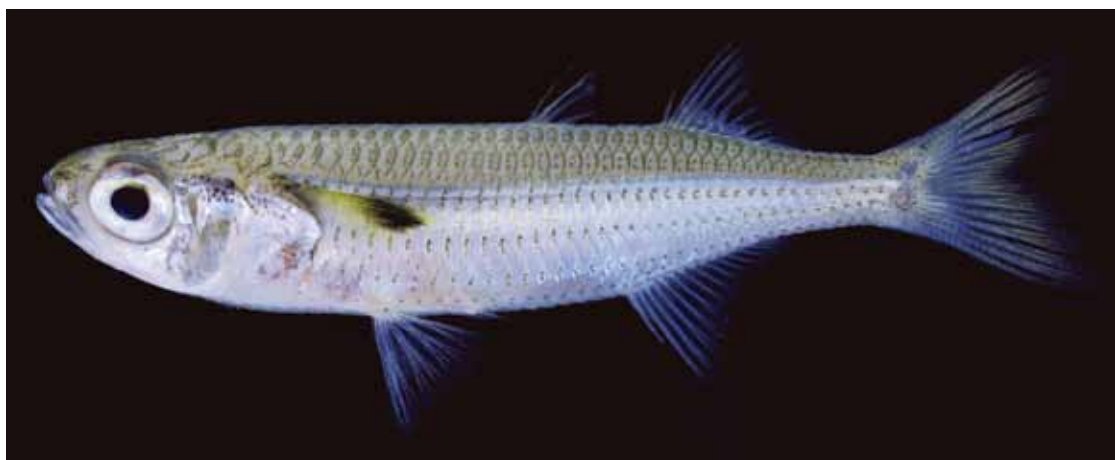
色彩 体背側面は緑色がかった灰色または淡い灰色でスケールポケットは黒い。体腹側面は銀白色で、黒点列が見られることもある。体側中央に淡い藍色または銀色の縦帯がありその上縁は淡い水色で縁どられ、後端は尾鰭基底直後まで伸びる。また、体側縦帯の下縁は臀鰭始部直上において体第 3 鱗列の下端付近に達する。鰓蓋部

に光沢がみられるが、位置や形状は個体や鮮度により異なる。吻端は黒ずむ。胸鰭先端は黒く、夜間では胸鰭上半分は黄色くなることもある。

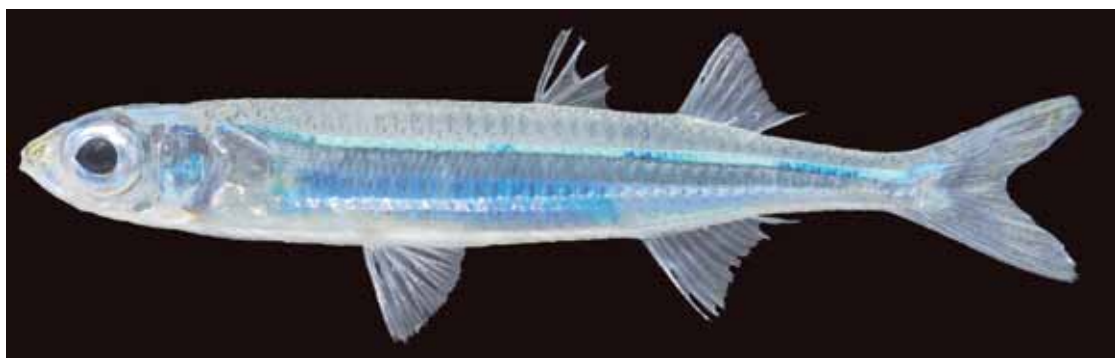
分布 インド・西太平洋に分布。国内からは大分県以南から標本が得られている。

備考 ヤクシマイワシ *A. lacunosus* (Forster, 1801) との比較は上記参照。与論島では本種はヤクシマイワシと同時に採集された。また、夜間に採集された個体の胸鰭は鮮やかな黄色であった。

(笹木大地)



■ ホソオビヤクシマイワシ *Atherinomorus pinguis* KAUM-I. 51236, 75.8 mm SL



■ オキナフトウゴロウ *Hypoatherina lunata* FRLM 42822, 62.0 mm SL



■ オキナフトウゴロウ *Hypoatherina lunata* KAUM-I. 41109, 49.2 mm SL

トウゴロウイワシ目 トウゴロウイワシ科 キンイソイワシ属

オキナフトウゴロウ

Hypoatherina lunata
Sasaki & Kimura, 2012

形態 背鰭 IV-VI + I, 8-9; 臀鰭 I, 10-12; 胸鰭 I, 14-17; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 37-41; 背鰭前方鱗 18-20; 下枝鰓耙 17-23; 脊椎骨 38-43。体は円筒形で体高は低い。体は円鱗でおおわれ、その後縁に切れ込みはない。眼は大きく、両眼間隔も広い。主上顎骨後端は下方に伸長する。前上顎骨上向突起は細長く、側方突起は前方と後方のいずれも大きい。歯骨後端上縁は大きく隆起する。前鰓蓋骨隆起縁隅角部直上に凹部がある。肛門は腹鰭先

端の直前に位置することが多く、腹鰭先端より後方に位置することはない。

色彩 体背側面は緑色がかった灰色、体腹側面は銀白色で、体側中央に淡い藍色の縦帯があり、その上縁は水色で縁どられる。尾鰭基底を大きく越え上葉まで伸びる。鰓蓋部に光沢がある。吻端は黒ずむ。眼の前方に水色の三日月形の斑紋があることが多い。

分布 与論島以南の琉球列島とインドネシアから標本が得られている。与論島の標本は本種の北限記録である。

備考 瀬能 (2000) などは本種の特徴を示す種に対して和名オキナフトウゴロウ

を用いていた。またその際の学名には *H. woodwardi* (Jordan & Starks, 1901) が適用されていた。しかし、*H. woodwardi* のタイプ標本を精査したところ、前上顎骨の形態や肛門の位置などの特に重要な形質について本種の特徴と一致しなかった。このため Sasaki & Kimura (2012) は本種を新種として記載し、本種の標準和名をオキナフトウゴロウとした。

本種は同属のミナギンイソイワシ *H. temminckii* (Bleeker, 1854) に似るが、肛門が腹鰭先端を越えないこと、眼が大きいこと、両眼間隔が広いこと、眼の前方に三日月形の斑紋があることにより区別される。本種は外洋に面した堤防や砂浜から採集されることが多い。(笹木大地)



■ トビウオ *Cypselurus agoo* KAUM-I. 45789, 279.8 mm SL

ダツ目トビウオ科ハマトビウオ属

トビウオ

Cypselurus agoo
(Temminck & Schlegel, 1846)

形態 背鰭 10-12；臀鰭 9-11；胸鰭 17-18；腹鰭 6；側線鱗 52-57；背鰭前方鱗 33-37；側線上方鱗 7；鰓耙 5-7+16-17=21-23；脊椎骨 30-31+16-17=46-48。体は細長く断面は逆三角形である。胸鰭は長く臀鰭基底後端付近に達する。胸鰭第3鰭条は不分枝（ただし、第1鰭条は極め

て短い）。腹鰭は長く臀鰭始部を越える。

色彩 体背面および体背側面は藍色、体腹側面は白色。胸鰭の鰭膜は透明で顕著な模様はみられない。

分布 ピーター大帝湾、朝鮮半島、中国黄海沿岸・浙江省、台湾に分布。国内からは噴火湾以南の各地に分布している。

備考 本種は胸鰭第3鰭条が不分枝であることから、すべての日本産同属他種と区別される。

Parin (1961a, b) は本種を *Cheilopogon*

属に移したが、Staiger (1965) は *Cheilopogon* 属をハマトビウオ属 *Cypselurus* の新参異名とした。藍澤・土居内 (2013) もこの見解にしたがっている。ここでは本種をハマトビウオ属に含めた。

Parin (1961a) は本種の新亜種として *Cheilopogon agoo rapanouiensis* を記載し、本種を基亜種 *Cheilopogon agoo agoo* とした。Parin (1996) などではこれら2亜種をそれぞれ種に格上げしている。以上のことから、本報告において学名は *Cypselurus agoo* (Temminck & Schlegel, 1846) とした。

(笹木大地)



■ アカトビ *Cypselurus atrisignis* KAUM-I. 55068, 282.5 mm SL

ダツ目 トビウオ科 ハマトビウオ属

アカトビ

Cypselurus atrisignis
Jenkins, 1903

形態 背鰭 13-15；腎鰭 9-11；胸鰭 14-16；腹鰭 6；背鰭前方鱗 32-36；側線鱗 55-58。体側の鱗は円鱗。体は側扁し、細長い紡錘形で、体の断面は逆三角形になる。口は小さい。胸鰭と腹鰭は著しく発達する。胸鰭先端は腎鰭後端を越え、腹鰭先端は腎鰭起部を越える。尾鰭後縁は二叉し、下葉先端が長い。胸鰭の第2または第3軟条（第1軟条は極めて痕跡的でみえにくい）は不分枝で、その他の軟条は分枝する。

色彩 背面は暗い藍色で、腹面は銀白色である。体側はやや赤紫色を帯びる。胸鰭鰭膜は半透明の赤紫色で、明瞭な小黑点が多数ある。胸鰭の小黑点は多い個体や少ない個体があり変異に富む。背鰭は第6-11軟条間に1黒色斑がある。

分布 インド・太平洋の熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島から琉球列島にかけて

■ アカトビ *Cypselurus atrisignis* Pectoral fin KAUM-I. 55068, 282.5 mm SL

広く分布する。

備考 本種は7月上旬から盛夏にかけて多く漁獲され、美味である。トビウオ科の中では大型である。幼魚は下顎に1対の紐状の突出物をもつが、成長に伴って消失する。

トビウオ科のほとんどの種は、陸地から離れた沿岸の表層近くでみられ季節回遊を

する。著しく発達した胸鰭と腹鰭をもつ種は、捕食者や物音に驚くと水面を猛スピードで滑空する。滑空時に広げた胸鰭と腹鰭は、グライダーの翼と同じような役割をする。下葉先端が長い尾鰭は、水面から飛び立つための推進力を効率よく伝える形になっている。

(中村麻理子)

ダツ目 トビウオ科 ハマトビウオ属

チャバネトビウオ

Cypselurus sylonopterus
(Bleeker, 1865)

形態 背鰭 13-14；腎鰭 10-11；胸鰭 13-16；腹鰭 6；背鰭前方鱗 29-34；側線鱗 48-55。体側の鱗は円鱗。体は側扁し、細長い紡錘形で、体の断面は逆三角形になる。口は小さい。胸鰭と腹鰭は著しく発達する。胸鰭先端は腎鰭後端を越え、腹鰭先端は腎鰭起部を越える。尾鰭後縁は二叉し、下葉先端が長い。胸鰭の第2軟条（第1軟条は極めて痕跡的でみえにくい）は不分枝で、その他の軟条は分枝する。

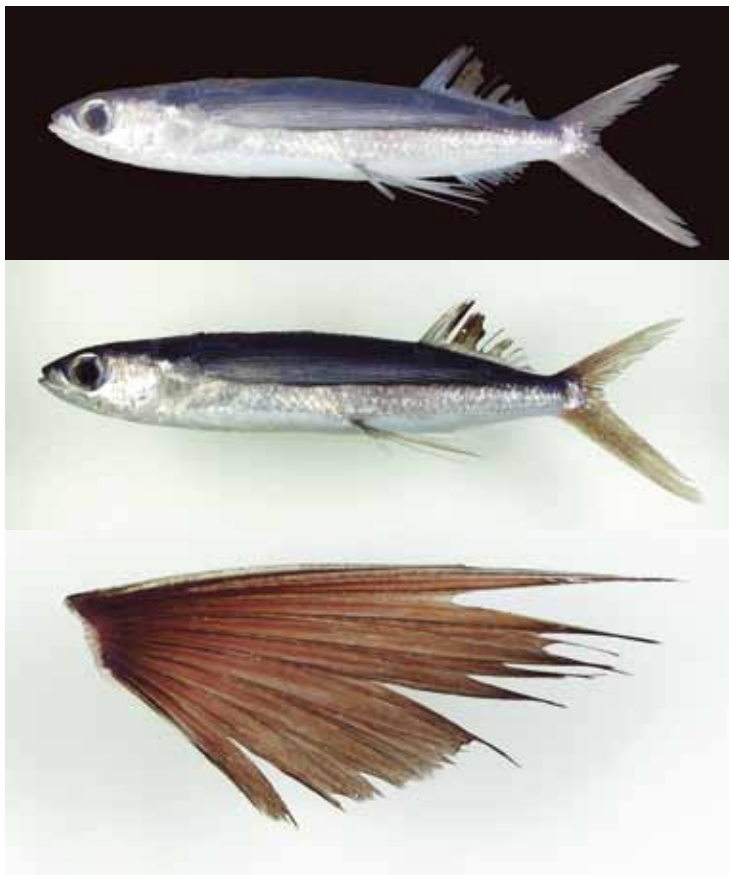
色彩 背面は暗い藍色で、腹面は銀白色である。胸鰭鰭膜は紫褐色である。背鰭に明瞭な黒色域がある。

分布 インド・太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 トビウオ科の中では大型である。幼魚は下顎に1対の紐状の突出物をもつが、成長に伴って消失する。

近似種のカラストビウオ *C. cyanopterus* (Valenciennes, 1847) は、胸鰭が青黒色で背鰭前方鱗数が35以上と多いことから、本種とは識別される。

(中村麻理子)

■ チャバネトビウオ *Cypselurus sylonopterus* KAUM-I. 55069, 250.0 mm SL



■ オオメナツトビ *Cypselurus unicolor* KAUM-I. 55067, 277.3 mm SL

ダツ目トビウオ科ハマトビウオ属

オオメナツトビ

Cypselurus unicolor
(Valenciennes, 1847)

形態 背鰭 12-14；臀鰭 10-11；胸鰭 15-18；腹鰭 6；背鰭前方鱗 28-33；側線鱗 49-55。体側の鱗は円鱗。体は側扁し、細長い紡錘形で、体の断面は逆三角

形になる。眼は大きい。下顎は突出する。口は小さい。胸鰭と腹鰭は著しく発達する。胸鰭先端は臀鰭後端を越え、腹鰭先端は臀鰭起部を越える。尾鰭後縁は二叉し、下葉先端が長い。胸鰭の第2軟条（第1軟条は極めて痕跡的のみえにくい）は不分枝で、その他の軟条は分枝する。

色彩 背面は暗い藍色で、腹面は銀白色である。胸鰭鰭膜は斑紋がなくやや白濁した半透明。背鰭に明瞭な黒色域はない。

分布 太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 トビウオ科の中では大型であり、夏の短期間にみられる。幼魚は下顎に1対の紐状の突出物をもつが、成長に伴って消失する。

(中村麻理子)

■ マルサヨリ *Hyporhamphus dussumieri* FRLM 42994, 80.1 mm SL■ マルサヨリ *Hyporhamphus dussumieri* KAUM-I. 51232, 79.9 mm SL

ダツ目 サヨリ科 サヨリ属

マルサヨリ

Hyporhamphus dussumieri
(Valenciennes, 1847)

形態 背鰭 14–17；臀鰭 14–17；胸鰭 11–13；腹鰭 6；背鰭前方鱗 37–42；鰓耙 33–47；脊椎骨 52–60。吻背面に鱗がある。上顎はやや短くその幅の 0.65–0.85

倍である。下顎は頭長より長い。鼻孔後縁に骨質隆起線がある。涙骨上の眼前管の後部に分枝がある。尾鰭は深く湾入する。

色彩 体は白っぽく、体側中線に沿って銀色縦帯がある。下顎の先端は赤い。

分布 インド・西太平洋熱帯域に分布。国内では高知県、与論島、沖縄島、八重山諸島から分布が確認されている。

備考 本種は臀鰭軟条数が 14–17 であること、尾鰭の湾入が深いこと、下顎が頭長より長いことなどにより日本産同属他種と区別される。本種の属するサヨリ属は尾鰭が二分することおよび鼻孔の肉質突起が短いことでコモチサヨリ属と、胸鰭が頭長より短いことでトウザヨリ属と、吻背面に鱗があることおよび鼻孔後縁に骨質隆起線があることでホシザヨリ属から区別できる。

(笹木大地)

■ リュウキュウダツ *Strongylura incisa* KAUM-I. 51216, 280.0 mm SL■ リュウキュウダツ *Strongylura incisa* KAUM-I. 42302, 135.8 mm SL

ダツ目 ダツ科 ダツ属

リュウキュウダツ

Strongylura incisa
(Valenciennes, 1846)

形態 背鰭 18–21；臀鰭 22–26；胸鰭 10–12；腹鰭 6；背鰭前方鱗 103–117；脊椎骨 80–83。体は細長くやや側扁する。尾柄部側面に隆起線はない。頭部背面に

は明瞭な隆起がある。両顎は長く伸長する。両顎歯は犬歯状。第 1 鰓弓に鰓耙がない。頭部の鱗は大きく粗雑で、鰓蓋中央部も被鱗する。背鰭は体の後方に位置し、その始部は臀鰭始部直上よりやや後方。尾鰭はわずかに湾入する。

色彩 体背面および体側背面は藍色、体側腹面は銀白色。

分布 インド・西太平洋の熱帯から亜熱帯域に分布。国内からは与論島以南の琉球列島から標本が得られている。

備考 本種は同属のダツ *S. anastomella* (Valenciennes, 1846) に類似するが、鰓蓋中央部に鱗があること（ダツでは無鱗）、頭部の鱗が大きく粗雑であること（小さい）ことから区別される。

(笹木大地)

■ テンジクダツ *Tylosurus acus melanotus* KAUM-I. 55070, 645.0 mm SL

ダツ目 ダツ科 テンジクダツ属

テンジクダツ

Tylosurus acus melanotus
(Bleeker, 1850)

形態 背鰭 24-27; 臀鰭 22-24; 胸鰭 11-13; 腹鰭 6; 背鰭前方鱗 280-310。体は細長い円筒形。尾柄部は側扁し側面に隆起線がある。両顎は長く伸長する。両顎歯は鋭く犬歯状。上顎後方の歯は垂直に並ぶ。第一鰓弓に鰓耙がない。背鰭は

体の後方に位置し、その始部は臀鰭始部直上よりわずかに後方に位置する。尾鰭は湾入し、下葉は上葉よりも長い。

色彩 体背面および体側背面は藍色、体側腹面は銀白色である。前鰓蓋骨前部に藍色の横帯はない。各鰭条の鰭膜は暗色である。

分布 インド・太平洋の熱帯から温帯域にかけて広く分布。国内では青森県以南の太平洋および新潟県佐渡以南の日本海か

ら分布が確認されている。

備考 本種は同属のオキザヨリ *T. crocodilus crocodilus* (Péron & Lesueur 1821) とよく似るが、背鰭軟条数が 24-27 であること（オキザヨリでは 21-24）、臀鰭軟条数が 22-24 であること（19-22）、上顎後方の歯は垂直に並ぶこと（体長 60 cm 以下の個体では前方に湾曲する）、前鰓蓋骨前部に暗青色の横帯がないこと（生時、横帯がある）などから区別される。

(笹木大地)

■ オキザヨリ *Tylosurus crocodilus crocodilus* KAUM-I. 51215, 364.6 mm SL■ オキザヨリ *Tylosurus crocodilus crocodilus* FRLM 43004, 300.0 mm SL■ オキザヨリ *Tylosurus crocodilus crocodilus* KAUM-I. 41125, 57.9 mm SL

ダツ目 ダツ科 テンジクダツ属

オキザヨリ

Tylosurus crocodilus crocodilus
(Péron & Lesueur, 1821)

形態 背鰭 21-24; 臀鰭 19-22; 胸鰭 14-15; 腹鰭 6; 背鰭前方鱗 310-360; 脊椎骨 80-86。体は細長い円筒形。尾柄部は側扁し側面に隆起線がある。両顎は長く伸長する。両顎歯は鋭く犬歯状。体

長 60 cm 以下の個体では上顎後方の歯は前方に湾曲する。第一鰓弓に鰓耙がない。背鰭は体の後方に位置し、その始部は臀鰭始部直上にある。尾鰭は湾入し、下葉は上葉よりも長い。

色彩 体背面と体側背面は藍色、体側腹面は銀白色。生時、前鰓蓋骨前部に藍色の横帯が入るが、死後は不明瞭になる。背鰭後方の鰭膜が黒い個体もある。

分布 東太平洋を除く世界中の熱帯から温帯域にかけて分布する。国内では津軽海峡以南に分布する。

備考 テンジクダツ *T. acus melanotus* (Bleeker, 1850) との比較は上記参照。沿岸の表層を遊泳し小魚などを捕食する。未成年は漁港内の表層でもよくみられ、夜間にライトで照らしてもあまり逃げない。

(笹木大地)



■ カダヤシ *Gambusia affinis* Female KAUM-I. 40328, 15.6 mm SL



カダヤシ目 カダヤシ科 カダヤシ属

カダヤシ

Gambusia affinis
(Baird & Girard, 1853)

形態 背鰭 7-9；臀鰭 8-10；胸鰭 12；腹鰭 6；縦列鱗 28-32。体はやや細長い。眼は大きく、口は上向きにつく。背鰭は1基で体のほぼ中央に位置する。臀鰭基部は背鰭基部よりもはるか前に位置する。雄の臀鰭鰭条は交接脚を形成する。

色彩 体は透明感のある黄土色で腹部は白色。体側の黒色素胞は網目模様を形成する。眼の下に1本の黒色帯がある。

分布 原産地はアメリカからメキシコにかけての大西洋岸・メキシコ湾岸流域およびミ



■ カダヤシ *Gambusia affinis* Male KAUM-I. 40327, 19.5 mm SL

シシッピ川流域の一部。日本国内では福島県以南の日本海側を除く本州（日本海側では兵庫県円山川のみ）、四国、九州、琉球列島、小笠原諸島の父島と母島に分布する。

備考 国外外来種で特定外来生物に指定されている。日本には蚊の駆除を目的として導入された。与論島では水路やため池において高密度でみられる。

(松沼瑞樹)



■ ナンヨウキンメ *Beryx decadactylus* KAUM-I. 45784, 322.9 mm SL

キンメダイ目 キンメダイ科 キンメダイ属

ナンヨウキンメ

Beryx decadactylus
Cuvier, 1829

形態 背鰭 IV, 18–20; 臀鰭 IV, 25–30; 胸鰭 15–18; 腹鰭 I, 8–11; 側線鱗 52–62。体は卵形で強く側扁する。体高は高い。体長は体高の 1.9–2.2 倍。尾柄部は細い。眼は大きく、吻は短い。口は大きく斜位。下顎は上顎よりわずかに突出する。上顎後端は目の中央を越える。後方へ向かう涙骨の鋭い 1 棘はきわめて強大。背鰭は 1 基。体表は強い櫛鱗で覆われる。

キンメダイ目 キンメダイ科 キンメダイ属

キンメダイ

Beryx splendens
Lowe, 1834

形態 背鰭 IV, 13–15; 臀鰭 IV, 26–30; 胸鰭 16–18; 腹鰭 I, 9–11; 側線鱗 65–73。体高はやや低く、体は強く側扁する。尾柄部は細い。体長は体高の 2.5–2.9 倍。眼は大きく、吻は短い。口は大きく斜位。上顎後端は目の中央を越える。両顎に狭い歯帯がある。涙骨に鋭い 1 棘がある。後鼻孔は細長いスリット状。両眼間隔はわ

胸鰭は長く先端は背鰭基底中央部直下を越える。背鰭基底が臀鰭基底より短い。臀鰭基底の形状は丸みを帯びる。尾鰭は深く二分する。

色彩 頭部および体側背面は朱赤色で、体側から腹側は薄い赤色をおびた銀白色。背鰭、臀鰭、腹鰭、胸鰭および尾鰭は赤色を呈する。

分布 全世界中の温～暖海の深海に分布する。国内では主に青森県以南、東シナ海、琉球列島に分布し、沖合の水深 500 m 付近に多くみられる。

備考 本科にはキンメダイ属とキンメダマ

ずかに凹む。背鰭は 1 基。体背部の鱗の後縁はなめらか。胸鰭は長く先端は背鰭基底後方直下付近に達する。背鰭基底が臀鰭基底より短い。臀鰭基底の形状は直線的。尾鰭は二分する。体長 10 cm 以下の幼魚では背鰭第 1 軟条が著しく伸長する。

色彩 体上方は紅赤色。体側より腹部にかけて赤みがかった銀白色。背鰭、尾鰭は紅赤色。胸鰭の上方は赤みがかった透明で下方は透明。腹鰭、臀鰭の鰭条は薄い赤色で鰭膜は透明。

分布 北東太平洋を除くインド・汎太平洋と大西洋に分布。国内では北海道以南の太

シ属の 2 属が日本から確認されている。キンメダマシ属キンメダマシ *Centroberyx druzhinini* (Busakhin, 1981) は背鰭棘数が 5–7 であること、臀鰭基底長が背鰭基底長より短いこと、臀鰭軟条数が 20 以下であること、涙骨に棘がないことなどからナンヨウキンメと識別される。また、ナンヨウキンメは体高が高く、体長が体高の 1.9–2.2 倍であることなどからキンメダイ属他種から識別される。

キンメダイ科の外見的特徴として、鱗の内側にある丸い肉質突起が挙げられる。しかし、キンメダイ属のすべての種には認められるが、キンメダマシ属には認められる種と認められない種がある。

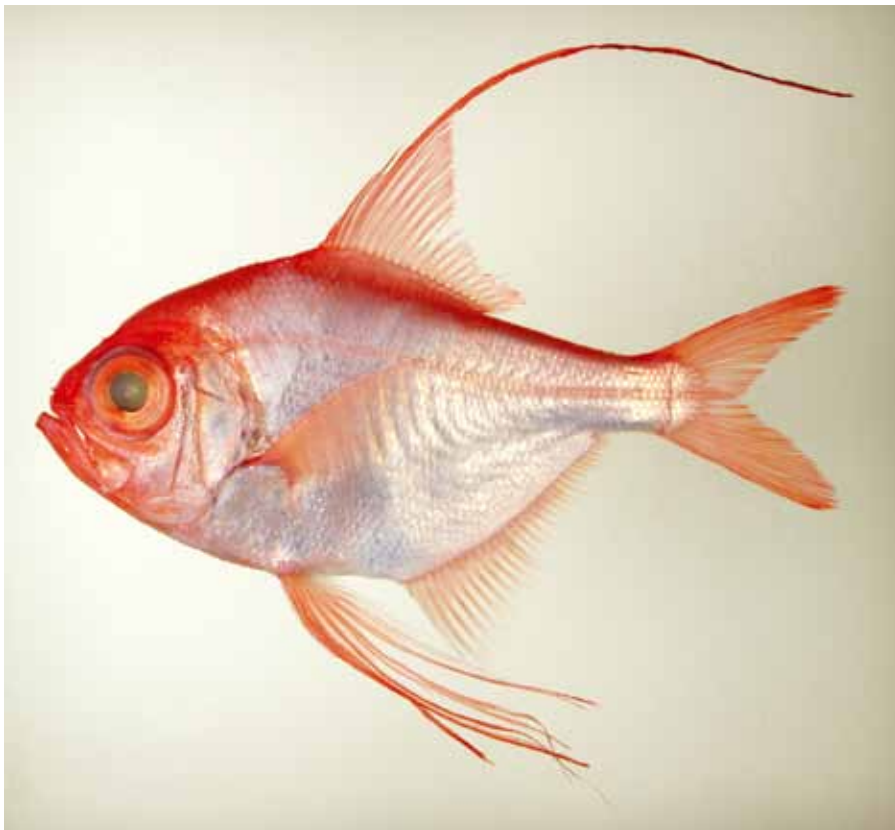
(原口百合子)

平洋沿岸、伊豆諸島、東シナ海、九州・バライオ海嶺に分布する。

備考 本種は同属のフウセンキンメ *B. mollis* Abe, 1959 とよく似るが、後鼻孔の形が細長いスリット状であること（フウセンキンメは幅広い楕円形）、体背部の鱗の後縁がなめらかであること（鋸歯状）、背鰭軟条数が 13–15、通常 14 であること（12–13、通常 13）などから識別される。

卵は浮遊性。孵化後、成長に従い表層域から深場へと移動する。未成魚は大陸棚の 100–250 m に生息し、成魚は沖合の水深 200–800 m から多く漁獲される。底曳網や底刺網で漁獲される食用魚である。

(原口百合子)



■ ナンヨウキンメ *Beryx decadactylus* Young KAUM-I. 56975, 198.0 mm SL



■ キンメダイ *Beryx splendens* KAUM-I. 41042, 199.0 mm SL



■ アカマツカサ *Myripristis berndti* FRLM 42817, 174.6 mm SL



■ アカマツカサ *Myripristis berndti* KAUM-I. 51152, 158.8 mm SL



■ アカマツカサ *Myripristis berndti* FRLM 43367, 110.2 mm SL



■ アカマツカサ *Myripristis berndti* KAUM-I. 40368, 34.7 mm SL

キンメダイ目 イットウダイ科 アカマツカサ属

アカマツカサ

Myripristis berndti
Jordan & Evermann, 1903

形態 背鰭 X-I, 13-15; 臀鰭 IV, 11-14; 胸鰭 14-16; 側線有孔鱗 28-30; 側線上方鱗 2½; 鰓耙 12-14 + 24-27 = 36-44; 頬部鱗列 4。体は側扁する。背鰭第 10 棘と第 11 棘の間は完全に分離する。胸鰭腋部に小鱗がある。体側鱗の表面はなめらか。下顎の歯塊は 1 対。下顎は上顎よりかなり前出する。

色彩 体は赤色で、腹面側に行くにつれ色

合いは薄くなる。主鰓蓋膜上部から胸鰭基部にかけて黒色域がある。瞳の上方に黒色域がある。背鰭棘条部上方は赤黄色で、下方は赤味がかかった白色。胸鰭は赤味がかかった透明。他の鰭は一樣に赤色。

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 アカマツカサは同属のナミマツカサ *M. kochiensis* Randall & Yamakawa, 1996 によく似る。しかし、本種はナミマツカサと比較して、下顎が上顎よりかなり前出すること（ナミマツカサはわずかに前出

する程度）、総鰓耙数が 36-44 (32-36) であることなどから識別される。

(西山 肇)

■ ツマリマツカサ *Myripristis greenfieldi* KAUM-I. 42292, 48.3 mm SL

キンメダイ目 イットウダイ科 アカマツカサ属

ツマリマツカサ

Myripristis greenfieldi

Randall & Yamakawa, 1996

形態 背鰭 X-I, 14-15; 臀鰭 IV, 12; 胸鰭 15; 側線有孔鱗 28-29; 側線上方鱗 $2\frac{1}{2}$; 鰓耙 15-17 + 28-31 = 43-47; 頬部鱗列 4。体は側扁する。背鰭第 10 棘と第 11 棘の間は完全に分離する。胸鰭腋部に小鱗がない。体側鱗の表面はなめらか。下顎は上顎よりわずかに前出する。

色彩 体は赤色で、腹面側に行くにつれ色合いは薄くなる。主鰓蓋膜に暗赤色または黒色域がある。背鰭棘条部上方は赤色または赤黄色で、下方は赤味がかかった白色。胸鰭は赤味がかかった透明。尾鰭は赤色。

分布 小笠原諸島、高知県以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

(西山 肇)

■ ツマリマツカサ *Myripristis greenfieldi* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

キンメダイ目 イットウダイ科 アカマツカサ属

クロオビマツカサ

Myripristis kuntee

Valenciennes, 1831

形態 背鰭 X-I, 15-17; 臀鰭 IV, 14-16; 胸鰭 14-16; 側線有孔鱗 38-43; 側線上方鱗 $2\frac{1}{2}$; 鰓耙 12-15 + 22-26 = 35-41; 頬部鱗列 4。体は側扁する。背鰭第 10 棘

と第 11 棘の間は完全に分離する。胸鰭腋部に小鱗がない。体側鱗の表面はなめらか。下顎の歯塊は 1 対。下顎は上顎とほぼ等長。

色彩 頭部は赤く、体側は赤黄色。主鰓蓋膜上部から胸鰭基部にかけて暗赤色横帯がはしる。背鰭棘条部上方は赤黄色。胸鰭は赤味がかかった透明。他の鰭は一樣に赤色。

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は夜行性で岩礁やサンゴ礁域に生息する。同属他種と比べ体側鱗が小さく、側線有孔鱗数が多い。

(西山 肇)



■ クロオビマツカサ *Myripristis kuntee* FRLM 42915, 120.8 mm SL



■ クロオビマツカサ *Myripristis kuntee* FRLM 43366, 84.0 mm SL



■ クロオヒマツカサ *Myripristis kuntee* BSKU 108224, 49.1 mm SL



■ ヨゴレマツカサ *Myripristis murdjan* KAUM-I. 39804, 164.3 mm SL

キンメダイ目 イットウダイ科 アカマツカサ属

ヨゴレマツカサ

Myripristis murdjan
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 X-I, 13-15; 臀鰭 IV, 12-14; 胸鰭 14-16; 側線有孔鱗 27-29; 側線上方鱗 2½; 鰓耙 13-14 + 24-29 = 38-43。体は側扁する。背鰭第 10 棘と第 11 棘の間は完全に分離する。胸鰭腹部に小鱗が

ある。体側鱗の表面はなめらか。下顎の歯塊は 1 対。下顎は上顎よりわずかに前出する。

色彩 体は赤色で、腹面側に行くにつれ色

合いは薄くなる。主鰓蓋膜上部から胸鰭基部にかけて黒色域がある。瞳の上方に黒色域がある。背鰭棘条部上方は赤色で、下方は赤黄色または赤味がかった白色。胸鰭と腹鰭は赤味がかった透明。他の鰭は一様に赤色。

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は夜行性で、水深 50 m 以浅の岩礁やサンゴ礁域に生息する。

(西山 肇)



■ ヨゴレマツカサ *Myripristis murdjan* KAUM-I. 41102, 42.4 mm SL



■ セグロマツカサ *Myripristis violacea* KAUM-I. 50813, 117.7 mm SL

キンメダイ目 イトウダイ科 アカマツカサ属

セグロマツカサ

Myripristis violacea
Bleeker, 1851

形態 背鰭 X-1, 14-16; 臀鰭 IV, 12-14; 胸鰭 14-16; 側線有孔鱗 27-29; 側線上方鱗 2½; 鰓耙 12-15 + 27-31 = 38-45。体は側扁する。背鰭第 10 棘と第 11 棘の

間は完全に分離する。胸鰭腋部に小鱗がある。体側鱗の表面はなめらか。下顎の歯塊は 1 対。下顎は上顎よりわずかに前出する。

色彩 体上部は薄い赤色で、腹面に行くにつれ色合いは薄くなり、下部では光沢のある銀色。体側上方の鱗は暗赤色で縁取られる。瞳の上方に黒色域がある。背鰭棘条部上方は赤色または赤黄色で、下方は赤味がかった白色。胸鰭と腹鰭は赤味がかった透明。

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では大隅諸島と琉球列島に分布する。

備考 ヨゴレマツカサは同属のウロコマツカサ *M. botche* Cuvier, 1829 とよく似る。しかし、本種はウロコマツカサと比較して、胸鰭腋部に小鱗がある（ウロコマツカサは小鱗がない）ことから識別される。

(西山 肇)

■ ヒレグロイトウダイ *Neoniphon opercularis* KAUM-I. 41248, 228.2 mm SL

キンメダイ目 イットウダイ科 ウケグチイトウダイ属

ヒレグロイトウダイ

Neoniphon opercularis
(Valenciennes, 1831)

形態 背鰭 X-I, 12-13; 臀鰭 IV, 9; 胸鰭 13-14; 側線有孔鱗 38-40; 側線上方鱗 2½; 鰓耙 6-7 + 11-12 = 18-19。体は側扁する。前鰓蓋骨隅角部に強くて長い1棘がある。背鰭最終棘は第1軟条に近接し、

後ろから2番目の棘より長い。下顎は上顎より前出する。

色彩 頭部は薄い赤色。体側は光沢のある黄褐色で、腹面に行くにつれ色合いは薄くなり、銀色がかかる。背鰭棘条部は基部と先端の白色域を除き、黒色。胸鰭は赤味がかった透明。尾鰭は後縁の黄色域を除き赤色。

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島と与論島以

南の琉球列島から記録されている。

備考 ヒレグロイトウダイは同属のウケグチイトウダイ *N. samara* (Forsskål, 1775) によく似る。しかし、本種はウケグチイトウダイと比較して、背鰭棘条部の黒色域がすべての基膜におよぶこと（ウケグチイトウダイは第1-3 鰭膜に大きな黒色斑がある）、臀鰭軟条数が9 (7-8) であるなどから識別される。

(西山 肇)

■ ウケグチイトウダイ *Neoniphon samara* BSKU 106133, 154.5 mm SL



■ ウケグチイトウダイ *Neoniphon samara* FRLM 43365, 163.9 mm SL



■ ウケグチイトウダイ *Neoniphon samara* FRLM 43125, 151.1 mm SL



■ ウケグチイトウダイ *Neoniphon samara* FRLM 42816, 130.5 mm SL



■ ウケグチイトウダイ *Neoniphon samara* NSMT-P 110370, 85.0 mm SL



■ ウケグチイトウダイ *Neoniphon samara* KAUM-I. 46068, 66.3 mm SL



■ ウケグチイトウダイ *Neoniphon samara* KAUM-I. 39771, 33.9 mm SL

キンメダイ目 イトトウダイ科 ウケグチイトウダイ属

ウケグチイトウダイ

Neoniphon samara
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 X-I, 11-12; 臀鰭 IV, 7-8; 胸鰭 13-14; 側線有孔鱗 39-43; 側線上方鱗 2½; 鰓耙 3-8 + 8-12 = 14-19。体は側扁する。前鰓蓋骨隅角部に強く長い1棘がある。背鰭最終棘は第1軟条に近接し、後ろから2番目の棘より長い。

色彩 体上部は薄い赤色で、腹面に行くにつれ色合いは薄くなり、下部では光沢のある銀色。体側の側線上に赤色縦帯がはしる。背鰭棘条部の第1-3 鱗膜に大きな黒色斑がある。尾鰭両葉には基底から先端へむかう赤色帯がある。

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、和歌山



■ ウケグチイトウダイ *Neoniphon samara* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

生息する。与論島では、日中に枝状サンゴの隙間に群れて隠れているのが観察された。

備考 本種は夜行性で岩礁やサンゴ礁域に

(西山 肇)



■ ウケグチイットウダイ *Neoniphon samara* KAUM-I. 39803, 152.5 mm SL



■ カイエビス *Ostichthys kaianus* KAUM-I. 41047, 214.9 mm SL

キンメダイ目 イットウダイ科 エビスダイ属

カイエビス*Ostichthys kaianus*
(Günther, 1880)

形態 背鰭 XII, 12-13; 臀鰭 IV, 11; 胸鰭 15-17; 側線有孔鱗数 28-30; 側線上方鱗数 2½; 鰓耙数 7-9 + 14-16 = 21-26。体高は高く、体は側扁する。頭部背縁は

ゆるく突出する。背鰭第 10 棘と第 11 棘の間は深く切れ込むが鰭膜でつながる。両側の鼻骨間の溝は広い V 字状。体側鱗の表面は粗雑。上顎と下顎はほぼ同長。

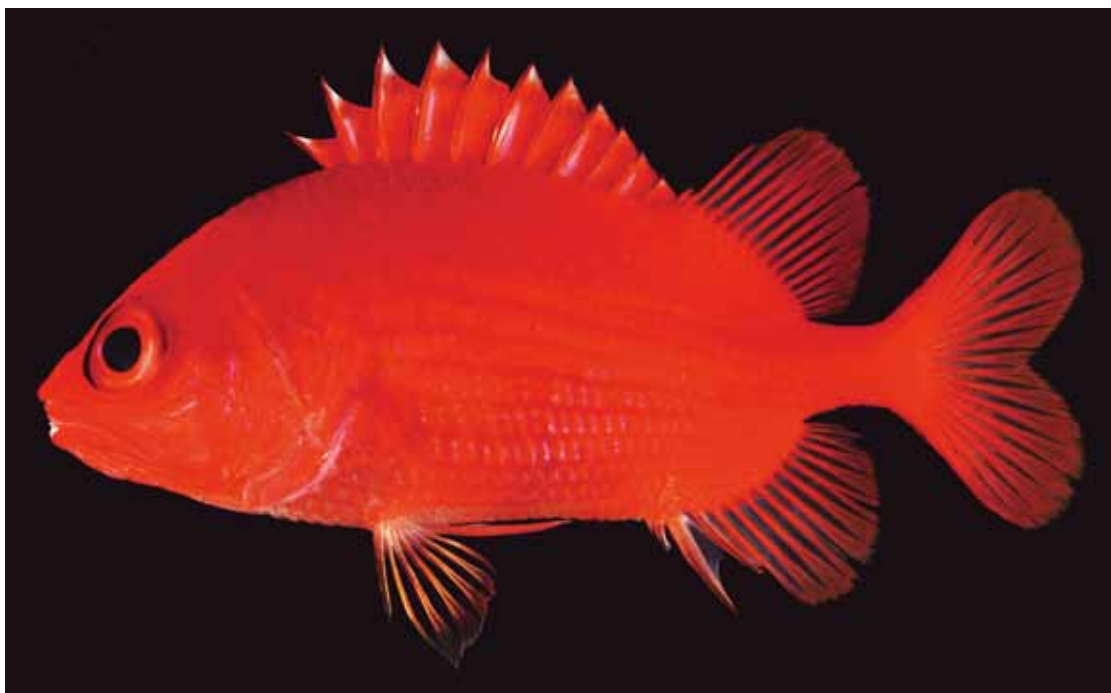
色彩 体は赤色で、腹面側に行くにつれ色合いは薄くなる。体側には多数の細い白色縦帯がはしる。各鰭の鰭条は赤色で基膜は赤味がかった透明。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内

では静岡県以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 カイエビスは同属のオキエビス *O. archiepiscopus* (Valenciennes, 1862) と酷似するが、本種はオキエビスと比較して、頭部背縁がゆるく突出すること（オキエビスでは直線的か、やや凹む程度）、第 1 側線鱗前上方に鱗がないこと（鱗がある）などから識別される。

(西山 肇)



キンメダイ目 イットウダイ科 リュウキュウエビス属

リュウキュウエビス*Plectrypops lima*
(Valenciennes, 1831)

形態 背鰭 XII, 15; 臀鰭 IV, 11; 胸鰭 17; 側線有孔鱗 32-42; 鰓耙 7-8 + 14-15 = 22-23。体高は高く、体は側扁する。頭部背縁はゆるく突出する。背鰭第 10 棘と第 11 棘の間は深く切れ込むが鰭膜でつながる。両側の鼻骨間の溝は菱形。体側鱗の表面は粗雑。上顎と下顎はほぼ同長。

色彩 体は一様に赤色。背鰭棘条部は先端の白色域を除き赤色。背鰭軟条部、胸鰭、腹鰭、臀鰭、尾鰭の鰭条は赤色で、基膜は赤味がかった透明。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

■ リュウキュウエビス *Plectrypops lima* KAUM-I. 41248, 228.2 mm SL

備考 リュウキュウエビスはヤセエビス *Pristilepis oligolepis* (Whitley, 1941) に酷似するが、本種はヤセエビスと比較して、涙骨に上顎骨にかぶさる突起がない（ヤセ

エビスでは突起がある）、上顎縫合部の内面には小歯板がない（1 小歯板がある）、側線有孔鱗数が 32-42（28-30）であることなどから識別される。

(西山 肇)

■ ニジエビス *Sargocentron diadema* FRLM 42739, 97.3 mm SL

キンメダイ目 イットウダイ科 イットウダイ属

ニジエビス

Sargocentron diadema
(Lacepède, 1802)

形態 背鰭 XI, 12-14; 臀鰭 IV, 8-10; 胸鰭 13-15; 側線有孔鱗 44-50; 側線上方鱗 2½; 鰓耙 4-6 + 12-15 = 16-21; 頬部鱗列 5-6。体は側扁する。前鰓蓋骨隅角部の棘は短く、眼径の半分以下。背鰭

棘状部の最終棘は後ろから2番目の棘と第1軟条との中間付近にある。鼻骨後部と後鼻孔縁辺には小棘がない。

色彩 体は赤色で、体側に9-10本の細い白色縦帯がある。前鰓蓋後縁は白い。吻端から眼窩下を通り主鰓蓋下部にかけて白色帯がはしる。背鰭棘条部は暗赤色で、先端は透明。背鰭前端からのびる白色縦帯は途中で途切れる。

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は夜行性で岩礁やサンゴ礁域に生息する。与論島では漁港内の転石・岩礁域や枝状サンゴなどの隙間で観察された。

(西山 肇)

キンメダイ目 イットウダイ科 イットウダイ属

テリエビス

Sargocentron ittodai
(Jordan & Fowler, 1902)

形態 背鰭 XI, 12-14; 臀鰭 IV, 8-10; 胸鰭 14-16; 側線有孔鱗 44-49; 側線上方鱗 2½; 鰓耙 4-6 + 12-14 = 17-20; 頬部鱗列 5。体は側扁する。前鰓蓋骨隅角部の棘は短く、眼径の半分以下。鼻骨後部と後鼻孔縁辺には小棘がない。

色彩 体は赤色で、体側には複数本の踵孔大赤色縦帯がはしる。背鰭棘条部は濃赤色で、各鰭膜に不定形の白色斑が連続して並び、弧状の白色帯を形成する。

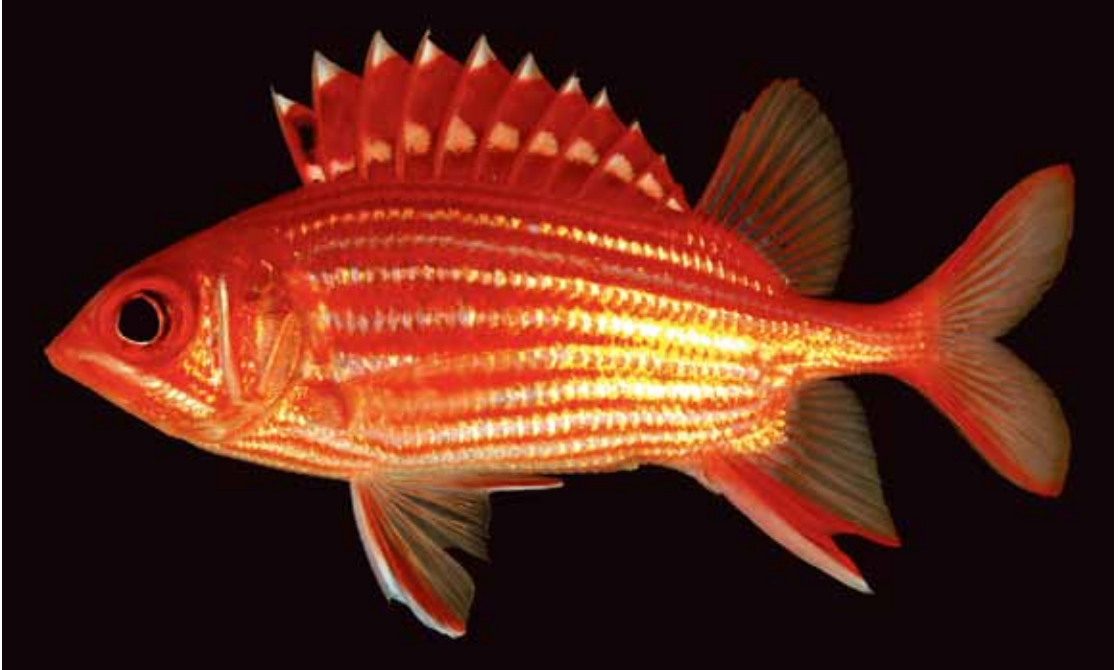
分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

■ テリエビス *Sargocentron ittodai* BSKU 106116, 75.7 mm SL

備考 テリエビスは同属のニジエビス *S. diadema* (Lacepède, 1802) によく似る。しかし、本種はニジエビスと比較し、胸鰭軟条が通常 15 本 (ニジエビスは通常 14)、

背鰭棘状部の白色縦帯が連続する (連続せず、途中で終わる) ことなどから識別される。

(西山 肇)



■ テリエビス *Sargocentron ittodai* KAUM-I. 39801, 106.0 mm SL



■ テリエビス *Sargocentron ittodai* KAUM-I. 39707, 97.9 mm SL



■ テリエビス *Sargocentron ittodai*
KAUM-I. 39708, 100.8 mm SL



■ テリエビス *Sargocentron ittodai*
KAUM-I. 46055, 65.8 mm SL



■ テリエビス *Sargocentron ittodai* FRLM 42738, 85.9 mm SL



■ テリエビス *Sargocentron ittodai*
BSKU 108225, 52.8 mm SL



■ テリエビス *Sargocentron ittodai*
KAUM-I. 40077, 50.0 mm SL

■ スミツキカノコ *Sargocentron melanospilos* BSKU 108330, 178.9 mm SL■ スミツキカノコ *Sargocentron melanospilos* FRLM 42914, 163.3 mm SL

キンメダイ目 イットウダイ科 イットウダイ属

スミツキカノコ*Sargocentron melanospilos*
(Bleeker, 1858)

形態 背鰭 XI, 12-14 ; 臀鰭 IV, 8-10 ; 胸鰭 13-14 ; 側線有孔鱗 32-36 ; 側線上方鱗 $2\frac{1}{2}$; 鰓耙 4-7 + 10-12 = 14-19 ; 頬部鱗列 5。体は側扁する。背鰭棘状部の最終棘は後ろから2番目の棘と第1軟条と

の中間付近にある。後鼻孔の縁辺に1-4本の小棘がある。涙骨上縁は平滑。上顎は下顎より前出する。

色彩 体はオレンジがかった赤色。背鰭軟

条部基部、臀鳍基部後方および尾鳍基底中央付近にそれぞれ黒色斑がある。

分布 インド・西太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、高知県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は夜行性で岩礁やサンゴ礁域に生息する。背鳍軟条部基部、臀鳍基部後方および尾鳍基底中央付近にある黒色斑によって、同属他種と容易に識別される。
(西山 肇)



■ スミツキカノコ *Sargocentron melanospilos* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ クロオビエビス *Sargocentron praslin* KAUM-I. 40016, 31.8 mm SL

キンメダイ目 イトトウダイ科 イトトウダイ属

クロオビエビス

Sargocentron praslin
(Lacepède, 1802)

形態 背鳍 XI, 12-13; 臀鳍 IV, 8-9; 胸鳍 13-16; 側線有孔鱗 33-36; 側線上方鱗 2½; 鰓耙 6-8 + 10-12 = 16-20; 頬部鱗列 4。体は側扁する。前鰓蓋骨隅角

部に強くて長い 1 棘がある。鼻骨後部と鼻孔縁辺には小棘がない。涙骨上縁に水平に突出する 1 小棘がある。

色彩 体は赤褐色。体側背面に 4-5 本の暗赤色縦帯がはしる。背鳍棘条部は赤色で、各鳍膜に白色斑がある。体の地色は銀白色または青白色で、腹方ほど白味が強くなる。体側背面は黄色い。体側には幅が体側鱗 3-4 枚分ほどの明瞭な 5 本の黒色横帯がはしる。

分布 インド・西太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では高知県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 クロオビエビスは同属のアヤメエビス *S. rubrum* (Forsskål, 1775) に酷似するが、本種はアヤメエビスと比較し、頬の鱗列数が 4 (アヤメエビスでは 5)、体側背面に 4-5 本の縦帯がはしる (1-2 本) ことなどから識別される。

(西山 肇)

■ ホシエビス *Sargocentron punctatissimum* KAUM-I. 39986, 81.1 mm SL■ ホシエビス *Sargocentron punctatissimum* KAUM-I. 45885, 55.5 mm SL

キンメダイ目 イットウダイ科 イットウダイ属

ホシエビス*Sargocentron punctatissimum*
(Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XI, 12-14; 臀鰭 IV, 9; 胸鰭 15; 側線有孔鱗 42-45; 側線上方鱗 2½; 鰓耙 5-7 + 10-12 = 15-19; 頬部鱗

列 5。体は側扁する。前鰓蓋骨隅角部に強く長い1棘がある。涙骨上縁に水平に突出する小棘がない。前鰓蓋骨隅角部の棘長は眼径の1/2。

色彩 体上部は薄い赤色で、腹面に行くにつれ色合いは薄くなり、銀色がかかる。前鰓蓋後縁と鰓蓋膜は赤色。背鰭棘条部の上方は赤色で、下方は赤味がかかった透明。

背鰭軟条部、胸鰭、腹鰭、臀鰭、尾鰭の鰭条は薄い赤色で、鰭膜は赤味がかかった透明。

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、高知県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 ホシエビスは同属のサクラエビス *S. tiereoides* (Bleeker, 1853) に酷似するが、本種は側線有孔鱗数が 42-45 (サクラエビスでは 40-41)、胸鰭軟条数が 15 (13-14)、前鰓蓋骨隅角部の棘長が眼径の 1/2 (2/3) であることから識別される。
(西山 肇)



■ ホシエビス *Sargocentron punctatissimum* KAUM-I. 39880, 42.5 mm SL



■ ホシエビス *Sargocentron punctatissimum* KAUM-I. 39868, 44.0 mm SL



■ アオスジエビス *Sargocentron tiere* KAUM-I. 41049, 207.6 mm SL

キンメダイ目 イットウダイ科 イットウダイ属

アオスジエビス

Sargocentron tiere
(Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XI, 14; 臀鰭 IV, 9; 胸鰭 14-15; 側線有孔鱗 47-52; 側線上方鱗 2½; 鰓耙 6-8 + 13-15 = 19-23。体は側扁する。前鰓蓋骨隅角部の棘は長く、眼径とほぼ同長。背鰭棘状部の最終棘は後ろから 2 番目の棘と第 1 軟条との中間付近にある。鼻骨後部と後鼻孔縁辺には小

棘がない。

色彩 体は赤色で、腹面側に行くにつれ色合いはやや薄くなる。背鰭棘条部は先端の白色域を除き赤色で、軟条部は赤色。胸鰭と尾鰭は赤色。腹鰭と臀鰭は第 1-2 鰭条の白色域を除き赤色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、琉球列島に分布する。

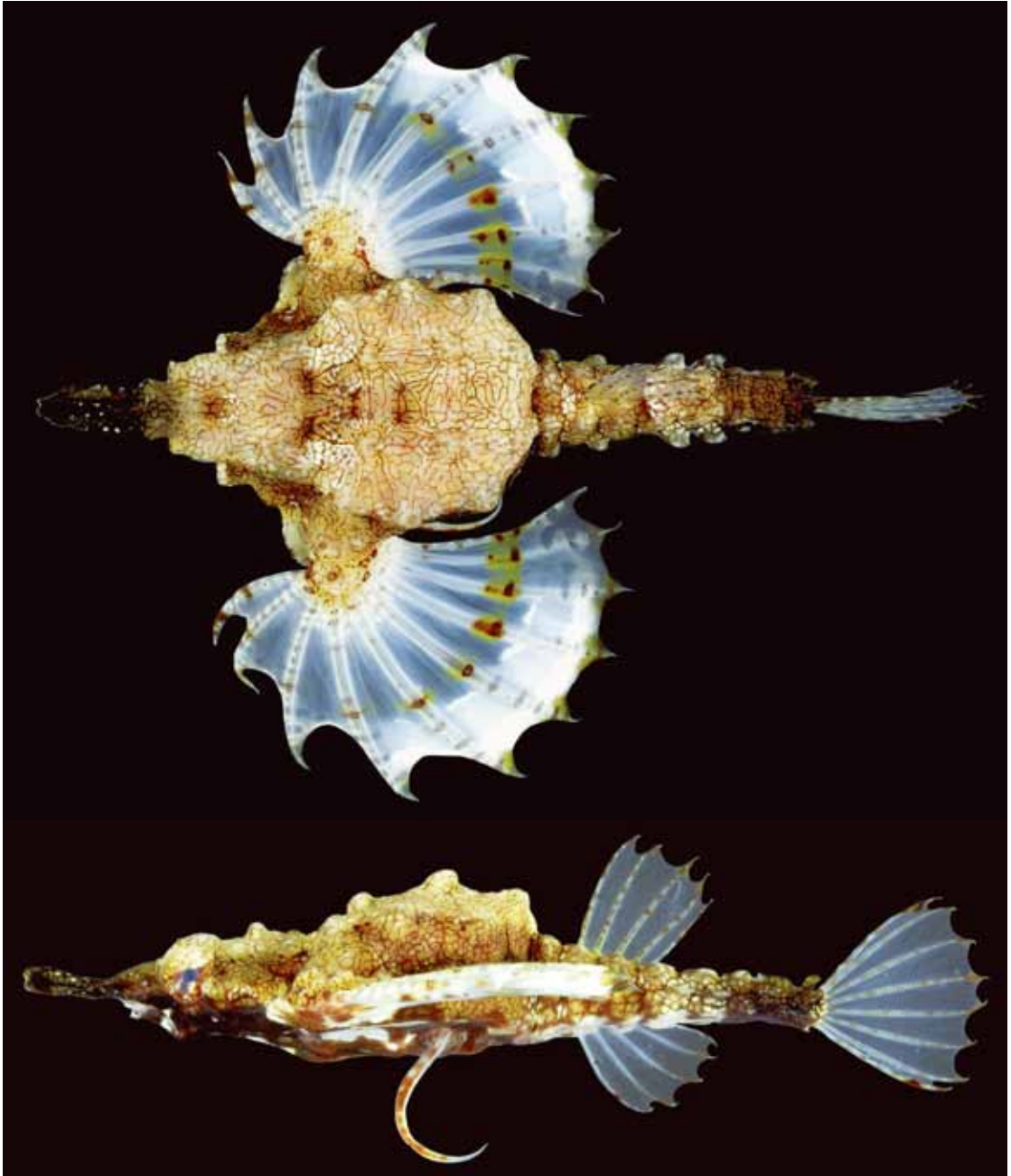
備考 本種は夜行性で、岩礁やサンゴ礁域に生息する。生時体側にははる数本の



■ アオスジエビス *Sargocentron tiere* KAUM-I. 41048, 234.6 mm SL

青色縦帯は死後消失する。

(西山 肇)



■ ウミテング *Eurypegasus draconis* KAUM-I. 48064, 69.0 mm SL

トゲウオ目 ウミテング科 ウミテング属

ウミテング

Eurypegasus draconis
(Linnaeus, 1766)

形態 背鰭 5；臀鰭 5；胸鰭 9-12；尾輪 8-9。体は幅広く縦扁し硬い骨板で覆われる。各骨板は躯幹部では癒着しているが、

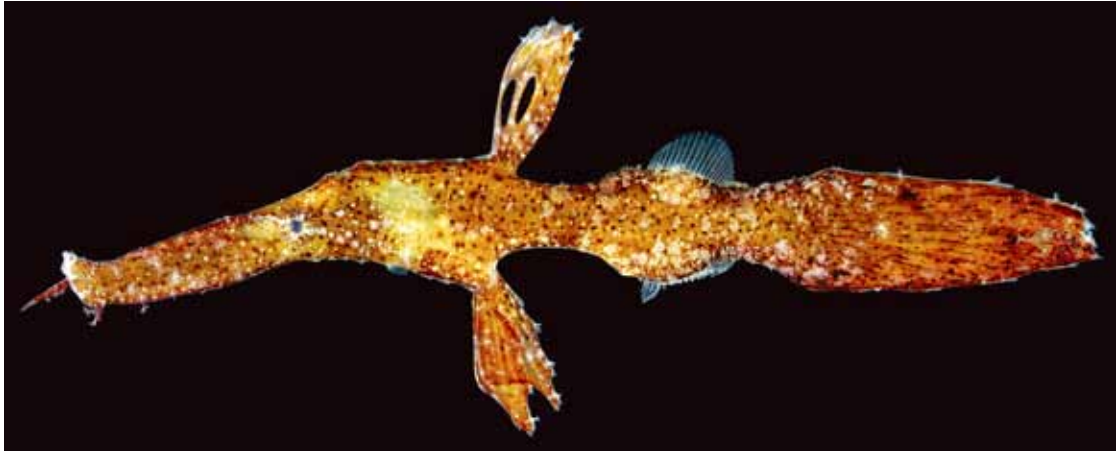
尾部では癒着せず可動。口は突出した物の下面にあり歯はない。吻端は丸みがあるものが多い。体背面は起伏が大きく眼の直後に深い凹みがある。最終尾輪の背面に棘がある。

色彩 成魚の体色は変異に富み赤系、茶系、白系などがある。幼魚は黒。背面には網目模様がある。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の南日本、山口以西の日本海、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 全長 15 cm になる。沿岸浅所の主に砂底に生息し、しばしばペアでみられる。胸鰭を大きく広げ、細長い腹鰭を使って海底を這うように移動する。

(千葉 悟)



■ カミソリウオ *Solenostomus cyanopterus* Male KAUM-I. 48060, 43.7 mm SL



■ カミソリウオ *Solenostomus cyanopterus* Female KAUM-I. 48061, 57.1 mm SL

トゲウオ目 カミソリウオ科 カミソリウオ属

カミソリウオ

Solenostomus cyanopterus
Bleeker, 1854

形態 背鰭 V-17-21；臀鰭 17-22；胸鰭 24-28；腹鰭 I, 6。吻中央部背縁は円滑あるいは弱い鋸歯状。吻高は吻長の16.4-28.5%。鰭や体に細長い単一の皮弁

がないかあっても房状。

色彩 体色は変異に富み、赤、緑、茶、黒などがみられる。鰭や体には縞模様はないが、黒色斑点や白色斑点が散在する。第1背鰭には長楕円形の黒色斑がある。

分布 インド・西太平洋域。国内では山口県の日本海沿岸、伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、天草諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 サンゴ礁域とその周辺の砂底にペアでいるところがよくみられる。頭部をやや下に向けて、波の動きに合わせてゆらゆらと漂うに泳いでいる。これが体色と相まって海藻片のように見え、擬態効果があると考えられている。雌の腹鰭の上縁は体側に、下縁は互いに癒着して育児嚢となり、その中で受精卵を保護する。

(大石一樹)

■ チゴヨウジ *Choeroichthys sculptus* KAUM-I. 45960, 46.4 mm SL

トゲウオ目 ヨウジウオ科 チゴヨウジ属

チゴヨウジ

Choeroichthys sculptus
(Günther, 1870)

形態 背鰭 26-35；臀鰭 3-4；胸鰭 18-23；尾鰭 10；体輪 18-21 + 21-25。体は細長く、躯幹部は尾部より太い。躯幹部と尾部の下隆起線は不連続。躯幹部と尾

部の上隆起線は連続。吻の背縁は円滑で棘がない。背鰭起部は躯幹部（肛門より前）に位置する。

色彩 体は暗褐色で、白色の小点が散在する。尾鰭は体の地色と同様で、縁辺は半透明。

分布 インド・太平洋。国内では土佐湾、鹿児島湾、大隅諸島、および琉球列島に

分布する。

備考 本種はハシナガチゴヨウジ *C. brachysoma* (Bleeker, 1855) と似るが、中間板に隆起がある（ない）、背鰭軟条数が 26-35（18-26）であることで識別される。

水深 3 m 以浅のサンゴ礁域や岩礁域に生息する。与論島では水深 0.5 m から 1 個体が得られた。

(松沼瑞樹)

■ キシマイシヨウジ *Corythoichthys flavofasciatus* KAUM-I. 42281, 95.0 mm SL

トゲウオ目 ヨウジウオ科 イシヨウジ属

キシマイシヨウジ

Corythoichthys flavofasciatus
(Rüppell, 1838)

形態 背鰭 26-36；臀鰭 4；胸鰭 13-17；尾鰭 10；体輪 15-17 + 32-39。体は細長い。躯幹部と尾部の下隆起線は連続。尾

鰭を除く尾部は躯幹部より長い。各躯幹輪の上隆起線は円滑。吻長は眼の後縁と胸鰭基底中央間の距離と同じ程度。吻の背縁は円滑で棘がない。

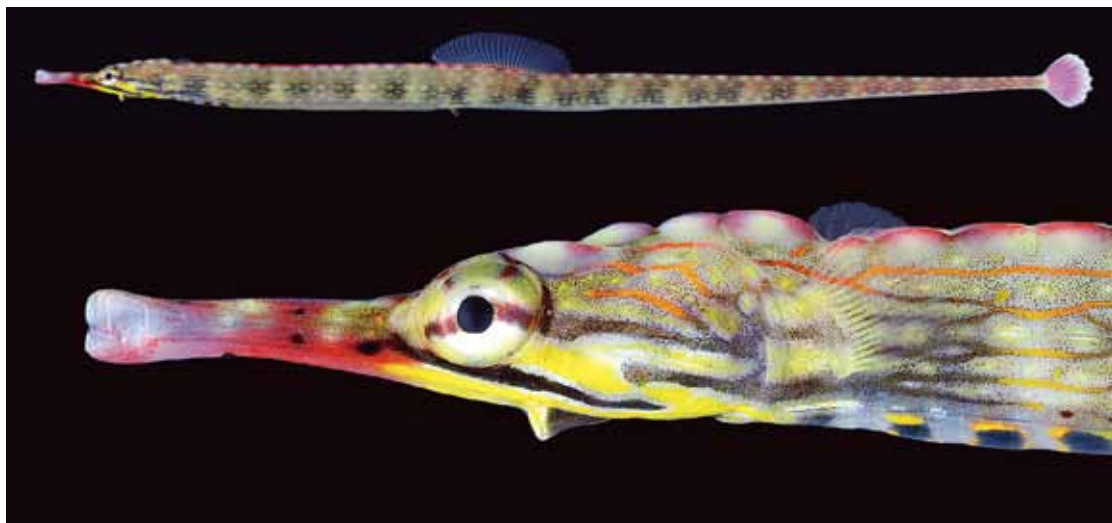
色彩 体は黄緑色で、多数の輪郭が不明瞭な暗色横帯がある。尾鰭は赤色で縁辺は白色。吻は赤色。背鰭に多数の暗色の斑点がある。

分布 紅海を含むインド・西太平洋。国内では伊豆諸島、高知県以南の南日本、および琉球列島に分布する。

備考 水深 24 m 以浅のサンゴ礁域や岩礁域に生息する。与論島では水深 2 m でみられた。

(松沼瑞樹)

■ イシヨウジ *Corythoichthys haematopterus* KPN-NI 30799, 67.4 mm SL

■ イシヨウジ *Corythoichthys haematopterus* KAUM-I. 51353, 118.3 mm SL

トゲウオ目 ヨウジウオ科 イシヨウジ属

イシヨウジ

Corythoichthys haematopterus
(Bleeker, 1851)

形態 背鰭 23–33；臀鰭 4；胸鰭 13–18；尾鰭 10；体輪 16–18 + 32–37。体は細長い。躯幹部と尾部の下隆起線は連続。尾鰭を除く尾部は躯幹部より長い。各躯幹輪の上隆起線は円滑。吻長は眼の後縁と胸鰭基底中央間の距離と同じ程度。吻の背縁は円滑で棘がない。

色彩 変異に富む。体は黄緑色や乳白色で、橙色や赤色の小点列や黄色の細い縦帯が複数ある。目立つ斑紋がまったくない個体もみられる。

分布 インド・西太平洋。国内では伊豆諸島、相模湾以南の南日本、新潟県、山口県の日本海沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種には、遺伝的に大きく異なる2系統が知られ、一方は沖縄島からのみ分布が知られ、他方は主にフィリピン、八重山諸島黒島、九州南端に位置する鹿児島県の坊津、愛媛県室から知られ、沖縄島の金武湾では2系統の個体が同所的に出現する (Sogabe & Takagi, 2013)。この2

■ イシヨウジ *Corythoichthys haematopterus* KAUM-I. 45859, 92.4 mm SL■ イシヨウジ *Corythoichthys haematopterus* KAUM-I. 48130, 61.8 mm SL

系統は別種と考えられ、分類学的研究が進められている。

水深 20 m 未満のサンゴ礁域や岩礁域に生息する。与論島では水深 2–8 m でみられた。

(松沼瑞樹)



■ クチナガイシヨウジ *Corythoichthys schultzi* KAUM-I. 45858, 112.2 mm SL



■ クチナガイシヨウジ *Corythoichthys schultzi* BSKU 108305, 65.8 mm SL



■ クチナガイシヨウジ *Corythoichthys schultzi* BSKU 108286, 71.0 mm SL

トゲウオ目 ヨウジウオ科 イシヨウジ属

クチナガイシヨウジ

Corythoichthys schultzi

Herald, 1953

形態 背鰭 25-31；臀鰭 4；胸鰭 14-18；尾鰭 10；体輪 15-17 + 32-39。体は細長い。躯幹部と尾部の下隆起線は連続。尾

鰭を除く尾部は躯幹部より長い。各躯幹輪の上隆起線は円滑。吻長は眼の後縁と胸鰭基底中央間の距離より長い。吻の背縁は円滑で棘がない。

色彩 体は黄緑色で、白色と赤色の小点が多くある。体に明瞭な横帯はない。尾鰭は赤色で縁辺が白色をおびる。

分布 紅海を含むインド・西太平洋。国内では和歌山県串本、高知県柏島、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 水深 30 m 以浅のサンゴ礁域に生息する。与論島では水深 7 m の浅海域でみられた。

(松沼瑞樹)

トゲウオ目 ヨウジウオ科 ヒバシヨウジ属

ヒバシヨウジ

Doryrhamphus (Doryrhamphus) excisus excisus
Kaup, 1856

形態 背鰭 21-29；臀鰭 4；胸鰭 19-23；尾鰭 10；体輪 17-19 + 13-17。体は細長い。躯幹部と尾部の上隆起線および下隆起線は不連続。尾鰭を除く尾部は躯幹部より短い。吻長は眼の後縁と胸鰭基底中央

間の距離より短い。背鰭前方の各躯幹輪の上隆起線には 1 棘がある。吻の背縁は強い鋸歯状。

色彩 体はオレンジ色。吻から眼を通り尾鰭基底に達する 1 青色縦帯がある。青色縦帯の幅は広く体高の 1/2。尾鰭は赤褐色で複数の黄色斑がある。

分布 インド・汎太平洋。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿

岸、山口県の日本海沿岸、福岡県の沖の島、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種には 2 亜種が知られ、*D. e. abbreviatus* Dawson, 1981 は紅海、*D. e. paulus* Fritzsche, 1980 は東太平洋のクラリオン島とソコロ島に固有の亜種である (Dawson, 1985)。

水深 50 m 以浅の岩礁域やサンゴ礁域に生息する。与論島では水深 0.3-10 m から幅広い成長段階の個体が採集された。

(松沼瑞樹)



■ ヒバシヨウジ *Doryrhamphus (Doryrhamphus) excisus excisus* KAUM-I. 40018, 49.0 mm SL



■ ヒバシヨウジ *Doryrhamphus (Doryrhamphus) excisus excisus* KAUM-I. 39767, 32.9 mm SL



■ オイランヨウジ *Dunckerocampus dactyliophorus* KAUM-I. 50859, 13.8 mm SL

トゲウオ目 ヨウジウオ科 オイランヨウジ属

オイランヨウジ

Dunckerocampus dactyliophorus
(Bleeker, 1853)

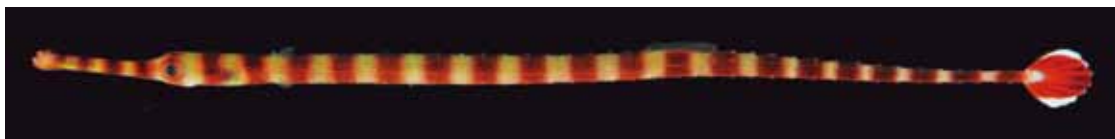
形態 背鰭 20–26；臀鰭 4；胸鰭 18–22；尾鰭 10；体輪 15–17 + 18–22。体は細長い。躯幹部と尾部の上隆起線および下隆

起線は不連続。尾鰭を除く尾部は躯幹部より短い。吻長は眼の後縁と胸鰭基底中央間の距離より長い。

色彩 頭部と体には黄色みを帯びた白色と暗赤色の横帯が多数ある。背鰭、胸鰭、臀鰭はほぼ透明。尾鰭は赤色で、全体が白色で縁取られ、中央に白色斑がある。

分布 日本国内では山口県の日本海沿岸、静岡県大瀬崎、和歌山県串本、大隅諸島、および琉球列島に分布する。国外では、フィリピン、インドネシア、ニューギニア、およびパラオに分布する。

備考 岩礁やサンゴ礁で見られる。与論島では水深 15–17 m から採集された。
(松沼瑞樹)



■ カスミオイランヨウジ *Dunckerocampus naia* NSMT-P 110510, 66.9 mm SL

トゲウオ目 ヨウジウオ科 オイランヨウジ属

カスミオイランヨウジ

Dunckerocampus naia
Allen & Kuitert, 2004

形態 背鰭 20–22；臀鰭 4；胸鰭 19–20；尾鰭 10；体輪 16–17 + 19–20。体は細長い。躯幹部と尾部の上隆起線および下隆起線は不連続。尾鰭を除く尾部は躯幹部より短い。吻長は眼の後縁と胸鰭基底中央間の距離より長い。

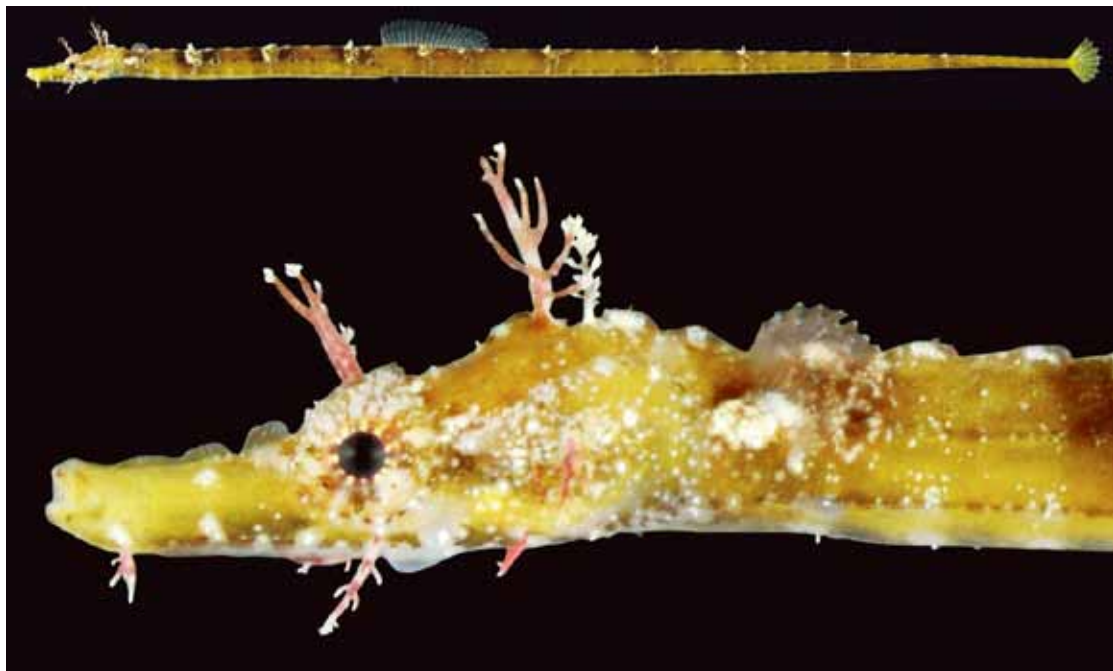
色彩 頭部と体には黄色みを帯びた白色と暗赤色の横帯が多数ある。背鰭、胸鰭、臀鰭はほぼ透明。尾鰭は赤色で上縁と下縁に白色域がある。

分布 東インド洋と西太平洋。国内では伊豆諸島、静岡県、和歌山県、大隅諸島、琉球列島から記録がある。

備考 オイランヨウジ *D. dactyliophorus* (Bleeker, 1853) に酷似するが、尾鰭中央に白色斑がないこと（オイランヨウジにはある）、尾鰭の上縁と下縁のみに白色域があ

ること（尾鰭縁辺が白色域で縁取られる）、赤暗色横帯の輪郭が不明瞭であること（輪郭が明瞭）によって生時および鮮時は区別される。

高田ほか（2008）は奄美大島産の 1 標本（NSMT-P 75406）に基づき *D. naia* を日本初記録として報告し、新標準と名カスミオイランヨウジを提唱した。国内では伊豆半島以南でダイバーによって本種の生態写真が多く撮影されているが、退色した標本ではオイランヨウジとの区別が困難になるため、本種に同定されている標本は少ない。
(千葉 悟)



■ ノコギリウミヤッコ *Halicampus brocki* KAUM-I. 42282, 81.1 mm SL

トゲウオ目 ヨウジウオ科 ウミヤッコ属

ノコギリウミヤッコ

Halicampus brocki
(Herald, 1953)

形態 背鰭 21-23；臀鰭 4；胸鰭 11-14；尾鰭 10；体輪 14 + 33-37。体は細長い。頭部に枝状に分枝した多数の皮弁がある。躯幹部と尾部の上隆起線は不連続。

躯幹部下隆起線は第1尾輪で終わる。躯幹部中央隆起線は尾部下隆起線に連続する。吻背面の中央隆起線の縁辺は棘状で、2-3個の短い隆起線をなす。尾部は躯幹部よりも長い。尾鰭がある。

色彩 頭部と体は明るい黄土色で、頭部は黄色みが強い。体側に10個の輪郭が不明瞭な茶色の鞍状斑がある。背鰭、臀鰭および胸鰭は透明。尾鰭は暗い黄色。

分布 西太平洋。国内では小笠原諸島と琉球列島に分布する。

備考 色彩の記載は与論島から得られた標本に基づく。水深23 m以浅の岩礁やサンゴ礁域で見られる。与論島では水深2 mから1個体が得られた。

(松沼瑞樹)



■ ヒメトゲウミヤッコ *Halicampus spinirostris* KAUM-I. 47877, 30.0 mm SL

トゲウオ目 ヨウジウオ科 ウミヤッコ属

ヒメトゲウミヤッコ

Halicampus spinirostris
(Dawson & Allen, 1981)

形態 背鰭 19-22；臀鰭 3；胸鰭 13-14；尾鰭 10；体輪 14-15 + 33-35。体は細長い。頭部に枝状に分枝した多数の皮弁がある。躯幹部と尾部の上隆起線は不連続。躯幹部下隆起線は第1尾輪で終わる。躯幹部中央隆起線は尾部下隆起線に連続する。吻背面の中央隆起線の縁辺は棘状

で、2-3個の独立した小棘をなす。尾部は躯幹部よりも長い。尾鰭がある。

色彩 頭部と体はうすい黄緑で、頭部と躯幹部腹面は茶色みがかかる。体側に帯状の模様はない。背鰭、臀鰭および胸鰭は透明。尾鰭はうすい黄緑で鰭条に沿って多数の小

小さな白色点がある。そのほかの鱗は透明で目立った模様はない。

分布 東インド洋と西太平洋。国内では鹿児島県の与論島、および沖縄県の石垣島と慶留間島から記録されている。

備考 色彩の記載は与論島から得られた標本に基づく。計数形質の記載は松沼ほか(2013)とDawson(1985)に基づく。松沼ほか(2013)により日本初記録種として報告された。

水深2-26 mの岩場やサンゴ礁でみられる。与論島では水深2 mから1個体が採集された。

(松沼瑞樹)



■ ヒメゲウミヤッコ *Halicampus spinostris* KAUM-I. 47877, 30.0 mm SL

トゲウオ目 ヨウジウオ科 タツノオトシコ属

クロウミウマ

Hippocampus kuda
Bleeker, 1852

形態 背鱗16-19; 胸鱗15-18; 体輪11 + 34-38。体は細長く、腹部はふくらむ。頭頂部の棘(頂冠)は高い。吻はやや長い。尾鱗はない。

色彩 頭部と体は黒色がかった茶色で多数の白色点があり、躯幹部の腹側は黄土色、尾部の腹側は緑色がかかる。背鱗に1本の細い黒色帯がある。

分布 インド・太平洋。国内では伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 色彩の記載は与論島から得られた標本に基づく。本種はオオウミウマ *H. kelloggi* Jordan & Snyder, 1901 とよく似るが、尾輪数が34-38とやや少ない(オオウミウマでは39-41)ことで識別される。

汽水域や内湾でみられ、与論島では漁港内の水深1-2 mから採集された。

(松沼瑞樹)



■ クロウミウマ *Hippocampus kuda*
KAUM-I. 55186, 44.8 mm TL



■ クロウミウマ *Hippocampus kuda*
KAUM-I. 39726, 176.7 mm TL



■ カムリヨウジ *Micrognathus andersonii* KPM-NI 30856, 56.6 mm SL

トゲウオ目 ヨウジウオ科 カムリヨウジ属

カムリヨウジ

Micrognathus andersonii
(Bleeker, 1858)

形態 背鱗17-24; 臀鱗3; 胸鱗11-13; 尾鱗10; 体輪15-17 + 27-32。体は細長く、尾部は躯幹部よりやや長い。躯幹部と尾部の下隆起線と上隆起線はともに不連続。尾部の隆起線は円滑。背鱗起部は躯

幹部(肛門より前)に位置する。

色彩 体は変異に富み、褐色から灰色がかかったものまで様々。鰓蓋に大きな円形斑がある(ないこともある)。

■ カムリヨウジ *Micrognathus andersonii* KPM-NI 30871, 56.4 mm SL■ カムリヨウジ *Micrognathus andersonii* KPM-NI 30828, 51.6 mm SL■ カムリヨウジ *Micrognathus andersonii* KPM-NI 30872, 36.4 mm SL

分布 紅海を含むインド・太平洋。国内では和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 サンゴ礁域や岩礁域の浅場に生息し、与論島では水深2-8 mから採集された。(松沼瑞樹)

■ カムリヨウジ *Micrognathus andersonii* KAUM-I. 51459, 43.7 mm SL

トゲウオ目 ヨウジウオ科 ボウヨウジ属

ハチジョウボウヨウジ

Phoxocampus diacanthus
(Schultz, 1943)

形態 背鰭20-24；臀鰭4；胸鰭13-15；尾鰭10；体輪15-16 + 25-28。体は細長く、躯幹部と尾部はほぼ同長。躯幹部と尾部の下隆起線と上隆起線はともに連続。躯幹部の中央隆起線は最終躯幹輪あるいは第1尾輪で終わる。尾部の隆起線は鋸歯状。

■ ハチジョウボウヨウジ *Phoxocampus diacanthus* KAUM-I. 55142, 70.9 mm SL

背鰭起部は躯幹部（肛門より前）に位置する。

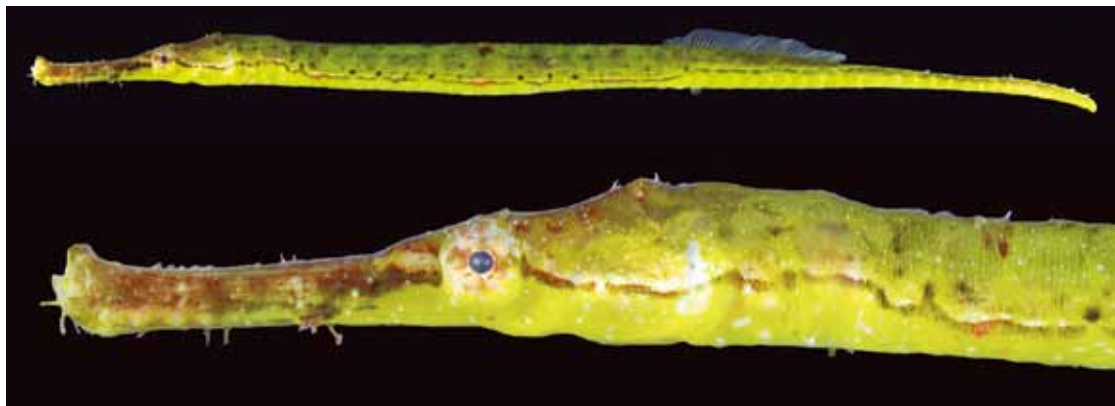
色彩 体は暗褐色で、体側に輪郭が不明瞭な暗色の横帯が7本ある。尾鰭基部の直前に白色の横帯が1本ある。尾鰭は白

色で縁取られる。

分布 東インド洋と太平洋。国内では伊豆諸島、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 水深4-21 mのサンゴ礁域や岩礁域に生息し、与論島では水深12-15 mから採集された。

(松沼瑞樹)



■トゲヨウジ *Syngnathoides biaculeatus* KAUM-I. 51434, 185.0 mm SL

トゲウオ目 ヨウジウオ科 トゲヨウジ属

トゲヨウジ

Syngnathoides biaculeatus
(Bloch, 1785)

形態 背鰭37-50；臀鰭4；胸鰭20-24；体輪15-18 + 40-54。体は細長い。頭部に短い皮弁が多数ある。躯幹部と尾部の上隆起線は連続。躯幹部中央隆起線は尾

部で上方に反り背鰭の後方で終わる。吻背面はなめらか。尾部は躯幹部よりも短い。尾鰭はない。

色彩 頭部と体は緑色や茶色に変異に富む、暗色の帯などの模様をもつこともある。

分布 紅海を含むインド・太平洋。国内では伊豆諸島、茨城県以南の南日本に分布する。

備考 西オーストラリア沿岸の個体群は、そのほかの産地のものと比べて躯幹輪数や背鰭鰭条数に差異があることが知られる(Dawson, 1985)。

水深7 m以浅でみられ、タツノオトシゴ属魚類のように尾を藻に巻きつけて体を保持する。与論島では水深1.5 mの砂浜で引き網により採集された。

(松沼瑞樹)



■ ヘラヤガラ *Aulostomus chinensis* FRLM 42719, 344.6 mm SL■ ヘラヤガラ *Aulostomus chinensis* FRLM 43008, 297.0 mm SL■ ヘラヤガラ *Aulostomus chinensis* KAUM-I. 51190, 133.8 mm SL

トゲウオ目 ヘラヤガラ科 ヘラヤガラ属

ヘラヤガラ

Aulostomus chinensis
(Linnaeus, 1766)

形態 背鰭 VIII-XIII-iii, 23-28; 臀鰭 iii, 23-29; 胸鰭 17; 腹鰭 6; 側線有孔鱗 244-258; 背鰭棘条部側線上方横列鱗 19-21; 側線下方横列鱗 15-16; 脊椎骨 25-26+37-38。吻と頭部は著しく側扁する。体はやや側扁する。吻と頭部は無鱗で、体は微小櫛鱗に被われる。口は長い管状の吻の先端に斜めに開く。下顎先端に髭がある。背鰭棘は互いに鱗膜で連続せず、分離する。

色彩 体色の変異が著しく、暗褐色から鮮黄色まで様々。横帯を現すこともある。通常は吻部に黒色縦帯がある。背鰭と臀鰭は基部付近が暗色でその先は明色。腹鰭基部と尾鰭に黒色斑がある。

分布 インド・汎太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の南日本、若狭湾、大隅諸島、琉球列島、大東諸島に分布する。

■ ヘラヤガラ *Aulostomus chinensis* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

備考 全長 1 m になる。浅い岩礁やサンゴ礁に生息する。海藻の茂みや岩陰に倒立したり、中・大型魚に寄り添って泳ぐなど特異な行動が知られている。長い吻はスポイトのような役割で小魚や小甲殻類を吸い込むようにして補食する。

ヘラヤガラ科は 1 属 3 種からなり、近縁なヤガラ科とは吻が長く体が細長いという形態の特徴は類似しているが、ヤガラ科には背鰭棘と髭が無いことから容易に区別できる。日本産はヘラヤガラ 1 種のみ。

(千葉 悟)



■ アオヤガラ *Fistularia commersonii* KAUM-I. 51217, 519.2 mm SL



■ アオヤガラ *Fistularia commersonii* KAUM-I. 48070, 201.5 mm SL



■ アオヤガラ *Fistularia commersonii* FRLM 42711, 185.0 mm SL

トゲウオ目 ヤガラ科 ヤガラ属

アオヤガラ

Fistularia commersonii
Rüppell, 1838

形態 背鰭 15-17；臀鰭 14-16；胸鰭 13-15；腹鰭 6。体は細長い。両眼の間の頭部背面は平坦。尾柄部の側線鱗には鋭い後向棘がない。背中線上に鱗がない。

色彩 生時の体は淡緑色か淡褐色。興奮すると幅広い暗褐色の横帯を現す。

分布 インド・汎太平洋、地中海東部（導入）に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島、大東諸島、尖閣諸島、北海道から九州までの日本沿岸に広く分布する。

備考 全長 1.5 m になる。沿岸の水深

35 m 以浅の岩礁やサンゴ礁に生息する。ヤガラ科は本種とアカヤガラ *F. petimba* Lacepède, 1803 の 2 種が日本に分布する。アカヤガラとは、尾柄部の側線鱗に鋭い後向棘がない（アカヤガラには鋭い後向棘がある）こと、背中線上に鱗がない（鱗がある）こと、生時の体が淡緑色あるいは淡褐色（赤色）であることで識別される。

（千葉 悟）

トゲウオ目 ヘコアユ科 ヘコアユ属

ヘコアユ

Aeoliscus strigatus
(Günther, 1861)

形態 背鰭 III-IV-10；臀鰭 9-12；胸鰭 10-12；腹鰭 3-5。体は極端に側扁し、甲板で覆われる。体後端の棘は背鰭第 1 棘で、その下に背鰭軟条部と尾鰭、臀鰭がある。背鰭第 1 棘の基部には関節があり可動する。口は小さく管状の吻の先端に

開く。幼魚は成魚に比べて体が著しく短く、体の表面には骨質隆起が発達する。吻も短く、口は上を向く。

色彩 成魚の体色は銀白色で、吻先端から尾鰭にかけて 1 本の黒色縦帯がある。帯の太さには個体差がある。吻前縁の縁辺部は赤色を帯びる。幼魚は体全体が茶褐色を帯び、吻先端から臀鰭基部に向かう黒色線がある。黒色素胞が体のほぼ全域に散在し、特に腹側に色素胞が密に分布する。

分布 西太平洋に分布。国内では相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から記録されている。

備考 常に頭部を下にして造礁サンゴの周りを群れて泳ぎまわっているが、水平に泳ぐこともできる。本種はその特徴的な容姿から観賞魚としての人気が高い。

（大石一樹）



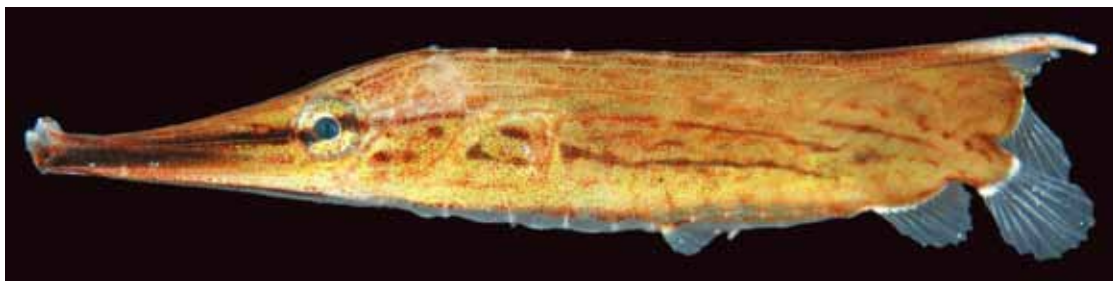
■ ヘコアユ *Aeoliscus strigatus* KAUM-I. 42297, 132.5 mm SL



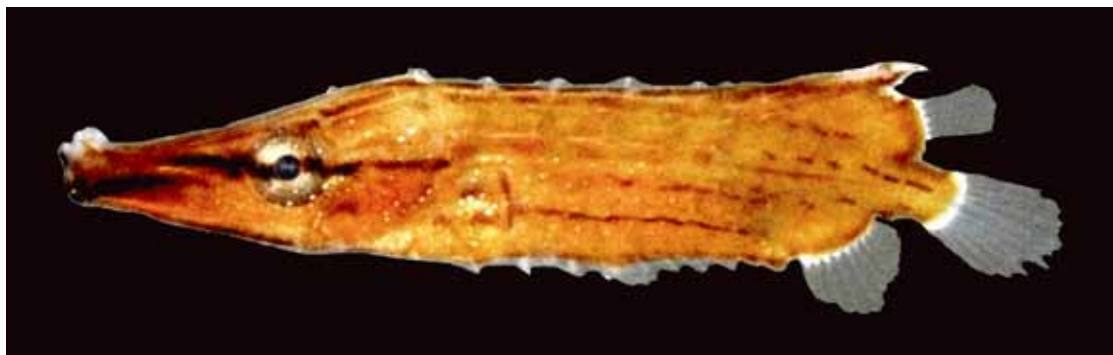
■ ヘコアユ *Aeoliscus strigatus* BSKU 108254, 50.1 mm SL



■ ヘコアユ *Aeoliscus strigatus* NSMT-P 110394, 24.5 mm SL



■ ヘコアユ *Aeoliscus strigatus* BSKU 106181, 19.8 mm SL



■ ヘコアユ *Aeoliscus strigatus* KAUM-I. 41152, 11.9 mm SL



■ シマヒメヤマノカミ *Dendrochirus brachypterus* KAUM-I. 39791, 110.1 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 ヒメヤマノカミ属

シマヒメヤマノカミ

Dendrochirus brachypterus
(Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XIII, 8-10; 臀鰭 III, 5-6; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列 39-50。体は中庸で後方につれてよく側扁する。口蓋骨歯はない。幼魚は短い眼上皮弁をもつが成魚では欠く。吻端のヒゲ状

皮弁は2本できわめて短い。背鰭の最長棘は最大体高より短い。上部の胸鰭鰭条は成長にともない分枝する。尾鰭の後縁は円い。頭部と体側の鱗は櫛鱗。

色彩 体は茶褐色で、赤みが強いものなど変異がある。尾柄を含める体側に6本の太い褐色から赤茶色の横帯をもつ。背鰭と臀鰭の軟条部、および尾鰭に多数の黒色点がある。背鰭棘に黒色のしま模様がある。胸鰭に5-9本の赤茶色から褐色の横帯が

ある; 横帯の内部に黒色から濃青色の点列がある(点列を欠くあるいは不明瞭な個体もいる)。

分布 インド・西太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では房総半島以南の南日本に広く分布する。

備考 水深80 m以浅の岩礁域に生息する。与論島では水深1-3 mから1個体が採集された。

(松沼瑞樹)

カサゴ目 フサカサゴ科 ヒメヤマノカミ属

キリンミノ

Dendrochirus zebra
(Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XIII, 9-11; 臀鰭 III, 5-7; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列 45-57。体は中庸で後方につれてよく側扁する。口蓋骨歯はない。側部に複数の分枝をとまう長いムチ状の眼上皮弁をもつ。吻端のヒゲ状皮弁は3本。背鰭の最長棘は最大体高と同じ長さかやや長い。胸鰭鰭条は幼魚期に糸状に伸長するが、成長にともない退縮する。上部の胸鰭鰭条は成長にともない分枝するが、最大でも1回しか分枝しない。尾鰭の後縁は円い。頭部と体側の鱗は櫛鱗。

色彩 体は茶褐色で、赤みが強いものなど変異がある。体側に5本の太い褐色から赤茶色の横帯をもつ。尾柄に「T」を左に90°たおした形の模様がある; 模様の後部はふつう後方にのび尾鰭基部まで達する。背鰭と臀鰭の軟条部、および尾鰭に多数の黒色点がある。背鰭棘に黒色のしま模様がある。胸鰭に輪郭が不明瞭なしま模様がある。

分布 インド・西太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、房総半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に広く分布する。

備考 キリンミノは背鰭軟条数が通常10、臀鰭軟条数が通常6、胸鰭鰭条数が通常17、吻端に3本のヒゲ状皮弁をもつ、な

どの特徴により同属他種と容易に識別される。本種の幼魚は、体長40 mmほどまでは胸鰭鰭条がすべて不分枝、および吻端に3本のヒゲ状皮弁をもつなどの特徴が、むしろネツタイミノカサゴ *P. antennata* (Bloch, 1787) や キミオコゼ *P. radiata* Cuvier, 1829 など一部のミノカサゴ属魚類の幼魚とよく似ており、しばしば誤同定される。しかし、キリンミノは尾柄部の特徴的な模様や、鰭条数の組み合わせにより、幼魚の形態の似るミノカサゴ属魚類と識別できる。

与論島では水深2-8 mから幼魚から成魚まで幅広い成長段階の個体が採集された。

(松沼瑞樹)



■ キリンミノ *Dendrochirus zebra* FRLM 43361, 105.3 mm SL



■ キリンミノ *Dendrochirus zebra* FRLM 42999, 65.9 mm SL



■ キリンミノ *Dendrochirus zebra* KAUM-I. 51591, 44.0 mm SL



■ キリンミノ *Dendrochirus zebra* KAUM-I. 47861, 64.8 mm SL



■ キリンミノ *Dendrochirus zebra* KAUM-I. 47873, 17.2 mm SL



■ キリンミノ *Dendrochirus zebra* KAUM-I. 51525, 12.4 mm SL



■ チブルネッタフサカサゴ *Parascorpaena aurita* KAUM-I. 42704, 107.0 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 ネッタフサカサゴ属

チブルネッタフサカサゴ

Parascorpaena aurita
(Rüppell, 1838)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 35-44; 側線有孔鱗 22-23; 鰓耙 14-18。体側の鱗は円鱗。涙骨下縁には2棘あり、成魚の後方棘は前方に向かい、幼魚では下に向かって伸びる。涙骨側棘はない。第1眼下骨隆起に棘がない。第1、第2眼下骨隆起は癒合しない。第2眼下骨隆起に2棘ある。眼下縁窩前方は浅く窪む。鼻棘は単尖頭。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼後棘は単尖頭。額棘

と余棘はない。後頭窩は深く、その前縁の隆起は背面からみてやや後方に湾入する。上・下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鰓蓋骨上方・下方棘は単尖頭。眼上皮弁の長さは変異に富み、眼径より長くなることも稀ではない。

色彩 体色は変異に富むが、ふつうは赤褐色あるいは茶色味を帯びる。尾柄部に白色斑があり、その前縁から体色の地色が白色斑の中央に侵入する。雌雄とも背鰭棘の鱗膜には黒色斑がない。

分布 インド・西太平洋の亜熱帯・熱帯域に広く分布する。国内では屋久島を北限とする大隅諸島と琉球列島から記録されている。特に沖縄本島沿岸では普通種。

備考 本項の「形態」に記載された計数形質はインド・西太平洋産のチブルネッタフサカサゴ 96 個体に基づく。最大体長は 117.2 mm。

チブルネッタフサカサゴは 2009 年に日本初記録種として報告された。本種は第 1 眼下隆起に眼下骨棘がないことから、*P. picta* (Cuvier, 1829) を除く同属他種とは容易に識別される。前者は後者と比較して、第 1 と第 2 眼下骨隆起が分かれており癒合しないこと (*P. picta* では癒合する)、後頭窩が深いこと (浅く、概ね平坦)、側線上方横列鱗が 35-44 枚 (最頻値 40) であること (43-49 枚、最頻値 45) などによって区別可能。

(本村浩之)

カサゴ目 フサカサゴ科 ネッタフサカサゴ属

ネッタフサカサゴ

Parascorpaena mossambica
(Peters, 1855)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 37-45; 側線有孔鱗 22-23; 鰓耙 11-15。体側の鱗は円鱗だが、稀に弱い鋸歯を有する鱗もある。涙骨下縁には2棘あり、成魚の後方棘は前方に向かい、幼魚では下に向かって伸びる。涙骨側棘はない。眼下骨棘は3本。眼下縁窩前方は浅く窪む。鼻棘は

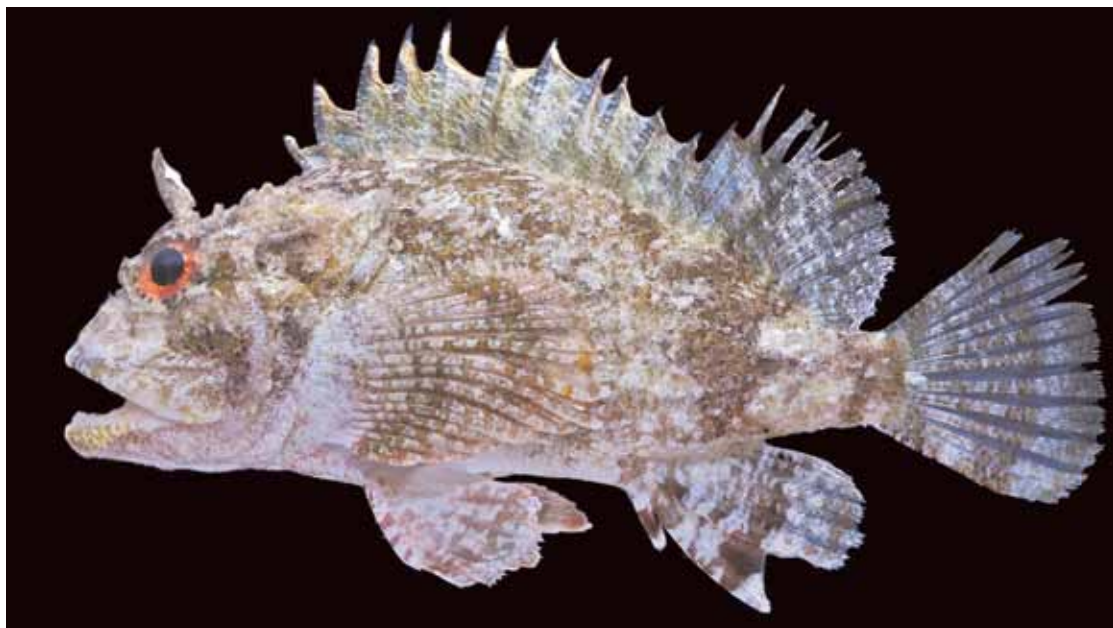
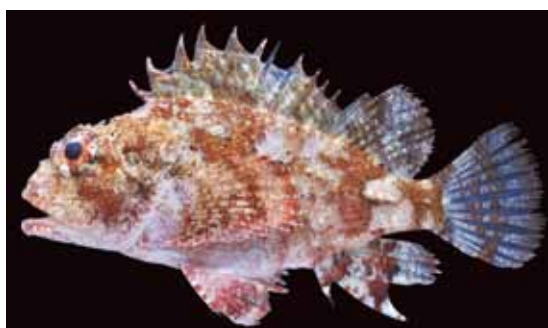
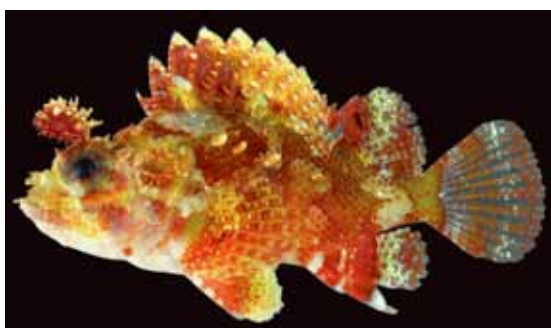
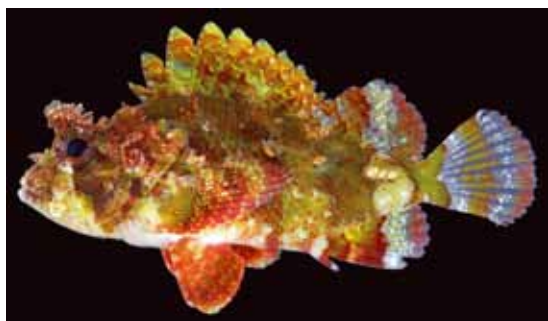
単尖頭。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼後棘は単尖頭。額棘と余棘はない。後頭窩は深く、その前縁の隆起は背面からみて後方に湾入する。上・下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鰓蓋骨上方・下方棘は単尖頭。眼上皮弁の長さは変異に富み、眼径より長くなることも稀ではない。

色彩 体色は変異に富むが、ふつうは茶色味を帯びる。尾柄部に白色斑があり、その前縁から体色の地色が白色斑の中央に侵入する。雌雄とも背鰭棘の鱗膜には黒色斑がない。

分布 インド・西太平洋の亜熱帯・熱帯域に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本項の「形態」に記載された計数形質は西太平洋産のネッタフサカサゴ 79 個体に基づく。最大体長は 99.2 mm。

ネッタフサカサゴは眼下骨棘が3本であることから、トゲイッテンフサカサゴを除く同属他種とは容易に識別される。前者は後者と比較して、体色が茶色味を帯びること (トゲイッテンフサカサゴでは赤味を帯びる)、尾柄部の白色斑に、その前縁から体

■ ネットイフサカサゴ *Parascorpaena mossambica* FRLM 42819, 88.2 mm SL■ ネットイフサカサゴ *Parascorpaena mossambica* FRLM 42818, 74.9 mm SL■ ネットイフサカサゴ *Parascorpaena mossambica* KAUM-I. 45871, 37.8 mm SL■ ネットイフサカサゴ *Parascorpaena mossambica* KAUM-I. 51251, 36.6 mm SL■ ネットイフサカサゴ *Parascorpaena mossambica* KAUM-I. 40070, 29.3 mm SL

色の地色が白色斑の中央に深く侵入すること（ほとんど侵入しない）、後頭窩が深いこと（浅く、ほぼ平坦）などによって区別可能。さらに、トゲイッテンフサカサゴにみられる背鰭鰭膜上の黒色斑の有無や下顎歯の発達などの性的二型はネットイフサカサゴに

はみられない。

ネットイフサカサゴはインド・西太平洋に広く分布するが、インド洋と太平洋の個体群は別種である可能性が高いことが指摘されている (Motomura et al., 2011)。タイプ産地がモザンビークである *P. mossambica*

はインド洋の個体群に、東南アジアがタイプ産地の *P. armata* (Sauvage, 1973) が太平洋の個体群に適用すべき学名であろう。

益田ほか (1975) はクロホシフサカサゴ (仮称) *Scorpaena* sp. 1 として瀬底島から採集された 1 標本を報告した。この標本

は清水（1984）によってクロホシフサカサゴ *Scorpaena bynoensis* Richardson、中坊（1993, 2000）によってクロホシフサカサゴ *Parascorpaena* sp. とそれぞれ同定された。本標本（URM-P 4227, 43.4 mm SL）を調査した結果、ネッタフサカサゴと同定されたため、和名クロホシフサカサゴは無効である。なお、*S. bynoensis* は *P. aurita* (Rüppell, 1838) の新参同物異名である (Motomura et al., 2009)。

益田ほか（1975）がネッタフサカサゴ *S. zanzibarensis* として、清水（1984）がネッタフサカサゴ *S. picta* として報告した個体は同一個体であるが、現時点の知見ではヒメサツマカサゴ *Scorpaenopsis cotticeps* Fowler, 1938 に同定される。

（本村浩之）



■ ネッタフサカサゴ *Parascorpaena mossambica* KAUM-I. 40071, 23.9 mm SL



■ イッテンフサカサゴ *Parascorpaena moultoni* KAUM-I. 55152, 34.2 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 ネッタフサカサゴ属

イッテンフサカサゴ

Parascorpaena moultoni
(Whitley, 1961)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 39-46; 側線有孔鱗 21-23; 鰓耙 11-14。体側の鱗は円鱗。涙骨下縁には2棘あり、成魚の後方棘は前方に向かい、幼魚では下に向かって伸びる。涙骨側棘はない。眼下骨棘は2本。眼下縁窩前方は浅く窪む。鼻棘は単尖頭。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼後棘は単尖頭。額棘と余棘はない。後頭窩は浅く、ほぼ平ら。後頭窩の前縁の隆起は背面からみて後方に湾入する。上・下後側頭棘、頭頂

棘、上擬鎖骨棘、主鰓蓋骨上方・下方棘は単尖頭。眼上皮弁の長さは変異に富み、眼径より長くなることも稀ではない。

色彩 体色は変異に富むが、ふつうは赤味を帯びる。尾柄部に白色から黄色斑がある。オスの第7と第11背鰭棘の間に眼径よりやや大きな1黒斑があるが、メスにはない。

分布 インド・太平洋の亜熱帯・熱帯域に分布する。国内では高知県以南の太平洋沿岸から琉球列島にかけて分布する (Motomura, unpub. data)。

備考 本種は原記載以降、2011年まで正体不明の名義種であったが、Motomura et al. (2011) によって有効種として認められた。本項の「形態」に記載された計数形

質はインド・太平洋産のイッテンフサカサゴ 58個体に基づく。最大体長は56.2 mm。

中坊（1993, 2000）の *P. mcadamsi* は *P. moultoni* である。詳細は本村ほか（2013）のトゲイッテンフサカサゴの解説ページを参照。

イッテンフサカサゴは眼下骨棘が2本であることから、チブルネッタフサカサゴ *P. aurita* (Rüppell, 1838) と *P. picta* (Cuvier, 1829) を除く同属他種とは容易に識別される。イッテンフサカサゴの眼下骨棘は、第1眼下骨隆起上に1棘、第2眼下骨隆起上に1棘であるが、チブルネッタフサカサゴと *P. picta* は第2眼下骨隆起上に2棘である。また、イッテンフサカサゴのオスは背鰭鰭膜に1黒色斑をもつが、後者2種には黒色斑がない。

（本村浩之）

■ キミオコゼ *Pterois radiata* KAUM-I. 41254, 94.8 mm SL■ キミオコゼ *Pterois radiata* BSKU 106150, 23.9 mm SL■ キミオコゼ *Pterois radiata* KPM-NI 30757, 14.6 mm SL

の鱗は楯鱗。

色彩 体は赤茶色で腹部は白色。体側に5本のきわめて太い褐色の横帯がある；尾柄部に1本の太い褐色の縦帯があり、前部は最後部の横帯に接続し、後部は尾鳍基部に達する；帯模様は白色で縁取られる。背鳍と臀鳍の軟条部、および尾鳍は半透明で黒色点はない。

分布 紅海を含むインド・西太平洋の亜熱帯・熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、高知県の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 与論島では水深1-10 mから幼魚から成魚まで幅広い成長段階の個体が採集された。本種には複数種が含まれている可能性があり分類学的再検討が必要である。(松沼瑞樹)

カサゴ目 フサカサゴ科 ミノカサゴ属

キミオコゼ

Pterois radiata
Cuvier, 1829

形態 背鳍 XII, 10-11；臀鳍 III, 6；胸鳍 16-17；腹鳍 I, 5。体は中庸で後方にむか

うにつれてよく側扁する。口蓋骨歯はない。眼上皮弁は長く、側部に分枝をもたない単純なムチ状。吻端にきわめて短いヒゲ状皮弁が多数ある。背鳍の最長棘は最大体高よりも長い。胸鳍鳍条はすべて不分枝；上部の鳍状は鳍膜をともなわず糸状に伸長する。尾鳍の後縁は円い。頭部と体側上方

■ ハナミノカサゴ *Pterois volitans* KAUM-I. 47974, 146.1 mm SL■ ハナミノカサゴ *Pterois volitans* FRLM 42998, 160.3 mm SL■ ハナミノカサゴ *Pterois volitans* KAUM-I. 45774, 105.6 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 ミノカサゴ属

ハナミノカサゴ

Pterois volitans
(Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 XIII, 10–11；臀鰭 III, 6–7；胸鰭 14–15；腹鰭 I, 5。体は中庸で後方にむかうにつれてよく側扁する。口蓋骨歯はない。眼上皮弁は先端にフラップをともなう長いムチ状；成長につれて退縮する。吻

端のヒゲ状皮弁は2本できわめて短い。額棘と耳棘を欠く（稀にもつ个体がある；ただし発達が悪い）。涙骨下縁と前鰓蓋骨後縁の皮弁は房状。背鰭の最長棘は最大体高と同じ長さかやや長い。胸鰭鰭条はすべて不分枝；鰭膜は鰭条の先端まで達する。尾鰭の後縁は円い。頭部と体側の鱗はすべて円鱗。

色彩 体は赤色から黒色まで変異に富む。頭部腹面と胸部に縞模様がある。背鰭と臀

鰭の軟条部、および尾鰭は半透明で多くの黒色点がある。

分布 太平洋の亜熱帯・熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、房総半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に広く分布する。

備考 近縁のミノカサゴ *P. lunulata* (Temminck & Schlegel, 1843) とは、胸鰭鰭条が通常 14 であること（ミノカサゴでは 13）、



■ ハナミノカサゴ *Pterois volitans* KAUM-I. 40375, 94.5 mm SL

体側の鱗が小さく縁取りがないこと（大きく暗色で縁取られる）、涙骨下縁と前鰓蓋後縁の皮弁が多数の分枝をもつ房状であること（単純な葉状）、背鰭と臀鰭の軟条部、および尾鰭に多数の整列した黒色点があること（ない；輪郭が不明瞭な黒色斑をもつことはあるが整列した点列ではない）などの特徴で異なる。

与論島では水深 1-10 m から幼魚から成魚まで幅広い成長段階の個体が採集された。

（松沼瑞樹）



■ ハナミノカサゴ *Pterois volitans* KAUM-I. 51472, 73.4 mm SL



■ ハナミノカサゴ *Pterois volitans* KAUM-I. 51507, 24.6 mm SL



■ ハナミノカサゴ *Pterois volitans* BSKU 106122, 15.5 mm SL



■ ハナミノカサゴ *Pterois volitans* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ マメサンゴカサゴ *Scorpaenodes hirsutus* KAUM-I. 48121, 29.2 mm SL



■ マメサンゴカサゴ *Scorpaenodes hirsutus* KAUM-I. 48141, 22.1 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 イソカサゴ属

マメサンゴカサゴ

Scorpaenodes hirsutus
(Smith, 1957)

形態 背鰭 XIII, 8; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 19; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 31。口蓋骨歯はない。涙骨下縁には2棘あるが未発達で逆三角形あるいは丸みを帯びる。涙骨側棘はない。眼下骨棘は3本。眼下骨隆起の下方に棘はない。鼻棘は単尖頭。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼後棘は単尖頭。眼隔棘、および額棘はない。後頭窩は浅く、ほぼ平ら。後頭域の前後縁に明瞭な隆起線はない。上・

下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鰓蓋骨上方・下方棘は単尖頭。

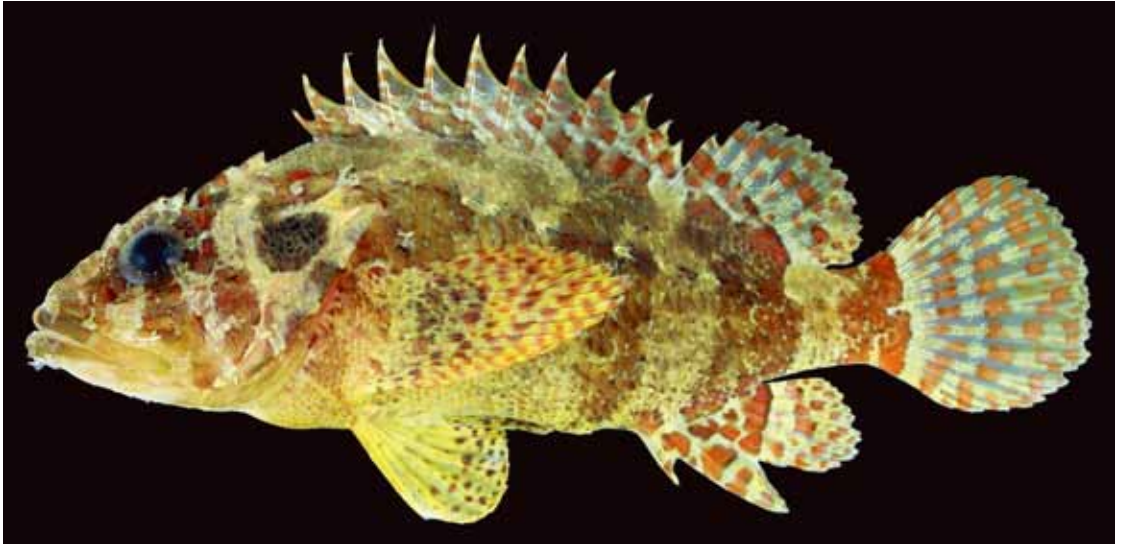
色彩 体は茶色味を帯びたまだら模様。主鰓蓋骨と間鰓蓋骨上に黒色斑はない。背鰭棘部に黒色斑はない。

分布 インド・西太平洋の亜熱帯・熱帯域に分布する。国内では鹿児島県硫黄島以南。

備考 本項の記載は本村ほか(2013)に基づく。*Scorpaenodes hirsutus* (Smith, 1957)と*S. kelloggi* (Jenkins, 1903)は分類学的に混乱しており、両名義種のタイプ標本を含めた多くの標本に基づく分類学的

研究が現在進められている。

日本からは*S. hirsutus*のみが記録されており、標準和名マメサンゴカサゴが提唱されている(中坊, 2000)。与論島産の標本は、*S. kelloggi*のタイプ標本と形質がよく一致するため(Motomura, unpub. data)、*S. hirsutus*ではなく、*S. kelloggi*である可能性が高い。しかし、中坊(2000)の「マメサンゴカサゴ*S. hirsutus*」や*S. hirsutus*自体の正体が現時点では不明なため、和名の検討等は今後の研究結果を待たなければならない。ここでは便宜的にこれまで日本から記録されている「マメサンゴカサゴ*S. hirsutus*」として掲載する。
(本村浩之)



■ グアムカサゴ *Scorpaenodes guamensis* KAUM-I. 50818, 68.0 mm SL



■ グアムカサゴ *Scorpaenodes guamensis* KAUM-I. 47900, 40.0 mm SL



■ グアムカサゴ *Scorpaenodes guamensis* KAUM-I. 46117, 32.7 mm SL



■ グアムカサゴ *Scorpaenodes guamensis* BSKU 108272, 23.1 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 イソカサゴ属

グアムカサゴ

Scorpaenodes guamensis
(Quoy & Gaimard, 1824)

形態 背鰭 XIII, 8-9; 臀鰭 III, 4-5; 胸鰭 18-20; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 42-45。体側の鱗は楯鱗。口蓋骨歯はない。涙骨下縁には2棘あるが未発達で逆三角形あるいは丸みを帯びる。涙骨側棘はよく発達するが、稀に隆起のみで棘をもたないこともある。眼下骨棘は2本で、第1棘は眼の下方、2棘は眼の後方に位置する。第1眼下骨棘の下方に棘はない。鼻棘は単尖頭。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼後棘は単尖頭。眼隔棘と耳棘はない。後頭高は浅く、ほぼ平ら。後頭域の前後縁に明瞭な隆起線はない。下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鰓蓋骨上方・下方棘は単尖頭。

色彩 体色は変異に富むが、ふつうは茶色味を帯びる。主鰓蓋骨上に1黒色斑をもつ。ふつう胸鰭基底には黒色帯がないが、稀に薄い黒色帯をもつ個体もある。

■ グアムカサゴ *Scorpaenodes guamensis* KAUM-I. 51184, 22.6 mm SL

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 *Scorpaenodes guamensis* とサンゴカサゴ *S. scaber* (Ramsay & Ogilby, 1886)

を含むグアムカサゴ類似種群は分類学的にきわめて混乱している。現在研究が進んでいるが、*S. scaber* はオーストラリア温帯域の固有種で、サンゴカサゴと呼ばれている種はグアムカサゴの色彩変異である可能性が高い。

(本村浩之)

■ ヒメサンゴカサゴ *Scorpaenodes parvipinnis* KAUM-I. 55144, 81.7 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 イソカサゴ属

ヒメサンゴカサゴ

Scorpaenodes parvipinnis
(Garrett, 1864)

形態 背鰭 XIII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 18; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 49-62。口蓋骨歯はない。眼下骨棘は5-15本。眼下

骨棘の先端は横から見て眼下下縁に達しない。

色彩 体は赤褐色を帯びたまだら模様。主鰓蓋骨と間鰓蓋骨上に黒色斑はない。背鰭棘部に黒色斑はない。

分布 インド・太平洋の亜熱帯・熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、相模湾以

南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は眼下骨隆起が鋸歯状を呈し、小棘の数が5-15本に達することから普通3本以下の同属他種と容易に識別される。

(本村浩之)



■ セボシイソカサゴ *Scorpaenodes varipinnis* KAUM-I. 45854, 29.6 mm SL



■ セボシイソカサゴ *Scorpaenodes varipinnis* KAUM-I. 45855, 29.2 mm SL



■ セボシイソカサゴ *Scorpaenodes varipinnis* KAUM-I. 51469, 10.7 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 イソカサゴ属

セボシイソカサゴ

Scorpaenodes varipinnis
Smith, 1958

形態 背鰭 XIII, 8; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 38-40。体側の鱗は櫛鱗。口蓋骨歯はない。涙骨下縁には2棘あるが未発達で逆三角形あるいは丸みを帯びる。涙骨側棘はよく発達するが、稀に隆起のみで棘をもたないこともある。眼下骨棘は2本で、第1棘は眼の下方、2棘は眼の後方に位置する。第1眼下骨棘の下方に棘はない。鼻棘は単尖頭。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼後棘は単尖頭。眼隔棘と額棘はない。後頭高は浅く、ほぼ平ら。後頭域の前後縁に明瞭な隆起線はない。下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鰓蓋骨上方・下方棘は単尖頭。

色彩 体色は変異に富むが、ふつうは茶色味を帯びる。背鰭棘部後方に1黒色斑をもつ。胸鰭基底に明瞭な黒色帯がある。成魚は主鰓蓋骨上に1黒色斑（稀に赤褐



■ セボシイソカサゴ *Scorpaenodes varipinnis* KAUM-I. 39951, 17.5 mm SL

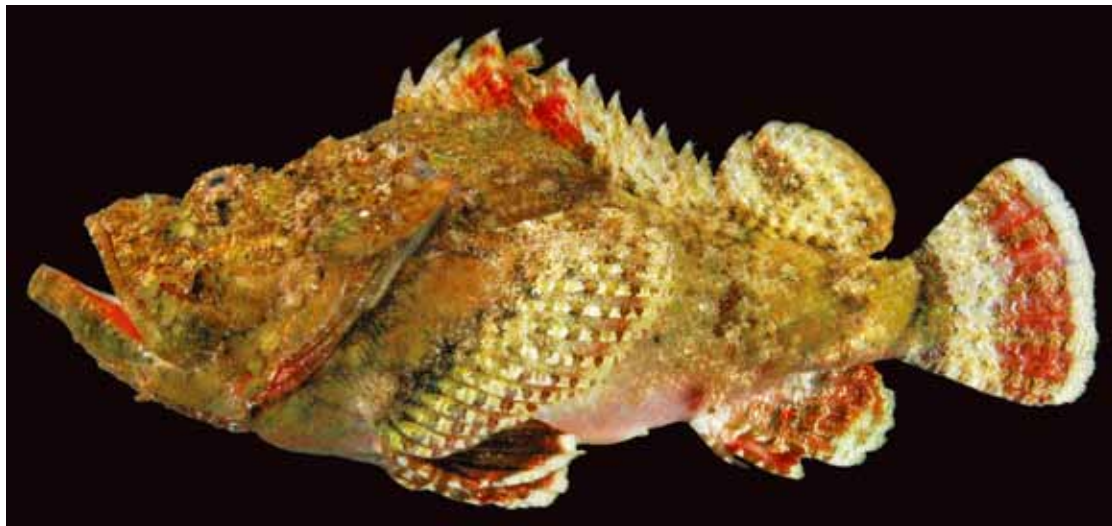
色斑)をもつ。

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布。国内では伊豆諸島、大隅諸島、琉球列島から標本に基づき記録されている。

備考 篠原(1998)は、Randall et al.(1997)の写真(pl. 4B: *S. varipinnis*)を引用して本種の分布域に小笠原諸島を含めたが、

Randall et al.(1997)の *S. varipinnis* はイソカサゴ *S. evides* (Jordan & Thompson, 1914)である。したがって、セボシイソカサゴは今だ標本に基づく小笠原諸島からの記録がない。

セボシイソカサゴは、背鰭棘部後方に1斑紋をもつこと、胸鰭基底に明瞭な黒色帯があることなどから同属他種と識別される。(本村浩之)

■ ニライカサゴ *Scorpaenopsis diabolus* KAUM-I. 45868, 186.7 mm SL■ ニライカサゴ *Scorpaenopsis diabolus* KAUM-I. 42703, 178.5 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 オニカサゴ属

ニライカサゴ

Scorpaenopsis diabolus
(Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 41-47; 鰓耙 12-15。吻長は頭長の 29.6-35.8%。眼隔幅は頭長の 20.4-25.3% で、眼高径より大きい。眼高径は頭長の 14.4-19.9%。涙骨隆起は鋸歯状を呈し、その先端はふつつ露出するが、稀に先端が皮下に埋没する。涙骨下縁には 2 棘あり、幼魚では単尖頭だが、成魚では稀に複尖頭。眼下骨棘は 4 本で鋸歯状を呈し、成長に伴いそれぞれが繋がり、鋸歯状の 1 隆起線を形成する。眼下縁高前方は深く窪む。

鼻棘は鋸歯状を呈さず、2-7 尖頭を有する。成長に伴い鼻棘の尖頭数は多くなる傾向がある。吻膨状部の後縁は後鼻孔後縁に達するか僅かに越える。前頭骨隆起は眼前棘基底中央から眼上棘基底後方に達する。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼後棘の縁辺は鋸歯状を呈す。耳棘の基底は眼上棘と眼後棘の基底と癒合する。後頭窩は深く、その前縁の隆起は背面からみて後方に湾入し、後縁を縁取る隆起線は良く発達する。額棘はふつつないが、痕跡的な額棘を片側だけもつ個体と両側によく発達した額棘をもつ個体もみられる。上後側頭棘はふつつ 2 尖頭だが、ごく稀に 3 尖頭。体長約 180 mm 以上の大型個体は上後側頭棘が鋸歯状を呈す。頭頂棘、頭棘翼耳骨、下後側頭棘および上擬鎖骨棘は鋸歯状を呈す。主鰓蓋骨上方棘の後端

は 5-10 尖頭、下方棘は 3-8 尖頭。主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間は無鱗、背鰭基底前方で体の背縁が著しく隆起する。最長背鰭棘は第 3 棘。臀鰭第 2 棘は第 3 棘より長い。

色彩 体色は変異に富む。胸鰭内側の第 1 鰭条から第 6 鰭条までの鰭膜の外縁付近に眼径より大きい長楕円形の 1 黒斑がある。胸鰭内側の基底上方の鰭膜および鰭条部に眼径よりやや大きい 1 黒斑がある個体と黒斑がない個体がある。胸鰭内側の基底部には明瞭な黒斑はなく、まだら模様を呈す。体長約 110 mm 以下の幼魚は、背鰭棘部基底中央から胸鰭基底を通り、胸部にかけての体側上を眼径より太い 1 黒色帯が斜めに走る（生時）。

分布 南アフリカからマルキーズ諸島にかけてのインド・太平洋域に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、南日本太平洋岸、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 中坊（1993）は本種の標準和名としてセムシカサゴを提唱した。しかし、「せむし（僂僂）」は、背骨が後方に湾曲して前かがみになっていることを意味し、身体障害者に対する差別用語として社会的に広く認識されている。そのため、本村ほか（2004）はセムシカサゴを改称し、ニライカサゴとした。

本種は眼窩径が眼隔幅より広いこと、眼隔域中央隆起が欠如すること、主鰓蓋骨上方棘の後端が複尖頭であることにより、マルスペカサゴ *S. macrochir* Ogilby, 1910 とサツマカサゴ *S. neglecta* Heckel, 1837 を除く日本産同属他種と区別される。ニライカサゴは上記2種と比較して、上後側頭棘がふつう2-3 尖頭であること（後者2種ではふつう単尖頭）、主鰓蓋骨下方棘の後端が3-8 尖頭であること（ふつう単尖頭）、背鰭第3棘が最長であること（第4棘が最長）、胸鰭条数がふつう18 であること（ふつう17）、および胸鰭内側の外縁上方に眼径より大きい1 黒斑があること（1 黒斑はなく、外縁近くに1 黒色帯があることなど）によって、容易に識別される。ただし、ニライカサゴの大型個体（体長約180 mm 以上）とサツマカサゴはともに上後側頭棘が鋸歯状を呈するため、この形質のみで両種を区別できない。また、ニライカサゴの鰓耙数は12-15（最頻値13）であり、14-15(14)のマルスペカサゴと14-16(14)のサツマカサゴより若干少ない傾向がある（本村ほか、2004）。

（本村浩之）



■ ニライカサゴ *Scorpaenopsis diabolus* KPM-NI 30755, 13.5 mm SL



■ ニライカサゴ *Scorpaenopsis diabolus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

カサゴ目 フサカサゴ科 オニカサゴ属

サツマカサゴ

Scorpaenopsis neglecta
Heckel, 1837

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 42-46。口蓋骨歯はない。涙骨隆起は鋸歯状を呈し、その先端はふつう皮下に埋没するが、稀に先端が露出する。涙骨下縁の2棘はふつう鋸歯状を呈すが、幼魚では稀に鋸歯状を呈さない。眼下骨棘は4本でふつう鋸歯状を呈するが、幼魚では稀に鋸歯状を呈さない。眼下骨棘は成長に伴いそれぞれが繋がりがり、鋸歯状の1隆起線を形成する。眼下縁窩前方は深く窪む。鼻棘は鋸歯状を呈し、2-12 尖頭を有する。吻膨状部の後縁は後鼻孔後縁を越えない。前頭骨隆起は発達し、眼前棘基底中央から眼上棘基底後方に達する。眼隔域中央隆起はない。眼前棘、眼上棘および眼後棘の縁辺はふつう鋸歯状を呈すが、幼魚では稀に鋸歯状を呈さない。耳棘の基底は眼上棘と眼後



■ サツマカサゴ *Scorpaenopsis neglecta* KAUM-I. 42275, 45.9 mm SL

棘の基底と癒合する。後頭窩は深く、その前縁の隆起は背面からみて後方に湾入し、後縁を縁取る隆起線は良く発達する。額棘はふつうないが、片側だけにある個体と両側にある個体もみられる。上後側頭棘は単尖頭。頭頂棘、頸棘、翼耳骨、下後側頭

棘および上擬鎖骨棘は鋸歯状を呈す。主鰓蓋骨上方棘の後端は2-7 尖頭。主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間は無鱗。背鰭基底前方で体の背縁が著しく隆起する。最長背鰭棘は第4棘。臀鰭第2棘は第3棘より長い。

■ サツマカサゴ *Scorpaenopsis neglecta* KAUM-I. 42276, 35.8 mm SL

色彩 胸鰭内側の外縁付近に1黒色帯がある。この黒色帯は上方ほど濃く、下方(第9-10から第17-18軟条間の鰭膜)の黒色帯は長期間の固定により稀に消失する。胸鰭内側の基部には眼窩径より小さい複数の黒斑が散在する。

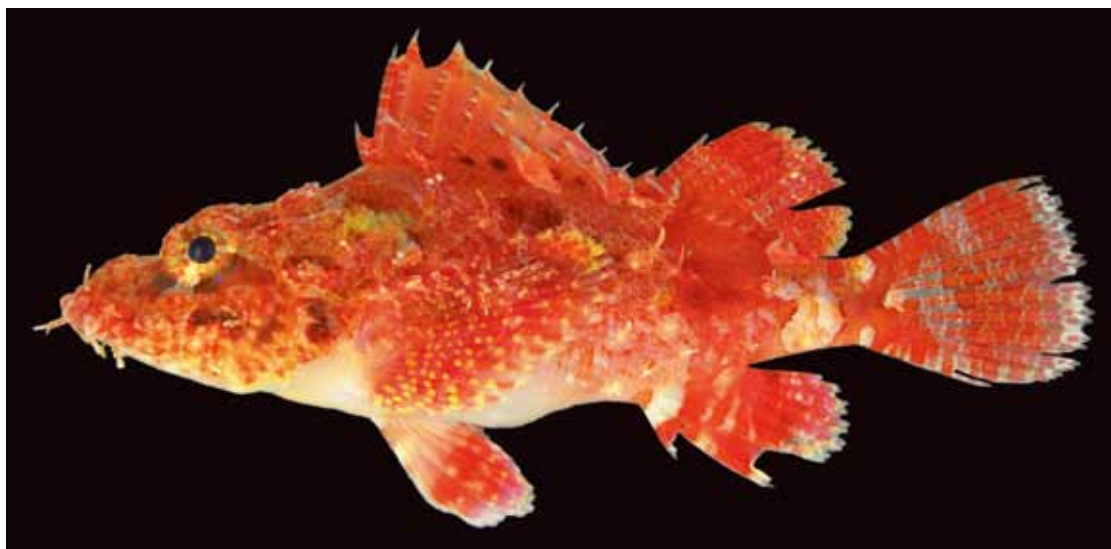
分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、山口県以南の日本海沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本種は北方に生息する個体ほど大型であることが知られている。記録されている最大体長は日本産の183 mmで、香港以南の海域から得られた標本は120 mm以下。

サツマカサゴは、眼窩径が眼隔幅より広いこと、眼隔域中央隆起が欠如すること、主鰓蓋骨上方棘の後端が複尖頭であることなどから日本産同属のニライカサゴ *S. diabolus* (Cuvier, 1829) とマルスベカサゴ *S. macrochir* Ogilby, 1910 に類似する。サツマカサゴとマルスベカサゴは形態的に

酷似し、頭部各棘が鋸歯状を呈する(サツマカサゴ)、あるいは呈さない(マルスベカサゴ)かによって両種は区別される。サツマカサゴの幼魚は、稀に鼻棘以外の頭部各棘が鋸歯状を呈さないが、吻膨状部の後縁が後鼻孔後縁を越えないこと(マルスベカサゴでは越える)、および鼻棘が鋸歯状を呈し、2-12尖頭であること(鋸歯状を呈さず、1-3本)からマルスベカサゴと識別される。ニライカサゴとの比較は前頁を参照。

(本村浩之)

■ ウルマカサゴ *Scorpaenopsis papuensis* KAUM-I. 55150, 58.1 mm SL

■ ウルマカサゴ *Scorpaenopsis papuensis* KAUM-I. 51548, 53.1 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 オニカサゴ属

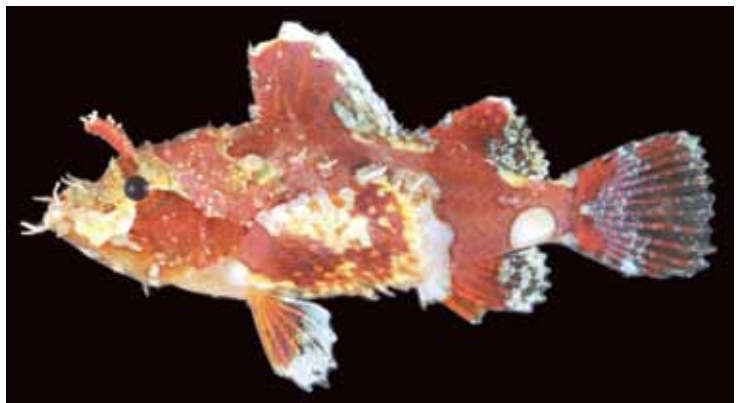
ウルマカサゴ

Scorpaenopsis papuensis
(Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 17-20; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 47-55。吻長は頭長の 32.5-35.6%。眼窩径は頭長の 17.1-22.1%。頭部の各棘は鋸歯状を呈さない。涙骨隆起の先端は皮膚に埋没する。眼下縁窩は著しく窪み、眼窩前縁下方で最深。吻膨状部の後縁は後鼻孔後縁に達しない。前頭骨隆起は良く発達し、後鼻孔後方から延び耳棘基底前方を越える。眼隔域中央隆起は良く発達する。眼隔域は深く、体側面からみて、眼の上方約 1/2 が頭部の輪郭から突出する。眼隔幅は眼窩径より小さい。眼上棘には小型の個体ほど良く発達した 1 皮弁があるが、大型の個体では皮弁が痕跡的に残るか、あるいは欠如する。耳棘は良く発達し、その基底は稀に前頭骨隆起と連絡する。後頭窩は浅く、その前縁の隆起は背面からみて後方に湾入する。成魚では窪みの後縁を縁取る隆起線が発達するが、体長 10 cm 以下の個体では隆起線が不明瞭あるいは欠如する。額棘はない。主鰓蓋骨上方棘の後端は単尖頭。体長 10 cm 以上の個体は主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間に鱗を有するが、体長 9 cm 以下の個体では無鱗。最長背鰭棘は第 3 棘。臀鰭第 2 棘は第 3 棘よりやや長い。

色彩 体色は変異に富む。胸鰭内側に顕著な色彩的特徴はない。

分布 東インドと（ハワイを除く）太平洋の

■ ウルマカサゴ *Scorpaenopsis papuensis* KPM-NI 30756, 14.5 mm SL

熱帯・亜熱帯域に広く分布する。国内からは千葉県以南の太平洋沿岸、伊豆諸島、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 ウルマカサゴは眼窩径が眼隔幅より狭いこと、眼隔域中央隆起が発達すること、主鰓蓋骨上方棘の後端が単尖頭であることなどで、以下の日本産オニカサゴ属 6 種と類似種群を形成する：オニカサゴ *S. cirrosa* (Thunberg, 1793)、トウヨウウルマカサゴ *S. orientalis* Randall & Eschmeyer, 2002、オオウルマカサゴ *S. oxycephala* (Bleeker, 1849)、ミミトゲオニカサゴ *S. possi* Randall & Eschmeyer, 2002、イヌカサゴ *S. ramaraoi* Randall & Eschmeyer, 2002、ヒウガカサゴ *S. venosa* (Cuvier, 1829)。6 種の詳細な比較は本村ほか (2004) を参照。

ウルマカサゴは 6 種の内、トウヨウウル

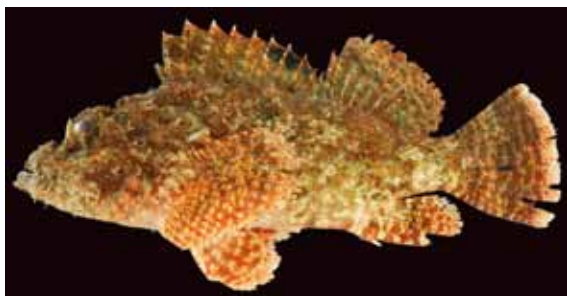
マカサゴとオオウルマカサゴと外観上良く類似することから、日本ではこれまで 3 種は混同されてきた。しかし、ウルマカサゴは後者 2 種と比較して、成魚では主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間に鱗があることにより容易に識別される（後者 2 種では成長によらず無鱗）。また、ウルマカサゴは側線鱗横列数が少なく 47-55（最頻値 52）であること、吻が背面からみてやや太短く、吻長が頭長の 32.5-35.6%（平均 33.7%）であること、眼はやや大きく、眼窩径が頭長の 17.1-22.1%（平均 18.8%）であることから、トウヨウウルマカサゴとオオウルマカサゴの両種（側線鱗横列数 54-67；吻長が頭長の 32.8-36.6%；眼窩径が頭長の 14.6-20.6%）とは識別される。

ウルマカサゴの標本に基づく最大体長は 223 mm。

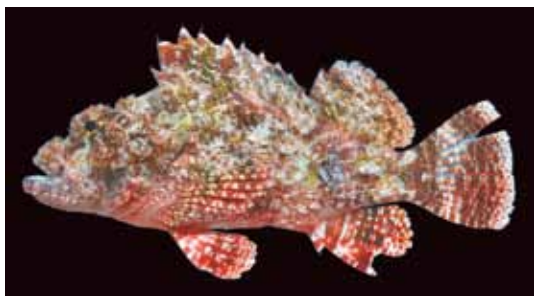
(本村浩之)



■ ミミゲオニカサゴ *Scorpaenopsis possi* KAUM-I. 40168, 177.8 mm SL



■ ミミゲオニカサゴ *Scorpaenopsis possi* KAUM-I. 51224, 156.7 mm SL



■ ミミゲオニカサゴ *Scorpaenopsis possi* FRLM 42838, 135.9 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 オニカサゴ属

ミミゲオニカサゴ

Scorpaenopsis possi
Randall & Eschmeyer, 2002

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 17-18; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 44-49。眼隔域は頭長の 13.2-17.5%。頭部の各棘は鋸歯状を呈さない。涙骨隆起の先端は皮膚に埋没する。眼下縁窩はやや深い。吻膨状部の後縁は後鼻孔後縁に達しない。前頭骨隆起は良く発達し、後鼻孔後方から延び耳棘基底前方を僅かに越える。眼隔域中央隆起は良く発達する。眼隔域は深く、体側面からみて、眼の上方約 1/2 が頭部の輪郭から突出する。眼隔幅は眼高径より小さい。成魚ではふつつ発達した 1 余棘がある（稀に 2-6 棘あるいは小瘤）。後頭窩は浅く、その前縁の隆起は背面からみて後方に湾入し、後縁を縁取る隆起線は不明瞭。額棘はない。主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間は無

鱗。最長背鰭棘は第 3-4 棘。臀鰭第 2 棘は第 3 棘よりやや長い。

色彩 体色は変異に富む。胸鰭内側に顕著な色彩的特徴はない。

分布 南アフリカ共和国からマルキーズ諸島にかけて、インド・太平洋域の熱帯・亜熱帯域に広く分布するが、南西太平洋域では近縁種の *S. eschmeyeri* Randall & Greenfield, 2004 が生息し、ミミゲオニカサゴは同海域には出現しない。国内では伊豆諸島、九州沿岸、大隅諸島、琉球列島から記録されている。

備考 ミミゲオニカサゴの成魚は、ふつつ眼後棘内側の耳棘前方に発達した 1 余棘（稀に 2-6 棘）をもつことから、他種と容易に区別される。しかし、本種の体長 60 mm 以下の幼魚および稀に成魚でも余棘がない個体があり、余棘の有無の差異のみで外観上類似するオニカサゴ *S. cirrosa* (Thunberg, 1793) とイヌカサゴ *S.*

ramaraoi Randall & Eschmeyer, 2002 から区別することは難しい。ミミゲオニカサゴと後者 2 種を比較すると、前者は胸鰭条数が 17-18（最頻値 17）であること〔後者 2 種では 17-19（18）〕、側線上方横列数が 44-49（46）であること〔オニカサゴでは 54-62（57）〕、最長背鰭棘が第 3-4 棘であること（後者 2 種では第 4-5 棘）、および眼隔域が比較的深く、体側面からみて、眼の上方約 1/2 が頭部の輪郭から突出すること（後者 2 種では約 1/4）などから幼魚でも識別することが可能である。

なお、ミミゲオニカサゴの胸鰭条数は 17-18 であるが、本村ほか（2004）で調査された 35 個体中 32 個体が 17 本であり、18 本を有する残りの 3 個体中 2 個体も右側の胸鰭条数が 17 であることから、本種の胸鰭条数は、範囲があるものの識別的特徴としては十分な形質であるといえる。また、ミミゲオニカサゴは眼隔幅が頭長の 13.2-17.5% であり、近縁種の中で最も広い傾向がある。

（本村浩之）

■ イヌカサゴ *Scorpaenopsis ramaraoi* KAUM-I. 51505, 74.7 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 オニカサゴ属

イヌカサゴ

Scorpaenopsis ramaraoi
Randall & Eschmeyer, 2002

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 45-51。頭部各棘は鋸歯状を呈さない。涙骨隆起の先端は尖り、皮膚から露出する（幼魚では皮膚に埋没する）。眼下縁窩は窪まない。吻膨状部の後縁は後鼻孔後縁に達しない。前頭骨隆起は不明瞭。眼隔域中央隆起は良く発達する。眼隔域は浅く、体側面からみて、眼の上方約 1/4 が頭部の輪郭から突出する。眼隔幅は眼窩径より小さい。眼上棘には 1 皮弁がある。後頭窩は極めて浅く、その前縁の隆起は背面からみて後方

に湾入し、後縁を縁取る隆起線はない。額棘はない。主鰓蓋骨上方棘の後端は単尖頭。主鰓蓋骨上方棘と下方棘の間は無鱗。最長背鰭棘は第 4 棘（ごく稀に第 3 棘が最長）。臀鰭第 2 棘は第 3 棘よりやや長い。

色彩 体色は変異に富むが、ふつうは灰色あるいは茶色味を帯びる。胸鰭内側に顕著な色彩的特徴はない。

分布 パキスタン以東のインド洋、およびオーストラリアを除くニューカレドニア以西の西太平洋に分布する。国内では宮崎県、鹿児島県、および沖縄県から標本に基づく記録がある。

備考 イヌカサゴは眼窩径が眼隔幅より狭いこと、眼隔域中央隆起が発達すること、

主鰓蓋骨上方棘の後端が単尖頭であることなどで、日本産オニカサゴ属 6 種と類似種群を形成する（6 種の詳細はウルマカサゴの備考を参照）。イヌカサゴの成魚は涙骨隆起の先端が尖り、皮膚から露出することから、本群の他種と容易に区別される。イヌカサゴの体長 90 mm 以下の幼魚は涙骨隆起の先端が皮膚に埋没するが、涙骨隆起の特徴が発現していない幼魚時でも、最も類似するオニカサゴ *S. cirrosa* (Thunberg, 1793) とは側線上方鱗横列数が少ないことから容易に区別することができる。

本種の上顎前部に突き出している尖った涙骨隆起はイヌの犬歯を連想させるため、イヌカサゴと命名された（本村ほか、2004）。

（本村浩之）

カサゴ目 フサカサゴ科 マダラフサカサゴ属

カスリフサカサゴ

Sebastapistes cyanostigma
(Bleeker, 1856)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 15-16; 腹鰭 I, 5。体側上方の鱗は櫛鱗。口蓋骨歯はある。涙骨下縁には 5 棘ある。涙骨側棘はない。眼下骨棘は 1 本。第 1 眼下骨棘の下方に棘はない。鼻棘は単尖頭。眼隔域中央隆起、眼隔棘、額棘、および余棘はない。眼上棘と眼後棘は単尖頭。後頭窩はなく、ほぼ平ら。下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鰓蓋骨上方・下方棘は単尖頭。

色彩 体の地色は赤褐色で、比較的大型で数が少ない黄色斑紋と数が多い白色点

■ カスリフサカサゴ *Sebastapistes cyanostigma* KAUM-I. 40349, 22.1 mm SL



■ カスリフサカサゴ *Sebastapistes cyanostigma* KAUM-I. 51549, 50.4 mm SL

が頭部と体側に散在する。各鱗の鱗膜は一樣に黄色く、斑紋や斑点はない。各鱗の縁辺は白色で縁どられる。

分布 インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、高知県以南の太平洋沿岸、大隅諸

島、琉球列島に生息する。

備考 本種は眼下骨棘が1本であることから、ハチジョウフサカサゴ *S. mauritiana* (Cuvier, 1829) を除く日本産同属他種と容易に識別される。ハチジョウフサカサゴは額棘をもつことから同棘と欠くカスリフサカ

サゴと異なる。カスリフサカサゴと同所的に生息し、体型が酷似するニラミカサゴ *S. tinkhami* (Fowler, 1946) と比較して、カスリフサカサゴは鱗膜に褐色斑がないことから後者と区別可能。

(本村浩之)



■ ブチフサカサゴ *Sebastapistes fowleri* KAUM-I. 45856, 22.1 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 マダラフサカサゴ属

プチフサカサゴ

Sebastapistes fowleri
(Pietschmann, 1934)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 15-16; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 30-34。体側上方の鱗は櫛鱗。口蓋骨歯はない。涙骨下縁には3棘あり、後方棘は下向き。涙骨側棘はない。眼下骨棘は2本で、第1棘は眼の下方、2棘は眼の後方に位置する。第1眼下骨棘の下方に棘はない。鼻棘は単尖頭で、しばしば皮下に埋没する。眼隔域中央隆起、眼隔棘、額棘、および

余棘はない。眼上棘と眼後棘は単尖頭で、耳棘より小さい。後頭窩はなく、ほぼ平ら。後頭域の前後縁に明瞭な隆起線はない。下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鰓蓋骨上方・下方棘は単尖頭。

色彩 体色は変異に富む。色彩における性的二型は知られていない。

分布 インド・太平洋域に広く分布する。国内では伊豆半島東岸、高知県、大隅諸島、琉球列島から標本が得られている。

備考 本項の計数形質の記載は日本産15個体に基づく。本種は口蓋骨歯がないこと

から、長い間オニカサゴ属に帰属されていた。しかし、近年はマダラフサカサゴ属であると考えられている。本種は口蓋骨歯がないことから、同属があるマダラフサカサゴ属全種から容易に区別されるが、他にも涙骨後方棘が下向きであること(同属他種では後向き)からも識別される。

プチフサカサゴの最大体長は37 mmで、フサカサゴ科魚類の中で最も小型であり、体長18 mmで成熟したメス個体もみつまっている。これは標準名プチフサカサゴの由来でもある。

(本村浩之)

■ マダラフサカサゴ *Sebastapistes strongia* KAUM-I. 48122, 44.8 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 マダラフサカサゴ属

マダラフサカサゴ

Sebastapistes strongia
(Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 14-16; 腹鰭 I, 5; 側線上方横列鱗 40-44。体側上方の鱗は櫛鱗。口蓋骨歯はある。涙骨下縁には2棘あり、後方棘は強大で後向き。涙骨側棘はない。眼下骨棘は2-3本。第1眼下骨棘の下方に棘はない。鼻棘は単尖頭。眼隔域中央隆起、眼隔棘、額棘、および余棘はない。眼上棘と眼後棘は単尖頭。後頭窩はなく、ほぼ平ら。耳棘基底の後端は翼耳棘基底前端より後ろ

に位置する。下後側頭棘、頭頂棘、上擬鎖骨棘、主鰓蓋骨上方・下方棘は単尖頭。主鰓蓋骨下方棘は中央隆起線がある。眼上皮弁の長さは変異に富み、皮弁が微小の個体から上顎長とほぼ同長の個体もある。

色彩 体色は変異に富むが、ふつうは灰色あるいは褐色のまだら模様。下顎下面に複数の褐色あるいは黒色の横線が走る。肩部(主鰓蓋骨後縁と背鰭第1-3棘の基底の間)に眼径より大きな1黒色斑を有することが多い。

分布 インド・太平洋域に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、千葉県以南

の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島にかけて広く生息する。

備考 本種は主鰓蓋骨下方棘に中央隆起線があること、耳棘基底の後端が翼耳棘基底前端より後ろに位置すること、涙骨下縁に2棘あることなどから *S. taeniophrys* (Fowler, 1943) を除く同属他種と識別される。

マダラフサカサゴは *S. taeniophrys* と比較して、側線上方横列鱗数が40-44と多いこと(後者では31-33)、総鰓耙数が13-16と多いこと(12)などから区別される。また、マダラフサカサゴは岩礁やサンゴ礁に生息するのに対し、*S. taeniophrys* はアマ藻場や砂泥底に好んで生息する。

(本村浩之)

■ ニラミカサゴ *Sebastapistes tinkhami* KAUM-I. 51416, 68.3 mm SL■ ニラミカサゴ *Sebastapistes tinkhami* BSKU 106111, 66.8 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 マダラフサカサゴ属

ニラミカサゴ

Sebastapistes tinkhami
(Fowler, 1946)

形態 背鰭 XII, 9; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 15-16; 腹鰭 I, 5。体側上方の鱗は櫛鱗。口蓋骨歯はある。涙骨下縁には5棘ある。涙骨側棘はない。眼下骨棘は3本。第1

眼下骨棘の下方に棘はない。鼻棘は単尖頭。眼隔域中央隆起、眼隔棘、額棘、および余棘はない。眼上棘と眼後棘は単尖頭。後頭窩はなく、ほぼ平ら。

色彩 体には茶褐色あるいは灰色のまだら模様。頭部と体側に白色点はない。各鰭の鰭膜は黄色味を帯び、赤褐色の斑紋が散在する。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、琉球列島から記録されている。

備考 本種は口蓋骨に歯があること、眼下骨棘が3本であること、額棘を欠くこと、涙骨下縁に5棘もつことから日本産同属他種と識別される。

(本村浩之)



■ ハダカハオコゼ *Taenianotus triacanthus* KAUM-I. 55164, 59.9 mm SL



■ ハダカハオコゼ *Taenianotus triacanthus* BSKU 108300, 60.4 mm SL



■ ハダカハオコゼ *Taenianotus triacanthus* KAUM-I. 51556, 38.0 mm SL

カサゴ目 フサカサゴ科 ハダカハオコゼ属

ハダカハオコゼ

Taenianotus triacanthus
Lacepède, 1802

形態 背鰭 XII, 10; 臀鰭 III, 5; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5。頭と体は強く側扁する。体側に鱗はなく、微小な棘が散在する。口蓋骨歯はない。涙骨側棘、眼下骨棘はない。背鰭棘は長い。

色彩 体色は黄色、桃色、茶色、白色など変異に富む。同一個体が様々な色に変化することができる。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に広く分布する。東太平洋のガラパゴス諸島からも記録されている。国内では伊豆半島以南の太平洋岸、伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本種は～ハオコゼという名前がつい

ているが、ハオコゼ科ではなく、フサカサゴ科である。

ハダカハオコゼは体高が高く、体が著しく側扁していることから、フサカサゴ科ホロカサゴ属に外見がよく似るが、前者は鱗がないことから容易に識別される。

本種は水深 100 m 以深から採集された記録があるが、普通は 20 m 以浅に生息する。与論島では水深 9-15 m から複数個体が採集された。

(本村浩之)

カサゴ目 ダンゴオコゼ科 ダンゴオコゼ属

ダンゴオコゼ

Caracanthus maculatus
(Gray, 1831)

形態 背鰭 XII-XIII, 12-13; 臀鰭 II, 11-12; 胸鰭 13-15; 腹鰭 I, 2。指状突起が体表を密に覆う。背鰭棘条部と軟条部間の欠刻が深い。皮鞘を被る不分枝の胸鰭は8本で、皮鞘間に指状突起はない。

色彩 体色は暗褐色で、背部から腹部手前にかけて黒色の斑点がある。胸鰭は黒い。背鰭と臀鰭は淡い褐色で半透明。尾鰭は体色よりもやや淡い暗褐色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、高知県以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 最大で体長5 cmに達する。熱帯

■ ダンゴオコゼ *Caracanthus maculatus* KAUM-I. 42726, 17.3 mm SL

の浅海で、波の穏やかな場所で見られる。多くはハナヤサイ属のサンゴの枝の間や根

元に生息している。小型で愛らしい外見から、観賞魚として人気が高い。

(三ヶ島由梨)

■ ユメカサゴ *Helicolenus hilgendorffii* KAUM-I. 58549, 286.8 mm SL

カサゴ目 メバル科 ユメカサゴ属

ユメカサゴ

Helicolenus hilgendorffii
(Döderlein, 1884)

形態 背鰭 XII, 10-13; 臀鰭 III, 4-6; 胸鰭 16-20; 腹鰭 I, 5。頬部に棘はない。胸鰭上半部の後縁は浅く湾入する。胸鰭腋部には皮弁がある。尾鰭後縁は浅く湾入する。

色彩 体色はふつう赤味を帯びるが、稀にオレンジがかった個体もいる。側線を挟んで上下に暗色縦線がない。

分布 東アジアとインドネシアのバリ島に分布。国内では青森県以南の太平洋沿岸、秋田県以南の日本海沿岸、伊豆諸島、東シナ海、大隅諸島、与論島から記録されている。

備考 インドネシアのバリ島周辺にごく普通

に生息する個体群と東アジアに生息する個体群が同一種であるかどうか、検討が必要である。同科のウツカリカサゴ *Sebastiscus tertius* (Barsukov & Chen, 1978) も同様の分布パターン（東アジアとバリ島）を示し、現在分子と形態の両側面から研究中である。

本種は体色やサイズに関して2型が知られており、現在研究が進められている。

(本村浩之)

カサゴ目 ハオコゼ科 ツマジロオコゼ属

ツマジロオコゼ

Ablabys taenianotus
(Cuvier, 1829)

形態 背鰭 XVII, 7-8; 臀鰭 III, 5-6; 胸鰭 11-12; 腹鰭 I, 5。体は強く側扁し、小鱗におおわれる。背鰭は大きく、眼の前縁直上から始まる。背鰭第1棘は著しく短く、第2棘が最長。尾鰭は二重截形で、後端は波状になる。

色彩 体は暗褐色で、頬から肛門にかけては黄土色。腹部の縁辺は白色である。背鰭、臀鰭、尾鰭は体色とほぼ同じ暗褐色。胸鰭は体色よりも濃い暗褐色を呈する。各鰭の後端は明るい白色で縁取られる。

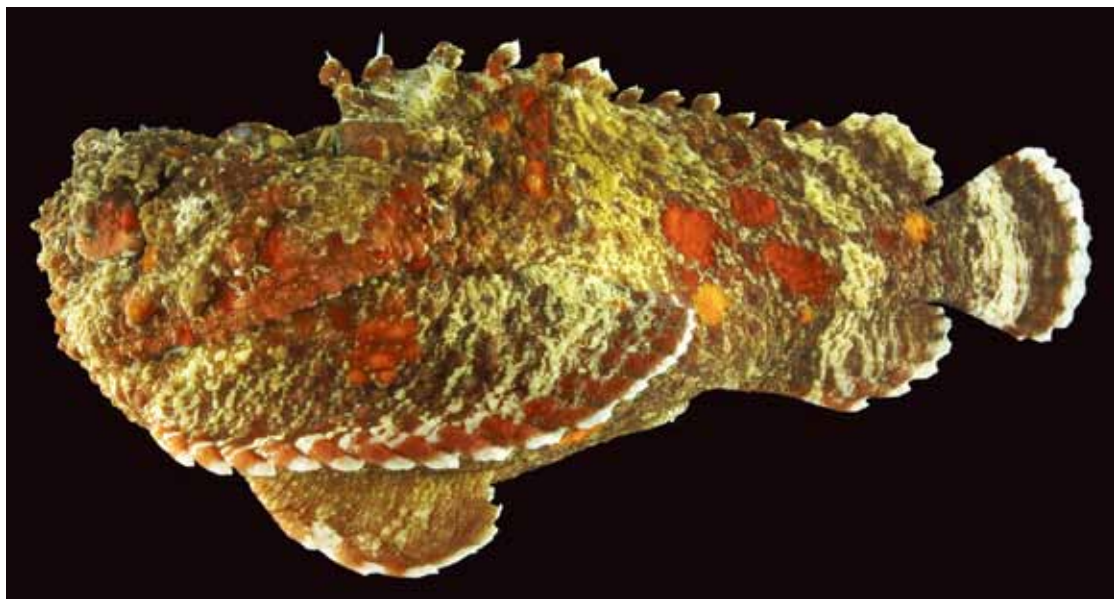
分布 アフリカ東岸からフィジーにかけてのインド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、静岡県以南の太平洋岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

■ ツマジロオコゼ *Ablabys taenianotus* KAUM-I. 51182, 43.0 mm SL

備考 体長は 10 cm に達する。浅海のサンゴ礁・岩礁域に単独で生息する。うねりや波の揺れに合わせて体を左右に揺らし、落ち葉や海藻に擬態している。和名は、頭部背面が白色であることに由来する。体色

は変異に富み、頭部が白色にならず体全体が褐色の個体や、白色斑が散在する個体もいる。

(三ヶ島由梨)

■ オニダルマオコゼ *Synanceia verrucosa* KAUM-I. 48048, 200.8 mm SL

カサゴ目 オニオコゼ科 オニダルマオコゼ属

オニダルマオコゼ

Synanceia verrucosa
Bloch & Schneider, 1801

形態 背鰭 XII-XIV, 5-7 (通常 XIII, 6); 臀鰭 III, 5-6 (通常 5); 胸鰭 18-19; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 10-12。頭部は縦扁し、眼窩は上方に飛び出す。口は大きく上向きに開く。体全体が厚い皮膚でおおわれる。一様に瘤状突起がある。胸鰭は著しく大きい。背鰭の鰭膜はほとんど切れ込まない。

腹鰭の最後軟条は腹部と鰭膜で接合する。背鰭と臀鰭の最後軟条は鰭膜でそれぞれ尾柄の背面と腹面に接合する。尾鰭は円形。眼下骨棘は 1 本で大きい。鰓蓋骨棘は通常 2 本。浮き袋を欠く。

色彩 体色は一様に薄茶色だが、変異に富み、周囲の環境に合わせ茶色や灰色などに色を変える。各鰭の縁辺は白色。

分布 紅海を含むインド・太平洋に分布する(ただしハワイ諸島、ライン諸島を除く)。国内では伊豆諸島や小笠原諸島、大隅諸

島、琉球列島に分布する。

備考 背鰭の棘には猛毒があり、国内外で死亡例が報告されている。沿岸のサンゴ礁域や岩礁域に生息し、底性で砂底や砂泥底に多くみられる。ときには潮だまりのような浅い場所にも出現する。遊泳することなく岩などに擬態しており、体表が藻で覆われていることがある。本種は食材としてあまり流通していないが、沖縄地方では高級魚として扱われており、刺身や唐揚げ等にして食することができる。

(三ヶ島由梨)

■ スナゴチ *Sunagocia arenicola* KAUM-I. 51350, 172.9 mm SL■ スナゴチ *Sunagocia arenicola* BSKU 108309, 82.7 mm SL

カサゴ目 コチ科 スナゴチ属

スナゴチ

Sunagocia arenicola
(Schultz, 1966)

形態 背鰭 I-VIII, 11-12; 臀鰭 12-13; 胸鰭 19-22; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 51-54。体は細長く、頭部は縦扁する。下顎は上顎より突出する。上顎後端は皮弁上で、眼の前縁に達する。両眼間隔は広く、眼の虹彩被膜の上片は樹枝状で複雑。頭部

の棘は強く、眼下骨上の隆起線にある棘数は約5。上唇の下縁と下唇の上縁に乳頭状の皮弁をもたない。腹鰭後端は臀鰭起部を越える。

色彩 体の地色は白色、頭部および体の背部は褐色で白色斑が散在する。背鰭と尾鰭の鰭膜は透明で、鰭条は白色と褐色の縞模様。臀鰭の鰭膜基部は透明で外縁は乳白色。胸鰭と腹鰭は白色で全体に褐色斑が散在する。幼魚は頭部に両眼を通過する鞍掛状の褐色横帯が1本、体に

4-5本の鞍掛状の横帯が入るが、成魚では目立たない。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島と琉球列島から記録されている。

備考 スナゴチは同属のフサクチゴチ *S. otaiensis* (Cuvier, 1829) とよく似るが、上唇の下縁と下唇の上縁に乳頭状の皮弁をもたない(フサクチゴチは皮弁をもつ)ことで識別される。

(田代郷国)

カサゴ目 コチ科 スナゴチ属

フサクチゴチ

Sunagocia otaiensis
(Cuvier, 1829)

形態 背鰭 I-VII-VIII, 11; 臀鰭 12; 胸鰭 20-22; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 51-53。体は細長く、頭部は縦扁する。下顎は上顎より突出する。上顎後端は皮弁上で、眼の前縁に達する。両眼間隔は広く、眼の虹彩被膜の上片は樹枝状で複雑。眼上皮弁をもたない。頭部の棘は強く、眼下骨上

の隆起線にある棘数は約5。上唇の下縁と下唇の上縁に乳頭状の皮弁をもつ。腹鰭後端は臀鰭起部を越える。

色彩 頭部および体の背部は褐色で白色斑が散在する。腹部は白色。背鰭、臀鰭、および尾鰭の鰭膜は透明で、鰭条は白色と褐色の縞模様。胸鰭と腹鰭は乳白色で全体に褐色斑が散在する。幼魚は頭部に両眼を通過する鞍掛状の横帯が1本、体に4-5本の鞍掛状の横帯が入るが、成魚ではほとんど目立たない。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、琉球列島に分布する。

備考 フサクチゴチは同属のスナゴチ *S. otaiensis* (Cuvier, 1829) とよく似るが、上唇の下縁と下唇の上縁に乳頭状の皮弁をもたない(スナゴチは皮弁をもつ)ことで識別される。また、フサクチゴチは体長12 cm以上の個体で頭長と両眼間隔がスナゴチに比べ短い傾向がある。

(田代郷国)



■ フサクチゴチ *Sunagocia otaitensis* NSMT-P 110392, 196.7 mm SL



■ フサクチゴチ *Sunagocia otaitensis*
KAUM-I. 40372, 89.2 mm SL

■ フサクチゴチ *Sunagocia otaitensis* NSMT-P 110393, 81.3 mm SL

■ フサクチゴチ *Sunagocia otaitensis* BSKU 108299, 175.8 mm SL■ クロシマゴチ *Thysanophrys chiltonae* NSMT-P 110316, 71.0 mm SL■ クロシマゴチ *Thysanophrys chiltonae* KAUM-I. 50858, 21.7 mm SL

カサゴ目 コチ科 クロシマゴチ属

クロシマゴチ

Thysanophrys chiltonae
(Schultz, 1966)

形態 背鰭 I-III, 12; 臀鰭 11; 胸鰭 20-21; 腹鰭 1, 5; 側線有孔鱗 50-57。体は細長く、頭部は縦扁する。下顎は上顎より突出する。両眼間隔は狭く、虹彩被膜の上片は樹枝状。眼上皮弁をもたない。眼下

骨上の隆起線に多数の棘をもつ。間鰓蓋骨皮弁は半円形。腹鰭後端は臀鰭起部を越える。

色彩 頭部および体背面は白色と茶褐色の不明瞭なまだら模様で覆われる。腹部は白色。背鰭と尾鰭の鰭膜は透明で、鰭条は白色と褐色の縞模様。臀鰭縁辺は乳白色。胸鰭と腹鰭は乳白色で、暗褐色斑が並び横帯を形成する。頭部と体側に鞍掛状の暗褐色横帯が入る。頭部の横帯は1本で

両眼を通過する。

分布 インド・西部太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 本種は同属のセレベスゴチ *T. celebica* (Bleeker, 1854) とよく似るが、眼上皮弁をもたないことや、臀鰭軟条数が11であることなどで識別される。

(田代郷国)

■ ヤミスズキ *Belonoperca chabanaudi* BSKU 108323, 88.4 mm SL

スズキ目 ハタ科 ヤミスズキ属

ヤミスズキ

Belonoperca chabanaudi
Fowler & Bean, 1930

形態 背鰭 VIII-IV-I, 10; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13-15; 側線有孔鱗 66-76; 鰓耙 6-8+13-15。体は側扁し、体高はやや低い。頭部は大きく、吻は長く尖る。背鰭前方の背縁は直線的。2基の背鰭はわずかに離れる。胸鰭は短い。尾柄は太く、尾鰭は截形。口は大きく、上顎の後端は眼

の中央下をわずかに越える。下顎先端は上顎先端よりやや突出する。前鼻孔は短い管状で、後縁には皮弁をもつ。両顎と口蓋骨には小円錐歯の歯帯を備える。前鰓蓋骨と間鰓蓋骨の縁辺には小棘がまばらに並ぶ。主鰓蓋骨には2棘、下鰓蓋骨には1棘をもつ。主鰓蓋骨上縁と腹鰭の最内側鰭条は膜により体につながる。肛門は腹鰭後端と臀鰭始部のほぼ中間に位置する。頭と体は頬、鰓蓋、胸鰭の上方と腋部を除き、小楯鱗で覆われる。

色彩 生時には体の地色は一樣に暗い紺色で、暗色斑点が散在する。第1背鰭と

腹鰭に暗色斑紋をもつ。生鮮時の地色は濃褐色で、茶色味を帯びる。第2背鰭直後の背面には鮮明な1黄色斑紋をもつ。

分布 インド・太平洋のサンゴ礁域に分布する。国内では奄美群島以南の琉球列島に分布する。

備考 本種はサンゴ礁域の岩の間隙、横穴や洞窟のような隠蔽的な環境を好み、それらの入り口付近で観察される。本標本は水深14mの入り組んだ横穴で採集された。最大で体長15cmに達する。

(遠藤広光)

■ アカイサキ *Caprodon schlegelii* KAUM-I. 41054, 261.1 mm SL

スズキ目 ハタ科 アカイサキ属

アカイサキ

Caprodon schlegelii
(Günther, 1859)

形態 背鰭 X, 19–21; 臀鰭 III, 7–9; 胸鰭 16–17; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 57–61。体はよく側扁し、体高はやや高い。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は体側の中央でほぼ正中線上に開口し、口裂はやや下斜めに開き、主上顎骨後端は眼の直下に達する。背鰭は1鰭で棘条と軟条の間の欠刻はない。尾鰭後縁は円形で雄では上下葉がやや伸びる。

色彩 雄の体色は赤から薄いピンク色であり、腹部は淡色になる。体側全面に不規

則な黄色の虫食い状斑がある。眼の虹彩は黄色で、眼から前方に2本、後方に約3本の黄色線が放射状に広がる。胸鰭を除く各鰭は黄色で縁辺部は体色と同じ赤から薄いピンク色の縁取りがある。胸鰭はほぼ透明。背鰭中央に1暗色斑がある場合がある。雌の体色は朱色がかった赤色であり、体側中央や尾鰭上下葉にやや薄い橙色が入る場合がある。腹部はやや淡色になる。背鰭基底部に5–6個の暗色の鞍状斑がある。各鰭は胸鰭を含み体側と同じく朱色がかった赤色。

分布 朝鮮半島南部、済州島、台湾、オーストラリア東岸・西岸、ハワイ諸島、チリから記録されている。国内では兵庫県（日本海）および相模湾以南の南日本、瀬戸内海、伊豆諸島、小笠原諸島、与論島、

宮古・八重山諸島に生息する。

備考 アカイサキ属はインド・太平洋に3有効種が認められているが、*C. longimanus* (Günther, 1859) は尾鰭後縁が湾入すること、*C. krasnyukovae* Kharin, 1983 は尾鰭中央の5–6本の軟条が他の軟条よりも長く、その上下が湾入する二重湾入形を呈することにより本種と識別される。

瀬能 (2013) によれば、本種には体長20–25 cm で成熟する尾鰭がほぼ截形のタイプが知られており、尾鰭が円形のタイプとの異同については今後の検討を要するとされている。本個体は尾鰭が円形のタイプである。与論島では周辺の海域から水揚げされた。

(桜井 雄)

■ アオノメハタ *Cephalopholis argus* KAUM-I. 40136, 194.3 mm SL

スズキ目 ハタ科 ユカタハタ属

アオノメハタ

Cephalopholis argus
Schneider, 1801

形態 背鰭 IX, 15–17; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 16–18; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 45–51; 縦列鱗 95–110。体は側扁し、体高は低い。後頭部から背鰭始部にかけての輪郭はなだらかであり、膨らみや凹みを持たない。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線より下方に開口する。胸鰭は短く頭部眼後長より短い。背鰭は棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部の間に欠刻はない。尾鰭後縁は円形。

色彩 体色は濃褐色であり、生鮮時には体

後半はやや淡色。背鰭最終棘付近から尾柄にかけて数本の濃褐色横帯がある。頭部、体側、胸鰭を除く各鰭には瞳孔より小さい濃色の縁取りをもつ青色もしくは青白色点が密に散在するが胸部は少ない。胸鰭を除く各鰭は体側と同色であり、背鰭軟条部外縁、臀鰭軟条部および尾鰭後縁は濃色に濃色になる。これらの鰭の最外縁は淡色の細い縁取りがある。胸鰭は基底から中央付近までは濃褐色、後方は濃赤褐色であり、淡色の縁取りを有する。胸鰭基部から中央部にかけて濃色の縁取りをもつ青色もしくは青白色点があるが体側やその他の鰭の点より小さい。幼魚は一樣にくすんだレモン色であり、成長に伴い体側前半は薄い褐色、背鰭始部–臀鰭始部を結ぶ線の後方はくすんだレモン色になる。各鰭は基部の一部がくすんだレモン色である以外は

基本的に透明である。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、与論島を含む琉球列島に分布する。潮間帯付近から水深40 mに生息する (Heemstra & Randall, 1993)。

備考 本種は同属他種と比較して、体色は褐色で体側に濃色の縁取りをもつ小点が散在すること、後頭部の輪郭がなだらかであること、胸鰭が短いことで識別される。与論島では皆田海岸と与論港付近、西岸沖の水深1–10 m付近で採集されたほか、茶花海岸の水深15 m付近から確認された。

(桜井 雄)



■ アオノメハタ *Cephalopholis argus* KAUM-I. 51438, 28.1 mm SL



■ アオノメハタ *Cephalopholis argus* KAUM-I. 50834, 19.4 mm SL



■ アオノメハタ *Cephalopholis argus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ アオノメハタ *Cephalopholis argus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ミナミイソハタ *Cephalopholis leopardus* KAUM-I. 51394, 114.7 mm SL

スズキ目 ハタ科 コカタハタ属

ミナミイソハタ

Cephalopholis leopardus
(Lacepède, 1801)

形態 背鰭 IX, 13–15; 臀鰭 III, 9–10; 胸鰭 16–18; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 47–52; 縦列鱗 79–89。体は側扁し、体高は低い。吻部から背鰭始部にかけての輪郭は眼の後方でやや膨らむ。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線より下方に開口する。背鰭は棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部の間に欠刻はない。尾鰭後縁は円形。

色彩 体色は上部は濃い朱色で下部は淡色。体側全体に朱色のやや角ばった斑点が密に並び体側下部では目立つが網目模様は形成しない。斑紋は頬部や体側下部では目立つ。鰓蓋後方上部に1暗色斑があり生時にはよく目立つ。尾柄の背面に2暗色斑がある。背鰭は基本的に体側上部と同色であり、第2棘付近の鰭膜中央から後方1淡色線があり、第1軟条付近で二又する。臀鰭は第1–2棘条部はくすんだ黄色、その後方は体側下部と同色である。尾鰭は基底から3分の2は朱色のまだら模様であり、その後方は淡黄色の馬蹄形線がある。尾鰭後縁上下部は1対の濃い朱色の斜走帯があり外縁淡色である。腹鰭および胸鰭は薄い黄橙色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では与論島と慶良間諸島以南の琉球列島に分布する。水深3–40 mに生息する (Heemstra & Randall, 1993)。

備考 本種は同属他種と比較して、体色は上部が朱色、下部が淡色で、体側全面に赤色斑が散在すること、尾柄背部に2黒色斑をもつこと、尾鰭に1対の赤色斜走帯をもちその外縁は淡色であることで識別される。与論島では与論港沖の水深10–20 m付近で釣獲された。瀬能 (2013) によれば本種の分布は慶良間諸島以南とされており、与論島の採集記録は標本に基づく北限記録である可能性が高い。 (桜井 雄)

スズキ目 ハタ科 コカタハタ属

アザハタ

Cephalopholis sonnerati
(Valenciennes, 1828)

形態 背鰭 IX, 14–16; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 18–20; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 66–80; 縦列鱗 115–134。体は側扁し、体高は高い。後頭部から背鰭始部にかけての輪郭は眼の後方で大きく膨らむ。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線より下方に開口する。背鰭は棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部の間に欠刻はない。

入り、棘条部と軟条部の間に欠刻はない。尾鰭後縁は円形。

色彩 体色は濃い朱色であり、体側全体に濃赤色の小斑点が密にあるが体側色に紛れ頭部以外は目立たないことが多い。生時には鰓蓋後方上部に1濃赤褐色斑がありよく目立つが生鮮標本ではほぼ消失する。体側にそれ以外に目立った模様を持たない。なお色彩変異として体側全体が濃い赤褐色の場合もある。尾鰭後縁や背鰭および臀鰭軟条部縁辺に淡色の狭い縁取りがある。腹鰭後縁は濃色の縁取りがあり、胸

鰭後方は4分の1が濃い朱色である。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、駿河湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、与論島を含む琉球列島に分布する。水深10–100 mに生息する (Heemstra & Randall, 1993)。

備考 本種は同属他種と比較して、体高が高いこと、体側に目立った模様を持たないことで識別される。与論島では周辺海域から水揚げされていた。

(桜井 雄)

■ アザハタ *Cephalopholis sonnerati* KAUM-I. 47892, 390.4 mm SL■ アカハナ *Cephalopholis spiloparaea* KAUM-I. 51379, 131.9 mm SL

スズキ目 ハタ科 ユカタハタ属

アカハナ

Cephalopholis spiloparaea
(Valenciennes, 1828)

形態 背鰭 IX, 14-16; 臀鰭 III, 9-10; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 47-53; 縦列鱗 86-101。体は側扁し、体高は低い。後頭部から背鰭始部にかけての輪郭はなだらか。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線より下方に開口する。背鰭は棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部の間に欠刻はない。尾鰭後縁は円形。

■ アカハナ *Cephalopholis spiloparaea* FRLM 42867, 116.1 mm SL

色彩 体色は濃い朱色であり、腹部はやや淡色になる。頬部から胸鰭基部にかけて薄い赤紫色の不定形の小点があるが体側面に紛れ目立たない。頬部、胸部および腹鰭の一部は橙色。頭部や体側上方、背鰭基部に不規則な不明瞭な暗色斑が出る場合がある。背鰭の鰭膜先端はやや黄色く、その他は体側と同色。尾鰭は体側と同色で後縁上方および下方に弧を描く淡色線があり、その外縁上下端は体側同様の朱色。背鰭および臀鰭軟条部と縁辺には淡色線がある場合があり、臀鰭軟条部最外

縁は黒色の細い縁取りがある。胸鰭は濃い朱色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、土佐湾以南の太平洋沿岸、与論島を含む琉球列島に分布する。水深 15–108 m（主に 40 m 以下）に生息する（Heemstra & Randall, 1993）。

備考 本種は体色が赤色系であること、体側に青色の小点がないことから同属のハナ

ハタ *C. aurantia* (Valenciennes, 1828) やミナミイソハタ *C. leopardus* (Lacepède, 1801) とひじょうによく似るが、ハナハタは体色が明るい橙色であること、頭部輪郭が眼の後方で膨らみやや丸みを帯びること、頬部の斑点は黄色系であること、尾鰭後縁の淡色線は尾鰭輪郭に沿っておりその外縁上下端に赤色部がないことで、ミナミイソハタは体色が上部が朱色、下部が淡色で、体側全面に赤色斑が散在すること、尾柄背面に 2 黒色斑を有することで識別される。

与論島では与論港沖および供利沖の水深 10–60 m から釣獲された。

（桜井 雄）



■ ニジハタ *Cephalopholis urodeta* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ハタ科 ユカタハタ属

ニジハタ

Cephalopholis urodeta
(Forster, 1801)

形態 背鰭 IX, 14–16；臀鰭 III, 8–9；胸鰭 17–19；腹鰭 I, 5；有孔側線鱗 54–68；縦列鱗 88–108。体は側扁し、体高は低い。後頭部から背鰭始部にかけての輪郭はなだらかであり、膨らみや凹みを持たない。主鰓蓋骨上に 3 本の棘を有する。口は正中線より下方に開口する。背鰭は棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部の間に欠刻はない。尾鰭後縁は円形。

色彩 体色は朱色もしくは濃い赤色であり、体側後方はやや濃色になる。体側前方は濃赤色の小斑点が密にあるがあまり目立たない。体側後方の濃色部では不定形の淡色小斑がある。生時には鰓蓋後方上部に 1 濃赤褐色斑がありよく目立つ。背鰭、臀鰭は体側と同色であり、軟条部からやや濃色になる場合がある。両鰭とも外縁は淡色に縁取られる。尾鰭は基本的に体側と同色であり、後縁は淡色に縁取られる。尾鰭の上下には横向きの「ハ」の字を描く 1 対の白斜線があり目立つ。腹鰭は朱色、胸鰭は基部が朱色であり、後縁 4 分の 1 ほどがくすんだ黄色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、熊野灘以南の

南日本、与論島を含む琉球列島に分布する。水深 1–60 m に生息する（Heemstra & Randall, 1993）。

備考 本種は同属他種と比較して、尾鰭に特徴的な白色の「ハ」の字斑をもつことで容易に識別される。ただしこの特徴は太平洋産の個体の特徴であり、インド産の尾鰭は白色線をもたず黒色であり、胸鰭も黒色である。

与論島では与論港沖の水深 10–20 m で釣獲されたほか、前浜の水深 10 m 付近で確認された。

（桜井 雄）



■ ニジハタ *Cephalopholis urodeta* NSMT-P 110508, 186.3 mm SL



■ ニジハタ *Cephalopholis urodeta* FRLM 42968, 155.6 mm SL



■ ニジハタ *Cephalopholis urodeta* FRLM 42967, 142.2 mm SL



■ ニジハタ *Cephalopholis urodeta* KAUM-I. 51397, 129.7 mm SL

■ アカハタ *Epinephelus fasciatus* KAUM-I. 41053, 217.2 mm SL

スズキ目 ハタ科 マハタ属

アカハタ

Epinephelus fasciatus
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 XI, 15-17; 臀鰭 III, 7-8 (通常 8); 胸鰭 18-20; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 55-60; 縦列鱗 102-120。体は側扁し、体高は低い。主鰓蓋骨上に 3 本の棘を有する。口は正中線より下方に開口する。背鰭は棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部の間に欠刻は浅い。尾鰭後縁は円形。

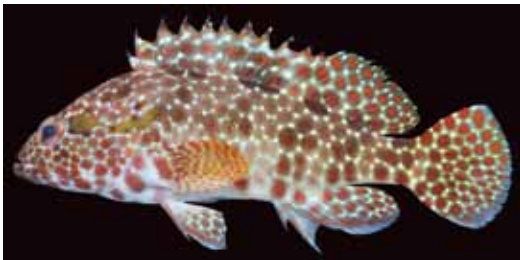
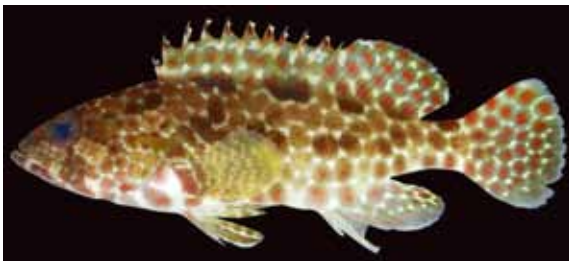
色彩 体色は明るい橙色であり、腹部はやや淡色になる。背鰭始部から尾柄部にかけて 5 本の橙色の斜走帯がある。吻部から眼を通り背鰭始部までの背面側は不規則な濃橙色斑があり、生時の水中ではよく目立つ。背鰭は体側と同色であるが、棘条先端付近は濃い赤褐色、軟条上縁は薄い黄色に縁取られる。臀鰭はや薄い橙色で縁辺部は明るい橙色、外縁は淡色で縁取られる。尾鰭は体側と同色であり後縁は薄い黄色、腹鰭は淡色で前縁がやや明るい橙色である。胸鰭は体側と同色であるが、縁辺は黄色い。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、富山湾 (日本海) および相模湾以南の南日本、瀬戸内海、大隅諸島、与論島を含む琉球列島に分布する。水深 160 m 以浅に生息する。

備考 本種は同属他種と比較して、赤色系の色彩であること、尾鰭後縁が円形であること、体側に茶色-茶褐色の斑紋を持たないことで容易に識別される。与論島ではシゴー沖の水深 10 m から採集されたほか、前浜の水深 10 m 付近で確認された。

(桜井 雄)

■ アカハタ *Epinephelus fasciatus* KAUM-I. 51311, 67.3 mm SL■ アカハタ *Epinephelus fasciatus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

■ イシガキハタ *Epinephelus hexagonatus* KAUM-I. 39983, 146.6 mm SL■ イシガキハタ *Epinephelus hexagonatus* FRLM 43022, 83.1 mm SL■ イシガキハタ *Epinephelus hexagonatus* BSKU 108326, 73.5 mm SL■ イシガキハタ *Epinephelus hexagonatus* KAUM-I. 46101, 71.9 mm SL■ イシガキハタ *Epinephelus hexagonatus* KAUM-I. 45883, 48.1 mm SL

スズキ目 ハタ科 マハタ属

イシガキハタ

Epinephelus hexagonatus
(Forster, 1801)

形態 背鰭 XI, 15-17; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 57-70; 縦列鱗 92-114。体は側扁し、体高は低い。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線より下方に開口する。背鰭は棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部の間に欠刻は浅い。尾鰭後縁は円形。

色彩 体色は茶褐色から赤褐色、腹部は

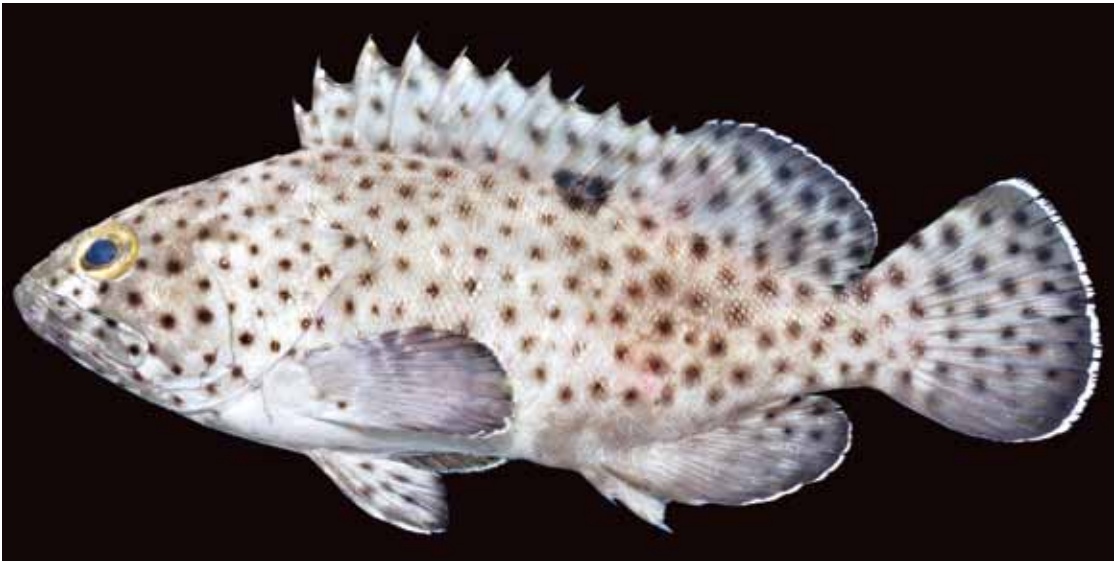
やや淡色になる。頭部から体側全面に黄褐色、茶褐色および赤褐色のやや角のある斑点が密に存在し、網目模様を形成する。斑紋の間は白色の小斑点があり、生時には特に目立つ。背鰭第3棘付近から尾柄背部にかけて体側上縁に沿った5個の濃茶褐色の斑紋がある。背鰭、臀鰭、尾鰭および腹鰭は体側とほぼ同色であり同様の斑紋を形成する。胸鰭は体側より細かい黄褐色もしくは赤褐色の斑点が密に存在し、斑点の間は小白色点がある。

分布 西インド洋と西・中央太平洋の主に島嶼域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、

大隅諸島、与論島を含む琉球列島に分布する。水深4-23 mの波あたりの強いサンゴ礁外縁に生息する。

備考 本種は同属他種と比較して、体側に密に褐色の斑紋があり斑紋間に小白点をもつことで識別される。なお色彩や形態、生息環境がカンモンハタ *E. merra* Bloch, 1793 にひじょうに似るが、本種とは体側斑に赤褐色の斑紋が混じること、体側の斑紋間に小白色点があることにより識別される。与論島では周辺のタイドプールを含む水深10 m前後で確認、採集された。

(桜井 雄)

■ ヒレグロハタ *Epinephelus howlandi* FRLM 43121, 164.3 mm SL■ ヒレグロハタ *Epinephelus howlandi* KPM-NI 30805, 72.2 mm SL

スズキ目 ハタ科 マハタ属

ヒレグロハタ

Epinephelus howlandi
(Günther, 1873)

形態 背鰭 XI, 15-17; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 49-53; 縦列鱗 85-102。体は側扁し、体高はやや高い。吻部から背鰭始部にかけての輪郭は丸みを帯び、吻端は丸い。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線より下方に開口し、主上顎骨後端は眼のほぼ直下にある。背鰭は棘条上部で浅い切れ込

みが入り、棘条部と軟条部の間に欠刻は浅い。尾鰭後縁は円形。

色彩 体色は薄い茶褐色。体側には濃褐色の円斑が多数存在するが、斑紋は網目模様を形成しない。成魚の腹部はこの円斑がほとんどないが幼魚では腹部にまで達する。背鰭基部の中央に1個の眼とほぼ同じ大きさの濃褐色斑をもつ。背鰭、臀鰭、尾鰭および腹鰭は体側と同様の色彩、斑紋であり、各鰭の外縁は淡色で縁取られる。胸鰭は基部に体側同様の円斑をもつ場合があるが、中央部にはほとんどなく一様に濃褐色であり、縁辺は淡色で縁取られる。

分布 西太平洋に分布する。国内では愛媛県、大隅諸島、与論島を含む琉球列島に分布する。水深37 m以浅に生息する (Heemstra & Randall, 1993)。

備考 本種は同属の中でもホシヒレグロハタ *E. corallicola* (Valenciennes, 1828) にひじょうに似るが、ホシヒレグロハタでは成魚の腹部や胸鰭中央に褐色円斑があること、頭部輪郭がなだらかで吻は尖ること、間鰓蓋骨-下鰓蓋骨間に明瞭な欠刻をもつことより識別される。

与論島では与論港付近のタイドプールや茶花港付近の水深5-6 mで採集された。
(桜井 雄)



スズキ目 ハタ科 マハタ属

キビレハタ

Epinephelus macrospilos
(Bleeker, 1855)

形態 背鰭 XI, 15-17; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 17-20; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 48-52; 縦列鱗 86-103。体は側扁し、体高は低い。眼から背鰭始部にかけての輪郭は直線的で、眼から吻部にかけては傾斜が急になる。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線より下方に開口し、主上顎骨後端は眼の後縁をやや越える。背鰭は棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部の間に欠刻は浅い。尾鰭後縁は円形。

色彩 体色は薄い茶褐色。体側には濃褐色の円斑が多数存在するが、斑紋は網目模様を形成しない。成魚の腹部は体側上部に比べて斑紋がやや少ない。背鰭、臀鰭、尾鰭および腹鰭は体側と同様の色彩、斑紋であるが密度は体側の物より低い。背鰭及び尾鰭は黄味を帯びることが多く、成長に伴い背鰭軟条部後部と尾鰭上部縁辺がやや黄味を帯びる。胸鰭は基部に体側同様の円斑をもつが、中央部ではほぼ斑紋はなく一様に濃褐色である。各鰭の縁辺は淡色で縁取られる。

スズキ目 ハタ科 マハタ属

シロブチハタ

Epinephelus maculatus
(Bloch, 1790)



■ キビレハタ *Epinephelus macrospilos* KAUM-I. 51312, 158.9 mm SL

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島と与論島を含む琉球列島に分布する。水深44 m以浅に生息する(Heemstra & Randall, 1993)。

備考 本種は同属他種と比較して、胸鰭中央に褐色斑がないこと、頭部輪郭が眼から吻部にかけて急傾斜することより識別される。Heemstra & Randall (1993) に図示された本種の小型個体(標準体長73-186 mm、南アフリカとチャゴス諸島)は体側の褐色斑が密に並び網目模様を形成しており、瀬能(2013)も本種の識別点の一つとして「体側の斑点は網目模様を形成

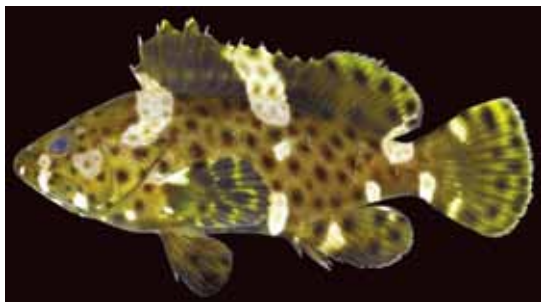
する」としている。しかし、本個体(体長158.9 mm)の体側斑は網目模様を形成していない。Heemstra & Randall (1993) に図示されたライン諸島産の標本(標準体長290 mm)も本個体と同様に網目模様を形成していない。日本産の他の個体も網目模様を形成しておらず[小西, 2011; 神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類写真資料データベース(KPM-NR 31594、KPM-NR 36492、KPM-NR 36493、KPM-NR 61230、全て沖縄産)]、本種はインド洋と太平洋で色彩が異なる、あるいは両海域の個体群は別種である可能性が高い。与論島では茶花港付近から採集された。

(桜井 雄)

形態 背鰭 XI, 15-17; 臀鰭 III, 8-9 (通常8); 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 48-52; 縦列鱗 102-120。体は側扁し、体高は低い。吻部から背鰭始部にかけての輪郭はやや丸みを帯びる。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線より下方に開口し、主上顎骨後端は眼のほぼ直下

にある。背鰭は棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部の間に欠刻は浅い。尾鰭後縁は円形。

色彩 体色は薄い茶褐色。体側には濃褐色の角のある斑紋が密に存在し、斑紋は網目模様を形成する。背鰭始部前方と背

■ シロブチハタ *Epinephelus maculatus* FRLM 42898, 280.8 mm SL■ シロブチハタ *Epinephelus maculatus* KAUM-I. 41133, 75.1 mm SL■ シロブチハタ *Epinephelus maculatus* KAUM-I. 42279, 57.1 mm SL

鰭中央部付近に淡色の大きな斑紋があり、生鮮時にはひじょうに目立つ。各鰭は体側と同様の色彩、斑紋であり、尾鰭後端および背鰭軟条部外縁は鈍い黄色に縁取られる。幼魚の色彩は基本的に成魚と同じであるが、体側の斑紋は成魚よりも大きく網目模様を形成しない。背鰭前方、中央および背鰭後部の淡色部は白色でありひじょうに

よく目立つ。その他にも体側に不定形の白色斑がある。背鰭後縁や尾鰭、胸鰭は黄味を帯び水中ではひじょうに目立つ。

分布 キーリング諸島、西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、与論島を含む琉球列島に分布する。

水深2-100 mに生息する (Heemstra & Randall, 1993)。

備考 本種は同属他種と比較して、背鰭前方、中央に淡色域もしくは白色斑があることにより容易に識別される。

与論島では宇勝海岸やウドノスピーチの水深2 mで浅く採集された。

(桜井 雄)

スズキ目 ハタ科 マハタ属

カンモンハタ

Epinephelus merra
Bloch, 1793

形態 背鰭 XI, 15-17; 臀鰭 III, 8-9 (通常8); 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 48-53; 縦列鱗 98-114。体は側扁し、体高は低い。吻部から背鰭始部にかけての輪郭はなだらかである。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線より下方に開口し、主上顎骨後端は眼の後縁のやや後方にある。背鰭は棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部の間に欠刻は浅い。尾鰭後縁は円形。

色彩 体色は薄い茶褐色。体側には濃褐色の角のある小斑紋が密に存在し、斑紋は網目模様を形成する。またいくつかの斑紋がつながり、太短い波線状の斑紋を形成する場合がある。背鰭基底上に目立つ濃茶褐色の斑紋はない。背鰭、臀鰭、尾鰭および腹鰭は体側とほぼ同色であり同様の斑紋を形成し、斑紋間に白色の小点をもつ場合がある。胸鰭は鈍い黄色で体側より細かい濃褐色の斑紋が密に存在し、斑点の間には小白色点をもつ場合がある。

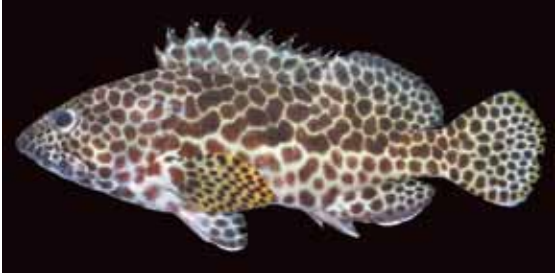
分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、与論島を含む琉

球列島に分布する。水深50 m以浅に生息する (Heemstra & Randall, 1993)。

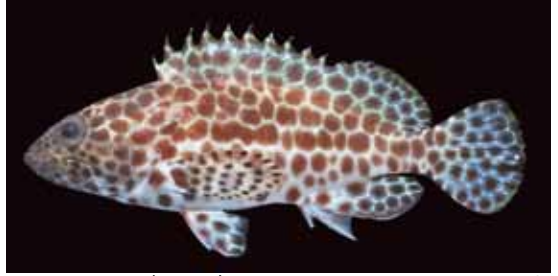
備考 本種は同属他種と比較して、各鰭を含む体側全面に網目状模様を形成する褐色斑をもつこと、一部の体側斑紋がつながり太短い波線状斑を形成すること、背鰭基底付近に目立った濃色斑を持たないことにより識別される。生息環境や色彩がひじょうに似ているイシガキハタ *E. hexagonatus* (Forster, 1801) との識別点は同種の項を参照のこと。

与論島ではタイドプールを含む周辺の水深10 mで浅い海域から数多く採集、観察された。

(桜井 雄)



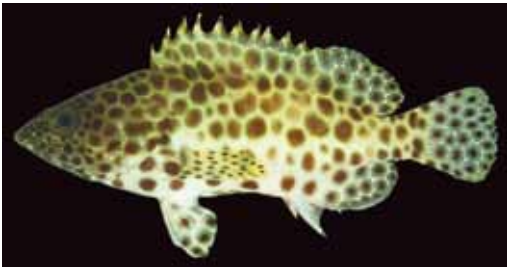
■ カンモンハタ *Epinephelus merra* FRLM 42737, 132.8 mm SL



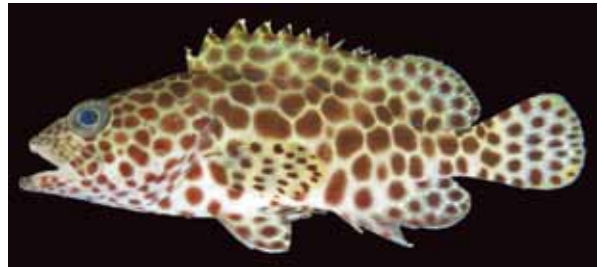
■ カンモンハタ *Epinephelus merra* FRLM 42891, 99.5 mm SL



■ カンモンハタ *Epinephelus merra* KAUM-I. 39984, 90.5 mm SL



■ カンモンハタ *Epinephelus merra* BSKU 108227, 67.2 mm SL



■ カンモンハタ *Epinephelus merra* NSMT-P 110367, 58.0 mm SL



■ カンモンハタ *Epinephelus merra* KAUM-I. 39961, 33.8 mm SL



■ カンモンハタ *Epinephelus merra* KAUM-I. 40075, 32.8 mm SL



■ カンモンハタ *Epinephelus merra* KPM-NI 30896, 29.1 mm SL



■ カンモンハタ *Epinephelus merra* KAUM-I. 45986, 26.9 mm SL



■ カンモンハタ *Epinephelus merra* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ カンモンハタ *Epinephelus merra* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

■ マダラハタ *Epinephelus polyphkadion* KAUM-I. 51581, 51.5 mm SL

スズキ目 ハタ科 マダラ属

マダラハタ

Epinephelus polyphkadion
(Bleeker, 1849)

形態 背鰭 XI, 14-15; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 47-53; 縦列鱗 95-113。体は側扁し、体高はやや高い。吻部から背鰭始部にかけての輪郭はやや丸みを帯びてなだらかである。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線より下方に開口し、主上顎骨後端は眼の後縁のやや後方にある。背鰭は棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部の間に欠刻は浅い。尾鰭後縁は円形。

色彩 体色は薄い茶褐色。体側には瞳孔

径より小さい濃褐色小斑点が密に存在し、一見すると単色で点状模様がないように見える。背鰭始部付近から背鰭基底後端にかけて前下方に伸びる5本の濃褐色の斜走帯がある。尾柄上縁には眼径大の1濃色斑がある。背鰭、臀鰭、尾鰭および腹鰭は体側とほぼ同色であり同様の斑紋を形成し、斑紋間に白色点がみられる。胸鰭も同様の色彩、斑紋であるが、後方4分の1は体側より濃い褐色である。Randall & Heemstra (1991) に掲載された幼魚の色彩は、体側は淡い黄褐色で体側、各鰭には黄褐色の円斑が密に存在する。尾柄上縁に眼径大の1黒色斑がある。その他に背鰭第1棘先端、鼻孔付近にそれぞれ黒斑をもつ。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、四国、大隅諸島、

与論島を含む琉球列島に分布する。

備考 与論島前浜海岸の水深10mから採集された本個体(標準体長51.5mm)はRandall & Heemstra (1991) の色彩とひじょうによく一致しておりマダラハタと同定された。

本種は同属他種と比較して、体側に瞳孔より小さい褐色斑を密にもつこと、尾柄上縁に眼径大の1黒斑をもつことで識別される。本種と色彩がひじょうに近いアカマダラハタ *E. fuscoguttatus* (Forsskal, 1775) は、吻部から背鰭始部にかけての輪郭が眼上で凹みその後ろが膨らむこと、生鮮時には背鰭軟条基底から尾柄にかけて3濃色斑があり尾柄上縁の黒斑は眼径より小さくやや四角いこと、胸鰭がやや赤みを帯びることから識別される。

(桜井 雄)

スズキ目 ハタ科 マダラ属

ヒトミハタ

Epinephelus tauvina
(Forsskal, 1775)

形態 背鰭 XI, 13-16; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 62-74; 縦列鱗 95-113。体は側扁し、体高は同属他種と比べてかなり低い。眼から背鰭始部にかけての輪郭はなだらかであるが、眼の直前で隆起する。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線より下方に開口し、

主上顎骨後端は眼の後縁の後方に位置し口が大きい。背鰭は棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部の間に欠刻は浅い。尾鰭後縁は円形。

色彩 体色は薄い茶褐色。体側には瞳孔大の輪郭のぼやけた濃褐色もしくは赤褐色の斑点が密に存在するが網目状の模様を形成しない。背鰭基底中央に濃褐色の楕円斑がある。背鰭、臀鰭および尾鰭は体側とほぼ同色であるが、軟条部には網目状模様を形成する。腹鰭は体側とほぼ同色、胸鰭は同様の斑紋があるが鰭膜は体側より濃い褐色である。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、三重県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、与論島を含む琉球列島に分布する。水深50m以浅に生息する(Heemstra & Randall, 1993)。

備考 本種は同属の中でもスミツキハタ *E. melanostigma* Schultz, 1953 とひじょうによく似るが、スミツキハタは体側に網目状斑紋を形成すること、吻部の輪郭が眼の直前で隆起しないことにより識別される。

与論島ではシゴウ沖や供利漁港沖の水深15m以浅から採集された。

(桜井 雄)



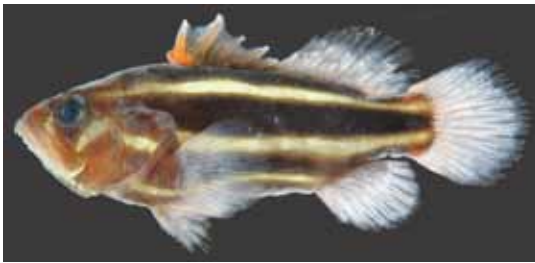
■ ヒトミハタ *Epinephelus tauvina* KAUM-I. 45767, 387.0 mm SL



■ ヒトミハタ *Epinephelus tauvina* KAUM-I. 41218, 240.7 mm SL



■ ヒトミハタ *Epinephelus tauvina* KAUM-I. 46102, 80.1 mm SL

■ ヌノサラン *Grammistes sexlineatus* KAUM-I. 39780, 59.0 mm SL■ ヌノサラン *Grammistes sexlineatus* BSKU 106120, 30.6 mm SL■ ヌノサラン *Grammistes sexlineatus* NSMT-P 110314, 17.3 mm SL■ ヌノサラン *Grammistes sexlineatus* KAUM-I. 51468, 16.3 mm SL■ ヌノサラン *Grammistes sexlineatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ハタ科 ヌノサラン属

ヌノサラン

Grammistes sexlineatus
(Thunberg, 1792)

形態 背鰭 VII, 12-14; 臀鰭 II, 9; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 60-72; 縦列鱗 82-88。体は著しく側扁し、体高は高い。前鰓蓋骨後縁に5本、主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口はほぼ正中線に

開口し、口裂は斜め下方向に開く。下顎先端に皮弁があるが短い。主上顎骨後端は眼の直下に位置する。背鰭は2鰭で第1背鰭(棘条部)は第2背鰭(軟条部)より低い。棘条部先端に切れ込みはない。尾鰭後縁は円形。

色彩 体色は濃茶褐色で幼魚期は背部上縁付近中央付近に薄いクリーム色楕円斑が2列並ぶ。成長に伴い楕円斑はつながり縦線上になり、成長とともにその数を増やす。頭部は幼魚期には眼の後方に1ク

リーム色-鈍い橙色の横長の円版であり、成長とともに主上顎骨後端を中心としたクリーム色の放射線状斑になる。第1背鰭は、幼魚期は第1棘が橙色であり、その後棘条部分がくすんだ橙色になり鰭膜は半透明。その他の鰭は鰭条が橙色で鰭膜は透明であるが、成長に伴い基部より黒みを帯び始める。老成魚では縦線は途切れ始め、瞳孔より小さい縦長の破線状斑が体側全面、各鰭基部に散在する。

分布 インド・太平洋に分布する。国内で

は伊豆諸島、小笠原諸島、岩手県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、与論島を含む琉球列島に分布する。

備考 本種は危険を感じると皮膚表面からグラミスチンという粘液毒を出す特徴をもち、かつてはキハツク *Diploprion bifasciatum* Cuvier, 1828 や ルリハタ *Aulacocephalus temminckii* Bleeker, 1855、アゴハタ *Pogonoperca punctata* (Valenciennes, 1830) などともにヌノサラシ科とされていた(片山、1988; 瀬能、1993)。現在これらの種類は全てハタ科に帰属されている(瀬能、2000, 2013)。

本種は形態的にアゴハタと似るが、アゴハタは体側に細かい白色点をもつこと、下顎先端の皮弁が長いこと、臀鰭が3棘8軟条であることから識別される。

与論島では皆田海岸や宇勝海岸、供利漁港内の水深0.5-5 mで採集されたほか前浜の水深5-15 mで観察された。

(桜井 雄)



■ヌノサラシ *Grammistes sexlineatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■コスジハナスズキ *Liopropoma susumi* BSKU 108324, 39.8 mm SL

スズキ目 ハタ科 ハナスズキ属

コスジハナスズキ

Liopropoma susumi
(Jordan & Seale, 1906)

形態 背鰭 VI-I-I, 11-12; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 15-16; 側線有孔鱗 44-49; 側線上横列鱗 5; 側線下横列鱗 15; 鰓耙 5-6+12-13。体は側扁し、体高はやや低い。頭部は大きく、吻はやや短い。背鰭前方の背縁はほぼ直線的。両背鰭は離れる。胸鰭はやや長い。尾柄は太く、尾鰭はやや丸みを帯びた截形。口は大きく、上顎の後端は瞳孔の後縁下をわずかに越え



■コスジハナスズキ *Liopropoma susumi* KAUM-I. 58441, 54.3 mm SL

る。下顎先端は上顎先端よりやや突出する。前鼻孔は長い管状で、上唇近くに位置する。両顎、前鋤骨と口蓋骨には小円錐歯の歯帯を備える。前鰓蓋骨と間鰓蓋骨の縁辺には細かな鋸歯をもつ。主鰓蓋骨棘は2本。肛門は臀鰭始部からやや離れる。頭と体、各鰭の基部付近から下方は櫛鱗で覆われる。両唇、吻端、下顎縫合

部の後方から鰓条骨上は無鱗。

色彩 生時の体と鰭の地色は橙色で、尾柄より前方では灰みを帯びる。腹鰭はやや白い。体側には7本の黄緑色の縦線がある。眼の背縁と虹彩の一部は黄緑色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内で

は大隅諸島から琉球列島、伊豆諸島から小笠原諸島にかけて分布する。

備考 本種はヤミスズキと同様の環境を好み、与論島から採集された標本のうち、体長39.8 mmの個体は前出のヤミスズキと同地点で採集された。最大で体長9 cmに達する。

(遠藤広光)



■ アマミハナダイ *Plectranthias yamakawai* KAUM-I. 51281, 143.1 mm SL



■ アマミハナダイ *Plectranthias yamakawai* FRLM 42847, 134.1 mm SL

スズキ目 ハタ科 イズハナダイ属

アマミハナダイ

Plectranthias yamakawai
Yoshino, 1972

形態 背鰭 X, 16-18; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 13; 側線有孔鱗 31-33; 側線上方横列鱗 4; 側線下方横列鱗 15; 鰓耙 5-6+11-13。体は卵円形で、よく側扁する。吻は尖る。主上顎骨は有鱗。側線は完全で、尾柄まで達する。背鰭第4棘あるいは第5棘が最長。胸鰭鰭条は分枝する。尾鰭は截形で、大型個体では上縁後端がわずかに伸長する。

色彩 体色は地色が赤みのある桃色あるいは橙色で、頭部下半部から腹部を除く体に、黄色く縁取られる茶色の小斑点が散在する。背鰭第8棘から第10棘にかけての基底下方の側線腹側に、眼径大の赤い円形ないし楕円形の1赤色斑がある。大型の個体ではこの赤色斑の周囲は白く縁取られる傾向がある。白い腹鰭を除き、各鰭は黄色みを帯びる。背鰭棘は赤みのある橙色あるいは橙色。

分布 日本、台湾南部、サモア諸島。国内では屋久島、奄美群島、沖縄諸島から記録されている。

備考 体に散在する斑点と、体側の赤色斑により同定は容易。与論島沖で採集された KAUM-I. 51281 (体長 143.1 mm) は、体の斑点が少なく背部に限られ、体側の地色は黄色と赤色の斜走横帯が交互に配列し、色彩がやや異なる。この個体は体側に発現しつつある1赤色斑を確認できることと、体長 20 cm に達する本種としては体長が比較的小さいことから、体色の違いは成長段階もしくは性転換に起因するものと考えられる。

本種は深海性で、水深 200-340 m の岩礁から釣獲される。

(瀬能 宏)

■ フジナハナダイ *Plectranthias wheeleri* KAUM-I. 41223, 50.6 mm SL

スズキ目 ハタ科 イズハナダイ属

フジナハナダイ (新称)

Plectranthias wheeleri
Randall, 1980

標本 KAUM-I. 41223、体長 50.6 mm、鹿児島県大島郡与論島沖 (北緯 27 度 04 分、東経 128 度 26 分)、水深 130-250 m、2011 年 8 月 20 日、釣獲されたヤマブキハタ *Saloptia powelli* Smith, 1964 (KAUM-I. 41226、体長 337.3 mm) の口腔内より摘出、山下真弘・吉田朋弘・西山 肇。

形態 背鰭 X, 16; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分節鰭条 9+8; 尾鰭前起鰭条 7/6; 側線有孔鱗数 28 または 29 (鱗鞘を含む推定値); 側線上方横列鱗数 3; 側線下方横列鱗数 11; 鰓耙数 5+11;

前背鰭骨数 3; 脊椎骨数 9+17。体各部位の体長に対する割合は、体高 35.6%、体幅 19.4%、鰓膜を含む頭長 43.5%、吻長 9.5%、眼高径 13.1%、頭部眼後長 23.0%、両眼間幅 3.4%、上顎長 21.1%、尾柄高 12.4%、尾柄長 22.1%、背鰭前長 42.9%、臀鰭前長 67.5%、腹鰭前長 38.3%、背鰭基底長 53.7%、背鰭第1棘長 6.3%、背鰭第2棘長 10.1%、背鰭第3棘長 16.4%、背鰭第4棘長 15.5%、背鰭第10棘長 7.3%、臀鰭第1棘長 9.0%、臀鰭第2棘長 18.0%、臀鰭第3棘長 14.2%、胸鰭長 36.3%、腹鰭棘長 16.3%、腹鰭長 21.4%。

体は長卵形で、よく側扁する。前鰓蓋骨後縁は円く、上部は 17 本 (右側は 19 本) の小棘からなる鋸歯状で、下部に 2 本の前向棘がある。主鰓蓋骨に 3 本の平たい棘があり、中央の棘が最大。下鰓蓋骨後縁下部は部分的に鋸歯状。間鰓蓋骨後縁

上部に痕跡的な鋸歯がある。両顎歯は絨毛状歯帯を形成し、歯帯の幅は前方で広く、後方で狭い。上顎の歯帯前端に細長く、やや内側に曲がる円錐歯が右側に 3 本、左側に 1 本ある。また、その外側に左右 1 対の大きな犬歯状歯がある。下顎の歯帯側部中央付近に左右 1 対の大きな犬歯状歯がある。下顎歯帯の内側の歯の大きさは外側の歯とほぼ同じ。鋤骨歯は V 字形の絨毛状歯帯を形成する。口蓋骨に絨毛状歯帯がある。鰓耙は上肢の 5 本のうち上側 4 本と、下肢の前方 3 本が瘤状で、その他は突起状。上・下肢の関節部の鰓耙が最長で、最長の鰓耙とほぼ同長。体は櫛鱗に被われる。眼隔域の被鱗域は後鼻孔の直後まで達するが、涙骨を含む吻、主上顎骨、下顎腹面は無鱗。胸鰭鰭条は最上の 1 本を除き分枝する。

色彩 鮮時の体色は体の地色が白く、下顎

前端および吻端から頭部背面、項部にかけて赤橙色。上唇を含む眼前域、頬、眼の後方から主鰓蓋にかけて黄色。前鰓蓋上の鱗の縁は橙色の網目模様を形成する。躯幹部から尾部にかけての体側に黄色小斑の混じる赤橙色斑があり、胸鰭から上方の体側前部の斑は大きく、形が不規則。それよりも後方にある斑は5本の横帯として認められる。最前の横帯は背鰭8-10棘下にあり、やや前下方へ向かい、胸鰭基底下端のレベルよりもやや下方まで達する。続く2横帯は背鰭軟条部下にあり、尾柄前部と尾鰭基底上にもそれぞれ1横帯が認められる。背鰭軟条部下前部の横帯は、臀鰭棘状部のわずかに上方に達する。それ以外の横帯は体腹縁に達する。背鰭、尾鰭、臀鰭は黄色。胸鰭は鰭条が白く、鰭膜は無色透明。腹鰭は白く、わずかに赤みを帯びる。固定標本では鰭は灰白色、体はほぼ一様に黄色みを帯びた白色となる。後頭部から項部にかけて黒色素胞が散在する。側線下方の体側に側線に沿って黒色素胞が帯状に散在する。背鰭軟条部下方と尾鰭基底上では黒色素胞が横帯状に散在する。

分布 本種はこれまでにインドネシアのスラウェシ島(タイプ産地;水深100m)とカイ諸島(水深236m)、台湾(*Plectranthias helenae* Randall, 1980として)から標本に基づく記録があり、与論島(本研究)の1標本は、本種の日本からの初記録となる。

備考 与論島から得られた1標本は、ヤマブキハタの口腔内から摘出されたもので、釣獲時に胃から吐き出されたものと考えられる。そのため、鰭の軟条部や被鱗域がかなり損傷しているが、胸鰭鰭条は最上部の1本を除き分枝する、涙骨を含む吻・下顎腹面・主上顎骨は無鱗、体高は体長の35.6%、眼窩径は頭長の30.0%、両顎に犬歯状歯をもつ、下顎の歯は内側が特に大きくはない、下肢鰭耙数は11本、前鰓蓋骨後縁上部は鋸歯状で、下部に2本の前向棘をもつ、背鰭第3棘が最長、側線上方横列鱗数は3枚、胸鰭鰭条数は13本、体側に黄色小斑で被われる赤橙色斑もしくは赤橙色横帯があるなどの特徴が、Randall(1980)の原記載およびRandall(1996)の検索表に使われた特徴とよく一致した。

本標本の尾柄部の鱗はほぼ脱落しているため、その部分の側線の状態を確認できず、側線有孔鱗数についても正確に計数できない。しかし、残された鱗鞘から推定される鱗数は28枚もしくは29枚で、Randall(1996)に示された*P. wheeleri*の範囲(28-30枚)に収まった。一方、背鰭第3棘長は頭長の37.7%で、Randall(1996)が示した範囲(40.8-42.6%)よりも短かった。これは与論島産の標本サイズが体長50.6mmと小さいことによる個体変異とみなした(上記の値は体長70.7-82.8mmのタイプシリーズに基づくと思われる)。なお、Lee(1990)が台湾から報告した*P. helenae*は、その図や記載から判断して*P. wheeleri*の誤同定、*P. wheeleri*として報告した種は、体側下半部に斑紋がなく、側線有孔鱗数が31枚、下肢鰭耙数が9-10本などの特徴から、真の*P. wheeleri*とは別種と考えられる。

本種の体に散在する黄色斑は、咲き乱れるタンポポを連想させるので、与論島産の標本に基づき新標準和名フジナハナダイを提唱する。「フジナ=藤菜」はタンポポの古名のひとつ。

(瀬能 宏)



■ コクハンアラ *Plectropomus laevis* KAUM-I. 51454, 345.5 mm SL

スズキ目 ハタ科 スジアラ属

コクハンアラ

Plectropomus laevis
(Lacepède, 1801)

形態 背鰭 VIII, 11; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 16-18; 腹鰭 1, 5; 有孔側線鱗 92-115; 縦列鱗 123-153。体は側扁し、体高は低い。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線より下方に開口し、主上顎骨後端は眼の直下に位置する。鼻孔周囲に深い溝がある。背鰭は棘条部が軟条部より低く、棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部との間の欠刻はやや明瞭。臀鰭第1棘は不顕著で皮下に埋没する。尾鰭後縁

は浅い湾入形。

色彩 体色は薄い茶褐色で腹部はやや淡色になる。後頭部から背鰭後端にかけて4本の不定形の暗色横帯がある。各鰭は黄色で、胸鰭基底に濃褐色斑がある。尾柄付近から尾鰭にかけて縁取りのある瞳孔より小さい青色もしくは青白色点が散在する。下顎先端はやや黄味を帯びる。成魚および老成魚の体色は濃褐色もしくは濃い赤色で頭部、体側全面に縁取りのある瞳孔より小さい青色もしくは青白色点が散在する。胸鰭基部は濃褐色であり、縁辺は鈍い橙色になる。

分布 インド・太平洋(紅海・ペルシャ湾を除く)に分布する。国内では伊豆諸島、

小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、与論島を含む琉球列島に分布する。水深90mに以浅に生息する。

備考 本種は同属他種と比較して、体側に目立った濃褐色横帯があることにより容易に識別される。ただし老成魚はスジアラ*P. leopardus* (Lacepède, 1802) とひじょうによく似るが、体側の青色小点が相対的に大きく少ないこと、胸鰭は基部が濃色で縁辺が橙色になることにより識別される。なお全長10cm以下の幼魚では色彩がシマキンチャクフグ*Canthigaster valentini* (Bleeker, 1853) にひじょうによく似ており、ベーツ型擬態の可能性があるとされている(瀬能, 1997)。与論島では沖合から釣獲された。(桜井 雄)

■ スジアラ *Plectropomus leopardus* KAUM-I. 46004, 343.7 mm SL■ スジアラ *Plectropomus leopardus* FRLM 42899, 300.8 mm SL

スズキ目 ハタ科 スジアラ属

スジアラ

Plectropomus leopardus
(Lacepède, 1802)

形態 背鰭 VIII, 11; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 14-17; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 81-99; 縦列鱗 112-130。体は側扁し、体高は低い。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線より下方に開口し、主上顎骨後端は眼の直下に位置する。鼻孔周囲に深い溝がある。背鰭は棘条部が軟条部より低く、棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部との間の欠刻はやや明瞭。臀鰭第1棘は不顕著で皮下に埋没する。尾鰭後縁は浅い湾入形。

色彩 体色は明るい橙色、赤褐色もしくはやや薄い茶褐色で腹部はやや淡色になる。

体側には瞳孔より小さい青色もしくは青白色点がやや密に散在するが下顎から腹部にかけてはほとんどない。背鰭、臀鰭および尾鰭は体側と同色で青色の小斑点がある。胸鰭および腹鰭はやや黄味を帯び縁辺は朱色。個体により胸鰭はややくすんだ薄い褐色になるものもあるが、明瞭な濃褐色部をもたない。

分布 西太平洋、オーストラリア北西部に分布する。国内では伊豆諸島、山口県（日本海）と相模湾以南の南日本、大隅諸島、与論島を含む琉球列島に分布する。水深3-100 mに生息する（Heemstra & Randall, 1993）。

備考 本種とコクハンアラ *P. laevis* (Lacepède, 1801) の老成魚との識別点はコクハンアラの項参照のこと。またフィリピンからオーストラリア北部で同所的に生息する同属の *P. maculatus* (Bloch, 1790) は頭部

■ スジアラ *Plectropomus leopardus* 18 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki

に少ない縦長の青色小点があることにより識別される。

与論島では供利沖水深40 mから採集されたほか茶花沖の水深30 mから観察された。

(桜井 雄)

■ ハナゴイ *Pseudanthias pascalus* Male KAUM-I. 46033, 117.1 mm SL■ ハナゴイ *Pseudanthias pascalus* Female KAUM-I. 46034, 99.6 mm SL

スズキ目 ハタ科 ナガハナダイ属

ハナゴイ

Pseudanthias pascalus
(Jordan & Tanaka, 1927)

形態 背鰭 X, 15-17; 臀鰭 III, 7-8; 胸鰭 16-19; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 48-52; 側線上方横列鱗 6; 側線下方横列鱗 15-16。体は側扁し、体高は低い。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線上に開口し尖る。口裂はやや下方向に開き、主上顎骨後端は眼の直下に位置する。背鰭棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部との間刻はない。雄の背鰭軟条は第10-12軟条が他の軟条よりも長く、鱗が大きく広がる。雌雄とも背鰭棘に伸長はみられない。臀鰭後縁は尖る。尾鰭後縁は深く二又し両葉とも糸状に伸長する。下鰓蓋骨後縁は鋸歯状。眼の

■ ハナゴイ *Pseudanthias pascalus* KAUM-I. 40151, 112.9 mm SL

後縁に小乳頭状突起がある。

色彩 体色は雌雄とも明るい赤紫色で頭部下面から腹部は淡色になる。吻端から眼を通り胸鰭基底に達する1橙色縦帯がある。

雄の背鰭第6棘先端付近から後方は濃い赤色が大きく広がる。尾鰭は両葉の外縁が赤紫色で中央および後縁がくすんだ黄色。腹鰭、臀鰭は白く縁辺はやや薄い赤紫色の縁取りがある。胸鰭は透明で不規則な

橙色線が入る。雌は体側に鱗に沿った橙色小点が列をなして並ぶ。背鰭は体色と同色で鰭膜に体側と同色の小斑点が不規則に並ぶ。腹鰭、臀鰭は白く縁辺はやや薄い赤紫色の縁取りがある。尾鰭は両葉の中央がやや黄味を帯びるが後縁は淡色。

分布 西-中央太平洋（ハワイ諸島とイースター島を除く）に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、トカラ列島、与論島を含む琉球列島に分布する。水深1-60mのサンゴ礁や岩礁域に生息する。

備考 本種は同属他種と比較して、体色が赤紫色であること、口が尖ること、背鰭棘が糸状に伸長しないこと、体側に赤色の斑紋を持たないことで識別できる。与論島では西岸や茶花沖の水深10-25mで採集、観察された。

(桜井 雄)



■ ハナゴイ *Pseudanthias pascualis* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ スミレナガハナダイ *Pseudanthias pleurotaenia* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ハタ科 ナガハナダイ属

スミレナガハナダイ

Pseudanthias pleurotaenia
(Bleeker, 1857)

形態 背鰭 X, 16-18; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 44-51; 側線上方横列鱗 7; 側線下方横列鱗 18-19。体は側扁し、体高は低い。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線上に開き、口裂は丸い。口裂はやや下方向に開き、主上顎骨後端は眼の後縁を越えない。背鰭棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部との間の欠刻はない。背鰭第3棘が最も長く、雄ではやや伸長する。臀鰭後縁は尖る。尾鰭後縁は湾入形で伸長部はない。下鰓蓋骨後縁は鋸歯状。

色彩 雄の体色は朱色で腹部は淡色になる。眼から胸鰭基底に達する1赤色縦帯があり、その上方の鰓蓋部と下方の下顎から腹鰭基底にかけては明瞭に淡色になる。胸鰭後方の体側中央部に大きな薄い赤紫色の四角斑がある。背鰭は薄い赤色で背鰭第4棘から最終棘までの先端はやや濃い赤色、後端付近に同じく濃い赤色の1斑がある。臀鰭は白く、鰭中央に黄色の不定型な斑紋があり後部に濃い赤色の斑点が数個みられる。尾鰭は薄い朱色で先端は淡色、両葉に黄色の斑紋が1対ある。腹鰭は薄い赤色で胸鰭は薄い赤紫色。雌の体色は明るい橙色で体側の各鱗には濃い黄橙色の小点がある。眼から胸鰭基底を通り体側後半に達する3黄橙色縦帯があり、縦帯間は淡色になる。頬部から胸鰭基底下を通り腹鰭基底にかけては淡色になる。背鰭および尾鰭は薄い黄橙色で濃い黄橙色の斑点があり、臀鰭は棘条部分が

淡色で軟条部分には黄橙色の斑点列がある。腹鰭は透明で胸鰭は薄い黄橙色。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、駿河湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、与論島を含む琉球列島に分布する。水深6-70mのサンゴ礁や岩礁域に生息する。

備考 本種は同属他種と比較して、尾鰭に糸状の伸長部がないこと、背鰭棘先端の鰭膜が切れ込むこと、吻端が丸いこと、雄の体側に大きな赤紫色の四角い斑紋があることで識別される。

与論島では茶花沖の水深30mで観察された。

(桜井 雄)



■ キンギョハナダイ *Plectropomus squamipinnis* KAUM-I. 58393, 44.5 mm SL



■ キンギョハナダイ *Plectropomus squamipinnis* KAUM-I. 42698, 23.8 mm SL

スズキ目 ハタ科 ナガハナダイ属

キンギョハナダイ

Pseudanthias squamipinnis
(Peters, 1855)

形態 背鰭 X, 17; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 39-43; 側線上方横列鱗 6-7; 側線下方横列鱗 16-19。体は側扁し、体高は低い。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線上に開口し頭部輪郭は丸い。口裂はやや下方向に開き、主上顎骨後端は眼の後縁を越えない。背鰭第1-3棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部間の欠刻は浅い。背鰭第3棘は伸長する。背鰭第3-10棘間の鰭膜は鰭条に沿って交互に棘先端付近まで鱗で覆われる。背鰭および臀鰭後

縁はやや尖る。尾鰭後縁は湾入形で両葉はやや伸長する。

色彩 雄の体色は明るい橙色で腹部は淡色になる。眼から胸鰭基底に達する1濃橙色縦帯があり、上下縁は赤紫色。体側全面に黄橙色の不規則な小点がある。胸鰭下の体側に1赤色斑がある場合もある。背鰭は薄い橙色で不規則な黄橙色点が多量に存在する。尾鰭は黄色で後方の中央部は淡色で黄橙色の点列がある。臀鰭の縁は黄色く、鰭膜は透明であり、鰭条に沿った不規則な黄橙色斑がある。胸鰭は薄い橙色。雌の体色は明るい橙色で腹部は淡色。体側全面に黄橙色の不規則な小点がある。眼から胸鰭基底に達する1赤紫色縦帯がある。背鰭は薄い黄橙色で軟条部先端はやや赤色を帯び不規則な濃橙色斑

が散在する。尾鰭の上下葉は黄橙色で中央部は淡色で黄橙色の点列がややみられる。臀鰭、腹鰭および胸鰭は黄橙色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、山口県（日本海）と相模湾以南の南日本、大隅諸島、与論島を含む琉球列島に分布する。水深2-58mのサンゴ礁や岩礁域に生息する。

備考 本種は同属他種と比較して、雌雄ともに体色は明るい橙色で体側に目立った斑紋をもたないこと、背鰭棘間の鰭膜が鰭条に沿って交互に棘先端付近まで鱗で覆われることで識別される。色彩に地理的変異があり分類学的検討が必要とされる(瀬能、1997; 吉野、2008)。

(桜井 雄)

■トゲメギス *Pseudogramma polyacantha* KAUM-I. 58316, 37.7 mm SL

スズキ目 ハタ科 トゲメギス属

トゲメギス

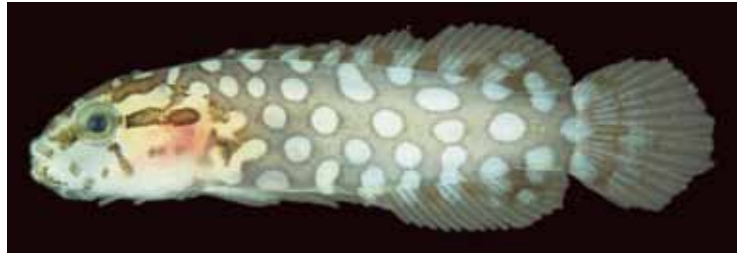
Pseudogramma polyacantha
(Bleeker, 1856)

形態 背鰭 VII–VIII, 19–22; 臀鰭 III, 16–18; 胸鰭 14–17; 腹鰭 I, 5; 背鰭前方鱗 18–20; 側線鱗 31–40。体は細長く、やや側扁する。吻端はやや尖る。背鰭起部は胸鰭起部のやや後方直上に位置する。腹鰭起部は胸鰭起部のやや前方下方に位置する。胸鰭後端は臀鰭始部を越える。背鰭基底は長い。尾鰭は円形。

色彩 体色は変異に富む。頭部は黒色から鶯色で不規則な白色線がはしる。体側部は灰色から黒みを帯びた鶯色で、白色斑が散在する。背鰭、臀鰭および尾鰭は黒みを帯びた鶯色で、縁辺は白色を呈する。腹鰭と胸鰭は透明。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 トゲメギス属は Randall & Baldwin

■トゲメギス *Pseudogramma polyacantha* KAUM-I. 50860, 17.8 mm SL■トゲメギス *Pseudogramma polyacantha* BSKU 108297, 11.5 mm SL

(1997)によって包括的な分類学的研究が行われ、同属の中で日本に分布するのはトゲメギス 1 種のみである。与論島から得

られたトゲメギスは水深 15–17 m に生息していた。

(吉田朋弘)

スズキ目 ハタ科 ヤマブキハタ属

ヤマブキハタ

Saloptia powelli
Smith, 1964

形態 背鰭 VIII, 11–12; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 14–15; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 70–78; 縦列鱗 127–133。体は側扁し、体高は低い。主鰓蓋骨上に 3 本の棘を有する。口は正中線より下方に開口し、主上顎骨後端は眼の後縁直下に位置する。背鰭は棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部間の欠刻は浅い。前鰓蓋骨下縁に前向

棘がある。臀鰭第 1 棘は顕著で露出する。尾鰭後縁は截形もしくは浅い湾入形。

色彩 体色は薄い桃色で腹部はやや淡色になる。頭部と鰓蓋部、体側上部に不定型な黄色斑があり、それ以外に斑紋、斑点はない。背鰭、臀鰭および尾鰭は黄色で縁辺はやや淡色になる。腹鰭は体側と同じく薄い桃色。胸鰭の鰭条は橙色で鰭膜は透明。

分布 台湾南部、マリアナ諸島、マーシャル諸島、ポリネシアに分布する。国内では与論島、沖縄県、小笠原諸島に分布する。

水深 140–367 m に生息する (Heemstra & Randall, 1993)。

備考 本種は体側に目立った斑紋がないこと、前鰓蓋骨下縁に前向棘をもつこと、臀鰭第 1 棘が皮下に埋没しないことからハタ科の他種と識別できる。なおヤマブキハタ属は全世界に 1 属 1 種である。

与論島では沖合の 130–250 m で釣獲された。瀨能 (2013) によれば本種の分布北限は沖縄県であり、与論島の採集記録は標本に基づく北限記録である可能性が高い。

(桜井 雄)

■ ヤマブキハタ *Saloptia powelli* KAUM-I. 41226, 337.3 mm SL■ ハナゴンベ *Serranocirrhites latus* KAUM-I. 58391, 46.4 mm SL

スズキ目 ハタ科 ハナゴンベ属

ハナゴンベ

Serranocirrhites latus
Watanabe, 1949

形態 背鰭 X, 18-20; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 13-14; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 33-38; 側線上方横列鱗 5; 側線下方横列鱗 11-12。体は側扁し、体高は高く輪郭は円形に近い。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線よりやや下に開口し、口裂はやや下方向に開き、主上顎骨後端は眼の後縁を越えない。頭部輪郭は吻から後頭部にかけてやや直線的角度は深く、後頭部から背鰭基部は丸い。背鰭棘条上部

で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部との間の欠刻は浅い。背鰭棘は伸長しない。腹鰭最長軟条と臀鰭後縁は伸長する。尾鰭後縁は深い二叉形で両葉の先端は細く伸長する。

色彩 体色は明るい橙色。眼前に吻に達する1黄色線が、眼後から胸鰭基底に達する2黄色縦線がある。鼻部背面や後頭、眼の上方に薄い黄色の不定形の斑紋がある。体側の各鱗に1黄色点があり点列をなす。鰓蓋後縁上部に鱗の斑点より大きい1黄色斑がある。背鰭の鰭条は薄い黄色で鰭膜は透明、基底から先端にかけてグラデーション状になり前方から後方にかけては破線状を呈する。臀鰭は前縁が淡

色で縁取られ前方および基底はくすんだ黄色、後方は淡色で赤い不規則の点列がある。尾鰭は上下縁が淡色で縁取られ、両葉の中央部は黄色、中央軟条と後縁は淡色である。腹鰭の鰭条は白く鰭膜は透明、胸鰭の鰭条は薄い桃色で鰭膜は透明。

分布 西太平洋に分布。国内では伊豆諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、与論島を含む琉球列島に分布する。水深9-70mのサンゴ礁や岩礁域に生息する。

備考 ハナゴンベ属は全世界に1属1種であり、ハタ科の他種とは独特の輪郭の丸い体型により容易に識別される。

(桜井 雄)

■ パラハタ *Variola louti* FRLM 43041, 140.3 mm SL■ パラハタ *Variola louti* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ハタ科 パラハタ属

バラハタ

Variola louti
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 IX, 13-14; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 16-19; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 66-77; 縦列鱗 113-135。体は側扁し、体高は低い。主鰓蓋骨上に3本の棘を有する。口は正中線より下に開口し、主上顎骨後端は眼の後縁直下に位置する。背鰭は棘条上部で浅い切れ込みが入り、棘条部と軟条部の間欠刻はほとんどない。尾鰭後縁は深く湾入し三日月形で両葉の先端は細く尖る。

色彩 体色は濃い赤褐色で腹部はやや明

色になる。個体によっては体側に黒色の不定形斑をもつ場合がある。頭部から体側にかけて瞳孔より小さいもしくは水平方向にやや長い赤褐色もしくは青白色点がやや密に散在するが下顎から腹部にかけてはほとんどない。背鰭、臀鰭および尾鰭は体側と同色で斑点がある。腹鰭は薄い赤褐色で腹鰭はやや濃い赤褐色で斑点はない。各鰭とも後部は明瞭に黄色い。幼魚は眼の後方から尾柄にかけて1黒色縦帯があり、成長に伴い眼の後方から背鰭基底後端の1縦帯と尾鰭基底上部の1黒斑に分かれ、その後黒色部は消失する。幼魚の黒色縦帯より下は明瞭に淡色で生時は特に白くみえる。

分布 インド・太平洋に分布する。国内で

は伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、与論島を含む琉球列島に分布する。水深3-240 mに生息する (Heemstra & Randall, 1993)。

備考 本種は同属のオジロバラハタ *V. albimarginata* Baissac, 1953 とひじょうによく似るが、オジロバラハタは尾鰭後縁が白く縁取られること、幼魚期の色彩は成魚とほぼ変わりなく体側に黒色縦帯を持たないことにより識別される。

与論島では供利の水深10-20 mで採集されたほか、前浜の水深15 mで幼魚が確認された。本種は地域によってはシガテラ中毒が報告されている (大城ほか, 2004)。

(桜井 雄)

■ オオメタナバタメギス *Amsichthys knighti* KAUM-I. 58475, 23.1 mm SL■ オオメタナバタメギス *Amsichthys knighti* KAUM-I. 58522, 26.9 mm SL

スズキ目 メギス科 オオメタナバタメギス属

オオメタナバタメギス

Amsichthys knighti
(Allen, 1987)

形態 背鰭 I, 23; 臀鰭 I, 14; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 4; 尾鰭分枝鰭条 15; 縦列鱗 32-33; 臀鰭起点水平鱗列 12-13; 尾柄周鱗 16; 背鰭前方鱗列 9-10; 前鰓鱗列 2-3; 鰓耙 4-5 + 9-10 = 13-15; 偽鰓 4-6。側線はなく、鰓孔上端の上に 1 有孔鱗がある。主上顎骨の後端は、虹彩の先端に達する。背鰭始部は腹鰭始部の直上やや後方に位置する。臀鰭始部は背鰭第 11 軟条直下に位置する。腹鰭は長く、その先端が肛門に達する。尾鰭は円形に近く、両角に丸みを帯びる。

色彩 体全体は黄緑色。吻端から頭頂部にかけてと前鰓蓋骨下方前部は白色を帯びる。背鰭と臀鰭は白色である鰭膜の周縁

■ オオメタナバタメギス *Amsichthys knighti* KAUM-I. 50857, 17.9 mm SL

部を除き、一様に黄緑色を呈する。胸鰭は透明。尾鰭は黄緑色。瞳孔は黒色で西洋梨型をなす。虹彩の地色は白色で、「コ」の字状に黄色がかかった赤色を呈する。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では大隅諸島と琉球列島から記録されている。

備考 与論島では水深 12-17 m の岩礁域から採集された。吉田ほか (2013) は与論島産の 1 標本 (KAUM-I. 50857、体長 17.9 mm) をタナバタメギスと同定し掲載した。しかしながら本標本は眼が大きく、眼径が体長の 11.1% であることから、オオメタナバタメギスであることが判明した。

(吉田朋弘)

■ メギス *Labracinus cyclophthalmus* KAUM-I. 50845, 99.4 mm SL■ メギス *Labracinus cyclophthalmus* FRLM 42889, 95.6 mm SL■ メギス *Labracinus cyclophthalmus* KAUM-I. 46065, 79.6 mm SL■ メギス *Labracinus cyclophthalmus* KAUM-I. 47954, 46.0 mm SL■ メギス *Labracinus cyclophthalmus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 メギス科 メギス属

メギス

Labracinus cyclophthalmus
(Müller & Troschel, 1849)

形態 背鰭 II, 25; 臀鰭 III, 14; 胸鰭 18-19; 側線有孔鱗 53-56 + 19-24; 背鰭前方鱗 28-30。体は細長く側扁する。頭部眼上縁は丸い。吻端はやや尖り、下顎の方が上顎より突出する。主上顎骨の後端は、眼の先端に達する。背鰭始部は腹鰭始部の直上よりやや前方に位置する。

背鰭始部は背鰭第 10 軟条直下に位置する。胸鰭の先端は臀鰭第 8-9 軟条基部中央下にある。尾鰭は円形。

色彩 雌雄ともに体色は変異に富む。雄は吻端から頭頂部にかけては赤みを帯びた黄緑色から緑色を呈する。頭部から腹部にかけては赤色から橙色。体側は橙色から鮮やかな赤色を呈する。背鰭、臀鰭および尾鰭は一様に赤い。胸鰭と腹鰭は黄色である（水中写真では赤色）。背側に黒色斑が線をなすように並ぶ。雌は吻端から体側中央にかけて暗緑褐色を呈し、体側中

央から尾柄部にかけて赤色を呈する（一様に暗緑褐色を呈する個体もいる）。背鰭は暗緑色で、多数の黒色斑が列をなすように並ぶ。背鰭縁辺は白色で、その下は赤色で縁取られる。尾鰭は赤色がかった暗緑色。臀鰭はさまざまで、灰色がかった赤色の個体や暗緑色で縁辺は白色で、その下は赤色で縁取られる個体もいる。胸鰭と腹鰭は黄色から黄緑色を呈する。

分布 西太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に分布する。

備考 本種は雌雄で色彩が異なり変異に富む。メギス科魚類の中でも大型で体長 12 cm ほどにも達し、釣りで採集されることがある。与論島では水深 2-5 m の岩礁域から採集された。

(吉田朋弘)



■ メギス *Labracinus cyclophthalmus* KAUM-I. 58387, 74.8 mm SL



■ クレナイニセスズメ *Pictichromis porphyrea* KAUM-I. 58477, 48.9 mm SL

スズキ目 メギス科 クレナイニセスズメ属

クレナイニセスズメ

Pictichromis porphyrea

(Lubbock & Goldman, 1974)

形態 背鰭 III, 22; 臀鰭 III, 11-12; 胸鰭 17-18; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 21-25 + 7-10; 背鰭前方鱗 14-15。体は細長く側扁する。頭部眼上縁は丸い。吻端はやや尖る。背鰭棘は細くてしなやか。主上顎骨の後端は、虹彩の先端に達する。背鰭始部は腹鰭始部の直上に位置する。臀鰭始部は背鰭第 9 軟条直下に位置する。胸鰭の先端は背鰭第 7 軟条直下に位置する。

色彩 体色は一樣に紫色を呈する。尾鰭基部を除いて各鰭は透明。

分布 西太平洋に分布する。国内では大隅諸島と琉球列島から記録されている。



■ クレナイニセスズメ *Pictichromis porphyrea* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

備考 本科魚類の中で体色が一樣に赤紫色を呈する種は、本種と *P. fridmani* Klauswitz, 1968 の 2 種のみが知られている。前者は吻端から眼まで暗灰色線がないこと（後者はある）、背鰭軟条数が 21-22 であること（25-27）、臀鰭軟条数

が 10-12 であること（14-15）から容易に識別される。

華やかな外見から観賞魚として人気がある。与論島では水深 2-17 m の岩礁域から採集された。

(吉田朋弘)



■ クレナイニセスズメ *Pictichromis porphyrea* BSKU 108328, 45.3 mm SL



■ クレナイニセスズメ *Pictichromis porphyrea* KAUM-I. 50861, 24.3 mm SL



■ クレナイニセスズメ *Pictichromis porphyrea* BSKU 106138, 23.7 mm SL



■ リュウキュウニセスズメ *Pseudochromis cyanoaenia* KAUM-I. 40003, 17.5 mm SL

スズキ目 メギス科 ニセスズメ属

リュウキュウニセスズメ

Pseudochromis cyanoaenia
Bleeker, 1857

形態 背鰭 III, 21-23 ; 臀鰭 III, 12-14 ;

胸鰭 16-20 ; 側線有孔鱗 23-31 + 6-11 ; 背鰭前方鱗 11-19。体は細長く側扁する。頭部眼上縁は丸い。吻端はやや尖る。背鰭棘は細くてしなやか。主上顎骨の後端は、虹彩の先端に達する。背鰭始部は腹鰭始部の直上やや後方に位置する。臀鰭始部は背鰭第9軟条直下に位置する。胸鰭の

先端は背鰭第7軟条直下に位置する。尾鰭は円形に近く、両角に丸みを帯びる。

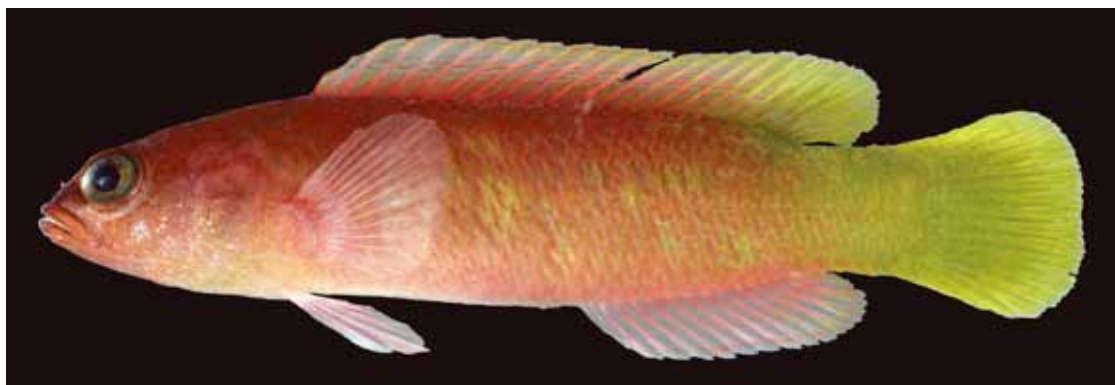
色彩 雄は吻端から腹部にかけて黄色を呈する。上部側線に沿って1黄色縦線がはしる。その他の体側は紺色を呈する。体側に9本の淡青色の横線がはいる。胸鰭



■ リュウキュウニセズメ *Pseudochromis cyanotaenia* Male KAUM-I. 51444, 34.5 mm SL



■ リュウキュウニセズメ *Pseudochromis cyanotaenia* Male KAUM-I. 58313, 37.5 mm SL



■ リュウキュウニセズメ *Pseudochromis cyanotaenia* Female KAUM-I. 58312, 41.6 mm SL

と腹鰭は黄色。背鰭、臀鰭および尾鰭は、各基底部は紺色を呈し、緑辺は淡色。雌は吻端から上方側線後端付近にかけて褐色を呈し、上方側線後端付近からは黄色。背鰭は一樣に赤色で、後方は黄色がかかる。胸鰭と腹鰭は透明であるが、鰭条は赤色を呈する。尾鰭は黄緑色。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、大隅諸島、琉球列島から記録されている。

備考 本種は前方側線鱗数の最頻値が28-29であること、背鰭軟条数の最頻値が

22であること、および臀鰭軟条数の最頻値が13であることにより日本産同属他種と識別される。

与論島では水深0.3-10 mの岩礁域やタイドプールから採集された。

(吉田朋弘)



■ コガネニセスズメ *Pseudochromis luteus* KPM-NI 30897, 39.6 mm SL



■ コガネニセスズメ *Pseudochromis luteus* KAUM-I. 51418, 39.0 mm SL



■ コガネニセスズメ *Pseudochromis luteus* KPM-NI 30732, 33.3 mm SL



■ コガネニセズメ *Pseudochromis luteus* KAUM-I. 45888, 29.9 mm SL



■ コガネニセズメ *Pseudochromis luteus* KAUM-I. 45843, 25.8 mm SL

スズキ目 メギス科 ニセズメ属

コガネニセズメ

Pseudochromis luteus
Aoyagi, 1943

形態 背鰭 III, 24–26; 臀鰭 III, 13–14; 胸鰭 16–19; 側線有孔鱗 26–32 + 5–13; 背鰭前方鱗 12–17。体は細長く側扁する。頭部眼上縁は丸い。吻端はやや尖る。背鰭棘は細くてしなやか。主上顎骨の後端は、虹彩の先端に達する。背鰭始部は腹鰭始部の直上に位置する。臀鰭始部は背鰭第10–11 軟条直下に位置する。胸鰭の先端

は背鰭第7–8 軟条直下に位置する。尾鰭は円形に近く、両角に丸みを帯びる。

色彩 雄は吻端から鰓蓋部下方を通り、胸鰭付根は、黄色を呈する。体側は一樣に赤色。胸鰭と腹鰭は透明であるが、軟条部は赤色を呈する。背鰭と臀鰭は赤色だが、その縁辺は白色。尾鰭は黄色だが、その後縁は淡赤色を呈する。雌の体色は灰紫色や赤褐色など変異に富む。尾柄部は桃色や暗赤色を呈する。胸鰭と腹鰭は透明。背鰭と臀鰭は透明であるが、基底付近は体色と同色を呈する。

分布 西太平洋に分布する。国内では大隅諸島と琉球列島から記録されている。

備考 本種は背鰭軟条数が24–26（最頻値25）であること、臀鰭軟条数が12–14（最頻値14）であることによって計数形質がホシニセズメ *P. marshallensis* Schultz, 1953 と酷似するが、コガネニセズメは体側の鱗の中央部に小斑点がないこと（ホシニセズメではあること）から識別される。

与論島ではタイドプールや水深0.3–8 mの岩礁域から採集された。

（吉田朋弘）



■ ホシニセズメ *Pseudochromis marshallensis* KAUM-I. 58365, 37.6 mm SL

スズキ目 メギス科 ニセズメ属

ホシニセズメ

Pseudochromis marshallensis
Schultz, 1953

形態 背鰭 III, 24–26; 臀鰭 III, 13–14; 胸鰭 17–19; 側線有孔鱗 24–32 + 6–15; 背鰭前方鱗 14–15。体は細長く側扁する。頭部眼上縁は丸い。吻端はやや尖る。背鰭棘は細くてしなやか。主上顎骨の後端は、

虹彩の中央直下に達する。上下顎の犬歯状歯は同長。体側の各鱗中央に1黄色小斑があり、縦列点状になる。背鰭始部は腹鰭始部の直上に位置する。臀鰭始部は背鰭第11 軟条直下に位置する。胸鰭の先端は背鰭第7 軟条直下に位置する。

色彩 体全体は暗紫色。鱗の中央に黄色小斑があり、縦列点状に並ぶ。背鰭と尾鰭は縁辺を除き、黄色。

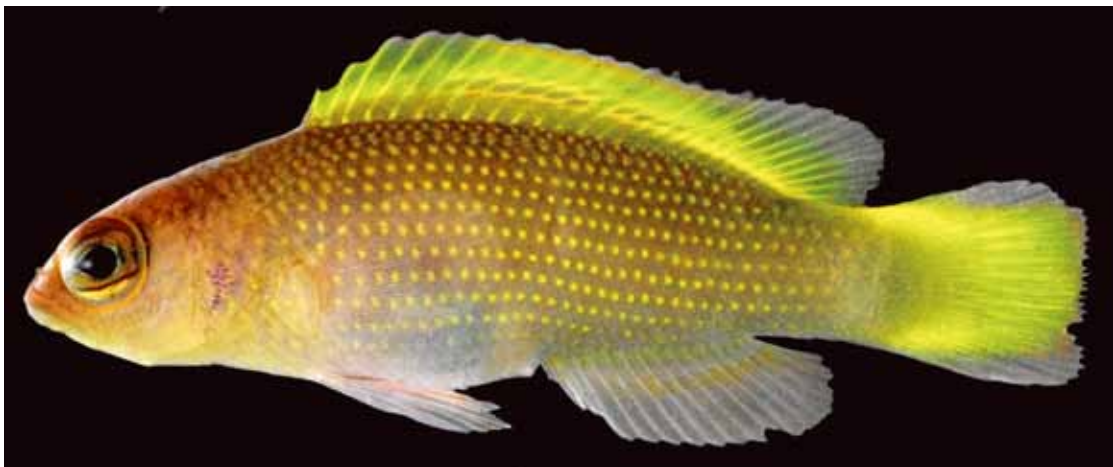
分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、大隅諸島、琉球列島から記録されている。

備考 与論島では水深1–17 mの岩礁域から採集された。本種は尾鰭後縁の形に変異がみられ、尾鰭の上・下方の軟条が伸長するタイプと尾鰭後縁が丸いタイプが知られている。本調査では尾鰭後縁が丸いタイプのみ得られた。

（吉田朋弘）



■ ホシニセスズメ *Pseudochromis marshallensis* Male KAUM-I. 39777, 43.0 mm SL



■ ホシニセスズメ *Pseudochromis marshallensis* KAUM-I. 41113, 25.5 mm SL



■ カツイロニセスズメ *Pseudochromis tapeinosoma* KAUM-I. 48014, 39.5 mm SL

スズキ目 メギス科 ニセスズメ属

カツイロニセスズメ

Pseudochromis tapeinosoma
Bleeker, 1853

形態 背鰭 III, 21–23; 臀鰭 III, 12–14; 胸鰭 17–19; 側線有孔鱗 20–27 + 4–11; 背鰭前方鱗 10–15。体は細長く、側扁する。

頭部眼上縁は丸い。吻端はやや尖る。背鰭棘は細くてしなやか。主上顎骨の後端は、虹彩の先端に達する。背鰭始部は腹鰭始部の直上に位置する。臀鰭始部は背鰭第10軟条直下に位置する。胸鰭の先端は背鰭第7軟条直下に位置する。尾鰭は円形に近く、両角に丸みを帯びる。背鰭軟条中央部の体高が高い。

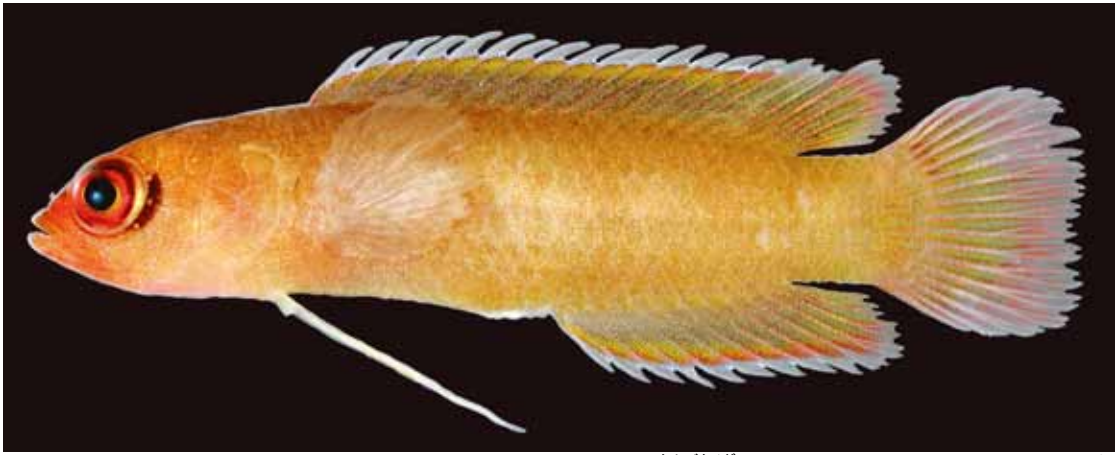
色彩 雌雄で体色が異なる。雌の体色は

一様に暗灰色を呈し、吻端から肛門にかけての腹側は白みがかかる。胸鰭と腹鰭は透明であるが、先端は薄褐色を呈する。背鰭、臀鰭および尾鰭は暗灰色を呈する。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では大隅諸島と琉球列島に分布する。

備考 与論島では水深3 mの岩礁域から採集された。

(吉田朋弘)

■ タナバタメギス *Pseudopleksiops rosae* KAUM-I. 58438, 18.2 mm SL■ タナバタメギス *Pseudopleksiops rosae* KAUM-I. 58439, 16.0 mm SL

スズキ目 メギス科 タナバタメギス属

タナバタメギス

Pseudopleksiops rosae
Schultz, 1943

形態 背鰭 I, 22–23; 臀鰭 I, 13–14; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 3; 尾鰭分枝鰭条 15–16; 縦列鱗 27–29; 臀鰭起点水平鱗列 11–12; 尾柄周鱗 16; 背鰭前方鱗列 7; 前鰓鱗列 2; 鰓耙 3–5 + 8–9=12–14; 偽鰓 4–5。側線

はなく、鰓孔上端の上に1有孔鱗がある。主上顎骨の後端は、虹彩の中央に達する。背鰭始部は腹鰭始部の直上やや後方に位置する。臀鰭始部は背鰭第11軟条直下に位置する。腹鰭は長く、その先端が肛門に達する。尾鰭は円形に近く、両角に丸みを帯びる。

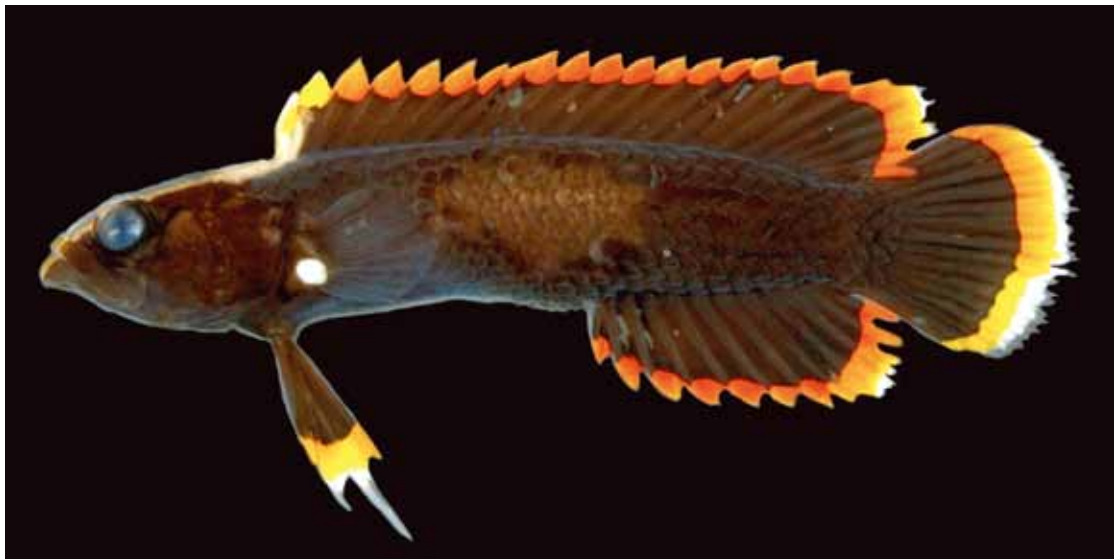
色彩 体全体は茶褐色。吻端付近は赤色を帯びる。背鰭、臀鰭および尾鰭は白色である鰭膜の周縁部を除き、一様に赤み

がかった黄緑色を呈する。胸鰭は透明。鰓孔は黒色で円形。虹彩の地色は赤色で、「コ」の字状に黒色を呈する。眼の後縁に三日月型の黒色帯がある。

分布 インド・西太平洋。国内では琉球列島に分布する。

備考 与論島では水深10–17 mの岩礁域から採集された。

(吉田朋弘)



■ フチドリタナバタウオ *Acanthoplesiops psilogaster* KAUM-I. 45889, 19.9 mm SL

スズキ目 タナバタウオ科 フチドリタナバタウオ属

フチドリタナバタウオ

Acanthoplesiops psilogaster
Hardy, 1985

形態 背鰭 XVIII, 5; 臀鰭 VIII, 5; 胸鰭 17; 側線有孔鱗 9。体は細長く、側扁する。側線は不完全で、胸鰭後方で途切れる。前鰓蓋骨に2棘ある。口は大きく、その後端は瞳孔の後縁を越える。下顎は上顎より突出する。背鰭始部は腹鰭直上に位置

する。臀鰭始部は背鰭第13棘直下に位置する。胸鰭後端は背鰭第8棘直下に位置する。腹鰭後端は臀鰭始部に達しない。主上顎骨後端は瞳孔の後端に達する。

色彩 体色は一様に黒褐色。下顎先端から上顎先端を通り、背鰭始部にかけて白色を呈する。胸鰭基底に1白色点がある。背鰭第1棘から第2棘にかけての背鰭基底は白色を呈し、その縁辺は黄色。背鰭第3棘から背鰭最終軟条にかけての背鰭基底は黒褐色で、その縁辺は橙色。腹鰭、

臀鰭および尾鰭は、一様に黒褐色で、その縁辺は橙色である。胸鰭は透明。

分布 日本、台湾およびフィリピンに分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県、愛媛県および鹿児島県から記録されている。

備考 小型種で最大でも全長3cmほど。本種は大隅諸島で良くみられるが、沖縄をはじめとする琉球列島ではほとんど確認されておらず、与論産の標本は貴重である。

(吉田朋弘)

スズキ目 タナバタウオ科 ツバメタナバタウオ属

ツバメタナバタウオ

Assessor randalli
Allen & Kuiter, 1976

形態 背鰭 XI, 10; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 4; 側線有孔鱗 19-22 + 5-7; 背鰭前方鱗 19-20; 鰓耙 8-9 + 16-18 = 25-26。体は細長く、側扁する。瞳孔は西洋梨型で前方に尖る。背鰭始部は、腹鰭直上に位置する。臀鰭始部は、背鰭第11棘直下に位置する。胸鰭後端は、背鰭第10棘直下に位置する。腹鰭後端は、臀鰭始部に達しない。主上顎骨後端は、瞳孔中央に達する。尾鰭後縁は深く二又する。

色彩 体全体は紺色。体側の各鱗中央に1黄色小斑があり、縦列点状に並ぶ。背鰭、臀鰭および尾鰭は一様に紺色で、鰭条に沿って橙色を帯びた黄色斑が列状に並ぶ。腹鰭は紺色であるが、腹鰭付根から第2軟条先端にかけて黄色を呈する。胸鰭は透明で、後縁は黄色で縁取られる。



■ ツバメタナバタウオ *Assessor randalli* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

分布 西太平洋に分布する。国内では大隅諸島と琉球列島に分布する。

備考 本種はサンゴ礁の縁や岩の隙間など

の暗がりに生息し、腹部を上に向け逆さに泳ぐ。本種は色彩が綺麗なため観賞魚として人気がある。

(吉田朋弘)

■ ツバメタナバタウオ *Assessor randalli* KAUM-I. 41103, 41.0 mm SL■ トゲタナバタウオ *Belonepterygion fasciolatum* KAUM-I. 45889, 19.9 mm SL

スズキ目 タナバタウオ科 トゲタナバタウオ属

トゲタナバタウオ*Belonepterygion fasciolatum*
(Ogilby, 1889)

形態 背鰭 XVIII, 5; 臀鰭 X, 5; 胸鰭 17;
側線有孔鱗 35-36 + 22-23 + 30-31。体
は細長く、側扁する。側線は3本で、中
央のものは尾柄部まで達する。前鰓蓋骨

に棘がない。口は大きく、その後端は瞳孔
中央直下を越える。下顎は上顎より突出
する。背鰭始部は、胸鰭直上に位置する。
臀鰭始部は、背鰭第10棘直下に位置する。
胸鰭後端は、背鰭第7棘直下に位置する。
腹鰭後端は、臀鰭始部に達しない。

色彩 体側上方は黒色がかった茶色、下
方は赤色。体側には9本の黒褐色の横帯
がある。下顎後端から眼の下側を通り、

側中央部にかけて白色を呈する。鰓蓋上
方に1黒色点がある。背鰭、臀鰭および
尾鰭は、一様に赤黒褐色で、その縁辺は
白色である。胸鰭および腹鰭は透明。

分布 西太平洋。国内では伊豆諸島、高
知県以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉
球列島に分布する。

備考 小型種で最大でも全長5cmほど。
(吉田朋弘)

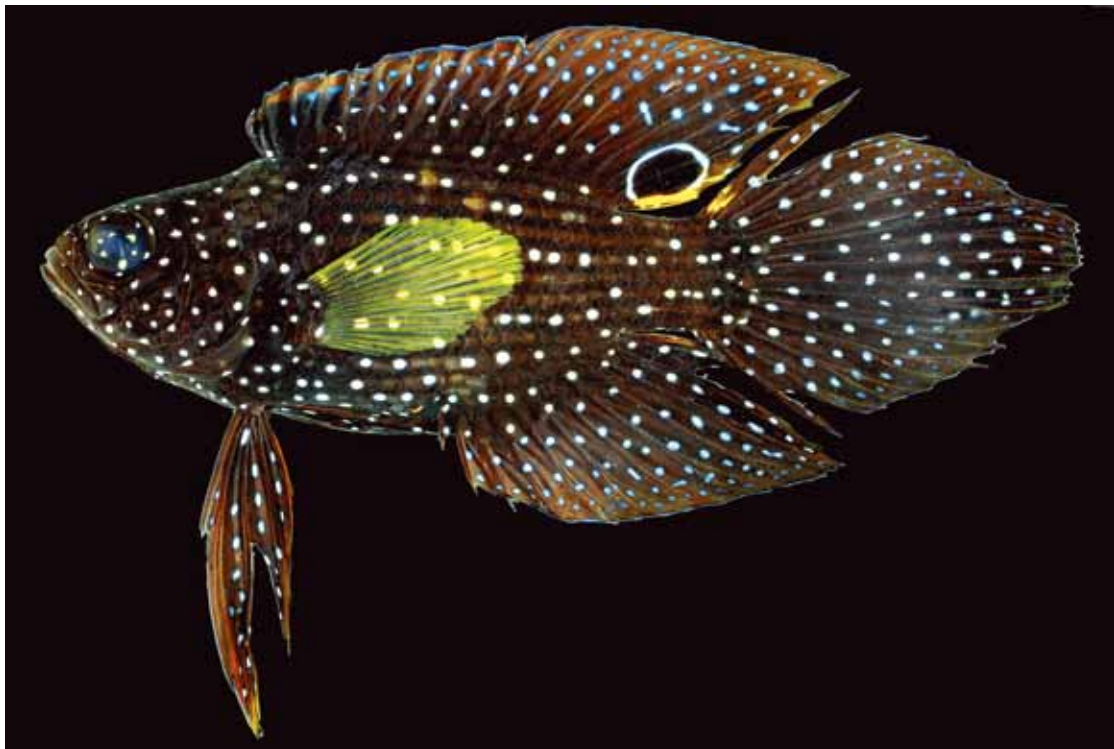
スズキ目 タナバタウオ科 シモフリタナバタウオ属

シモフリタナバタウオ*Calloplesiops altivelis*
(Steindachner, 1903)

形態 背鰭 XI, 9-10; 臀鰭 III, 9-10; 胸
鰭 19-20; 側線有孔鱗 19-20 + 9-10;
背鰭前方鱗 9-11。体は細長く、側扁する。
口裂は斜行し、主上顎骨後端は瞳孔中央
に達する。背鰭始部は、腹鰭直上やや後
方に位置する。臀鰭始部は、背鰭第10

棘直下に位置する。胸鰭後端は、臀鰭第
2軟条直上に位置する。腹鰭は長く、その
後端は臀鰭始部を越える。尾鰭は大きく、
尖形である。

色彩 体色は黒褐色で、多数の小白色斑

■ シモフリタナバタウオ *Callopleysiops altivelis* KAUM-I. 50807, 78.7 mm SL

が散在する。胸鰭は黄色。胸鰭を除く各鰭は黒褐色で、小白斑が散在する。背鰭基底後端に眼径大の1黒色斑があり、上方約3分の2を白色、残りの3分の1を黄色で縁取られる。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 鮮やかな体色を呈すことから、観賞魚として人気がある。本種の体色はハナビラウツボ *Gymnothorax chlorostigma* (Kaup, 1856) に似ており、擬態の可能性が指摘されている。

(吉田朋弘)

■ シモフリタナバタウオ *Callopleysiops altivelis* KAUM-I. 58410, 28.0 mm SL

ススキ目 タナバタウオ科 タナバタウオ属

タナバタウオ

Plesiops coeruleolineatus
Rüppell, 1835

形態 背鰭 XI, 7; 臀鰭 III, 8-9; 胸鰭 21; 背鰭前方鱗 6-7。体は細長く側扁する。口は大きく、主上顎骨後端は眼の後端をはるかに越える。背鰭始部は腹鰭直上やや後方に位置する。臀鰭始部は背鰭第9棘直下に位置する。胸鰭後端は臀鰭始部直上に位置する。腹鰭後端は臀鰭始部に達

する。腹鰭は長く、その後端は臀鰭始部を越える。尾鰭は円形。

色彩 体色は一樣に黒褐色である。背鰭は茶色。背鰭棘付根から軟条部の中央に青みを帯びた白色線がはしる。その外側は茶色を呈し、背鰭第1棘中央部から背鰭軟条部先端にかけて白色を呈する。背鰭棘縁辺の前半部は鮮やかな橙色を呈する。臀鰭は茶色で、臀鰭棘付根から軟条部中央にかけて青色を帯びた白色線がはしる。胸鰭は透明。腹鰭は透明で、小橙色斑が散在する。尾鰭は茶色で中央部後半は赤

色がかった黄色帯があり、周縁部は白色を呈する。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に分布する。

備考 タナバタウオ属魚類は、これまで日本から6種類が確認されている。本種は背鰭棘数が11であることから、背鰭棘数が12である残り5種と容易に識別される。

(吉田朋弘)

■ タナバタウオ *Plesiops coeruleolineatus* KAUM-I. 45910, 46.8 mm SL■ アマミタナバタウオ *Plesiops verecundus* KAUM-I. 45890, 28.6 mm SL

スズキ目 タナバタウオ科 タナバタウオ属

アマミタナバタウオ*Plesiops verecundus*
Mooi, 1995

形態 背鰭 XII, 7; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 24; 背鰭前方鱗 7。体は細長く、側扁する。主上顎骨後端は虹彩の後端に達する。背鰭始部は腹鰭直上やや後方に位置する。臀鰭始部は背鰭第 10 棘直下に位置する。胸鰭後端は臀鰭始部直上に位置する。腹

鰭後端は臀鰭始部に達する。腹鰭は長く、その後端は臀鰭始部を越える。尾鰭は円形。

色彩 体色は一樣に褐色。眼の後端から斜め下方にかけて 2 本の黒色線がはしる。背鰭は茶色。背鰭棘の中央部に白色線がはしる。背鰭縁辺の前半部は鮮やかな橙色を呈し、後半部は白色を呈する。腹鰭は透明で 5 本の茶色帯を有する。臀鰭は茶色で、臀鰭棘付根から軟条部中央にかけて青色を帯びた白色線がはしる。胸鰭は透

明。尾鰭は一樣に黒褐色で、縁辺は白色。

分布 インド・西太平洋。国内では奄美大島以南の琉球列島に分布する。

備考 本種はタナバタウオ *P. coeruleolineatus* Rüppell, 1835 に似るが、背鰭棘が 12 本と多いこと（後者では 11 本）、胸鰭軟条が 24 本と多いこと（21 本）から識別される。

(吉田朋弘)

■ チカメキントキ *Cookeolus japonicus* KAUM-I. 51151, 284.9 mm SL

スズキ目キントキダイ科チカメキントキ属

チカメキントキ

Cookeolus japonicus
(Cuvier, 1829)

形態 背鰭X, 12-14; 臀鰭III, 12-14; 胸鰭17-19; 腹鰭I, 5; 側線有孔鱗56-59; 側線上方横列鱗15-21; 側線下方横列鱗40-46; 第1鰓弓上枝鰓耙5-8; 第1鰓弓下枝鰓耙17-20; 第1鰓弓総鰓耙23-27。体は楕円形で側扁し、体長は体高の2倍以上。尾鰭は截形で、後縁は僅かに丸みを帯びる。腹鰭は大きく、その後

端は臀鰭起部をはるかに越える。腹鰭起部は胸鰭起部よりもはるか前方に位置する。下顎は突出する。鱗は櫛鱗で剥がれにくい。体側鱗の後縁に25-35本の棘を有する。第1-2鰓条骨上に鱗を有する。

色彩 体、頭部、虹彩は一律に赤色。背鰭および臀鰭の縁辺、腹鰭および尾鰭の後縁はやや黒味がかかる。個体によっては胸鰭を除く各鰭が黄色がかかる場合がある。胸鰭は淡いピンク色。

分布 紅海を除くインド・西太平洋に広く分布する。国内では北海道襟裳岬から屋久島にかけての太平洋沿岸、青森県から九

州北西岸の日本海・東シナ海沿岸および琉球列島から知られる。瀬戸内海には稀。

備考 本種は腹鰭が大きく、その後端が臀鰭起部をはるかに越えること、尾鰭が截形であること、体高が低く、体長は体高の2倍以上であることなどから日本産同科他種と識別される。

稚魚の体は卵形で、体側、背鰭棘条部、背鰭軟条部前部、臀鰭軟条部に黒色斑を数個有し、腹鰭がひじょうに大きい。

甲殻類や小型魚類を餌とする。

(畑 晴陵)

スズキ目キントキダイ科ゴマヒレキントキ属

ゴマヒレキントキ

Heteropriacanthus cruentatus
(Lacepède, 1801)

形態 背鰭X, 12-13; 臀鰭III, 13-14; 胸鰭18-19; 腹鰭I, 5; 側線有孔鱗

58-62; 側線上方横列鱗9-12; 側線下方横列鱗46-56; 第1鰓弓上枝鰓耙4-6; 第1鰓弓下枝鰓耙17-20; 第1鰓弓総鰓耙21-25。体は長い楕円形で側扁し、体高は低く、体長は体高の2倍以上。尾鰭は截形で、後縁は僅かに丸みを帯びる。腹鰭後端は臀鰭起部に達しないか、かろうじて達する。下顎は突出する。鱗は櫛鱗で剥がれにくい。

色彩 体、頭部は一律に赤みがかったピンク色。頭部および体側の地色が銀色で、その上にピンクまたは赤色の斑点が多数入る個体もみられる。背鰭、臀鰭の棘条部は黄褐色。背鰭および臀鰭の軟条部、尾鰭は赤色の地色に黒褐色点が散在する。尾鰭後縁はやや黒色がかかる。

分布 全世界の熱帯・亜熱帯海域に広く分

■ ゴマヒレキントキ *Heteropriacanthus cruentatus* FRLM 43152, 214.5 mm SL■ ゴマヒレキントキ *Heteropriacanthus cruentatus* KAUM-I. 50839, 149.3 mm SL■ ゴマヒレキントキ *Heteropriacanthus cruentatus* KAUM-I. 51446, 111.1 mm SL

布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は尾鰭が截形であること、体高が低く、体長は体高の2倍以上であること、側線有孔鱗数が62以下であること、背鰭および臀鰭の軟条部、尾鰭に黒褐色点が散在することなどから日本産同科他種と識別される。

軟体類、甲殻類、魚類、多毛類など様々な生物を餌とする。

(畑 晴陵)

■ ゴマヒレキントキ *Heteropriacanthus cruentatus* FRLM 42735, 92.6 mm SL

スズキ目 キントキダイ科 キントキダイ属

アカネキントキ

Priacanthus blochii
Bleeker, 1853

形態 背鰭 X, 12-14; 臀鰭 III, 13-15; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗

69-70; 側線上方横列鱗 8-13; 側線下方横列鱗 36-43; 第1鰓弓上枝鰓耙 3-5; 第1鰓弓下枝鰓耙 14-17; 第1鰓弓総鰓耙 17-22。体は長い楕円形で側扁し、体高は低く、体長は体高の2倍以上。尾鰭は截形。腹鰭後端は臀鰭起部に達しないか、かろうじて達する。鱗は櫛鱗で剥がれにくい。

色彩 体、頭部は一樣に赤みがかったピンク色。頭部および体側の地色が銀色で、その上にピンクまたは赤色の斑点が多数入る個体もみられる。背鰭および臀鰭の鰭膜は全体に黒みを帯びるが、背鰭第1-3棘間の鰭膜上に黒斑はない。尾鰭後縁は黒色。腹鰭起部に1黒色斑を有する。胸鰭は透明か、淡いピンク色。鰓耙は赤色。

■ アカネキントキ *Priacanthus blochii* KAUM-I. 50879, 190.7 mm SL

分布 紅海を含むインド・西太平洋に分布する。日本では神奈川県、宮崎県および琉球列島から知られる。

備考 本種は尾鰭が截形であること、体高が低く、体長は体高の2倍以上であること、側線有孔鱗数が69-70であること、背鰭および臀鰭の鰭膜が全体に黒みを帯びること、

背鰭第1-3棘間の鰭膜上に黒斑はないことなどから日本産同科他種と識別される。

(畑 晴陵)

■ ホウセキキントキ *Priacanthus hamrur* KAUM-I. 45866, 234.5 mm SL

スズキ目 キントキダイ科 キントキダイ属

ホウセキキントキ

Priacanthus hamrur
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭X, 14-15; 臀鰭III, 13-16; 胸鰭17-20; 腹鰭I, 5; 側線有孔鱗75-80; 側線上方横列鱗9-14; 側線下方横列鱗37-46; 第1鰓弓上枝鰓耙4-6; 第1鰓弓下枝鰓耙18-21; 第1鰓弓総鰓耙24-26。体は長い楕円形で側扁し、体

高は低く、体長は体高の2倍以上。尾鰭は湾入形で、上下両葉端は少し伸びる。腹鰭後端は臀鰭起部にかろうじて達する。下顎は突出する。鱗は楕鱗で剥がれにくい。

色彩 体、頭部、虹彩は一樣に赤色で、

側線上に数個の濃赤色斑が並ぶ。頭部および体側の地色が銀色で、その上に赤色横帯が数本入る個体もみられる。背鰭、腹鰭、臀鰭、尾鰭は一樣に赤いが、後縁はやや黒色がかかる。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に分

布する。チュニジアから報告がある。国内では伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、九州西岸、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本種は尾鰭が湾入形で上下両葉端が僅かに伸長すること、体高が低く、体長

は体高の2倍以上であること、背鰭、臀鰭および尾鰭に斑紋がないことなどから日本産同科他種と識別される。頭長、体高および下顎長の体長に占める割合は成長に伴い小さくなることが知られている。

(畑 晴陵)



■ オキナワクルマダイ *Pristigenys meyeri* KAUM-I. 50880, 196.4 mm SL

スズキ目キントキダイ科クルマダイ属

オキナワクルマダイ

Pristigenys meyeri
(Günther, 1872)

形態 背鰭 X, 11-12 (通常 12); 臀鰭 III, 11-12; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 30-32; 側線上方横列鱗 9; 側線下方横列鱗 27-29; 第1鰓弓上枝鰓耙 7; 第1鰓弓下枝鰓耙 16-18; 第1鰓弓総鰓耙 23-25。体は卵形で側扁し、体長は体高の2倍未満。尾鰭は截形で、後縁は僅

かに丸みを帯びる。腹鰭は大きく、その後端は臀鰭起部をはるかに越える。鱗は櫛鱗で剥がれにくい。体側鱗の後縁に8-20本の棘を有する。

色彩 体背面の地色は黄褐色、体側面から体腹面にかけての地色は赤みがかった銀色で、10本以上の細い赤色横帯と、その間に多数の赤色破線が入る。背鰭・臀鰭および尾鰭の鰭条は白色で、鰭膜は赤色。腹鰭の棘条は白色で、軟条部は一樣に赤色。背鰭・腹鰭および臀鰭の軟条部縁辺、尾鰭の後縁はやや黒色がかかる。胸

鰭は透明か淡いピンク色。虹彩は赤色。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、土佐湾、琉球列島から知られる。

備考 本種は側線有孔鱗数が30-32であること、体高が高く、体長は体高の2倍未満であること、体に10本以上の細い赤色横帯と、その間に多数の赤色破線が入ることなどから日本産同科他種と識別される。

(畑 晴陵)

■ ウスジマイシモチ *Apogon angustatus* KAUM-I. 51494, 52.0 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ウスジマイシモチ

Apogon angustatus
(Smith & Radcliffe, 1911)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24-25; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 3-4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 5 + 13-14 = 18-19; 櫛歯状に発達した鰓耙 2 + 10-11 = 12-13。

色彩 体色は白色で、体側に金色で縁取られた赤みを帯びた黒色縦線が5本走る。尾柄中央に黒色斑がある。体側中央の縦線は黒色斑を通り、尾柄後縁に達する。背鰭は透明であるが、第1背鰭の第3棘基底から第7棘先端にかけての鰭膜は金色である。第2背鰭の基底付近の鰭膜に金色の帯があり、黒色素胞が分布する。胸鰭と腹鰭は透明である。臀鰭は透明であるが、基底付近の鰭膜に金色の帯があり、黒色素胞が分布する。尾鰭は透明である。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、大隅諸島および琉球列島に広く分布する。

備考 本種はミナミフトスジイシモチ *A. nigrofasciatus* Lachner, 1953 に似るが、ウスジマイシモチは尾柄に黒色斑があること（後者ではない）、体側中央の縦線は黒色斑を通り、尾柄後縁に達すること（尾柄後端で終わる）から識別される。

近年、本種は *Ostorhinchus* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

アオスジテンジクダイ

Apogon aureus
(Lacepède, 1802)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24-25; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 4-5; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 6-7 + 17-18 = 23-24; 櫛歯状に発達した鰓耙 4 + 15-17 = 19-21。

色彩 体全体は黄色がかった橙色。尾柄後端に明瞭な黒色帯がある。吻端から眼を通り鰓蓋まで達する銀白色線が2本ある。上顎中央から口蓋骨を通る1本の銀白色線がある。胸鰭は透明。胸鰭を除く各鰭の鰭膜は黄色。臀鰭基底部に黒色線がある。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島から知られている。

■ アオスジテンジクダイ *Apogon aureus* KAUM-I. 48143, 37.9 mm SL

備考 本種は吻端から眼を通り鰓蓋まで達する銀白色線が2本あること、尾柄後端に明瞭な黒色帯があることなどから同属他種と容易に識別される。与論島では、水深2

mの岩奥で単独で生息していた。

近年、本種は *Ostorhinchus* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)



■トゲナガイシモチ *Apogon caudicinctus* KAUM-I. 45768, 49.4 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

トゲナガイシモチ

Apogon caudicinctus
Randall & Smith, 1988

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 12-13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 6-7; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 3-4 + 12-13 = 15-17; 櫛歯状に発達した鰓耙 1 + 7-8 = 8-9。成魚の第 1 背鰭第 2 棘は長く、後方に倒すと第 2 背鰭を越える。

色彩 体全体が赤色を呈する。鰓蓋後端から体側中央を通り尾柄部まで暗色がかつた細い赤色線がある。体の背縁は黒色素胞がやや密に分布する。尾柄部に黒色帯がある。各鰭は透明である。



■トゲナガイシモチ *Apogon caudicinctus* KAUM-I. 50854, 13.6 mm SL

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、大隅諸島および琉球列島から知られている。

備考 本種の成魚は第 1 背鰭第 2 棘は長く、後方に倒すと第 2 背鰭始部を越えること、尾柄部に黒色帯があることなどから同属他種と容易に識別される。

(吉田朋弘)

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

スジイシモチ

Apogon cookii
(Macleay, 1881)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 3-4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4-5 + 13-14 = 17-19; 櫛歯状に発達した鰓耙 2 + 9-11 = 11-13。

色彩 体全体は白色を呈する。体側に 6 本の黒みを帯びた茶色縦線がある。体側の中央をはしる縦線は尾鰭後端の黒色斑に達する。尾柄後端に体側の縦線幅より大きい黒色斑がある。各鰭は透明である。第 1 背鰭全体に黒色素胞が分布する。第 2 背鰭および臀鰭基底付近の鰭膜に黒色素胞が分布する。腹鰭全体に黒色素胞が分布する。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。

国内では相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に広く分布する。

備考 本種はミスジテンジクダイ *A. taeniorphorus* Regan, 1908 に似るが、スジイシモチは胸鰭軟条が 15 本と多いこと（後者では 14 本）、尾柄部の黒色斑が大きいこと（後者では小さい）から識別される。

近年、本種は *Ostorhinchus* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)



■ スジイシモチ *Apogon cookii* KAUM-I. 40035, 75.1 mm SL



■ スジイシモチ *Apogon cookii* KAUM-I. 46130, 63.9 mm SL



■ スジイシモチ *Apogon cookii* KAUM-I. 39732, 28.6 mm SL



■ アカフジテンジクダイ *Apogon crassiceps* KAUM-I. 51583, 30.3 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

アカフジテンジクダイ

Apogon crassiceps
Garman, 1903

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 5-6; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 3-4 + 12-13 = 15-17; 櫛歯状に発達した鰓耙 1 + 7-8 = 8-9。

色彩 体全体は半透明な赤色を呈する。鰓蓋後端から体側中央を通り尾柄部まで暗色がかった細い赤色線がある。頭部と体の背縁は黒色素胞がやや密に分布する。各鰭は透明である。尾柄部から尾鰭にかけて黒色素胞が二等辺三角形に分布する。

柄部から尾鰭にかけて黒色素胞が二等辺三角形に分布することから容易に識別される。

かつて国内の研究では、アカネテンジクダイの学名として *A. crassiceps* が用いられていた。しかし、Yoshida et al. (2010) によって、アカネテンジクダイは *A. talboti* Smith, 1961 と同定され、*A. crassiceps* に対応すべき和名としてアカフジテンジクダイが提唱された。

分布 西太平洋に分布する。国内では大隅諸島と琉球列島から知られている。

備考 本種はコミナトテンジクダイ *A. kominatoensis* Ebina, 1935 に似るが、尾

(吉田朋弘)

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

オオスジシモチ

Apogon doederleini
Jordan & Snyder, 1901

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4-5 + 13-14 = 17-19; 櫛歯状に発達した鰓耙 2-3 + 10-13 = 12-14。

色彩 体側上方は黒色がかった桃色、下方は光沢のある銀白色。体側に黄色を帯びた茶色の縦線が 5 本走る。尾柄中央に黒色斑がある。各背鰭は透明。

分布 西太平洋に分布する。国内では千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に分布する。

備考 本種は体側に黄色みを帯びた茶色

■ オオスジシモチ *Apogon doederleini* KAUM-I. 47920, 93.0 mm SL

の縦線が 5 本走ること、尾柄中央に黒色斑があることなどから同属他種と容易に識別される。

近年、本種は *Ostorhinchus* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ヤライシモチ

Apogon doryssa
(Jordan & Seale, 1906)

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 11-12; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 6; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4 + 13 = 17; 櫛歯状に発達した鰓耙 2+9=11。第 1 背鰭第 2 棘は伸長する。

色彩 体全体は半透明な赤色を呈する。第 1 背鰭背縁付近は黒色素胞がやや密に分布する。尾柄部に黒色素胞がわずかに分布する。各鰭は透明。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島と琉球列島から知られる。

■ ヤライシモチ *Apogon doryssa* KAUM-I. 58455, 28.2 mm SL

備考 本種の成魚は第 1 背鰭第 2 棘は長く、後方に倒すと第 2 背鰭始部を越えること、

尾柄部に黒色帯がないことなどから同属他種と容易に識別される。

(吉田朋弘)

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ユカタイシモチ

Apogon exostigma

(Jordan & Starks, 1906)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13-14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 4-5; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4-5 + 12-16 = 16-21; 櫛歯状に発達した鰓耙 2 + 8-11 = 10-13。

色彩 体側上方は黄色がかった桃色、下方は光沢のある桃白色。尾柄後端やや上方に黒色斑がある。吻端から鰓蓋後端を経て体側中央を通り尾柄中央まで達する1本の黒色線がある。背鰭は透明であるが、第1背鰭第1棘から第4棘にかけて黒色、第2背鰭は基底付近に黒色素胞が密に分布する。胸鰭と腹鰭は透明。腹臀鰭は透明であるが、基底付近に黒色素胞が密に分布する。尾鰭は黄色で上下両葉の縁辺は黒色。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では愛媛県以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島から知られる。

備考 本種はヒトスジシモチ *A. fraenatus* Valenciennes, 1832 に似るが、尾柄の黒色斑は瞳孔より小さく、体側の縦線より上にあることから容易に識別される。

近年、本種は *Pristiapogon* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)

■ ユカタイシモチ *Apogon exostigma* KAUM-I. 51201, 35.1 mm SL■ ユカタイシモチ *Apogon exostigma* KAUM-I. 51364, 18.6 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

リュウキュウイシモチ

Apogon indicus

Greenfield, 2001

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 23; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 5-6; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 3 + 11-13 = 14-16; 櫛歯状に発達した鰓耙 1 + 7-8 = 8-9。吻は丸い。

色彩 体全体が赤色を呈する。尾柄部に正三角形に黒色素胞が分布する。各鰭は透明。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、高知県以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に分布する。

■ リュウキュウイシモチ *Apogon indicus* KAUM-I. 46057, 31.4 mm SL

備考 本種はアカフジテンジクダイ *A. crassiceps* Garman, 1903 に似るが、吻が丸いこと、尾柄部における黒色素胞が正三角

形状に分布することなどから容易に識別される。

(吉田朋弘)



■ ミヤコイシモチ *Apogon ishigakiensis* KAUM-I. 48081, 47.1 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ミヤコイシモチ

Apogon ishigakiensis
Ida & Moyer, 1974

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 12;
腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横
列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗
列 3-4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 5-7 + 15

= 20-22; 櫛歯状に発達した鰓耙 2-4 +
12-13 = 14-16。

色彩 体側上方は黒色がかった淡黄色、
下方は光沢のある銀白色。頭部には黒色
素胞が密に分布する。体の背縁と尾柄の
腹縁は黒色素胞がやや密に分布する。背
鰭はあさい黄色で、第2背鰭は基底付近
の鰭膜に黒色素胞が分布する。臀鰭と胸
鰭は透明。腹鰭は透明であるが、付根付

近の鰭膜に黒色素胞が分布する。胸鰭と
腹鰭は透明。尾鰭はあさい黄色。

分布 西太平洋に分布する。国内では奄
美大島以南の琉球列島に分布する。

備考 与論島では本種は流れが緩やかな
内湾の砂地でみられ、アマモや岩下などに
隠れて生息していた。

(吉田朋弘)



■ カスリイシモチ *Apogon kallopterus* KAUM-I. 42691, 107.0 mm SL

■カスリイシモチ *Apogon kallopterus* KAUM-I. 51551, 107.7 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

カスリイシモチ

Apogon kallopterus
Bleeker, 1856

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 4-5; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4-15 + 13-14 = 17-19; 櫛菌状に発達した鰓耙 1-2 + 8-11 = 10-13。

色彩 体側上方は黒色がかかった茶褐色、下方は光沢のある銀白色。第2背鰭基部に鞍掛状に黒色素胞が密に分布する。尾柄後端やや上方に黒色斑がある。吻端から鰓蓋後端を経て体側中央を通り尾柄中央まで達する1本の黒色線がある。背鰭は黄色であるが、第1背鰭第1棘から第4棘にかけて黒色、第2背鰭は基底付近と先端の鰭膜に黒色素胞が密に分布する。胸鰭は透明。腹鰭第1棘から第2軟条にかけて黒色を帯びる。臀鰭は黄色であるが、基底付近と先端の鰭膜に黒色素胞が密に分布する。尾鰭は黄色で上下両葉の縁辺は黒い。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に分布する。

備考 本種は吻端から鰓蓋後端を経て体側中央を通り尾柄中央まで達する幅広の1本の黒色線があること、第2背鰭基部に鞍掛状の黒色帯があることなどから同属他

■カスリイシモチ *Apogon kallopterus* KAUM-I. 42289, 98.4 mm SL■カスリイシモチ *Apogon kallopterus* KAUM-I. 51252, 30.4 mm SL

種と容易に識別される。

とが多い。

近年、本種は *Pristiapogon* 属とされるこ

(吉田朋弘)



■ コミナトテンジクダイ *Apogon kominatoensis* KAUM-I. 51567, 29.2 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

コミナトテンジクダイ

Apogon kominatoensis
Ebina, 1935

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 22-23; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 5-6; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 3-4 +

11-13 = 14-16; 櫛歯状に発達した鰓耙 1-2 + 7-8 = 8-10。

色彩 体全体が赤色を呈する。頭部や各鱗の後縁に黒色素胞が密に分布する。鰓蓋後端から体側中央を通り尾柄部まで暗色がかかった細い赤線がある。各鱗は透明であるが、胸鰭と腹鰭を除く各鱗全体に黒色素胞が分布する。

分布 本種は千葉県小湊、薩摩半島西側、薩摩硫黄島、竹島、屋久島、奄美大島および与論島から報告されている。千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に広く分布すると考えられる。

備考 本種はアカフジテンジクダイ *A. crassiceps* Garman, 1903 に似るが、頭部や各鱗の後縁に黒色素胞が密に分布することから容易に識別される。

(吉田朋弘)

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ミナミフトスジイシモチ

Apogon nigrofasciatus
Lachner, 1953

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗列 3-4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4-7 + 12-17 = 17-24; 櫛歯状に発達した鰓耙 2-4 + 9-14 = 11-18。吻端は尖る。

色彩 体全体は白色を呈する。体側に赤みを帯びた 5 本の黒色縦線がある。背鰭は赤色がかかった透明。第 1 背鰭全体に黒色素胞が分布する。第 2 背鰭基底付近の鰭膜に黒色素胞が密に分布する。臀鰭は赤色がかかった透明であるが、臀鰭基底付近の鰭膜に黒色素胞が分布する。胸鰭、腹鰭および尾鰭は淡赤色がかかった透明であるが、鰭条は赤色を帯びる。



■ ミナミフトスジイシモチ *Apogon nigrofasciatus* FRLM 43377, 47.0 mm SL

分布 インド・西太平洋に広く分布する。日本では伊豆諸島、小笠原諸島、高知県柏島以南の太平洋沿岸、大隅諸島および

琉球列島に広く分布する。

備考 本種はタスジイシモチ *A. novem-*



■ ミナミトスジイシモチ *Apogon nigrofasciatus* KAUM-I. 51414, 65.8 mm SL

fasciatus (Cuvier, 1828) に似るが、本種は体側の第3縦線の幅は均一であること

(後者では不均一) から識別される。

とが多い。

近年、本種は *Ostorhinchus* 属とされるこ

(吉田朋弘)



■ タスジイシモチ *Apogon novemfasciatus* KAUM-I. 42283, 61.7 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

タスジシモチ

Apogon novemfasciatus
Cuvier, 1828

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 4; 尾柄周鱗 12; 総総鰭 5-6 + 14-15 =

20; 櫛歯状に発達した総鰭 3 + 10-13 = 13-16。吻端は尖る。

色彩 体全体の地色は白色。体側に5本の黄色がかった黒色縦線がある。各鰭は透明である。背鰭は黒みを帯びた黄色である。第1背鰭全体に黒色素胞が分布する。第2背鰭基底付近の鰭膜に黒色素胞が密に分布する。腹鰭、臀鰭および尾鰭は黄色であるが、臀鰭基底付近の鰭膜に黒色素胞が分布する。胸鰭は透明である

が、鰭条は赤色がかかる。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、相模湾以南の太平洋域沿岸、大隅諸島および琉球列島に広く分布する。

備考 与論島では夜間ごく浅い漁港のスロープ付近でみられた。日中は漁港内の岩陰に潜んでいると考えられる。

(吉田朋弘)

■ キンセンイシモチ *Apogon properuptus* KAUM-I. 46058, 52.7 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

キンセンイシモチ

Apogon properuptus
(Whitley, 1964)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 3-4; 尾柄周鱗 12; 総総鰭 5-6 + 15-17 = 21-23; 櫛歯状に発達した総鰭 3-4 + 14-16 = 18-20。

色彩 体全体は銀白色を呈する。体側に6本の黄色縦線がある。胸鰭を除く各鰭は黄色。第2背鰭と臀鰭の鰭膜に白色線がある。眼下の銀白色線は線状である。

分布 小笠原諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に分布する。

■ キンセンイシモチ *Apogon properuptus* KAUM-I. 47968, 33.1 mm SL

備考 国内でキンセンイシモチとされているものにはライン型とドット型の2型が含まれ

ていると考えられていた。林 (2013) はライン型をキンセンイシモチ *A. properuptus*

(Whitley, 1964)、ドット型をスジオテンジクダイ *A. holotaenia* Regan, 1905 とした。

与論島からはキンセンイシモチのみが確認された。キンセンイシモチはスジオテンジクダイと比較して、眼下の銀白色線が線状であること（後者では点線状）から識別される。

近年、本種は *Ostorhinchus* 属とされることが多い。

(吉田朋弘)



■ キンセンイシモチ *Apogon properuptus* NSMT-P 110374, 31.1 mm SL



■ ミスジテンジクダイ *Apogon taeniophorus* KAUM-I. 39903, 66.6 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ミスジテンジクダイ

Apogon taeniophorus
Regan, 1908

形態 背鰭 VII-I, 9 ; 臀鰭 II, 8 ; 胸鰭 14 ; 腹鰭 I, 5 ; 側線有孔鱗 24 ; 側線上方横列鱗 2 ; 側線下方横列鱗 6 ; 背鰭前方鱗 3-4 ; 尾柄周鱗 12 ; 総鰓耙 4-5 + 13-14 = 17-19 ; 櫛菌状に発達した鰓耙 2-3 + 9-12 = 11-14。

色彩 体全体は白色を呈する。体側に6本の黒みを帯びた茶色縦線がある。体側の中央をはしる縦線は尾鰭後端の黒色斑に達する。尾柄後端に体側の縦線幅よりやや小さい黒色斑がある。各鰭は透明である。



■ ミスジテンジクダイ *Apogon taeniophorus* KAUM-I. 45973, 55.2 mm SL

第1背鰭全体に黒色素胞が分布する。第2背鰭および臀鰭基底付近の鰭膜に黒色素胞が分布する。腹鰭全体に黒色素胞が分布する。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。

国内では小笠原諸島、館山湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に分布する。

備考 本種はスジシモチ *A. cookii* Macleay, 1881 に似るが、ミスジテンジクダイ

は胸鰭軟条数が14本と少ないこと（後者では15本）、尾柄部の黒色斑が小さいこと（大きい）から識別される。

近年、本種は *Ostorhinchus* 属とされることが多い。

（吉田朋弘）



■ ミスジテンジクダイ L 型 *Apogon cf. taeniophorus* KAUM-I. 47899, 59.9 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ミスジテンジクダイ L 型

Apogon cf. taeniophorus
Regan, 1908

形態 背鰭 VII-I, 9；臀鰭 II, 8；胸鰭 13-14；腹鰭 I, 5；側線有孔鱗 24；側線上方横列鱗 2；側線下方横列鱗 6；背鰭前方鱗 3；尾柄周鱗 12；総鰓耙 4-5+13-14=17-19；櫛歯状に発達した鰓耙 2+10-11=12-13。吻は尖る。

色彩 体全体は白色を呈する。体側に6本の黒みを帯びた茶色縦線がある。3番目の縦線は第1背鰭下方で2番目の縦線に達する。体側の中央をはしる縦線は尾鰭後端に達する。各鰭は透明である。第1背鰭全体に黒色素胞が分布する。第2背鰭および臀鰭基底付近の鰭膜に黒色素胞が分布する。

分布 静岡県、愛媛県、屋久島、口永良部島および与論島から記録されている。

備考 ミスジテンジクダイ *A. taeniophorus* Regan, 1908 は Matsuura & Tachikawa (1994) により小笠原諸島父島に打ち上げ



■ ミスジテンジクダイ L 型 *Apogon cf. taeniophorus* KAUM-I. 39879, 38.3 mm SL

られた個体に基づき、日本初記録として報告された。その後、Mabuchi et al. (2004) は、DNA 解析を用いた手法によりミスジテンジクダイに2種（スポット型とライン型）が含まれていることを明らかにした。Yoshida et al. (2010) は、前述の2種の検討を行い、日本初記録として報告されたミスジテンジクダイはスポット型であるという結論に至った。林 (2013) はこれまでミ

スジテンジクダイ（ライン型）と呼ばれていた種をミスジテンジクダイ L 型として扱った。本種はミスジテンジクダイに似るが、ミスジテンジクダイ L 型は体側の中央をはしる縦線は尾鰭後端に達すること（後者では達しない）、尾柄部に小黒色斑がないこと（後者ではある）から識別される。

（吉田朋弘）

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

サンギルイシモチ

Apogon thermalis
Cuvier, 1829

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗列 4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 6-7 + 17-19 = 23-26; 櫛歯状に発達した鰓耙 3-4 + 16-17 = 19-21。

色彩 体側上方は黒色がかった淡黄色、下方は光沢のある銀白色。尾柄の背縁は黒色素胞がやや密に分布する。尾柄後端中央に黒色斑がある。吻端から眼を通り鰓蓋後縁付近まで1本の幅広い黒色線がある。各鰭の軟条は淡桃色を呈する。背鰭は淡黄色であるが、第1背鰭第1棘の鰭膜基部から第1背鰭第4棘の鰭膜先端にかけて黒色を帯びる。胸鰭と腹鰭は透明。臀鰭と尾鰭は淡黄色。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では奄美大島以南の琉球列島に分布する。

■ サンギルイシモチ *Apogon thermalis* FRLM 42741, 42.3 mm SL

備考 本種はアマミイシモチ *A. amboinensis* Bleeker, 1853 に似るが、サンギルイシモチは側線に沿ってはしる黒色線がないこと（後者ではある）、吻端から眼を通り鰓蓋後端まで達する黒色線の幅が広いこと（狭い）から識別される。

本研究では Allen & Randall (2002) に従い、本種の学名を *A. thermalis* として扱った。

(吉田朋弘)

■ ミスジアカヒレイシモチ *Apogon trimaculatus* KAUM-I. 48082, 47.1 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 テンジクダイ属

ミスジアカヒレイシモチ

Apogon trimaculatus
Cuvier, 1828

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14;

腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗列 4-5; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 5 + 15-17 = 20-22; 櫛歯状に発達した鰓耙 3 + 11-13 = 14-16。体高は高い。

色彩 体全体が淡黄色。体側上方は黒色

がかった淡黄色、下方は桃色を帯びた銀白色。吻端から頭頂部にかけての背側縁辺は黄色がかかる。体側上方は黒色がかった淡黄色、下方は桃色を帯びた銀白色。頭頂部から胸鰭起部にかけて幅広い黒色帯がある。第2背鰭起部に鞍掛状の黒色帯がある。第2背鰭基部後端付近に鞍掛

状の黒色帯がある。鰓蓋上に黄色みがかった黒色斑がある。尾柄後端中央に小さい1黒色斑がある。背鰭は透明。第1背鰭第1棘から第4棘にかけて黒色素胞が分布する。第2背鰭全体に黒色素胞が分布する。胸鰭は透明で鰭条は桃色を帯びる。腹鰭は透明で、鰭膜は黄色がかかる。腎鰭

は透明で、基底付近の鰭膜に黄色がかった黒色素胞が分布する。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では高知県以南に分布する。

備考 本種はフタスジアカヒレイシモチ *A.*

rodopterus Bleeker, 1852 に似るが、ミズジアカヒレイシモチは鰓蓋上に明瞭な黒色斑を有すること（後者ではない）、体側背側の鞍掛状黒色帯が3本あること（2本）から識別される。

（吉田朋弘）



■ カクレテンジクダイ *Apogonichthyoides timorensis* KAUM-I. 51515, 36.8 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 カクレテンジクダイ属

カクレテンジクダイ

Apogonichthyoides timorensis
(Bleeker, 1854)

形態 背鰭 VII-1, 9; 腎鰭 II, 8; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 23-24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 3; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 3 + 12 = 15; 櫛歯状に発達した鰓耙 1 + 7-8 = 8-9。腹鰭は長く、その後端は腎鰭始部を越える。

色彩 頭部は黄色みを帯びた茶色。体側上方は光沢のある淡茶色で体側下方は銀白色。体側に4本の黒みを帯びた茶色の横線がある。第1横帯は第1背鰭先端から胸鰭にかけて、第2横帯は第2背鰭と腎鰭の間、第3横帯は尾柄中央部、第4横帯は尾柄後端にある。眼後端から鰓蓋後端にかけて1本の太い茶色の線がある。眼下から後方に1本の細い茶色の線がある。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内



■ カクレテンジクダイ *Apogonichthyoides timorensis* KAUM-I. 51196, 22.8 mm SL

では大隅諸島と琉球列島に分布する。

備考 本種はマダラテンジクダイ *A. umbratilis* Fraser & Allen, 2010 に似るが、カクレテンジクダイは胸鰭軟条数が16と多い

と（後者では14）から識別される。林(2013)により本属に対してカクレテンジクダイ属という名が提唱された。

（吉田朋弘）



■ マシボリ *Apogonichthys ocellatus* KAUM-I. 41176, 17.4 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 ナンヨウマトイシモチ属

マシボリ

Apogonichthys ocellatus
(Weber, 1913)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 16;
腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 23; 側線上方横
列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方
鱗 4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 2 + 12-13 =
14-15; 櫛歯状に発達した鰓耙 1 + 5-6 =

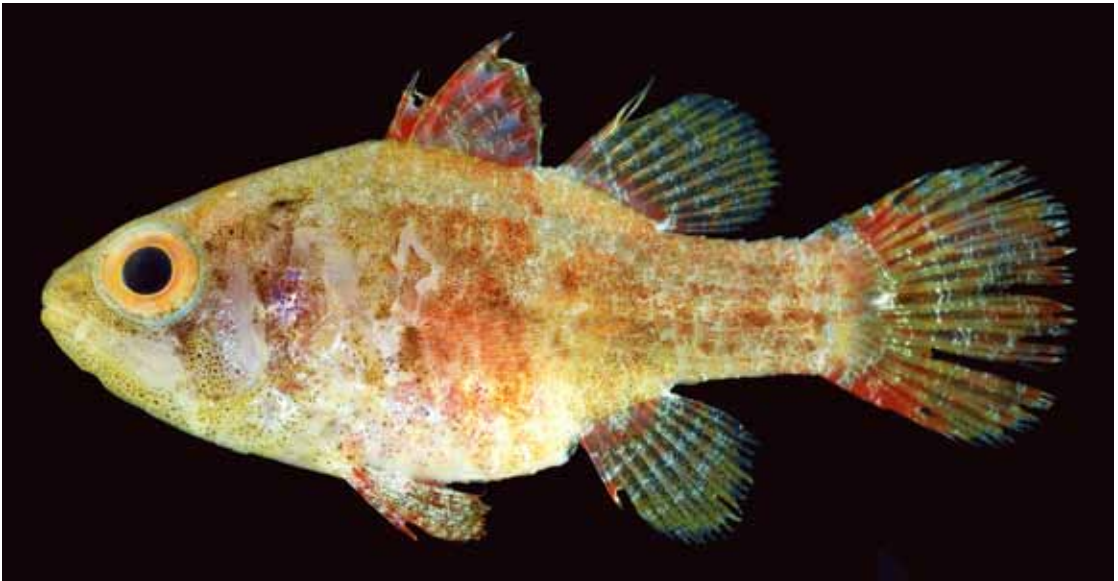
6-7。側線は鰓蓋後端から尾柄後端まで達
する。

色彩 体全体は黒みを帯びた茶色。眼下
に明瞭な黒色斜帯がある。背鰭は黒みを
帯びた茶色であるが、第 1 背鰭に黄色で
囲まれた黒色斑がある。第 2 背鰭後端は
白色。胸鰭は透明。腹鰭、臀鰭および尾
鰭は黒みを帯びた茶色であるが、後端は
白く縁取られる。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。
国内では伊豆諸島と琉球列島に分布する。

備考 日本産ナンヨウマトイシモチ属魚類
は、本種とハワイマトイシモチ *A. perdix*
Bleeker, 1854 の 2 種が知られる。マシ
ボリはハワイマトイシモチと比較して、第 1
背鰭に 1 黒色斑があること（後者ではな
い）、胸鰭軟条数が 16 と多いこと（14）
から識別される。

(吉田朋弘)



■ ハワイマトイシモチ *Apogonichthys perdix* KAUM-I. 55123, 28.5 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 ナンヨウマトイシモチ属

ハワイマトイシモチ

Apogonichthys perdix
Bleeker, 1854**形態** 背鰭 VII-I, 9-10; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 22-23; 側

線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 5; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 2 + 11-12 = 13-14; 櫛歯状に発達した鰓耙 1 + 6 = 7。側線は鰓蓋後端から尾柄後端まで達する。

色彩 体全体は赤色をおびた淡黄色。眼後部に放射状に伸びる黒褐色線が 3 本あ

る。第 1 背鰭と腹鰭は赤色を呈し、全体に黒色素胞が分布する。第 2 背鰭、臀鰭および尾鰭は透明であるが、赤色、白色および黄色を帯びた小斑が不規則に混じる。胸鰭は透明。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、和歌山県以南に分布する。

(吉田朋弘)

■ スミツキアトヒキテンジクダイ *Archamia fucata* KAUM-I. 42214, 65.6 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 アトヒキテンジクダイ属

スミツキアトヒキテンジクダイ

Archamia fucata
(Cantor, 1849)**形態** 背鰭 VI-I, 9-10; 臀鰭 II, 17-18; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24-25; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 5-6; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 5-6 + 15-17 = 20-23; 櫛歯状に発達した鰓耙 3-4 + 15-17 = 18-21。体はよく側扁する。臀鰭基部は第 2 背鰭基部より長い。**色彩** 体全体は光沢のある桃色。吻端付近は黄色を呈する。体側には濃橙色の横線が多数存在する。鰓蓋上部後方に濃橙色斑がある。尾柄部に黒色斑がある。背鰭は透明。第 1 背鰭全体に黄色がかった黒色素胞が分布する。第 2 背鰭基底付近の鰭膜に黄色がかった黒色素胞が密に分布する。臀鰭は透明で鰭条は淡赤色であり、臀鰭基底付近の鰭膜に黄色がかった■ スミツキアトヒキテンジクダイ *Archamia fucata* KAUM-I. 46048, 72.7 mm SL

黒色素胞が分布する。胸鰭、腹鰭および尾鰭は透明であるが、鰭条は淡赤色。

以南の太平洋域沿岸、大隅諸島および琉球列島に分布する。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県**備考** 与論島では本種は漁港内で群れをなして生息していた。

(吉田朋弘)

■ サクラテンジクダイ *Cercamia eremia* KAUM-I. 51383, 20.3 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 サクラテンジクダイ属

サクラテンジクダイ

Cercamia eremia
(Allen, 1987)

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 11-12; 胸鰭 10; 腹鰭 I, 5; 側線鱗 23; 背鰭前方鱗 6; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 3 + 12-14 = 15-17; 櫛歯状に発達した鰓耙 1 + 11-12 = 12-13。後側頭骨に顕著な棘を有する。

色彩 体は透明で、淡橙色素が全体に分布する。頭部には淡橙色素がやや密に分布する。背鰭、腹鰭および臀鰭は透明であるが、基底付近の鰭膜に淡橙色素が分布する。胸鰭は透明であるが、淡橙色素がやや密に分布する。尾鰭は透明。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県

■ サクラテンジクダイ *Cercamia eremia* BSKU 108294, 23.6 mm SL

以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に分布する。

備考 サクラテンジクダイ属はサクラテンジクダイと *C. cladara* Randall & Smith, 1988 の 2 有効種から構成されている。サクラテ

ンジクダイは *C. cladara* と比較して、鰓耙数が 1 + 11-12 と少ないこと（後者では 3-4 + 14-16）から識別される。日本からはサクラテンジクダイのみ記録されている。本種はサンゴ礁や岩礁の岩奥や洞窟に単独で生活している。

(吉田朋弘)

スズキ目 テンジクダイ科 ヤライイシモチ属

スタレヤライイシモチ

Cheilodipterus intermedius
Gon, 1993

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13-14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 6; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 5-6 + 12-15 = 18-20; 櫛歯状に発達した鰓耙 1 + 7 =

8。両顎に大きな犬歯を有する。前鰓蓋骨縁は鋸歯状。

色彩 体全体は光沢のある銀白色。体側に黒みを帯びた茶色の縦線が 9 本ある。尾柄後端に黄色で囲まれた黒色斑がある。各鰭は透明であるが、第 1 背鰭全体に黒色素胞が分布する。尾鰭の上下両葉の縁辺は黒い。

分布 西太平洋に分布する。国内では高

知県以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に分布する。

備考 本種は体側に黒みを帯びた茶色の縦線が 9 本あること、前鰓蓋骨縁が鋸歯状であること、尾柄後端に小さな黒色斑があり、その周囲が黄色であることなどから日本に生息する同属他種と容易に識別される。尾柄の黒色斑は、成長するにつれて形が不明瞭になる。

(吉田朋弘)



■ スダレヤライシモチ *Cheilodipterus intermedius* KAUM-I. 47975, 80.0 mm SL



■ リュウキュウヤライシモチ *Cheilodipterus macrodon* KAUM-I. 41085, 37.8 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 ヤライシモチ属

リュウキュウヤライシモチ

Cheilodipterus macrodon
(Lacepède, 1802)

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 12-13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24-25; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗 6; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 5-6 + 13-16 = 19-21; 櫛歯状に発達した鰓耙 1 + 8-9 = 9-10。両顎に大きな犬歯を有する。前鰓蓋骨縁は鋸歯状。



■ リュウキュウヤライシモチ *Cheilodipterus macrodon* KAUM-I. 42712, 30.6 mm SL

色彩 体全体は光沢のある銀白色。体側に黒みを帯びた茶色の縦線が9本ある。吻端から眼後端付近は黄色がかかる。尾柄後端に黒色斑がある。各鱗は透明であるが、第1背鱗全体に黒色素胞が分布する。尾鱗の上下両葉の縁辺は黒い。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、館山湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に広く分布する。

備考 本種は体側に黒みを帯びた茶色の

縦線が9本あること、尾柄後端に眼径より大きい黒色斑があることなどから日本に生息する同属他種と容易に識別される。尾柄の黒色斑は、成長するにつれて形が不明瞭になる。

(吉田朋弘)



■ ヤライシモチ *Cheilodipterus quinquelineatus* KAUM-I. 47921, 84.4 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 ヤライシモチ属

ヤライシモチ

Cheilodipterus quinquelineatus
Cuvier, 1828

形態 背鱗 VI-I, 9; 臀鱗 II, 8; 胸鱗 12-13; 腹鱗 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鱗前方鱗 6; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 4-5 + 12-14

= 16-18; 楯歯状に発達した鰓耙 1-2 + 9-11 = 10-13。両顎に大きな犬歯を有する。前鰓蓋骨縁は鋸歯状。

色彩 体全体は光沢のある銀白色。体側に黒色縦線が5本ある。尾柄後端に黒みを帯びた黄色で囲まれた黒色斑がある。各鱗は透明。

分布 インド・太平洋に分布する。国内で

は伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に広く分布する。

備考 本種は体側に黒色縦線が5本あること、尾柄後端に黒みを帯びた黄色で囲まれた黒色斑があることなどから日本に生息する同属他種と容易に識別される。

(吉田朋弘)

スズキ目 テンジクダイ科 タイワンマトイシモチ属

タイワンマトイシモチ

Foa fo
Jordan & Seale, 1905

形態 背鱗 VII-I, 9; 臀鱗 II, 8; 胸鱗 11-12; 腹鱗 I, 5; 側線有孔鱗 8-10; 背鱗前方鱗 3-4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 3-4 + 9-11 = 12-14; 楯歯状に発達した鰓耙 1 + 6 = 7。口蓋骨に歯がある。

斑が散在する。第1背鱗は透明で全体に黒色素胞が散在する。第2背鱗、臀鱗および尾鱗は透明で、黒色斑と白色斑が不規則に分布する。基底部に黒色素胞が密に分布する。胸鱗は透明。腹鱗は透明で、全体に黒色素胞が散在する。幼魚の体全体は半透明。体側に4本の黒色帯を有する。各鱗は透明であるが、第1背鱗と腹鱗に黒色素胞が密に分布する。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に広く分布する。

備考 これまで日本における本種に対する学名として *F. brachygramma* (Jenkins, 1903) が使用されてきた (Yoshida et al., 2010; 林, 2013)。しかし、*F. brachygramma* はハワイ諸島の固有種であり、*F. fo* はインド・西太平洋に分布する種であることが明らかになった (Fraser & Randall, 2011)。*Foa fo* は *F. brachygramma* と比較して、体側に4-5本の不規則な黒色帯を有し、白色斑が散在すること (後者では一様に茶色を呈し、白色斑がない)、総鰓耙数の最頻値が14 (後者は15) などから識別される (Fraser & Randall, 2011)。

(吉田朋弘)

色彩 成魚の体全体は淡黄色。体側に4-5本の不規則な黒色帯を有する。白色

■ タイワントイシモチ *Foa fo* KAUM-I. 51189, 22.9 mm SL■ タイワントイシモチ *Foa fo* KAUM-I. 48020, 22.9 mm SL■ タイワントイシモチ *Foa fo* KAUM-I. 51263, 11.6 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 シボリ属

ナハマトイシモチ

Fowleria isostigma
(Jordan & Seale, 1906)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 11-12; 背鰭前方鱗 6; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 2-3 + 9-14 = 12-17; 櫛齒状に発達した鰓耙 4-5。側線は不完全で第 2 背鰭下で終わる。

色彩 体色は変異に富む。体全体および胸鰭をのぞく各鰭条は緑色っぽいものから茶色や黒色とさまざま。黒色小斑が第 2 背鰭直下から尾柄部までの体側に縦列状に並ぶ個体もある。主鰓蓋骨上に黒色斑が

■ ナハマトイシモチ (無斑型) *Fowleria isostigma* KPM-NI 30765, 24.8 mm SL



■ ナハトイシモチ（有斑型） *Fowleria isostigma* KAUM-I. 51178, 35.9 mm SL



■ ナハトイシモチ（無斑型） *Fowleria isostigma* KAUM-I. 42223, 21.0 mm SL

ある。第1背鰭と腹鰭の全体に黒色素胞が分布する。胸鰭は透明。尾鰭は体色と同様であるが、縁辺は白色を呈する。

分布 西太平洋に分布する。国内では和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に分布する。

備考 日本産ナハトイシモチには体側に黒色斑が縦列状に分布する有斑型と黒色斑をもたない無斑型の2型が存在することが知られている（林、2013）。

（吉田朋弘）



■ ナハトイシモチ（無斑型） *Fowleria isostigma* BSKU 108295, 22.1 mm SL

■ シボリ *Fowleria variegata* KAUM-I. 50808, 76.1 mm SL■ シボリ *Fowleria variegata* FRLM 42733, 61.4 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 シボリ属

シボリ

Fowleria variegata
(Valenciennes, 1832)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 10-12; 背鰭前方鱗 4-5; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 3-4 + 11-12 = 15; 櫛歯状に発達した鰓耙 1 + 5

= 6。側線は不完全であり、第 2 背鰭基底中央直下で終わる。

色彩 体全体は黒みを帯びた茶色。体側に多数の黒色斑が不規則に分布する。主鰓蓋骨上に黒色斑がある。胸鰭は透明。胸鰭を除く各鰭は茶色や黄色がかった茶色で、白色斑が散在する。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内

では小笠原諸島、愛媛県以南の太平洋域沿岸、大隅諸島および琉球列島に分布する。

備考 本種はナハマトイシモチ *F. isostigma* (Jordan & Seale, 1906) に似るが、シボリは体側に多数の黒色斑が不規則に分布すること（後者では縦列状に分布もしくは無斑）から識別される。

(吉田朋弘)



■ コモンクダリボウズギス *Gymnapogon urospilotus* KPM-NI 30880, 17.4 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 クダリボウズギス属

コモンクダリボウズギス

Gymnapogon urospilotus
Lachner, 1953

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 9; 胸鰭 14-15; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 1 + 9 = 10。前鰓蓋骨に1本の棘がある。体表に鱗はなく、孔器列がある。尾鰭は二叉し、湾入する。

色彩 体全体および各鰭が透明。尾柄にB

字状に黒色素胞が分布する。

分布 西太平洋に広く分布する。国内では与論島、慶良間諸島および八重山諸島から記録されている。

備考 日本産クダリボウズギス属魚類は、コモンクダリボウズギスの他に、クダリボウズギス *G. japonicus* Regan, 1905 とナンヨウクダリボウズギス *G. philippinus* (Herre, 1939) が知られている。本種はクダリボウズギスと比較して、尾柄部にB字状に分

布する黒色素胞を有すること（後者ではない）、胸鰭条数が14-15と多いこと（12）から識別される。また本種はナンヨウクダリボウズギスと比較して、臀鰭軟条数が9と多いこと（後者では8）であることから区別可能。

日本におけるコモンクダリボウズギスのこれまでの分布は慶良間諸島と八重山諸島であったが、与論島で採集された本標本1個体によって、従来の報告より約140 km北限を更新した。

（吉田朋弘）



■ パンダイシモチ *Nectamia bandanensis* KAUM-I. 48104, 106.3 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 ナミダテンジクダイ属

バンダイシモチ

Nectamia bandanensis
(Bleeker, 1854)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13;
腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横
列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗
3; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 6-7 + 18-19

= 24-26; 櫛歯状に発達した鰓耙 5-7 +
18-19 = 23-26。体高が高い。頭部およ
び眼が大きい。

色彩 体全体は茶色みを帯びた銀白色。
体側に3本の黒色横帯がある。眼下に黒
色斜帯がある。各鰭は透明。第1背鰭全
体に黒色素胞が分布する。

分布 西太平洋に分布する。国内では小

笠原諸島、大隅諸島および琉球列島に広
く分布する。

備考 本種はナミダテンジクダイ *N. savay-
ensis* (Günther, 1872) に似るが、バンダイ
シモチは眼が大きいこと(後者では小さい)、
体側の黒色横帯が3本であること(6-10
本)から識別される。

(吉田朋弘)

■ ホソスジナミダテンジクダイ *Nectamia fusca* KAUM-I. 48119, 83.4 mm SL■ ホソスジナミダテンジクダイ *Nectamia fusca* NSMT-P 110360, 32.9 mm SL■ ホソスジナミダテンジクダイ *Nectamia fusca* KAUM-I. 47967, 15.8 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 ナミダテンジクダイ属

ホソスジナミダテンジクダイ

Nectamia fusca
(Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13;
腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横
列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方鱗

3-4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 6-7 + 16-20
= 22-27; 櫛歯状に発達した鰓耙 4-5 +
15-19 = 19-24。

色彩 体全体は茶色みを帯びた銀白色。
体側に5本の黒色横帯がある。眼下に黒
色斜帯がある。各鰭は透明。第1背鰭全
体に黒色素胞が分布する。尾柄部に不明
瞭な黒色斑がある。

分布 インド・太平洋に分布する。国内で
は琉球列島のみから知られる。

備考 本種はバンダイシモチ *N. bandan-
ensis* (Bleeker, 1854) に似るが、ホソスジ
ナミダテンジクダイは眼下の黒色斜帯が細
い(後者では太い)、体側の黒色横帯が5
本(3本)から識別される。

(吉田朋弘)



■ ナミダテンジクダイ *Nectamia savayensis* KAUM-I. 42307, 68.4 mm SL



■ ナミダテンジクダイ *Nectamia savayensis* KAUM-I. 42308, 61.6 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 ナミダテンジクダイ属

ナミダテンジクダイ

Nectamia savayensis
(Günther, 1872)

形態 背鰭 VII-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 13;
腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 24; 側線上方横
列鱗 2; 側線下方横列鱗 6; 背鰭前方
鱗 3-4; 尾柄周鱗 12; 総鰓耙 6-7 +

19-20 = 26; 櫛歯状に発達した鰓耙 5-9
+ 19-20 = 24-25。

色彩 体全体は茶色みを帯びた銀白色。
体側に多数の黒色横帯がある。眼下に黒
色斜帯がある。各鰭は透明。第 1 背鰭全
体に黒色素胞が分布する。尾柄部に鞍掛
状黒色帯がある。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内

では琉球列島からのみ記録されている。

備考 本属に対する和名は林 (2013) に
よって命名された。ナミダテンジクダイはホ
ソスジナミダテンジクダイ *N. fusca* (Quoy &
Gaimard, 1825) に似るが、前者は尾柄部
に鞍掛状黒色帯があること (後者では不明
瞭な黒色斑がある)、体側の黒色横帯が 5
本であること (6-10 本) から識別される。

(吉田朋弘)

■ ヌメリテンジクダイ *Pseudamia gelatinosa* KAUM-I. 42285, 24.5 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 ヌメリテンジクダイ属

ヌメリテンジクダイ

Pseudamia gelatinosa
Smith, 1956

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 II, 8; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 35; 側線上方横列鱗 2; 側線下方の横列鱗 6; 背鰭前方鱗 5;

尾柄周鱗 12; 総鰓耙 $4 + 7 - 11 = 11 - 15$; 櫛歯状に発達した鰓耙 $1 + 7 = 8$ 。体は細長く、伸長する。前鼻孔の鼻弁は長い。体側鱗は円鱗。尾鰭は尖形。

色彩 体は透明で、黒色素胞が全体に分布する。尾鰭を除く各鰭は透明。尾鰭は黒色で上方に黒色斑があり、外縁は白い。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、大隅諸島および琉球列島に分布する。

備考 本種はヒルギヌメリテンジクダイ *P. amblyoptera* (Bleeker, 1856) に似るが、ヌメリテンジクダイは尾鰭基底上に眼径大の黒色斑がないこと（後者ではある）から識別される。

(吉田朋弘)

■ クダリボウズギスモドキ属の一種 *Pseudamiops* sp. KAUM-I. 48044, 21.7 mm SL

スズキ目 テンジクダイ科 クダリボウズギスモドキ属

クダリボウズギスモドキ属の一種

Pseudamiops sp.

形態 背鰭 VI-I, 8; 臀鰭 II, 9; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 5; 総鰓耙 $4 + 7 = 11$; 櫛歯状に発達した鰓耙 $1 + 7 = 8$ 。体各部測定値の標準体長に対する割合(%)：体高 19.3; 頭長 32.3; 眼径 6.7; 吻長 7.7; 両眼間隔(骨質部で測定) 5.3; 上顎長 17.3; 尾柄長 28.4; 尾柄高 9.6; 第1背鰭第1棘条長 8.2; 第1背鰭第2棘条長 9.1; 第1背鰭第3棘条長 10.1; 第1背鰭第4棘条長 7.2; 第2背鰭棘条長 7.7; 臀鰭第1棘条長 2.4; 臀鰭第2棘条長 6.7; 胸鰭長 23.1; 腹鰭長 12.5。

体は細長く、伸長する。吻はやや尖り、上顎先端は下顎先端より前に突出する。前鼻孔と後鼻孔はともに孔状で、前者は吻端に近い位置し、後者は眼の前縁付近に開孔する。口は大きく、主上顎骨の後端は、眼の後端をはるかに越える。背鰭始部は腹鰭始部の直上よりやや後方に位置する。胸鰭の先端は臀鰭第2軟条基部中央下にある。腹鰭の先端は肛門に達しない。尾鰭は尖形。上下顎ともに1-2列の犬歯状の歯が並ぶ。鋤骨と口蓋骨に犬歯状の小歯がある。体側は円鱗であるが、脱鱗しやすい。側線はない。

色彩 生鮮時、体と各鰭は透明。固定後は、体全体が乳白色。各鰭は透明。吻端および頭頂部にわずかに黒色素胞が分布する。

分布 与論島宇勝海岸の水深2 mにおいてタモ網で採集された。

備考 本項の記載は与論島の1標本に基づく。本標本は前鰓蓋骨に発達した1棘がないこと、体側に側線がないこと、鱗は円鱗であること、第1背鰭が6棘であること、櫛歯状に発達した鰓耙数が8であることから、日本産テンジクダイ科魚類の中ではクダリボウズギスモドキ *P. gracilicauda* (Lachner, 1953) に類似する。本標本はクダリボウズギスモドキと比較して、生鮮時の体色が半透明であること（後者では赤色）、胸鰭条数が13と少ないこと（15-17）、臀鰭軟条数が9（8）であることから後者と異なる。本研究では本標本をクダリボウズギスモドキ属の一種として扱うが、より詳細な研究が必要である。

(吉田朋弘)



■ ヤセアマダイ *Malacanthus brevirostris* KAUM-I. 51378, 188.5 mm SL

スズキ目 キツネアマダイ科 キツネアマダイ属

ヤセアマダイ

Malacanthus brevirostris
Guichenot, 1848

形態 背鰭 IV, 50-60; 臀鰭 I, 46-53; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 5; 側線鱗 146-181; 鰓耙 12-18。体は細長く、やや側扁する。吻端は丸い。背鰭起部は胸鰭起部のやや後方上に位置する。腹鰭起部後端は胸鰭起部の直下に位置する。背鰭基底と臀鰭基底は長い。尾鰭は截形。前鰓蓋骨の縁辺はなめらか。主鰓蓋骨の棘は長い。

色彩 体側上方は黄緑色で、体側下方は白色を呈する。胸鰭は透明。胸鰭を除く各鰭は白色。背鰭基底後端から尾鰭後縁にかけてと鰭下方から尾鰭後縁にかけて2本の



■ ヤセアマダイ *Malacanthus brevirostris* FRLM 42869, 124.3 mm SL

の黒色縦線がある。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆半島東岸以南の太平洋側沿岸、大隅諸島および琉球列島に分布する。

備考 キツネアマダイ属は、主鰓蓋骨の棘

が長いこと、尾鰭は截形であることにより特徴づけられる。ヤセアマダイは上顎後端が眼の前縁を越えること、体側に黒色帯がないこと、臀鰭軟条数が46-53であることから、同属のキツネアマダイ *M. latovittatus* (Lacepède, 1801) と識別される。

(吉田朋弘)



■ キツネアマダイ *Malacanthus latovittatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 キツネアマダイ科 キツネアマダイ属

キツネアマダイ

Malacanthus latovittatus
(Lacepède, 1801)

形態 背鰭 IV, 43-47; 臀鰭 I, 37-40; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 5; 側線鱗 116-132; 鰓耙 6-10。体は細長く、やや側扁する。吻端は突出する。背鰭起部は胸鰭起部のやや後方上に位置する。腹鰭起部は胸鰭

起部の直下に位置する。背鰭基底と臀鰭基底は長い。尾鰭は截形。前鰓蓋骨の縁辺はなめらか。主鰓蓋骨の棘は長い。

色彩 体側背側の吻端から背鰭基底後端にかけて青みを帯びた黒色を呈する。体側上方は吻端から尾柄後端まで白色。体側中央に吻端から尾柄部にかけて黒色縦帯がある。体側下方は白色。尾鰭は黒色で上葉と縁辺は白色を呈する。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に分布する。

備考 キツネアマダイは上顎後端は眼の前縁に達しないこと、体側に黒色帯があること、臀鰭軟条数が37-40であることから、同属のヤセアマダイ *M. brevirostris* Guichenot, 1848 と識別される。幼魚時の体色はホンソメワケベラに似ており、擬態の可能性が指摘されている。

(吉田朋弘)

■ ムツ *Scombrops boops* KAUM-I. 42694, 360.0 mm SL

スズキ目 ムツ科 ムツ属

ムツ*Scombrops boops*
(Houttuyn, 1782)

形態 背鰭 VIII-IX, I, 12-14; 臀鰭 III, 11-13; 胸鰭 15-17; 側線有孔鱗 50-57; 鰓耙 2-5 + 12-17。体は側扁する。体側は

円鱗で覆われる。背鰭は2基で分離する。

色彩 成魚の体色は金紫褐色で、腹部は銀白色。口内は黒。幼魚は背面が淡黄褐色で腹面は銀白色。口内は白。

分布 東アジアと南アフリカに不連続に分布する。国内では北海道から九州にかけての沿岸および東シナ海に分布する。

備考 仔稚魚は沿岸から沖合の表層、幼魚は沿岸の浅所、成魚は主に水深200-700mの岩礁域に生息し、成長とともに沖合の深所に移動する。

肉食性で魚類、甲殻類、および頭足類を捕食し、全長1.5mに達する。10月から3月にやや浅い場所で産卵する。食用魚として美味。

(中村麻理子)

■ シイラ *Coryphaena hippurus* KAUM-I. 50881, 518.5 mm SL

スズキ目 シイラ科 シイラ属

シイラ*Coryphaena hippurus*
Linnaeus, 1758

形態 背鰭 55-67; 臀鰭 25-30; 胸鰭 17-20; 腹鰭 I, 5; 側線鱗 200-300; 鰓耙 0-1 + 7-9。体は側扁し、背縁と腹縁は直線状。体高は腹鰭基部付近で最大になる。成熟した雄は額部が角張るが、雌は

丸みを帯びる。

色彩 成魚では背側が青みを帯びた銀白色、腹側が黄色みを帯びた銀白色を呈する。幼魚は体全体が黒みを帯び、体側には複数の暗色横帯がある。

分布 インド・汎太平洋、北緯50度-南緯40度の大西洋に分布する。国内では北海道から九州までの本土沿岸、伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、トカラ列島、大東

諸島に分布する。

備考 全長2mになる。本種は暖流の影響を受ける地域の表層に生息する。日本沿岸では夏から秋に普通にみられる。本種の幼魚は流れ藻に付随することが知られている。エビスシイラ *C. equiselis* Linnaeus, 1758 に似るが、体の背縁と腹縁が丸いこと、体高は腹鰭後方で最大になること、背鰭が48-59軟条であることから識別される。

(千葉 悟)

スズキ目 アジ科 イトヒキアジ属

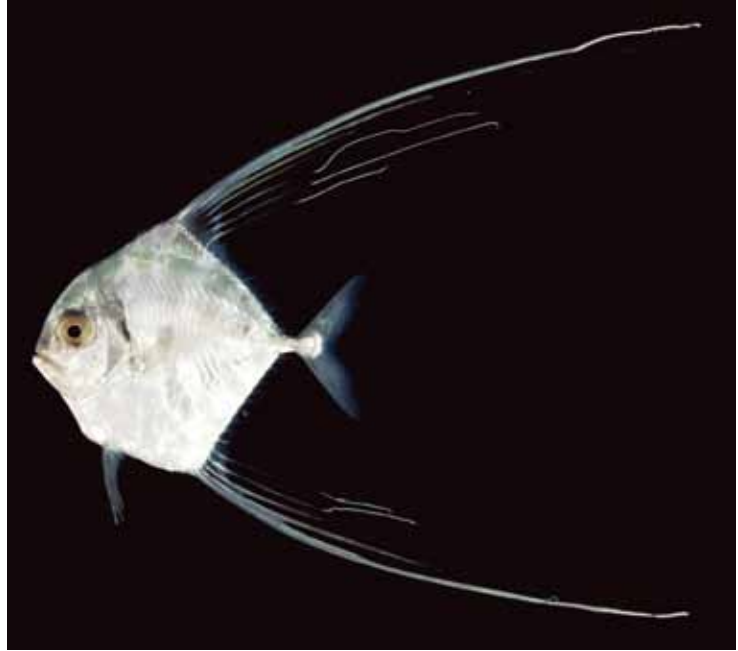
イトヒキアジ

Alectis ciliaris
(Bloch, 1787)

形態 背鰭 IV-VII + I, 18-20; 臀鰭 (II) + I, 15-17; 稜鱗 8-30; 鰓耙 4-6 + 12-17; 脊椎骨 10 + 14。体は強く側扁する。幼魚の体高は極めて高く体長より体高が大きい。成長するにつれて体高は低くなり体長の1/2以下になる。頭部背縁は眼の前方でわずかに突出する。脂鱗は発達しない。背鰭棘および臀鰭遊離棘は極めて短く幼魚期に皮下に埋没する。幼魚では第2背鰭および臀鰭の前部数軟条が糸状に伸長するが成長とともに短くなり、成魚では第1軟条のみ糸状に伸長するかまたはすべての軟条が糸状に伸長しない。幼魚の腹鰭は長く、その先端は臀鰭始部を越える。

色彩 体は銀色で体側に5本の“く”の字型の横帯がある。第2背鰭および臀鰭の前部に1黒斑をもち、腹鰭は黒色を呈する(いずれも成魚では不明瞭)。眼の直上に眼径とほぼ同長の黒色縦帯がある。

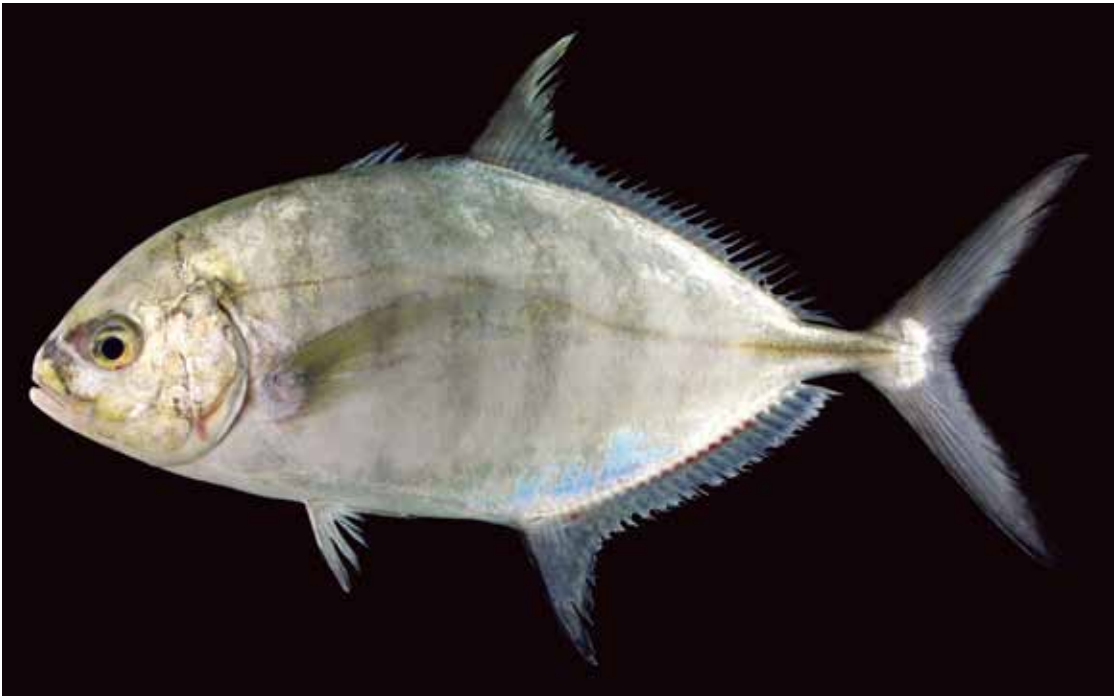
分布 全世界の温帯から熱帯域に分布する。国内では千島列島、伊豆諸島、小笠原諸島、北海道から九州南岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

■ イトヒキアジ *Alectis ciliaris* KAUM-I. 48038, 79.8 mm SL

備考 日本に分布するアジ科の中で最も広域から記録がある種のひとつ。本種は同属のウマヅラアジ *A. indica* (Rüppell, 1830) に似るが、眼の前方の頭部背縁がわずかに

に突出する(後者では凹む)ことや鰓耙数が4-6 + 12-17である(7-11 + 21-26)ことから区別される。

(武内 俊)

■ クロヒラアジ *Carangoides ferdau* KAUM-I. 51206, 326.6 mm SL

スズキ目 アジ科 ヨロイアジ属

クロヒラアジ

Carangoides ferdau
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 VIII + I, 26–34; 臀鰭 II + I, 21–27; 稜鱗 21–37; 鰓耙 7–10 + 17–21; 脊椎骨 10 + 14。体は側扁し長卵形。吻端は丸く吻長は眼径とほぼ同長。脂鱗は発達しない。側線直走部始部は円鱗で覆われる。第1背鰭は低い。第2背鰭および臀鰭の前部は鎌状に伸長する。臀鰭遊離棘は極めて短く体長 200 mm 程度で皮下に埋没する。

色彩 体は銀色で背面は銀色から銀黒色。体側には後方に湾曲する 7–9 本の横帯がある。臀鰭は白く縁取られる。尾鰭後縁は黒い。

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾から九州南岸、大隅諸島、琉球列

■ クロヒラアジ *Carangoides ferdau* FRLM 42761, 307.5 mm SL

島に分布する。

備考 本種は同属のナンヨウカイワリ *C. orthogrammus* (Jordan & Gilbert, 1882) に似るが、後方に湾曲する横帯がある（後

者では後方に湾曲せず不明瞭）ことや、体側に黄色点が散在しないか、または稀に散在するがその直径は眼径の 1/2 以下（散在し眼径の 1/2 以上）であることから識別される。

（武内 俊）

■ ナンヨウカイワリ *Carangoides orthogrammus* KAUM-I. 41044, 278.5 mm SL

スズキ目 アジ科 ヨロイアジ属

ナンヨウカイワリ

Carangoides orthogrammus
(Jordan & Gilbert, 1882)

形態 背鰭 VIII + I, 28–33; 臀鰭 II + I, 23–27; 稜鱗 19–31; 鰓耙 8–10 + 20–23; 脊椎骨 10 + 14。体は側扁し長卵形。吻端は尖り、吻長は眼径より長い。脂鱗は発達しない。側線直走部始部は円鱗で覆われる。第1背鰭は低い。第2背鰭

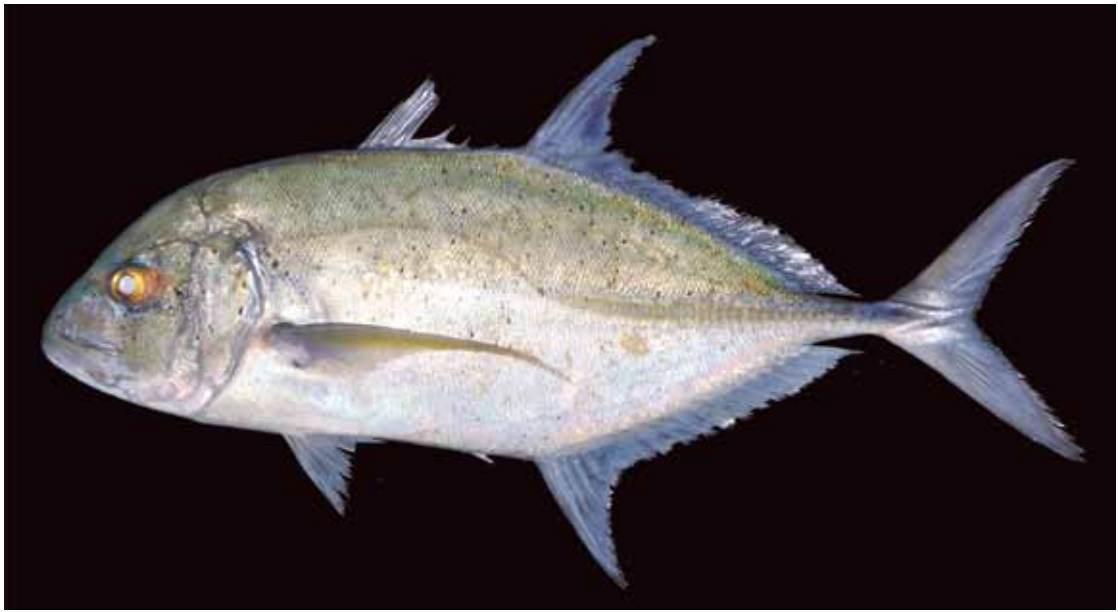
および臀鰭の前部は鎌状に伸長する。臀鰭遊離棘は極めて短く、幼魚期に皮下に埋没する。

色彩 生鮮時、吻端から背面および背側面は暗緑色で、下顎から腹側面および腹面は銀色。体側の横帯は不明瞭で、湾曲しない。第2背鰭、臀鰭、尾鰭は青色を呈する（生時）。体側に黄色斑が散在し、その直径は眼径の 1/2 以上。臀鰭後部は白く縁どられる。

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、青森県陸奥湾から九州南岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は同属のクロヒラアジ *C. ferdau* (Forsskål, 1755) に似るが、体側の横帯が湾曲しない（後者では後方に湾曲することや、体側に黄色斑が散在する（散在しないか、または稀に散在するが眼径の 1/2 以下）ことから識別される。

（武内 俊）



■ カスマアジ *Caranx melampygus* FRLM 43024, 367.2 mm SL



■ カスマアジ *Caranx melampygus* FRLM 42997, 132.7 mm SL



■ カスマアジ *Caranx melampygus* KAUM-I. 48040, 110.0 mm SL



■ カスマアジ *Caranx melampygus* NSMT-P 110383, 91.9 mm SL



■ カスマアジ *Caranx melampygus* KAUM-I. 39812, 71.1 mm SL



■ カスマアジ *Caranx melampygus* KAUM-I. 51250, 68.9 mm SL



■ カスマアジ *Caranx melampygus* FRLM 42701, 67.8 mm SL

スズキ目 アジ科 ギンガメアジ属

カスミアジ

Caranx melampygus
Cuvier, 1833

形態 背鰭 VIII + I, 21-24; 臀鰭 II + I, 17-20; 稜鱗 27-42; 鰓耙 5-9 + 17-21; 脊椎骨 10 + 14。体は側扁し長卵形。頭部背縁は吻端から緩やかに上がり、前鰓蓋骨直上付近で弱く屈曲する。口は小さく、主上顎骨後端は眼の中央を通る垂線に達しない。脂脰は発達する。胸部は完全に鱗で覆われる。稜鱗はやや長く、側線直走部全体を覆う。臀鰭遊離棘は大きく鰭膜があり、第2背鰭および臀鰭の前部は鎌状に伸長する。

色彩 成魚の体は銀綠色、腹面は銀白色。全身に黒色点が散在する。生鮮時には体背縁、第2背鰭、臀鰭、尾鰭および体側の稜鱗上部が青色を呈する。死後は青色が薄れ、黒色が目立ち、第2背鰭、臀鰭および尾鰭は黒みを帯びる。胸鰭は黄色。第1背鰭および腹鰭は灰色。幼魚では全

■ カスミアジ *Caranx melampygus* FRLM 42762, 62.6 mm SL

身銀白色。胸鰭は黄色を呈し、第1背鰭は灰色で腹鰭は白色。第2背鰭、臀鰭および尾鰭は黒みを帯びる。

分布 インド・太平洋の亜熱帯から熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾から九州南岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は胸部に無鱗域がないことや、口が小さく主上顎骨後端が眼の中央下に達しないこと、稜鱗が淡色であること、胸鰭は黄色く尾鰭は黒みを帯びることなどから同属他種と区別可能。本種は本調査のセインネット（水深 0-1.5 m）で採集されたアジ科のうち、最も個体数が多かった。（武内 俊）

■ オニヒラアジ *Caranx papuensis* FRLM 42791, 73.4 mm SL

スズキ目 アジ科 ギンガメアジ属

オニヒラアジ

Caranx papuensis
Alleyne & Macleay, 1877

形態 背鰭 VIII + I, 21-23; 臀鰭 II + I,

16-19; 稜鱗 31-39; 鰓耙 7-9 + 18-21; 脊椎骨 10 + 14。体は側扁し長卵形からやや縦長。頭部背縁は吻端から緩やかに上がり、前鰓蓋骨直上付近で弱く屈曲する。口は小さく、主上顎骨後端は眼の中央を通る垂線に達しない。脂脰は発達する。胸部に無鱗域をもつ。稜鱗はやや長く、側線直

走部全体を覆う。臀鰭遊離棘は長く、第2背鰭および臀鰭の前部は鎌状に伸長する。

色彩 体は銀白色から銀綠色で、成魚は体全体に黒色点が散在し、側線始部に白色斑がある。臀鰭および尾鰭下葉は黄色みを帯びる。第2背鰭および尾鰭上葉は

黒みを帯びる。

分布 インド・西太平洋の亜熱帯から熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の南日本、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は胸部に無鱗域があることや口が小さく主上顎骨後端が眼の中央下を通る垂線に達しないこと、稜鱗が淡色であること、尾鰭下葉が黄色であることなどから同属他種と識別される。

(武内 俊)



■ オニヒラアジ *Caranx papuensis* KAUM-I. 39784, 47.2 mm SL



■ ギンガメアジ *Caranx sexfasciatus* KAUM-I. 39815, 93.8 mm SL



■ ギンガメアジ *Caranx sexfasciatus* KAUM-I. 39811, 70.0 mm SL



■ ギンガメアジ *Caranx sexfasciatus* KAUM-I. 39855, 59.5 mm SL

スズキ目 アジ科 ギンガメアジ属

ギンガメアジ

Caranx sexfasciatus
Quoy & Gaimard, 1825

形態 背鰭 VIII + I, 19–22; 臀鰭 II + I, 14–17; 稜鱗 27–36; 鰓耙 6–8 + 15–19; 脊椎骨 10 + 15。体は側扁し、長卵形からやや縦長。頭部背縁は吻端から第1背鰭前方にかけて滑らかな弧を描く。吻端は尖る。口は大きく主上顎骨後端は眼の中央を

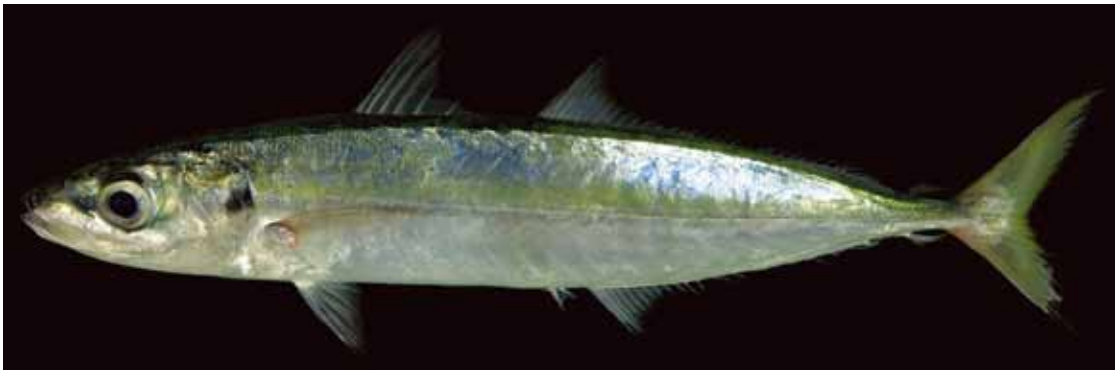
通る垂線に達するかまたはそれを越える。脂脰は発達する。胸部は完全に鱗で覆われる。稜鱗はやや強く、側線直走部全体を覆う。臀鰭遊離棘は長い。

色彩 成魚では体の背面から背側面は銀黒色で腹側面から腹面は銀白色。幼魚の体色は銀白色で体側に6本の黒色横帯がある。鰓蓋上端の黒斑は瞳孔より小さい。稜鱗は黒い。幼魚では臀鰭および尾鰭下葉と上葉下半部は黄色であるが、成長に伴って黒色が増し、黄色みが薄れる。

分布 インド・太平洋の亜熱帯から熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、青森県津軽海峡から九州南岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は胸部に無鱗域がないことや、頭部背縁に凹みがないこと、鰓蓋上部の黒斑が瞳孔より小さい（成魚）または、瞳孔の1/3かそれ以下（幼魚）であること、稜鱗が黒みを帯びることなどから同属他種と識別される。

(武内 俊)

■クサヤモロ *Decapterus macarellus* KAUM-I. 51380, 187.1 mm SL

スズキ目 アジ科 ムロアジ属

クサヤモロ

Decapterus macarellus
(Cuvier, 1833)

形態 背鰭 VIII + I, 30–36 + 1; 臀鰭 II + I, 26–30 + 1; 稜鱗 24–40; 鰓耙 10–13 + 34–41; 脊椎骨 10 + 14。体は細長く紡錘形。脂脰は発達する。稜鱗はやや弱く側線直走部の後半部のみを覆う。背鰭および臀鰭の直後に小離鰭を1対もつ。第1背鰭

は第2背鰭よりも高い。胸鰭はやや小さく、その先端は第2背鰭始部直下に達しない。臀鰭遊離棘は長い。

色彩 体の背側面は銀青色で、背面は黒い。腹側面から腹面は銀白色。生鮮時、鰓蓋後縁上部から側線直走部上縁に沿って薄い黄色縦帯があり、その直下に青色縦帯がある。鰓蓋後縁上部に黒色斑をもつ。下顎内側の後半部は白から灰色。背鰭は淡い黒褐色で、腹鰭、臀鰭は白から灰色。尾鰭は黄色。

分布 全世界の温帯から熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、青森県津軽海峡から九州南岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は背鰭前方鱗が眼の中央を通る垂線に達するかまたは越えること、稜鱗が側線直走部の後半部のみにあること、下顎内側の後半部が白から灰色であることなどから同属他種と識別される。

(武内 俊)



■ ツムブリ *Elagatis bipinnulata* KAUM-I. 41225, 576.0 mm SL

スズキ目 アジ科 ツムブリ属

ツムブリ

Elagatis bipinnulata
(Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 V-VI + I, 23-28 + 2 ; 臀鰭 (I) + I, 15-20 ; 稜鱗 0 ; 鰓耙 9-11 + 25-26 ; 脊椎骨 10 + 14。体は細長く紡錘形で吻端は尖り、脂腺は発達しない。稜鱗がない。第2背鰭始部は臀鰭第2棘基部よりもはるか前方にある。背鰭棘は短く鱗膜で連結しており、その高さは第2背鰭よりも明瞭に低い。第2背鰭および臀鰭の後端にそれぞれ2軟条の小離鰭をもつ。臀鰭遊離棘は1本。尾鰭は深く二叉し、細長い。

色彩 体背縁は黒く、体背側面は黄褐色で腹側面は白色。体側には眼の上端と吻端



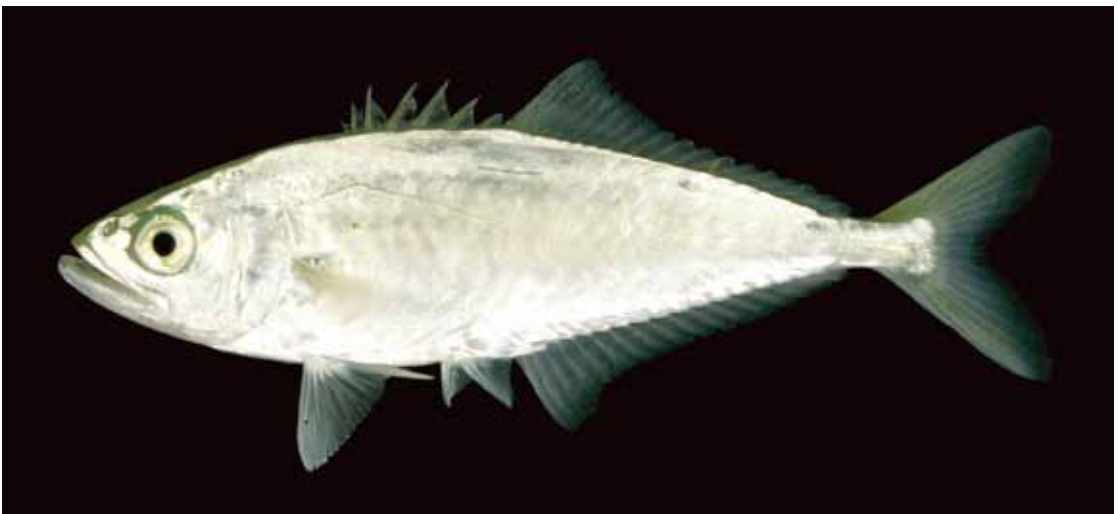
■ ツムブリ *Elagatis bipinnulata* NSMT-P 110438, 392.6 mm SL

から延びる2本の淡青色縦帯がある。各鰭は黄色みを帯びる。

分布 全世界の温帯から熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、青森県から九州南岸、大隅諸島、琉球列島

に分布する。

備考 本種は稜鱗がないことや小離鰭をもつことで、他のアジ科魚類と区別される。
(武内 俊)



■ イケカツオ *Scomberoides lysan* KAUM-I. 39783, 53.8 mm SL

■ イケカツオ *Scomberoides lysan* KAUM-I. 51323, 28.5 mm SL■ イケカツオ *Scomberoides lysan* FRLM 42792, 28.0 mm SL

スズキ目 アジ科 イケカツオ属

イケカツオ

Scomberoides lysan
(Forsskal, 1775)

形態 背鰭 VI-VII + I, 19-21; 臀鰭 II + I, 17-19; 稜鱗 0; 鰓耙 3-8 + 15-20; 脊椎骨 10 + 16。体は著しく側扁し、細長い。上唇前部は頭部の皮膚が癒合する。頭部背縁は凹み、吻端は尖る。口はやや大きく下顎は上顎よりも前方に突出し、体長 200 mm 以上で上顎後端は眼の後縁を通る垂

線に達する。脂鱗は発達しない。側線は不規則な波状、稜鱗はない。第 2 背鰭始部は臀鰭第 3 棘基部の直上付近にある。幼魚を除き、第 1 背鰭は鱗膜で連続しない。臀鰭遊離棘は強い。

色彩 体背縁は銀黒色で、体側から腹部は銀色。体側に 2 列の暗色斑点列をもつ（幼魚を除く）。第 2 背鰭先端および尾鰭は黒色を呈する。腹鰭はやや黄色を帯びる。

分布 インド・太平洋の亜熱帯から熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原

諸島、茨城県から九州南岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は同属のオオクチイケカツオ *S. commersonianus* Lacepède, 1801 とは上顎後端が眼の後縁下を越えないこと（後者では越える）から区別され、ミナミイケカツオ *S. tol* (Cuvier, 1832) とは体側に 2 列の暗色斑点列をもつこと（後者では 1 列）から区別されるが、斑点列が不明瞭な幼魚では、両顎が弱く湾曲することから区別される。本種はイケカツオ属のうち国内で最も頻繁にみられる種である。

(武内 俊)

■ メアジ *Selar crumenophthalmus* KAUM-I. 51233, 90.5 mm SL

スズキ目 アジ科 メアジ属

メアジ

Selar crumenophthalmus
(Bloch, 1793)

形態 背鰭 VIII + I, 23-28; 臀鰭 II + I, 21-23; 稜鱗 29-42; 鰓耙 9-12 + 24-31; 脊椎骨 10 + 14。体は側扁し長卵形で、成長に伴い体高が相対的に高くなる。眼は大きく、脂鱗は発達する。肩帯下部に明瞭な突起がある。側線直走部始部は背鰭第

10 軟条直下付近に位置する。稜鱗は弱く第 2 背鰭始部より後方から始まる。小離鰭がない。第 1 背鰭は第 2 背鰭よりわずかに高い。臀鰭遊離棘は強い。

色彩 体の背側面は銀青色で背面は濃銀青色。腹面は銀白色。体側に 1 本の太い黄色縦帯をもつことが多いが、その濃さは個体差が大きく、全く縦帯がないものもある。背鰭および尾鰭は褐色で尾鰭後縁は黒い。胸鰭はやや黄色を帯びる。腹鰭および臀鰭は白色。

分布 全世界の亜熱帯から熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、青森県津軽海峡から九州南岸、大隅諸島、琉球列島に分布。

備考 本種は同属のテルメアジ *S. boops* (Cuvier, 1833) とは側線湾曲部の鱗数が 48-56（後者では 21-24）であることなどから区別される。

(武内 俊)



■ ヒレナガカンパチ *Seriola rivoliana* KAUM-I. 51342, 273.2 mm SL

スズキ目 アジ科 プリ属

ヒレナガカンパチ

Seriola rivoliana
Valenciennes, 1833

形態 背鰭 VII + I, 26–33; 臀鰭 II + I, 18–22; 稜鱗 0; 鰓耙 22–26 (> 200 mm FL); 脊椎骨 10 + 14。体は紡錘形で、脂鱗は発達しない。稜鱗がない。背鰭棘は短く鱗膜で連結しており、その高さは第2背鰭よりも明瞭に低い。第2背鰭前部は鎌状で、始部は臀鰭第3棘基部よりもはるか前方にある。臀鰭遊離棘は2本あるが幼魚期のうちに皮下に埋没する。鰓耙数は

成長とともに減少し、尾叉長 20–70 mm では 24–29。

色彩 体背縁は黒褐色で、体背側面は褐色から黄褐色で腹側面は白色。吻から第1背鰭前端にかけて眼を通る濃褐色斜走帯があり、その幅は眼径よりやや細い程度である（成魚では不明瞭）。体側には眼の後端から尾柄にかけて眼径とほぼ同幅の黄色縦帯がある（不明瞭なことも多い）。腹鰭および臀鰭の下端は白色。尾鰭下葉先端は白くない。幼魚期は全身が黄色みを帯びる。

分布 全世界の温帯から熱帯域に分布す

る。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、石川県能登半島から九州南岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は同属のヒラマサ *S. lalandi* Valenciennes, 1833 と プリ *S. quinqueradiata* Temminck & Schlegel, 1845 とは眼を通る濃褐色斜走帯があること（ヒラマサとプリでは斜走帯がない）や眼の中心は吻端を通る軸線より上にあること（軸線上かそれより下にある）から区別され、カンパチ *S. dumerilii* (Risso, 1810) とは尾鰭下葉先端が白くないこと（カンパチでは白い）から区別される。

(武内 俊)

スズキ目 アジ科 コバンアジ属

コバンアジ

Trachinotus bailloni
(Lacepède, 1801)

形態 背鰭 V–VI + I, 21–25; 臀鰭 II + I, 20–24; 稜鱗 0; 鰓耙 7–13 + 14–19; 脊椎骨 10 + 14。体は強く側扁し長卵形。上唇前部は頭部から分離する。吻はやや尖る。口は小さく、口裂長は眼径と同じか、わずかに大きい。脂鱗は発達しない。稜鱗はない。第1背鰭の棘は短い。第2背鰭および臀鰭は鎌状に伸長する。臀鰭遊離棘は強い。尾鰭は深く二又し大きい。

色彩 体背面は淡銀青色から銀黒色で、体腹面は銀白色。側線に沿って瞳孔と同大かそれより小さな黒点が1–4個のある



■ コバンアジ *Trachinotus bailloni* KAUM-I. 51315, 50.9 mm SL

(体長 100 mm 以上)。胸鰭、第2背鰭および臀鰭の前縁と尾鰭の上下縁は黒い

(体長 100 mm 程度までは赤褐色)。胸鰭、腹鰭は半透明で白色。



■ コバンアジ *Trachinotus baillonii* KAUM-I. 51209, 64.3 mm SL

分布 インド・太平洋（ハワイ諸島・ツアモツ諸島以東を除く）の亜熱帯から熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、新潟県佐渡から九州南岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

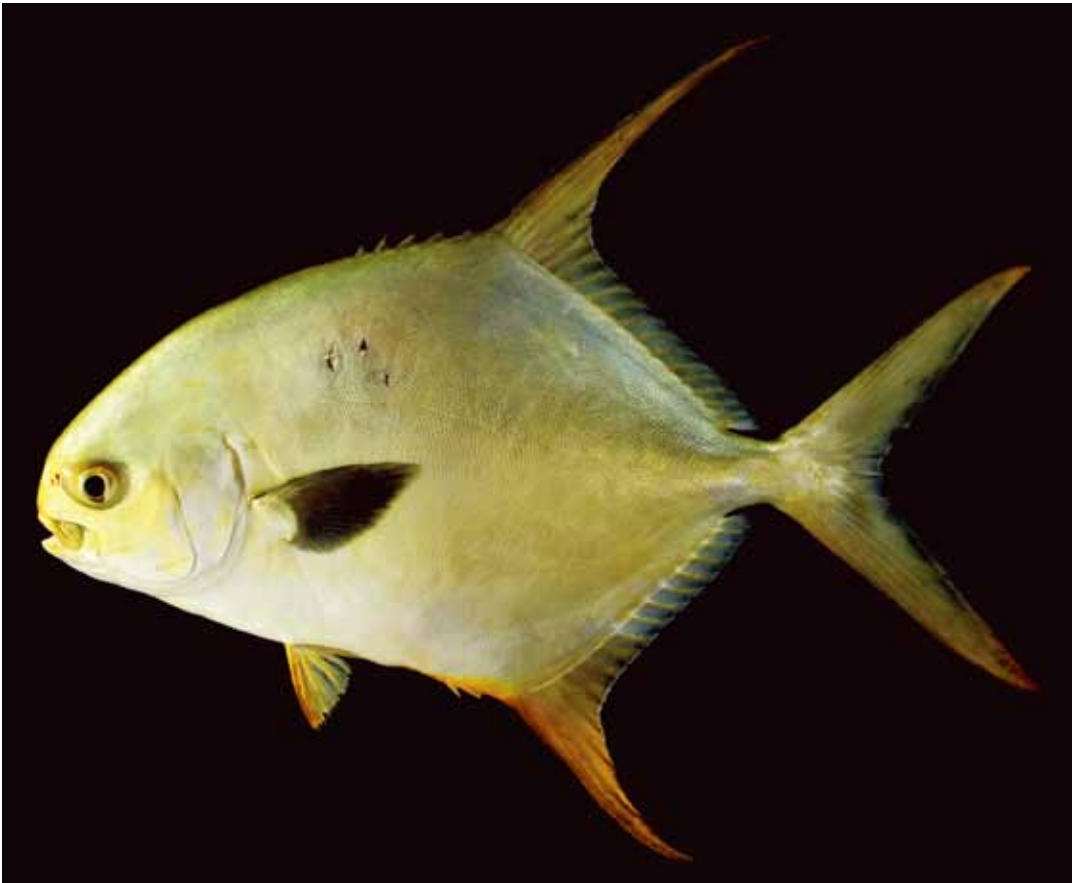
備考 本種は同属のマルコバン *T. blochii* (Lacepède, 1801) およびコガネマルコバン *T. mookalee* Cuvier, 1832 とは吻端が尖ること（後2種では丸い）や体に黒点があること（ない）、さらに背鰭軟条数が21-25、

臀鰭軟条数が20-24であること（18-20、16-18）などから区別される。

（武内 俊）



■ マルコバン *Trachinotus blochii* FRLM 42712, 48.1 mm SL



■ マルコバン *Trachinotus blochii* KAUM-I. 48047, 315.0 mm SL



■ マルコバン *Trachinotus blochii* FRLM 42799, 87.9 mm SL



■ マルコバン *Trachinotus blochii* KAUM-I. 51322, 85.0 mm SL

スズキ目 アジ科 コバンアジ属

マルコバン

Trachinotus blochii
(Lacepède, 1801)

形態 背鰭 VI + I, 18-20; 臀鰭 II + I, 16-18; 稜鱗 0; 鰓耙 5-8 + 7-10; 脊椎骨 10 + 14。体は強く側扁し円形から卵形。上唇前部は頭部から分離する。吻は丸い。口は小さく、口裂は眼径と同じか、わずかに大きい。脂鱗は発達しない。稜鱗はない。第1背鰭の棘は短い。第2背鰭および臀

鰭の前部は鎌状に伸長する。臀鰭遊離棘は強い。尾鰭は深く二又する。

色彩 体は銀白色で、背縁は銀緑色。体側は無斑。第2背鰭、臀鰭および尾鰭は黄色から橙色で、前縁は黒い(成魚では尾鰭後縁も黒くなる)。胸鰭は黄色から黒色を呈する。

分布 インド・西太平洋の亜熱帯から熱帯域に分布する。国内では茨城県から九州南岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は同属のコバンアジ *T. baillonii* (Lacepède, 1801) とは吻が丸いこと(後者ではやや尖る)や、体に黒点がないこと(ある)、背鰭軟条数が18-20、臀鰭軟条数が16-18であることなどから区別され、またコガネマルコバン *T. mookalee* Cuvier, 1832 とは尾叉長100-400 mm では第2背鰭葉状部の高さが尾叉長の35-60%であること(後者では24-30%)や、尾叉長400 mm 以上では、体が卵円形である(細長い)ことなどから区別される。

(武内 俊)



■ オキアジ *Uraspis helvola* FRLM 42760, 273.6 mm SL



■ オキアジ *Uraspis helvola* KAUM-I. 51207, 276.3 mm SL

スズキ目 アジ科 オキアジ属

オキアジ

Uraspis helvola
(Forster, 1801)

形態 背鰭 VIII + I, 25–30；臀鰭 (II) + I, 19–22；稜鱗 23–40；鰓耙 5–8 + 13–17；脊椎骨 10 + 14。体はやや側扁し卵形。稜鱗は側線直走部全体を覆っており極めて強く、直走部後半部の稜鱗の先端は前方を向く。胸部と胸鰭基底の無鱗域は連続しない。第1背鰭は低く棘は細い。幼魚で

は第2背鰭、腹鰭、臀鰭が大きい。臀鰭遊離棘は皮下に埋没する。

色彩 体色は黒く、7–9本の黒色横帯をもつ。生鮮時は鱭を含む体全体の色彩変化が激しく、銀白色から黒色。舌、口腔上部および下部は白く、残りの部分は黒い。幼魚の胸鰭と尾鰭は透明で、その他の鰭および体の色は黒色。また、成魚に比べ幼魚の体色の濃淡がはっきりしており、黒色横帯が明瞭である。

分布 全世界の亜熱帯から熱帯域に分布

するが記録は少ない。国内では北海道から九州南岸、伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は同属のインドオキアジ *U. uraspis* (Günther, 1860) に似るが、胸部の無鱗域と胸鰭基底の無鱗域が不連続であること（後者では連続）から識別される。Smith-Vaniz (1999) は、オキアジと *U. secunda* (Poey, 1860) は、幼魚では成長パターンの違いで区別できるが、成魚を比較すると実質的に区別することができないとしており、今後詳細な研究が必要である。
(武内 俊)

■ チカメエチオピア *Eumegistus illustris* KAUM-I. 47904, 456.7 mm SL

ススキ目 シマガツオ科 チカメエチオピア属

チカメエチオピア*Eumegistus illustris*

Jordan & Jordan, 1922

形態 背鰭 32-35；臀鰭 23-26；胸鰭 20-22；腹鰭 1, 5；縦列鱗 43-53；側線上方横列鱗 14-19；側線下方横列鱗 14-15；総鰓耙 9-16；脊椎骨 16-18 + 23-25 = 40-42。体は楕円形で、強く側扁する。頭部前縁の外郭と吻部は丸い。口は大きく、下顎先端は上顎先端よりも突出する。背鰭と臀鰭の前部はやや伸長し、

尾鰭の両葉も伸長するが中央は突出する。腹鰭は小さく、その起部は胸鰭基底のほぼ直下に位置する。胸鰭は長く、その後端は臀鰭始部の直上に達する。体側鱗は縦長の円鱗で、硬く、剥がれにくい。

色彩 体全体はやや青みを帯びた暗灰色で、前額部と背部は黒色。背鰭と臀鰭は銀白色を帯びるが、それぞれの上縁と下縁は黒色。胸鰭は上部が黒色で、下部が白色。腹鰭は前部が褐色、後半部は白色。尾鰭は黒いが、後縁は白く縁取られる。

分布 インド洋、西・中央太平洋の温帯か

ら熱帯域に分布する。国内では相模湾以南の南日本に分布する。

備考 本種が属するチカメエチオピア属は、世界で本種と *E. brevorti* (Poey, 1860) の2種のみが知られているが、後者は西大西洋に分布しており、同所的には出現しない。両種は脊椎骨数に違いがあり、チカメエチオピアが 40-42、*E. brevorti* が 37-39 (Moteki, 2005)。

チカメエチオピアはこれまで水深 620 m 以浅の中深層から採集されており、本調査では与論島沖で漁獲され、茶花漁港で水揚げされていた 1 標本を得た。

(岡本 誠)

ススキ目 シマガツオ科 ベンテンウオ属

ベンテンウオ*Pteraclis aestivalis*

(Jordan & Snyder, 1901)

形態 背鰭 46-55；臀鰭 40-43；胸鰭 15-20；腹鰭 1, 4；縦列鱗 50-53；総鰓耙 8；脊椎骨 44-45。体は細長く、強く側扁する。吻は丸く、下顎先端よりも前方に突出する。口はやや大きく斜位で、上顎後端は腫孔の後端直下に達する。両顎には内側に湾

曲した小型の円錐歯が密に 2-3 列並ぶ。背鰭始部は吻部にあり、背鰭第 2-3 軟条はやや固く太いが、それ以外の鰭条は細くて柔らかい。臀鰭始部は喉部にあり、その直前にきわめて小さな腹鰭がある。背鰭と臀鰭はともに前部の鰭条が著しく長く、鰭膜を広げるとうちわ状になり、体高の 2 倍以上の高さになる。背鰭基底と臀鰭基底にはともにやや深い溝があり、鰭をたたくと収めることが出来る。胸鰭は細長い。尾鰭は小さく、中央で深く二叉する。鱗は薄く弱い楕鱗で、基部が皮膚と固着し、剥がれ

にくい。

色彩 体側の背部は暗灰色で、腹部は銀褐色。背鰭と臀鰭は黒く、基部は淡青色。腹鰭は無色で、胸鰭は淡褐色。尾鰭は黒いが、後縁は白く縁取られる。

分布 太平洋の温帯から亜熱帯域、および西大西洋（ブラジル）に分布する。国内では日本海側で新潟以南、太平洋側では岩手県以南の沖合に分布する。



■ ベンテンウオ *Pteraclis aesticola* KAUM-I. 55739, 530.3 mm SL

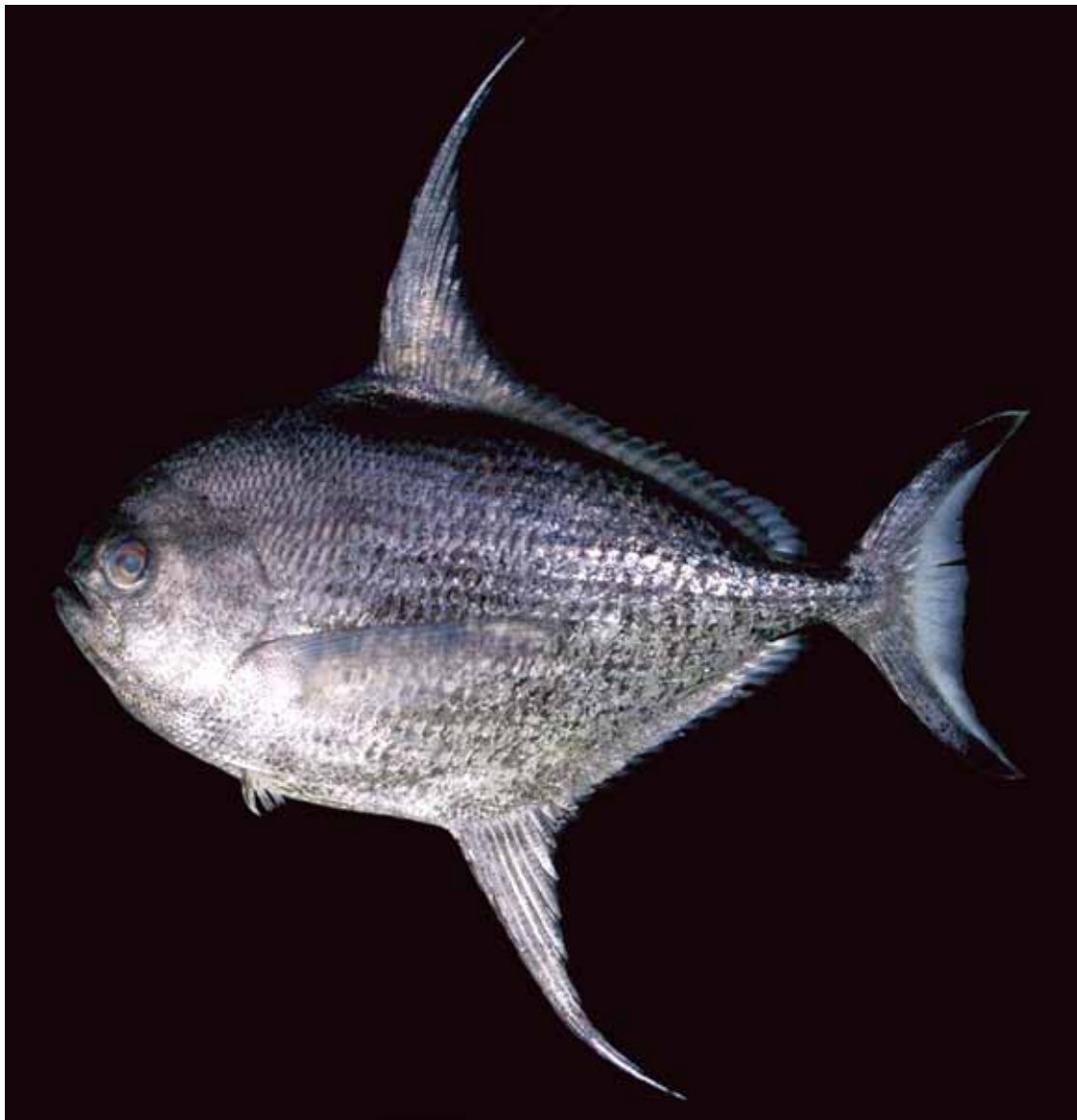
備考 最大で体長 55 cm に達する。本種はおもに沖合に生息しているが、その生息水深については不明な点が多い。とくに 100 m 以浅からの記録が多いものの、中深層やトロールによる海底付近からの採集例もあり、本調査で得られた 1 標本は、与論島の北東沖水深 620 m から釣獲された。おそらく本種は日周鉛直移動をしていると考えられる。稀に定置網などにも入網する。

本種は太平洋に広く分布するが、西大西洋からの記録は、ブラジルで採集されたマグロ類の胃内容物から発見された 1 標本に基づく (Carvalho-Filvo et al., 2009)。

(岡本 誠)



■ ベンテンウオ *Pteraclis aesticola* KAUM-I. 55739, 530.3 mm SL Photo by E. Machi



■ ヒレジロマンザイウオ *Taractichthys steindachneri* KAUM-I. 41046, 332.4 mm SL

スズキ目 シマガツオ科 ヒレジロマンザイウオ属
ヒレジロマンザイウオ

Taractichthys steindachneri
(Döderlein, 1883)

形態 背鰭 33–37；臀鰭 26–28；胸鰭 19–22；腹鰭 I, 5；縦列鱗 34–38；総鰓耙 17；脊椎骨 19–21 + 23–26 = 44–46。体は楕円形で、強く側扁する。頭部前縁の外郭と吻部は丸い。口は大きく、下顎先端は上顎先端よりも突出する。背鰭と臀鰭の前部は著しく伸長し、鎌状になる。尾鰭は深く二分する。腹鰭は小さく、その起部は胸鰭基底のほぼ直下に位置する。胸鰭は長く、その後端は臀鰭中央付近の直上

まで達する。体側鱗は縦長の円鱗で、硬く、剥がれにくい。

色彩 体はほぼ一様に黒色。各鰭も黒いが、胸鰭の下半部、腹鰭と尾鰭の後縁は白い。

分布 インド・太平洋の広範囲に分布する（水深 18–720 m）。国内では宮城県以南の太平洋側と、北海道以南の日本海側に分布する。

備考 本種が属するヒレジロマンザイウオ属は、世界で本種とビッグスケールポムレット *T. longipinnis* (Lowe, 1843) の 2 種のみが知られている。分布はヒレジロマン

ザイウオがインド・太平洋、ビッグスケールポムレットは大西洋とされており、両種は同所的には出現しないとされている。2 種は縦列鱗数によって識別可能とされているが、ヒレジロマンザイウオが 38 枚以下、ビッグスケールポムレットが 39 枚以上とその差はわずかであるため、過去にビッグスケールポムレットがインド・太平洋から採集されたという記録はヒレジロマンザイウオの誤同定の可能性が高い。

本種の分布の中心は水深 300 m 前後の中深層で、本調査では与論島沖で漁獲され、茶花漁港で水揚げされていた 1 標本を得た。

(岡本 誠)

スズキ目 ハチビキ科 ロウソクチビキ属

ロウソクチビキ

Emmelichthys struhsakeri
Heemstra & Randall, 1977

形態 背鰭 X-XI, 11-12; 臀鰭 III, 9-10; 胸鰭 19-21; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 66-76。体は細長く円筒形であり、体高は低い。口蓋骨歯、鋤骨歯はない。鰓孔後縁背方に1つの肉質突起をもつ。背鰭は2鰭でよく離れており、第1背鰭と第2背鰭の間に鱗膜をもたない独立した棘条を2-3本有する。

色彩 体色は基本的にオレンジ色であり、体側背面はやや濃色、腹部は白色を帯びる。背鰭、胸鰭および尾鰭は赤味を帯びるが、腹鰭と臀鰭はやや白味がかかる。

分布 済州島、台湾、フィリピン諸島、オーストラリア南東岸、ニュージーランド、ハワイ諸島から記録されている。国内では青森県以南の太平洋沿岸、新潟県以南の日本海沿岸、東シナ海、琉球列島、伊豆諸島、小笠原諸島に生息する。国外では水深30

■ ロウソクチビキ *Emmelichthys struhsakeri* KAUM-I. 47889, 29.2 mm SL

10 から数 100 m の海山付近に群棲している。

備考 本種は同属のトゲナシチビキ *E. karnellai* Heemstra & Randall, 1977 とひじょうに似るが、第1背鰭の棘条数が10-11本であること（トゲナシチビキでは12-13本）、有孔側線鱗数が68-76であること（76-85）、第1背鰭と第2背鰭の間に鱗膜をもたない棘条を有すること（第1

背鰭と第2背鰭の間に棘条を有しない）から識別される。

本個体は与論島で漁獲されたアザハタ *Cephalopholis sonnerati* (Valenciennes, 1828) の口内より得られた。本標本は第1背鰭の棘条数が10であること、第1背鰭と第2背鰭の間に鱗膜をもたない1棘条があることからロウソクチビキと同定された。（桜井 雄）

■ ハチビキ *Erythrocles schlegelii* KAUM-I. 51546, 360.7 mm SL

スズキ目 ハチビキ科 ハチビキ属

ハチビキ

Erythrocles schlegelii
(Richardson, 1846)

形態 背鰭 X-XI, 10-12; 臀鰭 III, 9-10; 胸鰭 18-19; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 65-75。体は側扁し、体高は低く、細長い。口蓋骨歯、鋤骨歯はない。鰓孔後縁背方に2つの肉質突起をもつ。全長 20 cm 以上では尾柄に1隆起線をもつ。主上顎骨は大きく目立つ。眼は脂腺で覆われる。背鰭は2鰭。尾鰭は大きく二叉する。

色彩 体色は基本的に赤っぽく、体側背面

は暗色の赤茶色を呈し、腹部はややピンク色。各鰭は体側腹面より濃い赤色であり、特に胸鰭と尾鰭は濃い。主上顎骨周辺はやや白銀色。

分布 朝鮮半島南部、台湾、南沙諸島、アフリカ東部ケニアから記録されている。国内では青森県下北半島、茨城県から土佐湾・宇和海の太平洋沿岸、新潟県から九州北岸の日本海沿岸、琉球列島、小笠原諸島に分布する。水深 100-300 m の岩礁域に生息する。

備考 本種は同属他種とは尾柄に1隆起線をもつこと（他種では隆起線をもたない）、鰓孔後縁に2つの肉質突起をもつこ

と（一つもしくは肉質突起がない）によって *E. monodi* Poll & Cadenat, 1954 以外の種と識別される（Miyahara & Okamura, 1998）。なお *E. monodi* とは鰓蓋後縁に2つの明瞭な肉質突起をもつこと（*E. monodi* では小さく不明瞭）、第1臀鰭棘長が短く、標準体長の 1.7-2.8% であること（長く、3.2-4.1%）、インド・太平洋に分布すること（大西洋に分布）によって識別が可能である（Heemstra & Randall, 1977）。

また、ハチビキはフエダイ科のハマダイ属やヒメダイ属に似るが、ハマダイ属とは主上顎骨が大きく目立つこと、ヒメダイ属とは背鰭が明瞭に2鰭に分かれることで識別される。与論島からは礁縁外から釣獲された。（桜井 雄）

■ イシフエダイ *Aphareus furca* KAUM-I. 46012, 270.1 mm SL■ イシフエダイ *Aphareus furca* KAUM-I. 42257, 122.1 mm SL■ イシフエダイ *Aphareus furca* KAUM-I. 40122, 92.2 mm SL

スズキ目 フエダイ科 イシフエダイ属

イシフエダイ

Aphareus furca
(Lacepède, 1801)

形態 背鰭 X, 11; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 65-75。体は細長く側扁し、体高は低い。背鰭は鱗で覆われない。鋤骨歯はない。口は大きく、主上顎骨後端は眼の中央下より後方にある。背鰭は1鰭で、背鰭最終軟条と臀鰭最終軟条はやや伸長する。

色彩 生時の体色は暗青色であり、各鰭はやや黄味がかかる。個体によっては眼の周辺や前鰓蓋骨後縁、主鰓蓋骨後縁、頭頂部から吻端にかけて黄色もしくは山吹色の線状の色彩を有することがある。

分布 イースター島を除くインド・太平洋とココ島（東太平洋）から記録されている。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、琉球列島、南大東島に分布する。

■ イシフエダイ *Aphareus furca* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

備考 本種は同属のオオグチイシチビキ *A. rutilans* Cuvier, 1830 と酷似するが、生時の体色が暗青色であること（オオグチイシチビキでは淡褐色）、上肢鰓耙数が通常 6

であること（通常 18）から識別される。与論島では茶花などの礁縁外から記録されている。

(桜井 雄)



■ ハチジョウアカムツ *Etelis carbunculus* KAUM-I. 51309, 396.2 mm SL



■ ハチジョウアカムツ *Etelis carbunculus* KAUM-I. 41051, 265.1 mm SL

スズキ目 フエダイ科 ハマダイ属

ハチジョウアカムツ

Etelis carbunculus
Cuvier, 1828

形態 背鰭X, 11; 臀鰭III, 8; 胸鰭15-17; 腹鰭I, 5; 有孔側線鱗47-52。体は細長く側扁し、体高は低い。背鰭は1鰭で、鱗で覆われない。尾鰭は強く二叉するが、両葉とも伸長せず、上葉長は体長の約30%以下。

色彩 生時の体色は赤色系であり、背面はやや濃い赤色を呈し、腹面はやや白みを帯びる。尾鰭は体側とほぼ同色であり、下葉の先端は明瞭に白い。背鰭はやや白みを帯び、棘条部の縁辺が赤い。腹鰭および臀鰭は白い。

分布 オーストラリア北西岸とマルケサス諸島以東を除くインド・太平洋から記録されている。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、茨城県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島、南大東島に分布する。主に水深200m以深に生息する。

備考 本種は同属のハマダイ *E. coruscans* Valenciennes, 1862 やオオクチハマダイ *E. radiosus* Anderson, 1981 に似るが、尾鰭下葉先端が明瞭に白いこと（後者2種では白くない）、尾鰭長が短く、上葉長が体長の約30%以下であること（32%以上）、上肢鰓耙数が通常3-4であること（通常6-14）から識別される。またハチビキ科魚類との識別点はハチビキの項を参照のこと。与論島では礁縁外から釣獲によって記録されている。

(桜井 雄)



■ バラフエダイ *Lutjanus bohar* KAUM-I. 48096, 86.0 mm SL

スズキ目 フエダイ科 フエダイ属

バラフエダイ

Lutjanus bohar
(Forsskal, 1775)

形態 背鰭 X, 13-14 ; 臀鰭 III, 8 ; 胸鰭 16-17 ; 側線有孔鱗 48-55。体はよく側扁する。尾鰭はわずかに切れ込む。側線上方鱗は鱗列が斜め上方向に並び、体側下半分の鱗は体軸とほぼ平行に並ぶ。背鰭基部は鱗に被われる部分がある。鋤骨歯帯中央部は後方へ突出しない。眼前部には顕著な溝があり、鼻孔はその溝の中に開孔する。

色彩 体側は赤褐色で腹部やや淡色。体側の鱗の後半は淡色の点状斑紋がある。成魚では胸鰭上方、背鰭軟条部上縁、臀鰭および腹鰭前縁は濃い赤褐色。幼魚では尾鰭の縁取りは黒く、尾鰭両葉にも鰭条に沿った濃色線が各 1 本ずつある。また幼魚から若魚にかけては背鰭最終棘と背鰭軟条後方に合計 2 つの白色点が目立つが、成長に伴い消失していく。

分布 ハワイ諸島、イースター島を除くインド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、鹿児島湾、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 バラフエダイはゴマフエダイ *L. argen-*

timaculatus (Forsskal, 1775) と混同されることがあるが、本種は体側の鱗の後半が白いこと（ゴマフエダイでは黒い）、側線上方鱗の鱗列が斜め上方向に並ぶこと（側線とほぼ平行に並ぶ）、眼前に明瞭な溝があること（明瞭な溝はない）、幼魚では体側に 2 白点をもつこと（白点はない）から識別される。

本種は地域によってはシガテラ中毒が報告されている（大城ほか、2004）。また本種の幼魚ではリボンスズメダイ *Neopomacentrus taeniurus* (Bleeker, 1856) やシコクスズメダイ *Chromis margaritifer* Fowler, 1946 への攻撃擬態が報告されている（瀬能ほか、1994）。

（桜井 雄）

スズキ目 フエダイ科 フエダイ属

オキフエダイ

Lutjanus fulvus
(Forster, 1801)

形態 背鰭 X, 13-15 ; 臀鰭 III, 8 ; 胸鰭 16 ; 側線有孔鱗 47-51 ; 頬上鱗列 6-7 ; 鰓耙 6-7 + 10-13。体はよく側扁する。

尾鰭はわずかに切れ込むか緩く湾入する。側線上方鱗は鱗列が斜め上方向に並び、体側下半分の鱗は体軸とほぼ平行に並ぶ。背鰭基部は鱗に被われる部分がある。前鰓蓋骨後縁の欠刻は深い。鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出しない。

色彩 体側はやや緑または褐色がかかった黄色で、腹部は白色。胸鰭、腹鰭と臀鰭は黄色。背鰭と尾鰭は赤褐色で、背鰭縁辺

と尾鰭後縁辺は白く縁取られる。幼魚期には明確な黄色縦線を複数もつが成長にともない不明瞭になり成魚になると縦線はほとんど失われる。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、三浦半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

■ オキフエダイ *Lutjanus fulvus* KAUM-I. 39900, 53.3 mm SL■ オキフエダイ *Lutjanus fulvus* FRLM 42806, 43.5 mm SL■ オキフエダイ *Lutjanus fulvus* KAUM-I. 40321, 26.5 mm SL

備考 本種は前鰓蓋骨後縁の欠刻が深いことや色彩から同属他種と識別される。幼魚はヒメフエダイ *L. gibbus* (Forsskål, 1775) に似るが、尾鰭が濃色であること（ヒメフエダイでは尾鰭が透明で尾柄が濃色）、体側に黄色縦線が複数本あること（体側に目立った模様はない）から識別される。

本種はサンゴ礁域の礁原やリーフエッジ外、内湾環境や幼魚は汽水域と幅広い環境で見られ、与論島でも茶花港を中心に確認されている。

ただし、与論島の本調査では琉球列島で同様に広い環境で生息しているニセクロホシフエダイ *L. fulviflamma* (Forsskål, 1775) が確認されていない。

（桜井 雄）

■ オキフエダイ *Lutjanus fulvus* KAUM-I. 47996, 24.4 mm SL

■ ヒメフエダイ *Lutjanus gibbus* KAUM-I. 50842, 246.7 mm SL■ ヒメフエダイ *Lutjanus gibbus* FRLM 42743, 89.9 mm SL■ ヒメフエダイ *Lutjanus gibbus* KAUM-I. 40309, 59.6 mm SL

ススキ目 フエダイ科 フエダイ属

ヒメフエダイ

Lutjanus gibbus
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 X, 13-15; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 17; 腹鰭 I, 5; 有孔側線鱗 46-53。体はよく側扁する。尾鰭はわずかに切れ込むが、成長に伴い湾入が深くなり、両葉の先端は丸みを帯びる。側線より上方の鱗列は斜め上後方に向かい、体側下半分の鱗列も斜め上後方に向かう。前鰓蓋の欠刻は深い。体高はフエダイ属の中でも高く、背鰭始部から後頭部にかけての輪郭はやや丸みを帯びる。

色彩 生時の体色は赤色であり、尾柄から尾鰭中央及び背鰭軟条部はやや濃い赤色を呈する。ただし生時水中ではくすんだ青灰色に見える。背鰭と臀鰭の縁辺、腹鰭

の前縁と尾鰭の後縁は白い。尾鰭両葉はやや黄色身を帯びる。幼魚の体側は暗青色であり、各鰭は透明、尾柄部に1暗色斑がある。

分布 イースター島を除くインド・太平洋から記録されている。国内では大隅諸島、琉球列島、南大東島に分布する。幼魚は千葉県館山湾以南からも確認されている。

備考 本種は全身が赤く体側に目立った模様をもたないこと、体高が高く後頭部の輪郭が丸みを帯びること、成長に伴い尾

■ ヒメフエダイ *Lutjanus gibbus* KAUM-I. 39773, 31.1 mm SL

鰭両葉先端が丸くなることから同属他種と容易に識別される。オキフエダイ *L. fulvus* (Forster, 1801) の幼魚との識別点はオキフエダイの項を参照のこと。

与論島では前浜や茶花等で確認されており、漁獲対象種として水揚げされている。

(桜井 雄)

■ ヨスジフエダイ *Lutjanus kasmira* FRLM 43123, 107.8 mm SL■ ヨスジフエダイ *Lutjanus kasmira* KAUM-I. 40311, 72.5 mm SL

スズキ目 フエダイ科 フエダイ属

ヨスジフエダイ

Lutjanus kasmira
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 X-XI, 13-15; 臀鰭 III, 7-8; 胸鰭 16-17; 側線有孔鱗 47-51; 頬上鱗列 6-8; 鰓耙 7-8 + 13-14。体はよく側扁する。尾鰭はわずかに切れ込む。側線上方鱗は鱗列が斜め上方向に並ぶ。前鰓蓋骨後縁の欠刻は深い。背鰭基部は鱗に被われる部分がある。前鰓蓋骨後縁の欠刻は深い。鋤骨歯帯の中央部は後方へ突

出しない。背鰭棘数は通常 10。

色彩 体側上部の 3 分の 2 は明るい黄色で、残りの下部 3 分の 1 は白色。胸鰭を除き各鰭は明るい黄色であり、背鰭上縁と尾鰭後縁は濃い色の縁取りがある場合がある。胸鰭は上部 3 分の 1 がくすんだ濃い黄色であり、下部 3 分の 2 は透明。吻部はやや赤褐色。体側に 4 本、頬部に 2 本の縁取りのある青色縦線があり、体の下部の白色域には細い数本の青色縦線がはいる。背鰭軟条前部下の青色線の 2 本目と 3 本目の間に黒色斑をもつ個体もいる。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、富山湾以南の日本海沿岸、長崎県男女群島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はベンガルフエダイ *L. bengalensis* (Bloch, 1790) によく似るが、背鰭棘数が通常 10 (ベンガルフエダイでは通常 11)、胸鰭の上方 3 分の 1 がくすんだ濃い黄色 (胸鰭全体が薄い黄色)、および頬部の青色線が 2 本 (1 本) であることから識別される。

(桜井 雄)

■ イッテンフエダイ *Lutjanus monostigma* FRLM 42902, 293.8 mm SL■ イッテンフエダイ *Lutjanus monostigma* KAUM-I. 45959, 69.2 mm SL

スズキ目フエダイ科フエダイ属

イッテンフエダイ

Lutjanus monostigma
(Cuvier, 1828)

形態 背鰭 X, 12-13; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 16; 側線有孔鱗 50-55。体はよく側扁する。尾鰭はわずかに切れ込む。側線上方鱗は鱗列が斜め上方向に並び、体側下半分の鱗は体軸とほぼ平行に並ぶ。前鰓蓋骨後縁の欠刻は浅い。鋤骨歯帯の中央部は後方へ突出しない。

色彩 体側は薄い赤褐色で、腹各鰭はオレンジがかった黄色。体側の背鰭最終棘下の側線上に不明瞭な1黒点がある。幼魚時には体側は暗青色で、各鰭は黄色く、体側にほぼ円形の1黒点がある。

分布 ハワイ諸島、ビトケアン島、イースター島を除くインド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、静岡県東伊豆以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は体側に1黒点をもつことから、同属のカドガワフエダイ *L. johnii* (Bloch,

1792)、クロホシフエダイ *L. russellii* (Bleeker, 1849)、ニセクロホシフエダイ *L. fulviflamma* (Forsskål, 1775)、ミナミフエダイ *L. ehrenbergi* (Peters, 1869) に似るが、体側は薄い赤褐色(幼魚では暗青色)で黒点以外の目立った模様がないこと、成魚で黒点が不明瞭に、幼魚ではほぼ真円であること、各鰭が黄色いこと、側線上方の鱗列が斜め上後方に向かうことなどで識別される。

与論島では与論港付近のタイドプールで確認された。本種は地域によってはシガテラ中毒が報告されている(大城ほか, 2004)。

(桜井 雄)

■ アオダイ *Paracaesio caerulea* KAUM-I. 46042, 181.7 mm SL

スズキ目 フエダイ科 アオダイ属

アオダイ

Paracaesio caerulea
(Katayama, 1934)

形態 背鰭 X, 10; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 16; 側線有孔鱗 47-50。体は側扁する。尾鰭は湾入形。体側の鱗列は側線と平行に並ぶ。背鰭基部は鱗に被われない。背鰭連続しており、棘部と軟条部の間に深い欠刻はない。前鰓蓋骨上に周囲の頬部の鱗から独立して1-3の鱗列がある。口は小さく、傾斜する。上顎後端は眼前縁を越えない。頭の外側には円錐状歯、内側には絨毛状

歯が並ぶ。鋤骨と口蓋骨には微細な絨毛状歯があり、舌上には歯はない。主上顎骨上に鱗はない。老成魚においても頭部は膨出しない。

色彩 生鮮時の体側は鮮やかな光沢のある青色であるが、死後急速に色褪せる。頬部と腹部はやや淡色。体側鱗は中央部が周囲に比べて鮮やかであり、鱗に沿った細い縦線を形成しているように見える。頭部周辺は薄い黄色。側線の始部から背鰭第9-10棘条にかけて側線に沿った薄い黄色の帯がある場合が多い。背鰭と尾鰭は黄色、胸鰭は薄い黄色。腹鰭と臀鰭は白く、鰭膜部分が薄い黄色になる。

分布 日本、台湾および東沙諸島からの記録がある。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。主に100 m以深の海域に生息する。

備考 アオダイは同属他種からは側線鱗数が50以下であること、尾鰭が湾入型で中央部が深く切れ込まないこと、主上顎骨が鱗で覆われないこと、体側に暗色の横帯や鞍状斑をもたないこと、側線に沿った黄色の帯が背鰭最終棘まで達しないことによって識別される。与論島では周辺の海域で漁獲されている。

(桜井 雄)

スズキ目 フエダイ科 ヒメダイ属

ハナフエダイ

Pristipomoides argyrogrammicus
(Valenciennes, 1832)

形態 背鰭 X, 11; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 15-16; 側線有孔鱗 58-66。体は紡錘形で側扁する。体高はやや低く、体長は体高の2.6-3.0倍。尾鰭は深く切れ込み、二叉する。体側の鱗列は側線と平行に並ぶ。背鰭基部は鱗に被われず、棘部と軟条部の間に深い欠刻はなく連続している。背鰭、臀鰭の最終軟条は伸長する。両眼間隔は比較的平坦。鋤骨に歯帯がある。口裂は中程度で、主上顎骨後端は眼の中央を越えない。

■ ハナフエダイ *Pristipomoides argyrogrammicus* KAUM-I. 41219, 216.8 mm SL

色彩 体側全体の地色は薄い桃色で、腹部はやや白っぽく、生鮮時は光沢のある白

色である。側線より上方は、後頭部より黄色の鞍状斑が4個あり、鞍状斑間は青い

光沢のある斑紋が背鰭基底に沿ってみられる。体側には同じく光沢のある青い斑点も



■ ハナフエダイ *Pristipomoides argyrogrammicus* KAUM-I. 47891, 226.0 mm SL

しくは波状線が不規則にみられる。眼や吻端はやや黄色い。背鰭は黄色で上縁に白色の縁取りがある。胸鰭は体側より濃い赤色、腹鰭および臀鰭は白い。尾鰭上葉は尾柄中より連続、下葉は尾柄末端から連続する黄色であり、尾鰭上縁、下縁および後縁は白く縁どられ、中央の軟条は全体が

白く、尾鰭の黄色はこの部分で上限に2分されている。

分布 ハワイ諸島・ライン諸島・ツアモツ諸島以東を除く西・中央太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、神奈川県三崎以南の太平洋沿岸、奄美大島以南

の琉球列島に分布する。主に100 m以深に生息している。

備考 本種は同属他種と独特の色彩から容易に識別される。与論島では沖合の130–250 mで釣獲されている。

(桜井 雄)



■ オオヒメ *Pristipomoides filamentosus* KAUM-I. 48045, 309.7 mm SL

スズキ目 フエダイ科 ヒメダイ属

オオヒメ

Pristipomoides filamentosus
(Valenciennes, 1830)

形態 背鰭 X, 11; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 15–16; 側線有孔鱗 60–65。体は紡錘形で側扁する。体高は低く、体長は体高の3.1–3.8倍。尾鰭は深く切れ込み二又する。体側の鱗列は側線と平行に並ぶ。背鰭基部は鱗に被われず、棘部と軟条部の間に深い

欠刻はなく連続している。背鰭、臀鰭の最終軟条は伸長する。両眼間隔は比較的平坦。鋤骨に歯帯がある。口裂は中程度で、主上顎骨後端は眼の中央を越えない。

色彩 体側全体の地色はやや黄色みの強

い濃赤紫色を呈し腹部はやや白っぽい。体側に鱗に沿って黄色の小点が列をなして並ぶが、他に目立った模様はない。眼の虹彩は薄い黄色。頭部背面は、生鮮時は不規則な虫食い模様状の黄色線があり、その間に青色もしくは暗青色の小斑点が多数ある。固定後は、黄色線は消失し、頭部背面に多数の小暗色点が残る。背鰭は鰭条が体側と同系色であり、鰭膜基部は薄い黄色、中央部にくすんだ薄い朱色部があり、縁辺部は黄色い。胸鰭は薄い黄色であり、

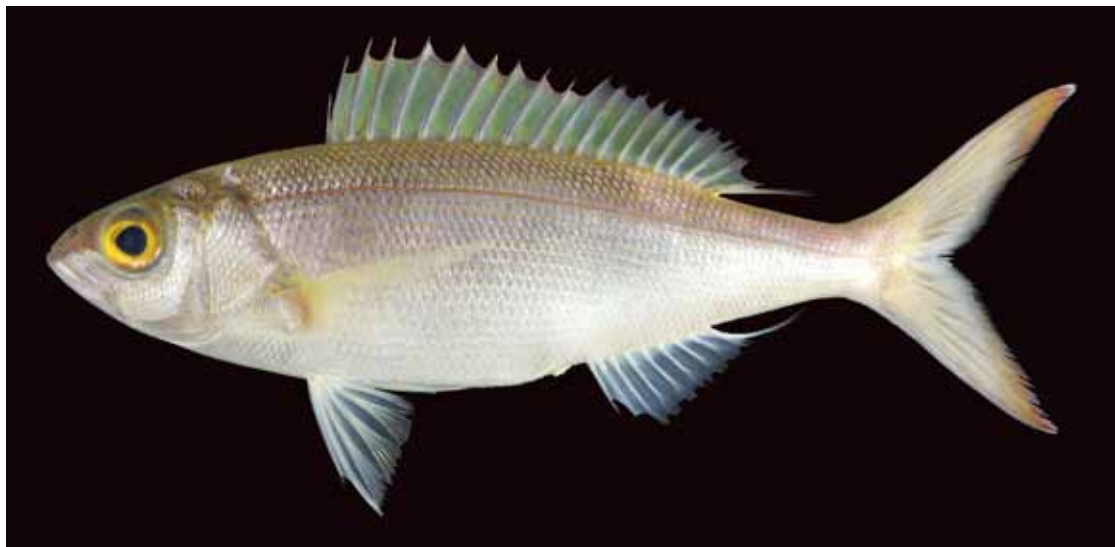
腹鰭および臀鰭は白い。尾鰭は体側と同じ色であるが、上縁、下縁および後縁は明瞭にくすんだ赤色で縁どられる。

分布 オーストラリア北岸、ニューギニア島南岸、ツアモス諸島を除くインド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。主に 100 m 以深に生息している。

備考 本種は同属他種と比較して、体色が黄色みがかった濃赤紫色であること、頭部背面に虫食い状の不規則な黄色線と暗青色の小斑点を多数もつこと、尾鰭後縁が赤みを帯びること、側線鱗数が 59-65 であることから識別される。

与論島では礁縁外に生息しているとみられ、茶花漁港などで水揚げされている。

(桜井 雄)



■ ヒメダイ *Pristipomoides sieboldii* NSMT-P 110387, 228.8 mm SL



■ ヒメダイ *Pristipomoides sieboldii* KAUM-I. 47839, 227.2 mm SL



■ ヒメダイ *Pristipomoides sieboldii* KAUM-I. 50878, 167.1 mm SL

スズキ目フエダイ科ヒメダイ属

ヒメダイ

Pristipomoides sieboldii
(Bleeker, 1854)

形態 背鰭 X, 11; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 16; 側線有孔鱗 70-74。体は紡錘形で側扁する。体高は低く、体長は体高の 3.1-3.8 倍。尾鰭は深く切れ込み、二分する。体側の鱗列は側線と平行に並ぶ。背鰭基部は鱗に被われず、棘部と軟条部の間に深い欠刻はなく連続している。背鰭、臀鰭の最終軟条は伸長する。両眼間隔は比較的平坦。

鋤骨と舌上に齒帯がある。口裂は中程度で、主上顎骨後端は眼の中央を越えない。

色彩 体側全体の地色は濃赤紫色で、腹部はやや白っぽい。体側に目立った模様はない。眼の虹彩は薄い黄色。頭部背面は暗青色小点が散在する。背鰭は鰭条が体側と同系色であり、鰭膜は淡色もしくは薄い黄色。胸鰭は薄い赤色であり、腹鰭および臀鰭は白い。尾鰭は濃赤紫色であり目立った縁取りはない。

分布 オーストラリア・ニューギニア南岸・ツアモツ諸島以東を除くインド・太平洋に分

布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、神奈川県三崎以南の太平洋沿岸、熊本県天草、鹿児島県大隅海峡、奄美大島以南の琉球列島に分布する。主に 100 m 以深に生息している。

備考 本種は同属他種と比較して、体高が低いこと、体色が濃赤紫色であること、頭部背面に線状模様をもたないこと、側線鱗数が 70-74 と多いこと、舌上に齒帯をもつことから識別される。与論島では礁縁外の沖合から釣獲されている。

(桜井 雄)

■ ササムロ *Caesio caerulaurea* KAUM-I. 48039, 152.0 mm SL

スズキ目 タカサゴ科 タカサゴ属

ササムロ

Caesio caerulaurea

Lacepède, 1801

形態 背鰭 X, 14–15; 臀鰭 III, 11–12; 胸鰭 19–22; 側線有孔鱗 58–63; 尾柄周鱗 11 + 15。体は紡錘形であり、体高は低く体幅はやや広い。顎骨、鋤骨、口蓋骨に小さな円錐状歯をもつ。前上顎骨の後方突起は1。上顎後端の幅が広い。尾鰭は深く切れ込み、中央部に欠刻がある。

色彩 体側上部は青色で体側下部はやや淡色。側線上には鰓蓋後端から尾柄部にかけて体側鱗2枚程度の幅の1黄色縦帯があり、後端はやや薄くなるものの尾鰭上葉に達する。背鰭は薄い黄色、胸鰭、腹鰭、臀鰭は淡色であり、目立った模様はない。尾鰭は上葉、下葉の中央部に暗色帯をもち、縁辺は淡色に縁どられる。腋部は黒く、胸鰭基部上方に小さい黒色斑がある。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、相模湾から鹿児島県坊ノ津の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は体高が低いこと、体側に1黄色渋滞をもつこと、尾鰭両葉の中央部分が暗色であることから同属他種と識別される。また同科のクマササハナムロ *P. tile* (Cuvier, 1830) とは、体高が中庸に低いこと(クマササハナムロは低い)、生時の体側上部が青色であること(体側上部は濃色で下部と明瞭に二分される)、側線上方に1黄色縦帯をもつこと(側線上に1黒色縦線をもつ)により識別される。

本調査では茶花漁港において釣り得られており、周辺のサンゴ礁海域に生息しているものと考えられる。

(桜井 雄)

■ ウメイロモドキ *Caesio teres* KAUM-I. 42256, 105.8 mm SL

スズキ目 タカサゴ科 タカサゴ属

ウメイロモドキ

Caesio teres
Seale, 1906

形態 背鰭 X, 14-16; 臀鰭 III, 12-13; 胸鰭 18-23; 側線有孔鱗 51-61; 尾柄周鱗 11-13 + 15-16。体は紡錘形であり、体高はやや低く側扁する。鱗は弱い櫛鱗。顎骨、鋤骨、口蓋骨に小さな円錐状歯をもつ。前上顎骨の後方突起は1。上顎後端は幅が広い。頭部背面に独立した鱗域があり、鱗域の中央部でほぼ不連続となる。尾鰭は深く切れ込み、中央部に欠刻がある。

色彩 生時の体色は、体側は青色で、体側後部側線上方から尾柄部側線後端まで黄色であり、死後体側下部はオレンジがかった赤色になる。背鰭、尾鰭は黄色く、尾鰭縁辺は赤く縁取られる。胸鰭と腹鰭、臀鰭はオレンジがかった赤色で、腹鰭と臀鰭には黄色帯がある。胸鰭基部には比較的強い黒色斑がある。

■ ウメイロモドキ *Caesio teres* KAUM-I. 42262, 169.5 mm SL

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 東インド洋と西太平洋に分布し国内では小笠原諸島や琉球列島以南でみられるユメウメイロ *C. cuning* (Bloch, 1791) によく似るが、ウメイロモドキは背鰭の色彩が鮮やかな黄色（ユメウメイロは薄い黄色）

であること、頭部背面の鱗域の中央部がほぼ不連続（広く連続する）であること、大型個体では頭部は丸みを帯びないこと（丸みを帯びる）、臀鰭軟条数が通常 12（通常 11）であること、胸鰭基部の黒色斑が大きいこと（小さい）から識別される。

本調査では与論島の西岸のサンゴ礁域で確認された。

(桜井 雄)

■ タカサゴ属の一種 *Caesio* sp. KAUM-I. 48013, 29.5 mm SL

スズキ目 タカサゴ科 タカサゴ属

タカサゴ属の一種

Caesio sp.

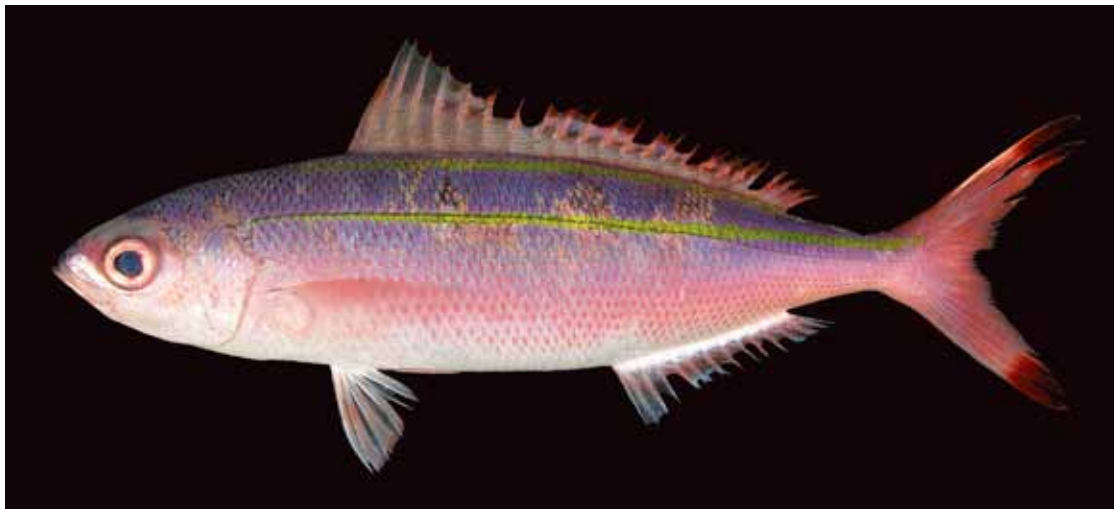
形態 背鰭 X, 14; 臀鰭 III, 12; 腹鰭 I, 5; 胸鰭 22。体は紡錘型に近く、頭部がやや大きい。吻はやや丸い。背鰭基底始部と腹鰭基底始部はほぼ同位置。腹鰭基底始部は背鰭第 2 軟条下に位置する。背鰭、腹鰭の棘条は中央部がやや広くなる。背鰭は 1 鱗であり欠刻はない。前上顎骨後方に 1 つの後方突起がある。鱗はまだ完全に形成されていない。

色彩 体側は白色であり目立った模様はない。体側上部は各鱗に黄色点があり列をなしている。背鰭基底に沿って尾鰭基底部までメラニン色素による 1 縦線がある。体側下部は白色であり、鰓蓋部や胸部、体側中央は筋節に沿って銀白色をなす。臀鰭基底前から基底に沿って上後方斜めに上がるメラニン色素による黒色斜線 9-10 本確認されるが、臀鰭第 9 軟条以降は列状にはならない。背鰭基底後端と尾鰭基底間の中央付近から尾鰭基底かけて、中央に 1 黒色線がある。尾鰭基底には薄くカイズル髭斑状の 1 黒線がみられる。胸鰭と臀鰭は透明、背鰭は第 9 軟条付近まで縁辺が黒い。腹鰭は先端から中央付近に薄

い黒色素がみられる。尾鰭両葉基部付近は淡い黄色を呈しており、その先薄く赤い。後頭部から吻部にかけては体側上同様の黄色である。虹彩は白く、眼の上後方に光沢をもつ青い内部構造が確認される。

備考 本個体（標準体長 29.5 mm）は与論島の茶花海岸水深 3 m から採集された。体型、鰭条数、前上顎骨の後方突起の数からタカサゴ属の一種と考えられる。鰭条数の範囲から判断するとササムロ *C. caeruleaurea* Lacepède, 1801 の可能性が高い。

(桜井 雄)

■ ニセタカサゴ *Pterocaesio marri* KAUM-I. 41043, 199.9 mm SL

スズキ目 タカサゴ科 クマササハナムロ属

ニセタカサゴ

Pterocaesio marri
Schultz, 1953

形態 背鰭 X, 14–15; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 21–23; 側線有孔鱗 68–76; 尾柄周鱗 12–13 + 16–17。体は紡錘形であり、細長く、体高は低い。鱗は弱い櫛鱗。顎骨に小さな円錐状歯をもつ。前上顎骨の後方突起は2。上顎後端は幅が細い。尾鰭は深く切れ込み、中央部に欠刻がある。背鰭下部は鱗で覆われる。

色彩 体側全体は赤色で、体側上部は紫がかった青色。体側上部頭部後方から背鰭基部後端まで、鰓蓋上端から側線に沿って尾柄部後端まで、それぞれ1本の緑がかった黄色の縦帯が走る。各鰭は体側と同じく赤色で、尾鰭両葉先端には黒みがかかった赤色斑がある。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は同属のイッセンタカサゴ *P. trilineata* Carpenter, 1987 とタカサゴ *P. diagramma* (Bleeker, 1864) によく似るが、前者とは上部尾柄周鱗数が12枚以上であること、体側に明瞭な黄色の2縦帯が走ること、後者とは2本目の縦帯が側線上に沿って伸長することから識別される。

与論島では周辺のサンゴ礁域に生息していると考えられ、釣りや網などで漁獲され、利用されている。

(桜井 雄)

■ クマササハナムロ *Pterocaesio tile* KAUM-I. 40316, 161.6 mm SL

■クマササハナムロ *Pterocaesio tile* KAUM-I. 55073, 193.6 mm SL

スズキ目 タカサゴ科 クマササハナムロ属

クマササハナムロ

Pterocaesio tile
(Cuvier, 1830)

形態 背鰭 X, 14-16; 臀鰭 III, 11-13; 胸鰭 23-24; 側線有孔鱗 65-70; 尾柄周鱗 12-13 + 16-17。体は紡錘形で、体高は低く、体幅は広い。鱗は弱い櫛鱗。顎骨に小さな円錐状歯をもつ。前上顎骨の後方突起は2。上顎後端は幅が細い。尾鰭は深く切れ込み、中央部に欠刻がある。

色彩 体側全体は赤色で、側線より上の体側上部は濃色になり、上下の色彩は明瞭に二分される。側線上には鰓蓋後端から1黒色線があり、後端は尾柄を通り尾鰭上葉に達する。体側下部は、生時は淡青色であり、死後赤みを帯びる。尾鰭を除き各鱗は体側と同じく赤色で、尾鰭両葉中央に明瞭な黒色帯がある。胸鰭腋部は黒く、胸鰭

■クマササハナムロ *Pterocaesio tile* KAUM-I. 55074, 208.5 mm SL

基底上方に1黒点がある。

分布 ハワイ諸島・イースター島を除くインド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、三重県志摩以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は体側に黄色線がないこと、尾

鰭両葉に黒色帯があること、体側は側線によって濃色部と淡色部に明瞭に分かれることによって同科同属と識別される。色彩的によく似たササムロ *C. caeruleaurea* Lacepède, 1801との識別は前述した通りである。

与論島では周辺のサンゴ礁域に生息しているとみられ、普通に漁獲されている。

(桜井 雄)

スズキ目 クロサギ科 クロサギ属

ナガサギ

Gerres oblongus
Cuvier, 1830

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 17-18; 有孔側線鱗 45-49; 側線上方鱗 5.5-6.5; 鰓耙 4-6 + 8-9。体は細長く側扁し、ほぼ全体が薄くてはがれやすい鱗に覆われる。口は端位。歯は小さくブラシ状。上顎は前下方に大きく伸長可能。背鰭第2棘はわずかに伸長するが、糸状にはならない。胸鰭は長く、臀鰭始部直上に達する。尾鰭は長く、深く二又し、両葉後端は尖る。

色彩 体は全体に銀色で、背部は茶色みを帯びる。稚魚では体側に不規則な暗色横帯があり、成魚では体側に黄色から暗褐色の点列がある。臀鰭と腹鰭は白い。

■ ナガサギ *Gerres oblongus* KAUM-I. 51246, 19.1 mm SL

分布 インド・西太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では宮崎県や琉球列島から報告されている。

ることよく似るが、後者は体高が高いこと（体長の36-44%、前者では30-36%）、背鰭第2軟条が伸長しないこと、体側に点列がないことから区別される。

備考 本種はツツパリサギ *G. longirostris* (Lacepède, 1801) と尾鰭が長く深く二又す

(木村清志)

■ ミナミクロサギ *Gerres oyena* KAUM-I. 39785, 53.4 mm SL

スズキ目 クロサギ科 クロサギ属

ミナミクロサギ

Gerres oyena
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 15-17; 有孔側線鱗 35-40; 側線上方鱗 4.5-5.5; 鰓耙 4-5 + 8-9。体はやや細長い楕円形で側扁し、ほぼ全体が薄くてはがれやすい鱗に覆われる。口は端位。歯は小さくブラシ状。上顎は前下方に大きく伸長可能。体長 130 mm を超える個体では、吻背面のU字形無鱗部の周囲に小鱗がある。上顎後端は眼の露出部前縁を越える。背鰭第2棘は伸長しない。胸鰭は短く、臀鰭始部に達しない。尾鰭両葉後端はやや尖る。

■ ミナミクロサギ *Gerres oyena* KAUM-I. 39786, 45.3 mm SL

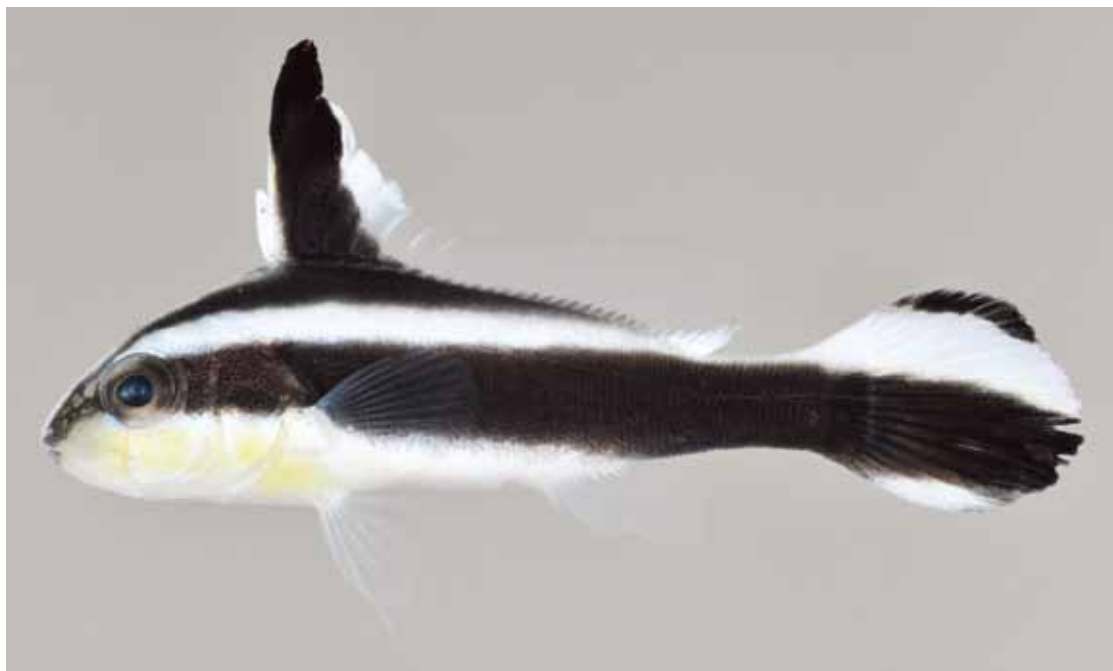
色彩 体は全体に銀色で、背部は茶色みを帯びる。体側に不明瞭な暗色横帯をもつ個体もある。背鰭前部と尾鰭の縁辺は黒い。背鰭基部近くに小黒点列がある。臀鰭と腹鰭は黄色色を帯びる。

分布 インド・太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では大隅諸島や琉球列島から報告されている。

備考 本種はクロサギ *G. equulus* Tem-

minck & Schlegel, 1844 とよく似るが、後者は上顎後端が眼の露出部前縁を越えないこと、大型の個体でも吻背面の U 字形無鱗部の周囲に小鱗がないことから区別される。

(木村清志)



■ コロダイ *Diagramma picta picta* KPM-NI 30838, 30.0 mm SL

スズキ目 イサキ科 コロダイ属

コロダイ

Diagramma picta picta
(Thunberg, 1792)

形態 背鰭 IX-X, 22-23 ; 臀鰭 III, 7-9 ; 胸鰭 17 ; 側線有孔鱗 69-72。下顎腹面にひげがない。背鰭基部に前向き棘がない。下顎正中線に縦長の溝がない。眼の下縁は吻端より上方。

色彩 頭部や体に細かな黄色い斑点が多数ある。幼魚は 2 本の黒色縦帯がある。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では佐渡島から九州までの日本海・東シナ海および瀬戸内海の沿岸、茨城県から九州の太平洋沿岸、伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、尖閣諸島、大東諸島に分布する。

備考 全長 60 cm 以上になる。浅海の岩

礁・サンゴ礁から砂底域に生息する。幼魚は背鰭前部がやや高いことでコショウダイ属の幼魚からの識別が容易。

本種を含むイサキ科コショウダイ亜科の幼魚は、成魚の色彩とは異なり奇抜で、体をくねらせる独特な泳ぎ方をする。これには有毒なヒラムシやウミウシ類の姿を模することで外敵から逃れる「ベーツ型擬態」の効果があると考えられている。

(千葉 悟)

スズキ目 イサキ科 コショウダイ属

チョウチョウコショウダイ

Plectorhinchus chaetodonoides
Lacepède, 1801

形態 背鰭 XI-XII, 19-20 ; 臀鰭 III, 7-8 ;

胸鰭 16-17 ; 側線有孔鱗 55-58。下顎腹面にひげがない。背鰭基部に前向き棘がない。下顎正中線に縦長の溝がない。眼の下縁は吻端より上方。腹鰭先端は肛門に達する。

色彩 幼魚は黄橙色の地色に 7 個の大き

な白色円斑がある。成長すると白斑の中に黄橙色の円斑が現れ、若魚では白地に黄橙色の円斑に逆転する。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、鹿児島湾、大隅諸島、琉球列島、大東諸島に分布する。伊豆半

島と柏島では幼魚の記録がある。

備考 全長 40 cm になる。浅海の岩礁やサンゴ礁域に生息する。成魚はアジアコショウダイ *P. picus* (Cuvier, 1828) に似るが、チョウチョウコショウダイは腹鰭先端が肛門に達すること、体高が高いこと、斑点がやや大きいことから識別される。幼魚もアジアコショウダイに似るが、アジアコショウダイが黒と白の斑紋パターンであるのに対し本種は黄橙色と白である点で異なる。

(千葉 悟)



■ チョウチョウコショウダイ *Plectorhinchus chaetodonoides* KAUM-I. 48022, 13.1 mm SL



■ クロコショウダイ *Plectorhinchus gibbosus* FRLM 43001, 118.0 mm SL

スズキ目 イサキ科 コショウダイ属

クロコショウダイ

Plectorhinchus gibbosus
(Lacepède, 1802)

形態 背鰭 XIV, 15–16；臀鰭 III, 7–8；胸鰭 16–17；側線有孔鱗 47–55。下顎腹面

にひげがない。背鰭基部に前向き棘がない。下顎正中線に縦長の溝がない。眼の下縁は吻端より上方。背鰭中央部に深い欠刻がある。

色彩 体、鰭ともに暗灰色で特別な斑紋などが無い。幼魚は尾鰭後半部が透明。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、和歌山以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。房総半島では幼魚の記録がある。

備考 全長 40 cm 以上になる。浅海砂底・サンゴ礁域に生息する。河口などの汽水域にも生息する。

(千葉 悟)



■ ヒレグロコショウダイ *Plectorhinchus lessonii* KAUM-I. 48057, 56.0 mm SL



■ ヒレグロコショウダイ *Plectorhinchus lessonii* KAUM-I. 51436, 65.4 mm SL



■ ヒレグロコショウダイ *Plectorhinchus lessonii* KAUM-I. 47912, 27.7 mm SL

スズキ目 イサキ科 コショウダイ属

ヒレグロコショウダイ

Plectorhinchus lessonii
(Cuvier, 1830)

形態 背鰭 XII-XIII, 19-20; 臀鰭 III, 7-8; 胸鰭 16-18; 側線有孔鱗 53-56; 鰓耙 20-22。下顎腹面にひげがない。背鰭起部に前向棘がない。下顎正中線に縦長の溝がない。眼の下縁は吻端より上方。腹鰭先端は肛門に達しない。体長は体高の約 2.8 倍以上。

色彩 成魚では暗灰色の肌に頭部で 5-6 本、体側部で 4-5 本の暗色縦帯が直走し、尾鰭では暗色斑紋になる。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島、尖閣諸島に分布する。千葉県館山では幼魚の記録がある。

備考 全長 40 cm になる。浅海岩礁域やサンゴ礁域に生息する。ムスジコショウダ



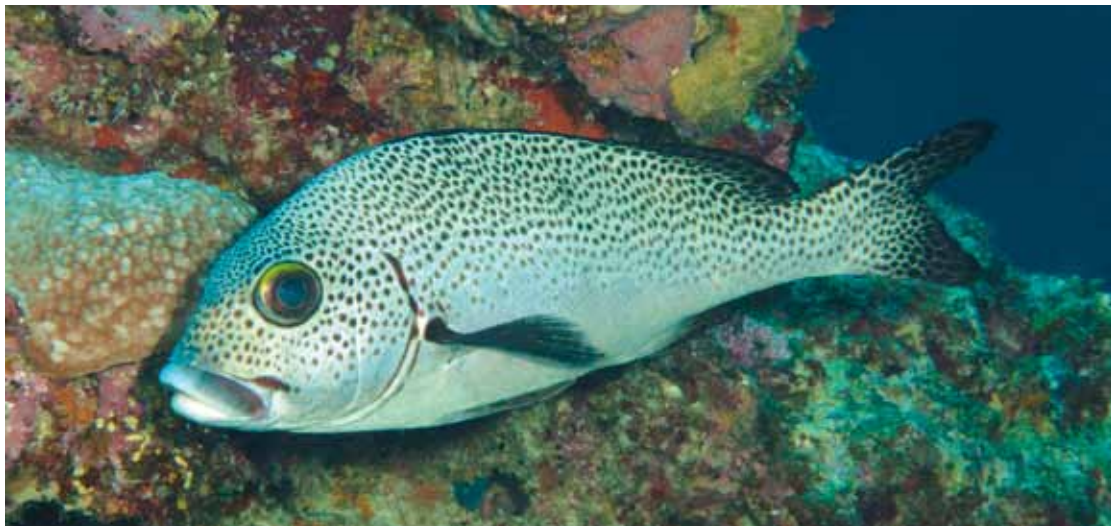
■ ヒレグロコショウダイ *Plectorhinchus lessonii* KPM-NI 30854, 23.5 mm SL

P. vittatus (Linnaeus, 1758) に似るが、腹部に暗色縦帯がなく、あっても 1 本であること（ムスジコショウダイは 2-3 本の暗色縦帯がある）、腹鰭前半部が暗色であり（ほぼ一様に淡色）、眼の直上の左右の暗色縦帯は不連続で、それぞれ眼の前前方まで達すること（眼の前方で連続する）によって識別される。幼魚はアヤコショウダイ *P. lineatus* (Linnaeus, 1758) に似るが、腹鰭に濃褐色斑がある（アヤコショウダイには

濃褐色斑がない）こと、腹鰭に濃褐色斑がまだ形成されていないより小さな段階では左右の体側上部の白色縦帯が後頭部で連なる（最初から吻端に向かう）ことで識別される。

本種はムスジコショウダイと混同されていたが、瀬能・島田（1991）によってムスジコショウダイとは別種とみなされ、腹鰭の色彩的特徴にちなみ標準和名ヒレグロコショウダイが提唱された。

（千葉 悟）



■ アジアコショウダイ *Plectorhinchus picus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 イサキ科 コショウダイ属

アジアコショウダイ

Plectorhinchus picus
(Cuvier, 1828)

形態 背鰭 XII–XIV, 17–20; 臀鰭 III, 7–8; 胸鰭 17; 側線有孔鱗 70–75。下顎腹面にひげがない。背鰭起部に前向棘がない。下顎正中線に縦長の溝がない。眼の下縁は吻端より上方。腹鰭先端は肛門に達しない。体長は体高の約 2.8 倍以上。

色彩 成魚は全身が青灰色で、腹側の一部を除いて暗褐色の小斑点が密に分布する。幼魚の斑紋は成魚とは異なり、黒色の体背部に 5 個、尾鰭に 1 個、頭部吻端に 1 個の白色円斑がある。成長するにつれて腹部の白色部が広がり、暗褐色の小斑点が散在する。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島、大東諸島に分布する。相模湾では幼魚の記録がある。

備考 全長 55 cm になる。浅海岩礁域やサンゴ礁域で幼魚から成魚まで普通にみられる。成魚や若い個体は小さな群れをつくる。幼魚の斑紋パターンはムスジコショウダイ *P. vittatus* (Linnaeus, 1758) に似るが、ムスジコショウダイでは黒色域の縁辺にオレンジ色の滲みがある（アジアコショウダイにはない）、胸鰭が黒い（ほぼ透明）ことから識別される。成魚はコロダイ *Diagramma picta picta* (Thunberg, 1792) に似るが、体側の小斑点が暗褐色（コロダイは黄褐色）であることから識別される。（千葉 悟）



■ フタスジタマガシラ *Scolopsis bilineata* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

■ フタスジタマガシラ *Scolopsis bilineata* KAUM-I. 45765, 151.5 mm SL

スズキ目 イトヨリダイ科 タマガシラ属

フタスジタマガシラ

Scolopsis bilineata
(Bloch, 1793)

形態 背鰭 X, 9; 臀鰭 III, 7; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 43-46; 鰓耙 10。体高は高く、体長は体高の2.5-3.0倍。吻長は眼径より短い。第4眼下骨の後縁と前鰓蓋骨の下縁に鋸歯があり、前者には大きな1棘がある。眼窩下縁と眼下骨の間に前方棘がある。上顎後端縁に鋸歯状突起がない。前鰓蓋骨に鱗がある。頭頂部の被鱗域は眼窩の前縁を越え、前鼻孔付近まで達する。尾鰭の上・下葉ともに軟条が伸長しない。

色彩 幼魚時は体側上方が黄色味がかり、下方は白色で、その地色上に複数の太い黒色縦帯が走る。背鰭前方部に大きな1黒斑がある。成魚では2本の褐色あるいは黒色の細い線が平行に頭部から背鰭軟条部の基底に向かって走る。背鰭棘条部は黄色く、軟条部は前方が黒色～赤褐色で後方が半透明の白色。臀鰭の前半部は黒色で、後半部は半透明の白色。尾鰭は生時は白色だが、生鮮時は赤みを帯びる。

分布 インドのラッカジブ諸島から東側のインド洋と西太平洋に分布する。国内では南日本に広く分布するが、成魚は大隅諸島以南から多く観察される。

(本村浩之)

■ フタスジタマガシラ *Scolopsis bilineata* KAUM-I. 39897, 46.1 mm SL■ フタスジタマガシラ *Scolopsis bilineata* KAUM-I. 39768, 23.0 mm SL



■ ノコギリダイ *Gnathodentex aureolineatus* KAUM-I. 42261, 198.2 mm SL



■ ノコギリダイ *Gnathodentex aureolineatus* FRLM 42911, 172.4 mm SL



■ ノコギリダイ *Gnathodentex aureolineatus* KAUM-I. 51396, 139.1 mm SL



■ ノコギリダイ *Gnathodentex aureolineatus* FRLM 42835, 94.5 mm SL



■ ノコギリダイ *Gnathodentex aureolineatus* KAUM-I. 47977, 54.1 mm SL



■ ノコギリダイ *Gnathodentex aureolineatus* BSKU 108246, 53.2 mm SL



■ ノコギリダイ *Gnathodentex aureolineatus* BSKU 106161, 48.5 mm SL

スズキ目 フエフキダイ科 ノギリダイ属

ノギリダイ

Gnathodentex aureolineatus
(Lacepède, 1802)

形態 背鰭 X, 10; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 15; 有孔側線鱗 60-70; 側線上方鱗 6。体は長楕円形で側扁する。標準体長は体高の2.3-2.8倍。口は端位。主上顎骨側面に鋸歯を有する隆起縁がある。頬部に4-6列の鱗をもつ。背鰭棘部の鰭膜縁辺はやや深く湾入する。

色彩 頭部背面は茶褐色。体はややくすんだ銀色の地に、側線より背方では黄褐色から茶褐色の背部輪郭にほぼ平行な5-6本の縦線、側線より腹方では6-7本の黄色あるいは黄褐色縦線がある。これらの縦線は尾柄部では不明瞭。側線鱗は褐色。背鰭基底後端付近の体背側面に比較的大

■ ノギリダイ *Gnathodentex aureolineatus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

きな黄色斑があり、生時は特に鮮明。この黄色斑の中央付近に長楕円形の白色斑がある。口唇と各鰭は赤い。胸鰭基部は黄色。

分布 インド・西太平洋の熱帯域に広く分

布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、関東以西の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から報告されている。

備考 本属は本種1種から構成される。
(木村清志)

■ シロダイ *Gymnocranius euanus* KAUM-I. 47890, 256.1 mm SL

スズキ目 フエフキダイ科 メイチダイ属

シロダイ

Gymnocranius euanus
(Günther, 1879)

形態 背鰭 X, 10; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 14; 有孔側線鱗 49-50; 背鰭棘条中央部側線上方鱗 5-6 (通常5)。体はやや細長い楕円形で側扁する。体の輪郭は背縁が復縁よりもより凸出する。標準体長は体高の

2.4-2.5倍。口は端位。下顎前部は円錐歯、側部は臼歯状歯。頬に鱗がある。

色彩 頭部および体はわずかに褐色を帯びた灰白色。体側に鱗1枚程度の大きさの暗褐色斑がある。背鰭、臀鰭、尾鰭は淡褐色。背鰭縁辺は明瞭な白色。腹鰭、臀鰭前部も白い。尾鰭縁辺はわずかに赤みを帯びる。

分布 西太平洋の熱帯域。国内では小笠

原諸島、大隅諸島、琉球列島などに分布する。

備考 本属魚類は形態的によく類似しているが、本種は生鮮時背鰭縁辺が明瞭に白いこと、頬部に線や斑点がないこと、下顎側部の歯が臼歯状であること、背鰭棘部中央付近の側線上方鱗数が通常5であることによって、同属他種から識別される。

(木村清志)



■ シロダイ *Gymnocranius euanus* KAUM-I. 47890, 256.1 mm SL



■ シロダイ *Gymnocranius euanus* FRLM 42855, 210.0 mm SL



■ シロダイ *Gymnocranius euanus* FRLM 42912, 130.1 mm SL



■ サザナミダイ *Gymnocranius grandoculis* FRLM 42860, 228.5 mm SL

スズキ目 フエフキダイ科 メイチダイ属

サザナミダイ

Gymnocranius grandoculis
(Valenciennes, 1830)

形態 背鰭 X, 10; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 14; 有孔側線鱗 45-49; 背鰭棘条中央部側線上方鱗 6。体はやや細長い楕円形で側扁する。体の輪郭は背縁が復縁よりもより凸出する。標準体長は体高の2.3-2.6 (通常2.4-2.5) 倍。口は端位。下顎はすべて円錐歯。頬に鱗がある。

色彩 頭部および体はわずかに褐色を帯び

た灰白色。吻から頬部にかけて青色の波状縦線が数本ある。この縦線は成長によって増加する。幼魚では縦線が短く不明瞭な場合もある。幼魚の体側には細く不規則な暗色横帯があるが、成長にともなって不明瞭になる。背鰭縁辺、腹鰭前部、臀鰭前部は黄色。尾鰭縁辺は黄色から朱色。

分布 インド・太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では四国、九州、琉球列島に分布する。

備考 本種は吻から頬部に青色の波状縦線をもつことで同属他種から区別される。しかし、幼魚ではこの縦線は不明瞭である場

合もあり、このような個体ではシロダイ *G. evanus* (Günther, 1879) とよく類似するが、背鰭棘条中央部側線上方鱗数6であること (シロダイでは通常5)、下顎側部の歯が円錐歯であること (臼歯状歯) であることによって区別される。同属のナガメイチ *G. microdon* (Bleeker, 1851) は頬部に青色の斑点あるいは斑紋をもち本種に類似するが、成魚では体高がより低く標準体長は体高の2.4-3.0倍 (本種では通常2.4-2.5倍) であることによって区別される。

(木村清志)

■ ナガメイチ *Gymnocranius microdon* KAUM-I. 43050, 236.0 mm SL

スズキ目 フエフキダイ科 メイチダイ属

ナガメイチ

Gymnocranius microdon
(Bleeker, 1851)

形態 背鰭 X, 10; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 14; 有孔側線鱗 48-49; 背鰭棘条中央部側線上方鱗 6。体はやや細長い楕円形で側扁する。体の輪郭は背腹ほほ同様に湾曲する。標準体長は体高の2.4-3.0倍。口は端位。下顎はすべて円錐歯。頭部背縁は眼の前上方で突出する。眼の下縁は吻端

と尾鰭基底中央を結ぶ直線よりかなり上方にある。頬に鱗がある。

色彩 頭部および体はわずかに褐色を帯びた灰白色。吻や頬部、鰓蓋部に青色斑点あるいは輪郭の不明瞭な青色斑紋があるが、不明瞭な場合もある。若齢魚では眼の中央をとる瞳孔よりもやや幅狭い暗色横帯がある。体側には細く不明瞭な暗色横帯あるいは斜帯がある。背鰭、腹鰭、臀鰭、尾鰭の縁辺は赤色。

分布 アンダマン海および西太平洋の熱帯

域に分布する。国内では奄美諸島以南。

備考 本種は吻から鰓蓋部に青色斑点をもつことで同属他種から識別されるが、不明瞭な場合は同定が難しい。また若齢魚は比較的体高が高く、シロダイ *G. evanus* (Günther, 1879) やサザナミダイ *G. grandoculis* (Valenciennes, 1830) とあまり違いがない。しかし、ナガメイチは頭部背縁が眼の前上方で明瞭に突出することによって、前2種と区別される。

(木村清志)

■ ハマフエフキ *Lethrinus nebulosus* FRLM 43124, 125.6 mm SL■ ハマフエフキ *Lethrinus nebulosus* KAUM-I. 40325, 84.7 mm SL

スズキ目 フエフキダイ科 フエフキダイ属

ハマフエフキ*Lethrinus nebulosus*
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 X, 9; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 13; 有孔側線鱗 45-48; 背鰭棘条中央部側線上方鱗 6。体は楕円形で体高が高く、側扁

する。標準体長は体高の 2.5-2.8 倍、頭長は体高の 0.9-1.0 倍。上顎は下顎よりわずかに前方に突出する。頭部背縁はほぼ直線状で、吻背面はわずかに湾入する。眼隔域は凸出する。頬は無鱗。胸鰭基部の内側は小鱗が密生する。

色彩 頭部や体は黄褐色で腹部は淡色。体側各鱗の中央部に白点がある。吻や頬

部に淡青色の斜帯が数本ある。背鰭、臀鰭の縁辺は赤橙色。尾鰭は赤みを帯びる。胸鰭の上部基部は白い。

分布 インド・西太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、佐渡以南の日本海沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。
(木村清志)

■ タテシマフエフキ *Lethrinus obsoletus* FRLM 43122, 217.0 mm SL

スズキ目 フエフキダイ科 フエフキダイ属

タテシマフエフキ

Lethrinus obsoletus
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 X, 9; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 13; 有孔側線鱗 46-47; 背鰭棘条中央部側線上方鱗 6。体は楕円形で体高が高く、側扁する。標準体長は体高の 2.6-2.9 倍、頭長は体高の 1.0-1.1 倍。上顎は下顎よりわずかに前方に突出する。頭部背縁はほぼ直線状。眼隔域は凸出する。頬は無鱗。

胸鰭基部の内側は小鱗が密生する。

色彩 頭部や体は緑黄褐色で腹部は淡色。体側各鱗の中央部に白点がある。眼から前下方に伸びる暗色帯、前鰓蓋骨後縁に沿う暗色帯がある。鰓蓋後縁に幅狭い赤色帯がある。体腹側面に鰓蓋後方から胸鰭基部をとおり尾柄に達する黄色あるいは橙色の 1 縦帯があり、その下方にも不明瞭な縦帯がある。背鰭、臀鰭、腹鰭の縁辺は赤い。尾鰭は赤い。胸鰭の上部基部は明瞭に白い。

分布 インド・西太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では琉球列島。

備考 本種は体側に橙色縦帯をもつことでハナフエフキ *L. ornatus* Valenciennes, 1830 と類似する。しかし、本種は明瞭な縦帯が 1 本であるの対し、ハナフエフキでは数本の明瞭な縦帯がある。また、ハナフエフキでは前鰓蓋骨や主鰓蓋骨後縁、および胸鰭基底が明瞭に赤く、体高も高い(標準体長は体高の 2.4-2.6 倍、頭長は体高の 0.8-0.9 倍)。

(木村清志)

■ キツネフエフキ *Lethrinus olivaceus* FRLM 43142, 145.2 mm SL

スズキ目 フエフキダイ科 フエフキダイ属

キツネフエフキ

Lethrinus olivaceus
Valenciennes, 1830

形態 背鰭 X, 9; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 13; 有孔側線鱗 47-48; 背鰭棘条中央部側線上方鱗 6。体は長楕円形で体高は低い。標準体長は体高の 3.0-3.3 倍、頭長は体高の 1.1-1.3 倍。口は端位。頭部背縁は吻

部でやや湾入するが、眼の上方面ではほぼ直線状。吻は長く、上唇を除く吻端から前鼻孔までの距離は眼の下縁から前鰓蓋骨後角までの距離よりも長い。頬は無鱗。胸鰭基部の内側は小鱗が密生する。

色彩 頭部や体は灰茶褐色で腹部は淡色。眼から前下方に伸びる 2-3 本の暗色帯があり、体には不規則な網目状斑紋がある。背鰭や尾鰭の縁辺は赤い。

分布 インド・西太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では大隅諸島と琉球列島に分布。

備考 本種は眼から前下方に伸びる 2、3 本の暗色帯をもつことや、体に不明瞭な暗色斑をもつことでオオフエフキ *L. microdon* Valenciennes, 1830 と類似する。しかし、本種は背鰭棘条中央部側線上方鱗数が 6 であるのに対し、オオフエフキでは 5 であることで、容易に区別される。

(木村清志)

■ ホオアカクチビ *Lethrinus rubrioperculatus* FRLM 42858, 278.0 mm SL■ ホオアカクチビ *Lethrinus rubrioperculatus* KAUM-I. 41055, 264.8 mm SL

■ ホオアカクチビ *Lethrinus rubrioperculatus* KAUM-I. 51372, 206.8 mm SL■ ホオアカクチビ *Lethrinus rubrioperculatus* KAUM-I. 51340, 130.8 mm SL

スズキ目 フエフキダイ科 フエフキダイ属

ホオアカクチビ*Lethrinus rubrioperculatus*
Sato, 1978

形態 背鰭 X, 9; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 13; 有孔側線鱗 46-48; 背鰭棘条中央部側線上方鱗 5。体は成魚では長楕円形で側扁する。標準体長は体高の 3.0-3.4 倍、頭長は体高の 1.1-1.2 倍。口は端位。頭部背縁は眼の前上方で突出する。吻背縁はほ

ぼ直線状で、上顎との角度は 55-65°。眼隔域は平坦かわずかに凸出する。頬は無鱗。主鰓蓋骨後縁に無鱗域がある。胸鰭基部の内側は無鱗あるいは数枚の鱗で覆われる。

色彩 頭部や体は緑黄褐色で腹部は淡色。体側には不明瞭な網目模様がある。上唇は赤みを帯びる。主鰓蓋骨後縁に瞳孔よりわずかに小さい赤色斑がある。背鰭、臀鰭、腹鰭は白く、背鰭縁辺は赤い。胸鰭や尾鰭は赤い。

分布 インド・太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 体形が類似するムネアカクチビ *L. xanthochilus* Klunzinger, 1870 とは、眼隔域が平坦かわずかに凸出すること（凹む）、主鰓蓋骨縁辺に赤色斑があること（ない）、胸鰭基部上部に赤色斑がない（ある）ことから区別される。

(木村清志)

■ ムネアカクチビ *Lethrinus xanthochilus* KAUM-I. 47902, 311.7 mm SL

スズキ目 フエフキダイ科 フエフキダイ属

ムネアカクチビ*Lethrinus xanthochilus*
Klunzinger, 1870

形態 背鰭 X, 9; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 13; 有孔側線鱗 47-48; 背鰭棘条中央部側線上方鱗 5。体は成魚では長楕円形で側扁する。標準体長は体高の 2.8-3.5 倍、頭長

は体高の 1.0-1.2 倍。口は端位。頭部背縁は眼の前上方で突出する。吻背縁はほぼ直線状で、上顎との角度は 50-60°。眼隔域はわずかに凹む。頬は無鱗。胸鰭基部の内側は無鱗あるいは数枚の鱗で覆われる。

色彩 頭部や体は黄褐色で腹部は淡色。幼魚の体側には不明瞭な網目模様がある。上唇は黄色。成魚では頬部に多数の黒点

がある。胸鰭基部上部に赤色斑がある。背鰭や尾鰭下葉の縁辺は赤い。

分布 インド・西太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では与論島以南。

備考 体形が類似するホオアカクチビ *L. rubrioperculatus* Sato, 1978 との比較はホオアカクチビの項を参照。

(木村清志)



■ ムネアカカチビ *Lethrinus xanathochilus* KAUM-I. 51317, 84.7 mm SL



■ ヨコシマクロダイ *Monotaxis grandoculis* KAUM-I. 46013, 292.3 mm SL

スズキ目 フエフキダイ科 ヨコシマクロダイ属

ヨコシマクロダイ

Monotaxis grandoculis
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 X, 10 ; 臀鰭 III, 9 ; 胸鰭 14 ; 有孔側線鱗 44-47 ; 側線上方鱗 5。体は長楕円形で側扁する。標準体長は体高の2.1-2.7倍。口は端位。頭部背縁は眼の

前上方で強く凸出する。主上顎骨側面に鋸歯を有する隆起縁がある。下顎側部の歯は臼歯状。眼は大きく、頭長は眼径の2.5-3.2倍。眼隔域は広く平坦。頬に鱗がある。胸鰭基部の内側には小鱗が密生する。

色彩 体は青みを帯びた銀白色、頭部は黄色がかかる。両唇は黄色。背鰭縁辺は赤い。その他の鰭も赤色か赤みを帯びる。

生時、体背側面に幅広い3黒色鞍状斑があり、尾鰭には背腹両縁に沿う黒線がある。

分布 インド・太平洋の熱帯域に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、関東以西の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から報告されている。

備考 本属は本種1種から構成される。
(木村清志)



■ ヨコシマクロダイ *Monotaxis grandoculis* KAUM-I. 46014, 189.3 mm SL



■ ヨコシマクロダイ *Monotaxis grandoculis* FRLM 42916, 139.0 mm SL



■ ヨコシマクロダイ *Monotaxis grandoculis* KAUM-I. 40352, 38.2 mm SL



■ ヨコシマクロダイ *Monotaxis grandoculis* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ヨコシマクロダイ *Monotaxis grandoculis* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ヨコシマクロダイ *Monotaxis grandoculis* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ミナミクロダイ *Acanthopagrus sivicolus* KAUM-I. 39816, 90.3 mm SL

スズキ目 タイ科 クロダイ属

ミナミクロダイ

Acanthopagrus sivicolus
Akazaki, 1962

形態 背鰭 XI, 11; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 15; 側線鱗 46–52; 背鰭棘条部中央下側線上方横列鱗 4.5; 鰓耙 6–7+9–10=15–17。両眼域の隆起は大きくない。両顎の側部には3列以上の臼歯がある。側線鱗の管は

細い。頭長は臀鰭第2棘長の2.0–2.1倍。

色彩 生時、体は銀黒色で腹鰭と臀鰭は暗灰色。固定後、体は黒っぽく、腹鰭と臀鰭は淡灰色になる。

分布 大隅諸島と琉球列島に分布する。屋久島でも成魚が記録されている。

備考 全長 50 cm になる。内湾や汽水域に生息する。クロダイ *A. schlegelii* (Bleeker,

1854) とは背鰭棘条部中央下側線上方横列鱗数が 4.5 (クロダイは 5.5 以上) であることから識別される。オキナワキチヌ *A. chinshira* Kume & Yoshino, 2008 とは生時の腹鰭と臀鰭が暗灰色 (オキナワキチヌは黄色) であること、臀鰭第2棘が短い (頭長が臀鰭第2棘長の 2.0–2.1 倍。オキナワキチヌでは 1.5–1.8 倍) ことから識別される。

クロダイとひじょうに近縁であり種分化および分類学的な研究がおこなわれている。(千葉 悟)

スズキ目 タイ科 キダイ属

キビリアカレンコ

Dentex abei
Iwatsuki, Akazaki & Taniguchi, 2007

形態 背鰭 XII, 10; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 15–16; 側線鱗 48–50; 背鰭棘条部中央下側線上方横列鱗 4.5; 鰓耙 7–8+12–13=19–21。両眼域の隆起は大きく明瞭。背鰭棘は延長しない。両顎の側部には臼歯がなく一列の円錐歯がある。

色彩 生時、体側に小青色輝点が不規則に縦走し、各鱗は黄色で背鰭と臀鰭は色が濃い。固定後、体側の小青色輝点は暗色斑になり、鱗は透明になる。

分布 小笠原諸島および琉球列島の東シナ海大陸棚縁辺部に分布する。台湾とフィリピン諸島からも記録がある。

備考 全長 35 cm 程度になる。水深 50–150 m の岩礁域に生息する。遺伝的にも近縁なキダイ *D. hypselosomus* Bleeker,

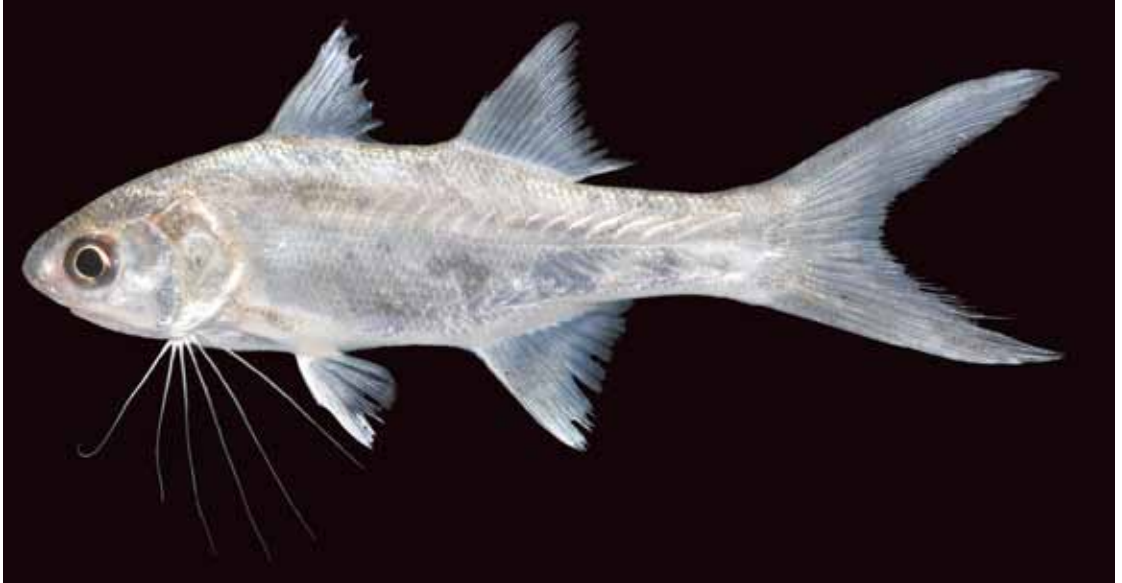


■ キビリアカレンコ *Dentex abei* KAUM-I. 50830, 200.8 mm SL

1854 に似るが、生時のキダイの体は橙赤色で背部に大きな黄色斑が3つあること、各鱗が赤色であることから本種とは識別される。

小笠原諸島と琉球列島の集団間には遺伝的分化が認められることから、今後の研究が期待される。

(千葉 悟)

■ ナンヨウアゴナシ *Polydactylus sexfilis* FRLM-42805, 67.3 mm SL■ ナンヨウアゴナシ *Polydactylus sexfilis* KAUM-I. 47961, 58.6 mm SL

スズキ目 ツバメコノシロ科 ツバメコノシロ属

ナンヨウアゴナシ

Polydactylus sexfilis
(Valenciennes, 1831)

形態 背鰭 VIII-I, 12-13; 臀鰭 III, 11-12; 胸鰭 15-16; 胸鰭遊離軟条 6; 有孔側線鱗 60-67; 鰓耙 11-14+15-18=27-31。鋤骨に歯がある。最長胸鰭遊離軟条の先端は尾柄部中央を越えない。胸鰭はふつう不分枝だが、老成個体では分枝する。発達した鰓がある。眼は大きく、眼径は体長の9% (平均)。

色彩 体は銀白色で、成長にともない側線より上の体側に7-9本の黒色線が出現する。体側に黒色斑はない。各鰭は半透明から白色で黒色素胞が散在する(個体によって密度に変異がある)。胸鰭遊離軟条は白色。

分布 モーリシャスからピトケアン諸島にかけてのインド・太平洋の島嶼域に分布する。オーストラリアや大河川が発達する大陸棚上では稀。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾、琉球列島から記録されている。国内では幼魚や若魚が多く、成魚の記録は八丈島からのみ。

備考 本種は体型や色彩がツバメコノシロ *P. plebeius* (Broussonet, 1782) と酷似する。しかし、ナンヨウアゴナシは後者と比較して、胸鰭遊離軟条が6本であること(ツバメコノシロでは5本)、胸鰭軟条が15-16本(最頻値16)であること(16-18本、最頻値17)、総鰓耙が27-31本(30)であること(24-32本、26)から識別される。また、ナンヨウアゴナシの第2背鰭、臀鰭、尾鰭はツバメコノシロのそれらより長い傾向がある。

水深50m以浅の砂底上を遊泳する。体長45cmに達する。

(本村浩之)



■ モンツキアカヒメジ *Mulloidichthys flavolineatus* KAUM-I. 50812, 207.8 mm SL



■ モンツキアカヒメジ *Mulloidichthys flavolineatus* FRLM 42775, 100.2 mm SL



■ モンツキアカヒメジ *Mulloidichthys flavolineatus* KAUM-I. 51325, 103.9 mm SL



■ モンツキアカヒメジ *Mulloidichthys flavolineatus* KAUM-I. 39908, 72.5 mm SL

スズキ目 ヒメジ科 アカヒメジ属

モンツキアカヒメジ

Mulloidichthys flavolineatus
(Lacepède, 1801)

形態 背鰭 VII-VIII, 9; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 33-39; 鰓耙 24-31。体は細長く、側扁する。鋸骨・口蓋骨に歯がない。第2背鰭は鱗で被われない。第1背鰭の下方の体側に、1個

の暗褐色斑点がある。体高は低く、体長の21-25%。

色彩 背側は黄色、腹側は白色。体側に眼から水平の黄色縦帯があり、第1背鰭の下方に、暗褐色斑点がある。胸鰭は透明で胸鰭を除く各鰭は黄色を呈することができる。個体の状態により体側が赤味を帯びることもある。

分布 インド・太平洋域に広く分布する。

国内では伊豆諸島、小笠原諸島、三浦半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に広く分布する。

備考 本種は第1背鰭の下方の体側に、1個の暗褐色斑点がある（不明瞭な場合もある）こと、尾柄部の側線上に黒褐色斑紋があること、体高は低く体長の21-25%であることなどから、日本に生息する同属他種と識別される。

(山下真弘)

■ アカヒメジ *Mulloidichthys vanicolensis* KAUM-I. 40108, 194.2 mm SL

スズキ目 ヒメジ科 アカヒメジ属

アカヒメジ

Mulloidichthys vanicolensis
(Valenciennes, 1831)

形態 背鰭 VIII, 9; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 35-37; 鰓耙 29-36。体は細長く、側扁する。鋤骨および口蓋骨に歯がない。第2背鰭は鱗で被われない。体側に1黒色斑がない。体高が高く、体長の26-30%。口は小さく、主上顎骨の後端は、眼の先端に達しない。第1背鰭始部は腹鰭始部の直上より後方に位置する。第2背鰭始部は臀鰭始部の直上よりやや前方に位置する。胸鰭の先端は第1背鰭第7棘直下に位置する。腹鰭の先端は肛門に達しない。尾鰭は二叉する。

色彩 体全体は赤色を呈し（水中写真では白色）、背側は黄色、腹側は白色。体側に黄色の1縦帯がある。胸鰭は透明であるが、胸鰭を除く各鰭は黄色。虹彩は赤色を呈する。髭は白色。

分布 インド・太平洋域に広く分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、館山湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に広く分布する。

備考 アカヒメジ属は世界で7種知られており、日本からは本種の他にモンツキアカヒメジ *M. flavolineatus* (Lacepède, 1801) とリュウキュウアカヒメジ *M. pfluegeri* (Steindachner, 1900) が報告されている。アカヒメジは体側に1黒色斑がないこと、体高が高いこと（体長の26-30%）、眼が大きいこと、体側に黄色の1縦帯があることなどから、日本における同属他種と識別される。

■ アカヒメジ *Mulloidichthys vanicolensis* FRLM 43144, 90.8 mm SL■ アカヒメジ *Mulloidichthys vanicolensis* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

最大体長は38 cmにも達し、味も良いので干物やフランス料理の食材としても用いられる。本種は群れをなすこともある。下顎に一对の独立した味蕾を有する髭をもち、餌を探す時などに用いられる。通常水深

15 mほどでみられるが、水深113 mからの記録もある。

(吉田朋弘)

■ オオスジヒメジ *Parupeneus barberinus* KAUM-I. 47888, 300.9 mm SL

スズキ目 ヒメジ科 ウミヒゴイ属

オオスジヒメジ

Parupeneus barberinus
(Lacepède, 1801)

形態 背鰭 VIII, 9; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 27-30; 鰓耙 26-31。体は細長く、側扁する。鋤骨・口蓋骨に歯がない。第2背鰭は鱗で被われない。尾柄部の側線上に黒褐色斑紋がある。体側に縦帯がある。

色彩 背側は褐色、腹側は白色。生時、吻端から第2背鰭の中央下方まで黒色縦帯がある。尾柄部の側線上に黒褐色斑紋がある。

分布 インド・太平洋域に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、三浦半

■ オオスジヒメジ *Parupeneus barberinus* KAUM-I. 47997, 34.1 mm SL

島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に広く分布する。

尾柄部の側線上に黒褐色斑紋があること、体側に縦帯があることなどから、日本に生息する同属他種と識別される。

備考 本種は体側に暗色横帯がないこと、

(山下真弘)

■ ホウライヒメジ *Parupeneus ciliatus* KAUM-I. 40015, 33.5 mm SL

■ ホウライヒメジ *Parupeneus ciliatus* KAUM-I. 41040, 253.4 mm SL

スズキ目 ヒメジ科 ウミヒコイ属

ホウライヒメジ

Parupeneus ciliatus
(Lacepède, 1802)

形態 背鰭 VIII, 9; 臀鰭 7; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 28-30; 鰓耙 29-32。体は細長く、側扁する。口は小さく、主上顎骨の後端は、眼の先端に達しない。鋤骨および口蓋骨に歯がない。下顎のひげは鰓蓋後縁下に達しない。尾柄部の斑紋は鞍状になる傾向があり、側線を越える。第2背鰭は鱗で被われない。第1背鰭始

部は腹鰭始部の直上より後方に位置する。第2背鰭始部は臀鰭始部の直上より前方に位置する。胸鰭の先端は第1背鰭後端直下を越える。腹鰭の先端は肛門に達しない。尾鰭は二叉する。

色彩 成魚の体色 背側は桃色、腹側は白色。体側に多数の赤色横帯があり、黄色斑が散在する。眼後方上部に黒色斑がある。背鰭、尾鰭および胸鰭は赤色。腹鰭と臀鰭は赤色がかった黄色。尾柄部に鞍掛状の黒色帯を有する。髭は黄色。幼魚の体色 体全体は銀色で、背側は黒味を帯びる。体側に4本の黄色帯がはしる。

各鰭は透明。背鰭、腹鰭および臀鰭は黄色を帯びる。髭は黄色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、館山湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に広く分布する。

備考 本種はオキナヒメジ *P. spilurus* (Bleeker, 1854) に似るが、ホウライヒメジの臀鰭前縁長は臀鰭基底長とほぼ同じか、わずかに長いこと（後者では短い）から識別される。

(吉田朋弘)

■ マルクチヒメジ *Parupeneus cyclostomus* FRLM 42893, 163.5 mm SL



■ マルクチヒメジ *Parupeneus cyclostomus* KAUM-I. 45786, 235.5 mm SL



■ マルクチヒメジ *Parupeneus cyclostomus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ヒメジ科 ウミヒゴイ属

マルクチヒメジ

Parupeneus cyclostomus
(Lacepède, 1801)

形態 背鰭 VIII, 9; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 27-32; 鰓耙 27-33。体は細長く、側扁する。口は小さく、主上顎骨の後端は、眼の先端に達しない。鋤骨および口蓋骨に歯がない。下顎の髭は長く、鰓蓋後端に達するか、越える。第2背鰭は鱗で被われない。体側に暗色

横帯がない。第1背鰭始部は腹鰭始部の直上より後方に位置する。第2背鰭始部は臀鰭始部の直上よりやや前方に位置する。胸鰭の先端は第1背鰭第8棘直下に位置する。腹鰭の先端は肛門に達しない。尾鰭は二分する。

色彩 背側は赤色、腹側は白色がかった桃色。尾柄部に淡黄色の鞍状斑紋がある。眼から放射状に赤色を帯びた黄色線がはしる。第1背鰭は赤色。第2背鰭は赤色で多数の黄色縦線がある。胸鰭は赤色。腹鰭は黄色。臀鰭は白色で不規則な黄色線

がある。尾鰭は赤色で不規則な黄色線がある。髭は赤みを帯びた白色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に広く分布する。

備考 本種は吻の背面がなだらかであること、尾柄部に淡黄色の鞍状斑紋があること、下顎の髭は長く、鰓蓋後縁に達するか、越えることなどから、日本における同属他種と識別される。

(吉田朋弘)

■ コバンヒメジ *Parupeneus indicus* KAUM-I. 41039, 276.8 mm SL

スズキ目 ヒメジ科 ウミヒゴイ属

コバンヒメジ

Parupeneus indicus
(Shaw, 1803)

形態 背鰭 VIII, 9; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 26-31; 鰓耙 24-27。体は細長く、側扁する。鋤骨・口

蓋骨に歯がない。第2背鰭は鱗で被われない。尾柄部の側線上に黒褐色斑紋がある。生時、体側に楕円形の黄色斑があり、縦帯がない。

色彩 背側は褐色で、腹側は白色。体側中央上部に楕円形の黄色斑がある。尾柄部の側線上に黒褐色斑紋がある。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、館山湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に広く分布する。

備考 本種は体側に暗色横帯がないこと、尾柄部の側線上に黒褐色斑紋があること、生時、体側に楕円形の黄色斑があり、縦帯がないことなどから、日本に生息する同属他種と識別される。

(山下真弘)

■ オジサン *Parupeneus multifasciatus* KAUM-I. 39921, 139.0 mm SL

■ オジサン *Parupeneus multifasciatus* FRLM 43037, 156.2 mm SL

スズキ目 ヒメジ科 ウミヒコイ属

オジサン

Parupeneus multifasciatus
(Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 VIII, 9; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 27-30; 鰓耙 35-42。体は細長く、側扁する。口は小さく、主上顎骨の後端は、眼の先端に達しない。鋤骨および口蓋骨に歯がない。下顎のひげは長く、前鰓蓋骨後縁をはるかに越える。第2背鰭は鱗で被われない。体側に暗色横帯がある。第1背鰭始部は腹鰭始部の直上より後方に位置する。第2背鰭始部は臀鰭始部の直上に位置する。胸鰭の先端は第1背鰭後端直下を越える。腹鰭の先端は肛門に達しない。尾鰭は二又する。

色彩 体色は変異に富む。背側は褐色から赤色、腹側は赤色から白色がかった桃色。第1背鰭と第2背鰭の間、第2背鰭中央直下、尾柄背側にそれぞれ濃い暗色横帯がある。眼付近に放射状に赤紫線がはしる。第1背鰭は黄色を帯びた赤色、第2背鰭の基底付近は黒色を帯びた赤色で縁には数本の黄色縦線がある。胸鰭は透明。腹鰭は赤色。臀鰭は白色で不規則な黄色線がある。尾鰭は赤色で不規則な黄色線がある。髭は赤みを帯びた白色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、館山湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に広く分布する。

■ オジサン *Parupeneus multifasciatus* KAUM-I. 40310, 74.2 mm SL■ オジサン *Parupeneus multifasciatus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

備考 本種は両眼間隔が広く頭長の39-46%であること、第2背鰭下と尾柄背側にやや濃い暗色横帯があること、下顎の髭は長く、前鰓蓋骨後縁をはるかに越えるこ

となどから、日本に生息する同属他種と識別される。

(吉田朋弘)



■ リュウキュウヒメジ *Parupeneus pleurostigma* FRLM 42913, 108.9 mm SL



■ リュウキュウヒメジ *Parupeneus pleurostigma* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ヒメジ科 ウミヒゴイ属

リュウキュウヒメジ

Parupeneus pleurostigma
(Bennett, 1831)

形態 背鰭 VIII, 9; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗数 28-32; 鰓耙数 27-32。体は細長く、側扁する。鋤骨・口蓋骨に歯がない。第2背鰭は鱗で被われない。尾柄部に側線上に黒褐色斑紋がない。第1背鰭の後部下方に黒色斑紋があり、第2背鰭基底は黒褐色。

色彩 背側は赤く、腹側は白色。第1背鰭の後部下方に黒褐色斑紋があり、その後ろに白色斑紋がある。第2背鰭基底は黒褐色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、館山湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に広く分布する。



■ リュウキュウヒメジ *Parupeneus pleurostigma* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

備考 本種は体側に暗色横帯がないこと、第1背鰭の後部下方に黒色斑紋（大型個体では不明瞭）があり、第2背鰭基底

部は黒褐色であることなどから、日本に生息する同属他種と識別される。（山下真弘）



■ リュウキュウハタンボ *Pempheris adusta* FRLM 42814, 124.8 mm SL



■ リュウキュウハタンボ *Pempheris adusta* KAUM-I. 51553, 71.3 mm SL

スズキ目 ハタンボ科 ハタンボ属

リュウキュウハタンボ

Pempheris adusta
Bleeker, 1877

形態 背鰭 VI, 8-10; 臀鰭 III, 37-45; 胸鰭 15-18; 側線有孔鱗 51-62。体は強く側扁する。側線は鰓蓋上部から尾鰭後端

まで達する。臀鰭基底長は長く、体長の40%以上。鱗は弱い櫛鱗で剥がれやすい。腹鰭前方に隆起線がない。

色彩 体側は褐色で、腹部は銀白色。背鰭は前方部が褐色、後方に向かってやや透明になる。背鰭先端に黒色斑がはいる。臀鰭基部は褐色。臀鰭には黒色素が散在する。腹鰭は透明、尾鰭は褐色。胸鰭

基部には淡い黒色斑がある。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 本調査では水深5-20mの岩礁域でみられた。日本でみられる同属他種と比較して、鱗が弱い櫛鱗で剥がれやすい、



■ リュウキュウハタンボ *Pempheris adusta* BSKU 106134, 126.6 mm SL



■ リュウキュウハタンボ *Pempheris adusta* KAUM-I. 51245, 17.9 mm SL

腹鰭前方に隆起線がない、有孔側線鱗数が61-72、側線上方鱗数が4 1/2-5 1/2（通常4 1/2）、尾柄鱗数が14-16（通常16）、胸鰭基部の黒色斑は淡く小さいことなどから識別される。

これまで、和名リュウキュウハタンボに適應する学名は混乱していた。リュウキュウハタンボには *P. oualensis* という学名が使用されていたが、日本における *P. oualensis* は Snyder (1912) のリストのみに基づいて報告されたもので、和名も Okada (1938) によってそのリストに基づき提唱された実体のないものであった。そ

の後、リュウキュウハタンボは益田ほか (1975) によって標本に基づいて報告された。しかし、*P. oualensis* のホロタイプを観察した Tominaga (1968) の記載と、リュウキュウハタンボとして報告された標本の形態には相違があるなど、問題点がみられるとし、リュウキュウハタンボの学名は暫定的に *Pempheris* sp. とされた（波戸岡、2000；波戸岡・柳下、2013）。Koeda et al. (2010) は Snyder (1912) が報告した *P. oualensis* をリュウキュウハタンボ *Pempheris* sp. の誤同定とし、また沖縄の八重山諸島から採集された標本に基づき *P.*

oualensis に和名ユメハタンボを提唱した。その後、小枝ほか (2013) は Snyder (1912) のリストの基になったと考えられる標本を観察し、*P. adusta* と同種であることを明らかにした。その結果、和名リュウキュウハタンボに適用すべき学名は *P. adusta* であるとした。

本種は昼間障害物の陰で過ごし、夜間になると索餌のために動きまわる。小さな個体はミナミハタンボの群と混生する（小枝ほか、2013）。

（目黒昌利）



■ ミナミハタンボ *Pempheris schwenkii* KAUM-I. 48095, 108.0 mm SL

スズキ目 ハタンボ科 ハタンボ属

ミナミハタンボ

Pempheris schwenkii
Bleeker, 1855

形態 背鰭 V-VI, 8-10；臀鰭 III, 34-41；胸鰭 18；側線有孔鱗 45-54；側線上方

鱗 3 1/2。体は強く側扁する。側線は鰓蓋上部から尾鰭後端まで達する。臀鰭基底長は長く、体長の40%以上。鱗は弱い櫛鱗と円鱗で剥がれやすい。腹鰭前方に隆起線がある。

色彩 体側上部は褐色で、体側下部は銀白色。体側の鱗には黄褐色点がはいる。

背鰭は前方部分が褐色、後方に行くにつれ透明になり、先端に黒色斑がはいる。臀鰭基部は黒色で、鰭膜は透明。臀鰭縁辺が淡く褐色に縁どられる。腹鰭は透明。胸鰭上方は淡い褐色。尾鰭は褐色で、縁辺は黒褐色に縁取られる。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内

では伊豆諸島、小笠原諸島、福島県以南の太平洋沿岸、九州北西岸、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 日本でみられる同属他種と比較して、鱗が弱い櫛鱗と円鱗で剥がれやすい、側線上方鱗が3 1/2、腹鰭前方に隆起線があることなどから識別される。

昼間は障害物の陰で過ごし、夜間になると索餌のために動きまわる。群れで行動する。本調査では水深5-20 mの岩礁域でみられた。

(目黒昌利)



■ ミナミハタンボ *Pempheris schwenkii* KAUM-I. 39916, 45.0 mm SL



■ ミナミハタンボ *Pempheris schwenkii* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

■ テンジクイサキ *Kyphosus cinerascens* KAUM-I. 51208, 214.5 mm SL■ テンジクイサキ *Kyphosus cinerascens* FRLM 42820, 137.1 mm SL

スズキ目 イスズミ科 イスズミ属

テンジクイサキ*Kyphosus cinerascens*
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 X-XI, 12; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 50-52。体は高く、側扁する。尾柄は短い。背鰭軟条部の前方は高く、最長棘より長い。背

鰭基底中央部、臀鰭起部で体の背縁と腹縁は折れ曲がる。

色彩 体側、背鰭、腹鰭、臀鰭、尾鰭は一樣に灰褐色。胸鰭は基部が灰褐色で後方に向け透明。生時、体側には多くのオリブ色の細い線がある。但し、老成魚ではこれらの線はない。主上顎骨から前鰓蓋骨先端に向けて黄色帯が走る。鰓蓋上部後縁は黄色。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋。国内では北海道から九州、小笠原諸島、琉球列島に広く分布する。

備考 本種は背鰭軟条が12本、臀鰭軟条が11本、背鰭軟条部の前方は高く、最長棘より長いことから同属他種と識別される。
(伊東正英)

■ テンジクイサキ *Kyphosus cinerascens* KAUM-I. 50821, 177.8 mm SL■ イスズミ *Kyphosus vaigiensis* KAUM-I. 40324, 56.1 mm SL

スズキ目 イスズミ科 イスズミ属

イスズミ

Kyphosus vaigiensis
(Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 X-XI, 13-15; 臀鰭 III, 12-13; 胸鰭 18-20; 腹鰭 I, 5。体は高く側扁する。尾柄は短い。吻は短く、やや尖る。

色彩 体側、背鰭、腹鰭、臀鰭、尾鰭は一樣に褐色。胸鰭は基部が褐色で後方に向け透明。生時、体側には多くのオリーブ色の細い線がある。但し、老成魚ではこれらの線はない。主上顎骨から鰓蓋骨先端に向けて黄色帯が走る。鰓蓋上部後縁は黄色。

分布 全世界の熱帯～温帯域に分布。国内でも北海道から琉球列島まで広く分布する。

備考 本種は背鰭軟条が 14 本、臀鰭軟条が 13 本であることで同属他種と容易に識別される。

(伊東正英)



■ オキナメジナ *Girella mezina* KAUM-I. 41045, 259.6 mm SL



■ オキナメジナ *Girella mezina* KAUM-I. 39711, 58.1 mm SL

スズキ目 メジナ科 メジナ属

オキナメジナ

Girella mezina

Jordan & Starks, 1907

形態 背鰭 XIV, 12-14; 臀鰭 III, 11; 腹鰭 I, 5; 背鰭棘条部中央下横列鱗 5-7(通常 6); 側線有孔鱗 47-53。体は側扁する。メジ

ナと比べて体高が高く、頭部背縁は眼の前方で急傾斜する。鰓蓋部全域に鱗がある。上唇は厚い。

色彩 成魚では体側、各鰭は一樣に黒色。幼魚では体側は一樣に黒く、腹部にかけて薄くなり、胸鰭は透明。胸鰭基部は黒色。背鰭 8-10 棘基部から腹部にかけ、鮮黄色(固定後、淡色)の 1 横帯がある。そ

の横帯は成魚になるにつれ、薄くなる。

分布 日本と台湾に分布する。国内では千葉県から九州にかけて、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 与論ではメジナ *G. punctata* Gray, 1835 やクロメジナ *G. leonina* (Richardson, 1846) は確認されなかった。

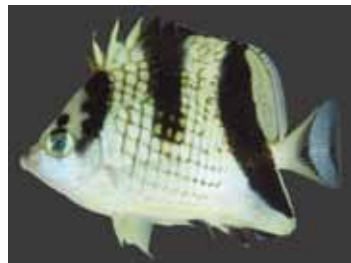
(伊東正英)



■ カガミチヨウチヨウウオ *Chaetodon argentatus* FRLM 43145, 121.6 mm SL



■ カガミチヨウチヨウウオ *Chaetodon argentatus* KAUM-I. 39863, 41.6 mm SL



■ カガミチヨウチヨウウオ *Chaetodon argentatus* BSKU 106151, 46.9 mm SL



■ カガミチヨウチヨウウオ *Chaetodon argentatus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ カガミチヨウチヨウウオ *Chaetodon argentatus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

カガミチヨウチヨウウオ

Chaetodon argentatus
Smith & Radcliffe, 1911

形態 背鰭 XIII-XIV, 21-24; 臀鰭 III, 16-17; 胸鰭 14-15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 34-38。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭軟条部後縁は丸く、臀鰭軟条部後縁はやや尖る。

色彩 頭部の黒色横帯は眼直上で途切れる。体側面は地色が乳白色で黒色の網目模様があり、3本の黒色横帯がある。この黒色横帯は、前2本が途中で途切れる。尾鰭は1本の黒色横帯があり、後縁は黒く縁取られる。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は体側面に網目模様があることで、アミメチヨウチヨウウオ *C. xanthurus* Bleeker, 1857、アミチヨウチヨウウオ *C. rafflesii* Bennett, 1830、およびユウゼン *C. daedalma* Jordan & Fowler, 1902 に似る。しかし、体の地色が本種では乳白色であるのに対し、アミメチヨウチヨウウオでは白色、アミチヨウチヨウウオでは黄色、およびユウゼンでは黒色であることで識別される。
(岩坪洗樹)

■トゲチヨウチヨウウオ *Chaetodon auriga* FRLM 42922, 147.4 mm SL■トゲチヨウチヨウウオ *Chaetodon auriga*
KAUM-I. 39715, 30.6 mm SL

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

トゲチヨウチヨウウオ

Chaetodon auriga
Forsskål, 1775

形態 背鰭 XII-XIII, 22-25; 臀鰭 III, 18-21; 胸鰭 14-15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 29-40。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。成魚の背鰭第 5, 6 軟条は伸長するが、幼魚では伸長せず背鰭軟条後縁は丸い。臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 成魚・幼魚ともに、体の前半部が白色で、後半部は黄色または橙色になる。また、頭部に眼を通る黒色横帯がある。背鰭軟条部には黒色斑が 1 個あり、この黒色斑は成長にとともに大きくなる。成魚は

■トゲチヨウチヨウウオ *Chaetodon auriga* KAUM-I. 40331, 128.5 mm SL

体側面に複数本の灰色斜帯がある。この斜帯は、背側から前方へ向かう斜帯と、腹側から前方へ向かう斜帯の 2 種類があるが、斜帯同士は交差しない。成魚は尾鰭が体後半部と同様に黄色または橙色を呈し、明るい黄色の横帯が 1 本あるが、幼魚の尾鰭は透明。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、岩手県以南の太平洋沿岸、兵庫県以南の日本海沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種と同様に、成魚の背鰭軟条後縁が伸長する特徴を有するものに、レモンチヨウチヨウウオ *C. semeion* Bleeker, 1855 とセグロチヨウチヨウウオ *C. ephippium* Cuvier, 1831 がある。しかし、トゲチヨウチヨウウオはレモンチヨウチヨウウオ、セグロチヨウチヨウウオと比較して、背鰭軟条部には黒色斑が 1 個あること（レモンチヨウチヨウウオでは背鰭軟条部に黒色帯があり、セグロチヨウチヨウウオでは背鰭後半部に広い黒色域がある）から容易に識別される。

(岩坪洗樹)

■ チョウチョウウオ *Chaetodon auripes* KAUM-I. 42258, 142.1 mm SL

スズキ目 チョウチョウウオ科 チョウチョウウオ属

チヨウチヨウウオ

Chaetodon auripes
Jordan & Snyder, 1901

形態 背鰭 XII, 22–27；臀鰭 III, 17–22；胸鰭 14–15；腹鰭 I, 5；側線有孔鱗 35–43。体は円形で、強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 頭部は吻端から鰓蓋後端にかけて灰色から白色を呈し、眼を通る黒色横帯がある。成魚は体側面の地色が黄色で、暗い橙色の縦帯が多数ある。幼魚は体側面が一律に橙色で、背鰭軟条部に眼と同大の黒色斑が1個ある。

分布 西太平洋に分布する。日本国内では伊豆諸島、小笠原諸島、津軽海峡から九州西岸にかけての対馬暖流沿岸、宮城県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は日本産チヨウチヨウウオ属の中では、最も北方まで分布する。

(岩坪洗樹)

■ チョウチョウウオ *Chaetodon auripes* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ウミツキチヨウウオ *Chaetodon bennetti* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

ウミツキチヨウウオ

Chaetodon bennetti
Cuvier, 1831

形態 背鰭 XIII–XIV, 16–20; 臀鰭 III, 15–17; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 29–37。体はほぼ円形で、強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭軟条部後縁と臀鰭軟条部後縁は丸みを帯びる。側線は体側面の黒色斑上部を走り、背鰭

基底後端付近に達する。

色彩 体全体の地色は黄色を呈している。頭部の眼を通る黒色横帯は青白色で縁取られており、頭部腹面で不明瞭になる。主鰓蓋骨後縁上部から臀鰭基底前部付近にかけてと、主鰓蓋骨後端付近から臀鰭基底中央付近にかけて、青白色斜線がそれぞれ1本ずつ走る。背鰭後端から臀鰭後端にかけて不明瞭な青白色横線が1本走る。体側面後部に青白色で縁取られた1黒色斑がある。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、房総半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は体側面に1黒色斑があることで、イッテンチヨウウオ *C. unimaculatus* Bloch, 1787 とトノサマダイ *C. speculum* Cuvier, 1831 に似る。しかし、本種では側線が体側面の黒色斑上部を走るのに対し、イッテンチヨウウオとトノサマダイでは黒色斑中央を通ることで容易に識別される。

(岩坪洗樹)

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

ゴマチヨウウオ

Chaetodon citrinellus
Cuvier, 1831

形態 背鰭 XIII–XIV, 20–22; 臀鰭 III, 15–17; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 35–41。体は円形で、強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 頭部と体側面の地色は薄黄色から黄色を呈す。眼を通る黒色横帯がある。体側面には黒色点が多数散在する。背鰭は白色で縁取られる。臀鰭縁は黒色で幅広く縁取られ、その上部が白色味を帯びる。尾鰭は、成魚では体側面の地色と同様に薄黄色から黄色だが、幼魚では透明。

分布 インド・太平洋に広く分布する(マダガスカル、紅海、アラビア海、およびイースター島を除く)。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、熊

本島、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は体側面に黒色点が散在することでコクテンカタギ *C. guentheri* Ahl, 1923 に似る。しかし、ゴマチヨウウオはコクテンカタギと比較して、体側面の地色が薄黄色から黄色であること(コクテンカタギでは黄色がかかった白色)、臀鰭に幅広い黒色域がないこと(臀鰭縁に幅広い黒色域がある)などから識別される。

(岩坪洗樹)



■ ゴマチヨウチヨウウオ *Chaetodon citrinellus* KAUM-I. 39871, 71.7 mm SL



■ ゴマチヨウチヨウウオ *Chaetodon citrinellus* KAUM-I. 45958, 55.2 mm SL



■ ゴマチヨウチヨウウオ *Chaetodon citrinellus* 17 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki

スズキ目 チョウチヨウウオ科 チョウチヨウウオ属

セグロチヨウチヨウウオ

Chaetodon ephippium
Cuvier, 1831

形態 背鰭 XII–XIV, 21–24; 臀鰭 III, 20–22; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 31–37。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭軟条部後縁は幼魚では丸みを帯びるが、成長するにしたがい伸長する。臀鰭軟条部後縁は丸みを帯びる。側線は背鰭基底後端付近に達する。

色彩 頭部の眼を通る黒色横帯は、幼魚では明瞭であるが、成長にしたがい細く不明瞭になる。吻から頭部腹面にかけて黄色を呈する。体全体の地色は乳白色を呈する。背鰭後半部から体側背面にかけて広い黒色域がある。この黒色域の体側面側は幅広い白色帯で縁取られる。成魚の体側腹面に6本の灰色縦線が走る。幼魚は尾柄が黒色を呈する。尾鰭は、幼魚では透明であるが、成魚では縁辺が山吹色を呈する。

分布 東インド洋から太平洋にかけて分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

■ セグロチヨウチヨウウオ *Chaetodon ephippium* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

備考 本種は水深 15 m 以浅の穏やかなサンゴ礁でみられる。種小名の *ephippium* は、背鰭後半部から体側背面にかけての広い

黒色域を馬の鞍になぞらえ、そのギリシヤ語に因む。

(岩坪洗樹)

スズキ目 チョウチヨウウオ科 チョウチヨウウオ属

コクテンカタギ

Chaetodon guentheri
Ahl, 1923

形態 背鰭 XIII, 20–23; 臀鰭 III, 18–20; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 39–40。体は円形で、強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 頭部と体側面の地色は白色。眼を通る黒色横帯は腹面付近で途切れる。体側面には黒色点が多数散在する。背鰭と臀鰭はそれぞれ黄色～橙色で、縁辺に向かって濃くなる。また、それぞれ白色で縁取られ、その内側に弧状の細い黒色帯がある。背鰭軟条部に眼径とほぼ同大の黒色斑があるが、この黒色斑がない個体もみられる。尾鰭は透明。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は体側面に黒色点が多数散在

■ コクテンカタギ *Chaetodon guentheri* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

することでゴマチヨウチヨウウオ *C. citrinellus* Cuvier, 1831 に似る。しかし、コクテンカタギはゴマチヨウチヨウウオと比較して、体側面の地色が白色であること(ゴマチヨウ

チヨウウオでは薄黄色～黄色)、臀鰭に黒色域がないこと(臀鰭縁辺が幅広い黒色域で縁取られる)から識別される。

(岩坪洗樹)

■ ミゾレチヨウチヨウウオ *Chaetodon kleinii* KAUM-I. 48108, 40.1 mm SL

スズキ目 チョウチヨウウオ科 チョウチヨウウオ属

ミゾレチヨウチヨウウオ

Chaetodon kleinii
Bloch, 1790

形態 背鰭 XIII-XIV, 20-23; 臀鰭 III, 17-20; 胸鰭 13-15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 29-39。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 体前半部は白色だが、後半部に向かい黄色から橙色になる。眼を通る明瞭な黒色横帯と体側中央を通る不明瞭な黒色横帯がある。背鰭、臀鰭軟条部は白く縁取られる。腹鰭は黒色を呈す。

分布 紅海とアラビア海を除くインド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、鹿

■ ミゾレチヨウチヨウウオ *Chaetodon kleinii* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

児島県甌島、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は幼魚と成魚では色彩において大きな差異はみられない。

(岩坪洗樹)



■ ニセフウライチヨウウオ *Chaetodon lineolatus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

ニセフウライチヨウウオ

Chaetodon lineolatus
Cuvier, 1831

形態 背鰭 XII, 24–28; 臀鰭 III, 20–22; 胸鰭 15–17; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 21–30。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 眼を通る黒色横帯は、眼上で二又する。体は白色で、細い黒色横帯が多数ある。この黒色横帯は腹部で途切れる。背鰭、臀鰭、尾鰭は黄色。背鰭軟条基底から尾柄にかけて黒色帯がある。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はヒメフウライチヨウウオ *C. oxycephalus* Bleeker, 1853 とスダレチヨウウオ *C. ulietensis* Cuvier, 1831 に似る。しかし、ニセフウライチヨウウオは両種と比較して、頭部の眼を通る黒色横帯が連続すること（ヒメフウライチヨウウオでは眼上部で途切れる）、背鰭軟条基底から尾柄部にかけて黒色帯があること（スダレチヨウウオでは黒色帯はなく、尾柄部に黒色斑がある）から識別される。

(岩坪洗樹)

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

チヨウハン

Chaetodon lunula
(Lacepède, 1802)

形態 背鰭 XI–XIII, 22–25; 臀鰭 III, 17–19; 胸鰭 15–16; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 31–41。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 眼を通る黒色横帯があるが、前鰓蓋骨下端付近で途切れる。頭部は、眼を通る黒色横帯より前方が黄色で、後方が白色。成魚では、体側面の地色は黄色で背面はやや暗く、細い橙色縦帯が多数ある。体側面前上部に二又する太い黒色斜帯がある。また、背鰭軟条基底から尾柄にかけて黒色帯がある。幼魚では、体側面の地色は黄色で背面はやや暗く、前上部に不明瞭な黒色斑がある。背鰭軟条部と尾柄に、それぞれ眼径と同大の黒色斑がある。

分布 紅海を除くインド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種とチヨウチヨウウオ *C. auripes* Jordan & Snyder, 1901 の幼魚は互いに酷似する。しかし、チヨウハンとはチヨウチヨウウオと比較して、尾柄に黒色斑があること（チヨウチヨウウオにはない）から識別される。

(岩坪洗樹)



■ チョウハン *Chaetodon lunula* BSKU 106156, 98.9 mm SL



■ チョウハン *Chaetodon lunula* KAUM-I. 51437, 47.0 mm SL



■ チョウハン *Chaetodon lunula* KAUM-I. 39736, 23.6 mm SL



■ チョウハン *Chaetodon lunula* FRLM 42715, 129.4 mm SL



■ チョウハン *Chaetodon lunula* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ミスジチョウウオ *Chaetodon lunulatus* KAUM-I. 40131, 99.9 mm SL

スズキ目 チョウチヨウウオ科 チョウチヨウウオ属

ミスジチョウウオ

Chaetodon lunulatus
Quoy & Gaimard, 1825

形態 背鰭 XIII–XIV, 20–22; 臀鰭 III, 18–21; 胸鰭 13–15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 30–39。体は楕円形で、強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟

条部後縁は丸い。

色彩 頭部から体側腹面にかけて黄色で、体側背面にむかって白色がかかる。吻端は褐色がかり、眼を通る黒色横帯がある。体



■ ミスジチョウチヨウウオ *Chaetodon lunulatus* BSKU 108234, 98.9 mm SL



■ ミスジチョウチヨウウオ *Chaetodon lunulatus* KAUM-I. 41246, 14.7 mm SL

側面には灰白色の縦帯が多数ある。腹鰭は黄色。背鰭軟条部基底から尾柄にかけて不明瞭な黒色帯がある。尾鰭基底に黒色横帯があり、尾鰭は透明。成魚の臀鰭は褐色で、2本の黒色帯がある。幼魚の臀鰭軟条部は黒色で縁取られる。

分布 東インド洋から太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、沖ノ鳥島、千葉県以南の太平洋沿岸、鹿児島県の東シナ海沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

(岩坪洗樹)



■ ミスジチョウチヨウウオ *Chaetodon lunulatus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 チョウチヨウウオ科 チョウチヨウウオ属

アケボノチョウチヨウウオ

Chaetodon melannotus
Bloch & Schneider, 1801

形態 背鰭 XII-XIII, 17-20; 臀鰭 III, 17-18; 胸鰭 12-15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 29-36。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

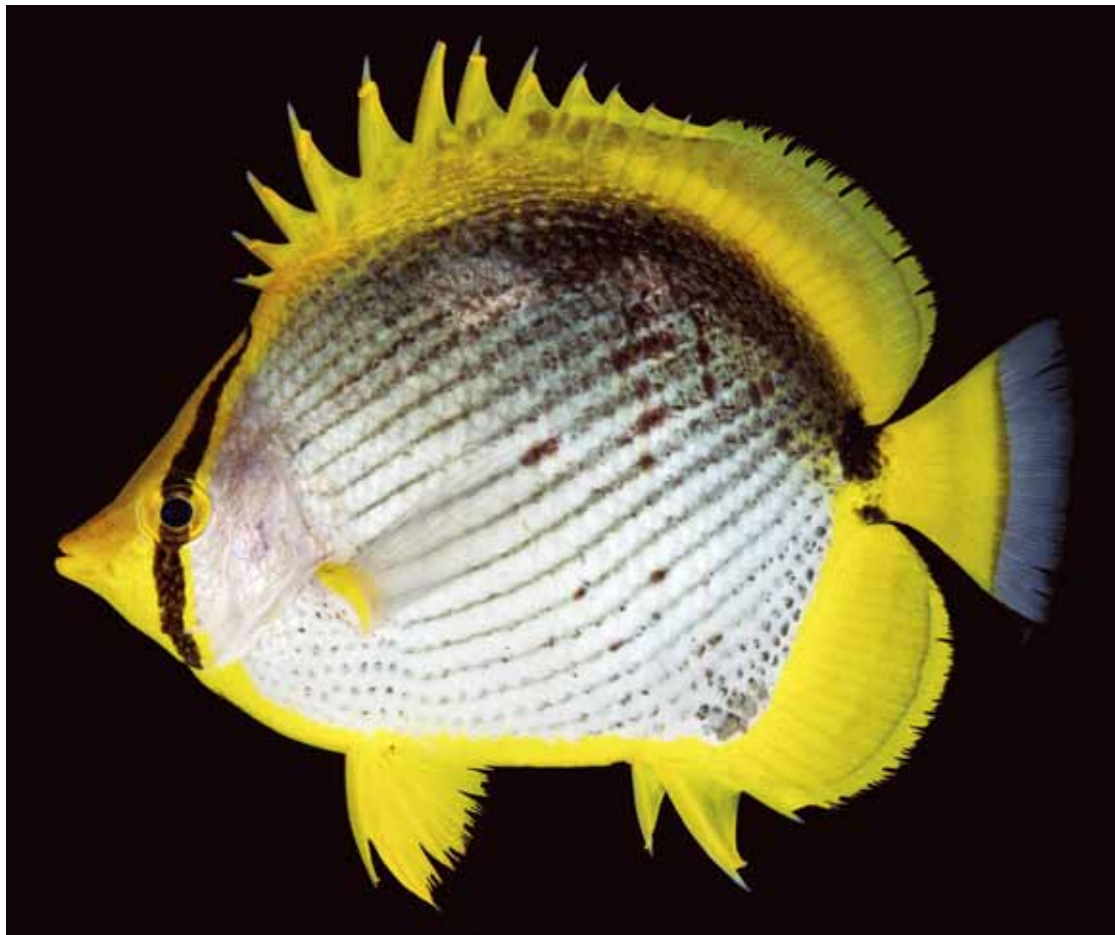
色彩 頭部は前半部が黄色で後半部が白色。目を通る黒色横帯がある。体側部の地色は白色で、多数の黒色点が斜線状に複数列並ぶ。この黒色点列は背側に向かうにしたがい太くなり、後方で交わり黒色域を形成する。背鰭、臀鰭、腹鰭、および体側面の縁辺は黄色を呈す。尾鰭は、成魚では黄色を呈すが、幼魚では透明。また、幼魚の尾柄には眼と同大の黒色斑がある。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、熊本県、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

(岩坪洗樹)



■ アケボノチョウチヨウウオ *Chaetodon melannotus* KAUM-I. 39935, 19.6 mm SL

■ アケボノチヨウチヨウウオ *Chaetodon melannotus* KAUM-I. 55066, 115.9 mm SL

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

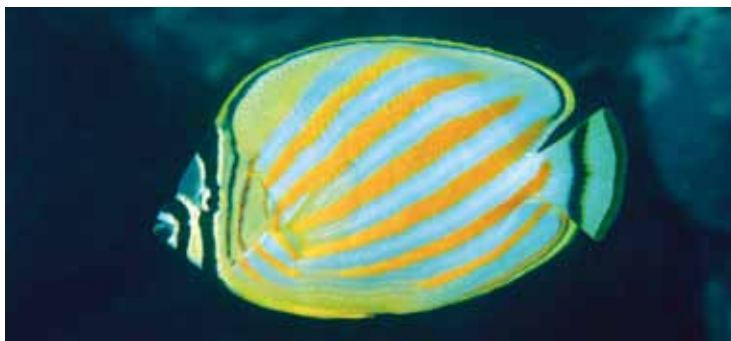
ハナグロチヨウチヨウウオ

Chaetodon ornatissimus
Cuvier, 1831

形態 背鰭 XII–XIII, 24–28; 臀鰭 III, 20–23; 胸鰭 15–16; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 36–51。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁が尖る。

色彩 頭部と体側面の地色は白色。頭部に黒色横帯が3本ある。吻端は黒色。両眼間に黒色斑がある。体側面に瞳孔とほぼ同幅の橙色斜帯が6本ある。背鰭と臀鰭はそれぞれ黒色で縁取られ、その内側は薄黄色がかかる。背鰭縁辺の内側に弧状の細い黒色帯がある。腹鰭は黄色。尾鰭に黒色横帯が2本ある。

分布 東インド洋から中央太平洋にかけて

■ ハナグロチヨウチヨウウオ *Chaetodon ornatissimus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

広く分布する。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は体側面に瞳孔とほぼ同幅の斜帯が6本あることでオウギチヨウチヨウウオ *C. meyeri* Bloch & Schneider, 1801 に

似る。しかし、ハナグロチヨウチヨウウオはオウギチヨウチヨウウオと比較して、体上半部の斜帯上端が一点に集中しないこと（オウギチヨウチヨウウオでは一点に集中する）から識別される。

(岩坪洗樹)



■ ハナグロチヨウチヨウウオ *Chaetodon ornatissimus* KAUM-I. 40145, 138.7 mm SL

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

スミツキノサマダイ

Chaetodon plebeius
Cuvier, 1831

形態 背鰭 XIII-XV, 16-19; 臀鰭 IV-V, 14-17; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 33-41。体は楕円形で、強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。

色彩 体全体の地色は黄色で、眼を通る黒色横帯がある。体側面中央のやや上方に楕円形の青色がかかった灰色斑がある。尾柄部に眼とほぼ同大の黒色斑がある。尾鰭後縁は透明。

分布 アンダマン海から西太平洋にかけて分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、九州西岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。



■ スミツキノサマダイ *Chaetodon plebeius* KAUM-I. 45988, 102.1 mm SL



■ スミツキトノサマダイ *Chaetodon plebeius* KAUM-I. 41253, 98.0 mm SL



■ スミツキトノサマダイ *Chaetodon plebeius*
KAUM-I. 45988, 102.1 mm SL

備考 本種はミドリイシ類のポリプを主食としているため、サンゴへの依存度が高い(加藤、2011)。幼魚は枝状サンゴ周辺やサンゴの枝の間で単独、または複数匹の群れで生活している。

チヨウチヨウオ属の多くの種は、臀鰭棘が3本であることが多いが、本種では通常4本である。

(岩坪洗樹)



■ スミツキトノサマダイ *Chaetodon plebeius* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

■ シチセンチヨウチヨウウオ *Chaetodon punctatofasciatus* KAUM-I. 40147, 91.0 mm SL

スズキ目 チョウチヨウウオ科 チョウチヨウウオ属

シチセンチヨウチヨウウオ

Chaetodon punctatofasciatus
Cuvier, 1831

形態 背鰭 XIII–XIV, 22–25 ; 臀鰭 III, 17–18 ; 胸鰭 13–14 ; 腹鰭 I, 5 ; 側線有孔鱗 34–42。体は楕円形で、強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 体全体の地色は黄色がかった白色で、体側面に灰色斑が散在する。また、体側背面には7本の灰色横帯があり、後方の帯ほど濃くなる。眼を通る黒色で縁取られた黄色横帯がある。項部に黒色斑がある。背鰭、臀鰭は黄色で縁取られ、その黄色域のすぐ内側を黒色線が走る。尾柄部は橙色を呈す。尾鰭は中央に黒色横帯がある。この帯より前方は黄色、後方は透明である。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、紀伊半島、

■ シチセンチヨウチヨウウオ *Chaetodon punctatofasciatus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 チョウチヨウウオ属は多くの種で眼を通る横帯が黒色を呈するが、本種では黄

色を呈することが特徴である。本種の日本国内での観察例は極めて少ない（井田、2009）。

（岩坪洗樹）

■ イッテンチヨウウオ *Chaetodon unimaculatus* BSKU 106160, 46.9 mm SL

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

イッテンチヨウウオ

Chaetodon unimaculatus
Bloch, 1787

形態 背鰭 XIII, 21-23; 臀鰭 III, 16-20; 胸鰭 14-15; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 38-42。体はほぼ円形で、強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 眼を通る黒色横帯がある。体側面の地色は白色で背側が黄色味を帯びる。また、体側面中央のやや上方に白色で縁取られた黒色斑がある。この黒色斑の前方に5-7本の黄色横線が並ぶ。背鰭と臀鰭は黄色で、後縁が白色を呈す。その白色域の直前を、黒色横帯が背鰭から臀鰭にかけて走る。腹鰭は黄色を呈す。尾鰭は透明。

分布 東インド洋と太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、鹿児島湾、熊本県、

大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は体側面中央のやや上方に黒色斑があることでトノサマダイ *C. speculum* Cuvier, 1831 に似る。しかし、イッテンチヨウウオはトノサマダイと比較して、背鰭から臀鰭にかけて黒色横帯があること(トノサマダイにはない) や体側面中央のやや上方にある黒色斑が白色で縁取られること(縁取られない) などから識別される。

(岩坪洗樹)

スズキ目 チヨウチヨウウオ科 チヨウチヨウウオ属

フウライチヨウウオ

Chaetodon vagabundus
Linnaeus, 1758

形態 背鰭 XII-XIII, 22-25; 臀鰭 III, 19-20; 胸鰭 14-16; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 30-37。体は楕円形で、強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁はやや尖る。

色彩 眼を通る黒色横帯がある。体側面の地色は白色で後方が黄色味を帯びる。また、体側面に複数本の灰色斜帯がある。この斜帯は、体背面から前方へ向かう斜帯と、体腹面から前方へ向かう斜帯の2種類があるが、斜帯同士は交差しない。背鰭棘部は白色を呈す。背鰭と臀鰭の軟条部の地色は黄色を呈し、成魚ではそれぞれ後縁に沿って黒色帯が走る。幼魚では背鰭軟条部に眼径とほぼ同大の黒色斑があるが、この黒色斑は成長にしたがい消失する。背鰭軟条部から臀鰭軟条部中央付近

にかけて幅広い黒色帯がある。腹鰭は白色を呈す。尾鰭は、幼魚では透明であるが、成魚では前半部が黄色で中央に2本の黒色横帯があり、後半部が透明である。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、茨城県以南の太平洋沿岸、男女群島、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 種小名の *vagabundus* は放浪を意味する。

(岩坪洗樹)



■ フウライチヨウチヨウウオ *Chaetodon vagabundus* FRLM 43062, 115.9 mm SL



■ フウライチヨウチヨウウオ *Chaetodon vagabundus* KAUM-I. 42300, 52.4 mm SL



■ フウライチヨウチヨウウオ *Chaetodon auriga* NSMT-P 110371, 32.4 mm SL



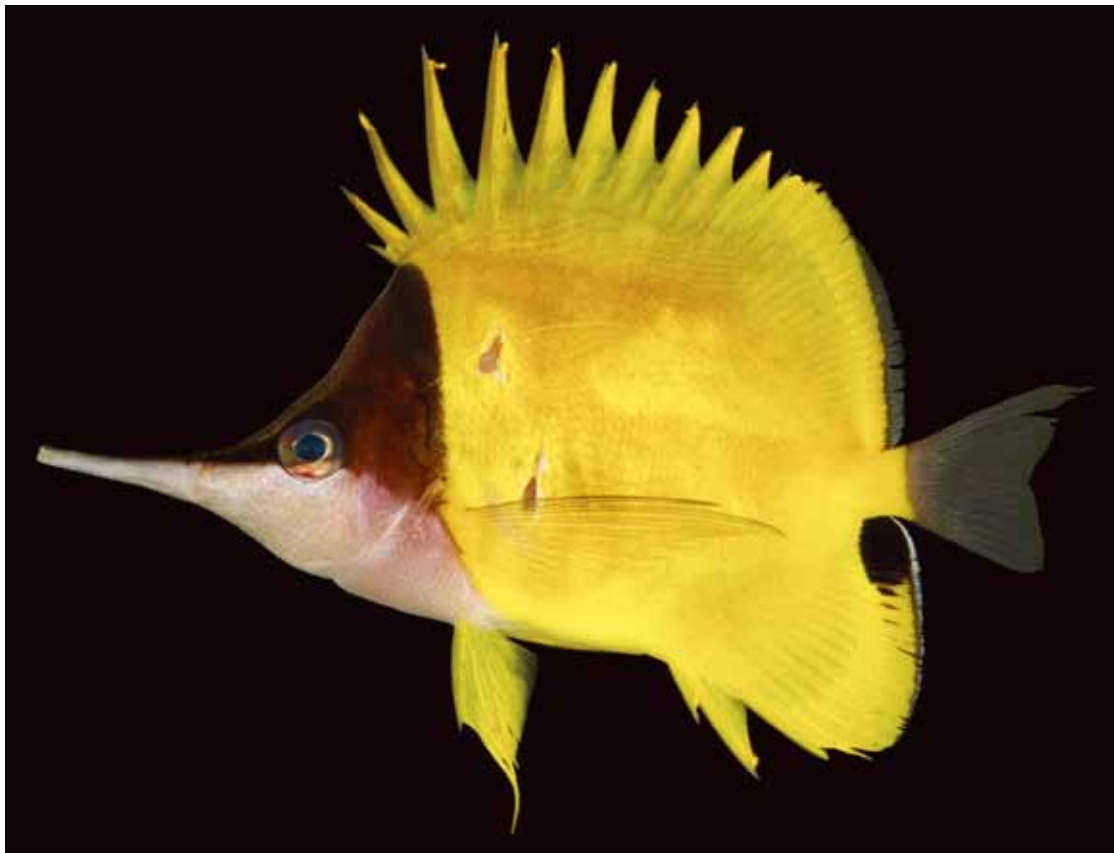
■ フウライチヨウチヨウウオ *Chaetodon auriga* KAUM-I. 39737, 20.7 mm SL



■ フウライチヨウウオ *Chaetodon vagabundus* KAUM-I. 50838, 101.1 mm SL



■ フェヤッコダイ *Forcipiger flavissimus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

■ フェヤッコダイ *Forcipiger flavissimus* KAUM-I. 45867, 103.1 mm SL

スズキ目 チョウチョウウオ科 フェヤッコダイ属

フェヤッコダイ

Forcipiger flavissimus
Jordan & McGregor, 1898

形態 背鰭 XII, 22–24 ; 臀鰭 III, 17–18 ; 胸鰭 15 ; 腹鰭 I, 5 ; 側線有孔鱗 67–80。体は強く側扁する。吻は細長く、体高は吻長の約 1.6–2.1 倍。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭軟条部後縁は丸く、臀鰭軟条部後縁はやや尖る。尾鰭上葉先端が突出する。側線が尾鰭基底まで達する。

色彩 頭部上半部は黒色で、下半部は白色。体部、背鰭、臀鰭、および胸鰭は黄色を呈し、臀鰭軟条後端に黒色斑が 1 個ある。胸鰭と尾鰭は透明。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はオオフェヤッコダイ *Forcipiger longirostris* (Broussonet, 1782) と比較して、背鰭が通常 12 棘であること（オオフェヤッコダイでは通常 11 棘）、体高は吻長

■ フェヤッコダイ *Forcipiger flavissimus*
15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

の約 1.6–2.1 倍（体高は吻長の約 1.1–1.5 倍）から識別される。

(岩坪洗樹)

スズキ目 チョウチョウウオ科 カスミョウチヨウウオ属

カスミョウチヨウウオ

Hemitaurchthys polylepis
(Bleeker, 1857)

形態 背鰭 XI–XII, 23–26 ; 臀鰭 III, 19–22 ; 胸鰭 16–18 ; 腹鰭 I, 5 ; 側線有孔鱗 68–74。体は楕円形で、強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い

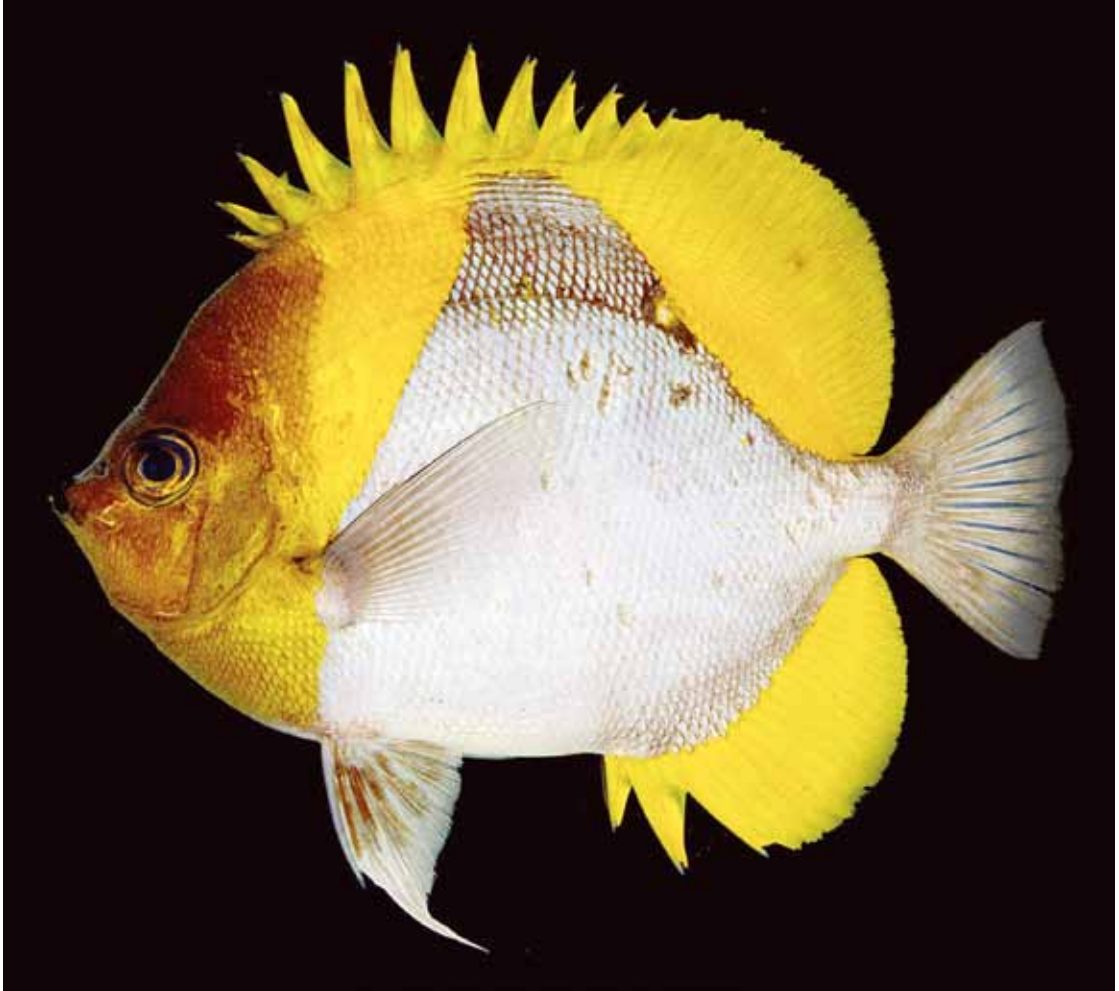
糸状の歯が密に分布する。背鰭、臀鰭軟条部後縁は丸い。

色彩 背鰭第 2 棘と腹鰭始部より前方の体部は褐色を呈す。背鰭第 2–7 棘基底から胸鰭基底上端、背鰭、および臀鰭は黄色を呈す。黄色域を除く体側面、腹鰭、および後縁を除く尾鰭は白色を呈す。胸鰭と尾鰭後縁は透明。

分布 東インド洋から太平洋にかけて分布する。国内では静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は潮通しの良いサンゴ礁外縁の斜面や断崖などの中層を大群で遊泳する。また、本種はプランクトン食である（井田、2009）。種小名は *poly* (多い) *lepis* (鱗) の意味で、側線有孔鱗が 68–74 枚とチヨウチヨウウオ科魚類としては比較的多い。

(岩坪洗樹)



■ カシミチヨウチヨウウオ *Hemitaurchius polylepis* NSMT-P 110452, 106.0 mm SL



■ カシミチヨウチヨウウオ *Hemitaurchius polylepis* KAUM-I. 45991, 125.0 mm SL



■ カシミチヨウチヨウウオ *Hemitaurchius polylepis* 18 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki

スズキ目 チョウチョウウオ科 ハタタテダイ属

ハタタテダイ

Heniochus acuminatus
(Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 XI, 23–27; 臀鰭 III, 16–19; 胸鰭 16–17; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 49–52。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭第4棘が著しく伸長する。背鰭軟条部後縁は丸く、臀鰭軟条部後縁はやや尖る。側線が尾鰭基底まで達する。

色彩 体全体の地色は白色。眼間域と体側面前部、後部に幅広い黒色帯がある。体側面の黒色帯は背鰭軟条部から始まり、それぞれ腹鰭、臀鰭まで続く。なお、最後部の黒色帯は臀鰭最長軟条先端には達しない。背鰭後半部、尾柄上部、胸鰭、および尾鰭はそれぞれの軟条部鰭膜を除き黄色を呈す。背鰭軟条部、胸鰭、および尾鰭の軟条部のそれぞれの鰭膜は半透明である。

分布 インド・太平洋に分布する（ハワイ諸島、マルケサス諸島、イースター島を除く）。国内では小笠原諸島、青森県以南の太平洋沿岸、富山県以南の日本海沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は形態的にムレハタタテダイ *H. diphreutes* Jordan, 1903 と酷似する。しかし、ハタタテダイはムレハタタテダイと比較して、背鰭棘が通常 11 本であること（ムレハタタテダイでは通常 12 本）、臀鰭の黒色域が最長軟条先端に達しないこと（達する）、両顎前部の歯列が 5–7 列であること（2–3 列）などから識別される。

(岩坪洗樹)

スズキ目 チョウチョウウオ科 ハタタテダイ属

ミナミハタタテダイ

Heniochus chrysostomus
Cuvier, 1831

形態 背鰭 XII, 21–22; 臀鰭 III, 17–19; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 57–61。体は強く側扁する。吻は突出し、嘴状である。口は小さく、細い糸状の歯が密に分布する。背鰭第4棘が著しく伸長する。背鰭軟条部後縁は丸く、臀鰭軟条部後縁はやや尖る。側線が尾鰭基底まで達する。成魚は眼の上方に棘があるが、幼魚にはない。

色彩 体の地色は乳白色で、吻端は黄色。幅広い黒褐色斜帯が 3 本あり、前方の斜帯は頭部上方から腹鰭にかけて、中央の斜帯は背鰭棘部中央から臀鰭軟条部にかけて、後方の斜帯は背鰭棘後半部から背鰭基底後端にかけて伸びる。尾鰭基底に

■ ハタタテダイ *Heniochus acuminatus* KAUM-I. 48023, 36.9 mm SL

三角形の褐色斑がある。背鰭と尾鰭の軟条は薄い黄色で、鰭膜は透明。幼魚は臀鰭軟条部に眼とほぼ同大の黄色で縁取られた黒色斑があるが、成魚では消失する。

分布 東インド・太平洋（キーリング諸島からツアモツ諸島にかけて；ハワイ諸島を

除く）に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、福岡県、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は黒色帯が頭部上方から腹鰭にかけてあることで同属多種と容易に識別される。

(岩坪洗樹)



■ ミナミハタテダイ *Heniochus chrysostomus* KAUM-I. 41251, 108.4 mm SL



■ ミナミハタテダイ *Heniochus chrysostomus* KAUM-I. 41234, 37.5 mm SL



■ ミナミハタテダイ *Heniochus chrysostomus* BSKU 108235, 36.5 mm SL



■ ミナミハタテダイ *Heniochus chrysostomus* 16 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki



■ シテンヤッコ *Apolemichthys trimaculatus* NSMT-P 110507, 132.0 mm SL

スズキ目 キンチャクダイ科 シテンヤッコ属

シテンヤッコ

Apolemichthys trimaculatus
(Cuvier, 1831)

形態 背鰭 XIV, 17-18; 臀鰭 III, 17-18; 胸鰭 17-18; 側線有孔鱗 38-47 + 4-6。間鰓蓋骨が大きく、下縁は滑らかである。

鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。背鰭、臀鰭後縁は丸い。尾鰭は截形に近いが、後縁が丸みを帯びる。

色彩 額と主鰓蓋骨上端に眼とほぼ同大の黒色斑がある。唇は藤色を呈す。体と各鰭（臀鰭を除く）の地色は黄色を呈す。体側部は、縁が黒褐色の鱗が並び、密な網

目状模様を形成する。成魚の臀鰭は上半部が白色で、下半部が黒色を呈す。幼魚では眼を通る黒色横帯と背鰭軟条部に1黒色斑があるが、成長にしたがい消失する。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

(岩坪洗樹)

スズキ目 キンチャクダイ科 アブラヤッコ属

ソメワケヤッコ

Centropyge bicolor
(Bloch, 1787)

形態 背鰭 XV, 14-15; 臀鰭 III, 17-18。涙骨前縁に弱い鋸歯がある。間鰓蓋骨下縁は鋸歯状である。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。尾鰭は截形に近いが、後縁が丸みを帯びる。

色彩 体の前半部は黄色、後半部は青色に体中央付近で明瞭に二分される。若い個体では、後半部の青色域に複数本の濃青色横帯がみられる。眼を通る青色横帯があるが、眼下方では不明瞭になる。腹鰭と尾鰭は黄色を呈する。



■ ソメワケヤッコ *Centropyge bicolor* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は雌性先熟の性転換を行い、ハレムを形成する（島田、2009）。
（岩坪洗樹）

スズキ目 キンチャクダイ科 アブラヤッコ属

ルリヤッコ

Centropyge bispinosa
(Günther, 1860)

形態 背鰭 XIV, 15; 臀鰭 III, 15-17。涙骨前縁に弱い鋸歯がある。間鰓蓋骨下縁は鋸歯状である。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。尾鰭は截形に近いが、後縁が丸みを帯びる。

色彩 頭部は濃青色を呈する。体側面の地色は橙色であるが、変異が多く、個体によって濃青色を呈するものもある。体側面に多数の濃青色横帯が走る。この濃青色横帯は若い個体ほど少なく、成長にしたがい増加する。背鰭、臀鰭、および尾鰭は濃青色を呈し、それぞれの縁辺は水色で



■ ルリヤッコ *Centropyge bispinosa* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

縁取られる。胸鰭は軟条が黄色で、鰭膜が透明である。腹鰭は橙色で、前縁を濃青色が縁取る。

小笠原諸島、和歌山県、および琉球列島に分布する。

分布 ハワイ諸島とイースター島を除くインド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、

備考 本種は雌性先熟の性転換を行い、ハレムを形成する（島田、2009）。警戒心がひじょうに強い。

（岩坪洗樹）

スズキ目 キンチャクダイ科 アブラヤッコ属

アカハラヤッコ

Centropyge ferrugata
Randall & Burgess, 1972

形態 背鰭 XIV, 17; 臀鰭 III, 17-18; 胸鰭 16-17。眼前骨前縁に弱い鋸歯がある。間鰓蓋骨下縁は鋸状である。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。尾鰭は截形に近いが、後縁が丸みを帯びる。

色彩 体はほぼ一様に橙色で、頭部に向かって灰色がかかる。体側面には小黒色斑が散在する。背鰭、臀鰭は黒色がかかった橙色で、後縁に青色斑が3-5個並び、そのほかの縁辺は青色で縁取られる。腹鰭は橙色で、前縁が青色で縁取られる。尾鰭は灰色がかかった青色を呈す。

分布 日本、台湾、フィリピン諸島から報告されている。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は雌性先熟の性転換を行うが、雌雄および幼魚に著しい差異はない。ハレムを形成する（島田、2009）。

（岩坪洗樹）



■ アカハラヤッコ *Centropyge ferrugata* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ アカハラヤッコ *Centropyge ferrugata* NSMT-P 110517, 56.0 mm SL

スズキ目 キンチャクダイ科 アブラヤッコ属

ヘラルドコガネヤッコ

Centropyge heraldi
Woods & Schultz, 1953

形態 背鰭 XV, 15; 臀鰭 III, 17; 胸鰭 17。涙骨前縁に弱い鋸歯がある。間鰓蓋骨下縁は鋸状である。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。背鰭、臀鰭の後端は尖る。尾鰭は截形に近いが、後縁が丸みを帯びる。

色彩 体全体の地色は黄色を呈し、眼の周囲に虫喰い状の黄色斑が散在する黒色域がある。下唇は青色がかかった灰色を呈す。

分布 ハワイ諸島を除く太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種はコガネヤッコ *C. flavissima* (Cuvier, 1831) に似る。しかし、ヘラルドコガネヤッコはコガネヤッコと比較して、眼の周囲に黒色域があること（コガネヤッコでは眼窩縁辺が青色である）や主鰓蓋骨後縁が体色と同色で黄色であること（青色を

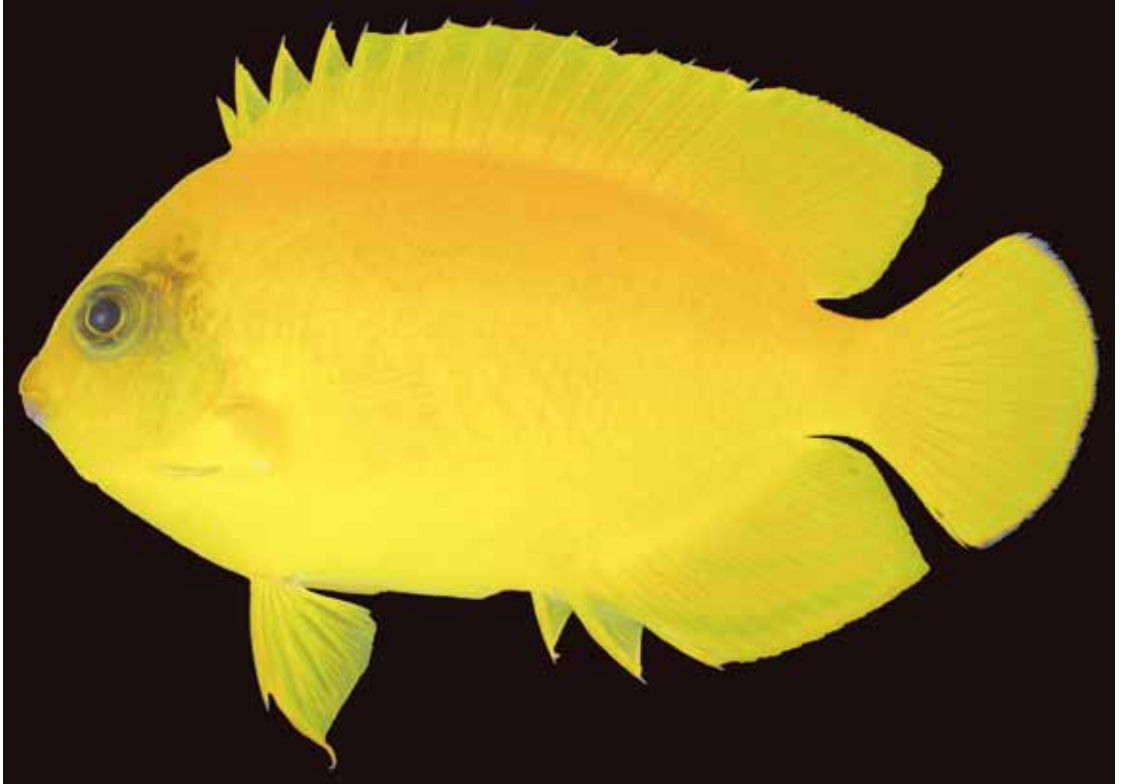


■ ヘラルドコガネヤッコ *Centropyge heraldi* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

呈する）などから識別される。また、コガネヤッコの幼魚は体側面中央に黒色斑があるが、ヘラルドコガネヤッコにはない。

和名は種小名の *heraldi* に因む。本種はハレムを形成する（島田、2009；加藤、2011）。

（岩坪洗樹）



■ ヘラルドコガネヤッコ *Centropyge heraldi* KAUM-I. 58519, 57.7 mm SL



■ ヘラルドコガネヤッコ *Centropyge heraldi* KAUM-I. 58501, 43.5 mm SL



■ ナメラヤッコ *Centropyge vrolikii* KAUM-I. 47911, 41.7 mm SL

スズキ目 キンチャクダイ科 アブラヤッコ属

ナメラヤッコ

Centropyge vrolikii
(Bleeker, 1853)

形態 背鰭 XIV, 15-16; 臀鰭 III, 16; 胸鰭 16-17。眼前骨前縁に弱い鋸歯がある。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。尾鰭は截形に近いが、後縁が丸みを帯びる。

色彩 頭部は紫色がかった白色で、虹彩は橙色である。主鰓蓋骨縁上半部は黒色。胸鰭基底は橙色。体側部は薄い茶色がかった緑色で、腹面に向かい白色になり、後半部に向かい黒色になる。背鰭と臀鰭の軟条部縁は白色。尾鰭は黒色で、後縁は白色。

分布 東インド洋から西太平洋にかけて分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、および琉球列島に分布する。

備考 成魚の全長は約 100 mm 程度と、



■ ナメラヤッコ *Centropyge vrolikii* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

キンチャクダイ科の中では小型の種である。 を形成する (島田, 2009)。
本種は雌性先熟の性転換を行い、ハレム

(岩坪洗樹)



■ ヤイトヤッコ *Genicanthus melanospilos*
Female 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 キンチャクダイ科 タテジマヤッコ属

ヤイトヤッコ

Genicanthus melanospilos
(Bleeker, 1857)

形態 背鰭 XV, 16; 臀鰭 III, 18; 胸鰭 15-17; 側線有孔鱗 46-48。眼前骨前縁に強い鋸歯がある。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。尾鰭は深く湾入し、両葉先端が著しく伸長する。

色彩 頭部の地色は灰色で、上半部に細い褐色横帯が並ぶ。体側部の地色は灰色で、腹面に向かい白色になり、細い褐色横帯が並ぶ。尾柄は黄色。背鰭、臀鰭、および尾鰭は、複雑な形の細かい黄色斑が密に散在する。雌の尾鰭は両葉が黒色で縁取られる。



■ ヤイトヤッコ *Genicanthus melanospilos* Male 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は雌性先熟の性転換を行い、ハレムを形成する(島田、2009)。(岩坪洗樹)

スズキ目 キンチャクダイ科 タテジマヤッコ属

トサヤッコ

Genicanthus semifasciatus
(Kamohara, 1934)

形態 背鰭 XV, 15-16; 臀鰭 III, 16-18; 胸鰭 16。眼前骨前縁に強い鋸歯がある。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。尾鰭は深く湾入し、両葉先端が著しく伸長する。

色彩 雄は頭部上半部は黄色を呈し、この黄色域は体側中央部まで続く。頭部下半部は灰色を呈す。体側面の地色は灰色で、上半部に細い黒色横帯が密に並ぶ。なお、この黒色横帯は黄色域に侵入しない。背鰭と尾鰭は灰色で、複雑な形をした黄色斑が密に散在する。臀鰭は灰色で、後半部に黄色斑がわずかに散在する。雌の尾鰭



■ トサヤッコ *Genicanthus semifasciatus* Male 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■トサヤッコ *Genicanthus semifasciatus* Male NSMT-P 110450, 109.0 mm SL



■トサヤッコ *Genicanthus semifasciatus* Female 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

は両葉が黒色で縁取られ、この黒色帯は尾柄部でつながる。

分布 日本、台湾、フィリピンに分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県

以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は雌性先熟の性転換を行い、少夫多妻の行動様式をもつ（島田、

2009）。本種の新参異名であるクマドリヤッコ *G. fucosus* Yasuda & Tominaga, 1970 は、三宅島から得られた本種の雌の標本に基づき記載された。

（岩坪洸樹）



■ ヒレナガヤッコ *Genicanthus watanabei* Male 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ヒレナガヤッコ *Genicanthus watanabei* Female 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 キンチャクダイ科 タテジマヤッコ属

ヒレナガヤッコ

Genicanthus watanabei
Yasuda & Tominaga, 1970

形態 背鰭 XV, 15；臀鰭 III, 17。眼前骨前縁に強い鋸歯がある。間鰓蓋骨下縁は鋸歯状である。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。雌雄ともに尾鰭は深く湾入し、両葉後端が

伸長するが、雄は雌と比べてより伸長する。

色彩 体は青色がかった灰色を呈する。雌の頭部には吻部から項部にかけて、3-4本の幅広い黒色横帯がある。雄は体側面下半部に複数本の黒色縦帯が走り、そのうち中央の縦帯は後部が橙色になる。背鰭と臀鰭は縁辺が黒色を呈する。尾鰭両葉前縁は黒色で縁取られるが、雄ではやや不明瞭である。

分布 太平洋に広く分布する（インドネシア、オーストラリア北岸、ハワイ諸島、およびイースター島を除く）。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は沖縄島から得られた2標本に基づき記載された。雌性先熟の性転換をすると考えられている（島田、2009）。
(岩坪洗樹)

■ スミレヤッコ *Paracentropyge venusta* BSKU 108325, 45.9 mm SL

スズキ目 キンチャクダイ科 シマヤッコ属

スミレヤッコ

Paracentropyge venusta
(Yasuda & Tominaga, 1969)

形態 背鰭 XIV, 16; 臀鰭 III, 15; 胸鰭 16。眼前骨前縁に弱い鋸歯がある。間鰓蓋骨下縁は鋸歯状。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。尾鰭は截形に近いが、後縁が丸みを帯びる。

色彩 頭部上半部と体側面上半部は青色で、腹面に向かって黄色になる。背鰭始部付近から体側腹面に向かって幅広い黄色帯がある。腹鰭は黄色を呈す。腹鰭前縁と臀鰭の縁辺は青色で縁取られる。

分布 日本、台湾、フィリピンに分布する。国内では伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 *Paracentropyge venusta* は Yasuda & Tominaga (1969) によって相模湾から得られた1標本に基づき新種として記載された。本種の種小名の *venusta* は「魅力的な」、「美しい」の意味。

(岩坪洗樹)

■ スミレヤッコ *Paracentropyge venusta* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

■ タテジマキンチャクダイ *Pomacanthus imperator* KAUM-I. 46005, 200.1 mm SL

スズキ目 キンチャクダイ科 サザナミヤッコ属

タテジマキンチャクダイ

Pomacanthus imperator
(Bloch, 1787)

形態 背鰭 XIII, 19-21; 臀鰭 III, 18-21; 胸鰭 19-20; 側線有孔鱗 77-99。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。体は櫛鱗で覆われる。側線は完全に尾柄部まで達する。成魚の背鰭後端は後方へ伸長する。臀鰭後縁は丸い。尾鰭は截形に近いが、後縁が丸みを帯びる。

色彩 幼魚は体の地色が黒色で、尾柄を中心とした白色円状線が並ぶ。若魚では、この白色円状線は背鰭、臀鰭、尾鰭で網目状になる。白色円状線は成長にともない増加するが、成魚では消失する。成魚は眼を通る青色で縁取られた黒色横帯がある。腹部は茶色を呈す。主鰓蓋骨後端から胸鰭基底後方にかけて黒色域がある。体側面に細い黄色と濃青色の縦帯が多数存在する。臀鰭は青白色で縁取られる。尾鰭は黄色を呈す。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、茨城県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島、南大東島に分布する。

■ タテジマキンチャクダイ *Pomacanthus imperator* KAUM-I. 45801, 48.5 mm SL

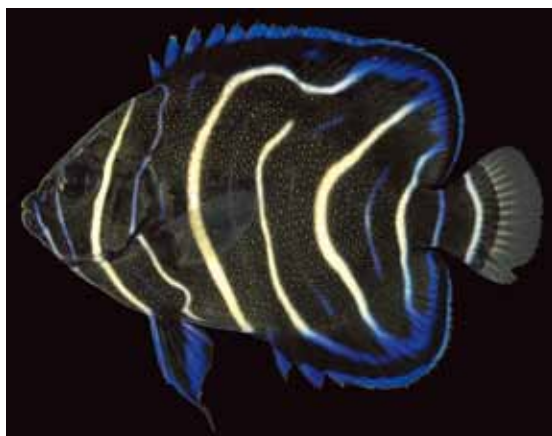
備考 本種の幼魚は、サザナミヤッコ *P. semicirculatus* (Cuvier, 1831) の幼魚に酷似する。しかし、タテジマキンチャクダイはサザナミヤッコと比較して、両眼を結ぶ白色線があること（サザナミヤッコでは吻

から頂部にかけて白色線がある）から識別される。本種はハレムを形成する（島田、2009）。

(岩坪洗樹)



■ サザナミヤッコ *Pomacanthus semicirculatus* KAUM-I. 41154, 146.6 mm SL



■ サザナミヤッコ *Pomacanthus semicirculatus* KAUM-I. 40017, 42.1 mm SL



■ サザナミヤッコ *Pomacanthus semicirculatus* KAUM-I. 48054, 14.9 mm SL

スズキ目 キンチャクダイ科 サザナミヤッコ属

サザナミヤッコ

Pomacanthus semicirculatus
(Cuvier, 1831)

形態 背鰭 XIII, 20–23；臀鰭 III, 18–21；
胸鰭 19–21；側線有孔鱗 65–70。鰓蓋下
部に後方へ向かう強い1棘がある。体は
櫛鱗で覆われる。側線は完全に尾柄部ま
で達する。成魚の背鰭、臀鰭後端は後方

へ伸長する。尾鰭は截形に近いが、後縁
が丸みを帯びる。

色彩 幼魚は体の地色が黒色で、尾柄を
中心とした白色円状線が並ぶ。この白色円

状線は成長にともない増加するが、成魚では消失する。成魚は体の地色が黄緑色で、体後半部に向かって濃くなる。体側面に多数の黒色点が散在する。鰓蓋と胸鰭を除く各鰭は、青白色で縁取られる。胸鰭は黄

色を呈す。背鰭、臀鰭、および尾鰭には、多数の白色点が散在する。

の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、茨城県以南

備考 キンチャクダイ科の中では大型種で、沖縄では食用とされる（島田、2009）。
（岩坪洗樹）



■ ニシキヤッコ *Pygoplites diacanthus* KAUM-I. 58540, 127.7.4 mm SL

スズキ目 キンチャクダイ科 ニシキヤッコ属

ニシキヤッコ

Pygoplites diacanthus
(Boddaert, 1772)

形態 背鰭 XIV, 17-18；臀鰭 III, 17-18；胸鰭 17。鰓蓋下部に後方へ向かう強い1棘がある。間鰓蓋骨は小さく、滑らか。体は櫛鱗で覆われる。背鰭、臀鰭後端は丸みを帯びる。尾鰭は截形に近いが、後縁が丸みを帯びる。

色彩 体全体の地色は黄色または橙色で、頭部から体側面にかけて青色がかった黒色で縁取られた白色横帯が並ぶ。この白色横帯は成長に伴って増える。幼魚時、眼径大の黒斑が背鰭軟条部にあるが、成長に伴って消失する。背鰭軟条部は幼魚では体側面とほぼ同色であるが、成魚では黒色がかった青色を呈し、青色点が散在する。臀鰭は1-5本の細い青色帯が縁辺と並行する。背鰭、臀鰭は青色で縁取られる。この青色帯は幼魚時にはないが、成長に伴い出現し増加する。尾鰭と腹鰭は黄色。



■ ニシキヤッコ *Pygoplites diacanthus* KAUM-I. 55126, 64.3 mm SL

分布 インド・西太平洋。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋

沿岸、大隅諸島、琉球列島、南大東島に分布する。

（岩坪洗樹）

■ ツボダイ *Pentaceros japonicus* KAUM-I. 51284, 212.4 mm SL

スズキ目 カワビシヤ科 ツボダイ属

ツボダイ

Pentaceros japonicus
Steindachner, 1883

形態 背鰭 XI, 13-15; 臀鰭 IV, 8-10; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 側線有孔 46-56; 脊椎骨 12+13。体は側扁する。体高は高く体長の 52-59%。頭部は露出した粗雑な骨に被われる。眼は大きい。吻端はとがる。口は小さく、下顎は上顎よりも少し長い。両顎と口蓋の前部に絨毛状の歯帯がある。頭部背面はくぼまない。背鰭、臀鰭および腹鰭の棘は強大で、背鰭第 3 棘は最も長い。背鰭棘条部の基底は軟条部よりもかなり長い。鱗は粗い楡鱗。

色彩 体色は紫がかったような褐色と灰色。腹面に向かうにつれてわずかに青みを含んだ灰色。背鰭、臀鰭は灰色がかった褐色で棘間の鰭膜は茶褐色、軟条部の鰭膜は半透明。胸鰭と尾鰭は灰色がかった褐色で鰭膜は半透明。腹鰭の鰭膜は濃い褐色。鱗の縁辺は茶褐色で縁取られる。

分布 北太平洋。国内では北海道から九州南岸の太平洋沿岸域、新潟県以南の日本海、小笠原諸島、与論島、東シナ海大陸棚縁辺に分布する。

■ ツボダイ *Pentaceros japonicus* FRLM 42848, 156.9 mm SL

備考 日本産ツボダイ科は 4 属。カワビシヤ属とテングダイ属は、背鰭棘数が 4 (ツボダイ属では 11-14)、臀鰭棘数が 3 (4-5) であることからツボダイ属と識別される。近縁のクサカリツボダイ属の背鰭は 13-14 棘 8-10 軟条 (ツボダイ属では 11 棘 13-15 軟条) であることから識別される。

水深 100-400 m の深場に生息する。稚魚は頭部に骨質突起があり、体側に不規

則な斑紋がある。表層を遊泳するが、成長するにつれて底層に移動する。その過程で稚魚期にあった突起や斑紋も次第に消失する。全長 30 cm になる。

ツボダイとして市場に流通しているのはクサカリツボダイ *Pseudopentaceros wheeleri* Hardy, 1983 であることが多い。

(原口百合子)



■ コトヒキ *Terapon jarbua* KAUM-I. 40282, 57.1 mm SL

スズキ目 シマイサキ科 コトヒキ属

コトヒキ

Terapon jarbua
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 XI–XII, 9–11; 臀鰭 III, 7–10; 胸鰭 13–14; 側線有孔鱗 75–100; 背鰭棘部中央下側線上方横列鱗 13–17; 側線下方横列鱗 19–24; 鰓耙 6–8+13–16; 脊

椎骨 10+15。体はやや側扁する。吻は鈍く、その上部はゆるく湾曲する。両顎の前部に犬歯がある。主鰓蓋骨には鋭い棘がある。背鰭棘条と軟条部の間は欠刻する。尾鰭後縁は浅く湾入し、葉部の先端は円い。

色彩 体側に弓形の暗色縦帯が3条並ぶ。尾鰭に3–5本の明瞭な暗色帯がある。

分布 インド・太平洋に分布する。国内で

は北海道から九州までの太平洋沿岸、青森県から長崎県の日本海・東シナ海沿岸、瀬戸内海、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 全長 30 cm になる。内湾や沿岸浅所、河口域に多く、群れをつくって生息する。幼魚は河口の汽水域に多い。鰾で発音する。

(千葉 悟)



■ ユゴイ *Kuhlia marginata* KAUM-I. 40284, 49.6 mm SL

スズキ目 ユゴイ科 ユゴイ属

ユゴイ

Kuhlia marginata
(Cuvier, 1829)

形態 背鰭 X, 10–12; 臀鰭 III, 11–12; 胸鰭 13–14; 側線有孔鱗 39–42; 鰓耙 7–9 + 16–19。体はよく側扁する。上顎後端は瞳前縁直下に到達する。上下顎には絨毛状歯が生える。鰓蓋に2本の棘がある。前鰓蓋骨縁下部は鋸歯状。鱗は櫛鱗で、頬部、鰓蓋上に鱗がある。吻部、眼隔域、上顎に鱗はない。尾鰭は深く切れ込む。

色彩 体側上部は銀灰色で、体側下部は銀白色。背鰭棘条部鱗膜は透明で黒色素が散在し、軟条部鱗膜は透明で上部が黒色に縁取られる。胸鰭、腹鰭は透明。臀鰭鱗膜は透明で、下部が黒色に縁取られる。尾鰭は透明で、上下縁は褐色、後縁は黒色に縁取られる。

分布 東インド洋、西太平洋、南太平洋に分布する。国内では茨城県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 本調査では与論島水路の淡水域で

みられた。本種は体長 100 mm を越えると主に淡水域に生息し、汽水・海水域ではみられない。

体側に黒色点があるものとないものが確認されており、黒色点の有無は生活環境によって変化している可能性がある (Randall & Randall, 2001)。

同属他種とは側線鱗数が 39–42、下枝鰓耙数 16–19、合計鰓耙数 23–28、尾鰭後縁が黒色に縁取られることから容易に識別される。

(目黒昌利)



■ ギンユゴイ *Kuhlia mugil* FRLM 42707, 52.9 mm SL

■ ギンユゴイ *Kuhlia mugil* KAUM-I. 39902, 51.8 mm SL■ ギンユゴイ *Kuhlia mugil* KAUM-I. 40019, 44.6 mm SL

スズキ目 ユゴイ科 ユゴイ属

ギンユゴイ

Kuhlia mugil
(Forster, 1801)

形態 背鰭 X, 10-11; 臀鰭 III, 10-12; 胸鰭 13-15; 側線有孔鱗 49-52; 鰓耙 9-11 + 24-27。体はよく側扁する。上顎後端は眼前線直下に到達する。上下顎には絨毛状歯が生える。鰓蓋に2本の棘がある。前鰓蓋骨縁下部は鋸歯状。鱗は櫛鱗で、頬部、鰓蓋上に鱗がある。吻部、眼隔域、上顎に鱗はない。尾鰭は深く切れ込む。

色彩 体側上部は銀灰色で、体側下部は

■ ギンユゴイ *Kuhlia mugil* KAUM-I. 39739, 30.1 mm SL

銀白色。背鰭鰭膜は透明で上部は黒色に縁取られる。胸鰭、腹鰭、臀鰭は透明。幼魚期尾鰭には上下対称の黒色帯がはいり、

分布 インド・汎太平洋に分布する。国内

では小笠原諸島、茨城県以南の太平洋沿岸、九州北西岸、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 同属他種とは側線鱗数が49-53、背鰭軟条数は通常10、尾鰭両葉に黒色帯

があることから容易に識別される。

生活史の一部を淡水域または汽水域で過ごす本科魚類では珍しく生涯海で過ごす。本調査では水深1.5 m以下の浅場所で見られた。

(目黒昌利)



スズキ目 ユゴイ科 ユゴイ属

オオクチユゴイ

Kuhlia rupestris
(Lacepède, 1802)

形態 背鰭 X, 10-11; 臀鰭 III, 10-11; 胸鰭 13-14; 側線有孔鱗 9-41; 鰓耙 7-9 + 17-19。体はよく側扁する。口は大きく上顎後端は眼の中央に達する。上下顎には絨毛状歯が生える。鰓蓋に2本の棘がある。前鰓蓋骨縁下部は鋸歯状。鱗は櫛鱗で、頬部、鰓蓋上に鱗がある。吻部、眼隔域、上顎に鱗はない。尾鰭はやや浅く切れ込み、両葉先端はやや円い。

色彩 体側上部は銀灰色で、体側下部は銀白色。体側背側の鱗の縁辺は黒く縁取られ、体側中央には黒色点が散在する。背鰭鰭膜は透明だが、黒色色素が密に散在し、暗色にみえる。胸鰭、腹鰭、臀鰭は透明。幼魚期尾鰭は透明で、両葉中央に上下対称の黒色斑がはいり、成魚になると尾鰭は黒色、両葉先端が橙色になる。



■ オオクチユゴイ *Kuhlia rupestris* KAUM-I. 40284, 49.6 mm SL

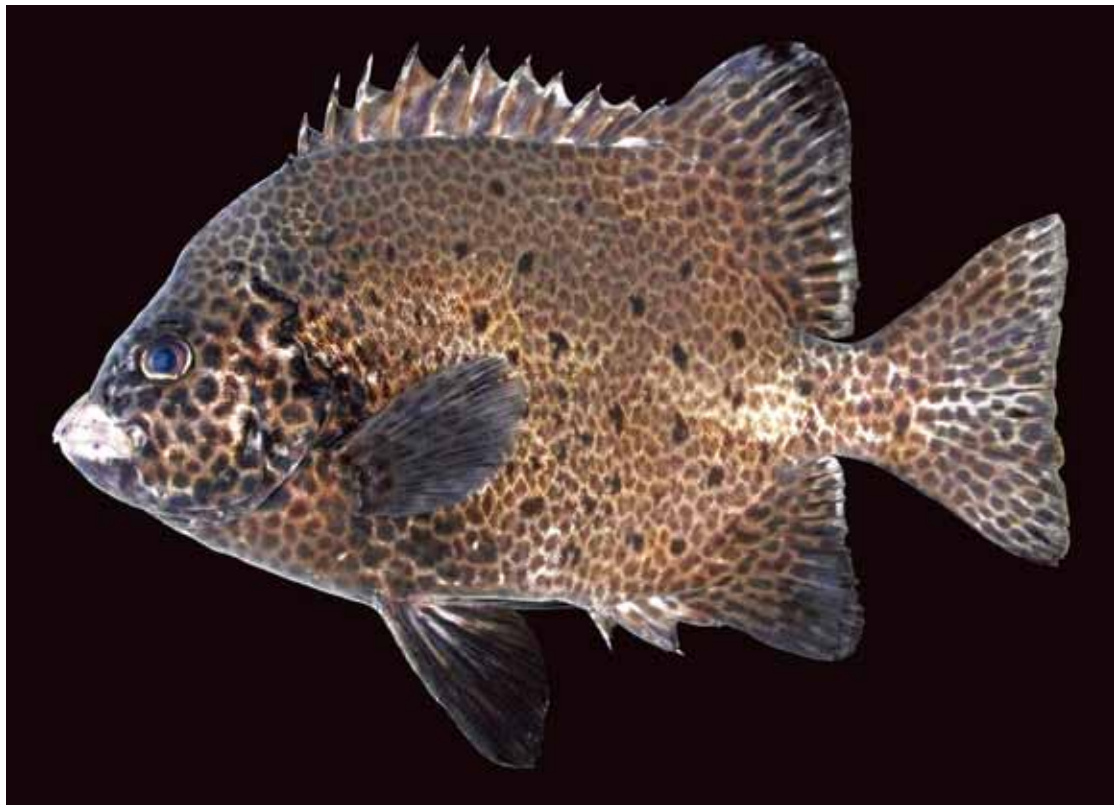
分布 インド・太平洋に分布する。国内では神奈川県、高知県、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 同属他種とは側線鱗数が39-42、臀鰭軟条数は通常10、尾鰭切れ込みがやや浅い、口は大きく上顎後端が眼の中

央に達する、体側上部の鱗が黒色に縁取られる、幼魚では尾鰭両葉中央に黒色斑があることから容易に識別される。

本種は海でもみられるが主に汽水・淡水域に生息する。本調査では与論島水路の淡水域で見られた。

(目黒昌利)



スズキ目 イシダイ科 イシダイ属

イシガキダイ

Oplegnathus punctatus
(Temminck & Schlegel, 1844)

形態 背鰭 XII, 15–16；臀鰭 III, 13。体は側扁する。両顎の各歯は接合し強固な嘴を形成する。臀鰭棘は遊離棘にならない。背鰭と臀鰭の軟条部がのびる。

色彩 体に黒褐色斑点が密に分布する。黒褐色斑点は成長にともなって細くなる。黒褐色斑点は、幼魚や若魚、雌では明瞭だが、老成した雄では不明瞭になり、口周辺が白くなる。

分布 朝鮮半島南岸から南シナ海、マリアナ諸島、ミッドウェー環礁（無効分散）に分布する。国内では北海道から九州までの日本海・太平洋・瀬戸内海の沿岸、伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 全長 80 cm になる。水深 3–135 m の沿岸の岩礁域に生息する。

イシダイ *O. fasciatus* (Temminck & Schlegel, 1844) によく似ているが、体に黒褐色斑点が密に分布する（イシダイでは体に暗色横帯がある）、老成した雄の口周辺は



■ イシガキダイ *Oplegnathus punctatus* KAUM-I. 47957, 214.2 mm SL

白い（イシダイの老成した雄の口周辺は黒い）、背鰭軟条数が 15–16（イシダイでは 17–18）であることから識別される。イシダイとよく似た生態的特徴を示すが、イシダイよりも南方系で、琉球列島や小笠原諸島では本種の方が多く生息している。イシダイよりも成長が早く大型になる。成長につれて体の黒褐色斑点が小さく、数が多くなる。

老成した雄では黒褐色斑点は消失する。イシダイに比べて体高が高く、口が尖る。稀にシガテラ中毒が発生していることから大型の個体には注意する必要がある。襲われたときなどは「ゲーゲー」と大きな音を出して相手を威嚇する。

（千葉 悟）



■ サラサゴンベ *Cirrhitichthys falco* KAUM-I. 41242, 58.4 mm SL

スズキ目 ゴンベ科 オキゴンベ属

サラサゴンベ

Cirrhitichthys falco
Randall, 1963

形態 背鰭 X, 12; 臀鰭 III, 6; 胸鰭 i-ii + 6-7 + vi; 側線鱗 42-43。体は側扁する。頭部背面の輪郭はほぼ直線状。両眼間隔は狭く、眼隔域は鱗で覆われる。口蓋骨

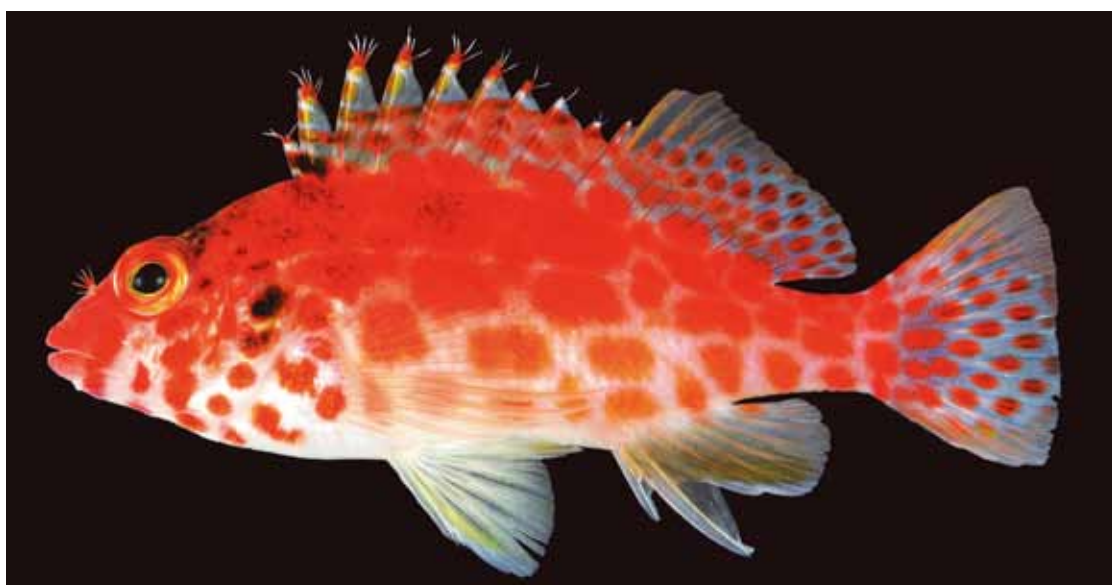
歯をもつ。背鰭棘条部の鰭膜の切れ込みは深く、先端に数本の糸状突起をもつ。成魚は背鰭第1軟条が伸長する。胸鰭下部の不分枝軟条は肥厚し、伸長する。尾鰭は截形でかくく切れ込む。

色彩 体の地色は白色。体側の斑紋は縦列状で、側線より下方では少ない。眼下の3横列は明瞭な線状。背鰭第1-3棘間の鰭膜下部に濃褐色の斑紋をもつ。背鰭軟

条部と尾鰭は赤色または赤褐色の円形斑が散在する。胸鰭、腹鰭および臀鰭は透明で、目立った斑紋はない。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

(田代郷国)



■ ヒメゴンベ *Cirrhitichthys oxycephalus* KAUM-I. 58433, 47.3 mm SL



■ ヒメゴンベ *Cirrhichthys oxycephalus* KAUM-I. 51585, 20.0 mm SL

スズキ目 ゴンベ科 オキゴンベ属

ヒメゴンベ

Cirrhichthys oxycephalus
(Bleeker, 1855)

形態 背鰭 X, 12; 臀鰭 III, 6; 胸鰭 i + 7 + vi; 側線鱗 40–43。体は側扁する。頭部背面の輪郭はほぼ直線状。両眼間隔は狭く、眼隔域は鱗で覆われる。口蓋骨歯をもつ。背鰭棘条部の鰭膜の切れ込みは深

く、先端に数本の糸状突起をもつ。成魚は背鰭第1軟条が伸長する。胸鰭下部の不分枝軟条は肥厚し、伸長する。尾鰭は截形でかく切れ込む。

色彩 体の地色は白色。体側には互いに独立した石垣状の斑紋が配列する。眼下の3横列は斑点状。背鰭軟条部と尾鰭は赤色または赤褐色の円形斑が散在する。胸鰭、腹鰭および臀鰭は透明で、目立った斑紋はない。

分布 インド・西太平洋および東太平洋の熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 本種の成魚はしばしばミナミゴンベ *C. aprinus* (Cuvier, 1829) と混同されるが、ミナミゴンベは尾鰭に斑紋がなく、鰓蓋部や鰓の斑紋が互いに連続して横帯になる傾向があることから識別される。

(田代郷国)



■ ベニゴンベ *Neocirrhites armatus* KAUM-I. 42696, 38.4 mm SL

スズキ目 ゴンベ科 ベニゴンベ属

ベニゴンベ

Neocirrhites armatus
Castelnau, 1873

形態 背鰭 X, 13; 臀鰭 III, 6; 胸鰭 i + 7 + vi; 側線鱗 42-44。体は強く側扁し、体高は高い。頭部背面の輪郭はゆるやかな

弧状。前鰓蓋骨縁辺は鋸歯状。両眼間隔は狭く、眼隔域は無鱗。頬部は細かい鱗で覆われる。口蓋骨歯をもたない。背鰭棘先端に数本の糸状突起をもつ。胸鰭下部の不分枝軟条は肥厚し、伸長する。背鰭第1軟条は伸長しない。尾鰭は円形。

色彩 体と各鰭は赤色。眼は前下方縁辺を除き、黒く縁取られる。背鰭起部から背鰭

の起部から後端部にかけて黒色帯がはいる。

分布 西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、与論島以南の琉球列島に分布する。

備考 ベニゴンベ属は本種のみからなる。(田代郷国)



■ メガネゴンベ *Paracirrhites arcatus* KAUM-I. 42695, 63.3 mm SL

スズキ目 ゴンベ科 ホシゴンベ属

メガネゴンベ

Paracirrhites arcatus
(Cuvier, 1829)

形態 背鰭 X, 11; 臀鰭 III, 6; 胸鰭 ii + 5-6 + vi-vii; 側線鱗 45-50。体は側扁する。頭部背面の輪郭はゆるやかな弧状。前鰓蓋骨縁辺はなめらか。眼隔域は鱗で覆われる。吻部は無鱗で、頬部に5-6鱗列を有する。口蓋骨歯をもたない。背鰭棘条部の鰭膜の切れ込みは浅く、先端は分枝しない。胸鰭下部の不分枝軟条は肥厚し、伸長する。背鰭第1軟条は伸長する。尾鰭は円形。

色彩 体色は変異に富む。体地色は桃色。眼後方に内側から黄色、赤色、白色の順で縁どられるU字状の模様がある。鰓蓋下部に短い4本の白色帯と3本の黄色帯からなる斑紋がある。背鰭棘条部後半の側線上に白色縦帯がはいる。

分布 インド・太平洋（ハワイ諸島を含む）に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

(田代郷国)



■ メガネゴンベ *Paracirrhites arcatus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

■ ホシゴンベ *Paracirrhites forsteri* FRLM 43045, 61.2 mm SL■ ホシゴンベ *Paracirrhites forsteri* 16 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki■ ホシゴンベ *Paracirrhites forsteri* KAUM-I. 50824, 43.1 mm SL■ ホシゴンベ *Paracirrhites forsteri* KAUM-I. 40074, 24.9 mm SL

スズキ目 ゴンベ科 ホシゴンベ属

ホシゴンベ

Paracirrhites forsteri
(Schneider, 1801)

形態 背鰭 X, 11 ; 臀鰭 III, 6 ; 胸鰭 i + 6 + vii ; 側線鱗 45-49。体は側扁する。頭部背面の輪郭はゆるやかな弧状。前鰓蓋骨縁辺は鋸歯状。眼隔域は鱗で覆われる。吻部は鱗で覆われ、頬部に5-6 鱗列を有する。口蓋骨歯をもたない。背鰭棘条部の鰭膜の切れ込みは浅く、先端は分枝しない。胸鰭下部の不分枝軟条は肥厚し、伸長する。尾鰭は円形。

色彩 体色は赤味がかかるものから黄味の強いものまでさまざまに変異に富む。頭部と胸部に暗褐色の小斑点が散在する。体の背部は茶褐色で腹部は白色。背鰭棘条部後半から尾鰭基底にかけての背部は黒色。

分布 インド・太平洋（ハワイ諸島、紅海を含む）に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、

大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種の体色は変異に富むが、頭部

と胸部に小さな赤色点が散在することで同科他種から識別可能である。

(田代郷国)

■ ナイルティラピア *Oreochromis niloticus* KAUM-I. 39845, 61.8 mm SL

スズキ目 カワスズメ科 カワスズメ属

ナイルティラピア

Oreochromis niloticus
(Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 XV-XVII, 11-14 ; 臀鰭 III, 11-14 ; 縦列鱗 31-33 ; 鰓耙 5-8 + 20-26。体はよく側扁する。上顎後端は眼前縁直下まで達しない。前鰓蓋、鰓蓋上は鱗におおわれる。側線は2本あり、背鰭軟条部後方で途切れ、後方の側線は背鰭軟条部中央直下から始まる。尾鰭は浅く切れ込み、両葉先端は円い。

色彩 幼魚では体側上部は暗緑色で、体側中央部は黄褐色、腹部は白色。体には暗緑色の横帯がはいる。背鰭・臀鰭は暗緑色で、各鰭の後方に黄色斑が散在する。胸鰭は透明。腹鰭は前方が暗緑色で後方は透明。尾鰭には暗緑色の横線が不規則にはいる。成長すると体側は暗緑色で、腹部は白色。体には黒色の横帯がはいる。成熟した雄は横帯が不明瞭になる場合がある。胸鰭を除く鰭も暗緑色で、尾鰭全体に黒色の横線がはいる。成熟した雄の背鰭、尾鰭縁辺は淡赤色になる。

分布 原産地はアフリカ大陸西部、ナイル川水系、イスラエル。国内では日本各地の温泉地、温排水の流れ込む河川・湖沼、沖永良部島以南の琉球列島から知られている。

備考 日本に生息する同属他種とは体横帯がある、尾鰭全体に横線がある、第1鰓弓の下枝鰓耙数が20-26であることなどから識別される。

本種は1962年に国内に移植された国外外来魚である。食用魚として盛んに養殖さ

■ ナイルティラピア *Oreochromis niloticus* KAUM-I. 39846, 56.6 mm SL■ ナイルティラピア *Oreochromis niloticus* KAUM-I. 39844, 76.6 mm SL

れ、「イズミダイ」や「チカダイ」という名で流通したが、海産魚類の養殖技術の発達とともに本種の養殖は廃れた。しかし、世界各地の熱帯・亜熱帯域では現在も盛んに養殖され食用とされている。本種は水

温 10°C以上で生存できることが確認されており、日本の各地の温排水が流れ込む水域、亜熱帯域で定着し、野生化している。本調査では与論島水路淡水域でみられた。(目黒昌利)



■ シチセンスズメダイ *Abudedefduf septemfasciatus* KAUM-I. 51313, 41.8 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 オヤビツチャ属

シチセンスズメダイ

Abudedefduf septemfasciatus
(Cuvier, 1830)

形態 背鰭 XIII, 12-14; 臀鰭 II, 11-13; 胸鰭 17-19; 側線有孔鱗 20-22; 鰓耙 20-26。体高が高く、体は円形に近い。口は端位で、口裂はわずかに斜行し、眼窩前縁直下をわずかに越える。前鰓蓋骨後縁は円滑。背鰭前方の鱗域は眼窩前縁上

方まで達する。涙骨上は無鱗。眼下骨上に鱗列を有する。背鰭棘部の鰭膜は切れ込み、軟条部後縁は丸い。臀鰭軟条部後縁は丸い。尾鰭は二又し、両葉先端がやや丸い。

色彩 体の地色は銀白色で、体上方は黄色味がかかる。体側には幅が体側鱗 3-4 枚分ほどの明瞭な 6 本の黒色横帯がはしる。胸鰭基底上端に小黒色斑がある。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。

国内では小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 シチセンスズメダイは同属のテンジクスズメダイ *A. bengalensis* (Bloch, 1787) に似る。しかし、本種はテンジクスズメダイと比較して、背鰭前方の鱗域は眼窩前縁上方まで達する（テンジクスズメダイは鼻孔上方まで達する）、背鰭軟条部後縁は丸い（尖る）、臀鰭軟条数が 11-13（13-15）などの特徴から識別される。

(西山 肇)

スズキ目 スズメダイ科 オヤビツチャ属

ロクセンスズメダイ

Abudedefduf sexfasciatus
(Lacepède, 1801)

形態 背鰭 XIII, 11-14; 臀鰭 II, 11-14; 胸鰭 17-20; 側線有孔鱗 18-22; 鰓耙 23-30。体高が高く、体は円形に近い。口は端位で、口裂はわずかに斜行し、眼窩前縁直下を越える。前鰓蓋骨と主鰓蓋骨の後縁は円滑。涙骨上は鱗に被われる。

眼下骨上に鱗列を有する。背鰭棘部の鰭膜は切れ込み、軟条部後縁はやや尖る。臀鰭軟条部後縁はやや尖る。尾鰭は二又し、両葉先端がやや尖る。

色彩 体の地色は銀白色または青白色で、腹方ほど白味が強くなる。体側には幅が体側鱗 3-4 枚分ほどの明瞭な 5 本の黒色横帯がはしる。尾鰭両葉には基底から先端へむかう明瞭な黒色帯がある。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国

内では伊豆諸島、小笠原諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 ロクセンスズメダイは同属のオヤビツチャ *A. vaigiensis* (Quoy & Gaimard, 1825) に似る。しかし、本種はオヤビツチャと比較して、涙骨は鱗で被われる（オヤビツチャは涙骨上に鱗がない）、尾鰭両葉には基底から先端へむかう明瞭な黒色帯がある（ない）などの特徴によって識別される。

(西山 肇)



■ ロクセンスズメダイ *Abudefduf sexfasciatus* KAUM-I. 47910, 43.3 mm SL



■ ロクセンスズメダイ *Abudefduf sexfasciatus* KAUM-I. 42301, 35.9 mm SL



■ ロクセンスズメダイ *Abudefduf sexfasciatus* KAUM-I. 39725, 31.7 mm SL



■ ロクセンスズメダイ *Abudefduf sexfasciatus* KAUM-I. 39746, 17.4 mm SL



■ ロクセンスズメダイ *Abudefduf sexfasciatus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ シマスズメダイ *Abudefduf sordidus* KAUM-I. 50837, 104.9 mm SL



■ シマスズメダイ *Abudefduf sordidus* KAUM-I. 45968, 46.5 mm SL



■ シマスズメダイ *Abudefduf sordidus* KAUM-I. 46121, 38.1 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 オヤビッチャ属

シマスズメダイ

Abudefduf sordidus
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 XIII, 14-16; 臀鰭 II, 13-16;

胸鰭 17-20; 側線有孔鱗 21-23; 鰓耙 20-28。体高は高く、体は卵円形に近い。涙骨系は鱗に被われない。前鰓蓋骨と主鰓蓋骨の後縁は円滑。背鰭棘部の鱗膜は切れ込み、軟条部後縁は丸い。臀鰭軟条部後縁は丸い。尾鰭は二叉し、両葉先端がやや丸い。

色彩 体の地色は銀白色。体側には幅が体側鱗 3-4 枚分ほどの明瞭な 6 本の黒色横帯がはしる。胸鰭基底上端に小黒色斑がある。尾柄背部に明瞭な黒色斑がある。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以

南の南日本、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 水深 1–3 m の岩礁やサンゴ礁域に生息し、周年縄張りをもつ。体側の黒斑や横帯は幼魚期ほど明瞭。本種の幼魚は、

同属他種の幼魚とともに潮だまりなどでよくみられる。

(西山 肇)



■ オヤビツチャ *Abudefduf vaigiensis* KAUM-I. 41131, 45.5 mm SL



■ オヤビツチャ *Abudefduf vaigiensis* KAUM-I. 39762, 21.4 mm SL



■ オヤビツチャ *Abudefduf vaigiensis* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 スズメダイ科 オヤビツチャ属

オヤビツチャ

Abudefduf vaigiensis
(Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 XIII, 11–14; 臀鰭 II, 11–13; 胸鰭 16–20; 側線有孔鱗 19–23; 鰓耙 23–33。体高がやや高く、体は卵円形に近い。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下をわずかに越える。前鰓蓋骨と主鰓蓋骨の後縁は円滑。眼下骨上に鱗列を有する。背鰭棘部の鰭膜は切れ込み、軟

条部後縁は尖る。臀鰭軟条部後縁は尖る。尾鰭は二叉し、両葉先端がやや丸い。

色彩 体の地色は銀白色または青白色で、腹方ほど白味が強くなる。体側背面は黄色い。体側には幅が体側鱗 3–4 枚分ほどの明瞭な 5 本の黒色横帯がはしる。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 岩礁やサンゴ礁域で普通にみられる種で、全長 18 cm に達する。

(西山 肇)



■ クラカオスズメダイ *Amblyglyphidodon curacao* KAUM-I. 45799, 63.9 mm SL



■ クラカオスズメダイ *Amblyglyphidodon curacao* KAUM-I. 42200, 36.0 mm SL



■ クラカオスズメダイ *Amblyglyphidodon curacao* KPM-NI 30855, 23.7 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 クラカオスズメダイ属

クラカオスズメダイ

Amblyglyphidodon curacao
(Bloch, 1787)

形態 背鰭 XIII, 11-14 ; 臀鰭 II, 13-15 ; 胸鰭 16-18 ; 側線有孔鱗 15-18 ; 鰓耙 24-27。体高が高く、体は円形に近い。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下を越える。前鰓蓋骨後縁は円滑。涙骨系

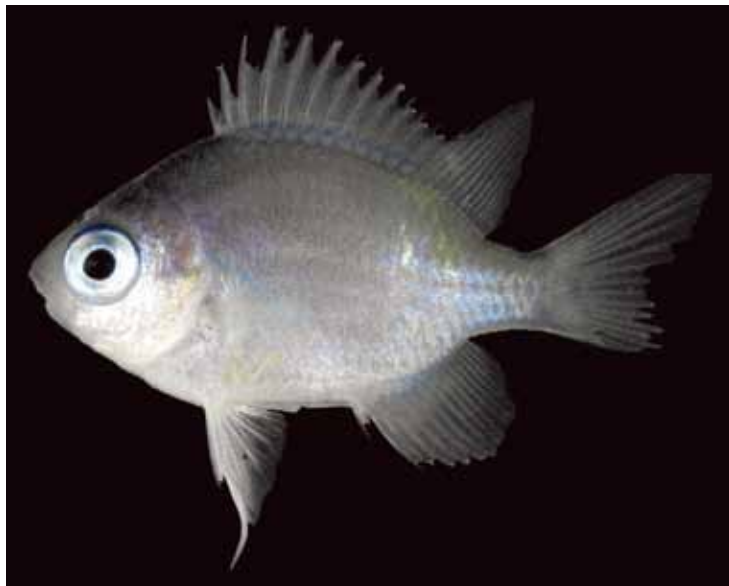
はほぼ完全に鱗に被われる。両顎歯は1列。背鰭棘部の鰭膜は深く切れ込み、軟条部後縁は尖る。臀鰭軟条部後縁は丸い。尾鰭は二叉し、両葉先端がやや丸い。

色彩 体の地色は青白色または緑味があった青色で、腹方ほど白味が強くなる。体側には幅が体側鱗3-5枚分ほどの明瞭な(死後、やや不明瞭になる)4本の黒色または濃緑色の横帯がはしる。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では大隅諸島と琉球列島に分布する。

備考 本種はサンゴ礁域に生息する。与論島では数匹から十数匹の群れを形成し、枝状サンゴ上を遊泳しており、危険を察知すると、枝状サンゴの隙間に逃げ込む様子が観察された。

(西山 肇)



■ クラカオスズメダイ *Amblyglyphidodon curacao* KAUM-I. 41237, 20.6 mm SL



■ ナミスズメダイ *Amblyglyphidodon leucogaster* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 スズメダイ科 クラカオスズメダイ属

ナミスズメダイ

Amblyglyphidodon leucogaster
(Bleeker, 1847)

形態 背鰭 XII-XIII, 12-13; 臀鰭 II, 12-14; 胸鰭 16-18; 側線有孔鱗 14-17; 鰓耙 25-29。体高が高く、体は円形に近い。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直

下を越える。前鰓蓋骨後縁は円滑。涙骨系はほぼ完全に鱗に被われる。両顎歯は1列。背鰭棘部の鰭膜は深く切れ込み、軟条部後縁は尖る。臀鰭軟条部後縁は丸い。尾鰭は二又し、両葉先端がやや丸い。

色彩 体の地色は暗銀色。胸鰭起部から臀鰭基底後部にかけての腹面は黄色。胸鰭基底上端に明瞭な黒色斑がある。腹鰭は黄色。背鰭と臀鰭は後部の透明域を除き、黒色。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、高知県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は水深45m以浅の岩礁やサンゴ礁域に生息している。与論島では標本は得られなかったが、水中写真により本種の生息が確認された。

(西山 肇)



■クマノミ *Amphiprion clarkii* Male FRLM 43043, 87.1 mm SL



■クマノミ *Amphiprion clarkii* Female KAUM-I. 45797, 93.5 mm SL



■クマノミ *Amphiprion clarkii* KAUM-I. 41206, 44.8 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 クマノミ属

クマノミ

Amphiprion clarkii
(Bennett, 1830)

形態 背鰭 X-XI, 14-17; 臀鰭 II, 12-15; 胸鰭 18-21; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 18-21。体は卵円形で側扁し、体高は背鰭始部で最大となる。主鰓蓋骨、間鰓蓋骨、および下鰓蓋骨の縁にそれぞれ長い棘が並ぶ。尾鰭は、雄では後端が尖るが、雌では後端が丸みを帯びる。

色彩 幼魚は体の地色が橙黄色を呈し、鰓

蓋骨上、体側面中央、および尾柄に黒く縁取られた幅広い白色横帯がある。成魚では体の地色が黒色を呈し、鰓蓋骨上、体側面中央、および尾柄に白色横帯がある。胸鰭は橙黄色。尾鰭は雄が橙黄色で、雌が乳白色を呈す。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、九州北西岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種を含むクマノミ亜科魚類 Amphiprioninae は、雌雄同体で雄先成熟型の性転換を行う。また、大型のイソギン

チャクと共生し、イソギンチャクを隠れ家として利用する。イソギンチャクの触手の刺胞毒に対する免疫性は生まれつきあるのではなく、イソギンチャクと触れ合うことにより徐々に備わっていく。通常 1 個体のイソギンチャクに対し、1 組の雌雄と数尾の幼魚または若魚と一緒に存在するが、小さいイソギンチャクでは幼魚が単独でみられることもある。与論島ではチクビイソギンチャク *Radianthus lobatus* Kwietniewski, 1897 との共生が確認された。クマノミ亜科魚類は、特異な色彩や小型であること、飼育が容易であることから、観賞魚として利用される。

(岩坪洗樹)



■ クマノミ *Amphiprion clarkii* KAUM-I. 39939, 34.8 mm SL



■ クマノミ *Amphiprion clarkii* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ハマクマノミ *Amphiprion frenatus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 スズメダイ科 クマノミ属

ハマクマノミ

Amphiprion frenatus
Brevoort, 1856

形態 背鰭 IX-X, 16-18; 臀鰭 II, 13-15; 胸鰭 18-20; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 17-21。体は卵円形で側扁し、体高は背鰭始部で最大となる。主鰓蓋骨、間鰓蓋骨、および下

鰓蓋骨の縁にそれぞれ長い棘が並ぶ。尾鰭は丸みを帯びる。

色彩 鰓蓋骨上に黒く縁取られた幅広い白色横帯がある。雄成魚では体全体が橙色を呈すが、雌成魚では体側面が黒色を呈す。仔魚から幼魚時にかけて、体側面中央と尾柄に白色帯がある。

分布 西太平洋に分布する。国内では小

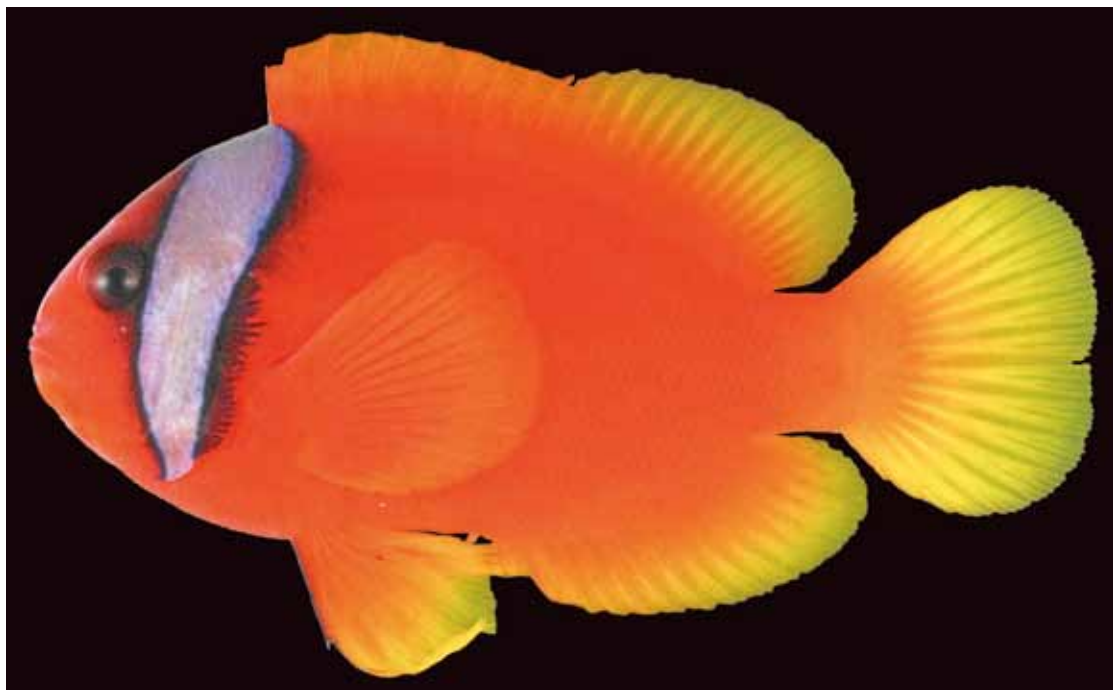
笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、および琉球列島に分布する。

備考 与論島ではセンジュイソギンチャク *Heteractis magnifica* (Quoy & Gaimard, 1833) との共生が確認された。観賞魚として人気が高いが、気が荒いため飼育の際の混泳には注意が必要である。

(岩坪洗樹)



■ ハマクマノミ *Amphiprion frenatus* Female KAUM-I. 41137, 94.4 mm SL



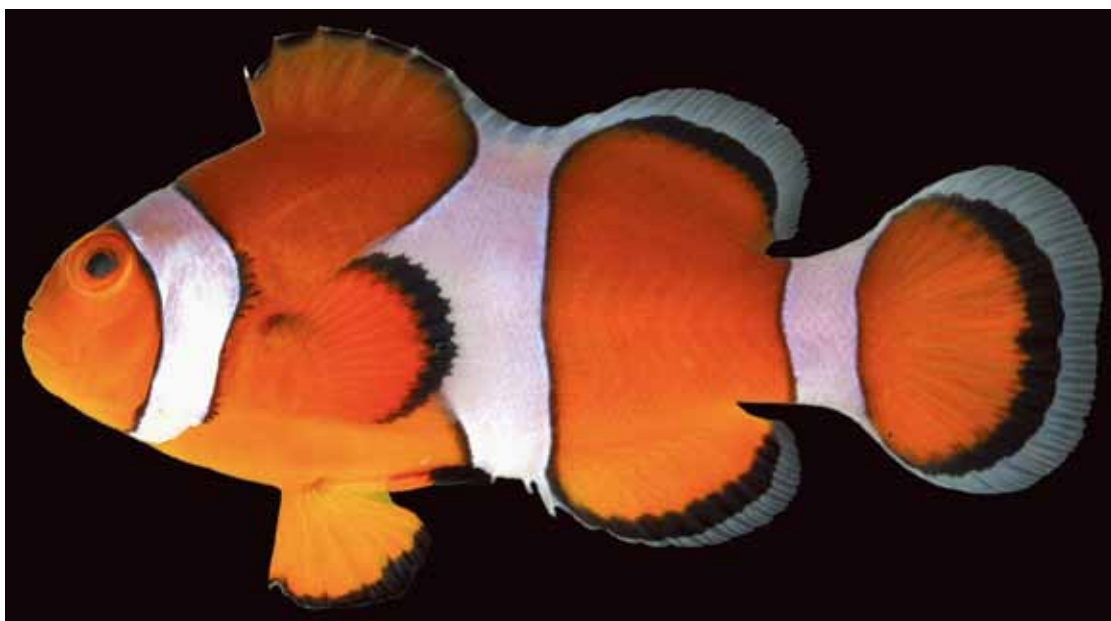
■ ハマクマノミ *Amphiprion frenatus* Male KAUM-I. 41138, 52.2 mm SL



■ ハマクマノミ *Amphiprion frenatus* KAUM-I. 47995, 30.9 mm SL



■ ハマクマノミ *Amphiprion frenatus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ カクレクマノミ *Amphiprion ocellaris* Female KAUM-I. 39929, 38.2 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 クマノミ属

カクレクマノミ

Amphiprion ocellaris
Cuvier, 1830

形態 背鰭 X-XI, 13-17; 臀鰭 II, 11-13; 胸鰭 15-18; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 15-17。体は細長い卵円形で側扁し、体高は背鰭始部で最大となる。主鰓蓋骨、間鰓蓋骨、および下鰓蓋骨の縁にそれぞれ長い棘が並ぶ。尾鰭は丸みを帯びる。

色彩 体全体の地色が橙色を呈し、鰓蓋骨上、体側面中央、および尾柄に黒色で縁取られた幅広い白色横帯がある。背鰭、臀鰭、尾鰭、および胸鰭は縁が半透明で、そのすぐ内側が黒色で縁取られる。腹鰭後



■ カクレクマノミ *Amphiprion ocellaris* Male KAUM-I. 39930, 32.6 mm SL

縁は黒色で縁取られる。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では琉球列島に分布する。

備考 本種は *A. percula* (Lacepède, 1802) (英名：オレンジクラウンフィッシュ) に酷似する。しかし、カクレマノミは *A. percula* と比較して、背鰭棘が 10–11 本と多いこと (*A. percula* では 9–10 本と少ない)、体側面中央の白色横帯を縁取る黒色域が狭いこと (幅広い) などから識別される。なお、*A. percula* の白色横帯を縁取る黒色域の幅には変異が多く、カクレマノミに似た個体も存在する。

与論島では、ハタゴイソギンチャク *Stichodactyla gigantean* (Forsk., 1775) との共生が確認された。本種は観賞魚として人気が高い。

(岩坪洗樹)



■ カクレマノミ *Amphiprion ocellaris* KAUM-I. 48006, 17.7 mm SL



■ ハナビラクマノミ *Amphiprion perideraion* KAUM-I. 58520, 69.7 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 マノミ属

ハナビラクマノミ

Amphiprion perideraion
Bleeker, 1855

形態 背鰭 IX–X, 16–17; 臀鰭 II, 12–13; 胸鰭 16–18; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 17–19。体は卵円形でよく側扁し、体高は背鰭始部で最大となる。主鰓蓋骨、間鰓蓋骨、および下鰓蓋骨の縁にそれぞれ長い棘が並ぶ。

色彩 体は桃色を呈し、体部腹面にむかって淡くなる。鰓蓋骨上に白色横帯がある。



■ ハナビラクマノミ *Amphiprion perideraion* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harasaki

吻端から背鰭基底を通り、尾柄上後端に達する1白色縦帯がある。各鰭は半透明。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では和歌山県、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

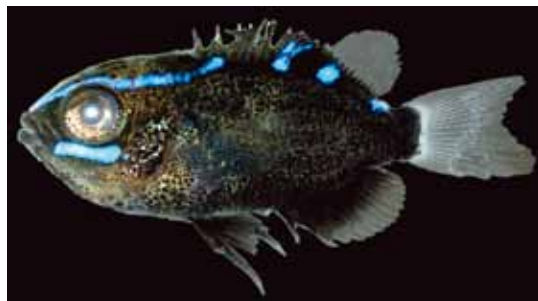
備考 本種は雌雄同体で雄先成熟型の性転換を行う。ハタゴイソギンチャクやシライトイソギンチャクなどの大型のイソギンチャクと共生する。通常、1組の雌雄と数尾の幼魚または若魚と一緒に存在する。

ハナビラクマノミはセジロクマノミ *A. sandaracinos* Allen, 1972 に似るが、鰓蓋骨上に白色横帯があること(後者にはない)から容易に識別される。

(岩坪洗樹)



■ アツクスズメダイ *Cheiloprion labiatus* KAUM-I. 40060, 8.6 mm SL



■ アツクスズメダイ *Cheiloprion labiatus* KAUM-I. 40061, 8.0 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 アツクスズメダイ属

アツクスズメダイ

Cheiloprion labiatus
(Day, 1877)

形態 背鰭 XIII, 13-14; 臀鰭 II, 13-14; 胸鰭 17; 側線有孔鱗 16-18 + 5-9; 鰓耙 4-8 + 12-13。体高はやや高く、体は楕円形。口は端位で、口裂はわずかに斜行し、眼窩前縁直下に達するか、わずかに越え

る。幼魚時、両唇は同科他種とほぼ同様であるが、成長にしたがい肥大する。成魚は両唇が分厚く、めくれあがる。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。主鰓蓋骨、間鰓蓋骨、下鰓蓋骨は滑らか。背鰭と臀鰭の軟条部後縁は丸い。尾鰭は二又し、両葉先端がやや丸い。

色彩 幼魚は体の地色は黒色を呈する。吻端から背鰭基底始部のやや後方にかけてと上顎後端から全鰓蓋骨下縁にかけて、

それぞれ1鮮青色線が走る。背鰭基底の中央、軟条始部、および後端にそれぞれ鮮青色斑がある。背鰭軟条部と尾鰭は透明。成魚は体全体がほぼ一様に黒褐色を呈すが、頭部背面に向かって明るくなる。

分布 東インド・西太平洋に分布する。国内では琉球列島に分布する。

備考 アツクスズメダイ属はアツクスズメダイの1属1種のみで構成される。

(岩坪洗樹)



■ オナガスズメダイ *Chromis alleni* KAUM-I. 58397, 51.4 mm SL



■ オナガスズメダイ *Chromis alleni* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

オナガスズメダイ

Chromis alleni
Randall, Ida & Moyer, 1981

形態 背鰭 XII-XIII, 12-13; 臀鰭 II, 12-13; 胸鰭 17-18; 側線有孔鱗 15-17; 鰓耙 6-9 + 18-22。体は側扁し、楕円形。眼下骨系の縁辺は円滑。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下を越える。背鰭棘部の鰭膜はわずかに切れ込み、軟条部後縁はやや尖る。臀鰭軟条部後縁はやや尖る。尾鰭は二又し、両葉先端が糸状に伸長する。前尾鰭条は棘状で、上下各2本ある。

色彩 体全体はほぼ一様に茶色または黄褐色で、尾柄から後方が白色。胸鰭基底を覆う黒色斑がある。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、高知県以南の太平洋沿岸、琉球列島に分布する。

備考 本種は水深 60 m 以浅の岩礁やサンゴ礁域の外縁に生息している。

(西山 肇)



■ オナガスズメダイ *Chromis alleni* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

ヒレグロスズメダイ

Chromis atripes
Fowler & Bean, 1928

形態 背鰭 XII, 12-14; 臀鰭 II, 12-14; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 6-9 + 18-22。体は卵円形でよく側扁する。前鰓蓋骨縁は滑らかである。体部はすべて櫛鱗。腹鰭第1軟条は糸状に伸長する。背鰭棘

部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭・臀鰭の後縁は尖る。尾鰭は二又し、両葉先端が糸状に伸長する。前尾鰭条は棘状で、上下各2本ある。

色彩 体の地色は褐色で、胸鰭基底の上3分の2程度を覆う黒色斑がある。背鰭、腹鰭、および臀鰭は外縁に向かって黒くなる。背鰭と臀鰭の軟条部後半は黄色。背鰭基底後端に黒色斑がある。尾鰭は黄色。

分布 西太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種には最初、和名ネットアイズメダイが適用されていたが、この和名は既に *Pomacentrus moluccensis* Bleeker, 1853 に対して適用されていた。そのため、益田ほか (1975) によって *C. atripes* には和名ヒレグロスズメダイが提唱された。

(岩坪洗樹)



■ ヒレグロスズメダイ *Chromis atripes* KAUM-I. 58530, 46.3 mm SL



■ ヒレグロスズメダイ *Chromis atripes* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ヒレグロスズメダイ *Chromis atripes* KAUM-I. 58402, 27.3 mm SL



■ アマミスズメダイ *Chromis chrysur* KAUM-I. 45948, 70.9 mm SL



■ アマミスズメダイ *Chromis chrysur* KAUM-I. 40348, 33.0 mm SL



■ アマミスズメダイ *Chromis chrysurus* FRLM 42933, 122.4 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

アマミスズメダイ

Chromis chrysurus
(Bliss, 1883)

形態 背鰭 XIII, 14-15; 臀鰭 II, 10-14; 胸鰭 18-19; 腹鰭 I, 5; 鰓 8-10 + 21-23。体は円形に近い卵円形でよく側扁する。体高は背鰭始部で最大となる。前鰓蓋骨縁は滑らかである。体部はすべて櫛鱗。腹鰭第1軟条は糸状に伸長する。背鰭棘部の鱗膜はやや切れ込む。背鰭後縁は尖る。尾鰭は二叉し、両葉先端が尖る。前尾鰭条は棘状で、上下各2本ある。

色彩 幼魚の色彩は、頭部、体側腹面、および尾柄から後ろは灰色。腹面を除く体側面と背鰭は褐色で、胸鰭基底に黒色斑がある。腹鰭と臀鰭は青白色。成魚では頭部と体側面の地色は一樣に黒く、体側面の各鱗は、中央部が黄みをおびる。尾柄から後ろと背鰭軟条部は白色である。尾鰭は、両葉前縁が黒色で縁取られる。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 アマミスズメダイの成魚はシコクスズメダイ *C. margaritifera* Fowler, 1946 とフカミスズメダイ *C. leucura* Gilbert, 1905 に似るが、大型で体高が高いこと（シコクスズメダイとフカミスズメダイは小型で体高が低い）、体側面鱗の中央部が黄色がかかる（一樣に黒色）から識別される。

(岩坪洗樹)



■ アマミスズメダイ *Chromis chrysurus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ササズメダイ *Chromis lepidolepis* KAUM-I. 42714, 50.8 mm SL



■ ササズメダイ *Chromis lepidolepis* KAUM-I. 58395, 47.2 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

ササスズメダイ

Chromis lepidolepis
Bleeker, 1877

形態 背鰭 XII, 11-13; 臀鰭 II, 11-12; 胸鰭 17-19; 側線有孔鱗 15-18; 鰓耙 27-30。体は卵円形でよく側扁する。眼下骨系の縁辺は円滑。前鰓蓋骨縁辺は鋸齒状。眼隔域はやや突出する。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下を越える。眼上部から後頭部にかけての各鱗に付属小鱗がある。背鰭棘部の鰭膜は切れ込み、軟条部後縁は丸い。臀鰭軟条部後縁は丸い。尾鰭は二又し、両葉先端がやや尖る。前尾鰭条は棘状で、上下各 2 本ある。

色彩 体は概ね緑味を帯びた淡い灰色で、腹方ほど色合いは淡くなり、白色に近づく。眼に瞳孔大の黒色縦線がはしる。尾鰭は両葉に基底から先端へむかう濃灰色帯がはしり、先端は黒色。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国



■ ササスズメダイ *Chromis lepidolepis* KAUM-I. 42723, 21.9 mm SL

内では伊豆諸島、小笠原諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 水深 2-20 m の岩礁域やミドリイン類などのサンゴが群生している場所で、小さな群れを形成し生息している。

(西山 肇)

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

フカミスズメダイ

Chromis leucura
Gilbert, 1905

形態 背鰭 XIII, 14; 臀鰭 II, 13-15; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 6-7 + 18-20。体は卵円形でよく側扁する。体高は背鰭始部で最大となる。体部はすべて櫛鱗。前鰓蓋骨縁は滑らかである。腹鰭第 1 軟条は糸状に伸長する。背鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭と臀鰭の後縁は尖る。尾鰭は二又し、両葉先端が糸状に伸長する。前尾鰭条は棘状で、上下各 2 本ある。

色彩 頭部から尾柄後端にかけて、おおむね濃青色を呈する。頭部に複数の不規則な鮮青色斑がある。胸鰭基底に黒色斑があり、胸鰭基底に沿ってその黒色斑を黄色の三日月状斑が囲む。背鰭と臀鰭はおおむね濃青色を呈し、前部がやや黄色がかり、軟条後部が透明。腹鰭は黄色を呈する。また、背鰭、臀鰭、および腹鰭は後縁を除く外縁が鮮青色で縁取られる。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種はスズメダイ科魚類の中ではやや深い水深に生息し、通常水深約 30 m 以深でみられる。

(岩坪洗樹)



■ フカミスズメダイ *Chromis leucura* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ショクスズメダイ *Chromis margaritifer* KAUM-I. 41067, 51.6 mm SL



■ ショクスズメダイ *Chromis margaritifer* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ショクスズメダイ *Chromis margaritifer* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

ショクスズメダイ

Chromis margaritifer
Fowler, 1946

形態 背鰭 XII, 12-13; 臀鰭 II, 11-12; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 7-10 + 19-21。体は卵円形でよく側扁する。前鰓蓋骨縁は滑らかである。体部はすべて櫛鱗。腹鰭第1軟条は糸状に伸長する。背鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭・臀鰭後縁は尖る。尾鰭は二分し、両葉先端が糸状に伸長する。前尾鰭条は棘状で、上下各2本ある。

色彩 頭部と体側は一律に黒く、胸鰭基底全体を覆う体色より濃い黒色斑がある。尾柄から後ろ、背鰭軟条、および臀鰭軟条後半部は白色。



■ ショクスズメダイ *Chromis margaritifer* BSKU 106114, 54.2 mm SL

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は国内では益田ほか(1975)による報告までインド洋に分布する *C. dimidiatus* (Klunzinger, 1871)とされていた。(岩坪洗樹)



■ マルスズメダイ *Chromis ovatiformis* KAUM-I. 58396, 29.5 mm SL



■ マルスズメダイ *Chromis ovatiformis* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

マルスズメダイ

Chromis ovatiformis
Fowler, 1946

形態 背鰭 XII-XIII, 12-13; 臀鰭 II, 12-14; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; ; 鰓耙 6-9 + 20-23。体は円形に近い卵円形で、よく側扁する。前鰓蓋骨縁は滑らかである。体部はすべて櫛鱗。腹鰭第 1 軟条は糸状

に伸長する。背鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭・臀鰭の後縁は糸状に伸長する。尾鰭は二分し、両葉先端が糸状に伸長する。前尾鰭条は棘状で、上下各 2 本ある。

色彩 尾柄から後方、背鰭軟条後部、および臀鰭軟条後部は白色。他の体部は黄褐色を呈する。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、大隅諸島、および琉球列

島に分布する。

備考 本種は尾柄から後方が白色であることで、シコクスズメダイ *C. margaritifer* Fowler, 1946 やフカミスズメダイ *C. leucura* Gilbert, 1905 と似る。しかしマルスズメダイは体が黄褐色であること（シコクスズメダイとフカミスズメダイでは黒色）で容易に識別される。

(岩坪洗樹)



■ ヒメスズメダイ *Chromis vanderbilti* KAUM-I. 51576, 34.6 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

ヒメスズメダイ

Chromis vanderbilti
(Fowler, 1941)

形態 背鰭 XII, 10-12; 臀鰭 II, 10-12; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 6-8 + 18-20。体は卵円形でよく側扁する。体高は背鰭始部で最大となる。体部はすべて櫛鱗。背鰭棘部の鱗膜はやや切れ込む。背鰭は後縁が丸く、軟条長は第5-6軟条が最長である。腹鰭第1軟条は糸状に伸長する。尾鰭は二又し、両葉先端が糸状に伸長する。前尾鰭条は棘状で、上下各2本ある。

色彩 頭部と体側面は褐色で、背面では黒色を帯びる。また、頭部には青色点が散在し、体側面には青色縦帯が8本走る。背鰭は棘部上半部と軟条部が黄色を呈し、棘部下半部は黒色を帯びた褐色を呈す。背鰭基底後端に黄色斑がある。臀鰭は前部4分の3が黒色を呈し、残りの後部が透明。なお、臀鰭前縁は青色を呈す。尾鰭は黄色を呈すが、下葉前縁は黒色を呈す。腹鰭は黄色を呈す。

分布 太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は最大体長が45 mm程度であり、スズメダイ属魚類の中では小型である。
(岩坪洗樹)



■ ヒメスズメダイ *Chromis vanderbilti* KAUM-I. 41238, 20.4 mm SL



■ ヒメスズメダイ *Chromis vanderbilti* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ デバスズメダイ *Chromis viridis* KAUM-I. 45805, 54.2 mm SL



■ デバスズメダイ *Chromis viridis* KAUM-I. 47992, 21.1 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

デバスズメダイ

Chromis viridis
(Cuvier, 1830)

形態 背鰭 XII, 9-10; 臀鰭 II, 10-11; 胸鰭 16-18; 側線有孔鱗 15-16; 鰓耙 28-33。体は側扁し、楕円形。眼下骨系の縁辺は円滑。涙骨系は鱗に被われる。

口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下に達する。背鰭棘部の鰭膜は切れ込まず、軟条部後縁は丸い。臀鰭軟条部後縁は丸い。尾鰭は二叉し、両葉先端は尖る。前尾鰭条は棘状で、上下各3本ある。

色彩 体全体はほぼ一様に青味がかった緑色。頬部と腹面は緑味がかった淡銀色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内で

は小笠原諸島、高知県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 デバスズメダイは同属のアオバスズメダイ *C. atripectoralis* Welander & Schultz, 1951 に酷似する。しかし、本種はアオバスズメダイと比較して、胸鰭腋部に黒斑がない（アオバスズメダイは黒斑がある）、胸鰭は通常 18 (19-20) などの特徴によって識別される。

(西山 肇)



■ モンスズメダイ *Chromis xanthurus* KAUM-I. 42231, 102.8 mm SL



■ モンスズメダイ *Chromis xanthurus* KAUM-I. 55076, 99.8 mm SL



■ モンスズメダイ *Chromis xanthurus* KAUM-I. 45945, 94.9 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

モンスズメダイ

Chromis xanthurus
(Bleeker, 1854)

形態 背鰭 XIII, 9-11; 臀鰭 II, 10-12; 胸鰭 18-20; 側線有孔鱗 16-19; 鰓耙 25-30。体は楕円形でよく側扁し、体高は背鰭第 2-4 棘基部で最大。眼隔域はやや突出する。前鼻孔は円形で、ごく短い鼻管を形成する。後鼻孔は前鼻孔よりも著しく小さく楕円形で、前鼻孔の斜め上後方、眼窩縁付近に位置する。口は端位で、口裂は斜行し、主上顎骨後端は瞳孔前縁直下をわずかに越える。前鰓蓋骨の縁辺は円滑。主鰓蓋骨、間鰓蓋骨および下鰓蓋骨の縁辺は円滑。体側部は櫛鱗で被われ、腹鰭を除く各鰭の基底は小櫛鱗で被われ

る。頭長被鱗域の前方は前鼻孔に達するが、吻端と鼻孔周辺部には鱗がない。涙骨上は 2-3 列の鱗で被われる。頬部は 4 列の鱗で被われる。側線は不完全で、背鰭第 3-4 軟条基部直下で欠如する。背鰭棘部の鰭膜は少し切れ込む。背鰭軟条部の輪郭は中央の軟条先端付近で尖り、わずかに伸長する。尾鰭は深く二叉し、両葉先端は糸状に伸長する。尾鰭上葉は下葉よりもわずかに長い。

色彩 頭部から尾柄前部にかけて黒みがかった濃灰色または黒色で、頭部背面から尾柄前部背面にかけて濃く、腹方ほど淡くなる。頬部と胸部は淡灰色、腹部はわずかに黄色みがかった褐色。前鰓蓋骨後縁は黒く、瞳孔の約 1/2 幅の黒色横帯となる。主鰓蓋骨後縁上端から、胸鰭基部にかけて瞳孔幅の黒色横帯がはしる。胸鰭基部

は、黒色斑に覆われる。尾柄部は白色。尾鰭は白色で中央付近に小黒色斑を有し(ない個体もいる)、後縁の 1/3 は透明。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はこれまで標本や水中写真に基づき、尾柄部と尾鰭が黒色を呈する個体かが知られており、尾柄部と尾鰭の色彩における色彩二型が確認されている。大隅諸島屋久島、奄美群島と論島およびインドネシアから採集されたモンスズメダイ黒色型標本を詳細に調査したところ、モンスズメダイの両色彩型に形態的差異はみられず、同一種であることが示唆された。分子解析と水中観察の結果もこれを支持した。

(西山 肇)



■ キホシスズメダイ *Chromis yamakawai* Holotype NSMT-P 111948 (formerly KAUM-I. 40160), 83.0 mm SL



■ キホシスズメダイ *Chromis yamakawai* Paratype KAUM-I. 40163, 79.5 mm SL



■ キホシスズメダイ *Chromis yamakawai* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

キホシスズメダイ

Chromis yamakawai
Iwatsubo & Motomura, 2013

形態 背鰭 XII–XIV, 11–13; 臀鰭 II, 10–12; 胸鰭 17–21; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 7–10 + 20–24。体は卵円形でよく側扁する。体高は背鰭始部で最大となる。前鰓蓋骨縁は滑らかである。体部はすべて櫛鱗。背鰭棘部の鰭膜はやや切れ込む。背鰭は後縁が丸く、軟条長は第5–6軟条が最長である。腹鰭第1軟条は糸状に伸長する。尾鰭は

二叉し、両葉先端が尖る。前尾鰭条は棘状で、上下各2本ある。

色彩 頭部と体側面は緑色がかった褐色で、腹面では白色を帯びる。胸鰭基底を覆う黒色斑がある。この黒色斑は、幼魚では胸鰭基底の上部3分の2を覆う程度である。背鰭は棘条部が緑色を帯びた褐色で、軟条部が透明である。臀鰭は前半部が黒色で、後半部が半透明である。生時、臀鰭棘前縁は青色を呈す。尾鰭は黄色を呈す。

分布 西太平洋に分布し、国内では伊豆諸

島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は最近まで *C. flavomaculata* Kamohara, 1960 とされてきた。しかし、Iwatsubo & Motomura (2013) によって *C. flavomaculata* は *C. notata* (Temminck & Schlegel, 1843) の新参異名であることが確認され、本種は新種 *C. yamakawai* として記載された。なお、本種のホロタイプは与論島産の標本である。キホシスズメダイは奄美大島や与論島で食用魚として島内で流通する。

(岩坪洗樹)



■ スズメダイ属の一種 *Chromis* sp. KAUM-I. 42229, 101.3 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 スズメダイ属

スズメダイ属の一種

Chromis sp.

形態 背鰭 XIII, 10-11; 臀鰭 II, 10-12; 胸鰭 18-20; 側線有孔鱗 17-19; 鰓耙 28-33。体は楕円形でよく側扁し、体高は背鰭第 3-5 棘基部で最大。眼隔域はやや突出する。前鼻孔は円形で、ごく短い鼻管を形成する。後鼻孔は前鼻孔よりも著しく小さく楕円形で、前鼻孔の斜め上後方、眼窩縁付近に位置する。口は端位で、口裂は斜行し、主上顎骨後端は瞳孔前縁直下をわずかに越える。前鰓蓋骨の縁辺は円滑。主鰓蓋骨、間鰓蓋骨および下鰓蓋骨

の縁辺は円滑。体側部は櫛鱗で覆われ、腹鰭を除く各鰭の基底は小櫛鱗で覆われる。頭長被鱗域の前方は前鼻孔に達するが、吻端と鼻孔周辺部には鱗がない。涙骨上は 2-3 列の鱗で被われる。頬部は 4 列の鱗で被われる。側線は不完全で、背鰭第 2-3 軟条基部直下で欠如する。背鰭棘部の鰭膜は少し切れ込む。背鰭軟条部の輪郭は中央の軟条先端付近でわずかに尖る。尾鰭は深く二又し、両葉先端はやや尖る。尾鰭上葉は下葉よりもわずかに長い。

色彩 体全体が概ね紫みがかった濃褐色で、頭部背面から尾柄部背面にかけて濃く、腹方ほど色合いは淡くなる。眼の斜め後方から、前鰓蓋骨後縁にかけて瞳孔幅の明瞭な黒色横帯が走る。頭部背面から主鰓

蓋骨後縁を通り胸鰭基部にかけて、眼径幅の明瞭な黒色横帯が走る。胸鰭基部は、明瞭な黒色斑に覆われる。尾柄部は濃褐色で、尾鰭基底上下に黒色三角状斑がある。尾鰭は濃褐色で、後部の約 1/3 は淡褐色をなし、両葉先端は黒色。

分布 西・南太平洋に分布する。国内では琉球列島から標本が採集されている。

備考 本種は色彩・形態的にモンズメダイ *C. xanthura* (Bleeker, 1854) と酷似する。鹿児島大学総合研究博物館におけるモンズメダイとの詳細な比較検討の結果、両種は形態とミトコンドリア DNA 塩基配列において明確な相違がみられた。現在記載が進められている。

(西山 肇)

スズキ目 スズメダイ科 ルリスズメダイ属

スジブチスズメダイ

Chrysiptera biocellata
(Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 XIII, 12-14; 臀鰭 II, 13-14; 胸鰭 17-19; 鰓耙 9-10 + 17-18。体は卵円形で、体高は低く、よく側扁する。前鰓蓋骨上に鱗列が 3 列ある。眼下骨上は無鱗。前鰓蓋骨は滑らかである。腹鰭第

一軟条は伸長する。尾鰭はわずかに二又し、両葉後端は丸い。

色彩 体全体の地色が概ね黒色を呈す。体側面中央に薄黄色横帯がある。背鰭軟条部、胸鰭、および尾鰭は半透明で黄色がかかる。幼魚時は、背鰭基底中央に眼径とほぼ同大の黒色斑と、背鰭基底後端に黒色点がある。この黒色斑と黒色点は、成長にともない不明瞭になり、成魚では消失する。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種の成魚はイチモンズメダイ *C. unimaculata* (Cuvier, 1830) に似る。しかし、スジブチスズメダイはイチモンズメダイと比較して、体側面中央に薄黄色横帯があること(イチモンズメダイにはない)、前鰓蓋骨に 3 鱗列あること(2 列)などから識別される。

(岩坪 澁樹)



■ スジブチスズメダイ *Chrysiptera biocellata* KAUM-I. 39763, 79.2 mm SL



■ スジブチスズメダイ *Chrysiptera biocellata* KAUM-I. 47951, 32.8 mm SL



■ ミヤコキセンスズメダイ *Chrysiptera brownriggii* KAUM-I. 39977, 45.6 mm SL



■ ミヤコキセンスズメダイ *Chrysiptera brownriggii* KAUM-I. 40054, 24.5 mm SL



■ ミヤコキセンスズメダイ *Chrysiptera brownriggii* KAUM-I. 40056, 24.4 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 ルリスズメダイ属

ミヤコキセンスズメダイ

Chrysiptera brownriggii
(Bennett, 1828)

形態 背鰭 XIII, 12-15; 臀鰭 II, 11-14; 胸鰭 17-19; 鰓耙 6-9 + 12-14。体は卵円形で、体高は低く、よく側扁する。前鰓蓋骨上に鱗列が3列ある。眼下骨上は無鱗。前鰓蓋骨と主鰓蓋骨後縁は滑らかである。腹鰭第一軟条は伸長する。尾鰭はわずかに二叉し、両葉後端は丸い。

色彩 成魚は体全体が概ね黒色を呈す。主鰓蓋骨に黄色斑がある。体側面中央と尾柄に白色横帯がそれぞれ1本ある。背鰭は概ね黄色を呈す。臀鰭は黒色で、前

縁が青色を呈す。尾鰭は前半部が黒色で、後半部が黄色を呈す。胸鰭は半透明で橙色を帯びる。腹鰭は黒色を呈す。幼魚は体全体が黄褐色で腹面ほど色合いは淡くなる。背鰭棘部基底後端と軟条部基底後端に、それぞれ鮮青色で縁どられた黒色斑がある。眼上から、前者の黒色斑にいたる鮮青色縦帯がはしる。この鮮青色縦帯と黒色斑は、成長にともない不明瞭になり、成魚では消失する。尾柄上部後端に黒色斑がある。

分布 インド・太平洋（ハワイ諸島とイースター島を除く）に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種の幼魚は、イチモンズメダイ *C. unimaculata* (Cuvier, 1830) に酷似する。しかし、ミヤコキセンスズメダイはイチモンズメダイと比較して、前鰓蓋骨上の鱗列が3（イチモンズメダイでは2）であること、鮮青色帯が始部から終部まで同幅（後方ほど細くなる）であること、尾柄上部後端に黒色斑がある（ない）ことなどから識別される。しかし、全長10mmに満たないような個体では、識別が困難。

本種は幼魚時と成魚時で色彩が異なり、かつて日本国内においてそれぞれが別種であると考えられていた。そのため、幼魚期の色彩の個体には和名キンランズメが用いられていた。しかし、益田ほか（1975）によって両者が同種であることが認められた。

（岩坪洗樹）



■ アオスジスズメダイ *Chrysiptera caeruleolineata* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 スズメダイ科 ルリスズメダイ属

アオスジスズメダイ

Chrysiptera caeruleolineata
(Allen, 1973)

形態 背鰭 XIV, 11-14 ; 臀鰭 II, 13-14 ; 胸鰭 15-16 ; 腹鰭 I, 5 ; 鰓耙 6 + 14-16。体は細長い卵円形でよく側扁する。前鰓蓋骨縁は滑らか。体部はすべて櫛鱗。腹鰭

第1軟条は糸状に伸長する。尾鰭は二叉し、両葉先端が丸い。

色彩 頭部背面は暗い青色を呈する。頬部に複数の濃青色斑が散在する。体側面はほぼ一様に黄色を呈し、吻端から背鰭軟条始部にかけて鮮青色帯が走る。胸鰭基底上端に1黒色点がある。背鰭と臀鰭の縁辺は後縁を除いて、それぞれ鮮青色で縁取られる。

分布 東インド洋と太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、高知県以南の太平洋沿岸、福岡県、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 与論島では標本は得られなかったが、水中写真により本種の生息が確認された。

(岩坪洗樹)



■ ルリスズメダイ *Chrysiptera cyanea* Female 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ルリスズメダイ *Chrysiptera cyanea* Male 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ルリスズメダイ *Chrysiptera cyanea* Male KAUM-I. 39980, 52.5 mm SL



■ ルリスズメダイ *Chrysiptera cyanea* Male BSKU 108242, 48.2 mm SL



■ ルリスズメダイ *Chrysiptera cyanea* Male KAUM-I. 39720, 29.7 mm SL



■ ルリスズメダイ *Chrysiptera cyanea* Female KAUM-I. 46072, 34.8 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 ルリスズメダイ属

ルリスズメダイ

Chrysiptera cyanea
(Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 XIII, 12-13; 臀鰭 II, 12-14; 胸鰭 18-19; 鰓耙 6-8 + 11-13。体は卵円形で、体高は低く、よく側扁する。前鰓蓋骨上に鱗列が2列ある。眼下骨上は無鱗。前鰓蓋骨と主鰓蓋骨後縁は滑らかである。腹鰭第一軟条は伸長する。尾鰭はわずかに二叉し、両葉後端は丸い。

色彩 体全体の地色は一律に鮮青色を呈す。黒色帯が吻部から眼を通り、主鰓蓋骨上端にかけてと、上顎骨から眼窩下縁を通り、主鰓蓋骨後端にかけてそれぞれ走る。体側面に黒色点が散在する。尾鰭は、雄成魚では一律に鮮青色であるが、雌成

魚では基部の鮮青色を除き透明。背鰭、腹鰭、および臀鰭は体と同色。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では神奈川県以南の太平洋沿岸、福岡県、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は尾鰭の色彩が、雄成魚では鮮青色であることに対し、雌成魚では透明である。そのため、かつて日本国内において本種の雌には和名コバルトスズメが用いられ、雌雄は別種と考えられていた。しかし、益田ほか(1975)によって両者が同種であることが認められた。

ルリスズメダイは観賞魚として広く流通しており、現在でもコバルトスズメという名称が商用名として用いられることがある。

(岩坪洗樹)



■ ルリスズメダイ *Chrysiptera cyanea* Female KAUM-I. 39719, 29.4 mm SL



■ ルリスズメダイ *Chrysiptera cyanea* BSKU 106166, 27.4 mm SL



■ ネズスズメダイ *Chrysiptera glauca* KAUM-I. 40044, 78.3 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 ルリスズメダイ属

ネズスズメダイ

Chrysiptera glauca
(Cuvier, 1830)

形態 背鰭 XIII, 12-14; 臀鰭 II, 12-13; 胸鰭 16-19; 鰓耙 8-9 + 13-15。体は卵円形で、体高は低く、よく側扁する。前鰓蓋骨上に鱗列が3列ある。眼下骨上は無鱗。前鰓蓋骨と主鰓蓋骨後縁は滑らかである。腹鰭第一軟条は伸長する。尾鰭はわずかに二又し、両葉後端は丸い。

色彩 体全体は青色がかった灰白色を呈し、腹側ほど白みが強い。また、若い個体ほど体全体の青みが強い。肛門は黒色を呈す。幼魚時は、吻端から背面にかけて鮮青色帯が走る。この鮮青色縦帯は、成長にともない不明瞭になり、成魚では消失する。

分布 インド・太平洋（ハワイ諸島とイースター島を除く）に広く分布する。国内では小笠原諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種の幼魚は鹿児島県の島嶼域ではタイドプールに単独でよくみられる。
(岩坪洗樹)



■ ネズスズメダイ *Chrysiptera glauca* KAUM-I. 39700, 32.8 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 ルリスズメダイ属

レモンズズメダイ

Chrysiptera rex
(Snyder, 1909)

形態 背鰭 XIII, 12-15; 臀鰭 II, 12-15; 胸鰭 16-18; 側線有孔鱗 15-18; 鰓耙 17-19。体高は低く、よく側扁する。口は

端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下を越える。眼下骨上は鱗に被われる。前鰓蓋骨後縁は円滑。背鰭棘部の鰭膜は切れ込み、軟条部後縁はわずかに尖る。尾鰭はわずかに二又し、両葉先端は丸い。

色彩 生時、頭部は淡青色（死後、暗青色）で、体は橙黄色。胸鰭と腹鰭はわずかに黄色味がかった透明。背鰭、臀鰭、尾鰭



■ レモンズズメダイ *Chrysiptera rex* KAUM-I. 39875, 50.4 mm SL



■ レモンズズメダイ *Chrysiptera rex* KAUM-I. 45836, 50.9 mm SL



■ レモンズズメダイ *Chrysiptera rex* KAUM-I. 40409, 25.8 mm SL

は体と同様に橙黄色または淡黄色。主鰓蓋骨上部に小黑斑がある。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は水深 10 m 以浅の波の荒い岩礁またはサンゴ礁域に生息する。与論島では、潮通しのいい岩礁またはサンゴ礁域で単独またはペアで遊泳している姿が観察された。

(西山 肇)



■ レモンズズメダイ *Chrysiptera rex* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 スズメダイ科 ルリスズメダイ属

セナキルリスズメダイ

Chrysiptera starcki
(Allen, 1973)

形態 背鰭 XIII, 14-15; 臀鰭 II, 15-17; 胸鰭 15-17; 側線有孔鱗 15-16 + 8; 鰓耙 6 + 14。体高は低く、よく側扁する。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下をわずかに越える。前鰓蓋骨と主鰓蓋骨後縁は円滑。眼下骨上に鱗列を有する。腹鰭第一軟条は伸長する。尾鰭はわずかに二叉し、両葉後端は丸い。

色彩 体の地色は鮮青色を呈し、吻端から頭部背面を通り、背鰭軟条後端にかけて黄色縦帯が走る。胸鰭基底上端に1黒色斑がある。背鰭縁辺は鮮青色で縁取られる。胸鰭軟条は黄色で、鰭膜は透明。尾鰭は、成魚では基部の鮮青色域を除き黄色を呈すが、幼魚では一様に黄色である。腹鰭と臀鰭は鮮青色を呈す。

分布 西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はふつう水深 25-52 m とやや深所に生息している。大隅諸島硫黄島では水深 20 m 付近の礁斜面や岩の隙間に単独または複数匹で遊泳していた。一方、与論島では水深 10-15 m 付近に多くみられた。最大体長は 70 mm に達する。

(西山 肇・岩坪洗樹)



■ セナキルリスズメダイ *Chrysiptera starcki* KAUM-I. 58484, 49.8 mm SL



■ セナキルリスズメダイ *Chrysiptera starcki* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ イチモンスズメダイ *Chrysiptera unimaculata* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ イチモンズズメダイ *Chrysiptera unimaculata* KAUM-I. 39722, 56.1 mm SL



■ イチモンズズメダイ *Chrysiptera unimaculata* KAUM-I. 39973, 30.9 mm SL



■ イチモンズズメダイ *Chrysiptera unimaculata*
17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 スズメダイ科 ルリスズメダイ属

イチモンズズメダイ

Chrysiptera unimaculata
(Cuvier, 1830)

形態 背鰭 XIII, 13-14; 臀鰭 II, 11-14; 胸鰭 17-19; 頬部鱗列 2; 側線有孔鱗 16-20 + 7-10; 鰓耙 22-23。体高は低く、よく側扁する。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下をわずかに越える。涙骨系

は鱗に被われない。前鰓蓋骨後縁は円滑。背鰭棘部の鰭膜は切れ込み、軟条部後縁はわずかに尖る。尾鰭はわずかに二叉し、両葉先端は丸い。

色彩 成魚の体色は、概ね濃褐色で頭部と尾柄部から尾鰭にかけては淡褐色。背鰭基底後端に腫大の黒色斑がある。幼魚の体色は、黄褐色で腹方ほど色合いは淡くなる。背鰭棘部基底後端と軟条部基底後端に、それぞれ青色で縁どられた黒色斑

がある。眼上から、前者の黒色斑にいたる青色縦帯がはしる。この青色縦帯と黒色斑は、成長にともない消失する。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種の幼魚の体色はミヤコキセンスズメダイ *C. brownriggii* (Bennett, 1828) に似ている。しかし、イチモンズズメダイはミヤコキセンスズメダイと比較して、前鰓蓋骨上の鱗列が2 (ミヤコキセンスズメダイでは3) であることから、容易に識別される。
(西山 肇)



■ ミスジリュウキュウスズメダイ *Dascyllus aruanus* KAUM-I. 41236, 41.8 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 ミスジリュウキュウスズメダイ属

ミスジリュウキュウスズメダイ

Dascyllus aruanus
(Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 XII, 11-13; 臀鰭 II, 11-13; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 23-24。体高が高い。体は円形に近く、よく側扁する。眼下骨系の縁辺は鋸歯状である。背鰭は第1棘が最短で、第3棘が最長である。若い個体ほど体長に対する腹鰭の割合が大きい。尾鰭は二叉し、両葉後端がやや尖る。

色彩 背鰭始部から下顎、背鰭棘部中央

から腹鰭、および背鰭軟条部から臀鰭にかけて、それぞれ幅広い黒色横帯がある。この黒色横帯は背鰭でそれぞれつながる。黒色横帯以外の体部は白色を呈する。尾鰭は半透明である。

分布 東インド洋と太平洋（ハワイ諸島とイースター島を除く）に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は与論島では、枝状サンゴの周りに複数匹で群がり、危険を感じるとサンゴの隙間に隠れることが観察された。

(岩坪洗樹)



■ ミスジリュウキュウスズメダイ *Dascyllus aruanus* KAUM-I. 41235, 32.5 mm SL



■ ミスジリュウキュウスズメダイ *Dascyllus aruanus* KAUM-I. 46071, 32.5 mm SL



■ ミスジリュウキュウスズメダイ *Dascyllus aruanus* KAUM-I. 39760, 12.2 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 ミスジリュウキュウスズメダイ属

ミツボシクロスズメダイ

Dascyllus trimaculatus
(Rüppell, 1829)

形態 背鰭 XI-XII, 14-16; 臀鰭 II, 13-15; 胸鰭 18-21; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 23-25。体高が高い。体は円形に近く、よく側扁する。眼下骨系の縁辺は鋸歯状である。背鰭第

1棘長は、第2棘長の2分の1以下と短い。尾鰭は両葉後端が丸く、中央部がやや湾入する。

色彩 体全体はほぼ一様に黒色であり、後頭部と背鰭基底中央直下に1白色斑がある。この白色斑は幼魚から若魚時は明瞭であるが、成長にともない不明瞭になる。

分布 インド・太平洋（ハワイ諸島とイース

ター島を除く）に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種はミスジリュウキュウスズメダイ属としては例外的に大型イソギンチャクと共生するが、クマノミ類ほどイソギンチャクへの依存度は高くない。種小名の *trimaculatus* は3個の白色斑に由来する。
(岩坪洗樹)



■ ミツボシクロスズメダイ *Dascyllus trimaculatus* KAUM-I. 46069, 38.9 mm SL



■ ミツボシクロスズメダイ *Dascyllus trimaculatus* KAUM-I. 39761, 22.5 mm SL



■ ミツボシクロスズメダイ *Dascyllus trimaculatus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ クロスズメダイ *Neoglyphidodon melas* KAUM-I. 41130, 27.8 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 ヒレナガスズメダイ属

クロスズメダイ

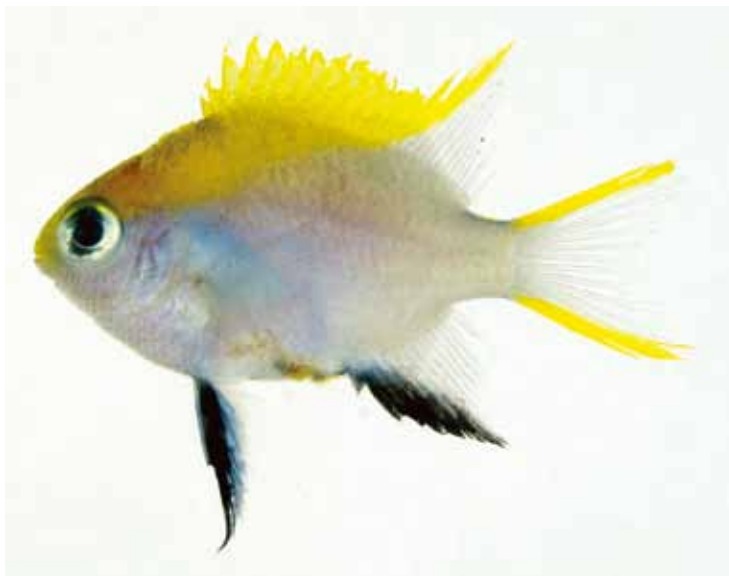
Neoglyphidodon melas
(Cuvier, 1830)

形態 背鰭 XIII, 14–16；臀鰭 II, 13–15；胸鰭 18–19；側線有孔鱗 16–17；鰓耙 19–22。体は側扁し、卵円形に近い。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下をわずかに越える。前鰓蓋骨後縁は円滑。両顎歯は2列。背鰭棘部の鱗膜は切れ込み、軟条部後縁は丸い（幼魚では、わずかに尖る）。尾鰭はわずかに二叉し、両葉先端は丸い（幼魚ではわずかに尖る）。

色彩 成長に伴い体の色彩が大きく変化する。幼魚の体は銀白色をなし、吻端から背鰭最長軟条にかけた背側面は黄色。腹鰭と臀鰭の前方の数鰭条は黒色で、それより後方は青白色。尾鰭両葉には基底から先端へむかう明瞭な黄色帯がある。成魚の体は概ね一様に黒色または暗褐色。

分布 インド・西太平洋。国内では小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 日本でこれまでに生息が確認されているヒレナガスズメダイ属は、クロスズメダイとヒレナガスズメダイ *N. nigroris*



■ クロスズメダイ *Neoglyphidodon melas* KAUM-I. 39759, 23.5 mm SL

(Cuvier, 1830) の2種のみである。クロスズメダイはヒレナガスズメダイと比較して、尾鰭先端が丸い（ヒレナガスズメダイは尖る）、胸鰭基底上部付近に黒色斑がな

い（黒色斑がある）、前鰓蓋骨後縁と眼下に黒色帯がない（黒色帯がはしる）などの特徴から容易に識別される。

(西山 肇)



■ ヒレナガスズメダイ *Neoglyphidodon nigroris* FRLM 43042, 88.2 mm SL



■ ヒレナガスズメダイ *Neoglyphidodon nigroris* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ヒレナガスズメダイ *Neoglyphidodon nigroris* KAUM-I. 41245, 27.9 mm SL



■ ヒレナガスズメダイ *Neoglyphidodon nigroris* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 スズメダイ科 ヒレナガスズメダイ属

ヒレナガスズメダイ

Neoglyphidodon nigroris
(Cuvier, 1830)

形態 背鰭 XIII, 13-16; 臀鰭 II, 13-15; 胸鰭 16-17; 側線有孔鱗 15-17; 鰓耙 22-26。体は側扁し、楕円形。口は端位で、口裂は斜行し、眼高前縁直下をわずかに

越える。前鰓蓋骨後縁は円滑。両顎歯は2列。背鰭棘部の鰭膜は切れ込み、軟条部後縁は尖る。尾鰭は二叉し、両葉先端尖る。

色彩 幼魚から成魚へと成長に伴い、体の色彩が大きく変化する。幼魚の体は黄色く、体側上方と中央に明瞭な黒色縦帯がはしる。成魚の体は概ね暗褐色または黄褐色。前鰓蓋骨後縁と眼下に黒色帯がはし

る。胸鰭基底上部付近に明瞭な黒色斑がある。

分布 西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は水深2-25 mの岩礁またはサンゴ礁域に生息する。

(西山 肇)



■ イシガキスズメダイ *Plectrogliphodon dickii* KAUM-I. 39971, 49.7 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 イシガキスズメダイ属

イシガキスズメダイ

Plectrogliphodon dickii
(Lienard, 1839)

形態 背鰭 XII, 16-17; 臀鰭 II, 14-16; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 4-5 + 13-14。体高はやや高い。体は卵円形で、よく側扁する。前鰓蓋骨後縁は滑らか。尾鰭は二叉し、両葉後端が尖る。

色彩 体全体がおおむね褐色を呈し、胸鰭

基底の周囲は黄色がかかる。背鰭基底軟条部基底前半部から臀鰭基底軟条部基底前半部にかけて幅広い黒色横帯がある。背鰭基底軟条部基底中央と臀鰭基底軟条部基底中央より後方の体部は白色。背鰭3-4棘間の鰭膜に瞳孔大の黒色斑がある。

分布 インド・太平洋（ハワイ諸島とイースター島を除く）に広く分布する。国内では伊豆大島、小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は体側面後部に幅広い黒色横帯があることでルリメイシガキスズメダイ *P. johnstonianus* Fowler & Ball, 1924 によく似る。しかし、イシガキスズメダイはルリメイシガキスズメダイと比較して、体側面の黒色横帯が鱗列4枚程度であること（ルリメイシガキスズメダイでは鱗列8枚程度）、背鰭3-4棘間に黒色斑があること（背鰭棘部は無地）などから識別される。

与論島では、水深2-10 mの枝状サンゴの周囲を単独で遊泳していた。

（岩坪洗樹）

スズキ目 スズメダイ科 イシガキスズメダイ属

イワサキスズメダイ

Plectrogliphodon imparipennis
(Vaillant & Sauvage, 1875)

形態 背鰭 XII, 14-16; 臀鰭 II, 11-12; 胸鰭 19-21; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 3-4 + 8-9。体高はやや高い。体は卵円形で、よく側扁する。前鰓蓋骨後縁は滑らか。尾鰭は二叉し、両葉後端が尖る。

色彩 眼は瞳孔とほぼ同幅の黒色横帯があり、ネコの眼のようにみえる。体背面と背鰭棘部は褐色がかかった緑色を呈す。体



■ イワサキスズメダイ *Plectrogliphodon imparipennis* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harasaki



■ イワサキスズメダイ *Plectroglyphidodon imparipennis* KAUM-I. 39716, 30.1 mm SL

腹面と腹鰭は白色。体側面の鱗上に青白色点がある。背鰭軟条部、臀鰭、および尾鰭は透明。

分布 インド・太平洋（マルケサス諸島とイースター島を除く）に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、高知県、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 与論島では、水深 1-10 m の岩礁域に単独でみられた。個体数はきわめて多い。

（岩坪洗樹）

スズキ目 スズメダイ科 イシガキスズメダイ属

ルリホシスズメダイ

Plectroglyphidodon lacrymatus
(Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 XII, 16-18；臀鰭 II, 13-15；胸鰭 18-20；腹鰭 I, 5；鰓耙 5-9 + 11-14。体高はやや高い。体は卵円形で、よく側扁する。前鰓蓋骨後縁は滑らか。尾鰭は二又し、両葉後端が尖る。

色彩 体全体の地色が褐色を呈す。頭部、体側面、および背鰭棘部に鮮青色点が散在する。この鮮青色点は成長にともない、体サイズに対する大きさの割合が小さくなる。幼魚時、背鰭棘部基底後半部付近に、眼径とほぼ同大の黒色斑がある。この黒色斑は、成長にともない不明瞭になり、成魚では消失する。

分布 インド・太平洋（ハワイ諸島とイースター島を除く）に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆半島以南の



■ ルリホシスズメダイ *Plectroglyphidodon lacrymatus* BSKU 108239, 45.4 mm SL

太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 与論島では、水深 1-10 m の枝状サンゴの周囲を単独で遊泳していた。

（岩坪洗樹）



■ ルリホシスズメダイ *Plectroglyphidodon lacrymatus* KAUM-I. 41140, 26.8 mm SL



■ ルリホシスズメダイ *Plectroglyphidodon lacrymatus* KAUM-I. 39937, 43.9 mm SL



■ ルリホシスズメダイ *Plectroglyphidodon lacrymatus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 スズメダイ科 イシガキスズメダイ属

ハクセスズメダイ

Plectroglyphidodon leucozonus
(Bleeker, 1859)

形態 背鰭 XII, 14-16; 臀鰭 II, 11-13; 胸鰭 20-21; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 3-9 + 11-14。体高はやや高い。体は卵円形で、よく側扁する。前鰓蓋骨後縁は滑らか。尾鰭は二叉し、両葉後端が尖る。

色彩 体全体の地色が褐色を呈す。体側面中央に薄黄色横帯がある。幼魚時、背鰭棘部基底後半部付近に、眼径とほぼ同大の黄色で縁取られた黒色斑がある。また、背鰭基底後端に黒色点がある。この黒色斑と黒色点は、成長にともない不明瞭になり、成魚では消失する。なお、体全体の色彩は若い個体ほど明るく、成長にともない暗くなる。



■ ハクセスズメダイ *Plectroglyphidodon leucozonus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ハクセンスズメダイ *Plectroglyphidodon leucozonus* KAUM-I. 39869, 37.9 mm SL



■ ハクセンスズメダイ *Plectroglyphidodon leucozonus* KAUM-I. 45969, 42.0 mm SL

分布 インド・太平洋（ハワイ諸島とイースター島を除く）に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太

平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は与論島では、水深0.5–3 mの岩礁域に単独でみられた。

（岩坪洗樹）



■ ニセネッタイスズメダイ *Pomacentrus amboinensis* KAUM-I. 47994, 27.2 mm SL



■ ニセネッタイスズメダイ *Pomacentrus amboinensis*
15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 スズメダイ科 ソラスズメダイ属

ニセネッタイスズメダイ

Pomacentrus amboinensis
Bleeker, 1868

形態 背鰭 XIII, 14–16; 臀鰭 II, 14–16; 胸鰭 17; 鰓耙 7–9 + 14–15。体は卵円形。涙骨と眼下骨の間に顕著な欠刻がある。涙骨と眼下骨は無鱗。眼下骨下縁と前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。下鰓蓋骨縁辺は滑らか。尾鰭は二叉し、両葉先端が尖る。

色彩 体全体は黄色。頭部に青色帯が数本あり、青色点が散在する。臀鰭に3本



■ ニセネッタイスズメダイ *Pomacentrus amboinensis* KAUM-I. 51346, 122.2 mm SL

程度の青色帯が走る。鰓蓋上部と胸鰭基底上端に青色がかった黒色点がある。この黒色点は胸鰭基底上端の方が大きい。幼魚は、背鰭軟条部に眼径とほぼ同大の黒色斑がある。この黒色斑は、成長にともない不明瞭になり、成魚では消失する。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では大隅諸島と琉球列島に分布する。

備考 与論島では水深2–15 mの岩礁域やサンゴ礁域に単独または数匹の群れで生息している。

(岩坪洗樹)



■ メガネスズメダイ *Pomacentrus bankanensis* KAUM-I. 45876, 57.6 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 ソラスズメダイ属

メガネスズメダイ

Pomacentrus bankanensis
Bleeker, 1853

形態 背鰭 XIII, 14-16; 臀鰭 II, 14-17; 胸鰭 17-18; 側線有孔鱗 16-20; 鰓耙 20-22。体は側扁し、楕円形。口は端位で、口裂は斜行し、瞳孔前縁直下に達する。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。眼下骨下縁は鋸歯状。頭部の鱗域は吻部に及ぶ。眼下骨上は鱗に被われない。両顎歯は少なくとも前方で2列。背鰭軟条部と臀鰭軟条部の後縁は丸い。尾鰭はわずかに二又し、両葉先端は丸い。

色彩 幼魚は頭部から体側背面および背鰭の赤色域を除き、体は概ね黒色。頭部に数本の青色縦線がはしる。背鰭軟条部に青白色で縁取られた眼径大の黒色斑がある。成魚は概ね一様に暗褐色。背鰭軟条部に眼径大の黒色斑がある。

分布 東インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 メガネスズメダイは同属のオジロスズメダイ *P. chrysurus* Cuvier, 1830 に似る。しかし、本種はオジロスズメダイと比較して、眼下骨下縁は鋸歯状（オジロスズメダイは円滑）、幼魚、成魚ともに背鰭軟条部に黒色斑がある（成魚では消失する）などの特徴から識別される。

(西山 肇)



■ メガネスズメダイ *Pomacentrus bankanensis* KAUM-I. 47848, 26.1 mm SL



■ メガネスズメダイ *Pomacentrus bankanensis* KAUM-I. 39933, 14.2 mm SL



■ メガネスズメダイ *Pomacentrus bankanensis* KAUM-I. 39933, 14.2 mm SL



■ オジロスズメダイ *Pomacentrus chrysurus* FRLM 43143, 62.7 mm SL



■ オジロスズメダイ *Pomacentrus chrysurus* KAUM-I. 40396, 35.8 mm SL



■ オジロスズメダイ *Pomacentrus chrysurus* KAUM-I. 39870, 36.1 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 ソラスズメダイ属

オジロスズメダイ

Pomacentrus chrysurus
Cuvier, 1830

形態 背鰭 XIII, 14-17; 臀鰭 II, 14-17; 胸鰭 17-18; 側線有孔鱗 16-20; 鰓耙 4-8 + 11-14。体は側扁し、楕円形。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下をわずかに越える。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。眼下骨下縁は円滑。頭部の鱗域は吻部に及ぶ。眼下骨上は鱗に被われない。両顎歯は少なくとも前方で2列。背鰭軟条部と臀鰭軟条部の後縁は丸い。尾鰭はわずかに二又し、両葉先端は丸い。

色彩 幼魚は頭部から体側背面および背鰭



■ オジロスズメダイ *Pomacentrus chrysurus*
17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

の橙色域を除き、体は概ね黒色。背鰭軟条部に青白色で縁取られた眼径大の黒色斑がある。成魚は概ね一様に暗褐色。

分布 インド・西太平洋。国内では伊豆諸



■ オジロスズメダイ *Pomacentrus chrysurus*
KAUM-I. 39714, 27.0 mm SL

島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 水深5m以浅の岩礁やサンゴ礁域に生息する。与論島では転石の隙間などでも観察された。

(西山 肇)



■ ソラスズメダイ *Pomacentrus coelestis* KAUM-I. 47847, 21.6 mm SL



■ ソラスズメダイ *Pomacentrus coelestis* KAUM-I. 40058, 23.9 mm SL



■ ソラスズメダイ *Pomacentrus coelestis* KAUM-I. 40059, 24.2 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 ソラスズメダイ属

ソラスズメダイ

Pomacentrus coelestis
Jordan & Starks, 1901

形態 背鰭 XIII, 13-15; 臀鰭 II, 14-15; 胸鰭 17-18; 側線有孔鱗 17-18; 鰓耙 20-22。体高は低く、よく側扁する。口は端位で、口裂は斜行し、瞳孔前縁直下をわずかに越える。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。

眼下骨下縁は円滑。涙骨系は鱗に被われない。尾鰭はわずかに二叉し、両葉先端はやや丸みを帯びる。背鰭軟条部と臀鰭軟条部の後縁は丸い。

色彩 頭部と体側の腹面および、尾柄部の黄色域を除き、体全体は概ね青色。胸鰭基底上端に小黒色斑がある。背鰭軟条部、腹鰭、臀鰭および尾鰭は黄色。胸鰭は透明。

分布 東インド洋と太平洋に広く分布する。

国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県、新潟県以南の南日本、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 水深 12 m 以浅の岩礁やサンゴ礁域の外側斜面で普通にみられる。日本では5月から9月にかけて繁殖期を迎え、雄は転石下に産み付けられた卵を守る。水温の低下にともない、体色は黒味を帯びる。

(西山 肇)

■ アサドスズメダイ *Pomacentrus lepidogenys* KAUM-I. 58521, 60.2 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 ソラスズメダイ属

アサドスズメダイ*Pomacentrus lepidogenys*

Fowler & Bean, 1928

形態 背鰭 XIII, 13-14 ; 臀鰭 II, 13-14 ; 胸鰭 17-18 ; 鰓耙 6 + 15。体は卵円形で、側扁する。眼下骨上に鱗列がある。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。下鰓蓋骨縁辺は滑らか。尾鰭は二又し、両葉先端が尖る。

色彩 体全体はおおむね緑色がかった灰色を呈し、腹面に向かうにしたがい白色がかかる。胸鰭基底上端に1黒色点がある。背鰭後部、臀鰭、および尾柄部は薄黄色を呈し、この薄黄色域は若い個体ほど鮮やかである。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 与論島では水深 10-15 m のサンゴ礁周辺で群れを形成していた。

(西山 肇)

■ アサドスズメダイ *Pomacentrus lepidogenys* KAUM-I. 58493, 55.4 mm SL■ アサドスズメダイ *Pomacentrus lepidogenys* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harasaki

スズキ目 スズメダイ科 ソラスズメダイ属

ネッタイスズメダイ

Pomacentrus moluccensis
Bleeker, 1853

形態 背鰭 XIII, 13-16; 臀鰭 II, 14-15; 胸鰭 16-17; 鰓耙 6-9 + 13-17。体は卵円形で、よく側扁する。涙骨と眼下骨の間に顕著な欠刻がある。涙骨と眼下骨は無鱗。眼下骨下縁と前鰓蓋骨後縁は鋸歯状だが、眼下骨下縁のものは弱い。下鰓蓋骨縁辺は滑らか。尾鰭は二又し、両葉先端が尖る。

色彩 体全体が黄色を呈す。青色帯が頭部に数本、臀鰭に1本走る。鰓蓋上部と胸鰭基底上端に青色がかった黒色点がある。この黒色点は鰓蓋上部の方が大きいか、またはほぼ同大である。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種はニセネッタイスズメダイ *P. amboinensis* Bleeker, 1868 に酷似する。しかし、ネッタイスズメダイはニセネッタイスズメダイと比較して、背鰭軟条部に黒色斑がないこと（ニセネッタイスズメダイでは眼径大の黒色斑がある）、眼下骨下縁の鋸歯が弱いこと（明瞭な鋸歯がある）などから識別される。

与論島では水深 2-15 m の岩礁域やサンゴ礁域に単独または数匹の群れで生息している。

(岩坪洗樹)



■ ネッタイスズメダイ *Pomacentrus moluccensis* KAUM-I. 47993, 18.4 mm SL



■ ネッタイスズメダイ *Pomacentrus moluccensis* KAUM-I. 40347, 21.5 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 ソラスズメダイ属

ナガサキスズメダイ

Pomacentrus nagasakiensis
Tanaka, 1917

形態 背鰭 XIII, 14-16; 臀鰭 II, 16-17; 胸鰭 17-18; 側線有孔鱗 17-19; 鰓耙 18-21。体は楕円形で、よく側扁する。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下をわずかに越える。眼下骨下縁は鋸歯状。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。涙骨系は鱗に被われぬ。尾鰭はわずかに二又し、両葉先端は丸い。

色彩 体全体は概ね濃青色。頭部には鮮青色の不規則な斑紋がある。背鰭軟条部



■ ナガサキスズメダイ *Pomacentrus nagasakiensis* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

に鮮青色で縁だられた黒色斑がある。胸鰭基底には、上方2分の1程を被う黒色斑がある。臀鰭と尾鰭に2-3本の淡青色線がはしる。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 水深5-30mの岩礁域やサンゴ礁域に単独または数匹の群れで生息している。(西山 肇)



■ ニセモンツキスズメダイ *Pomacentrus nigromarginatus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 スズメダイ科 ソラスズメダイ属

ニセモンツキスズメダイ

Pomacentrus nigromarginatus
Allen, 1973

形態 背鰭 XIII, 13-14; 臀鰭 II, 14-15; 胸鰭 16-17; 側線有孔鱗 15-17 + 7-8; 鰓耙 5 + 16。体は卵円形で、側扁する。涙骨と眼下骨の間に顕著な欠刻がある。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。頭部の鱗域は吻

部に達する。眼下骨上は鱗に被われない。両顎歯は少なくとも前方で2列ある。背鰭軟条部と臀鰭軟条部の後縁は丸い。尾鰭はわずかに二叉し、両葉先端は丸い。

色彩 体全体はおおむね灰色を呈し、後方に向かって明るくなる。胸鰭基底を覆う黒色斑がある。胸鰭は透明。背鰭後部、臀鰭、および尾柄から後方は薄黄色または黄色を呈する。尾鰭後縁は黒色で縁取られる。

分布 西太平洋に分布する。国内では大隅諸島と琉球列島に分布する。

備考 ニセモンツキスズメダは、モンツキスズメダイ *P. alexandrae* Evermann & Seale, 1907 に酷似する。しかし、本種はモンツキスズメダイと比較して、涙骨と眼下骨の間に欠刻がない(モンツキスズメダイでは顕著な欠刻があること)、尾鰭後縁が黒色で縁取られる(透明であること)などから識別される。

(岩坪洗樹)

スズキ目 スズメダイ科 ソラスズメダイ属

フィリピンズズメダイ

Pomacentrus philippinus
Evermann & Seale, 1907

形態 背鰭 XIII, 13-16; 臀鰭 II, 15-16; 胸鰭 17-18; 鰓耙 6-8 + 15-16。体は卵円形で、よく側扁する。眼下骨上に鱗列がある。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。下鰓蓋骨縁辺は滑らか。尾鰭は二叉し、両葉先端が尖る。

鰭軟条部、臀鰭軟条後半部、および尾鰭は黄色と呈す。胸鰭基底に黒色斑がある。体全体の色彩は、若い個体ほど鮮やかで、成長にともないくすむ。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では大隅諸島と琉球列島に分布する。

備考 種小名の *philippinus* はタイプ産地であるフィリピン(ソルソゴン州バコン)に因む。与論島では、サンゴ礁外縁の中層(水深2-20m)を群れで遊泳する様子が観察された。



■ フィリピンズズメダイ *Pomacentrus philippinus*
15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

色彩 体全体は概ね濃青紫色を呈す。背

(岩坪洗樹)



■ フィリピンズズメダイ *Pomacentrus philippinus* KAUM-I. 42716, 40.0 mm SL



■ フィリピンズズメダイ *Pomacentrus philippinus* FRLM 42932, 61.1 mm SL



■ フィリピンズズメダイ *Pomacentrus philippinus* KAUM-I. 40346, 22.9 mm SL



■ フィリピンズズメダイ *Pomacentrus philippinus* 17 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki



■ フィリピンズズメダイ *Pomacentrus philippinus* 17 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki



■ クロメガネスズメダイ *Pomacentrus vaiuli* FRLM 42939, 57.3 mm SL



■ クロメガネスズメダイ *Pomacentrus vaiuli* KAUM-I. 40182, 51.8 mm SL



■ クロメガネスズメダイ *Pomacentrus vaiuli* KAUM-I. 41204, 30.8 mm SL



■ クロメガネスズメダイ *Pomacentrus vaiuli* KAUM-I. 39931, 26.3 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 ソラスズメダイ属

クロメガネスズメダイ

Pomacentrus vaiuli
Jordan & Seale, 1906

形態 背鰭 XIII, 15-16; 臀鰭 II, 15-16; 胸鰭 17-19; 側線有孔鱗 15-18; 鰓耙 20-21。体は楕円形で、よく側扁する。眼下骨下縁は鋸歯状。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。涙骨系は鱗に被われない。背鰭棘部の鰭膜は切れ込み、軟条部後縁は丸い。

尾鰭はわずかに二又し、両葉先端はやや丸みを帯びる。

色彩 頭部から体側背面にかけての橙色域を除き、体は概ね青色または橙色味を帯びた青色。頭部に数本の青色縦線がはしる。体側に青色点が縦列し、数本の縦線模様を呈する。背鰭は淡橙色で、軟条部に鮮青色で縁どられた黒色斑がある。胸鰭、腹鰭、尾鰭は橙色味を帯びた透明。臀鰭は青色または橙色味を帯びた青色。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種の幼魚の体色は、メガネスズメダイ *P. bankanensis* Bleeker, 1853 とオジロスズメダイ *P. chrysurus* Cuvier, 1830 によく似るが、尾鰭基底が体側と同色（メガネスズメダイは白色）、両葉が橙色味を帯びた透明（メガネスズメダイでは透明）、頭部に数本の青色縦線がはしる（オジロスズメダイは縦線がない）ことから区別される。（西山 肇）

スズキ目 スズメダイ科 ソラスズメダイ属

ミナミイソスズメダイ

Pomacentrus sp.

形態 背鰭 XIII, 14-17; 臀鰭 II, 14-16; 胸鰭 17-18; 側線有孔鱗 15-20 + 6-10; 鰓耙 6-10 + 14-15。体は卵円形で、よく側扁する。口は端位で、口裂は斜行し、眼窩前縁直下をわずかに越える。眼下骨下縁には細かい鋸歯が並ぶ。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。涙骨系は鱗に被われない。

尾鰭はわずかに二叉し、両葉先端は丸い。

色彩 体全体がおおむね黒色を呈する。主鰓蓋骨上端に1黒色点がある。幼魚は、背鰭軟条部に鮮青色で縁取られた黒色斑があるが、成長にしたがい不明瞭になり、成魚では消失する。

分布 日本とパラオ諸島から記録がある。国内では大隅諸島と琉球列島に分布する。

備考 本種は通常浅いサンゴ礁域の枝状サンゴでみられる。



■ ミナミイソスズメダイ *Pomacentrus* sp.
16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

(岩坪洗樹)



■ オキナワスズメダイ *Pomachromis richardsoni* KAUM-I. 39860, 39.1 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 ソラスズメダイ属

オキナワスズメダイ

Pomachromis richardsoni
(Snyder, 1909)

形態 背鰭 XIII, 13-16; 臀鰭 II, 15-16; 胸鰭 17-18; 鰓耙 6-8 + 15-16。体は卵円形で、よく側扁する。体高は低い。眼下骨上に鱗列がある。眼下骨、前鰓蓋骨、および主鰓蓋骨の縁辺は鋸歯状。尾鰭は二叉し、両葉先端が尖る。

色彩 体全体の地色は概ね褐色で、体側面が灰色の網目状模様を呈す。背鰭基底後端から尾鰭上葉先端にかけてと、臀鰭基底後端から尾鰭下葉先端にかけて黒色帯がそれぞれ走る。背鰭軟条部基底に黄色斑がある。背鰭は後縁を除き、縁辺が青色で縁取られる。臀鰭前縁は青色で縁取られ、黒色帯がある。



■ オキナワスズメダイ *Pomachromis richardsoni* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

分布 西・南太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、福岡県以南の東シナ海沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は与論島では、群れをなして遊泳する様子が観察された。

(岩坪洗樹)



■ キオビスズメダイ *Stegastes albifasciatus* KAUM-I. 39976, 54.6 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 クロソラスズメダイ属

キオビスズメダイ

Stegastes albifasciatus
(Schlegel & Müller, 1839)

形態 背鰭 XII, 15-16; 臀鰭 II, 12-14; 胸鰭 18-20; 側線有孔鱗 18-20; 背鰭棘条部中央下側線上方横列鱗は $2\frac{1}{2}$; 鰓耙 19-26。体は側扁し、楕円形。口は端位で、口裂はわずかに斜行し、眼窩前縁直下を越える。眼下幅は眼径より小さい。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。下鰓蓋骨縁は円滑。両顎歯は 1 列。背鰭軟条部と臀鰭軟条部の後縁は丸い。尾鰭は二叉し、両葉先端はやや丸みを帯びる。

色彩 幼魚の体は概ね灰褐色。背鰭基底後端の黒色斑の前縁に黄色斑がある。成魚の体は概ね黄褐色で、体側には幅が体側鱗 4-5 枚分ほどの白色横帯がはしる。胸鰭基部下端に小黒色斑がある。背鰭基底後端の黒色斑の前縁に白色斑がある。

分布 東インド洋と太平洋に分布する。国内では与論島以南の琉球列島に分布する。

備考 キオビスズメダイは同属のクロソラスズメダイ *Stegastes nigricans* (Lacepède, 1802) に似る。しかし、本種はクロソラスズメダイと比較して、体側に白色横帯がはし



■ キオビスズメダイ *Stegastes albifasciatus* KAUM-I. 39758, 39.7 mm SL

る（クロソラスズメダイには目立った横帯がない）、背鰭基底後端の黒色斑の前縁に白色斑がある（前縁に白色斑がない）ことから識別される。

(西山 肇)



■ キオビスズメダイ *Stegastes albifasciatus* KAUM-I. 51244, 28.8 mm SL



■ セダカスズメダイ *Stegastes altus* KAUM-I. 45880, 35.9 mm SL



■ セダカスズメダイ *Stegastes altus*
KAUM-I. 45974, 48.4 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 クロソラスズメダイ属

セダカスズメダイ

Stegastes altus

(Okada & Ikeda, 1937)

形態 背鰭 XII–XIII, 15–17; 臀鰭 II, 12–13; 胸鰭 18–21; 側線有孔鱗 20–21; 背鰭棘条部中央下側線上方横列鱗 3½; 鰓耙 8–11 + 10–13。体は側扁し、楕円形。口は端位で、口裂はわずかに斜行し、眼窩前縁直下を越える。眼下幅は眼径より小さい。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。下鰓蓋骨縁辺は円滑。両顎歯は 1 列。胸鰭最下方の 2 軟条は遊離する。背鰭軟条部と臀鰭軟条部の後縁は丸い。尾鰭は二又し、両葉先端はやや丸みを帯びる。

色彩 幼魚の体は概ね灰色または白色で、



■ セダカスズメダイ *Stegastes altus* KAUM-I. 39864, 33.1 mm SL

頭部から体側背面にかけて緑色。背鰭棘条部前方には青白色で縁取られた黒色斑がある。成魚の体は概ね灰褐色または黄褐色。胸鰭基部上端に小黒色斑がある。背鰭棘条部前方に黒色斑がある。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の南日

本、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は水深 0.5–20 m の波の荒い岩礁やサンゴ礁域に生息する。与論島で生息が確認されたクロソラスズメダイ属の中では、最も個体数が多い。

(西山 肇)



■ フチドリスズメダイ *Stegastes fasciolatus* FRLM 43156, 71.3 mm SL



■ フチドリスズメダイ *Stegastes fasciolatus* KAUM-I. 39928, 23.0 mm SL



■ フチドリスズメダイ *Stegastes fasciolatus* KAUM-I. 45879, 44.9 mm SL



■ フチドリスズメダイ *Stegastes fasciolatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 スズメダイ科 クロスラスズメダイ属

フチドリスズメダイ

Stegastes fasciolatus
(Ogilby, 1889)

形態 背鰭 XIII, 14–17; 臀鰭 II, 12–14; 胸鰭 18–21; 側線有孔鱗 19–21; 背鰭棘条部中央下側線上方横列鱗 2½; 鰓耙 15–20。体は側扁し、楕円形。口は端位で、

口裂はわずかに斜行し、瞳孔前縁直下をわずかに越える。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。下鰓蓋骨縁辺は円滑。両顎歯は1列。背鰭軟条部と臀鰭軟条部の後縁は丸い。尾鰭は二叉し、両葉先端はやや丸みを帯びる。

色彩 幼魚の体は概ね黄褐色または青味がかった灰色。胸鰭基底を覆う黒色斑がある。背鰭棘条部前方の黒色斑の前縁に黄

色域がある。成魚の体は概ね様に暗褐色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 与論島では水深 10 m 以下の岩礁やサンゴ礁域で多く観察された。

(西山 肇)



■ フチドリスズメダイ *Stegastes fasciolatus*
17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ フチドリスズメダイ *Stegastes fasciolatus*
16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ フチドリスズメダイ *Stegastes fasciolatus*
15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ヨロンスズメダイ *Stegastes insularis*
KAUM-I. 45846, 49.8 mm SL



■ ヨロンスズメダイ *Stegastes insularis*
KAUM-I. 45847, 36.5 mm SL



■ ヨロンスズメダイ *Stegastes insularis* KAUM-I. 45850, 37.1 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 クロソラスズメダイ属

ヨロンスズメダイ

Stegastes insularis
Allen & Emery, 1985

形態 背鰭 XII, 15-17; 臀鰭 II, 11-13; 胸鰭 19-21; 側線有孔鱗 19-21; 背鰭棘条部中央下側線上方横列鱗 2½; 鰓耙 17-24。体は側扁し、体高は背鰭第3-6棘基部で最大。口は端位で、口裂はわずかに斜行し、主上顎骨後端は眼高前縁直下をわずかに越える。両顎歯は1列。眼下骨と前鰓蓋骨の縁辺は鋸歯状。主鰓蓋骨、間鰓蓋骨および下鰓蓋骨の縁辺は円滑。頭部背面の被鱗域は鼻孔位に達するが、鼻孔周辺には鱗がない。眼下骨との隣接部分を除き、涙骨上には鱗がない。胸鰭は最上部と最下部のそれぞれ2-3軟条は不分枝であり、遊離軟条がない(ただし、最下1軟条のみが遊離する個体もある)。尾鰭は二叉し、上葉先端はやや尖り、下葉先端は丸みを帯びる。

色彩 幼魚の体は頭部から尾部の前部にかけて青灰色をなし、頭部背面から躯幹背部にかけて濃く、腹方ほど淡くなる。背鰭棘条部は黒みを帯びた黄褐色で、第2棘から第5棘間の中央部に黒色斑がある。臀鰭は第1棘から鰭の前半にかけて濃褐色ないし黒色で、後半部は淡黄色。成魚の体色は頭部から尾部の前部にかけて灰褐色をなし、頭部背面から躯幹背部にかけて濃く、腹方ほど淡くなり、腹部は淡青白色。尾部は臀鰭基底中央よりも後方が黄色。背鰭棘条部は黒みを帯びた黄褐色で、第1棘から第5棘間の上部約2/3を覆う黒色斑がある。背鰭軟条部は大部分が黄色であるが、上部の約1/3が透明。胸鰭は淡黄色透明であり、基底上端に明瞭な黒斑がある。臀鰭では、第1棘と第2棘で形成される鰭の前縁が基部付近を除き濃褐色、第2棘先端と最終軟条の基部から1/4の位置を結ぶ線よりも縁辺側の大部分が濃褐色ないし黒色、基底側が黄色みを帯びた褐色、最終軟条と後部の2-3軟条の縁辺付近が黄色みを帯びた灰色。

分布 クリスマス島(東インド洋)および日本と台湾に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県、大隅諸島、琉球列島から記録されている。

備考 本種は与論島から得られた標本に基づき、西山ほか(2012)によって標準和名「ヨロンスズメダイ」が提唱された。ヨロンスズメダイは、同属の中で外見の特徴がセダカスズメダイ *Stegastes altus* (Okada & Ikeda, 1937) とフチドリスズメダイ *S. fasciolatus* (Ogilby, 1889) に類似する。しかし、ヨロンスズメダイはセダカスズメダイと比較して、背鰭棘条部中央下の側線上方横列鱗数が2½(セダカスズメダイでは3½)、胸鰭軟条は遊離しない(最下2軟条が共に遊離する)、最大体長が約85 mm (120 mm) などの特徴により識別される。また、フチドリスズメダイとは、背鰭棘数が12(フチドリスズメダイでは13)であることにより容易に識別される。

(西山 肇)



■ ヨロンスズメダイ *Stegastes insularis* KAUM-I. 45845, 50.0 mm SL



■ ヨロンスズメダイ *Stegastes insularis* KAUM-I. 45844, 52.3 mm SL



■ ヨロンスズメダイ *Stegastes insularis* KAUM-I. 45848, 50.3 mm SL



■ ヨロンスズメダイ *Stegastes insularis* 16 Apr. 2012. Photo by S. Harazaki



■ ヨロンスズメダイ *Stegastes insularis* 17 Apr. 2012. Photo by S. Harazaki



■ ヨロンスズメダイ *Stegastes insularis*
KAUM-I. 40057, 21.3 mm SL



■ ヨロンスズメダイ *Stegastes insularis* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ クロソラスズメダイ *Stegastes nigricans* KAUM-I. 39932, 22.7 mm SL

スズキ目 スズメダイ科 クロソラスズメダイ属

クロソラスズメダイ

Stegastes nigricans
(Lacepède, 1802)

形態 背鰭 XII, 14-17; 臀鰭 II, 12-14; 胸鰭 18-20; 側線有孔鱗 18-21; 背鰭棘条部中央下側線上方横列鱗 2½; 鰓耙 21-25。体は側扁し、楕円形。口は端位

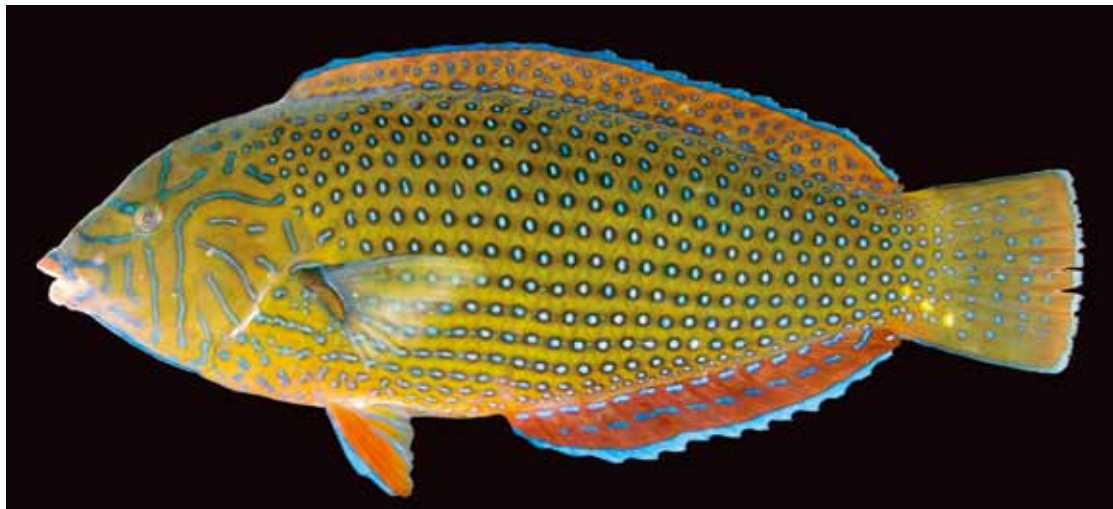
で、口裂はわずかに斜行し、眼窩前縁直下を越える。眼下幅は眼径より小さい。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。下鰓蓋骨縁辺は円滑。両顎歯は1列。背鰭軟条部と臀鰭軟条部の後縁は丸い。尾鰭は二叉し、両葉先端はやや丸みを帯びる。

色彩 幼魚の体は概ね一様に黄色く、頭部から体側背面にかけては黒味を帯びる。背鰭棘条部前部に黒色域がある。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では和歌山県以南の太平洋沿岸、長崎県、琉球列島に分布する。

備考 本項の色彩は与論島産の標本に基づく。本種は水深 12 m 以浅のサンゴ礁域に生息する。縄張りをもち、餌となる藻を育てることが知られている。

(西山 肇)



■ ブチスキベラ *Anampses caeruleopunctatus* KAUM-I. 40344, 190.1 mm SL



■ ブチスキベラ *Anampses caeruleopunctatus* KAUM-I. 41203, 23.2 mm SL



■ ブチスキベラ *Anampses caeruleopunctatus* KAUM-I. 51333, 14.6 mm SL



■ ブチスキベラ *Anampses caeruleopunctatus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ベラ科 ススキベラ属

ブチスキベラ

Anampses caeruleopunctatus
Rüppell, 1829

形態 背鰭 IX, 12 ; 臀鰭 III, 12 ; 胸鰭 12-14 ; 側線鱗 27。体高は高く、体はよく側扁する。口唇は厚く、口は前方に張り出す。腹鰭は短く、肛門に達しない。幼魚の尾鰭は円形で、成魚では截形。

色彩 成長段階と雌雄で体色の変化が著しい。幼魚は白色から黒色のまだら模様の地色に、白い小斑点が散在する。尾鰭は半透明。雄の体色はうすい緑色で、体側中央に黄緑色の横帯がある。頭部には正中線を通り、両眼にかかる細い青色帯がある。雌の体色は黄赤色で、体全体に青色斑点が規則正しく並ぶ。背鰭と臀鰭は青色で縁どられる。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原

諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 幼魚は海藻などの浮遊物に擬態し、体をくねらせて潮に流されるように泳ぐ。雌や若魚は南日本沿岸で普通にみられるが、雄個体は稀である。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 ススキベラ属

ムシベラ

Anampses geographicus
Valenciennes, 1840

形態 背鰭 IX, 12 ; 臀鰭 III, 12 ; 胸鰭 12-14 ; 側線鱗 48-50。体は細長く、背鰭と臀鰭前半は低い。眼は小さく、吻が長い。腹鰭は短く、肛門に達しない。口唇は厚く、両顎の先端はよく尖る。

色彩 幼魚は半透明な体色に薄茶色の横帯があり、背鰭と臀鰭後方にそれぞれ1個の眼径大の眼状斑がある。この眼状斑は雌成魚ではより大きくなるが、成魚の雄にはない。雄の地色は茶色で、各鱗に緑

色の斑紋があり、体側中央より少し後方の背側から腹部にかけて、不明瞭な白色帯がある。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、相模灘以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 岩礁からサンゴ礁域に生息する。幼魚は水深の浅い場所で他のベラやブダイの幼魚と群れる（西山・本村、2012）。
（片山英里）



■ ムシベラ *Anampses geographicus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ホシスキベラ *Anampses twistii* KAUM-I. 46037, 122.7 mm SL

ススキ目 ベラ科 ススキベラ属

ホシスキベラ

Anampses twistii
Bleeker, 1856

形態 背鰭 IX, 12; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 12-14; 側線鱗 26。体は細長く、吻はやや尖る。口唇は厚い。上顎には前方に向く門歯状歯がある。尾鰭は二重截形型で後縁が丸い。

色彩 幼魚の地色は褐色で、青色の不規則な細長い斑紋が散在する。腹部は黄色。成長に伴い体色が暗色になり、青色斑点は小さくなる。背鰭と臀鰭の後方にそれぞれ眼状斑があり、成魚になっても残る。成魚では鰓蓋後端に赤、緑、紺色が混じった1斑紋がある。雄成魚の腹部は鮮やかな黄色を呈し、吻から眼下を通り胸鰭基底まで延びる緑色帯が縦走する。

分布 インド・西太平洋に広く分布し、国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は潮通しの良いサンゴ礁や斜面に生息する。群れで行動し、危険を感じるとサンゴの隙間などに隠れる。最大で体長16 cmに達する。

本種とされてきた紅海の個体群は、黄色斑紋など体色のパターンが異なるため、別種か亜種の可能性が示唆されている（Kuiter, 2012）。今後、分類学的な検討が必要である。

（片山英里）



■ ホシスキベラ *Anampses twistii* 18 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki



■ ホシスキベラ *Anampses twistii* 16 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki

■ スミツキベラ *Bodianus axillaris* KAUM-I. 50868, 88.2 mm SL

スズキ目 ベラ科 タキベラ属

スミツキベラ

Bodianus axillaris
(Bennett, 1832)

形態 背鰭 XII, 10; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 15-16; 側線鱗数 30-31; 背鰭前方鱗 28-35 (通常 31)。体は細長く、頭部はよく尖る。背鰭と臀鰭の後端は鈍く尖り、大きく広がる。背鰭前方鱗は、前鼻孔の背側に達する。頬部の鱗は、上顎の上方から

鼻孔の下方まで達する。

色彩 体長 5 cm 程度の若魚は体全体が黒色で、各鰭の基底付近の体側と頭部、吻部に白い水玉模様がある。成魚では体と背鰭前部が赤褐色で、後半部が白色となる。背鰭・臀鰭後半部の鰭条は黄白色で、臀鰭鰭膜には黄色斑点が散在する。尾鰭鰭条は淡い山吹色。背鰭始部と中央部、臀鰭および胸鰭基底にそれぞれ黒色斑がある。

分布 ハワイ諸島とイースター島を除くインド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。本属の中では最も広域に分布する。

備考 本種はケサガケベラ *B. mesothorax* (Bloch & Schneider, 1801) によく似るが、背鰭と臀鰭の黒色斑紋により区別される。吻は細長く、口が小さいことが特徴で、他の魚にクリーニングをする。体長 14 cm 程度の小型種。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 タキベラ属

キツネベラ

Bodianus bilunulatus
(Lacepède, 1801)

形態 背鰭 XII, 7; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 16; 側線鱗 24-28; 背鰭前方鱗 12-18。体は細長く、頭部と吻は鈍く尖る。成長にともない吻は丸みを帯び、体高が高くなる。下顎の腹側に鱗がない。尾鰭の後端は、幼魚では丸みを帯びるが、成長にともない湾入する。老成魚では腹鰭および尾鰭の両葉先端の鰭条が伸長する。

色彩 成長にともない黒色帯が変化する。幼魚から若魚までは白色の地色に赤色の縞模様がある。背側は黄色を呈し、背鰭後方から臀鰭後方にかけて黒色横帯がある。10 cm 程度の若魚から成魚では、背鰭後方基底のみ黒色斑が残る。老成魚では黒色斑は完全に消失する。

■ キツネベラ *Bodianus bilunulatus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

分布 オーストラリア北東岸を除くインド・西太平洋の広域に分布し、国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋

沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 潮通しのよい岩礁、ガレ場、サンゴ

礁域に出現する。成魚は主に 20 m 以深に生息する。最大約 30 cm に達する。

(片山英里)



■ タキベラ *Bodianus perditio* KAUM-I. 55019, 33.5 mm SL



■ タキベラ *Bodianus perditio* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ペラ科 タキベラ属

タキベラ

Bodianus perditio
(Quoy & Gaimard, 1834)

形態 背鰭 XII–XIII, 10; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 17; 側線鱗 33–34。幼魚の体高は低く体細長い、成魚では高い。吻は幼魚から若魚ではやや尖るが、成魚では丸い。眼は小さい。尾鰭は幼魚では截形、成魚

では丸みを帯びた二重截形となり、両葉の先端が伸長する。

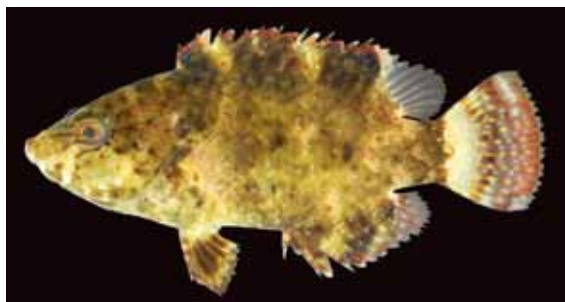
色彩 幼魚では赤褐色の体色を呈し、若魚では黄色、成魚では赤色。幼魚から若魚までは体側中央のやや後方に白色縦帯があり、成魚では背側にのみ残る。白色縦帯後方の背鰭基底に黒色部があり、成長に伴い不明瞭になる。幼魚では臀鰭に黒色斑があるが、成魚では消失する。頭部には黄色い小斑点が散在し、背鰭前方の

鰭膜に黒色斑紋がある。

分布 南西インド洋と西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は体長 50 cm ほどに達する大型種。外洋に面した潮通しの良い岩礁、サンゴ礁などの深場に生息する。本調査では幼魚 1 個体が採集された。

(片山英里)

■ アカテンモチノウオ *Cheilinus chlorourus* KAUM-I. 50810, 85.2 mm SL■ アカテンモチノウオ *Cheilinus chlorourus* KAUM-I. 45906, 50.3 mm SL■ アカテンモチノウオ *Cheilinus chlorourus* KAUM-I. 51504, 37.8 mm SL

スズキ目 ベラ科 モチノウオ属

アカテンモチノウオ

Cheilinus chlorourus
(Bloch, 1791)

形態 背鰭 X, 8-9; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 12; 側線鱗 14-16+7-9。体高は高く、吻部は若魚では尖るが、成長するにつれて緩やかになり、成魚では丸みを帯びる。背鰭と

臀鰭後端は長く、よく尖る。尾鰭は二重截形で、成魚の雄では両葉の先端がわずかに伸長し、雌では上葉のみ伸長する。

色彩 頭部から尾鰭まで体全体が褐色を呈する。吻から背鰭始部にかけて赤褐色の斑点が散在し、胸鰭を除く、各鰭と体側に白色斑点が散在する。背鰭基底には眼径ほどの白色斑が並ぶ。尾鰭基底には白色の縦帯がある。

分布 ハワイ諸島とイースター島を除くインド・太平洋に広く分布する。伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 警戒心が強く、岩やサンゴの隙間に体をおしつけて隠れる。幼魚から若魚は岩礁に擬態する。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 モチノウオ属

ミツバモチノウオ

Cheilinus trilobatus
Lacepède, 1801

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 12; 側線鱗 15-17 + 7-9。頭部は大きく、体高

が高い。臀鰭は背鰭中央の下方から始まる。背鰭と臀鰭の後方は長く、緩やかに尖る。尾鰭は大きく、二重湾入型で中央部が長くなる。

色彩 若魚までの地色は褐色で、背鰭から臀鰭にかけて不明瞭な3濃褐色横帯があり、体側中央には約5個の黒色斑点が

並ぶ。雄成魚の体側は濃い緑褐色で、緑色と赤色の細長いラインが鱗に沿うように、背側から腹側にかけて無数に走る。各鱗は緑色で、赤色に縁取られ、頭部には橙からピンク色の模様が散在する。尾柄には黒い横帯があり、前後に2本の白色横帯がある。雌は地色が全体的に黄褐色となる。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

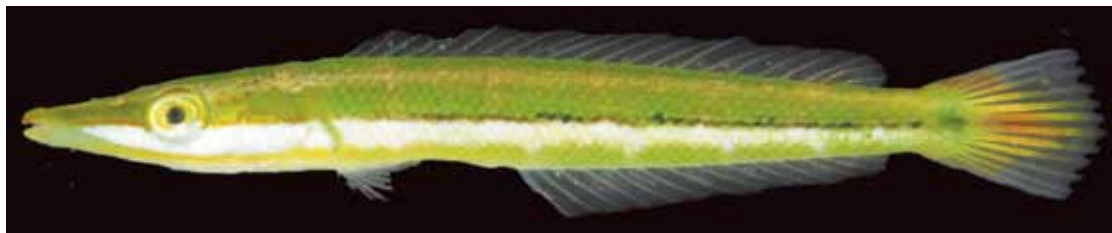
備考 本種はアカテンモチノウオ *C. chlorourus* (Bloch, 1791) に似るが、体に白色斑点がない（後者では体の後半部に白色斑点が散在する）、背鰭鰭条数が9棘10軟条（10棘8-9軟条）であることにより識別される。

本種はサンゴ礁域によくみられ、サンゴや岩の隙間を寝床とする。幼魚から若魚期には内湾の浅瀬にも出現する。

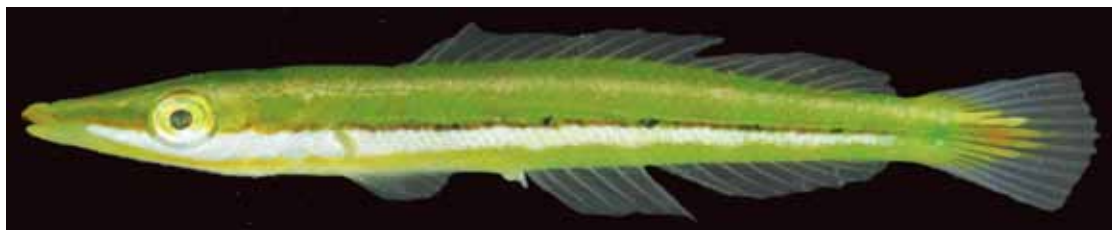
(片山英里)



■ ミツバモチノウオ *Cheilinus trilobatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ カマスベラ *Cheilio inermis* BSKU 108237, 49.1 mm SL



■ カマスベラ *Cheilio inermis* NSMT-P 110364, 44.9 mm SL



■ カマスベラ *Cheilio inermis* KAUM-I. 39727, 31.3 mm SL



■ カマスベラ *Cheilio inermis* KAUM-I. 51191, 37.1 mm SL

スズキ目 ベラ科 カマスベラ属

カマスベラ

Cheilio inermis
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 IX, 13; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 12; 側線鱗 46-48。体は細長く、体高は体長の6分の1以下。若魚では鰓蓋から尾柄まで体高はほぼ同長。口は大きく、眼

径の約2倍になる。尾鰭は截形。

色彩 底質や周辺環境によって体色が変化する。通常、幼魚は薄い緑色の地色で、成魚では薄い黄褐色を呈する個体が多いが、赤みや黄色みが強いものもある。幼魚から成魚まで体側の中央と背鰭基底に白色縦帯が走り、老成魚では消失する。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国

内では富山湾、伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。南日本の沿岸には主に幼魚から若魚が出現する。

備考 幼魚は特に藻場でよくみられ、海藻に隠れるように泳ぐ。本調査でも茶花漁港の水深約1-3 mの藻場で幼魚が多く観察された。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 イラ属

シチセンベラ

Choerodon fasciatus
(Günther, 1867)

形態 背鰭 XII, 7-8; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 14-15; 側線鱗 28-29。体高が高く、吻はゆるやかに尖る。口は小さい。胸びれは大きく、腹鰭は小さい。成魚の尾鰭は截形で、幼魚ではやや後縁が丸みを帯びる。

色彩 体の地色はやや黄みがかった白色で、頭部から尾柄にかけて約7本の濃い橙色の横帯がある。体の後方から尾柄部にかけて、前端が暗色を呈する。尾柄部にある最後の横帯は成長に伴い、太く黒色を呈する。幼魚では背鰭始部と後方、臀鰭に黒色の眼状斑がある。吻部は橙色と青みがかった暗色の縞模様で、前端周辺は橙色。

分布 赤道付近を除く西太平洋に分布する。国内では大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本種はサンゴ礁や岩礁域の岩縁や洞窟などに単独で生息する。本調査でも岩礁に沿って隠れるようにしながら泳ぐ姿が観察された。甲殻類や貝類を好む。

(片山英里)

■ シチセンベラ *Choerodon fasciatus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki■ シチセンベラ *Choerodon fasciatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki■ シチセンベラ *Choerodon fasciatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■クロヘリイトヒキベラ *Cirrhilabrus cyanopleura* KAUM-I. 46036, 94.7 mm SL

スズキ目ベラ科イトヒキベラ属

クロヘリイトヒキベラ

Cirrhilabrus cyanopleura
(Bleeker, 1851)

形態 背鰭 XI-XII, 8-9; 臀鰭 III, 8-10; 胸鰭 14-16; 側線鱗 15-18; 背鰭前方鱗 6。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状。体は細長く、吻は短い。吻長は眼径とほぼ同長で、やや丸みを帯びる。雄の腹鰭は長く伸長し、肛門を越えるが、雌では伸長しない。

色彩 幼魚では体全体がややピンクがかった褐色で、吻の先端が白色。各鰭はやや黄色味がかった透明。尾柄のやや背側に黒色斑紋がある。成魚の雌では体側上方から中央にかけ淡い黄緑色で、後方に向かいピンクがかった褐色になる。下方は白色。吻部の白色と、尾柄部上方の黒色斑は残る。成魚の雄では、体の地色は前半が黄褐色で、後半はピンクとオレンジ色が混じる。体側下方は白色を呈する。胸鰭の後方には暗色の縁をもつ鱗が1-4列ある。背鰭始部から胸鰭後方に向かって不明瞭な暗色帯がある。雌雄ともに胸鰭基底に濃



■クロヘリイトヒキベラ *Cirrhilabrus cyanopleura* FRLM 43040, 89.0 mm SL

紺の斜帯がある。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅半島、琉球列島に分布する。

備考 本種は潮通しの良い、岩礁やサンゴ

礁の斜面にハレムを形成して生活する。沖縄本島では体色のパターンが異なる個体が観察されている。それらは成熟しても雄の腹鰭が伸長せず、体側下方が黄橙色となり、雌も同様の体色を示す。体色の変異に関して、今後の分類学的研究が望まれる。

(片山英里)

スズキ目ベラ科イトヒキベラ属

ニシキイトヒキベラ

Cirrhilabrus exquisitus
Smith, 1957

形態 背鰭 XI, 9; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 14-15; 側線鱗 16-18 + 6-7; 背鰭前方鱗 5。体は細長く、吻は短い。背鰭および臀鰭後方の鰭条は前方に比べ長い。幼魚から雌の尾鰭はやや丸みを帯びた截形、雄では二重湾入型となる。腹鰭は伸長しない。

色彩 幼魚は体と各鰭がうすい桃色で、頭部には眼の上下を通る青白色縦帯がある。



■ニシキイトヒキベラ *Cirrhilabrus exquisitus* KAUM-I. 58512, 33.4 mm SL

体側中央から尾柄に向い、頭部のものより細い青白色縦帯が走る。すべての成長段階を通して尾柄に眼径とほぼ同長の眼状斑があるが、婚姻色を呈する雄では薄くなる。成魚は体が黄緑色で、幼魚と同様の青白色縦帯が走る。胸鰭は透明で赤い縁取りがある。雄の尾鰭には多数の青白色斑点が鰭条に沿って並ぶ。

分布 ハワイ諸島とイースター島を除くインド・太平洋に分布。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 外洋に面した、約 40 m 以深の岩礁域やガレ場、サンゴ礁域に生息する。稀種。本種はハレムを形成して繁殖を行い、雌から雄へと性転換をする。

(片山英里)



■ ニシキトヒキベラ *Cirrhilabrus exquisitus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ イトヒキベラ属の一種 *Cirrhilabrus lyukyuensis* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ペラ科 イトヒキベラ属

イトヒキベラ属の一種

Cirrhilabrus lyukyuensis
Ishikawa, 1904

形態 背鰭 XI, 9; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 14-15; 側線鱗 16-18 + 6-7; 背鰭前方鱗 6。体は細長く、吻は短く、眼径とほぼ同長で、やや丸みを帯びる。雄の腹鰭は長く伸長し、肛門を越えるが、雌では伸長しない。

色彩 雌雄ともに胸鰭基底の後方に黄色域がある。雌は吻から背鰭前方まで黄緑色

で、後方はピンクがかった黄色。雄は体の前半は青みがかった緑色で、後方はピンク色。胸鰭の後方に、暗色緑をもつ鱗が 5 列ある。垂直鰭は緑みを帯び、腹鰭は深緑色を呈する。胸鰭基底から腹側に伸びる青色斑がある。

分布 日本からフィリピン、インドネシア北部、マレーシアにかけて分布する (Kuitert, 2013)。国内では南日本の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本調査で雄 1 個体の水中写真が撮影された。*Cirrhilabrus lyukyuensis* Ishi-

kawa, 1904 は *C. cyanopleura* (Bleeker, 1851) の新参異名とされてきた (Randall, 1992)。しかし、Senou et al. (2007) と Kuitert (2013) は *C. cyanopleura* を有効とし、日本にも分布するとした。Senou et al. (2007) は本種に対して和名「クロヘリイトヒキベラ」を適用したが、西山・本村 (2012) や島田 (2013) は、従来通りクロヘリイトヒキベラには *C. cyanopleura* を用いている。本書では暫定的に後者に従い、本種をイトヒキベラ属の一種とした。これら 2 種の有効性や和名の適用については、今後の分類学的研究が期待される。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 イトヒキベラ属

ベニヒレイトヒキベラ

Cirrhilabrus rubrimarginatus
Randall, 1992

形態 背鰭 XI, 9; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 14-16; 側線鱗 15-18 + 5-8; 背鰭前方鱗 4-5。頬に2列の鱗がある。体高はやや高く、体長の3分の1。吻は眼径よりも短く、丸みを帯びる。背鰭軟条部と臀鰭は高い。尾鰭は円形。本種の雄は腹鰭が長く伸長し、臀鰭前端を越える。

色彩 幼魚は薄いピンク色を呈し、尾柄に眼状斑がある。この斑紋は成長とともに消失する。雌雄ともに背鰭後方の先端と、尾鰭後方が朱色になる。胸鰭は半透明のオレンジ色。雄は婚姻色を現わすと、より赤みの強い体色になり、臀鰭が白色になる。

分布 南東インド洋と西太平洋に分布する。



■ ベニヒレイトヒキベラ *Cirrhilabrus rubrimarginatus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

国内では伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

するが、成魚は通常 40 m 付近で観察される。潮通しの良い岩礁やサンゴ礁で、ハレムを形成して繁殖を行う。

備考 本種の若魚は水深 20-30 m に出現

(片山英里)



■ カンムリベラ *Coris aygula* KAUM-I. 51541, 197.7 mm SL



■ カンムリベラ *Coris aygula* KAUM-I. 45803, 29.1 mm SL



■ カンムリベラ *Coris aygula* KAUM-I. 40052, 14.0 mm SL

■ カムリベラ *Coris aygula* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki■ カムリベラ *Coris aygula* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ベラ科 カムリベラ属

カムリベラ

Coris aygula
Lacepède, 1801

形態 背鰭 XIII-IX, 12-13; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 14; 側線鱗 61-66。体は細長く、吻はよく尖る。成長に伴い、頭頂部がコブ状になる。成魚の尾鰭後縁の鰭膜は深く切れこむ。

色彩 成長にともなう変化が著しい。幼魚の地色は白色で、頭部は黒色の水玉模様。背鰭鰭膜から基底にかけて2眼状斑があり、その下方に鮮やかな橙色の斑紋がある。10 cm 前後の若魚では体前方が黒色の水玉模様で、後半が黒褐色。垂直鰭は白く縁取られる。体の中央に1本の白色横帯があるが、成長に伴い明瞭になる。成魚は青黒く、頭部には橙色の斑点が散在する。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、茨城県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本種は礫域、岩礁やサンゴ礁に生息し、貝類やカニを捕食する。特に幼魚は南日本の広範囲に出現する。最大体長約1 mに達する大型種である。

(片山英里)

■ シチセムスメベラ *Coris batuensis* BSKU 108285, 83.8 mm SL

スズキ目 ベラ科 カムリベラ属

シチセムスメベラ

Coris batuensis
(Bleeker, 1856)

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 11-12; 胸鰭 13; 側線鱗 50-55。体はやや細長く、吻は尖る。尾鰭は截形。腹鰭は短く肛門に達しない。

色彩 体の地色は白色で薄いピンク色を呈する。幼魚、若魚および雌個体では、体にピンク色の斑点が散在し、背鰭中央と後方にそれぞれ眼状斑がある。雄の体側上方はやや緑みをおび、背鰭基底から体側中央にかけて約5本の横帯がある。雌は淡い桃色にわずかに黄緑色を呈し、約5本の褐色の横帯がある。頭部にはピンク色の虫食い模様がある。雌雄ともに胸鰭基底が黒色となり、尾鰭に明瞭な斑紋がない。

分布 チャゴス諸島以東のインド・西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本種はスジベラ *C. dorsomaculata* Fowler, 1908 に似るが、体高が高いことと雌雄ともに背鰭に眼状斑があることよって容易に識別される。本種は小型の甲殻類や貝類などを捕食する。

(片山英里)



■ シチセンムスベラ *Coris batuensis* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ スジベラ *Coris dorsomacula* KAUM-I. 55131, 110.3 mm SL



■ スジベラ *Coris dorsomacula* FRLM 42923, 105.3 mm SL



■ スジベラ *Coris dorsomacula* FRLM 43049, 94.7 mm SL

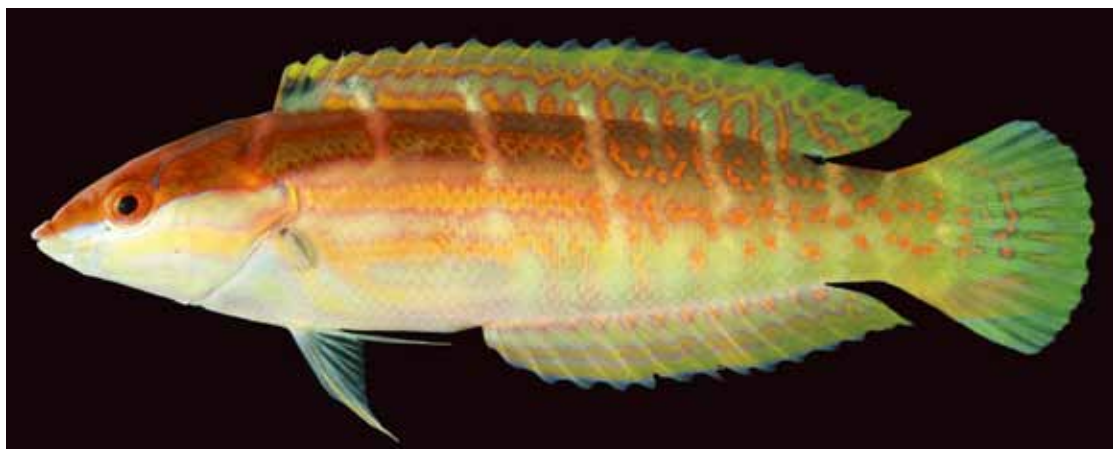
ススキ目ベラ科カンムリベラ属

スジベラ

Coris dorsomacula
Fowler, 1908

形態 背鰭 IX, 11-12; 臀鰭 III, 11-12; 胸鰭 13; 側線鱗 50-55; 鰓耙 17-19。体は細長く、体高が低い。吻は短く尖る。胸鰭は肛門に達しない。尾鰭は截形で後端が丸みを帯びる。

色彩 幼魚は体全体が桃色を呈し、鰓蓋後縁に後方が黄色に縁取られる黒色斑がある。また背鰭後端の基底に小黒色斑点がある。これらは雌では残るが、雄では消失する。体色が白みを呈する個体から赤み

■ スジベラ *Coris dorsomacula* KAUM-I. 42719, 89.3 mm SL■ スジベラ *Coris dorsomacula* FRLM 43048, 83.4 mm SL■ スジベラ *Coris dorsomacula* KAUM-I. 42708, 72.0 mm SL

が強いものまで変異が大きい。体側に約6本の白色横帯がある。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島

に分布する。

備考 最大で体長 20 cm 程度。南日本の沿岸において、本属の中で最も普通にみられる。

(片山英里)



■ スジベラ *Coris dorsomacula* 16 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki



■ ツユベラ *Coris gaimard* KAUM-I. 51540, 175.1 mm SL

ススキ目ベラ科カンムリベラ属

ツユベラ

Coris gaimard
(Quoy & Gaimard, 1824)

形態 背鰭 IX, 12-13; 臀鰭 III, 12-13; 胸鰭 13; 側線鱗 70-80。雄は成魚になると第1背鰭棘が著しく伸張する。

色彩 成長ともない著しく変化する。幼魚は橙色の地色に、黒色の縁取りがある白色の鞍状斑がある。若魚は赤褐色の体色に青色の斑点が散在する。成魚では青色斑点がより密になり、吻から鰓蓋と背鰭始部に向かい緑色の3縦帯が走る。

分布 東インド洋と太平洋に広く分布し、国内では伊豆諸島、小笠原諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 南日本では普通種で、岩礁やサンゴ礁域でよく観察される。

(片山英里)



■ ツユベラ *Coris gaimard* KAUM-I. 42721, 22.9 mm SL



■ ツユベラ *Coris gaimard* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

■ ギチベラ *Epibulus insidiator* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ベラ科 ギチベラ属

ギチベラ

Epibulus insidiator
(Pallas, 1770)

形態 背鰭 IX-X, 9-11; 臀鰭 III, 8-9; 胸鰭 12; 側線鱗 14-15+8-9。頭は大きく、体長の3分の1以上。前頭部はわずかにこぶ状になる。口は著しく前方に突出するが、両顎の開閉部が小さく、ストロー状になる。閉口時、下顎は後方へ突出する。胸鰭は小さく丸い。腹鰭は長く、肛門に達する。背鰭と臀鰭後端はよく尖り、臀鰭では長く伸長する。成魚の尾鰭両葉の先端

は長く伸長し、中央部はよく切れ込む。

色彩 成長に伴い大きく変化する。幼魚は体の地色が茶色、眼の周辺には放射状に伸びる細い白色帯がある。背鰭中央付近と後方、臀鰭に黒色斑があり、その斑紋中に白色線がある。若魚は薄い黄褐色の体色を示し、頭部と尾柄は灰色。成魚の雄では、濃い褐色の体色で、各鱗は黒色に縁どられる。背側が鮮やかなオレンジ色になる。

分布 イースター島を除くインド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅半島、琉球列島に分布する。

■ ギチベラ *Epibulus insidiator* 17 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki

備考 本種の口は両顎ともに前方へ大きく突出し、サンゴや転石の隙間などに隠れている甲殻類などの小動物を捕食する。幼魚は内湾などの穏やかな場所で観察される。(片山英里)

スズキ目 ベラ科 クギベラ属

クギベラ

Gomphosus varius
Lacepède, 1801

形態 背鰭 VIII, 13-14; 臀鰭 III, 10-13; 胸鰭 15; 側線鱗 26-30。体は細長く、吻は細長く前方に突出する。幼魚では吻が短い、成長に伴い長くなる。胸鰭は上方が長く三角形。尾鰭は雄では湾入形、幼魚と

雌では後縁が丸い截形。

色彩 体色は成長にともない著しく変化する。幼魚では、体側上方が緑色、中央から腹部は白色で、吻から尾柄にかけて2本の黒色縦帯によって塗り分けられる。若魚と雌では、体側前半が白色、後半と背鰭および臀鰭鰭膜が黒色、臀鰭基底には黄色斑点が並ぶ。吻端から眼の後方へ延びる褐色縦線がある。雄では体全体が緑色を呈し、頭部は紺色となる。鰓蓋後方に

は明るい黄緑色の斑紋がある。

分布 東インド洋とイースター島を除く太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、九州西岸、大隅諸島、琉球列島の広範囲で確認されている。

備考 サンゴ礁付近で普通にみられ、幼魚はその隙間などで観察される。(片山英里)



■ ウギベラ *Gomphosus varius* KAUM-I. 42273, 35.1 mm SL



■ ニシキキュウセン *Halichoeres biocellatus* KAUM-I. 51395, 75.5 mm SL



■ ニシキキュウセン *Halichoeres biocellatus* KAUM-I. 58511, 36.1 mm SL



■ ニシキキュウセン *Halichoeres biocellatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ニシキキュウセン *Halichoeres biocellatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ニシキキュウセン *Halichoeres biocellatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ニシキキュウセン *Halichoeres biocellatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ニシキキュウセン *Halichoeres biocellatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ニシキキュウセン *Halichoeres biocellatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ベラ科 ホンベラ属

ニシキキュウセン

Halichoeres biocellatus
Schultz, 1960

形態 背鰭 IX, 12; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 13; 側線鱗 27。吻は尖り、口は小さい。腹鰭は短く、肛門に達しない。尾鰭は幼魚～若魚と雌では截形、成魚では二重截形となる。

色彩 体は赤色で、幼魚では約4本の白色縦帯があり、尾柄上方に黒色斑がある。幼魚から若魚、雌では背鰭の中央付近と後方に2眼状斑がある。雌雄ともに成魚の頭部の縦帯は緑色になる。吻から眼下を通り、鰓蓋上方に向かう縦帯と、下顎後方から前鰓蓋に沿って走る緑色帯がある。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆半

島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はツキベラ *H. orientalis* Randall, 1999 に似るが、雌雄ともに眼の後方に2本の緑色横帯があることで識別される。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 ホンベラ属

キスジキュウセン

Halichoeres hartzfeldii
(Bleeker, 1852)

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 13; 側線鱗 27。体は細長く、後方に向かってより細くなる。幼魚は体高が低く、吻はよく尖る。

色彩 幼魚は体全体が半透明の地色、体側中央には太い赤褐色縦帯があり、臀鰭基底には細い縦帯がある。雌では、それらの縦帯が鮮やかな黄色となる。成魚の雄では、体が黄色みを帯びた緑色を呈し、体



■ キスジキュウセン *Halichoeres hartzfeldii* KAUM-I. 51375, 158.8 mm SL



■ キスジキュウセン *Halichoeres hartzfeldii* FRLM 42873, 143.0 mm SL

側中央のやや直上には青色の縁取りをもつ黄色縦帯がある。垂直鰭の基底付近にはそれぞれ青色のラインがある。頭部には黄色の虫食い状の模様がある。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、琉球列島に生息する。

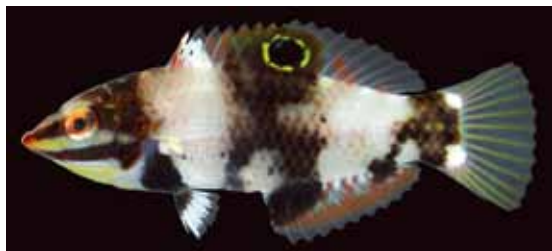
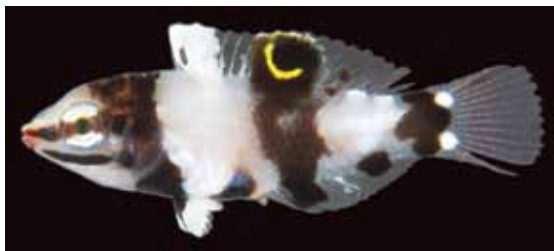
備考 本種は高知県の柏島では成魚も確

認されているが、琉球列島における分布は、沖縄諸島以南とされている（島田、2013）。与論島では2個体の標本が採集され、本種の琉球列島内での追加記録となる。ガレ場や砂地にハレムを形成して生活する。

（片山英里）



■ トカラベラ *Halichoeres hortulanus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

■トカラベラ *Halichoeres hortulanus* KAUM-I. 39952, 106.5 mm SL■トカラベラ *Halichoeres hortulanus* KAUM-I. 46041, 149.6 mm SL■トカラベラ *Halichoeres hortulanus* KAUM-I. 48147, 31.3 mm SL■トカラベラ *Halichoeres hortulanus* NSMT-P 110403, 10.3 mm SL

スズキ目 ベラ科 ホンベラ属

トカラベラ

Halichoeres hortulanus
(Lacepède 1801)

形態 背鰭 IX, 10-11; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 13-15; 側線鱗 26-28。体は細長く、体高はやや高く、体長の約3分の1。口は小さく、吻は尖る。眼の後方に小鱗列があり、鰓蓋上部の鱗を欠く。両顎に2組の犬

歯状歯があり、上顎の後方には湾曲した1組の犬歯状歯がある。

色彩 幼魚から若魚では白色と黒色の不規則な縞模様となる。成魚は頭部が緑色の地色で、ピンク色の縞模様がある。項部から背鰭前方にかけてピンク色の水玉模様で、体側には薄い緑色で青紫色の細長い小斑が規則正しく並ぶ。尾鰭は黄色を呈し、雌雄ともに褐色の縞模様がある。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、九州西岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本種は20 m以浅の潮通しの良いガレ場、サンゴ礁域に生息する。南日本の沿岸では主に幼魚が観察される。

(片山英里)



■ アカニジベラ *Halichoeres margaritaceus* KAUM-I. 51247, 51.0 mm SL



■ アカニジベラ *Halichoeres margaritaceus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ アカニジベラ *Halichoeres margaritaceus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ アカニジベラ *Halichoeres margaritaceus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ アカニジベラ *Halichoeres margaritaceus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ベラ科 ホンベラ属

アカニジベラ

Halichoeres margaritaceus
(Valenciennes, 1839)

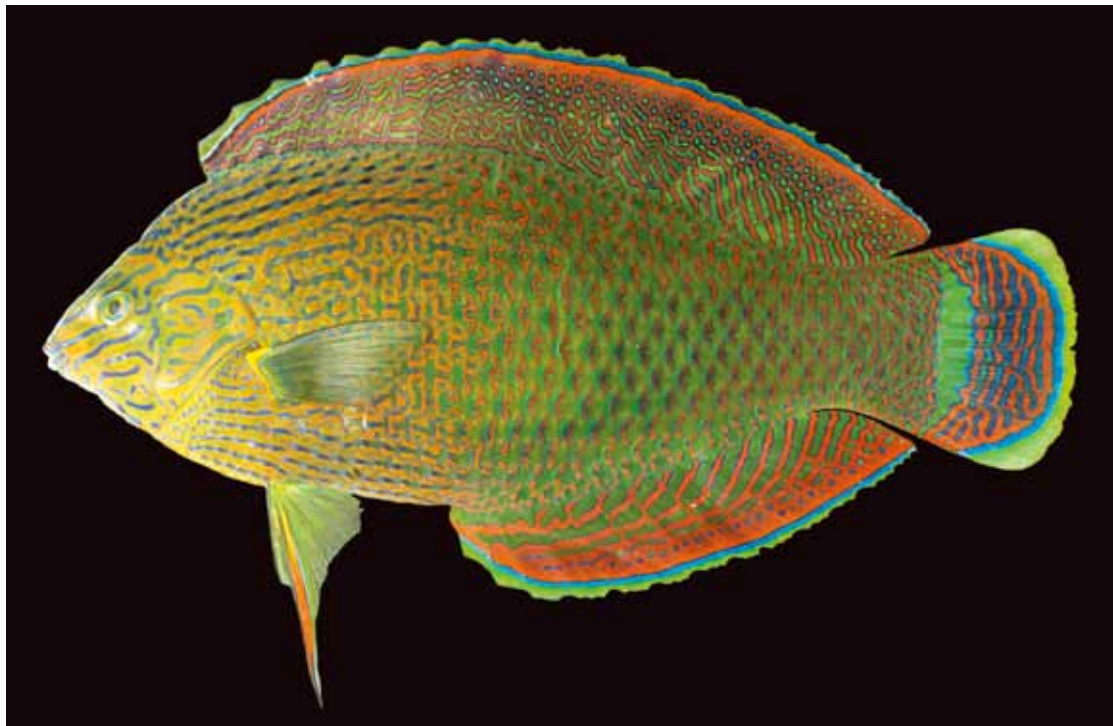
形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 13-14; 側線鱗 27。体はやや細長く、吻はよく尖る。上顎長は眼径とほぼ同長。胸鰭は上方が長く、三角形。背鰭の前方は低く、中央部がもっとも高い。尾鰭は截形で、後端がわずかに丸みを帯びる。

色彩 幼魚の地色は半透明から白色で、体側の中央付近に不明瞭な横帯がある。成魚の雌では体側上方が赤褐色で、下方が緑白色。背鰭基底と体側下方に、不定形の白色斑点の縦列がある。腹部には、体側中央から腹側に向かって走る白色線がある。雄は体の地色が薄い緑色で、頭部にオレンジ色の虫食い模様がある。眼下の様子は、上顎から鰓蓋後端に向かってまっすぐに走る。幼魚から成魚まで、背鰭中央に黒色眼状斑がある。

分布 東インド洋とハワイ諸島・イースター島を除く太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、九州西岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はイナズマベラ *H. nebulosus* (Valenciennes, 1839)、ホホワキュウセン *H. miniatus* (Valenciennes, 1839) に似るが、頬部の斑紋が直線であること、体側上方の体色が比較的明るいことによって区別される。

(片山英里)



■ カノコベラ *Halichoeres marginatus* KAUM-I. 40343, 134.4 mm SL



■ カノコベラ *Halichoeres marginatus* KAUM-I. 45982, 54.3 mm SL



■ カノコベラ *Halichoeres marginatus* KAUM-I. 41129, 26.7 mm SL

スズキ目 ベラ科 ホンベラ属

カノコベラ

Halichoeres marginatus
Rüppell, 1835

形態 背鰭 IX, 13-14; 臀鰭 III, 12-13; 胸鰭 14-15; 側線鱗 27-28。体前半の体高は高く、後方に向かうにつれて低くなる。吻はやや尖り、両顎は小さい。雄の腹鰭は第1軟条が伸長し、肛門に達する。尾鰭は截形で、後端が丸い。

色彩 成長に伴い著しく変化する。幼魚は体の地色が黒色で、約3本の不連続の白色縦帯が走り、背鰭中央に目立つ黒色眼状斑がある。若魚と成魚の雌では、尾鰭を除く体全体が黒褐色となる。背鰭前端に小眼状斑があり、中央の眼状斑は眼径の約2倍に達する。雄は体の前方が茶色を呈し、多数の青色帯が縦走するが、後方は緑色で、朱色の斑紋が規則的に並ぶ。垂直鰭はオレンジ色に緑色の模様があり、その縁は鮮やかな青色の縁取りがある。鰭の縁は深緑色。腹鰭は緑茶色で、第1軟条に沿ってオレンジ色のラインがある。

分布 マルケサス諸島とイースター島を除くインド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、九州西岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 幼魚は南日本のサンゴ礁域で普通に見られ、サンゴや岩礁に沿うように泳ぐ。
(片山英里)



■ カノコベラ *Halichoeres marginatus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ カノコベラ *Halichoeres marginatus* 16 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki



■ ムナテンベラ *Halichoeres melanochir* FRLM 43044, 105.9 mm SL

スズキ目ベラ科ホンベラ属

ムナテンベラ

Halichoeres melanochir
Fowler & Bean, 1928

形態 背鰭 IX, 12; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 14; 側線鱗 27-28。体高は低く、体長の3分の1。吻はやや尖る。腹鰭は肛門に達しない。尾鰭は截形で後縁は丸い。

色彩 体長 2 cm 程度の幼魚では赤褐色の体色に吻から尾柄にかけて、3本の白色縦線がある。背鰭始部と中央部、胸鰭基底、

尾柄上方には黒色斑がある。若魚の体色は青色を呈し、背鰭中央部の眼状斑は成長にともない消失するが、背鰭前方の黒色斑は成魚まで残る。体長約 3 cm の幼魚から成魚まで、腹鰭は鮮やかな山吹色を呈する。成魚では胸鰭の基底の黒色斑が大きく、よく目立つ。体長 10 cm を越える個体では青色の体色に橙みを帯び、背鰭と臀鰭には約 3 本の橙色縦帯がある。雄成魚の体側中央から上方にかけて、眼の後方から体側後半部にかけて小黒色斑点が規則的に並ぶ。

分布 南東インド洋と西太平洋に分布。国

内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、九州西岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 幼魚はカノコベラ *H. marginatus* Rüppell, 1835 に似るが、体色が青いこと、腹鰭が橙色であることにより識別される。

潮通しの良い岩礁やサンゴ礁に生息し、南日本でも幼魚から成魚まで観察される。体長は約 18 cm に達する。

(片山英里)



■ ムナテンペラ *Halichoeres melanochir* KAUM-I. 41164, 38.9 mm SL



■ ムナテンペラ *Halichoeres melanochir* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ムナテンペラ *Halichoeres melanochir* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ムナテンペラ *Halichoeres melanochir* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ムナテンペラ *Halichoeres melanochir* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ベラ科 ホンベラ属

イナズマベラ

Halichoeres nebulosus
(Valenciennes, 1839)

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 11; 胸鰭

13-15; 側線鱗 27。体は細長い。吻はゆるやかに尖る。尾鰭は截形で、後端は丸みを帯びる。腹鰭は肛門に達しない。

色彩 幼魚の地色は半透明で、鰓蓋後方と体側の中央に黒色部があり、体側に不定形の白色斑が散在する。背鰭中央に眼

状斑があり、成長とともに周辺の模様と繋がる。若魚と雌は、体側上方が赤みをおび、黒色のまだら模様がある。頭部腹側は、わずかに黄色みを帯び、腹部後方は鮮やかなピンク色。成魚の雄では、頭部は薄い緑色でオレンジ色の虫食い模様がある。そのうちの一つは、眼下から鰓蓋下方に走る。

分布 ソロモン諸島とバヌアツを除くインド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋岸、九州西岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本調査では雄1個体が撮影された。本種はアカニジベラ *H. margaritaceus* (Valenciennes, 1839) によく似るが、背側の黒色が濃いことと、鰓蓋の斑紋はへの字、または後方に向かい下降することによって識別される。

(片山英里)



■ イナズマベラ *Halichoeres nebulosus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ツキベラ *Halichoeres orientalis* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ベラ科 ホンベラ属

ツキベラ

Halichoeres orientalis
Randall, 1999

形態 背鰭 IX, 12; 臀鰭 III, 11-12; 胸鰭 13; 側線鱗 27; 鰓耙 16-18。体高はやや高く、体長の3分の1。体はよく側扁する。口はわずかに斜めで、小さい。口唇は厚みがある。頬と鰓蓋に鱗がない。両顎の前端に1組の強い犬歯状歯がある。

色彩 幼魚から成魚を通して体色は緑色で、赤い縞模様がある。背鰭の中央と後半部に2眼状斑がある。幼魚では体側中央に細く白い縦線が入る。この白線は成長に伴い消失する。成魚は体前半に赤色と緑色の縞模様があり、後半は赤色を呈する。



■ ツキベラ *Halichoeres orientalis* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

分布 南シナ海、台湾、日本に分布。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は1997年に *Halichoeres* sp. として小笠原から報告された (Randall et al., 1997)。その後、Randall (1999) によ

て、沖縄県の瀬底で採集された標本に基づいて新種記載された。ニシキユウセンに似るが、眼の後方に1縦帯があることで識別される。またニシキユウセンの幼魚から若魚にみられる尾柄部の黒色斑点は、本種にはない。岩礁およびサンゴ礁域に生息し、体長約15 cmの小型種。

(片山英里)



■ ミツボシキュウセン *Halichoeres trimaculatus* KAUM-I. 40191, 104.5 mm SL



■ ミツボシキュウセン *Halichoeres trimaculatus* FRLM 42777, 99.8 mm SL



■ ミツボシキュウセン *Halichoeres trimaculatus* KAUM-I. 40192, 95.6 mm SL



■ ミツボシキュウセン *Halichoeres trimaculatus* FRLM 42779, 68.7 mm SL



■ ミツボシキュウセン *Halichoeres trimaculatus* FRLM 42778, 37.9 mm SL



■ ミツボシキュウセン *Halichoeres trimaculatus* KAUM-I. 47945, 31.3 mm SL



■ ミツボシキュウセン *Halichoeres trimaculatus* FRLM 42776, 23.9 mm SL

スズキ目 ベラ科 ホンベラ属

ミツボシキュウセン

Halichoeres trimaculatus
(Quoy & Gaimard, 1834)

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 14-15; 側線鱗 27-28。体は細長く、吻は長

く丸い。口唇は厚い。腹鰭は短く、肛門に達しない。尾鰭は截形。眼の後方の鱗を欠く。

色彩 体は白色。幼魚から若魚までは、吻から頭部にピンク色の不規則な縦帯がある。雌では鱗が薄いオレンジ色（生鮮時は黄褐色）で縁取られる。成魚では尾柄上

方に黒色斑がある。成魚の雄は、頭部の吻と下顎の後端からそれぞれ鰓蓋上方に延びるピンク色の虫食い状の模様があり、胸鰭上方に黒色斑がある。

分布 東インド洋と（ハワイ諸島を除く）太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球



■ ミツボシキュウセン *Halichoeres trimaculatus* KAUM-I. 42277, 45.7 mm SL

列島に出現する。

備考 雄は繁殖期になると婚姻色を現し、体側の前方付近が暗色を呈し、胸鰭上方に黄色と黒色の斑紋が出現する。本種はセイテンベラ *H. scapularis* (Bennett, 1832) によく似るが、成魚は雌雄ともに尾柄部に黒色斑があること（セイテンベラでは不明瞭な小斑点列がある）、幼魚は体側に縦帯がないこと（ある）により識別される。（片山英里）



■ ミツボシキュウセン *Halichoeres trimaculatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

ススキ目 ベラ科 タレクチベラ属

シマタレクチベラ

Hemigymnus fasciatus
(Bloch, 1792)

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 14; 側線鱗 26-30。体高は高く、頭部は大きい。両顎の口唇は厚い。腹鰭は短く肛門に達しない。尾鰭は幼魚では円形、成魚では截形。

色彩 成長に伴い著しく変化する。幼魚は体の地色が緑褐色で、6本の細い白色横帯がある。成長に伴って太く、4本の横帯となり、腹側から背側に向かって細くなる。尾鰭基底に細い白色横帯がある。頭部は、幼魚では眼から外側に放射状に向かう白線があり、成魚では緑色と薄いオレンジ色の虫食い模様となる。

分布 ハワイ諸島とイースター島を除くインド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆



■ シマタレクチベラ *Hemigymnus fasciatus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に出現する。

備考 潮通しの良いガレ場、岩礁、サンゴ礁域に生息する。幼魚は体をくねらせてサ

ngoや岩礁の隙間などを隠れながら泳ぐ。幼魚はタレクチベラ *H. melapterus* (Bloch, 1791) 同様にサンゴ礁域で普通にみられる。

（片山英里）



■シマタレクチベラ *Hemigymnus fasciatus* KAUM-I. 41112, 25.6 mm SL

スズキ目 ベラ科 タレクチベラ属

タレクチベラ

Hemigymnus melapterus
(Bloch, 1791)

形態 背鰭 IX, 10-11; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 14; 側線鱗 27-28。体高は高く、頭は大きい。両顎の口唇がひじょうに分厚い。吻は長く、眼径の約3倍、幼魚では短く、眼径とほぼ同長。尾鰭は截形。

色彩 成長に伴い著しく変化する。幼魚の地色は緑褐色で、体全体に霜降り状の白色斑点が散在する。体には4-5本の白色縦帯があり、そのうち胸鰭後方部の白色帯がもっとも太い。頭部には眼から走る放射状白色線がある。成魚では体の前半が白色、後半が黒褐色に塗り分けられるが、若魚では尾柄と尾鰭が山吹色になる。吻から眼の後方にかけて、薄いえんじ色と緑色のまだら模様になる。老成魚になると、体全体が緑みを帯びる。



■タレクチベラ *Hemigymnus melapterus* KAUM-I. 46054, 25.3 mm SL

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島にみられる。

備考 サンゴ礁域にみられ、砂底に隠れている甲殻類などを探す様子が観察される。幼魚は体をくねらせて泳ぐ。本種の幼

魚はシマタレクチベラ *H. fasciatus* (Bloch, 1792) によく似るが、横帯数が少ないことや、2番目の白色横帯が太いことによって識別される。成魚は体が2色に塗り分けられることで容易に区別することができる。幼魚は南日本沿岸の珊瑚礁域で普通に出現する。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 シロタスキベラ属

ナメラベラ

Hologymnus annulatus
(Lacepède, 1801)

形態 背鰭 IX, 12; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 13; 側線鱗 100-124。体は細長く、体高は頭から尾柄まで低い。口は小さく、吻や細長く尖る。尾鰭は幼魚では円形で、成魚では截形、老成魚ではやや湾入する。胸

鰭は上端がよく尖る。

色彩 成長にともない著しく変化する。幼魚は茶褐色で、吻端から尾鰭基底にかけて幅の広いクリーム色の縦帯が走る。尾鰭

■ ナメラベラ *Hologymnosus annulatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki■ ナメラベラ *Hologymnosus annulatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki■ ナメラベラ *Hologymnosus annulatus* 17 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki■ ナメラベラ *Hologymnosus annulatus* 16 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki

の先端は半透明。成魚の雌は、全体が茶褐色を呈し、体側には20本ほどの赤褐色の細い横線がある。吻端と背鰭・臀鰭・腹鰭と胸鰭の鰭条は黒色を呈する。尾鰭は濃黒褐色で、先端は半透明。雄では、体全体が緑色を呈し、頬部と尾鰭は青色、

体側の横帯は青色となる。

分布 ハワイ諸島とイースター島を除くインド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本調査では水中写真のみに基づく記録である。成魚はサンゴの根元などを寝床とし、広い行動範囲をもつ。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 シロタスキベラ属

シロタスキベラ

Hologymnosus doliatus
(Lacepède, 1801)

形態 背鰭 IX, 12; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 13; 側線鱗 97-112。幼魚は体がより細長く、成魚では体高が高くなる。その長さは約3分の1から5分の1。体はよく側扁する。頭部と吻はよく尖り、前方に突出する。胸鰭は上方の後端がよく尖る。腹鰭は短く、肛門に達しない。尾鰭は截形で、雄成魚ではやや湾入する。

■ シロタスキベラ *Hologymnosus doliatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ シロタスキベラ *Hologymnosus doliatus* FRLM 42874, 168.7 mm SL

色彩 幼魚では白色の体に赤色の細い3縦帯がある。腹側の縦線がもっとも太い。成魚は体色が薄緑色となり、体側に多数の褐色から青みがかった細い横帯がある。鰓蓋後端に1黒色斑がある。成熟雄の頭部には紫色の模様が入る。

分布 紅海を除くインド・西太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種の雄は繁殖期に婚姻色になると、胸鰭後方の体側に白色の横帯が入り、頭部と横帯の間が暗色を呈する。幼魚は30m以浅の礫域やサンゴ礁でみられる。体長は最大で約40cmほどになる。

(片山英里)



■ ホシテンス *Iniistius pavo* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ベラ科 テンス属

ホシテンス

Iniistius pavo
(Valenciennes, 1840)

形態 背鰭 IX, 12-13; 臀鰭 III, 12-13; 胸鰭 12; 側線鱗 20-22 + 5-6。体高が高く、体長の約2分の1。頭頂から口までが急勾配でほぼ垂直。口唇は厚い。第1背鰭は幼魚から成魚まで長く伸張するが、成長にともないやや短くなる。眼下後方には

2-3列の鱗がある。尾鰭は截形で後端がやや丸い。

色彩 幼魚から若魚では体全体が褐色を呈するか、褐色と白色の縞模様を示す。成魚の体色は白色で、背鰭前方の下方に黒色斑がある。老成魚では体中に黒色斑が散在する。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、富山湾、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉

球列島に生息する。

備考 本種は潮通しのよい砂地に生息し、危険を感じると頭から砂に潜る。幼魚は潮に流されるかのように海底直上をゆらゆらと泳ぐ。若魚はしばしばテンス *I. dea* (Temminck & Schlegel, 1845) の若魚と混同されるが、眼下から後方に向かう暗色帯がないことにより識別される。成魚は貝類、軟体類、甲殻類などを捕食する。最大体長は約40cmに達する。

(片山英里)

■ テンス属の一種 *Iniistius* sp. KAUM-I. 47990, 32.6 mm SL■ テンス属の一種 *Iniistius* sp. KAUM-I. 47913, 36.6 mm SL

スズキ目 ベラ科 テンス属

テンス属の一種

Iniistius sp.

形態 背鰭 VIII, 10-11; 臀鰭 III, 12。体高が高く、吻が丸い。体は全体的に丸みを帯びる。背鰭第1および2棘がやや長く、軟条部とほぼ同じ長さで、その後方の背鰭棘部は低い。頭頂から吻端にかけて緩やかに下降し、口は眼とよく離れて、下方に

ある。尾鰭は截形で、後端や丸みを帯びる。

色彩 生鮮時、頭部は白色で、眼を通る2本の縦帯がある。眼の後方には赤褐色の小斑が散在する。体はやや緑がかった茶色で、胸鰭の上方と体側中央、尾柄部の前方に不明な白色帯がある。

分布 与論島。

備考 本種は水深2-5 m から採集された。ハゲヒラベラ *I. aneitensis* (Günther, 1862)

の幼魚によく似るが、眼状斑がやや小さい、吻が丸い、頭部の眼から下方に向かう茶褐色帯が太い、その斑紋の後方に下方に向かう縦帯がある、体側の中央に白色部分がある、尾鰭の中央まで褐色になることなどにより異なる。他のテンス属既知種の幼魚である可能性も考えられるが、これまでに日本で報告されている幼魚や若魚の特徴とは一致しないため、今後の分類学的研究が望まれる。

(片山英里)



■ ソメワケベラ *Labroides bicolor* KAUM-I. 51328, 61.4 mm SL



■ ソメワケベラ *Labroides bicolor* KAUM-I. 42718, 42.0 mm SL



■ ソメワケベラ *Labroides bicolor* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ソメワケベラ *Labroides bicolor* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目ペラ科ソメワケベラ属

ソメワケベラ

Labroides bicolor
Fowler & Bean, 1928

形態 背鰭 IX, 10–11; 臀鰭 III, 9–10; 胸鰭 13; 側線鱗 26–28。体は細長く、全体を通してほぼ同じ高さ。吻は長くよく尖る。尾鰭は大きく、截形でやや丸みを帯びる。

色彩 幼魚は体色が黒色で、吻から尾鰭上葉に1黄色縦帯がある。若魚では体全体が白色で、吻から体側中央部に向かって太い縦帯が走る。成魚では、体の前方は青みを帯びた黒色、後方では淡い黄色。尾鰭は半円形の黒色帯で、後方縁辺は白色に縁取られる。

分布 ペルシャ湾、ハワイ諸島およびイースター島を除くインド・太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、和

歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種の幼魚はホンソメワケベラ *L. dimidiatus* (Valenciennes, 1839) と同様に頻繁にクリーニングをする。幼魚は岩陰やサンゴの裏などの薄暗い場所をよくみられる。大隅諸島や琉球列島では成魚も頻繁にみられるが、南日本の太平洋沿岸にはほとんど出現しない。

(片山英里)



■ ホンソメワケベラ *Labroides dimidiatus* KAUM-I. 39958, 42.3 mm SL



■ ホンソメワケベラ *Labroides dimidiatus*
15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ホンソメワケベラ *Labroides dimidiatus* NSMT-P 110322, 29.0 mm SL



■ ホンソメワケベラ *Labroides dimidiatus*
18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ホンソメワケベラ *Labroides dimidiatus* KAUM-I. 41212, 23.3 mm SL



■ ホンソメワケベラ *Labroides dimidiatus* KAUM-I. 40092, 11.4 mm SL

スズキ目 ベラ科 ソメワケベラ属

ホンソメワケベラ

Labroides dimidiatus
(Valenciennes, 1839)

形態 背鰭 IX, 11-12; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 13; 側線鱗 52-53。体は細長く、全体を通してほぼ同じ高さ。尾鰭が大きく、幼魚と若魚では円形、成魚では截形となる。

色彩 幼魚では体は黒色で、吻から尾鰭の上葉に向い青色の縦帯がある。若魚から成魚にかけて、背側と腹側に白色部が現れ、徐々に広がる。成魚では白色の体色

に吻から尾鰭先端にかけて、後方ほど太い黒色縦帯がある。体側背側は淡い黄色。尾鰭は薄い青色を呈する。

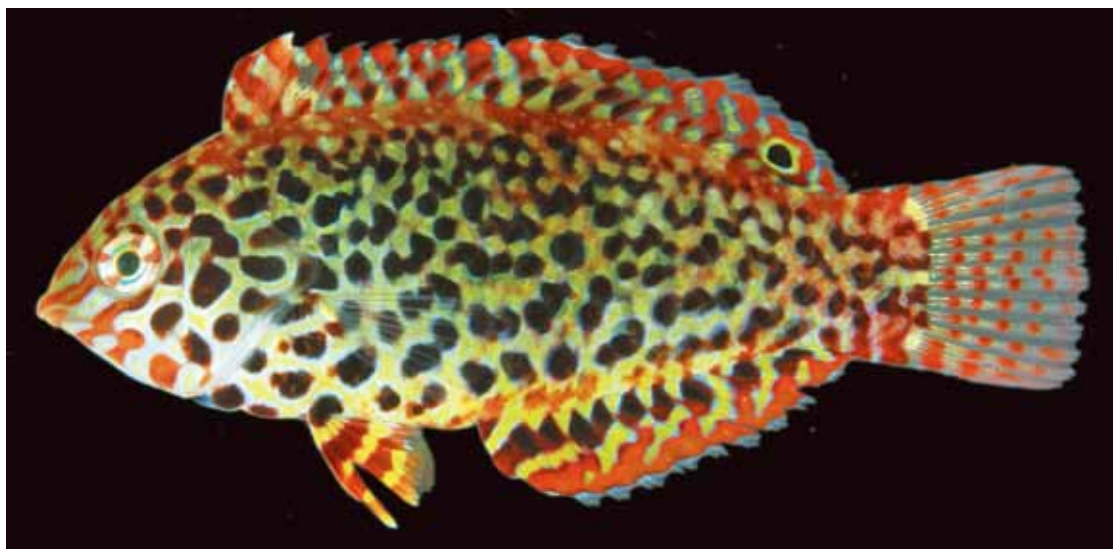
分布 ハワイ諸島とイースター島を除くインド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋岸、新潟県以南の日本海沿岸、大隅諸島、琉球列島に広く分布する。

備考 クリーナーとして知られ、他の魚の体表や口腔内につく寄生虫などを食べる。岩陰などでクリーニングをしている姿が観察される。本種は一夫多妻型ハレムを作り、繁殖を行う。その中で、ハレム雄が死亡すると、最大雌が性転換をしてハレム雄となる。南日本沿岸の浅場で普通に観察される。

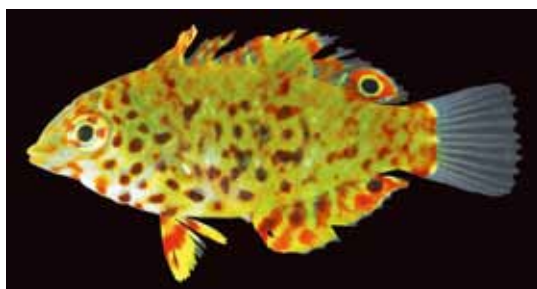
(片山英里)



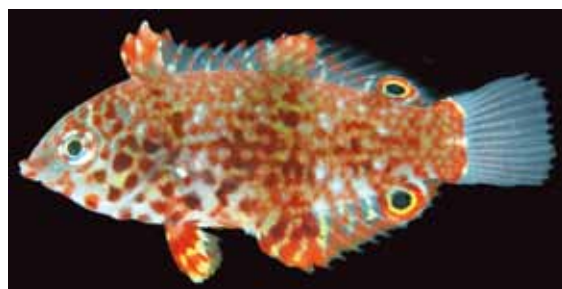
■ ノドグロペラ *Macropharyngodon meleagris* KAUM-I. 51527, 90.7 mm SL



■ ノドグロペラ *Macropharyngodon meleagris* BSKU 108320, 42.1 mm SL



■ ノドグロペラ *Macropharyngodon meleagris* KAUM-I. 51508, 28.5 mm SL



■ ノドグロペラ *Macropharyngodon meleagris* BSKU 106125, 24.2 mm SL



■ ノドグロペラ *Macropharyngodon meleagris* KAUM-I. 47849, 22.1 mm SL



■ ノドグロペラ *Macropharyngodon meleagris* 18 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki



■ ノドグロペラ *Macropharyngodon meleagris* 17 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki



■ ノドグロペラ *Macropharyngodon meleagris* 16 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki

スズキ目ペラ科ノドグロペラ属

ノドグロペラ

Macropharyngodon meleagris
(Valenciennes, 1839)

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 10-11; 胸鰭 12; 側線鱗 25-27。体高が高く、吻が長い。本種の幼魚は各鰭が大きく、背鰭始部の体高の約2分の1。

色彩 幼魚は体に白と赤褐色の小斑が散在する。背鰭前方は白色を呈し、背鰭と臀鰭の両後端にそれぞれ眼状斑があり、成長に伴い消失する。若魚から亜成魚の体側は基石模様となる。成魚の地色は赤褐色で、体と鰭全体に青緑色の斑紋が規則的に並ぶ。頭部では後方に向けて繋がった模様となる。

分布 太平洋に分布するが、フィリピン諸

島、ニューギニア、オーストラリア北東岸以東、ハワイ諸島およびイースター島には出現しない。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県および山口県以南の南日本、大隅諸島、琉球列島南部に分布する。

備考 幼魚は海藻などに擬態し、体をくねらせて、流されるように泳ぐ。また、危険を感じるとサンゴや岩の隙間に隠れる。同属の幼魚などとよく混泳する。

(片山英里)

スズキ目ペラ科ノドグロペラ属

セジロノドグロペラ

Macropharyngodon negrosensis
Herre, 1932

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 12; 側線鱗 27。体高はやや高く、吻は短く、前方へ突出する。背鰭は胸鰭基底前方より始まる。腹鰭は短く、肛門に達しない。尾鰭は幼魚では円形で、成魚では截形になる。幼魚では背鰭前方が高く、腹鰭が長くなる。成長するにつれ、鰭の高さが均一になる。

色彩 体長約1cmの個体では半透明で、

成長とともに黒褐色になる。幼魚から若魚までは、体と鰭全体に白色斑点が散在し、背鰭鰭膜では特に白色が細かく密になる。雄成魚では褐色の体色になり、体側の鱗は緑色で縁取られる。頭部は緑色の太い虫食い模様となる。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

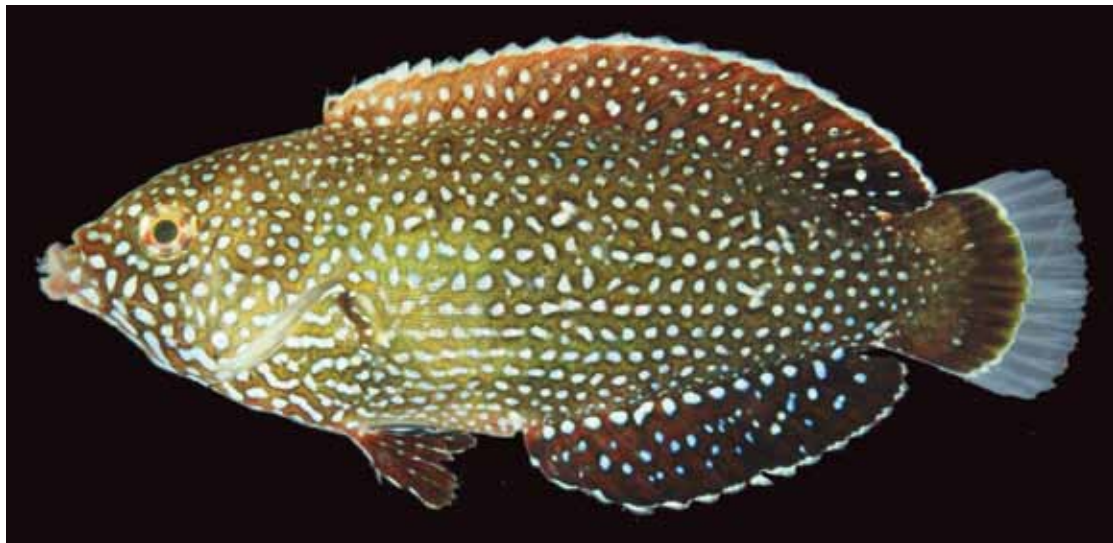
備考 本種の幼魚はノドグロペラ *M. meleagris* (Valenciennes, 1839) の幼魚によく似るが、尾鰭基底に黒色斑がないことで識別される。ノドグロペラと同様に、幼魚



■ セジロノドグロペラ *Macropharyngodon negrosensis*
17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

や若魚はサンゴの隙間を流されているかのように泳ぐ。

(片山英里)



■ セジノドグロベラ *Macropharyngodon negrosensis* BSKU 108319, 37.4 mm SL



■ オビテンスモドキ *Macropharyngodon negrosensis* KAUM-I. 42728, 227.2 mm SL

スズキ目 ベラ科 オビテンスモドキ属

オビテンスモドキ

Novaculichthys taeniourus
(Lacepède, 1801)

形態 背鱗 IX, 13-14; 臀鱗 III, 13; 胸鱗 12; 側線鱗 20+6。体は細長く、吻はゆるやかに尖る。幼魚から若魚までは背鱗前方2棘が伸長し、成魚になると消失する。幼魚は腹鱗が長く、背鱗および臀鱗が高く、

尾鱗が大きい。成魚では腹鱗が丸く広がる。尾柄は太い。尾鱗は截形で後端が丸い。

色彩 幼魚では体と鱗が半透明で、成長とともに黒褐色になる。背鱗から腹鱗と臀鱗にかけて4本の細い濃褐色横帯がある。頭部には白色帯と褐色の放射状の模様がある。成魚の雌では頭部が薄い灰色となり、眼から背側と鰓蓋方向にそれぞれ2本の黒色線が走る。雄成魚には黒色線がない。

分布 ペルシヤ湾を除くインド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。南日本では特に幼魚から若魚が多く出現する。

備考 本種はマダガスカルで採集された標本に基づいて新種として記載された。幼魚は海藻が水流に流されているように遊泳する。与論島ではリーフ内で幼魚から若魚が多く観察された。

(片山英里)



■ オビテンスモドキ *Macropharyngodon negrosensis* KAUM-I. 48109, 63.3 mm SL



■ オビテンスモドキ *Macropharyngodon negrosensis* BSKU 106142, 50.5 mm SL



■ オビテンスモドキ *Macropharyngodon negrosensis* NSMT-P 110405, 15.7 mm SL



■ オビテンスモドキ *Macropharyngodon negrosensis* KAUM-I. 51360, 12.2 mm SL



■ オビテンスモドキ *Macropharyngodon negrosensis* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ベラ科 オオヒレテンスモドキ属

オオヒレテンスモドキ

Novaculooides macrolepidotus
(Bloch, 1791)

形態 背鰭 IX, 13; 臀鰭 III, 13; 胸鰭 12; 側線鱗 20+6。体は細長く、頭部は小さい。幼魚では背鰭第 1、第 2 棘部が高く、成魚では後方とほぼ同じ高さになる。背鰭は棘部で低く、軟条部でやや高くなる。尾鰭は截形。

色彩 幼魚は体全体が褐色で、体に不明瞭な白色斑がある。成魚は下顎から眼下、頬部、腹部まで白色。体側は黒褐色を呈する。背鰭、臀鰭および尾鰭には薄い緑色と赤色の模様がある。胸鰭基底の後方から体側後方にかけて白色斑斑点が不規則に並ぶ。繁殖期の雄は体の緑色が強くなり、吻から眼および鰓蓋にかけて赤紫色の斑紋がある。背鰭の前端には 1 黒色斑がある。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県、大隅諸島、琉球列島から報告されている。

備考 本種はこれまで *Novaculichthys* とみなされてきたが、2004 年に新属 *Novaculooides* に移された。島田 (2013) はこれまでに属の和名が与えられていなかった

■ オオヒレテンスモドキ *Novaculooides macrolepidotus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

前者にはオビテンスモドキ属を、後者にはオオヒレテンスモドキ属の新称を与えた。

本調査では 1 個体の若魚の水中写真が撮影された。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 ホホスジモチノウオ属

カタグロホホスジモチノウオ

Oxycheilinus orientalis
(Günther, 1862)

形態 背鰭 XI, 10; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 12; 側線鱗 12+6。体は細長い。頭部は大きく体長の約 3 分の 1。体高は低く、尾柄部に向かい細くなる。口唇は厚く、両顎先端にそれぞれ一対の犬歯状歯がある。尾鰭は截形で、後縁は丸く、両葉の上縁と下縁はわずかに後方に張り出す。

色彩 体色は濃い桃色から、赤みがかったオレンジ色。生時、吻端から尾柄にかけて体側中央を走る濃橙色の 1 横帯と約 6 本の白色縦帯があるが、状況により体色を変化させる。背鰭始部基底の下方に黒色斑がある。背鰭前端の鰭膜には黒色斑がある。尾柄の前方と尾鰭基底の中央に 2 褐色斑がある。

分布 日本、インドネシア、ニューカレドニア、フィリピン、マーシャル諸島、オーストラリア北西部、サモア、紅海、タンザニアから記録がある。国内では高知県大月町、大隅諸島、琉球列島から知られている。

■ カタグロホホスジモチノウオ *Oxycheilinus orientalis* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

備考 本種は本村ほか (2012) で奄美産の 1 標本をもとに和名が提唱された。本属は本種の他に 2 未同定種と、日本でこれ

までに報告がない 1 種が水中写真によって報告されており (西山・本村, 2012)、今後の分類学的研究が望まれる。

(片山英里)



■ ヒメニセモチノウオ *Pseudocheilinus evanidus* KAUM-I. 58424, 21.8 mm SL

スズキ目 ベラ科 ニセモチノウオ属

ヒメニセモチノウオ

Pseudocheilinus evanidus
Jordan & Evermann, 1903

形態 背鰭 IX, 11-13; 臀鰭 III, 9-11; 胸鰭 14-15; 側線鱗 14-16 + 4-7。体高が高く、吻は長い。上顎前端には3組の犬歯状歯がある。頬部には水平方向に2列(前方では3列)の鱗がある。背鰭第1棘は短く、他の棘の約2分の1。背鰭前方2

棘は糸状に伸びない。成魚の臀鰭第1、2棘が伸長する。尾鰭は円形で大きい。

色彩 幼魚から成魚までほぼ同じ体色を示す。体はうすい赤橙色で、体側全体に無数の細い白色縦帯がある。吻から眼下、前鰓蓋にかけて銀白色の縦帯がある。

分布 イースター島は除くインド・太平洋に広く分布。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島および琉球列島に分布する。

備考 本種は体側に顕著な縦線がなく、臀鰭第1、2棘が伸長することにより日本産同属他種から識別される。水深40 m付近のやや深場の潮通しの良い岩礁やサンゴ礁域に生息し、単独で行動する。最大体長7 cmの小型種。南日本ではニセモチノウオ *P. hexataenia* (Bleeker, 1857) に比べ浅海のサンゴ礁域に出現する頻度が低い。本種は雌性先熟の性転換を行うが、性転換のサイズには地域差があることが知られている。

(片山英里)



■ ニセモチノウオ *Pseudocheilinus hexataenia* KAUM-I. 58510, 40.4 mm SL

スズキ目 ベラ科 ニセモチノウオ属

ニセモチノウオ

Pseudocheilinus hexataenia
(Bleeker, 1857)

形態 背鰭 IX, 11-12; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 15-16; 側線鱗 16-18 + 5-8。頬部の鱗は水平方向にみて2列。体高は高く、吻はよく尖る。口は小さい。上顎前端には4組の犬歯状歯がある。背鰭前方の2棘は

糸状に伸びない。臀鰭第1・2棘が伸長する。尾鰭は円形で大きく、体長の約3分の1。

色彩 幼魚から成魚までほぼ同じ体色を示

す。体の地色は紫色で、6本の橙色縦帯が走る。成魚では頬部から顎にかけて白色小斑点が散在する。尾鰭基底上方に小眼状斑がある。

分布 ハワイ諸島などを除くインド・太平洋域に広く分布。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は最大体長8 cm程度の小型種で、警戒心が強く、水深20 m程度の斜面に生えるサンゴの隙間などに生息する。本種の口はひじょうに小さく、プランクトン類を捕食する。雌性先熟で約3 cm程度で性転換をする。

(片山英里)



■ ニセモチノウオ *Pseudocheilinus hexataenia* KAUM-I. 55162, 34.4 mm SL



■ ヤスジニセモチノウオ *Pseudocheilinus octotaenia* KAUM-I. 58494, 61.8 mm SL

スズキ目 ベラ科 ニセモチノウオ属

ヤスジニセモチノウオ

Pseudocheilinus octotaenia
Jenkins, 1901

形態 背鰭 IX, 11–12; 臀鰭 III, 9–10; 胸鰭 13–15; 側線鱗 17–18+5。吻は細長くよく尖る。臀鰭の第1棘と第2棘は長く、軟条とほぼ同長。腹鰭は短く肛門に達しない。尾柄は太く、尾鰭は截形。

色彩 若魚から成魚まで体の地色は赤みがかった白色で、鰓蓋部は山吹色の小斑点が散在する。体側に細い6本の赤色縦線がある。その縦線に沿うように、不明瞭な山吹斑が並ぶ。眼を通る2本の白色縦線がある。吻の先端から眼隔域にかけて細い白色帯がある。垂直鰭は薄い黄色の半透明。

分布 イースター島を除くインド・太平洋に



■ ヤスジニセモチノウオ *Pseudocheilinus octotaenia*
17 Apr. 2012. Photo by S. Harazaki



■ ヤスジニセモチノウオ *Pseudocheilinus octotaenia*
KAUM-I. 58495, 20.8 mm SL



■ ヤスジニセモチノウオ *Pseudocheilinus octotaenia*
KAUM-I. 58425, 20.4 mm SL

分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、高知県、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本種は体側に7本の赤色縦線をもつ

ことから同属他種と識別される。潮通しのよい岩礁やガレ場、サンゴ礁域に単独で生活する。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 シラタキダマシ属

ヤマシロベラ

Pseudocoris yamashiroi
(Schmidt, 1931)

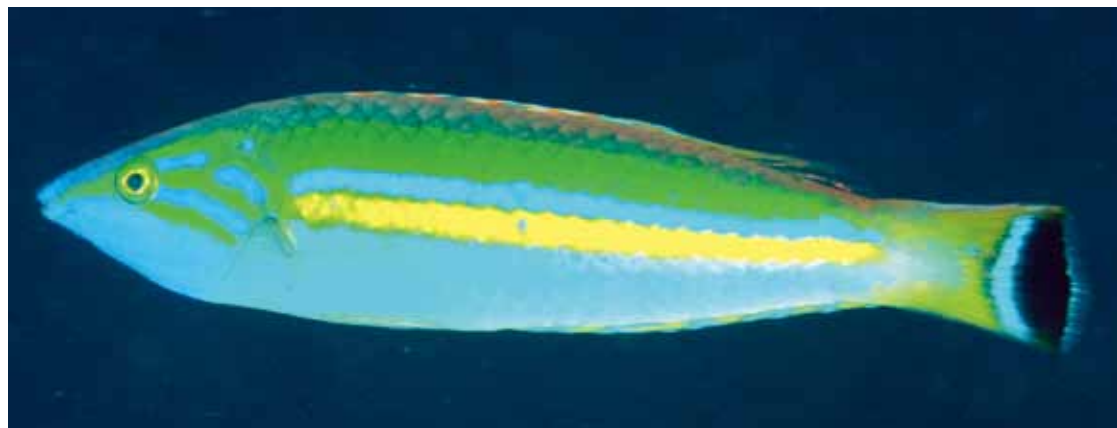
形態 背鰭 IX, 12; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 13; 側線鱗 70-72。体は細長く、吻は尖る。成熟雄は背鰭第1棘が着しく伸長するが、その後方の棘は短く、やや切れ込む。雌は伸長しない。

色彩 幼魚は体全体が薄い桃色で、吻から眼の上下を通り、体側中央にかけて走る2白色縦帯がある。雌は体側が薄いオレンジ色で、鰓蓋から腹部にかけてエメラルドグリーンになる。雄の体色は薄い緑色で、腹側が白色。繁殖行動時には腹側の白色がより鮮やかになり、下顎の腹側周辺が濃い藍色の婚姻色を呈する。

分布 モーリシャス諸島以东のインド洋から西太平洋にかけて広く分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 水深約 20 m の潮通しのよい、岩礁やガレ場およびサンゴ礁域に生息し、大小の群れを形成する。亜熱帯の地域に広く分布するが、インド洋と西太平洋間の個体群で体色に地理的変異があるとされる。

(片山英里)

■ ヤマシロベラ *Pseudocoris yamashiroi* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki■ オグロベラ *Pseudojuloides cerasinus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ベラ科 オグロベラ属

オグロベラ

Pseudojuloides cerasinus
(Snyder, 1904)

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 13; 側線鱗 27。体は細長い。吻はとがり、口は小さい。腹鰭は短く、肛門に達しない。尾鰭は緩やかな二重截形。胸鰭は三角形。

色彩 若魚から雌までは体色が鮮やかなピンク色を呈し、吻部は黄色みを帯びる。背鰭および臀鰭は薄い黄色みがかかった半透明。雄では、体色は青みがかかった緑色となり、体側中央に鮮やかな黄色縦帯が走る。水中では、吻部から鰓蓋にかけて、約3本の不明瞭な青色帯があり、黄色縦帯直上には1本の青色縦帯がある。尾鰭後半は黒色。

分布 ツアモツ諸島以东を除くインド・太平洋に分布。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本種の雌は同属他種とよく類似し、混泳することもしばしばあるが、吻部が薄い黄色であることで識別される。細長い体で、岩礁やサンゴ礁を縫うように泳ぐ。

(片山英里)

■ ハラスジベラ *Stethojulis strigiventer* KAUM-I. 39770, 34.9 mm SL

スズキ目 ベラ科 カミナリベラ属

ハラスジベラ

Stethojulis strigiventer
(Bennett, 1833)

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 14-15; 側線鱗 26。体高はやや高く、吻は丸い。胸鰭は上方がよく尖る。背鰭前方は低く、尾鰭は二重截形。

色彩 幼魚は薄い緑身がかかった褐色で、体の縦帯は不連続、背鰭と臀鰭の後端基底にそれぞれ黒色眼状斑がある。若魚では体側中央より下方に複数の白色縦帯がある。尾柄上方に黒色斑がある。成魚の雌では眼下に1本と体側下方に約5本の白色縦帯がある。雄では吻端から眼の上方を通り、尾柄部に延びる1本の青白色縦線があり、上顎先端から胸鰭基底にかけて、鰓蓋後方から体側中央に向かう2本の青白色縦線があり、それらの縦線間は鮮やかなオレンジ色となる。

■ ハラスジベラ *Stethojulis strigiventer* KAUM-I. 39769, 31.4 mm SL

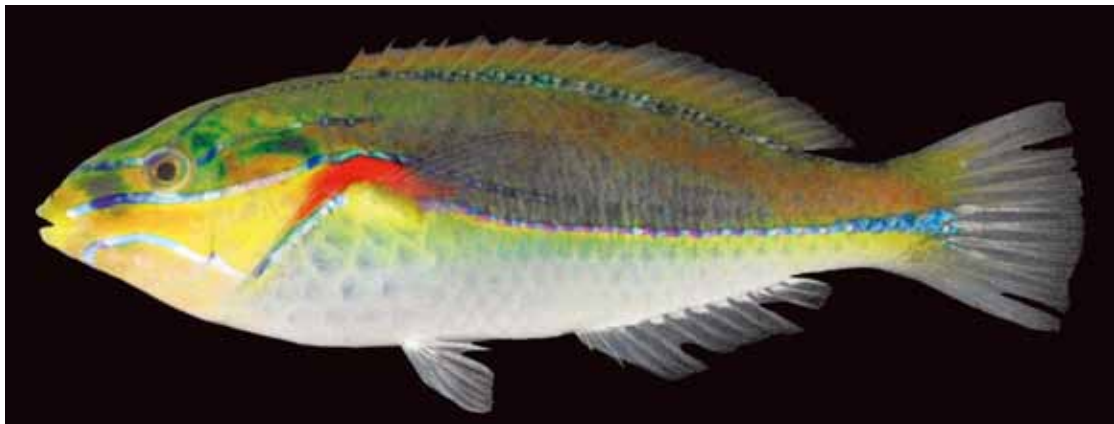
分布 ハワイ諸島とイースター島を除くインド・太平洋に分布。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 同属他種と同様、垂直鰭をたたみ、胸鰭を動かして飛ぶように遊泳する。幼魚

は浅いサンゴ礁域で普通にみられる。本種はアカオビベラ *S. bandanensis* (Bleeker, 1851) によく似るが、雄は体側中央を走る青白色縦帯が直線であること、雌は腹部に白色縦帯があることにより識別される。

(片山英里)

■ アカオビベラ *Stethojulis bandanensis* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

■ アカオビベラ *Stethojulis bandanensis* KAUM-I. 41078, 75.8 mm SL■ アカオビベラ *Stethojulis bandanensis* KAUM-I. 41077, 75.1 mm SL■ アカオビベラ *Stethojulis bandanensis* KAUM-I. 46105, 44.3 mm SL■ アカオビベラ *Stethojulis bandanensis* KAUM-I. 40020, 39.5 mm SL

スズキ目ベラ科カミナリベラ属

アカオビベラ

Stethojulis bandanensis
(Bleeker, 1851)

形態 背鰭 IX, 11-12; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 14-15; 側線鱗 25-28。体高はやや高く、吻は丸い。胸鰭は上方がよく尖り三角形。背鰭前方は低く、尾鰭は二重截形。

色彩 幼魚は薄い褐色で、体全体に白色斑点が散在する。背鰭と臀鰭後端の基底にそれぞれ眼状斑があり、尾柄のやや上

方に1黒色斑点がある。若魚は不明瞭な体側上方と中央に2白色縦帯があるが、成長とともに消失する。雌は体全体が灰色で、体側上方に小白色斑点が散在する。若魚と雌では上顎の後方から眼下にかけて、黄色部がある。雄は体側上方が褐色で、下方が白色。吻前端から発し、眼の上方で背鰭基底に向かって走るものと、下顎から発し、胸鰭基底で上方に曲がり、尾柄の下方に向かって走る2縦線がある。眼の後端から体側上方へと、上顎から胸鰭後方に向かって伸びる短い2縦線がある。下方の2本は、胸鰭基底で上方に湾曲し、その部分の縦帯間が橙色を呈する。

分布 ハワイ諸島、マルケサス諸島およびイースター島を除く東インド洋と太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本種の雄はカミナリベラ *S. terina* Jordan & Snyder, 1902 やハラスジベラ *S. strigiventer* (Bennett, 1833) に似るが、青白色縦線が胸鰭基底で上方に湾曲することにより識別される。また雌は、上顎と眼の間に黄色部をもつことで同属他種の雌と識別される。

(片山英里)



■ アカオビベラ *Stethojulis bandanensis* KAUM-I. 51223, 24.4 mm SL



■ アカオビベラ *Stethojulis bandanensis* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ アカオビベラ *Stethojulis bandanensis* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ベラ科 カミナリベラ属

オニベラ

Stethojulis trilineata
(Bloch & Schneider, 1801)

形態 背鰭 IX, 11; 臀鰭 III, 10; 胸鰭 12-13; 側線鱗 20-21。体高はやや高く、吻は丸い。胸鰭は上方がよく尖り三角形。背鰭前方は低く、尾鰭は二重截形。

色彩 雌の体側上方は薄い褐色を呈し、白色の小斑点が散在するが、下方は白色で2-3本の暗色斑点縦列がある。雄は山吹色の体色に背鰭基底、体側上方と下方、吻から胸鰭基底にかけて4本の青色縦帯がある。

分布 インド・西太平洋に分布し、国内では伊豆諸島、小笠原諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本種はハラスジベラ *S. strigiventer* (Bennett, 1833) に似るが、胸鰭鰭条数と腹部に2-3列の暗色斑点があることにより識別される。

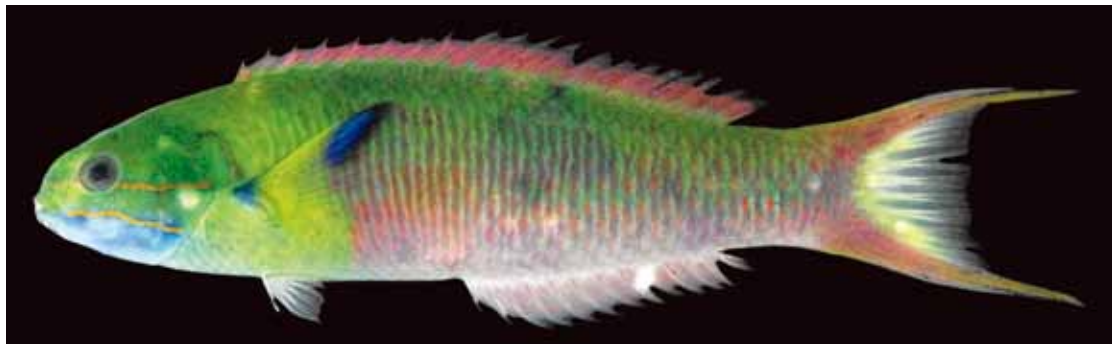
幼魚から若魚は内湾のサンゴや転石などを隠れ家として利用する。成魚は沿岸の浅いガレ場、岩礁、サンゴ礁などに生息する。
(片山英里)



■ オニベラ *Stethojulis trilineata* BSKU 106168, 24.2 mm SL



■ オニベラ *Stethojulis trilineata* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

■ コガシラベラ *Thalassoma amblycephalum* KAUM-I. 41081, 80.4 mm SL■ コガシラベラ *Thalassoma amblycephalum* KAUM-I. 41080, 91.2 mm SL

スズキ目 ベラ科 ニシキベラ属

コガシラベラ

Thalassoma amblycephalum
Bleeker, 1956

形態 背鰭 VIII, 13; 臀鰭 III, 10-11; 胸鰭 14-15; 側線鱗 25-28。体は全体的に細長く、頭部は丸みを帯びる。吻は短く、眼径と吻長がほぼ同長。両顎は小さく、その後端は眼の前縁に達しない。雄では背鰭前半は後半より短く、胸鰭は上方が長く、下方が短い。幼魚から雌の尾鰭は截形で、雄では両葉先端の鰭条が伸長し、大きく湾入する。成熟した雄ではより長く、体長の

約3分の1になる。頭部は鱗を欠く。

色彩 幼魚は白色の地色で、背鰭と体側背面、および吻から尾柄にかけて2本の黒色縦帯がある。成長に伴い、帯の縁辺が不明瞭になり、2縦帯間が緑褐色となる。雌の尾鰭両葉は尾柄から先端に向い、橙色を呈する。雄では、体と鰭はうすいピンク色、頭部から胸鰭基底後方は黄緑色を呈する。眼の後端と眼下からそれぞれ鰓蓋に向う、2本のピンク色の縦線がある。尾鰭には両葉の基底から先端にかけてピンク色の帯がある。性転換中の雄は、体側の体色は雌相を示し、頭部は雄相を示す。

分布 ハワイ諸島などを除くインド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、九州西岸、大隅諸島、琉球列島に広く分布する。

備考 南日本の太平洋沿岸では幼魚から成魚まで、浅い岩礁などで普通に観察される。幼魚期の体色で白黒の縦帯をもつことはベラ科の中でも特徴的で、本種は水中でも容易に識別できる。垂直鰭をたたみ、胸鰭を動かして、岩礁やサンゴ礁に沿って飛ぶように泳ぐ。幼魚はしばしば群れを形成し、他種をクリーニングする姿もみられる。雌性先熟の性転換をする。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 ニシキベラ属

ヤンセンニシキベラ

Thalassoma janseni
(Bleeker, 1856)

形態 背鰭 VIII, 13; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 15; 側線鱗 25-28。体は細長く、頭頂部から眼の前にかけて、丸みを帯びる。成魚の雄では口唇は厚く、下顎の前端がこぶ状になる。幼魚の尾鰭は截形で、成魚では深く湾入する。胸鰭は上方が長く、三角

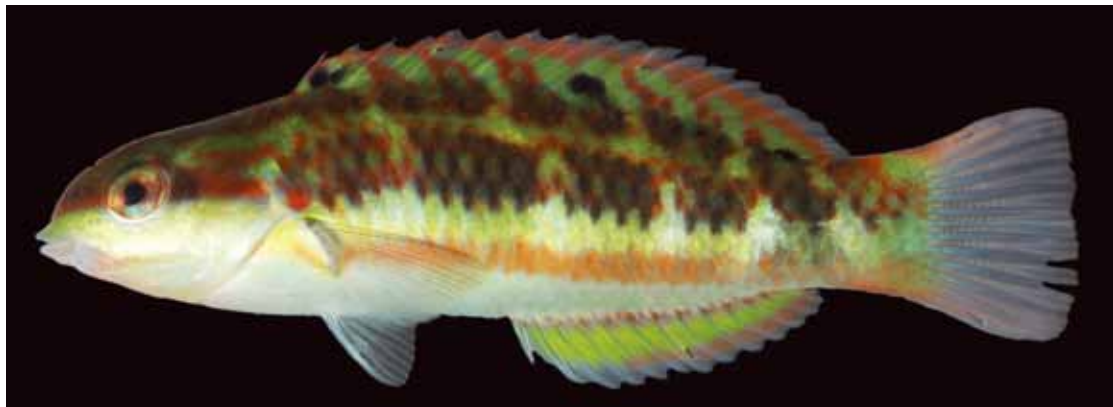
形。腹鰭は短く肛門に達しない。

色彩 幼魚では背側が黄緑色で、腹側が白色。背鰭の前端、中央のやや後方および後端の鰭膜に3黒色斑紋があるが、成長にともない消失する。尾鰭基底に1黒色斑がある。若魚と雌では体側の上半分が黒褐色となり、吻から臀鰭基底の下方が白色を呈する。成魚の雄では黄緑色の体色に不明瞭な鞍状の斜帯となる。頭部腹面から腹部は緑色となる。胸鰭は青色。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、九州西岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本種はハコベラ *T. quinquevittatum* (Lay & Bennett, 1839) の幼魚に似るが、上唇全体が白色になることと、背鰭の斑紋や尾柄部の斑紋が小さいことなどにより区別される。

(片山英里)



■ ヤンセンニシキベラ *Thalassoma janseni* KAUM-I. 46107, 46.4 mm SL



■ ヤマブキベラ *Thalassoma lutescens* KAUM-I. 41076, 97.4 mm SL

スズキ目 ベラ科 ニシキベラ属

ヤマブキベラ

Thalassoma lutescens
(Lay & Bennett, 1839)

形態 背鰭 VIII, 13; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 15-17; 側線鱗 25-28。体高はやや高く、吻は丸い。背鰭と臀鰭は低い。胸鰭は上方が長く、三角形。幼魚から雌までの尾鰭は截形。雄の尾鰭両葉の先端は糸状に伸長する。

色彩 幼魚は赤褐色の体色に、吻端から尾柄にかけて白色縦帯がある。尾柄上方に黒色斑がある。雌は体全体が山吹色で、頭部にはピンク色の虫食い模様がある。背鰭の中央と臀鰭基底、尾鰭の両葉にピンク色の縦帯が走る。雄ではそれらの模様や縦帯が紫色隣、体は青色となる。胸鰭の後半部が青色になる。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国



■ ヤマブキベラ *Thalassoma lutescens* KAUM-I. 46039, 103.9 mm SL

内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、九州西岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 垂直鰭をたたんで胸鰭のみを使って、水中を飛ぶように遊泳する。雌性先熟の性転換を行い、体サイズに性的二型がある。本種は南日本のサンゴ礁や岩礁域などで普通にみられる。

(片山英里)



■ ヤマブキベラ *Thalassoma lutescens*
15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ヤマフキペラ *Thalassoma lutescens* KAUM-I. 40130, 128.9 mm SL



■ ヤマフキペラ *Thalassoma lutescens* KAUM-I. 41083, 124.8 mm SL



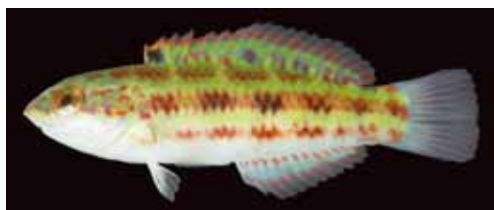
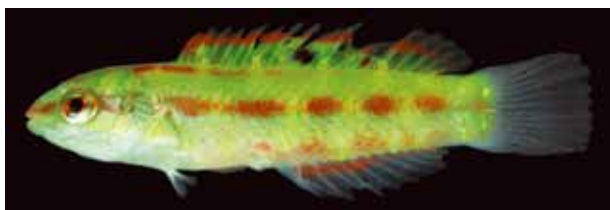
■ ヤマフキペラ *Thalassoma lutescens* KAUM-I. 46040, 116.9 mm SL



■ ヤマフキペラ *Thalassoma lutescens* FRLM 43039, 115.6 mm SL



■ ヤマフキペラ *Thalassoma lutescens* KAUM-I. 51255, 104.5 mm SL

■ キヌベラ *Thalassoma purpureum* KAUM-I. 40021, 44.7 mm SL■ キヌベラ *Thalassoma purpureum* KAUM-I. 45983, 44.1 mm SL■ キヌベラ *Thalassoma purpureum* KAUM-I. 45984, 30.1 mm SL■ キヌベラ *Thalassoma purpureum* KAUM-I. 45985, 15.5 mm SL

スズキ目 ベラ科 ニシキベラ属

キヌベラ

Thalassoma purpureum
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 VIII, 13; 臀鰭 III, 11; 胸鰭 15-17; 側線鱗 25-28。成魚から雌までは体がやや細長く、雄では体高が高くなる。成魚では尾鰭は二重截形で後縁が丸い。腹鰭は短く、肛門に達しない。胸鰭は上方が長く、三角形。口は大きく成魚では眼の前縁にわずかに達しない。

色彩 幼魚の地色は黄緑色で、腹部は白色。体側中央、背鰭基底、腹側に3本の薄い赤色の縦帯があり、その赤色部分に約5本の不連続な鞍状斑がある。背鰭前端と中央の鰭膜に2黒色斑がある。成長するとともに、赤色縦帯と黒褐色の鞍状斑ははしご状の模様につながる。雌の頭部には赤褐色の虫食い模様がある。雄は、体の地色がエメラルドグリーンを呈し、ピンク色の3縦帯がある。頭頂部と眼から鰓蓋に延びるピンク色の模様がある。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県および福岡県以南の南日本、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種の幼魚はニシキベラ *T. cupido* (Temminck & Schlegel, 1845) やリュウグウベラ *T. trilobatum* (Lacepède, 1801) によく似るが、眼を通る明瞭な縦帯がなく、細い虫食い状の斑紋になることにより識別される。

(片山英里)

スズキ目 ベラ科 ハシナガベラ属

ハシナガベラ

Wetmorella nigropinnata
(Seale, 1901)

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 8; 胸鰭 12; 側線鱗 13-14 + 4-5。両顎は小さく、吻は細くよく尖る。体高は高く、尾柄は細い。背鰭と臀鰭は高く、腹鰭は丸い。尾鰭は円形。

色彩 幼魚では茶色の地色に5本の白色横帯がある。背鰭と臀鰭に目玉大の眼状斑がある。成長に伴い、眼の後方の横帯と背鰭・臀鰭後端の基底を結ぶ横帯が太く黄色となり、それ以外は消失する。成魚の体全体はえんじ色で、背鰭と臀鰭の後端にそれぞれ眼状斑がある。若魚と成魚では腹鰭に全体を覆う眼状斑があり、尾鰭には不明瞭な黒色斑がある。

■ ハシナガベラ *Wetmorella nigropinnata* BSKU 106136, 43.4 mm SL

分布 ハワイ諸島とイースター島を除くインド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。南日本の太平洋沿岸では稀。

備考 本種は警戒心が強く、岩礁の隙間などで生活をするが、夕方になると活発に行動し、繁殖行動などもみられる(西山・本村, 2012)。日本では主に伊豆諸島の八丈島と琉球列島の石垣島などでみられる。

(片山英里)

■ テンスモドキ *Xyrichtys sciistius* FRLM 42872, 98.3 mm SL

スズキ目 ベラ科 テンスモドキ属

テンスモドキ

Xyrichtys sciistius
(Jordan & Thompson, 1914)

形態 背鰭 IX, 12; 臀鰭 III, 12; 胸鰭 13; 側線鱗 20 + 6-7。体は細長く、同属他種に比べると体高が低く、鰓蓋部でもっとも高くなる。背鰭前方は低く、後方に向かうにつれて高くなる。尾鰭は截形。腹鰭は第1軟条が最長となる。吻は長く、口は眼の下方にある。口唇は厚く、上顎は眼径とほぼ同長。

色彩 体は淡い桃色を呈した白色。吻から尾柄にかけての背側は赤みがかった桃色になる。すべての鰭は半透明で、腹鰭は薄い桃色。

分布 日本と台湾以外では記録がない。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島での分布が確認されている。

備考 本調査では約90-105 mから採集された。ホシテンス *Iniistius pavo* (Valenciennes, 1840) やオビテンスモドキ *Novaculichthys taeniourus* (Lacepède,

1801) と比べるとやや深場に生息する。

本種の学名として、従来 *Novaculops woodi* が用いられてきたが(のちに、*Novaculops* は *Xyrichtys* の新参異名とされた)、*X. woodi* はハワイ固有種であることから、日本産の種には *X. sciistius* の学名が適用された。その後、Randall (2013) は *Novaculops* を改めて有効属と認め、*sciistius*、*woodi* を他の4種とともにこの属に含めた。しかし、これら2属の比較は十分に行われたとは言えないため、ここでは西山・本村(2012)や島田(2013)に従い、暫定的に *Xyrichtys* として扱った。

(片山英里)



■ タイワンブダイ *Calostomus carolinus* KAUM-I. 51480, 200.8 mm SL

スズキ目 ブダイ科 ブダイ属

タイワンブダイ

Calostomus carolinus
(Valenciennes, 1840)

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 11-13; 背鰭前方鱗 3-4; 頬鱗列 1。体は小判型で、頭部は丸く、側扁している。体高は高い。尾鰭後縁は雄相で浅い湾入型、雌相では円形。口は小さく、上顎の後端は眼の前縁に達さない。歯は癒合が不完全であり、歯板を形成しない。

色彩 雄相の体色は、濃緑色。鰓蓋後方から胸鰭をとおり臀鰭前方まで赤褐色であり、鱗に沿って同色の点が列をなす。頭部には眼を中心に橙色の放射状模様が入る。胸鰭を除き各鰭は体側と同色であり、橙色の不規則な模様がある。胸鰭は中央付近までは体側と同色であり、先端 3分の1は透明。雌相の体色は一様に濃赤褐色であり、目立った模様はみられない。各鰭とも体側とほぼ同じ色彩であり、臀鰭基部に濃橙色の帯がみられる。尾鰭の後縁は白く縁どられる。

スズキ目 ブダイ科 ブダイ属

チビブダイ

Calostomus spinidens
(Quoy & Gaimard, 1824)



■ タイワンブダイ *Calostomus carolinus* KAUM-I. 55065, 143.2 mm SL

分布 紅海とイースター島を除くインド・太平洋とレヴィリヤノ諸島（メキシコ沖）に分布する。国内では小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はブダイ *C. japonicus* (Valenciennes, 1840) にひじょうによく似るが、雄

相では眼に橙色の放射状の模様を有すること（ブダイでは放射状模様がない）、尾鰭が浅い湾入型であること（円形）、雌相では尾鰭の色彩が体と同色であること（尾鰭は明瞭に赤い）により識別される。

与論島では前浜沖水深 8 m で追い込み網により捕獲された。

（桜井 雄）

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 11-13; 背鰭前方鱗 4; 頬鱗列 1。体は細長い楕円形で、頭部は丸く、側扁している。尾鰭後縁は円形。口は小さく、上顎の後端は眼の前縁に達さない。歯は癒合が不

完全であり、歯板を形成しない。

色彩 体側上部は緑がかった褐色で腹部は白い。体側には不規則な黄褐色の斑紋があり、体側鱗には 1 濃桃色点が列をなし

ている。頭部には眼から上顎後端と下顎下方に向かう斜めの2桃色線がある。鰓蓋部から眼の後方にかけても同色の不規則な模様がある。背鰭は白色のまだら模様が入り、上縁は濃い桃色、臀鰭は白く、橙-濃桃色の線状模様がある。腹鰭は白色、胸鰭は薄い黄色であり、基部に1黒斑を有する。尾鰭前半は体と同色であり、その後方は白いまだら模様を有する帯状模様、後縁は濃い桃色で縁どられる。

分布 紅海を除くインド・西太平洋、ミクロネシア、ガラパゴス諸島に分布する。国内では大隅諸島と琉球列島に分布する。

備考 本種はブダイ科の他種から、歯が癒合せず歯板を形成しないこと、上顎前部の歯が円錐状であること、頬鱗列数が1であること類部に顕著な赤色斑を有しないこと、尾鰭が円形であること、胸鰭基部に1黒斑をもつことから識別される。



■ テビブダイ *Calostomus spinidens* KAUM-I. 41082, 81.4 mm SL

と論島では宇勝海岸沖水深0.5 mで追い込み網により捕獲された。(桜井 雄)

スズキ目 ブダイ科 イロブダイ属

イロブダイ

Cetoscarus ocellatus
(Valenciennes, 1840)

形態 背鰭IV, 10; 臀鰭III, 9; 胸鰭17-20; 胸鰭14-15; 背鰭前方鱗5-7; 上顎部鱗列3。体は側扁し、体高はやや低い。成魚頭部は吻が長く、口は体の正中線上先端付近に開口し小さい。幼魚の口は正中線よりやや下方に開口する。尾鰭は幼魚で円形、雌相は湾入形で、雄相では両葉がやや伸長する。両顎歯板は癒合するが外面は小粒状を呈する。成長に伴って頭部が膨らむことはない。

色彩 雄相の体色は濃い緑色。上唇、胸鰭基底、腹鰭基底始部を結ぶ1黄橙色線があり、その上部の前方は黄橙色の点状模様が密に並び、後方は各鱗前方を縁取るような同色の円弧状斑が並ぶ。下唇から肛門までは黄橙色の幅広い帯状模様が胴体下面に沿う。頬部から胸鰭基部下、肛門前方は無斑。背鰭及び臀鰭は体側と同じ緑色で基底部に沿って黄橙色の縦帯があり、背鰭では前方は破線状。腹鰭は薄い黄色で前縁が緑色、胸鰭は濃紺。尾鰭両葉縁は緑色でその内側に両葉先端方向に向かう黄橙色線がある。尾鰭後縁は後方から橙色、緑色の三日月斑、黄橙色の円弧斑が順に並ぶ。雌は濃い赤茶褐色で頬上部眼を通り体側の側線上部にかけて



■ イロブダイ *Cetoscarus ocellatus* KAUM-I. 58464, 48.8 mm SL

はほぼ無斑。下顎と鰓蓋には不規則な黒褐色の点状模様がある。体側は各鱗前方を縁取るように黒褐色の円弧斑が並び、各鱗の中央に同色の横点列状斑がある。背鰭、臀鰭及び尾鰭は体側と同色でほぼ無斑。胸鰭はくすんだ橙色、腹鰭は黒褐色。幼魚の体側は白く、眼の前方から口裂を通り下顎までと背鰭基底始部、胸鰭基底を通り腹鰭基底始部に達する2黒色横線があり、その間が明るい橙色で腹面はやや薄い。背鰭第2棘から8棘にかけて黄橙色の縁取りを持つ黒色の1眼状斑がある。尾鰭は後縁付近と下部にやや不規則な橙色の模様がある。それ以外の目立った模様がないうが、成長に伴い、腹部から雌相にみられる黒褐色模様が徐々に出現する。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では大隅諸島、琉球列島に分布する。幼魚は伊豆諸島、和歌山以南の太平洋沿岸でも確認される。

備考 本種は同科他種と比較して、独特の色彩により容易に識別される。島田(2013)はイロブダイの学名を *C. bicolor* (Rüppell, 1829) としたが、この学名は一般的に紅海固有種に充てられている。

と論島では供利沖の水深10-12 mから採集された。本種はブダイ科の中でも大型種であり、全長は80 cmに達する。(桜井 雄)

スズキ目 ブダイ科 ハゲブダイ属

オオモンハゲブダイ

Chlorurus boweri
(Snyder, 1909)

形態 背鰭IX, 10; 臀鰭III, 9; 胸鰭15; 背鰭前方鱗4-5; 頬鱗列2。体は小判型で、頭部は丸く、側扁している。体高はやや低い。尾鰭後縁は雄相で両葉がわずかに伸び、浅い湾入型、雌相では截形。口は小さく、

上顎の後端は眼の前縁に達さない。歯は癒合が完全であり、歯板を形成する。成魚では上顎歯板が広く露出する。

色彩 雄相の体色は、濃緑色であり、鱗に



■ オオモンハゲブダイ *Chlorurus boweri* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

沿って短い赤紫の横線が並ぶ。腹部はやや赤み先色を帯びる。眼の後方から胸鰭基部後方まで目立った橙色の三角の斑紋がある。眼の後方および上方に4本の短い線状模様があり、眼の前に濃赤紫色の1斑紋が入る。背鰭は濃緑色で2本の橙線がある。胸鰭と腹鰭は前縁が濃緑色で内側はやや橙色がかかる。臀鰭は濃緑色で基底に1赤紫線がある。尾鰭は濃緑色で鰭条に沿って数本の赤紫色縦線がある。雌相の体色は一樣に濃赤褐色であり、鱗に沿って短い赤褐色の横線が並ぶ。背鰭と臀鰭には不規則な縦線が並ぶ。各鰭とも体側とほぼ同じ色彩であり、臀鰭基部に濃橙色の帯がみられる。尾鰭には鰭条に沿って数本の青色縦線がある。尾柄に目立った斑紋はなく、生時は尾柄より後方に淡色に抜ける場合がある。



■ オオモンハゲブダイ *Chlorurus boweri* KAUM-I. 40138, 142.5 mm SL

分布 台湾、東沙諸島、南沙諸島、フィリピン、パラオ、ジャワ島、ミャンマー、フィジーに分布する。国内では大隅諸島と琉球列島に分布する。

備考 本種は同科他種と比較して、雄相では体側に橙色大型の三角形の斑紋があることで容易に識別される。雌相では歯が融合し歯板を形成すること、頬の鱗列数が2であること、体側や尾柄に明瞭な斑紋をもたないこと、背鰭に不規則な縦線をもつことで識別される。

与論島では前浜沖水深10mで追い込み網により捕獲されたほか、茶花沖のサンゴ礁内で確認されている。

(桜井 雄)



■ オオモンハゲブダイ *Chlorurus boweri* KAUM-I. 40140, 137.0 mm SL



■ ナンヨウブダイ *Chlorurus microrhinos* KAUM-I. 46023, 256.0 mm SL



■ ナンヨウブダイ *Chlorurus microrhinos* Color variation KAUM-I. 51545, 412.0 mm SL

スズキ目 ブダイ科 ハゲブダイ属

ナンヨウブダイ

Chlorurus microrhinos
(Bleeker, 1854)

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 15-17; 背鰭前方鱗 3-4; 頬鱗列 3。体は細長い丸みを帯びた長方形で、側扁する。尾鰭は湾入形で雄相では両葉が伸長する。口は小さく、上顎の後端は眼の前縁に達さない。歯は癒合が完全であり、歯板を形成する。成魚では上顎歯板が広く露出する。雄相では額は丸く膨らみ、老成魚では膨出する。雌相では眼前の輪郭が丸みを帯び

ず、吻にかけての傾斜が急である。

色彩 雄相の体色は、濃緑色であり、鱗に沿って短い橙色の横線が並ぶ。頬部には口から胸鰭基底にかけて薄い緑の線があり、鰓蓋後縁下部まで達する。頭部はやや暗色がかかる。各鰭は体側と同色であり、背鰭、臀鰭、尾鰭にはくすんだ黄色の不規則な線が入る。胸鰭は濃い緑色であり、上縁は体側と同色である。雌相も体色には大きな違いはない。また体色側面上部がくすんだ黄褐色になる色彩変異も確認されている。

分布 ハワイ諸島、小スンダ列島を除く西・

中央太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

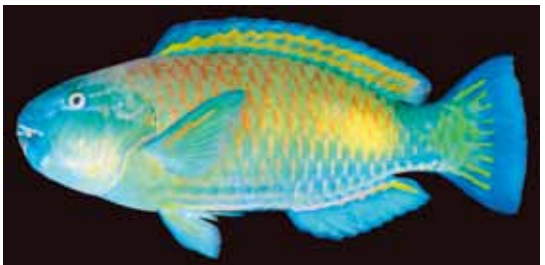
備考 本種は同科他種と比較して、体側に目立った斑紋がなく、頭部が膨らむもしくは眼前の輪郭が吻にかけて急傾斜であること、尾鰭の両葉が伸長することから識別される。

与論島では茶花沖やハキビナ海岸の水深 15-25 m 付近で確認されている。本種はブダイ科の中でも大型種であり、全長は 70 cm に達する。

(桜井 雄)



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* KAUM-I. 51481, 260.2 mm SL



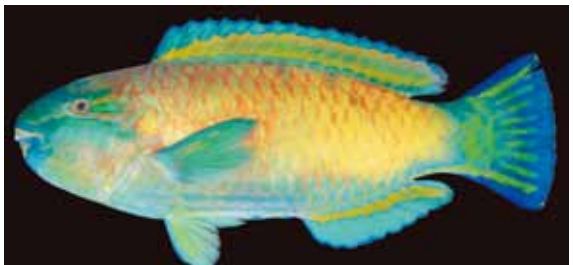
■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* KAUM-I. 40142, 239.9 mm SL



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* KAUM-I. 46018, 230.5 mm SL



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* KAUM-I. 45794, 219.6 mm SL



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* KAUM-I. 55055, 216.5 mm SL



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* KAUM-I. 55052, 203.2 mm SL



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* KAUM-I. 51479, 203.9 mm SL



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* KAUM-I. 40137, 180.4 mm SL



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* KAUM-I. 46021, 179.9 mm SL



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* KAUM-I. 41249, 174.6 mm SL



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* KAUM-I. 46015, 157.8 mm SL



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* KAUM-I. 40139, 148.4 mm SL



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* KAUM-I. 40141, 138.9 mm SL



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* KAUM-I. 55056, 132.4 mm SL



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* KAUM-I. 51510, 31.3 mm SL



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ハゲブダイ *Chlorurus sordidus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ブダイ科 ハゲブダイ属

ハゲブダイ

Chlorurus sordidus
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 14-16; 背鰭前方鱗 3-4; 頬鱗列 2。体は細長い楕円形で、頭部はやや長く、丸みを帯びた台形。尾鰭は截形。口は小さく、上顎の後端は眼の前縁に達さない。歯は癒合が完全であり、歯板を形成する。成魚では上顎歯板が広く露出する。

色彩 雄相の体色は、濃緑色であり、鱗

に沿って短い橙色の横線が並ぶ。腹部はやや黄味を帯び、1-2本の緑色線がある。体側は様々で、濃緑色から大部分が黄色の場合もある。眼の後方に2本、前方に1本の緑色線がある。眼の前に黄緑色がかかった1斑紋が入る。背鰭は濃緑色で1本の黄色線がある。胸鰭と原鰭は前縁が濃緑色で内側はやや薄い緑色。臀鰭は濃緑色で基底に1黄色線がある。尾鰭は中央が濃緑色で周囲は青く縁どられる。雌相の体色は一律に濃赤褐色であり、口から胸部にかけてはやや鮮やか。体側は不規則な茶褐色のまだら模様になる。各鰭は体側と同色で目立った模様はない。尾柄中央に大きな濃色の円斑を有する場合が多い。

生時は尾柄から後方が淡色になり、この濃色円斑がひじょうに目立つ。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、駿河湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は同科他種と比較して、頭部が丸みを帯びた台形であること、頬の鱗列数が2であること、雄相では体側に目立った斑紋がなく、目の前に緑色がかかった1斑紋が入ること、雌相では尾柄部に1濃色円斑をもつことで識別される。与論島では周辺のサンゴ礁内で数多く確認されている。

(桜井 雄)

スズキ目 ブダイ科 アオブダイ属

イチモンジブダイ

Scarus forsteni
(Bleeker, 1861)

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 14-15; 背鰭前方鱗 5-7; 頬鱗列 3。体は細長い楕円形で、側扁する。尾鰭は湾入形で雄相の両葉は雌相のものよりも伸長する。口は小さく、上顎の後端は眼の前縁に達さない。歯は癒合が完全であり、歯板を形成する。成魚では上顎歯板の2分の1が唇で覆われる。

色彩 雄相の体色は緑色で胸鰭より後方の体側中央付近は淡いくすんだ桃色、体側

鱗に沿って橙色の縁取りがある。頭部には主鰓蓋骨中央付近から眼の下を通る緑色の線があり、主上顎骨後端付近で上下に二分する。上唇は当初縞線どられる。胸鰭基底付近から尾柄下部付近にかけて弧を描く1緑色縦線がある。頭部の上顎上から胸鰭、背鰭棘前半に囲まれた部分が濃色であるが、死後この模様は急速に薄れる。背鰭、臀鰭はくすんだ橙色で、縁辺は青色。胸鰭は濃紫色で上縁は濃い緑色。腹鰭はくすんだ橙色で前縁は青い。尾鰭は両葉の中央部がくすんだ橙色であり、その他の部分は青い。雌相は体全体が赤褐色で、腹部は淡い色となる。胸鰭後方に濃い青および緑色からなる不規則な輪郭を持つ楕円斑があり、その上部に1白点が出る場合がある。生時は眼の後方から尾柄に

かけて体側中央に濃色の紡錘形模様が出る。腹鰭は淡い赤褐色、背鰭、臀鰭はやや薄い橙色、胸鰭、尾鰭は濃い赤色。

分布 キーリング諸島以東、ハワイ諸島、マルケサス諸島、イースター島を除く東インド～太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種の雄相は頭部上方に濃色域をもつこと、尾鰭が明瞭に湾入すること、雌相では体側中央に輪郭が不明瞭な濃い青～緑色の斑紋をもつことで他種と識別される。

与論島では前浜沖や供利漁港付近等の周辺サンゴ礁域の水深5-10m付近で確認されている。

(桜井 雄)



■ イチモンジブダイ *Scarus forsteni* KAUM-I. 45776, 257.6 mm SL



■ イチモンジブダイ *Scarus forsteni* KAUM-I. 45777, 273.0 mm SL



■ イチモンジブダイ *Scarus forsteni* FRLM 43058, 202.6 mm SL



■ イチモンジブダイ *Scarus forsteni* KAUM-I. 45761, 235.9 mm SL



■ イチモンジブダイ *Scarus forsteni* KAUM-I. 51477, 175.2 mm SL



■ イチモンジブダイ *Scarus forsteni* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ オグロブダイ *Scarus fuscocaudalis* KAUM-I. 46022, 186.5 mm SL

スズキ目 ブダイ科 アオブダイ属

オグロブダイ

Scarus fuscocaudalis
Randall & Myers, 2000

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 14; 背鰭前方鱗 4-5; 頬鱗列 3。体は細長い楕円形で、側扁している。尾鰭は円形で、雄相では両葉はやや伸長する。口は小さく、上顎の後端は眼の前縁に達さない。歯は癒合が完全であり、歯板を形成する。成魚では上顎歯板の2分の1が唇で覆われる。

色彩 雄相の体色は橙色。腹部に2-3本の緑色縦線がある。口周辺は緑色で下唇に1本の橙色線がある。眼の下、頬部、頤部は緑色。背鰭は基部に黄色線があり、その上は青緑色で縁辺付近に黄色の細い縦線がある。臀鰭は青色で基部に橙色の帯がある。腹鰭と胸鰭は薄い黄色で、腹鰭の前縁は青い。尾鰭は両葉の縁辺と後



■ オグロブダイ *Scarus fuscocaudalis* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

端が青く、その他は橙色である。雌相の色彩は雄相とほぼ同じであるが、尾鰭中央部が明瞭に暗色である。

分布 日本、グアム、フィリピン、インドネシア、ニューギニアに分布する。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は雄相では橙色の色彩になること、雌相では尾鰭中央が明瞭に暗色になることにより他種と識別される。

与論島では茶花沖や前浜沖の水深15-25 m 付近で確認されている。
(桜井 雄)

■ ヒブダイ *Scarus ghobban* KAUM-I. 39994, 472.0 mm SL

スズキ目 ブダイ科 アオブダイ属

ヒブダイ

Scarus ghobban
Forsskål, 1775

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 15-16; 背鰭前方鱗 5-7; 頬鱗列 3。体は細長い楕円形で、側扁する。尾鰭は雄相で中央がやや膨らむ湾入形で、雌相では截形。口は小さく、上顎の後端は眼の前縁に達さない。歯は癒合が完全であり、歯板を形成する。成魚では上顎歯板の2分の1が唇で覆われる。

色彩 雄相の体色は、濃緑色であり、鱗に沿って短い橙色の縁取りが並ぶ。頬部は鈍い橙色。眼の後方に2本、前峰に1本、下顎に1本の不明瞭な鈍い橙色の線がある。唇は橙色。背鰭、臀鰭は青色で中央に太い橙色の帯がある。腹鰭は橙色で前縁は薄い青色、胸鰭は青色で基底と中央が鈍い橙色。尾鰭は緑色で前方と両葉中央に帯状の橙色線が入る。雌相は全体が橙色がかかった黄色で体側に破線状の青色横線が4-5本ある。眼の後方に3本の青線があり眼の下を通るものは口に達している。唇の縁辺は青い。各鰭も体と同色であるが縁辺や基底部は青い。

分布 ハワイ諸島とイースター島を除くインド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、東京以南の太平洋沿岸、男女群島、琉球列島に分布する。

備考 本種はブダイ科の中でも雌相は黄色の体色（他種では概ね赤もしくは赤褐色）に青色の横線が入る独特の色彩で、他種と容易に識別される。雄相では、頬鱗列が3であること、上顎歯板が唇で覆われること、

■ ヒブダイ *Scarus ghobban* FRLM 43023, 333.0 mm SL■ ヒブダイ *Scarus ghobban* KAUM-I. 40323, 223.7 mm SL

と、吻部外縁が垂直や丸くないこと、腹部に縦線をもたないこと、眼上に横線をもたないこと、尾柄部が淡色で体側と明瞭に分けられないことで識別される。

与論島では皆田海岸や前浜、供利漁港付近で確認されている。

(桜井 雄)

■ ヒブダイ *Scarus ghobban* 17 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki

■ ブチブダイ *Scarus niger* KAUM-I. 46020, 110.9 mm SL

スズキ目 ブダイ科 アオブダイ属

ブチブダイ

Scarus niger
Forsskål, 1775

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 13-15; 背鰭前方鱗 6-8; 頬鱗列 3。体はやや体高の高い小判型で、側扁する。尾鰭は円形であるが、両葉は伸長し、二重湾入形に近い。口は小さく、上顎の後端は眼の前縁に達さない。歯は癒合が完全であり、歯板を形成する。成魚では上顎歯板の2分の1が唇で覆われる。

色彩 体色は黒みがかった緑色で体色はほぼ一様。体側鱗に沿って暗色の縁取りがある。主鰓蓋骨上部後方に明るい緑色短い1横線がある。上顎に1本、下顎に2本の暗紫色線があり、上唇は橙色。胸鰭は赤紫色、背鰭、臀鰭、腹鰭、尾鰭は体とほぼ同色であり、くすんだ橙色-黄色の1線があり、縁辺は青い。雌相では体側に多数の白色縦線がある。幼魚は全体が濃褐色で背部はやや淡いオリーブ色。体側には青白色の小点が散在する。尾柄

■ ブチブダイ *Scarus niger* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

部には半月状の白色横線があり、その前の尾柄上辺、下辺に黒色点が1つずつ存在する。

分布 ハワイ諸島とイースター島を除くインド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸

島、琉球列島に分布する。

備考 本種は濃色の体色と鰓蓋後部に1緑色点があることで他種と識別される。幼魚は独特の色彩により、他種と容易に識別が可能である。与論島では茶花沖のサンゴ礁域で確認されている。

(桜井 雄)

■ スジブダイ *Scarus rivulatus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki■ スジブダイ *Scarus rivulatus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

■ スジブダイ *Scarus rivulatus* KAUM-I. 55000, 297.1 mm SL■ スジブダイ *Scarus rivulatus* KAUM-I. 55064, 144.4 mm SL

ススキ目 ブダイ科 アオブダイ属

スジブダイ

Scarus rivulatus
Valenciennes, 1840

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 14-15; 背鰭前方鱗 6-7; 頬鱗列 3。体は細長い楕円形で、側扁する。尾鰭は截形。口は小さく、上顎の後端は眼の前縁に達さない。歯は癒合が完全であり、歯板を形成する。成魚では上顎歯板の2分の1が唇で覆われる。

色彩 雄相の体色は、濃緑色であり、体前半は濃く、後半はやや薄い。頬部はやや薄い緑色で、中心に橙色の斑紋がある。眼の周辺や頬部上方、吻部には橙色の唐草模様の斑紋がある。鱗に沿った縁取りがあり、体前半は濃紫いろ、後半は鈍い橙色で点列状に並ぶ。背鰭、臀鰭は体と同色であり、赤紫線がある。胸鰭は上縁が濃い緑色、その下に赤紫の線をもち、鰭全体はくすんだ黄緑色。腹鰭はくすんだ黄色で前縁が青い。尾鰭は濃い緑と鈍い橙色の不規則な模様が入り、周辺は青い。雌相は全体が褐色であり、体側に数本の横帯が入る場合がある。

分布 西太平洋に分布する。国内では高知県、愛媛県、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種の雄相は頭部に橙色の唐草模様があること、頬部に橙色の斑紋があることから他種と識別される。一方雌相では目立った模様がなく、オウムブダイ *S. psittacus* Forsskål, 1775 やダイダイブダイ *S. globiceps* Valenciennes, 1840 との識別は困難であるとされている(岸本, 1997)。

与論島では茶花の水深 15 m 付近で確認されている。

(桜井 雄)

■ オウムブダイ *Scarus psittacus* KAUM-I. 55054, 208.1 mm SL

スズキ目 ブダイ科 アオブダイ属

オウムブダイ

Scarus psittacus
Forsskål, 1775

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 13-15; 背鰭前方鱗 3-5; 頬鱗列 2。体は細長い楕円形で吻はやや突出し、側扁する。尾鰭は浅く湾入する。口は小さく、上顎の後端は眼の前縁に達さない。歯は癒合が完全であり、歯板を形成する。成魚では上顎歯板の2分の1が唇で覆われる。

色彩 雄相の体色は緑色であるが、色彩変異が激しく、眼の後方から体側後方まで一様にくすんだ黄色になるものから、体側鱗に沿って橙色の縁取りが全体に散らばるものまである。主鰓蓋骨下部や頬部はくすんだ桃色の斑紋があり、下唇縁部にも同色の1戦がみられる。頭部上方の吻端から眼にかけて濃色になる。眼の後方に2本の緑線がある場合が多い。各鰭は緑色で、背鰭、臀鰭、腹鰭には不規則な橙色の斑紋がある。雌相の色彩については、スジブダイ *S. rivulatus* Valenciennes, 1840 やダイダイブダイ *S. globiceps* Valenciennes, 1840 に似るとされている(岸本, 1997) が、詳細は不明である。

分布 イースター島を除くインド・太平洋に分布する。国内では和歌山県、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 本種の雄相は頭部上方に狭い濃色域をもつこと、頬部に桃色の斑紋をもつこと、吻部がやや突出すること、体側が一様にくすんだ黄色である場合が多いことで他種と識別される(雌相についてはスジブダ

■ オウムブダイ *Scarus psittacus* KAUM-I. 40143, 194.1 mm SL■ オウムブダイ *Scarus psittacus* KAUM-I. 40179, 217.9 mm SL

イ *S. rivulatus* Valenciennes, 1840 の項を参照のこと)。与論島では前浜沖の水深15 m 付近で確認されている。

(桜井 雄)

■ オウムブダイ *Scarus psittacus* 17 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki

■ ナガブダイ *Scarus rubroviolaceus* KAUM-I. 45780, 329.5 mm SL■ ナガブダイ *Scarus rubroviolaceus* KAUM-I. 45778, 255.1 mm SL

ススキ目 ブダイ科 アオブダイ属

ナガブダイ

Scarus rubroviolaceus
Bleeker, 1847

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 14-16; 背鰭前方鱗 5-7; 頬鱗列 3。体は細長い長方形で、吻部の外縁はほぼ垂直であり、顔の輪郭は丸みを帯びた台形。尾鰭は湾入し、雄相では深く両葉は伸長する。口は小さく、上顎の後端は眼の前縁に達さない。歯は癒合が完全であり、歯板を形成する。上顎歯板後部に犬歯状歯が1-2本ある。成魚では上顎歯板の2分の1が唇で覆われる。

色彩 雄相の体色は緑色であり、体側鱗の縁辺は橙色の縁取りがある。頭部上方から体側後部までくすんだ黄色の大きな斑

紋がみられる場合があるが、成長に伴い消失する。唇の縁辺は橙色に縁どられる。背鰭は黄色で中央に点列状の青い帯状模様があり、縁辺は青い。臀鰭は青く、基底付近に1本の黄色い帯状模様がある。腹鰭は前縁が青く、その後は黄色い。胸鰭は青く、基底と中央に不明瞭な黄色線が入る。尾鰭は青く、基底中央と後縁の中央は黄色い。雌相は全体が赤褐色であり、体側鱗に沿って褐色の縁取りがある。生時はほぼ体側中央から前半が濃色、後半は淡色の色彩を呈するが、死後は不明瞭になる。各鰭は体側とほぼ同色であるが、胸鰭の後縁はほぼ透明になる。

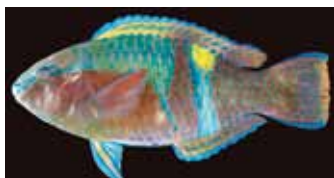
分布 イースター島を除くインド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

■ ナガブダイ *Scarus rubroviolaceus*
KPM-NI 30789, 8.8 mm SL

備考 本種は吻部外縁がほぼ垂直であり、頭部の輪郭が丸みを帯びた台形であることにより他種と識別される。なお、本調査で確認されたブダイ科の幼魚(標準体長 8.8 mm、前浜海岸、水深 6-8 m; 標準体長 23.0 mm、茶花沖、水深不明)については、尾柄部中央に目立つ1白色斑があることから、Bellwood & Choat (1989)に従えばナガブダイの幼魚である可能性が高い。

与論島では周辺のサンゴ礁域で確認されている。ブダイ科の中でも比較的大型である。

(桜井 雄)

■ オビブダイ *Scarus schlegelii* KAUM-I. 55053, 235.7 mm SL■ オビブダイ *Scarus schlegelii* FRLM 42946, 283.6 mm SL■ オビブダイ *Scarus schlegelii* KAUM-I. 45775, 284.6 mm SL■ オビブダイ *Scarus schlegelii* KAUM-I. 45779, 252.1 mm SL■ オビブダイ *Scarus schlegelii* KAUM-I. 41217, 223.8 mm SL■ オビブダイ *Scarus schlegelii* KAUM-I. 55063, 192.5 mm SL

スズキ目 ブダイ科 オビブダイ属

オビブダイ

Scarus schlegelii
(Bleeker, 1861)

形態 背鰭 IX, 10; 臀鰭 III, 9; 胸鰭 14; 背鰭前方鱗 4; 頬鱗列 2。体は細長い楕円形で、側扁する。尾鰭は截形。口は小さく、上顎の後端は眼の前縁に達さない。歯は癒合が完全であり、歯板を形成する。成魚では上顎歯板の 2 分の 1 が唇で覆われる。

色彩 雄相の体色は、黒みがかった緑色

で、体側前半上部は濃い緑色、体側後半にも 1 本の横帯状の濃い緑色部分がある。体側後半の背鰭第 9 棘 - 第 1 軟条付近と第 4-5 軟条付近に黄色斑紋がある。眼の後方に 2 本前方に 1 本の濃い緑色線があり、前方の線は口まで達する。唇は青色でその周辺は橙色。背鰭と臀鰭はくすんだ橙色で、中央は濃い緑色、縁は青色。胸鰭は濃紫色で上縁は濃い緑色。腹鰭はくすんだ橙色で前縁は青い。雌相は体全体が赤褐色で、頭部や体前半上方には淡色の不規則な模様が入る。体側には数本の淡色の「く」の字模様が入る。淡色と濃色の境目は鱗に沿っており、鋸歯様である。

分布 キーリング諸島以東、ハワイ諸島、マルケサス諸島、イースター島を除く東インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種の雄相は頭部上方と体側中央後部に淡色帯があること、雌相は鋸歯様の輪郭をもつ帯状模様があることで他種と識別される。与論島では周辺のサンゴ礁域の水深 2-15 m 付近で確認されている。

(桜井 雄)



■ ヨツメトラギス *Parapercis clathrata* KAUM-I. 55141, 73.1 mm SL

スズキ目トラギス科トラギス属

ヨツメトラギス

Parapercis clathrata
Ogilby, 1910

形態 背鰭 IV, 20-21; 臀鰭 I, 17; 胸鰭 17-18; 側線有孔鱗 57-60。体は円筒形で、体前方はやや縦扁する。口蓋骨歯をもたない。下顎前部の犬歯状歯は3対。背鰭棘条部と軟条部の間に浅い欠刻があるが第4棘と第1背鰭軟条は鰭膜でつながる。尾鰭は截形で上端は伸長しない。

色彩 体側上部はうすい褐色で、体側下部は白色。頭部、体側上部には褐色斑が

散在する。雄には項部背面に1対の黒色斑がある。雌にはない。体側上部には不明瞭な褐色縦線が入り、体側下部には不明瞭な黄褐色縦線が走る。黄褐色縦線には10の黄褐色斑が並び、さらに黄褐色斑上には黄褐色線上に沿って黒色点が並ぶ。また体側には褐色縦線から黄色褐色縦線にかけて8-9の不明瞭な褐色横線が入る。背鰭棘条部の鰭膜は褐色。背鰭軟条部と臀鰭は半透明で、各基部に褐色点が並ぶ。腹鰭軟条部は白色で、先端部は透明。尾鰭前部に2黒色縦線または黒色斑があり、後部には1白色斑が入る。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、相模湾以南の太平洋

沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 サンゴ礁域の浅所で普通にみられるが一般に食用としない。肉食性で底生動物や小魚を主に捕食する。体長は15cm前後に達する。

水中では体の色彩や尾鰭に白色斑があることでワヌケトラギス *P. millepunctata* (Günther, 1860) やカモハトラギス *P. kamoharai* Schultz, 1966 と似るが、本種には白色斑を囲む大きな黒色斑がないことや、雄には項部背面に1対の黒色斑があること(雌は顕著ではない)から識別される。
(目黒昌利・原崎 森)



■ ダンダラトラギス *Parapercis cylindrica* KAUM-I. 51185, 45.9 mm SL

スズキ目トラギス科トラギス属

ダンダラトラギス

Parapercis cylindrica
(Bloch, 1792)

形態 背鰭 V, 21-22; 臀鰭 I, 17; 胸鰭 14-16; 側線有孔鱗 48-52。体は円筒形で、体前方はやや縦扁する。両顎はほぼ同長で下顎前部の犬歯状歯は5対。口蓋骨歯をもたない。主鰓蓋骨に2棘あり、前

鰓蓋骨の後縁は円滑。背鰭第3-4棘が最も長い。背鰭棘条部と軟条部の間に深い欠刻がある。尾鰭は円形。

色彩 体色は灰褐色で、体側には大きな

9-10本の褐色横帯がある。背鰭軟条部と臀鰭に褐色点が散在。尾鰭には大きな暗色斑がなく、小黒色斑が散らばる。

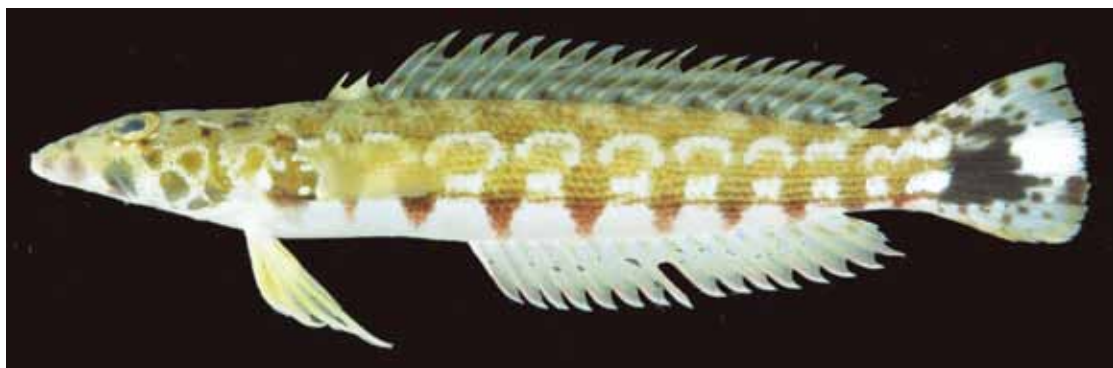
分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 内湾性で水深10m以浅のサンゴ礁域に生息し、底生動物を捕食する。成魚は体長15cm前後に達する。

(原崎 森)



■ ワヌケトラギス *Parapercis millepunctata* KAUM-I. 39877, 71.6 mm SL



■ ワヌケトラギス *Parapercis millepunctata* BSKU 108318, 94.8 mm SL

スズキ目 トラギス科 トラギス属

ワヌケトラギス

Parapercis millepunctata
(Günther, 1860)

形態 背鰭IV, 20-21; 臀鰭I, 16-17; 胸鰭17-18; 側線有孔鱗59-60。体は円筒形で、体前方はやや縦扁する。口蓋骨歯をもたない。下顎前部の犬歯状歯は3対。背鰭棘では第3棘が最長。背鰭棘条部と軟条部の間に欠刻がある。

色彩 尾鰭基部近くに大きな1黒色斑があり、そのすぐ後方によく目立つ小白斑がみられる。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、



■ ワヌケトラギス *Parapercis millepunctata* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

琉球列島、尖閣諸島に分布する。

備考 サンゴ礁域の浅所で普通にみられるが一般に食用としない。主に底生動物や小魚を捕食する。水中観察においては、体の色彩や尾鰭に白斑があることでヨツメトラギス *P. clathrata* Ogilby, 1910 やカモ

ハトラギス *P. kamoharai* Schultz, 1966 と似るが、ワヌケトラギスにはこの白斑を囲む大きな黒色斑があることで識別は容易。体長は17cm前後に達する。

(原崎 森)

■ サンゴトラギス *Parapercis multiplicata* KAUM-I. 50865, 57.0 mm SL

スズキ目トラギス科トラギス属

サンゴトラギス

Parapercis multiplicata
Randall, 1984

形態 背鰭 V, 21; 臀鰭 I, 16-17; 胸鰭 14-15; 側線有孔鱗 56-58。体は円筒形で、体前方はやや縦扁する。口蓋骨歯をもたない。下顎前部の犬歯状歯は4対。背鰭棘条部と軟条部間に大きな欠刻があるが第5棘と第1背鰭軟条は軟条の基部付近で鰭膜がつながっている。尾鰭は截形で上端は伸長しない。

色彩 体側上部は緑がかった薄い赤色で、体側下部は白色。頭部、体側上部には橙色斑または朱色点が散在する。眼下には橙色の斜線がはいる。体側下部には不連続な薄い橙色縦線と8本の赤色横帯がはいる。背鰭棘条部の鰭膜は白色で、中央に赤黒色斑がある。背鰭軟条部は透明。臀鰭軟条部は白色で縁辺は黄色で縁取られる。背鰭軟条部と臀鰭の鰭膜には小さな赤黒色点が並ぶ。腹鰭軟条部の基部は白色で、先端部は透明。尾鰭は赤色半透明で、赤色点が散在する。

分布 オーストラリア北西部と西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本調査において本種は水深7-17mの水深でみられた。形態的にはトラギス *P. pulchella* (Temminck & Schlegel, 1843) に似るが、サンゴトラギスは体側に幅の狭い8赤色横帯（トラギスは体側に幅の広い6褐色横帯）があることから識別される。体長は10cm前後に達する。

(目黒昌利・原崎 森)

■ オグロトラギス *Parapercis pacifica* KAUM-I. 40411, 66.6 mm SL

スズキ目トラギス科トラギス属

オグロトラギス

Parapercis pacifica
Imamura & Yoshino, 2007

形態 背鰭 V, 21-22; 臀鰭 I, 17-18; 胸鰭 17-18; 側線有孔鱗 58-60。体は円筒形で、体前方はやや縦扁する。口蓋骨歯

をもたない。下顎前部の犬歯状歯は4対。背鰭棘条部と軟条部間に大きな欠刻がある。

色彩 体色は白色で、尾鰭には大きな黒色斑があり、直後に小白色斑がない。雄の類下部には茶褐色または暗色の半円形帯か細長の同色斑を有するが、斜帯はない。雌の頭部には小黒色斑が多数ある。雄の

腹部には3つ前後の小眼状斑列があり、雌ではそれが6-7つある。

分布 フィジー諸島、インドネシアから日本にかけての西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 沿岸のサンゴ礁域にすむ普通種。肉

■ オグロトラギス *Paraperis pacifica* FRLM 42887, 127.7 mm SL■ オグロトラギス *Paraperis pacifica* BSKU 106112, 70.5 mm SL■ オグロトラギス *Paraperis pacifica* BSKU 106140, 35.3 mm SL

食性で甲殻類や多毛類などの底生動物のほか、小魚なども食べる。食用にされることもあるがあまり一般的ではない。体は白色で、尾鰭には大きな黒色斑があることが特徴。

本種とその近縁種群は分類学的に長らく混乱していたが、Imamura & Yoshino (2007) により再検討が行われ、本種は2007年に新種記載された。近縁種のインド洋に分布する *P. hexophthalma* (Cuvier, 1829) などは雄の頬部に数本の斜線があるのに対し、オグロトラギスのみが斜線を有さない。体長は20 cm 前後に達する。

(原崎 森)

■ オグロトラギス *Paraperis pacifica* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

ススキ目 トラギス科 トラギス属

ホムラトラギス

Paraperis randalli
Ho & Shao, 2010

形態 背鰭 V, 21; 臀鰭 I, 17; 胸鰭 17-18; 腹鰭 I, 5; 側線有孔鱗 52-53。体はやや細長く、円筒形で尾柄部は後方に向かって側扁する。上顎前方に3対の犬歯が並び、さらに後方に円錐歯が1列に並ぶ。犬歯後方には絨毛状歯が幅広く密に並ぶ。下顎前方の犬歯は3対で、後方に絨毛状歯がある。鋤骨歯は円弧状をなす。口蓋骨歯はない。前鰓蓋骨の後縁は円滑

で、主鰓蓋骨中央には1本の鋭い棘がある。体の多くは櫛鱗で覆われるが、頭部の一部は無鱗で、胸鰭基部のみ小円鱗で覆われる。尾鰭は浅く湾入し、上葉後端はいくぶん伸長する。下葉後縁はやや丸みを帯びる。

色彩 体側上部は淡赤色で、体側下部ではより淡くなる。体背側面には5赤褐色鞍状斑を、腹側面には8赤褐色斑をもつ。眼後部、鰓蓋上方、第2-3側線孔間および第5-6側線孔間に濃褐色点をもつ。類には眼の下縁から前鰓蓋骨下端にかけて淡赤色で縁取られた赤褐色の斜走帯をもつ。

分布 台湾および日本の与論島のみから知られている。

備考 本種は与論島から採集された標本(写真)に基づき、日比野ほか(2013)によって日本初記録として報告、新標準和名ホムラトラギスが提唱された。本報告はタイブ産地以外からの初記録であると同時に、本種の北限記録である。本種は琉球列島に分布するセホシトラギス *P. basimaculata* Randall, Senou & Yoshino, 2008 と類似しているが、鰓蓋上方に濃褐色点2個あること(セホシトラギスでは1個の大きな暗色斑をもつ)、背側面の鞍状斑の幅が広いこと(狭い)、腹側面の赤褐色斑が8個



■ ホムトラギス *Parapercis randalli* FRLM 43053, 63.9 mm SL

あること（10個）、頬の斜走斑が黄色から赤橙色で周囲を赤色で縁取られること（縁取りはない）、尾鰭中央かそれよりわずかに後方に2個の黒点が垂直方向に並ぶこと

と（尾鰭中央より前方に黒点が垂直方向に4個並ぶ）、頭頂部に黒点を欠くこと（3対ある）、臀鰭の黒点を欠くこと（3個ある）、尾鰭の横線模様を欠くこと（ある）、下顎前

方に3対の犬歯があること（4対）などによって明瞭に区別される。

（日比野友亮・本村浩之・木村清志）



■ マダラトラギス *Parapercis tetracantha* KAUM-I. 50866, 51.1 mm SL

スズキ目 トラギス科 トラギス属

マダラトラギス

Parapercis tetracantha
(Lacepède, 1801)

形態 背鰭 V, 20-21; 臀鰭 I, 16-17; 胸鰭 17-18; 側線有孔鱗 59-65。体は円筒形で、体前方はやや縦扁する。口蓋骨歯をもたない。背鰭棘条部と軟条部の間に欠刻があるが第5棘と第1背鰭軟条は鰭膜でつながる。截形で上端はやや伸長する。下顎前部の犬歯状歯は3対。

色彩 体側上部は黄褐色で、頭部覆面、腹部は白色。頭部には上下顎、眼下と頭部背面から鰓蓋後縁にかけて褐色帯がはいり、体側上部に2本の不明瞭な褐色縦線と9本の褐色横帯がはいり、前方の3褐色横帯の腹部先端にはそれぞれ黒色点がある。背鰭棘条部の鰭膜前方は褐色。背鰭軟条部と臀鰭は半透明で臀鰭は赤褐色に縁取られる。背鰭と臀鰭それぞれに黒色点と並ぶ。腹鰭軟条部は白色。尾鰭前部に大きな黒色斑などはなく、全体に小さな黒色点と点在する。尾鰭上下端は赤褐色に縁取られる。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本調査では水深1-17mでみられた。形態的にはマトウトラギス *P. ommatura* Jordan & Snyder, 1902 に似るが、下顎前部の犬歯状歯は3対（マトウトラギスは4対）、眼下に幅広い褐色横帯がある（下顎から鰓蓋上方にかけて2褐色縦線がはしる）ことなどから識別される。体長は20cm前後に達する。

（目黒昌利・原崎 森）

スズキ目 ベラギンポ科 ベラギンポ属

ベラギンポ属の一種

Trichonotus sp.

形態 背鰭 VI-VII, 39-43; 臀鰭 I, 34-38; 有孔側線鱗 53-56; 鰓耙 5-7 + 19-22。体は細長く円筒形で、吻はよく尖る。雄の背鰭伸長棘は4-7本。背鰭前方部の鰭膜は体高より高い。雌は背鰭棘が伸長しない。尾鰭は雄では大きく円形で、雌は二重截形。雄の腹鰭は臀鰭始部に達するが、雌では短く達しない。

色彩 体の地色は白色で、褐色の鞍状斑が11本あり、各鞍状斑の下方には鮮やかなオレンジ色の斑紋がある。鞍状斑間の背側に細い斑紋がある。雄の鰓蓋部には同じ大きさの青白色小斑が散在する。背鰭伸長棘は橙色と白色の縞模様。雌の背鰭前方に黒色斑はない。垂直鰭には黄色と橙

■ ベラギンポ属の一種 *Trichonotus* sp. 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

色の小斑点が散在する。

分布 日本からベトナム、インドネシアに分布する。国内では和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本種はこれまでベラギンポ *Trichonotus* sp. 2 の地理的変異とみなされてきたが、鞍状斑が側線を越える、雄の背鰭伸長棘が多く4本以上（ベラギンポは通常3本）、繁殖期の雄の背鰭鰭膜に黒色斑点

列がある、雌の背鰭前方には黒色斑がないことによって識別される。

本種は同属のリュウグウベラギンポ *T. elegans* Shimada & Yoshino, 1984 に比べ、砂底上に着底し、雌雄ともに砂によく潜る。本属魚類は雌性先熟の性転換をすることが知られ、性的二型が著しい。体長約10 cm以下の個体は雌で、15 cmを越えると雄の特徴をしめす。現在、分類学的研究が進められている。

(片山英里)

■ トビギンポ *Limnichthys fasciatus* KPM-NI 30902, 23.9 mm SL■ トビギンポ *Limnichthys fasciatus* KAUM-I. 40011, 37.7 mm SL

スズキ目 トビギンポ科 トビギンポ属

トビギンポ

Limnichthys fasciatus
Waite, 1904

形態 背鰭 24-26; 臀鰭 26-28; 背鰭+臀鰭 50-54; 胸鰭 12-14; 側線鱗 39-41。背鰭前方鱗 15-17。体は細長く円筒形。成熟した個体では背鰭始部でもっとも体高が高くなる。吻はよく尖る。上顎先端は肉

質で、前方に張り出す。眼は大きく背側に上向きである。頬部に3列の鱗がある。腹鰭は短い。腹鰭間に1枚の鱗をもつ。尾鰭は截形で後縁は丸みを帯びる。

色彩 体の地色は白色で、6-8本の褐色鞍状斑がある。体側中央に太い褐色縦帯がある。体側中央付近で、約3-4本の鞍状斑が縦帯と接続する。眼を通る細い黒色横帯がある。各鰭は透明。

分布 熱帯域をのぞく西太平洋（台湾、オーストラリア、ニュージーランド、ケルマディック諸島、フィジー諸島）に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本項の記載は与論島産の標本に基づく。体サイズと体色の変異には変異が多い。与論島産では体色が薄く、すべての斑紋は薄い褐色となるが、鹿児島県口之

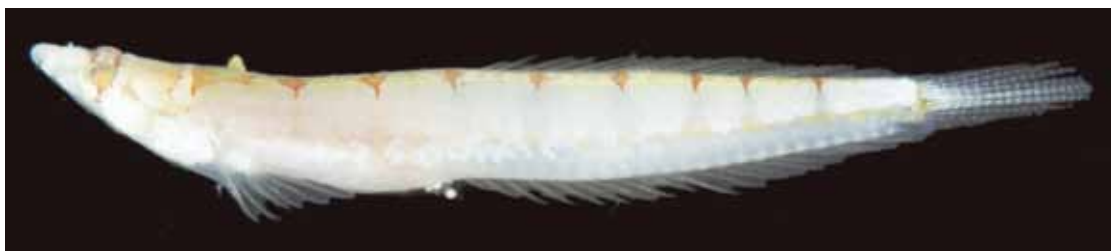
■ トビギンポ *Limnichthys fasciatus* KAUM-I. 40012, 38.9 mm SL

永良部や南日本沿岸産では、濃褐色を呈する。また高知県と与論島の個体は最大3 cm程度であるが、千葉県、駿河湾、口之

永良部島のものでは5 cmに達する。本属魚類は常に砂底に潜って生活をする。本種はミナミトビギンポ *L. nitidus*

Smith, 1958より浅い砂地に生息し、与論島では主にリーフ内の砂だまりに多くみられた。

(片山英里)

■ ミナミトビギンポ *Limnichthys nitidus* KAUM-I. 40403, 28.7 mm SL■ ミナミトビギンポ *Limnichthys nitidus* NSMT-P 110317, 20.8 mm SL■ ミナミトビギンポ *Limnichthys nitidus* KAUM-I. 40402, 23.3 mm SL■ ミナミトビギンポ *Limnichthys nitidus* NSMT-P 110465, 22.5 mm SL

スズキ目 トビギンポ科 トビギンポ属

ミナミトビギンポ

Limnichthys nitidus
Smith, 1958

形態 背鰭 21-24；臀鰭 24-26；背鰭+臀鰭 47-48；胸鰭 12-13；側線鱗 38-39；背鰭前方鱗 16-17。体は細長く円筒形。吻はよく尖る。眼は小さく、背側に上向きである。尾柄腹側に欠刻がある。

腹鰭は小さい。頬部は上顎後端にある1枚を除き無鱗。腹鰭間の鱗はない。

色彩 体の地色は白色で、7-12本の鞍状斑がある。体側中央を走る黒色縦帯があり、個体によっては縦帯と鞍状斑が接続する。眼を通り上顎後方に向かう薄い褐色横帯がある。各鰭は透明。

分布 イースター島を除くインド・太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、静

岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本項の記載は与論島産の標本に基づく。本種はトビギンポ *L. fasciatus* Waite, 1904と同様に体色に個体変異がある。与論島産の個体では、鞍状斑の形状が三角形と直線状の2タイプがみられた。トビギンポと比べて水深の深いところに生息し、本調査においてもリーフ外側の水深約10 m以深で採集された。

(片山英里)



■ ヘビギンポ *Enneapterygius etheostoma* Male KAUM-I. 45921, 45.2 mm SL



■ ヘビギンポ *Enneapterygius etheostoma* Female KAUM-I. 48100, 48.9 mm SL



■ ヘビギンポ *Enneapterygius etheostoma* KPM-NI 30816, 28.4 mm SL

スズキ目ヘビギンポ科ヘビギンポ属

ヘビギンポ

Enneapterygius etheostoma
(Jordan & Snyder, 1902)

形態 背鰭 III-XIII-XVI- 9-11 ; 臀鰭 I, 17-22 ; 胸鰭 ii-iii + 5-7 + vi-viii (13-18) ; 腹鰭 I, 2 ; 側線鱗 18-22 + 16-21 ; 尾柄

周鱗 12。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は鱗に被われない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝する。両眼の上縁中央に皮弁があり、先端は分枝しない。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠刻鱗からなる。

色彩 成熟した雄は婚姻色を呈し、通常とは色彩が異なる。婚姻色の雄は体全体が黒色。第2背鰭後端から臀鰭にかけてと、尾柄部には白色横帯がある。尾鰭基部は白く、尾鰭皮膜は透明、尾鰭軟条には褐色横線が入る。雌の体上部はうすい褐色で、下部は白色。体には褐色横帯が6-7本はいる。各鰭膜は透明で、第1背鰭を除く鰭には褐色線がはいる。

分布 日本からベトナムにかけての沿岸に分布する。国内では北海道の奥尻島を北限に全国に分布する。ただし、岩手県、宮城県、福島県、小笠原諸島からの記録はない。

備考 本調査では水深1 m以浅の潮間帯岩礁域のタイドプールでみられた。本種は本属最大の種で、全長70 mmに達する。

日本でみられる同属他種とは背鰭棘数が13-16（通常14以上）有孔側線鱗数が18-22、鼻管皮弁が分枝することから識別

される。与論島産を含む琉球列島産のヘビギンポは雄の第1背鰭が他海域に比べると伸長する、八丈島では成熟サイズが小さい個体群がみられるなど地域により形態的に差異が認められる。

（目黒昌利）



■ エリマキヘビギンポ *Enneapterygius flavocipitis* Male KAUM-I. 45831, 26.5 mm SL



■ エリマキヘビギンポ *Enneapterygius flavocipitis* Male KPM-NI 30800, 21.7 mm SL



■ エリマキヘビギンポ *Enneapterygius flavocipitis* Male BSKU 106119, 24.8 mm SL



■ エリマキヘビギンポ *Enneapterygius flavocipitis* Female KAUM-I. 41196, 14.8 mm SL

スズキ目ヘビギンポ科ヘビギンポ属

エリマキヘビギンポ

Enneapterygius flavocipitis
Shen, 1994

形態 背鰭 III-XII-XIII-8-11；臀鰭 I, 17-18；胸鰭 ii-iv+ 5-7 + vi-vii (14-16)；腹

鰭 I, 2；側線鱗 14-18 + 19-21；尾柄周鱗 12。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は鱗に被われない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝しない。両眼の上縁中央に皮弁があり、短い毛状で先端

は分枝しない。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠刻鱗からなる。

色彩 成熟した雄は婚姻色を呈し、通常とは色彩が異なる。婚姻色の雄の体色は頭部および体は黒色、上顎先端上部から背面部第2背鰭起部まで、鰓蓋上部および



■ エリマキヘビギンポ *Enneapterygius flavocipitis* KPM-NI 30903, 17.8 mm SL

胸鰭基部後部、腹鰭基部から総排泄孔前部にかけて黄色。腹鰭と第1背鰭、胸鰭の大部分は黄色、第2・3背鰭軟条および基部は黒色、臀鰭、尾鰭も黒色で、尾鰭後縁は透明。雌の体の地色は白色、褐色横帯が5-6本はいり、成長に伴いやや乱れる。吻端から眼前縁にかけて褐色線がはしる。尾柄部には黒色斑がある。臀鰭を除く各鰭膜は透明で、臀鰭は鰭条に沿って黒色線がある。

分布 西太平洋に分布する。国内では大隅諸島および琉球列島から知られている。

備考 本調査では水深10 m以浅のサンゴ礁・岩礁域でみられた。日本でみられる同属他種とは有孔側線鱗数が15-18、欠刻側線鱗数が19-21、下顎感覚孔配置が通常3+1+3、眼上・鼻管皮弁が不分枝で先端はとがる、雄の婚姻色、尾柄に黒色



■ エリマキヘビギンポ *Enneapterygius flavocipitis* KPM-NI 30758, 20.4 mm SL

斑をもつことなどから識別される。

本種はShen (1994)により台湾産の標本に基づき新種として記載された。同年 *E. bichrous* Fricke, 1994が北部オーストラリア産の標本に基づき新種として記載された。しかし、*E. bichrous* は *E. flavocipitis* と同種であり、Shen (1994)の出版が先であったため *E. bichrous* は *E. flavocipitis*

の新参異名である。また、Chaing & Chen (2008)はShen (1994)によって新種として記載された *E. rubicauda* Shen, 1994を *E. flavocipitis* の新参異名とした。Fricke (1997, 2009)は *E. rubicauda* を有効としているが、Fricke (2009)はChaing & Chen (2008)を引用していない。

(目黒昌利)



■ ハクテンヘビギンポ *Enneapterygius leucopunctatus* Female KAUM-I. 41188, 23.7 mm SL

スズキ目 ヘビギンポ科 ヘビギンポ属

ハクテンヘビギンポ

Enneapterygius leucopunctatus
Shen, 1994

形態 背鰭 III-XII-XII-9-11；臀鰭 I, 18-19；胸鰭 iii-v + 5-6 + vi-viii (15-16)；腹鰭 1, 2；側線鱗 16-18 + 16-18；尾柄周鱗 12。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は鱗に被われない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝しない。両眼の上縁中央に皮弁があり、短い毛状で先端は分枝しない。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠刻鱗からなる。

色彩 体色の地色は淡い黄褐色で、頭部下部和腹部は乳白色。吻端から眼前縁まで褐色線がはいる。鰓蓋上には白・黒・赤褐色点散在し、鰓蓋後方には褐色斑がある。胸鰭基部下と腹鰭基部分に白色斑が2つはいる。体には不明瞭な褐色横帯がはいる。鱗の縁辺には赤褐色点があり、体全体が褐色にみえる。体中央に白色点並び、尾柄部には黒色帯がある。各鰭の鰭膜は透明。第1背鰭には白色斑、黄褐色点がはいる。第2背鰭は背

■ ハクテンヘビギンポ *Enneapterygius leucopunctatus* Female KAUM-I. 41188, 23.7 mm SL

鰭基部および縁辺に黒色素が密在する。第2,3背鰭には不規則な白色線がはいる。胸鰭鰭条には褐色および白色点並び。尾鰭鰭条中央にも白色点並び。

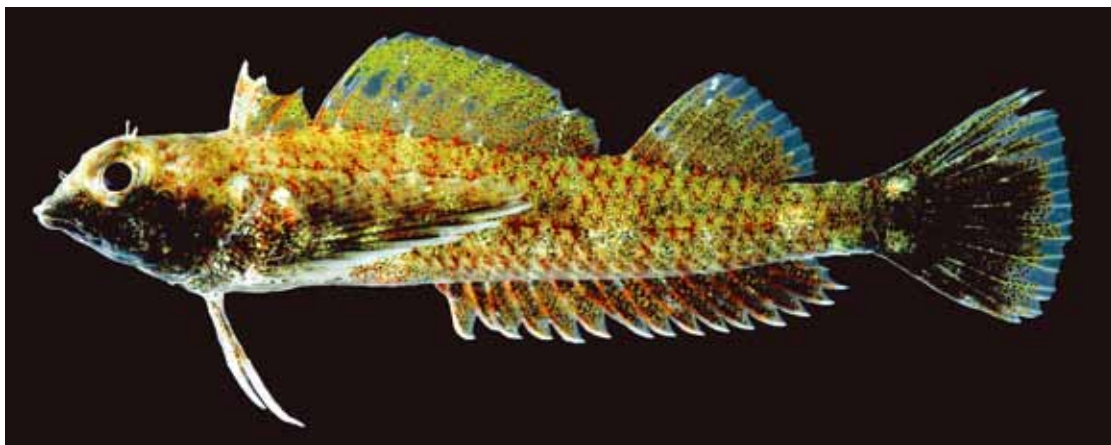
分布 台湾と日本に分布する。国内では高知県、鹿児島県沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本調査では水深10 m以浅のサンゴ礁・岩礁域でみられた。日本でみられる同属他種とは有孔側線鱗数が16-18、欠刻側線鱗数が16-18、下顎感覚孔配置が通常4 + 1 + 4、眼上・鼻管皮弁が不分枝で先端はとがる、胸鰭基部下と腹鰭基部に白色斑をもつ、体中央に白色点並び、尾柄部に黒色横帯があることなどから識別

される。

本種はShen (1994)により台湾産の標本に基づき新種として記載されたが、Fricke (1994)は本種と*E. hesiojenae* Shen, 1994を*E. vexiralius* Fowler, 1946の新参異名とした。一方でChaing & Chen (2008)は*E. leucopunctatus*と*E. hesiojenae*は別種であり両種は有効種であるとしたが、*E. vexiralius*との比較検討は行わなかった。その後、Endo et al. (2010)は本種と*E. vexiralius*のタイプ標本との形態的な比較を行い、違いを明らかにし、本種を有効種と認めるとともに、高知県と鹿児島県産の標本を基に日本初記録として報告した。

(目黒昌利)

■ クサギンポ *Enneapterygius philippinus* Male FAUM-I. 50849, 20.8 mm SL

スズキ目 ヘビギンポ科 ヘビギンポ属

クサギンポ

Enneapterygius philippinus
(Peters, 1869)

形態 背鰭 III-XI-XII-9-10；臀鰭 I, 16-17；胸鰭 i-iv + 4-7 + vi-vii (13-15)；側線

鱗数 11-14 + 19-22；尾柄周鱗 8。体は細長く、後部に向かうに従い側扁する。下顎中央の感覚孔開孔数は1。短い眼上皮弁をもつ。前鼻管の皮弁はへら状で先端は不分枝。眼上皮弁は短く、先端は分枝しない。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われる。頭部、鰓蓋部、胸鰭基部、および腹部は無

鱗。側線は2列あり、前方の側線は有孔鱗、後方は欠刻鱗からなる。

色彩 雄は婚姻色を呈し、興奮時および繁殖行動時は通常時と色彩が異なる。婚姻色の雄は頭部下から胸鰭にかけて黒色。体は暗緑色で鱗は赤縁取られる。各鰭は黒色で、第1背鰭前方の鰭膜は白色。雌

は体全体が乳白色で、白色斑が散在する。各鱗の鱗膜は透明。胸鱗に黄色斑と黒色点からなる横帯が交互にはいり、縞模様を形成する。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では大隅諸島と琉球列島から知られる。

備考 本種は水深1 mに満たない浅所を好む。与論島では水深0.5 mほどの小さな潮だまりに優占してみられた。

(田代郷国)



■ クサギンボ *Enneapterygius philippinus* Male FAUM-I. 50849, 20.8 mm SL



■ クサギンボ *Enneapterygius philippinus* Female FAUM-I. 46134, 23.6 mm SL



■ クレナイヘビギンボ *Enneapterygius rhabdotus* Male KAUM-I. 40000, 19.3 mm SL

スズキ目 ヘビギンポ科 ヘビギンポ属

クレナイヘビギンポ

Enneapterygius rhabdotus
Fricke, 1994

形態 背鱗 III-XII-XIII-8-10；腎鱗 I, 17-18；胸鱗 ii-iv + 5-7 + vi-viii (15-17)；腹鱗 I, 2；側線鱗 15-19 + 16-19；尾柄骨

鱗 12。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鱗基部と腹部は鱗に被われない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝しない。両眼の上縁中央に皮弁があり、短い毛状で先端は分枝しない。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠刻鱗か

らなる。

色彩 成熟した雌雄で色彩が異なる。雄の体の地色は乳白色で、鱗の縁辺は褐色で縁取られる。体には4本の幅の広い濃褐色横帯がある。吻端から眼前縁、眼後縁から第1背鱗起部にかけてと、下顎後端から眼の後下縁を通り頂部にかけて、褐色線がある。第1背鱗の鱗膜に褐色点があ

る。第2・第3背鰭の鰭条は赤褐色、鰭膜の大部分は透明。胸鰭は透明で、基部に5-6褐色斑がある。臀鰭鰭条は褐色、鰭膜の大部分が濃褐色で、鰭の縁辺と後部は透明である。尾鰭は大部分が透明で、中央に濃褐色の横帯が1本ある。雌は雄と体色はよく似るが、鱗の縁辺は赤褐色に縁取られる。臀鰭の大部分は透明など雄に比べ全体的に明るい体色をしている。

分布 西太平洋に分布する。国内では与論島以南の琉球列島から知られる。

備考 本調査では水深1m以浅のサンゴ礁・岩礁域タイドプールでみられた。日本でみられる同属他種とは有孔側線鱗数が16-19、欠刻側線鱗数が16-19、下顎感覚孔配置が通常4+1-3+4、眼上・鼻管



■ クレナイヘビギンポ *Enneapterygius rhabdotus* Female KAUM-I. 40001, 19.9 mm SL

皮弁は小さく、不分枝で先端はとがる、体に4本、尾鰭に1本の褐色横帯があるなどから識別される。

本種はFricke (1994)によりマルケサス諸島産の標本に基づき新種として記載され、

2002年に与那国島産の標本に基づき日本初記録として報告された。これまで本種は沖縄島以南の琉球列島から知られており、本報告は標本に基づく北限記録となる。

(目黒昌利)



スズキ目 ヘビギンポ科 ヘビギンポ属

オグロヘビギンポ

Enneapterygius signicauda
Fricke, 1997

形態 背鰭 III-XII-XIII-9-10；臀鰭 I, 16-18；胸鰭 ii-iv + 5-7 + vi-vii (15-16)；腹鰭 I, 2；側線鱗 17-19 + 16-17 (稀に19)；尾柄周鱗 12。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は鱗に被われない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝しない。両眼の上縁中央に皮弁があり、短い毛状で先端は分枝しない。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠刻鱗からなる。



■ オグロヘビギンポ *Enneapterygius signicauda* Male KAUM-I. 47821, 27.2 mm SL

色彩 成熟した雄は婚姻色を呈し、通常とは色彩が異なる。婚姻色の雄の体色は頭部および体は朱色、頭部下から胸鰭基部にかけては黒色、両顎後端は朱色。尾鰭は基部から約3分の2が黒色で、尾柄に黒色部位はない。尾鰭を除く各鰭条は淡い朱色で、各鰭膜は臀鰭を除き透明。臀鰭鰭膜は朱色。頭部、胸鰭基部、体の白色線は婚姻色時消える。雌の体は朱色、

頭部腹部にかけては乳白色、頭部には朱色点が散在する。頭部眼下部に白色線が不規則にはいる。鰓孔から胸鰭にかけて2本、腹鰭にかけて1本の白色線がはしる。体にはI字状とY字またはV字状の白色横線が5-6本交互にはいる。背鰭、胸鰭尾鰭鰭条は淡い朱色で、腹鰭、臀鰭鰭条は白色。すべての鰭膜は透明。

分布 西太平洋に分布する。国内では奄美大島以南の琉球列島から知られる。

備考 本調査では水深 10 m 以浅のサンゴ

礁・岩礁域でみられた。日本でみられる同属他種とは有孔側線鱗数が 17-19、欠缺側線鱗数が 16-17、下顎感覚孔配置が通常 4 + 1 + 4、眼上・鼻管皮弁は小さく、

不分枝で先端がとがる、雄の婚姻色時、尾鰭の黒色域が尾柄にはない、体に 5-6 本の白色横線があることから識別される。
(目黒昌利)



■ ソメワケヘビギンポ *Enneapterygius similis* Male KAUM-I. 51587, 22.6 mm SL



■ ソメワケヘビギンポ *Enneapterygius similis* Female KAUM-I. 51391, 19.1 mm SL

スズキ目 ヘビギンポ科 ヘビギンポ属

ソメワケヘビギンポ

Enneapterygius similis
Fricke, 1997

形態 背鰭 III-XII-XIII-9-10；臀鰭 I, 16-19；胸鰭 ii-iv + 5-7 + vii-viii (15-16)；腹鰭 I, 2；側線鱗 16-19 + 17-21；尾柄周鱗 12。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は鱗に被われない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝しない。両眼の上縁中央に皮弁があり、短い毛状で先端は分枝しない。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠刻鱗からなる。

色彩 成熟した雄は婚姻色を呈し、通常とは色彩が異なる。婚姻色の雄の体側前半は朱色で第2背鰭後端直下から後方が黒色。頭部下、胸鰭、腹鰭基底にかけて黒色。第1、第2背鰭軟条は赤色、鰭膜は透明。第3背鰭、尾鰭は黒色だが、縁辺は透明に縁取られる。胸鰭、腹鰭鰭条は赤色で、鰭膜は淡い赤色。臀鰭は前半部軟条及び鰭膜は赤色、後半部は黒色、縁辺は透明。雌の体色は、体側前半部の地色は白色で、第2背鰭後端直下から後半部は黄緑色。頭部は吻端から眼前縁に褐色線がはいり、頭頂部から鰓蓋骨にかけて褐色。眼下に褐色点が散在する。体には6-7本の褐色横帯があり、体中央には白色点が並ぶ。胸鰭基部には2褐色斑がはいり、背鰭・胸鰭鰭条は淡い赤色で、鰭膜は透明。腹鰭は白色。臀鰭鰭条は前半部が白色、後半部は黄緑色で、鰭膜に

は鰭条に沿って褐色斑がはいり、基部近くには白色点がある。尾鰭鰭条は淡い黄緑色で、鰭膜は透明。

分布 西太平洋に分布する。国内では琉球列島から知られる。

備考 本調査では水深20 m以浅のサンゴ礁・岩礁域でみられた。日本でみられる同属他種とは有孔側線鱗数が16-19、欠刻側線鱗数が17-21、下顎感覚孔配置が通常4 + 1 + 4、眼上・鼻管皮弁は小さく、不分枝で先端はとがる、雄の婚姻色時、第2背鰭後端直下から臀鰭中央より後方にかけて黒色であること、雌を含む通常時体色で体前半の地色は白色であることなどから識別される。

(目黒昌利)

■セグロヘビギンポ *Enneapterygius tutuilae* Male KAUM-I. 58470, 21.6 mm SL

スズキ目 ヘビギンポ科 ヘビギンポ属

セグロヘビギンポ

Enneapterygius tutuilae
Jordan & Seale, 1906

形態 背鰭 III-XI-XIII-8-10；臀鰭 I, 15-19；胸鰭 13-15；腹鰭 I, 2；側線鱗 9-13 + 20-24；尾柄周鱗 8。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は鱗に被われない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝しない。両眼の上縁中央に皮弁があり、葉状で先端は分枝しない。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠刻鱗からなる。

■セグロヘビギンポ *Enneapterygius tutuilae* Male KAUM-I. 50831, 17.4 mm SL

色彩 成熟した雌雄で色彩が異なる。雄の頭部から腹部にかけては、赤色点が密在し、鰓蓋部には黒色点が散在する。体側は黄緑色または褐色で白色斑が第2背鰭

後方と尾柄部にはいる。第1背鰭鰭膜は暗緑色または黄緑色で、第2、第3背鰭鰭膜は透明。第1背鰭後方と第2背鰭前方には不規則な赤色斑がはいり、第2背

鰭中央には大きな黒色斑がある。腹鰭の基部側1/2は黒色。臀鰭は7-8本の黒色斜帯がはいる。雌は全体の地色が白色で、黄緑色または橙色の不規則な模様がはいる。第1背鰭鰭膜は橙色。雌は第2背鰭鰭膜に黒色斑をもたない。そのほかの鰭膜は透明。腹鰭は白色。臀鰭には7本の細い黒色斜帯がはいる。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本調査では水深20 m以浅のサンゴ礁・岩礁域でみられた。本種は小型のヘビギンポ属魚類で、全長30 mm前後。日本でみられる同属他種とは胸鰭が分枝しない、胸鰭鰭条数が12-16（通常14）であること、有孔側線鱗数が9-13、下顎感覚孔配置が2+2+2であることから識別される。

体色は変化しやすく、周辺環境により緑色、赤色、灰色などそれぞれの色が強い個体がみられ、変異に富む。

(目黒昌利)



■ セグロヘビギンポ *Enneapterygius tutuilae* Female KAUM-I. 47862, 17.2 mm SL



■ セグロヘビギンポ *Enneapterygius tutuilae* Female KPM-NI 30759, 17.4 mm SL



■ セダカヘビギンポ *Enneapterygius unimaculatus* Male KAUM-I. 40405, 31.5 mm SL

スズキ目 ヘビギンポ科 ヘビギンポ属

セダカヘビギンポ

Enneapterygius unimaculatus
Fricke, 1994

形態 背鰭 III-XII-XIII-9-10；臀鰭 I, 17-18；胸鰭 ii-iv + 5-7 + vii-viii (15-16)；腹鰭 I, 2；側線鱗 14-17 + 17-20（稀に16）；尾柄周鱗 12。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は鱗に被われない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝しない。両眼の上縁中央に皮弁があり、や

や長く剣状で先端は分枝しない。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠刻鱗からなる。

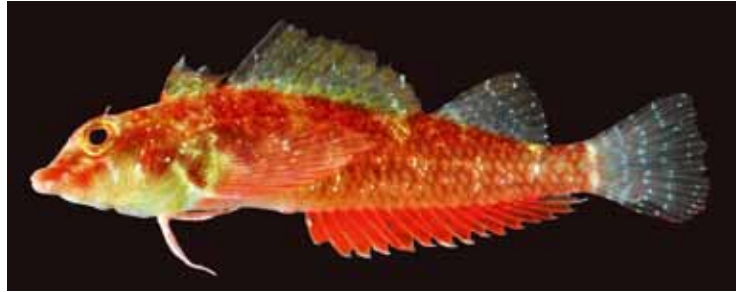
色彩 成熟した雄は婚姻色を呈し、通常とは色彩が異なる。婚姻色の雄の体色は赤みのある橙色で鱗に沿って褐色点が密集しており、体に4-5本の褐色横帯を形成する。頭部には黒色域があり、両顎後端から前鰓蓋骨、鰓蓋骨下部にかけてと胸鰭基部から腹鰭基部にかけて黒色で、両顎に黒色部位はない。吻端から眼前縁に黒色線がはいる。体、第3背鰭には白色点が散在する。背鰭、尾鰭、臀鰭、尾鰭鰭条は白色と褐色の縞模様。胸鰭、腹鰭は淡い赤みを帯びた橙色で鰭膜は透明。第1・第2背鰭

鰭膜は緑黄色。第3背鰭鰭膜は透明でそれぞれの鰭に褐色点が散在する。臀鰭鰭条・鰭膜は赤みを帯びた橙色で各鰭条先端は白色、鰭膜には黒色素が密在する。雌の体色は地色が淡い緑黄色で、鱗の縁辺に沿って褐色点が密集し、体に4-5本の褐色横帯を形成する。頭部上部は褐色、両顎後端から前鰓蓋骨、際涯骨下部にかけてと胸鰭基部から腹鰭基部にかけては淡い緑黄色、吻端から眼前縁に褐色線がはいる。体、背鰭には白色点が散在する。背鰭、尾鰭、臀鰭、尾鰭鰭条は白色と赤褐色の縞模様で、鰭膜は透明。臀鰭鰭膜のみ褐色点が散在する。胸鰭は淡い赤みを帯びた橙色で鰭膜は透明。腹鰭は白色。

分布 西太平洋に分布する。国内では奄美大島以南の琉球列島から知られる。

備考 本調査では水深 10 m 以浅のサンゴ礁・岩礁域でみられた。日本でみられる同属他種とは有孔側線鱗数が 14-17、欠缺側線鱗数が 17-20、下顎感覚孔配置が通常 3 + 1 + 3。両眼の上縁中央の皮弁がやや長く、剣状で先端は分枝しない。尾鰭鰭条は白色と赤褐色の縞模様であることなどから識別される。

(目黒昌利)



■ セダカヘビギンポ *Enneapterygius unimaculatus* Male KAUM-I. 40405, 31.5 mm SL



ススキ目 ヘビギンポ科 ヘビギンポ属

ヘビギンポ属の一種 1

Enneapterygius sp. 1

形態 背鰭 III-XII-XIII-10-11；臀鰭 I, 18-19；胸鰭 iii-iv + 4-6 + vi-viii (15-16)；腹鰭 I, 2；側線鱗 15-18 + 18-22；尾柄周鱗 8-12。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は鱗に被われない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝しない。両眼の上縁中央に皮弁があり、剣状で先端は分枝しない。側線は 2 列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠缺鱗からなる。

色彩 成熟した雄は婚姻色を呈し、通常とは色彩が異なる。婚姻色の雄は体色の地色は透明感のある乳白色。頭部の眼中央より下部から胸鰭基部、腹部にかけて黒色で、頭頂部は黒褐色斑点が散在する。体上部には褐色斑が並び、体中央下部にも黒色素を含む 10 褐色斑が並ぶ。臀鰭基部皮下には 7-8 褐色斑がある。各鰭鰭膜は透明。第 1 背鰭は褐色・黄色点散在し、鰭膜後方上部は黒色。第 2 背鰭は鰭膜基部および縁辺に黒色素が密在す



■ ヘビギンポ属の一種 1 *Enneapterygius* sp. 1 Male KAUM-I. 51389, 20.2 mm SL



■ ヘビギンポ属の一種 1 *Enneapterygius* sp. 1 Female KAUM-I. 51589, 20.9 mm SL

る。雌の体色は雄とほぼ同様で、頭部下
部は黄色で、吻端から眼前縁にかけて褐色
線がはいり、頭頂部は黒褐色斑点が散
在する。胸鰭基部には2褐色斑がはいる。
背鰭の黒色色素は雄より密度がない。

分布 国内では大隅諸島と琉球列島から知
られる。

備考 本調査では水深2-20 m のサンゴ
礁・岩礁域から採集された。本種は形態

的に *E. nanus* (Schultz, 1960) に似るが、
E. nanus のホロタイプとは有孔・欠刻側線
鱗などに違いがみられる。現在分類学的
研究がすすめられている。

(目黒昌利)



■ ヘビギンポ属の一種 2 *Enneapterygius* sp. 2 Male KAUM-I. 51390, 23.9 mm SL



■ ヘビギンポ属の一種 2 *Enneapterygius* sp. 2 Female KAUM-I. 40407, 21.8 mm SL

スズキ目 ヘビギンポ科 ヘビギンポ属

ヘビギンポ属の一種 2

Enneapterygius sp. 2

形態 背鰭 III-XI-XIII-9-10；臀鰭 I, 16-
18；胸鰭 ii-iv + 5-7 + vi-viii (15-16)；腹
鰭 I, 2；側線鱗 16-18 + 18-21；尾柄周
鱗 12。体は細長く、後部に向かうにしたが
い側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域
周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われて
いる。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は
鱗に被われない。前鼻孔は管状で、先端
は皮弁になっており、分枝しない。両眼の
上縁中央に皮弁があり、剣状で先端は分
枝しない。側線は2列あり、前方の鱗列
は有孔鱗から、後方は欠刻鱗からなる。

色彩 成熟した雄は婚姻色を呈し、通常と
は色彩が異なる。婚姻色の雄は体色の地
色は赤色。頭部の眼中央より下部から胸
鰭基部にかけて黒色。体には明瞭な褐色
横帯がある。第1背鰭は褐色で、第3棘
後方に1黒色斑がある。第2鰭鰭膜は透
明で、鰭膜基部および縁辺に黒色色素が
密在する。第3背鰭は透明。胸鰭、腹鰭
および臀鰭は赤色。臀鰭軟条に沿って黒
色斑がある。尾鰭は透明。雌の体色は、
頭部下は白色で、吻端から眼前縁にか
けて褐色線がはいる。胸鰭基部には2白
色線がはいる。体には明瞭な褐色横帯が
あり、体中央には白色点が並ぶ。第1背
鰭は褐色で、第3棘後方に1黒色斑がある。
第2鰭鰭膜は透明で、鰭膜基部および縁
辺に黒色色素が密在する。第3背鰭は透
明。胸鰭および臀鰭は赤色。臀鰭軟条に

沿って黒色斑がある。腹鰭歯白色で尾鰭
は透明。

分布 国内では千葉県以南の太平洋岸、
九州西岸、大隅諸島、琉球列島から知ら
れる。

備考 本調査では水深2-10 m のサンゴ
礁・岩礁域から採集された。本種は形態
的にハワイ諸島に生息する *E. atriceps*
(Jenkins, 1903) によく似るが、鼻管皮弁
形状、臀鰭軟条数などに違いがみられる。
現在分類学的研究がすすめられている。

(目黒昌利)

■ヘビギンポ属の一種 3 *Enneapterygius* sp. 3 KAUM-I. 47825, 20.6 mm SL

スズキ目 ヘビギンポ科 ヘビギンポ属

ヘビギンポ属の一種 3

Enneapterygius sp. 3

形態 背鰭 III-XII-XII-9-10；臀鰭 I, 18-19；胸鰭 ii-iv + 5-7 + vii-viii (15-16)；腹鰭 I, 2；側線鱗 17-19 + 16-18；尾柄周鱗 12。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は腹部の無鱗域周縁付近の円鱗を除き、櫛鱗で被われている。頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部

は鱗に被われない。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝しない。両眼の上縁中央に皮弁があり、短い毛状で先端は分枝しない。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗から、後方は欠刻鱗からなる。

色彩 頭部は白色、体は黄色みを帯びた白色。吻端から眼前縁、下顎から眼下縁にかけて褐色線がはしる。胸鰭基部には2褐色線がはいる。体には褐色横帯があり、尾柄部を除く横帯の形は逆凹状。各背鰭鰭膜は透明で、鰭条は褐色。臀鰭には褐

色横帯が入る。尾鰭は透明で、中央部に幅の広い褐色横帯をもつ。

分布 国内では与論島以南の琉球列島から知られる。

備考 本調査では水深2-10 mのサンゴ礁・岩礁域から採集された。本種は形態的に西太平洋に分布する *E. fuscoventer* Fricke, 1997 によく似る。現在分類学的研究がすすめられている。

(目黒昌利)

■クロマスク *Helcogramma fuscipectoris* Male KAUM-I. 39909, 23.8 mm SL

スズキ目 ヘビギンポ科 クロマスク属

クロマスク

Helcogramma fuscipectoris (Fowler, 1946)

形態 背鰭 III-XIII-XV-9-10；臀鰭 I, 19-20；胸鰭 i-ii + 7-8 + vii-viii；有孔側線鱗 19-24。体は細長く、後部に向かうに従い側扁する。下顎中央の感覚孔開孔数は1。短い眼上皮弁をもつ。前鼻管の皮弁はへら状で先端は軽く2分枝する。吻は短く、頭

部輪郭は丸みをおびる。体は腹部周縁の円鱗を除き、櫛鱗で被われる。頭部、胸鰭基部、腹部、および第1背鰭前方は無鱗。側線鱗列は1列で、有孔鱗のみ。

色彩 雄は婚姻色を呈し、興奮時および繁殖行動時は通常時と色彩が異なる。婚姻色の雄は頭部下部から胸鰭基部にかけて黒色。体は橙色。上顎後端から前鰓蓋に達する青色線がある。雌および通常時の雄の体色は全体的に半透明で黄色がかり、不明瞭な褐色横帯が斜走する。上唇先端

から眼下方前縁にかけて暗褐色線が走る。頬部は赤色。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、高知県、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本種は水深2 m以浅の潮通しの良い岩礁上を好む。

(田代郷国)



■ クロマスク *Helcogramma fuscipectoris* Female KAUM-I. 39910, 20.3 mm SL



■ アヤヘビギンボ *Helcogramma inclinata* Male KAUM-I. 51588, 23.6 mm SL



■ アヤヘビギンボ *Helcogramma inclinata* Male KAUM-I. 51399, 34.1 mm SL



■ アヤヘビギンポ *Helcogramma inclinata* Male KAUM-I. 50848, 26.7 mm SL

スズキ目ヘビギンポ科 クロマスク属

アヤヘビギンポ

Helcogramma inclinata
(Fowler, 1946)

形態 背鰭 III-XIII-XVI-9-12；臀鰭 I, 20-22；胸鰭 i-ii + 7-9 + vii-viii；有孔側線鱗 26-35。体は細長く、後部に向かうに従い側扁する。下顎中央の感覚孔開孔数は5-10。短い眼上皮弁をもつ。前鼻管の皮弁はへら状で先端は単一形。体は腹部周縁の円鱗を除き、櫛鱗で被われる。頭部、胸鰭基部、および腹部は無鱗。第1背鰭前方に1-2鱗列を有する。側線鱗列は1列で、有孔鱗のみ。成熟した雄は雌に比べ、第1背鰭第1棘が伸長する。

色彩 雄は婚姻色を呈し、興奮時および繁殖行動時は通常時と色彩が異なる。婚姻色の雄は体全体が黒色になり、上唇前方から眼下縁を通り前鰓蓋に達する青色の縦線を有する。頭部の青色線より上部から後部にかけて赤色で、体幹部と鱗全域は黒色。雌および通常時の雄の体地色は乳白色で、体側には7本の褐色横帯が斜走する。上唇先端から眼下方前縁にかけて暗褐色線がはいる。

分布 日本からフィリピンにかけて分布する。国内では大隅諸島と琉球列島から知られる。

備考 アヤヘビギンポは上唇前方から眼下縁を通り前鰓蓋に達する青色線をもつことで *H. fuscipinna* 類似種群に属する。本類似種群はインド洋・西太平洋から11種が知られており、アヤヘビギンポは第2背鰭棘数が通常15、下顎中央の感覚管開孔数が5-10、第1背鰭基底前方に鱗域をもつことで、同類似種群の他種と識別される。
(田代郷国)



■ アヤヘビギンポ *Helcogramma inclinata* Female KAUM-I. 58367, 30.9 mm SL



■ アヤヘビギンポ *Helcogramma inclinata* Male KAUM-I. 51586, 39.0 mm SL



■ アヤヘビギンポ *Helcogramma inclinata* Male KAUM-I. 51241, 37.6 mm SL



■ テングヘビギンボ *Helcogramma rhinoceros* Male KAUM-I. 51381, 27.2 mm SL

スズキ目 ヘビギンポ科 クロマスク属

テングヘビギンポ

Helcogramma rhinoceros
Hansen, 1986

形態 背鰭 III-XIV-XV-10-12；臀鰭 I, 19-21；胸鰭 ii + 7 + vii；有孔側線鱗 21-24。体は細長く、後部に向かうに従い側扁する。下顎中央の感覚孔開孔数は1。短い眼上皮弁をもつ。前鼻管の皮弁はへら状で先端は単一形。体は腹部周囲の円鱗

を除き、櫛鱗で被われる。頭部、胸鰭基部、腹部、および第1背鰭基底前方は無鱗。側線鱗列は1列で、有孔鱗のみ。雄は上唇前縁に側扁した大きな皮質突起をもつ(雌はもたない)。成熟した雄は雌に比べ、第1背鰭第1棘が伸長する。

色彩 雄は婚姻色を呈し、興奮時および繁殖行動時は通常時と色彩が異なる。成熟した雄は皮質突起を含む頭部下から胸鰭基部にかけて、胸鰭の下部が黒色。体側は橙色。第2、3背鰭縁辺の鰭膜は透

明で細かい黒色点が密に分布する。雌および通常時の雄の体色は半透明。体側中央には赤褐色斑と黄色斑が縦列する。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では大隅諸島と琉球列島から知られる。

備考 本種の雄は上顎先端から伸びる特徴的な皮質突起をもつ。水深5-8 mの潮通しの良い岩礁に生息する。

(田代郷国)



■ コクテンニセヘビギンボ *Norfolkia brachylepis* KPM-NI 30766, 29.6 mm SL

スズキ目 ヘビギンポ科 ニセヘビギンポ属

コクテンニセヘビギンポ

Norfolkia brachylepis
(Schultz, 1960)

形態 背鰭 IV-XII-XIII-9；臀鰭 II, 17-20；胸鰭 i-iv + 5-7 + vi-vii；腹鰭 I, 2；側線鱗 15-18 + 19-20。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は櫛鱗で被われており、頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は円鱗。前鼻孔は管状で、

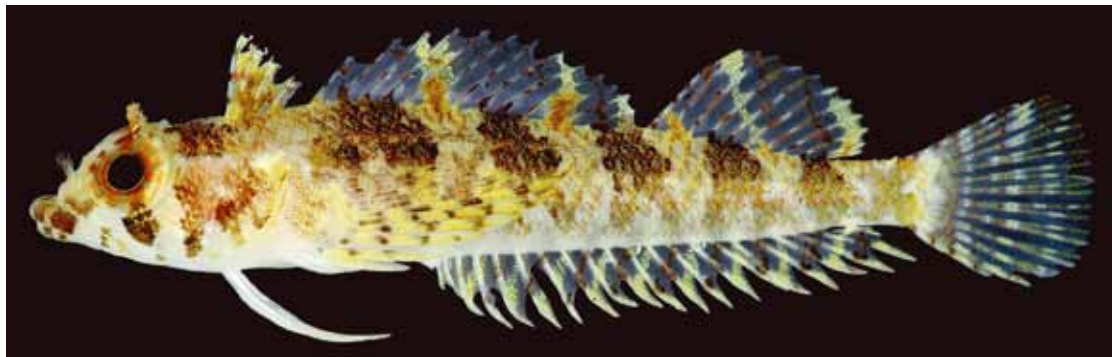
先端は皮弁になっており、分枝する。両眼の上縁中央に皮弁があり、葉状で幅広く先端は3-6分枝する。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗、後方は欠刻鱗からなる。

色彩 体色は変異に富む。体全体が黄褐色で、体側上部に6本の褐色横帯がはいる。頭部には胸鰭軟条には黒褐色点が散在する。背鰭には不規則な褐色の模様がはいる。胸鰭軟条には黒褐色点が散在する。臀鰭には8本の黒色斜帯がはいる。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 日本産同属他種はニセヘビギンポ *N. thomasi* Whitley, 1964 のみ。コクテンニセヘビギンポは有孔側線鱗数が15-18、眼上皮弁が分枝することからニセヘビギンポと識別される。本調査では水深15 m以下の岩礁域から採集された。

(目黒昌利・田代郷国)



■ コクテンニセヘビギンポ *Norfolkia brachylepis* KAUM-I. 51565, 34.3 mm SL

スズキ目 ヘビギンポ科 ニセヘビギンポ属

ニセヘビギンポ

Norfolkia thomasi
Whitley, 1964

形態 背鰭 IV-XIII-XIV-7-10；臀鰭 II, 17-22；胸鰭 ii-iii + 6-7 + vi-viii；腹鰭 I, 2；側線鱗 10-15 + 23-28。体は細長く、後部に向かうにしたがい側扁する。体の大部分は櫛鱗で被われており、頭部・鰓蓋部・胸鰭基部と腹部は円鱗に被われる。前鼻孔は管状で、先端は皮弁になっており、分枝しない。両眼の上縁中央に皮弁があり、幅広く葉状で先端は分枝しない。側線は2列あり、前方の側線鱗列は有孔鱗、後方は欠刻鱗からなる。

色彩 体色は変異に富む。体全体が赤褐色で、体側上部に6本の褐色横帯はいる。頭部には眼から上顎前方と上顎後端



■ ニセヘビギンポ *Norfolkia thomasi* KAUM-I. 55191, 32.8 mm SL

にかけて褐色帯はいる。背鰭には不規則な褐色の模様はいる。臀鰭に多数の黒色斜帯はいる。

分布 ハワイ諸島を除く太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 ニセヘビギンポはコクテンニセヘビギンポ *N. brachylepis* (Schultz, 1960) と比較して、有孔側線鱗数が10-15、眼上皮弁が分枝しないことから識別される。

(目黒昌利・田代郷国)

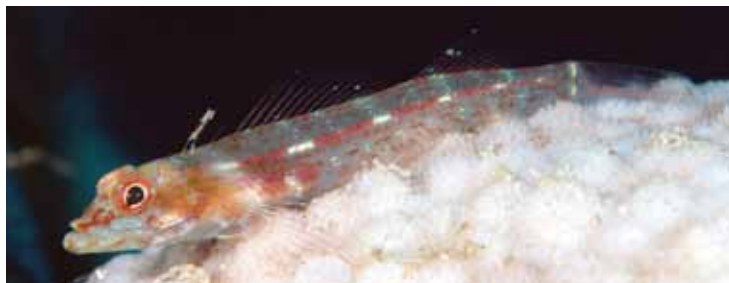
スズキ目 ヘビギンポ科 カスリヘビギンポ属

カスリヘビギンポ

Ucla xenogrammus
Holleman, 1993

形態 背鰭 III-XIII-XIV-11-13；臀鰭 I, 20-22；胸鰭 v + 4 + vi；腹鰭 I, 2；側線鱗 38-40。体は細長く、後部に向かうに従い側扁する。下顎は上顎より突出する。下顎中央の感覚孔開孔数は2。眼上皮弁をもたない。前鼻孔は管状で、先端に短い皮弁をもつ。第1背鰭前方は無鱗。側線は1列。

色彩 頭部・体は半透明。頭部は不明瞭な黄色斑と赤褐色斑が散在する。上唇先端から眼下方前縁にかけて赤褐色線が走る。体側は不明瞭な赤褐色のまだら模様で覆われる。背鰭と体側に斜走する淡い白色



■ カスリヘビギンポ *Ucla xenogrammus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

横帯が約10本はあり、縞模様を呈する。興奮時のオスは体全体が濃い赤褐色になり、縞模様がより鮮明になる。第2、3背鰭の縁辺は黒化する。

分布 東インド洋と西太平洋の熱帯・亜熱

帯域に広く分布する。国内では大隅諸島と琉球列島から知られる。

備考 本種は突出した下顎をもつことで同科他種と容易に識別される。

(田代郷国)



■ タマカエルウオ *Alticus saliens* Male KAUM-I. 41070, 65.8 mm SL



■ タマカエルウオ *Alticus saliens* Male KAUM-I. 41071, 59.0 mm SL



■ タマカエルウオ *Alticus saliens* Female KAUM-I. 41096, 74.3 mm SL



■ タマカエルウオ *Alticus saliens* Female KAUM-I. 46001, 67.1 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 タマカエルウオ属

タマカエルウオ

Alticus saliens
(Forster, 1788)

形態 背鰭 XIV, 21–23 ; 臀鰭 II, 25–27 ; 胸鰭 15 ; 腹鰭 I, 4。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。尾鰭

軟条は分枝しない。背鰭棘条部と軟条部の間は浅く欠刻する。眼上皮弁をもつ。雄は正中線皮弁をもつが、雌にはない。下唇に吸盤がない。

色彩 体側は褐色で、腹部は白色。頭部に小暗色斑が散在する。体側に白色横帯が不規則に入る。

分布 インド・太平洋の熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、琉球列島に分布する。

備考 日本産本属魚類はタマカエルウオのみ。本種は岩礁性海岸の飛沫帯に生息し、水中に入るとはほとんどない。同様の生態をもつヨダレカケ属とは下唇に吸盤がない(ヨダレカケ属にはある)ことで識別される。

(木村祐貴)



■ヨダレカケ *Andamia tetractyla* KAUM-I. 41160, 79.6 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 ヨダレカケ属

ヨダレカケ

Andamia tetractyla
(Bleeker, 1858)

形態 背鰭 XV-XVII, 17-21; 臀鰭 II, 24-25; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 4。体はやや細長く円筒型で、頭部はやや縦扁し、後部に向かうにつれ側扁する。背鰭棘条部と軟条部、および尾鰭軟条は伸長し、雄の背鰭第2

棘は著しく伸長する。眼上皮弁をもつ。下唇に吸盤がある。

色彩 体側は褐色で、腹部は白色。頭部に小黑斑が散在する。体背部には黄色もしくは白色の小斑点が散在する。

分布 日本、台湾、インドネシアに分布する。国内では大隅諸島と琉球列島に生息する。

備考 国内における本属魚類は本種の他

にカムリヨダレカケ *A. reyi* (Sauvage, 1880) が知られているが、ヨダレカケは体背部に黄色もしくは白色の小斑点があること(カムリヨダレカケはないか、あっても少ない)、雄の頭部に正中線皮弁がない(ある)ことから識別される。岩礫性海岸や消波ブロックの飛沫帯に生息する。皮膚の乾燥を防ぐために、時々体を回転させて湿らせる。水上で産卵することが知られている。(木村祐貴)



■クロスジギンポ *Aspidontus dussumieri* KAUM-I. 40398, 53.3 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 クロスジギンポ属

クロスジギンポ

Aspidontus dussumieri
(Valenciennes, 1836)

形態 背鰭 IX-XI, 29-34; 臀鰭 II, 25-30; 胸鰭 13-15; 腹鰭 I, 3。体は細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。背鰭起部は眼の後縁より後ろ。口は下位で腹面に開く。体に側線がある。尾鰭上端、下端および中央部は伸長する。

色彩 体側は淡い茶色。体側中央に暗色縦帯と白色縦帯がある。暗色縦帯は後方に至るまで幅がほぼ一定で、尾鰭後端付近に達しない。背鰭、尾鰭および臀鰭は黄色。

分布 インド・太平洋の熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、山口県日本海沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる同属他種とは体側

の暗色横帯が後方まで幅が一定で、尾鰭後端付近に達しないことで識別される。本属魚類はクリーナーフィッシュであるホンソメフケベラ *Labroides dimidiatus* (Valenciennes, 1839) に擬態し、魚に近づいて鱗をかじり取って食べる。ホンソメフケベラとは口が下位にあることで識別できる。本調査では水深 10 m までのサンゴ礁域でみられた。(木村祐貴)

スズキ目 イソギンポ科 インドカエルウオ属

インドカエルウオ

Atrosalarias holomelas
(Günther, 1872)

形態 背鰭 IX-X, 19-21; 臀鰭 II, 18-20; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 2。体は体高が高く、側扁する。鰓孔は大きい。背鰭は高く大きく、中央部に欠刻がない。細い眼上皮弁をもつ。尾鰭軟条はすべて分枝しない。

色彩 体色は褐色。背鰭縁辺が朱色で縁取られる。成魚では胸鰭基部に黒色斑がある。幼魚は全身が黄色の個体が時折みられる。



■ インドカエルウオ *Atrasalarias holomelas* KAUM-I. 48005, 23.9 mm SL

分布 西太平洋の熱帯域。国内では琉球列島に分布する。

備考 国内では本属魚類は本種以外にホソ

カワインドカエルウオ *A. hosokawai* Suzuki & Senou, 1999 がみられるが、眼上皮弁が細いこと、背鰭後端が尾鰭と根元付近のみが鰭膜でつながること、成魚でも尾鰭

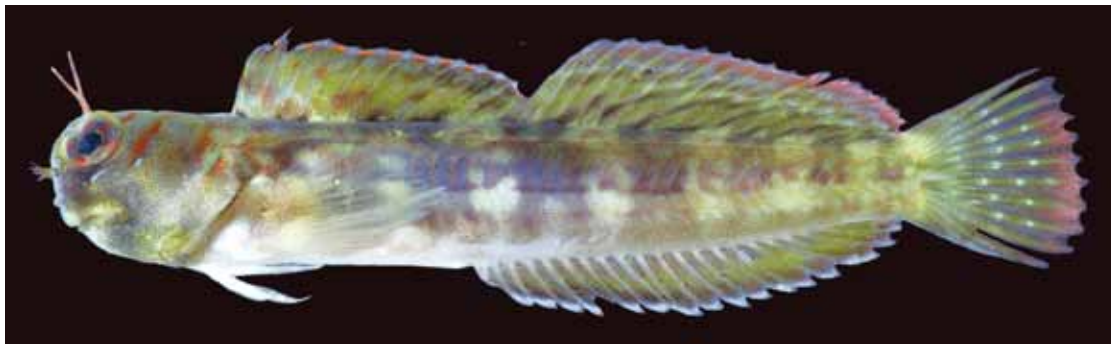
軟条がすべて分枝しないことで識別される。10 m 以浅のサンゴ礁域に多く生息し、サンゴの枝間を生活の場として利用している。(木村祐貴)



■ ホホグロギンボ *Blenniella biltonensis* Male KAUM-I. 40050, 63.3 mm SL



■ ホホグロギンボ *Blenniella biltonensis* Female KAUM-I. 40049, 42.0 mm SL



■ ホホグロギンポ *Blenniella bilitonensis* Male KAUM-I. 51359, 28.4 mm SL

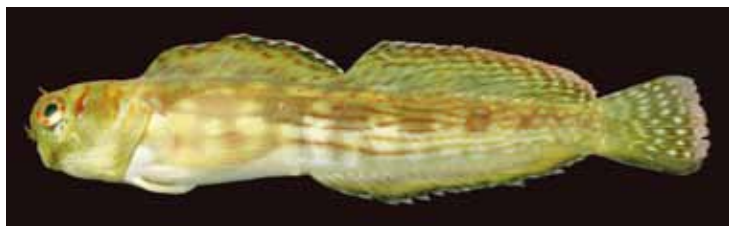
スズキ目 イソギンポ科 ハナカルウオ属

ホホグロギンポ

Blenniella bilitonensis
(Bleeker, 1858)

形態 背鰭 XIII–XIV, 19–22; 臀鰭 II, 20–22; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。項部皮弁がない。上唇の下縁は円滑。側線の開孔はまばらで1列に並ぶ。背鰭棘条部と軟条部の間は欠刻する。雄は正中線皮弁をもつ。

色彩 体側は白色。雄は体側に多くの褐色縦線があり、その後端は背鰭の欠刻をはるかに越える。雄の背鰭軟条部に多くの細



■ ホホグロギンポ *Blenniella bilitonensis* Male KAUM-I. 46003, 36.4 mm SL

い暗色斜線がある。雌は体側に褐色または暗色縦線がない。

分布 西太平洋の熱帯域に分布し、国内では和歌山県、高知県、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種はサンゴ礁域の岩礁性海岸に生息し、特にタイドプールで多くみられる。本調査でも水深1 m以浅の場所で採集された。鰓蓋が黒くなることが「ホホグロ」の由来である。

(木村祐貴)



■ モンツキカエルウオ *Blenniella chrysospilos* KAUM-I. 40388, 68.6 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 ハナカルウオ属

モンツキカエルウオ

Blenniella chrysospilos
(Bleeker, 1857)

形態 背鰭 XIII, 19–21; 臀鰭 II, 20–23; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。眼上

皮弁は3分枝する。背鰭棘条部と軟条部の間は浅く欠刻する。

色彩 体側は白色がかった淡い茶色。腹部は白色。全身に赤色の小斑点が散在する。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋の熱帯域。国内では大隅諸島と琉球列島に分

布する。

備考 サンゴ礁域に生息し、サンゴなどにあいた穴に住む。頭部のみを出し、驚くと穴の中へ逃げ込んでしまう。同属他種とは全身に赤色の小斑点が散在することから容易に識別される。観賞魚として人気が高い。本調査では水深10 mまでのやや浅い所でみられた。

(木村祐貴)



■ タテガミカエルウオ *Cirripectes castaneus* Male KAUM-I. 40379, 41.9 mm SL



■ タテガミカエルウオ *Cirripectes castaneus* Female KAUM-I. 45899, 53.4 mm SL



■ タテガミカエルウオ *Cirripectes castaneus* Male KAUM-I. 39965, 31.1 mm SL



■ タテガミカエルウオ *Cirripectes castaneus* Female KAUM-I. 39946, 36.9 mm SL



■ タテガミカエルウオ *Cirripectes castaneus* Male KAUM-I. 41214, 26.1 mm SL



■ タテガミカエルウオ *Cirripectes castaneus* Female KAUM-I. 41089, 32.0 mm SL



■ タテガミカエルウオ *Cirripectes castaneus* Male KAUM-I. 40399, 23.6 mm SL



■ タテガミカエルウオ *Cirripectes castaneus* Female 16 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki

スズキ目 イソギンポ科 タテガミカエルウオ属

タテガミカエルウオ

Cirripectes castaneus
(Günther, 1861)

形態 背鰭 XII, 14; 臀鰭 II, 15-16; 胸鰭 14-15; 腹鰭 I, 4。体は体高が高く、側扁する。背鰭の棘条部と軟条部の間は欠刻しない。項部皮弁は上半部と下半部が連続しない。項部皮弁の下半部は基部がうすい。前鰓蓋管の開孔部は単純。

色彩 体色は褐色。雄は頭部から体側中央部にかけて赤橙色の横線がはいる。雌は全身に赤橙色の網目模様がある。

分布 インド・西太平洋の熱帯域に分布す



■ タテガミカエルウオ *Cirripectes castaneus* Male 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

る。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県、高知県、大隅諸島、琉球列島から記録されている。

備考 本種は波当たりの良い岩礁性海岸に

生息する。同属他種とは項部皮弁の上半部と下半部が連続しないこと、項部皮弁の下半部は基部がうすいこと、眼下部に紅色斑がないことから識別される。本調査では水深 15 m 以浅の岩礁域でみられた。

(木村祐貴)



■ アミメノカエルウオ *Cirripectes imitator* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 イソギンポ科 タテガミカエルウオ属

アミメノカエルウオ

Cirripectes imitator
Williams, 1985

形態 背鰭 XII, 14; 臀鰭 II, 15; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 4。体は体高が高く、側扁する。背鰭の棘条部と軟条部の間は欠刻する。項部皮弁は上半部と下半部が連続しない。項部皮弁の下半部は基部が厚い。前鰓蓋管の開孔部は複雑。

色彩 体側は赤色がかった褐色、腹側は白色（全身褐色の個体もいる）。雄は頭部に橙色の網目模様があり、雌は体側中央部から尾柄部にかけて橙色の網目模様がある。背鰭および尾鰭は赤みを帯びる。

分布 インド・西太平洋の熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県、高知県、大隅諸島、琉球列島から記録されている。

備考 本種は波当たりの良い岩礁性海岸に生息する。同属他種とは項部皮弁の上半部と下半部が連続しないこと、項部皮弁の下半部は基部が厚いこと、眼下部に紅色斑がないこと、前鰓蓋管の開孔部が複雑なことから識別される。本調査では水深 15 m 以浅の岩礁域でみられた。

(木村祐貴)



■ アミメノカエルウオ *Cirripectes imitator* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ アミメノカエルウオ *Cirripectes imitator* KAUM-I. 41162, 46.4 mm SL



■ミノカエルウオ *Cirripectes polyzona* KAUM-I. 45911, 59.0 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 タテガミカエルウオ属

ミノカエルウオ

Cirripectes polyzona
(Bleeker, 1868)

形態 背鰭 XII, 14; 臀鰭 II, 15; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 3。体は体高が高く、側扁する。背鰭の棘条部と軟条部の間は浅く欠刻する。項部皮弁は上半部と下半部が連続しない。

色彩 うすい茶褐色や黄色がかかった褐色な

ど、個体差がある。体側に暗色横帯がある。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋の熱帯域に分布。国内では三重県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は波当たりの良い岩礁性海岸に生息する。同属他種とは項部皮弁の上半部と下半部が連続しないこと、腹鰭が1棘3軟条であることから識別される。本調査では水深5m以浅のサンゴ礁域でみられた。

(木村祐貴)



■ミノカエルウオ *Cirripectes polyzona*
17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■エリゴロギンポ *Crossosalarias macrospilus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 イソギンポ科 エリゴロギンポ属

エリゴロギンポ

Crossosalarias macrospilus
Smith-Vaniz & Springer, 1971

形態 背鰭 XII, 16-18; 臀鰭 II, 18-20; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。項部皮弁をもつ。背鰭起部に黒色皮弁をもつ。背鰭第3-10棘は伸長する。

色彩 体はややくすんだ白色。体側に小黒斑点が縦列する。腹鰭直前の鰓膜に左右1対の大きな黒斑がある。下顎下方は黄色。

分布 西太平洋の熱帯域。国内では琉球列島に分布する。



■ エリグロギンポ *Crossosalarias macrospilus* KAUM-I. 51388, 68.0 mm SL



■ エリグロギンポ *Crossosalarias macrospilus* KPM-NI 30764, 63.6 mm SL

備考 日本では本属魚類は本種のみ分布する。腹鰭直前の鰓膜にある黒斑が最大

の特徴であり、「エリグロ」の名前の由来となった。サンゴ礁域に生息し、礁縁部の水

深 15 m 以下でみられる。本調査では水深 10 m でみられた。

(木村祐貴)

スズキ目 イソギンポ科 ニラミギンポ属

フタイロカエルウオ

Ecsenius bicolor
(Day, 1888)

形態 背鰭 XII, 16-18; 臀鰭 II, 18-20; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔の前縁と後縁に皮弁がある。背鰭の棘条部と軟条部の間は大きく欠刻する。

色彩 体の前半部は暗色で、後半は淡色。背鰭前部に小黒斑が入る。臀鰭後部と尾鰭縁部は橙色。

分布 東インド・西太平洋の熱帯域に分布する。国内では大隅諸島と琉球列島に分布する。



■ フタイロカエルウオ *Ecsenius bicolor* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

備考 日本でみられる同属他種とは体色が体の前半、後半で大きく異なることから容易に識別される。浅いサンゴ礁の小さな崖

や岩の割れ目に多い。本調査では水深 10 m 以下でみられた。観賞魚としても人気。

(木村祐貴)



■ フタイロカエルウオ *Ecsenius bicolor* KPM-NI 30735, 33.2 mm SL



■ フタイロカエルウオ *Ecsenius bicolor* FRLM 43161, 50.8 mm SL



■ フタイロカエルウオ *Ecsenius bicolor* KAUM-I. 45758, 31.7 mm SL



■ フタイロカエルウオ *Ecsenius bicolor* KAUM-I. 41091, 36.4 mm SL



■ フタイロカエルウオ *Ecsenius bicolor* 16 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki

スズキ目 イソギンポ科 ニラミギンポ属

ヒトスジギンポ[♀]

Ecsenius lineatus
Klausewitz, 1962

形態 背鰭 XII, 17-18; 臀鰭 II, 19-20; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔の後縁のみ分枝しないやや長い皮弁をもつ。尾鰭分節軟条は分枝しない。側線は背鰭第10軟条直下まで達する。背鰭の棘条部と軟条部の間は大きく欠刻する。

色彩 体側は褐色で、腹部は白色。眼後縁から一本の黒色縦帯をもつ。黒色縦帯は個体により不連続で斑紋状になる場合がある。眼から黒色縦帯の上下に黄色縦帯がある。背鰭基部は褐色またはオレンジがかった褐色。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる同属他種とは背鰭の棘条部と軟条部間に大きな欠刻がある、前鼻孔の後縁のみに皮弁がある、背鰭軟条数が16-18、臀鰭軟条数が18-20、体側に明瞭な1本の黒色線または不連続な黒色斑をもつことから識別される。

(目黒昌利・木村祐貴)



■ ヒトスジギンポ *Ecsenius lineatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ゴイシギンポ *Ecsenius oculus* KAUM-I. 41107, 33.3 mm SL



■ ゴイシギンポ *Ecsenius oculus* KAUM-I. 39999, 33.3 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 ニラミギンポ属

ゴイシギンポ

Ecsenius oculus
Springer, 1971

形態 背鰭 XII, 12-15; 臀鰭 II, 15-17; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。眼は上顎先端より前位。前鼻孔の後縁にのみ分枝しない短い皮弁をもつ。尾鰭分節軟条は分枝しない。背鰭の棘条部と軟条部の間は大きく欠刻する。

色彩 体側は褐色で、腹部は白色。赤みを帯びる個体もいる。下顎から鰓蓋にかけて1本の暗色縦線がある。体側に2個1組の黒斑が数組並ぶ。

分布 日本、台湾、フィリピンに分布する。



■ ゴイシギンポ *Ecsenius oculus* KAUM-I. 39964, 19.3 mm SL

国内では大隅諸島と琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる同属他種とは背鰭の棘条部と軟条部の間に大きな欠刻がある、前鼻孔の後縁にのみ皮弁がある、背鰭軟条数が13-15、臀鰭軟条数が15-17、体

側に2個1組の黒斑が数組並ぶことから識別される。

サンゴ礁域に生息し、礁池や礁縁などの浅所にみられる。本調査では水深10mに浅でみられた。

(木村祐貴)

スズキ目 イソギンポ科 ニラミギンポ属

イシガキカエルウオ

Ecsenius yaeyamaensis
(Aoyagi, 1954)

形態 背鰭 XII, 13-15; 臀鰭 II, 15-17; 胸鰭 13; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。眼は上顎先端より前位。前鼻孔の後縁にのみ分枝しない短い皮弁をもつ。尾鰭分節軟条

は分枝しない。側線は背鰭第10-12軟条直下まで達する。背鰭の棘条部と軟条部の間は大きく欠刻する。

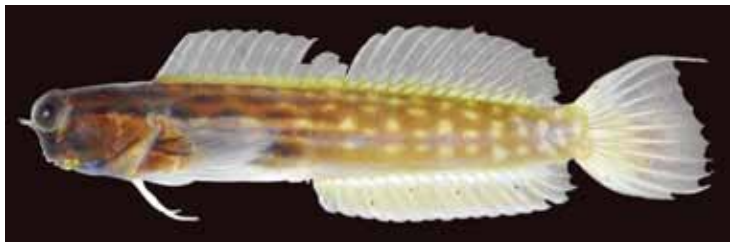
色彩 体側は褐色のものから黄褐色のもの

まで個体によって変異がみられる。腹部は白色。眼後部から体側まで黒色斑が線状に並ぶ。体側部の線状の黒色斑の上下に黒色斑がある個体みられる。体側後半部には白色斑が散在する。胸鰭基部からY字型の暗色縦帯が走る。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる同属他種とは背鰭の棘条部と軟条部の間に大きな欠刻がある、前鼻孔の後縁のみに皮弁がある、背鰭軟条数が13-15、臀鰭軟条数が15-17、胸鰭基部からY字型の暗色縦帯がはいることから識別される。本調査では水深10 mまでのサンゴ礁域で多くみられた。

(目黒昌利・木村祐貴)



■ イシガキカエルウオ *Ecsenius yaeyamaensis* KAUM-I. 41179, 44.4 mm SL



■ イシガキカエルウオ *Ecsenius yaeyamaensis* KAUM-I. 41166, 39.8 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 スジギンポ属

キカイカエルウオ

Entomacrodus decussatus
(Bleeker, 1858)

形態 背鰭 XIII, 17-18; 臀鰭 II, 18-19; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 4。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。前部側線上に鱗状の突起がない。項部に分枝しない1対の皮弁をもつ。上唇の下縁全体にひだ状の突起をもつ。

色彩 体側は暗褐色で、腹部は白色。体側に不規則な多くの暗色縦線と、多くの長円形の淡色斑がある。胸鰭基部に長方形



■ キカイカエルウオ *Blenniella periophthalma* KAUM-I. 40009, 22.4 mm SL

斑がある。頭部腹面には顕著な斑紋がない。各鰭に小黑斑点がある。

分布 西太平洋の熱帯域に分布する。国内では琉球列島から知られている。

備考 国内でみられる同属他種とは頭部腹面には顕著な斑紋がないこと、体側に不規則な多くの暗色縦線と、多くの長円形の淡色斑があることで識別される。波の荒い岩礁性海岸やタイドプールに生息する。

(木村祐貴)



■ スジギンポ *Entomacrodus striatus* KAUM-I. 40032, 69.5 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 スジギンポ属

スジギンポ

Entomacrodus striatus
(Valenciennes, 1836)

形態 背鰭 XIII, 15-16; 臀鰭 II, 16-17; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 4。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。前鼻孔皮弁、眼上皮弁はともに分枝している。項部に分枝

しない1対の皮弁をもつ。上唇の下縁全体にひだ状の突起をもつ。

色彩 体側上部は黄褐色で、体側下部は灰色。体側に黒色斑の集団がある。背鰭と尾鰭の鰭条部には褐色点が散在する。頭部腹面には顕著な斑紋がある。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉

球列島に分布する。

備考 日本でみられる同属他種とは上唇の下縁全体にひだ状の突起をもつ、背鰭軟条数が15-16、臀鰭軟条数が16-17、頭部腹面には顕著な斑紋がある、体側には明瞭な黒色斑の集団があることから識別される。本調査では波当たりの良い1mで浅の潮間帯岩礁域でみられた。

(目黒昌利・木村祐貴)



■ セダカギンポ *Exallias brevis* KAUM-I. 39941, 34.4 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 セダカギンポ属

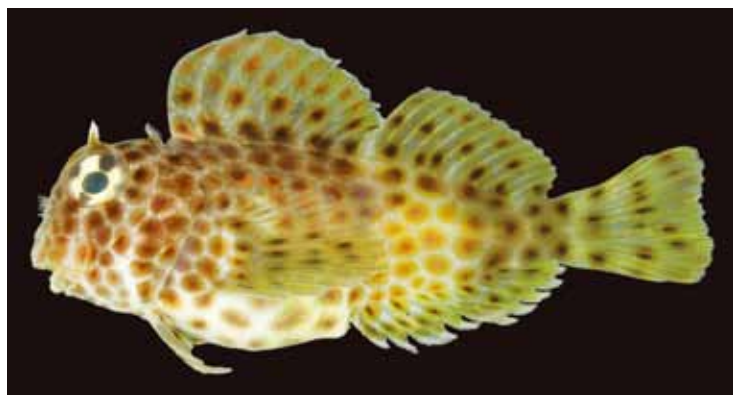
セダカギンポ

Exallias brevis
(Kner, 1868)

形態 背鰭 XII, 12-13; 臀鰭 II, 13-14; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 4。体は体高が高く、よく側扁する。背鰭はやや長く、深い欠刻がある。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。前鼻孔・眼上皮弁は分枝する。項部には基底の長い皮弁をもつ。頭に1対の皮弁がある。

色彩 幼魚と成魚では色彩が異なる。幼魚の体側は白色で、中心に黒色点のある褐色斑が頭部・体側に密にはいり、各鰭には散在する。成魚の体側は黄みがかった白色で、褐色点が頭部・体側に密にはいり、各鰭に散在する。

分布 インド・太平洋に広く分布する。国内からは伊豆諸島、小笠原諸島、紀伊半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。



■ セダカギンポ *Exallias brevis* KAUM-I. 39943, 28.5 mm SL

備考 本属魚類はセダカギンポ1種のみ。日本でみられる同科他属とは鰓孔が大きく左右の隙膜が峡部で連続する、上顎に犬歯がない、項部には基底の長い皮弁をもつ、頭に1対の皮弁がある、背鰭軟条数が12-13、臀鰭軟条数が13-14であるこ

とから識別される。本調査では水深10mまでのサンゴ礁域で多くみられた。ミドリイシ類などのサンゴの枝間に身を隠して生息している。

(目黒昌利・木村祐貴)



■ ニセカエルウオ *Istiblennius edentulus* KAUM-I. 45953, 85.3 mm SL



■ ニセカエルウオ *Istiblennius edentulus* KAUM-I. 40029, 42.5 mm SL



■ ニセカエルウオ *Istiblennius edentulus* KAUM-I. 40048, 20.1 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 カエルウオ属

ニセカエルウオ

Istiblennius edentulus
(Forster & Schneider, 1801)

形態 背鰭 XII–XIV, 19–21; 臀鰭 II, 20–23; 胸鰭 13–14; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。眼上の皮弁は不分枝で、眼径と同長かそれより短い。項部には分枝しない一対の皮弁をもつ。側線は背鰭中央の欠刻を越え、背鰭軟条部の

の中央付近に達する。雄は頭部に正中線皮弁がある。

色彩 雄の体側は褐色、腹部は白色。背鰭基部から体側には不規則な薄い黄緑色の横線がはいる。頭頂から眼の後部、上顎後端にかけて薄い黄緑色の線がはいる。雌の体側は黄褐色で、腹部は白色。雄に比べてやや明るい体色。背鰭基部から体側には不規則な薄い黄緑色の横線がはいる。頭頂から眼の後部、上顎後端にかけて薄い黄緑色の線がはいる。背鰭、体側後部から尾柄部にかけて小暗色点が散在する。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に広く分布する。国内では伊豆諸島、紀伊半島以南の太平洋沿岸、九州西岸、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 日本でみられる同属他種とは臀鰭最後部の軟条と尾柄部と鰭膜でほとんどつながらない、眼上の皮弁が不分枝で眼径と同長かそれより短い、側線は背鰭中央の欠刻を越え、背鰭軟条部の中央付近に達することから識別される。本調査では水深1 m 以浅の潮間帯岩礁域のタイドプールで多くみられた。

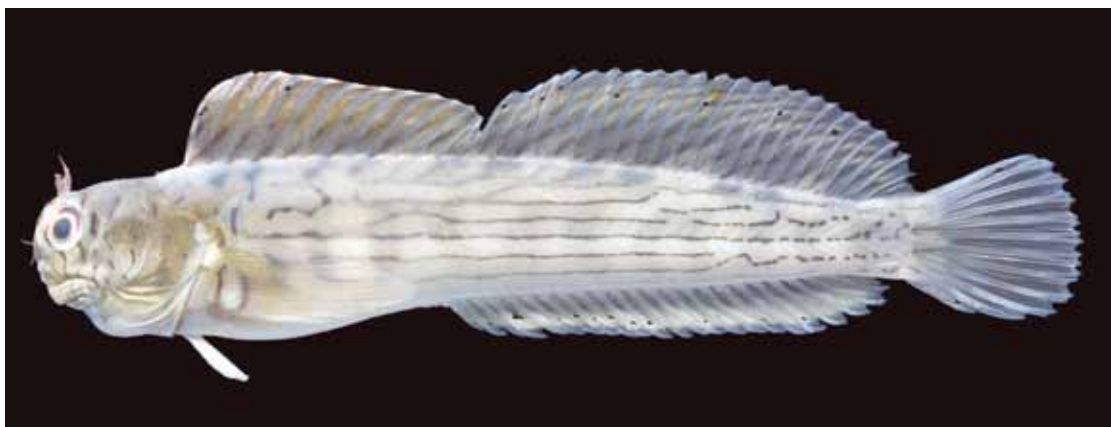
(目黒昌利・木村祐貴)



■ センカエルウオ *Istiblennius lineatus* KAUM-I. 46100, 88.1 mm SL



■ センカエルウオ *Istiblennius lineatus* FRLM 42781, 61.4 mm SL



■ センカエルウオ *Istiblennius lineatus* FRLM 43033, 51.9 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 カエルウオ属

センカエルウオ

Istiblennius lineatus
(Valenciennes, 1836)

形態 背鰭 XIII, 21–24; 臀鰭 II, 20–25; 胸鰭 13–14; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。眼上の皮弁は

掌状。側線は背鰭中央の欠刻付近か、それより前方までしか達しない。雄は頭部に正中線皮弁がある。

色彩 体側は灰色がかった褐色で、腹側は白色。体側に数本の暗色縦帯がある。頭部に数本の短い暗色横線がある。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋の熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、三

重県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 日本でみられる同属他種とは体側に数本の暗色縦帯があることから識別される。タイドプールでよくみられ、危険を感じると水面をスキップするように飛び跳ねて逃げる。

(木村祐貴)



■ オウゴンニジギンポ *Meiacanthus atrodorsalis* KAUM-I. 39940, 25.1 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 ヒゲニジギンポ属

オウゴンニジギンポ

Meiacanthus atrodorsalis
(Günther, 1877)

形態 背鰭 IV, 25-28; 臀鰭 II, 15-18; 胸鰭 13-15; 腹鰭 I, 3。体は細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。鰓孔は小さい。下顎に1対の著しく大きな犬歯をもつ。背鰭は鰓蓋上端直上から始まり、背鰭棘条部と軟条部の間は欠刻しない。尾鰭の上葉と下葉は伸長する。

色彩 体側前方は紺色で、体側後方は黄色。背鰭は黄色で、前方に黒色縦帯がある。臀鰭は薄い青色。尾鰭は黄色い。眼を通り背鰭起部に達する1黒色斜帯がある。

分布 太平洋の熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、



■ オウゴンニジギンポ *Meiacanthus atrodorsalis* BSKU 106117, 31.1 mm SL

大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 体色はイナセギンポ *Plagiotremus laudandus* (Whitley, 1961) に似るが、眼を通り背鰭起部に達する1黒色斜帯があることから識別される。鋭い犬歯と弱毒の毒腺をもつ。サンゴ礁域の浅所を活発に泳ぐ遊泳性である。

(木村祐貴)



■ オウゴンニジギンポ *Meiacanthus atrodorsalis*
15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 イソギンポ科 ヒゲニジギンポ属

カモハラギンポ

Meiacanthus kamoharai
Tomiyama, 1956

形態 背鰭 IV, 25-27; 臀鰭 II, 15-16; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 3。体は細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。鰓孔は小さい。下顎に1対の大きな犬歯状の歯をもつ。背鰭は鰓蓋上端直上から始まり、背鰭棘条部と軟条部の間は欠刻しない。尾鰭の上葉と下葉は伸長する。側線をもつ。

色彩 体側は黒色。個体によって体側下部の黒色縦帯が網目状になる。眼上部からやや太い青白色線が尾柄部まで走る。尾柄部が白色。頭部と背鰭に不規則な青白色の線または点がある。

分布 日本にのみ分布。伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列



■ カモハラギンポ *Meiacanthus kamoharai* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

島に分布する。

備考 遊泳性が高く転石や岩礁隙間を遊泳している。本属魚類は下顎に1対の大きな犬歯状の歯があり、その歯に毒腺をもつこ

とが知られている。日本でみられる同属他種とは体全体がほぼ黒色、体側下部の黒色縦帯が網目状になるなど、体色が大きく異なることから区別することができる。

(目黒昌利・木村祐貴)



■ ニジギンポ *Petrosirtes breviceps* KPM-NI 30807, 56.1 mm SL



■ ニジギンポ *Petrosirtes breviceps* KAUM-I. 51259, 31.1 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 ハタタテギンポ属

ニジギンポ

Petrosirtes breviceps
(Valenciennes, 1836)

形態 背鰭 X-XI, 14-16; 臀鰭 II, 14-16; 胸鰭 13-16; 腹鰭 I, 3。体は細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。下顎の犬歯は大きい。下顎の皮弁は分枝しない。項部に皮弁がない。上側頭管の開孔数は3。

色彩 体は茶色味を帯びる。腹部は白色。吻部から尾柄にかけて1本の暗色縦帯がある。個体によっては頭部に小黑斑がある。

分布 インド・西太平洋の熱帯から温帯域に分布する。国内では青森県から九州南岸の日本海、東シナ海沿岸、北海道襟裳岬から九州南岸の太平洋沿岸、伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に広く分布する。

備考 国内でみられる同属他種とは鰓蓋と尾鰭基底に顕著な暗色斑がないこと、下顎



■ ニジギンポ *Petrosirtes breviceps*
17 Apr. 2012 Photo by S. Harasaki

の皮弁が分枝しないこと、項部に皮弁がないことから識別される。岩の割れ目だけでなく、巻き貝の殻や空き缶なども巣として利用する。

(木村祐貴)

スズキ目 イソギンポ科 ハタタテギンポ属

ハタタテギンポ

Petrosirtes mitratus
Rüppell, 1830

形態 背鰭 X-XI, 14-16; 臀鰭 II, 14-16; 胸鰭 13-16; 腹鰭 I, 3。体は細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。下顎の

犬歯は大きい。背鰭第1棘は第2棘より長い。大型の個体では背鰭前端が高くなる。

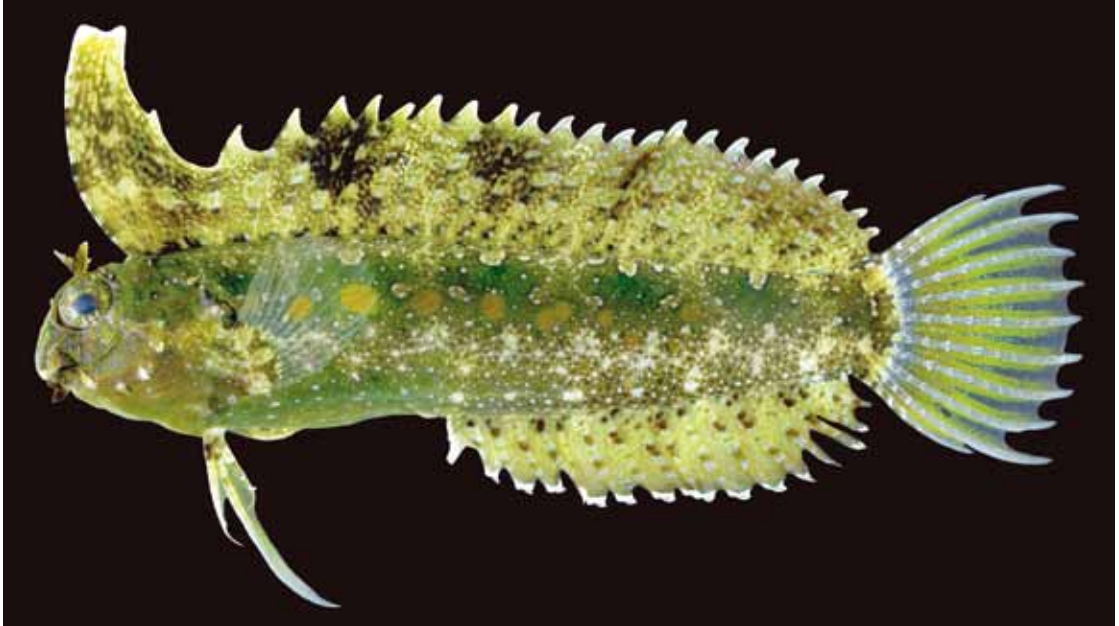
色彩 体色は茶色味を帯びる。体側に白色、橙色、茶色の小斑点が不規則に散在する。

分布 インド・西太平洋の熱帯域に分布す

る。国内では伊豆半島、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 国内でみられる同属他種とは背鰭第1棘が長くなることから識別される。サンゴ礁域に生息し、内湾的な藻場や漁港内の係留ロープなどにつく。

(木村祐貴)



■ ハタタテギンボ *Petrosirtes mitratus* KAUM-I. 48026, 49.8 mm SL



■ ハタタテギンボ *Petrosirtes mitratus* KPM-NI 30806, 59.0 mm SL



■ ハタタテギンボ *Petrosirtes mitratus* KAUM-I. 48011, 48.0 mm SL



■ ハタタテギンボ *Petrosirtes mitratus* BSKU 108231, 47.6 mm SL



■ ハタタテギンボ *Petrosirtes mitratus* FRLM 42786, 39.5 mm SL



■ ハタタテギンボ *Petrosirtes mitratus* NSMT-P 110358, 31.4 mm SL



■ ハタタテギンボ *Petrosirtes mitratus* KAUM-I. 51183, 12.1 mm SL



■ イナセギンポ *Plagiotremus laudandus* BSKU 108304, 31.2 mm SL



■ イナセギンポ *Plagiotremus laudandus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 イソギンポ科 テンクロスジギンポ属

イナセギンポ

Plagiotremus laudandus
(Whitley, 1961)

形態 背鰭 VII-X, 27-30; 臀鰭 II, 22-24; 胸鰭 11-12; 腹鰭 I, 3。体は細長く円筒形で、後部に向かうにつれ側扁する。鰓孔は小さい。吻端は円く、口は下位にあり腹面に開く。下顎後方に毒のない大きな犬歯をもつ。背鰭は眼後縁直上から始まり、欠刻しない。背鰭・臀鰭最後軟条は尾柄

と鰭膜でつながる。腹鰭は小さく、眼径より短い。尾鰭の上葉と下葉は伸長する。側線はない。

色彩 体側前方は紺色で、体側後方は黄色。吻端は赤褐色。背鰭前方は濃い青色、背鰭前方縁辺に沿って黒色線がはいる。その後方から黄色帯が斜めにはいり、後方縁辺は透明。臀鰭前方は黄色、後方縁辺は透明。尾鰭は上端と下端は黄色、中央部鰭膜は透明。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊

豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる同属他種とは体に明瞭な黒色縦線がない、臀鰭軟条数が22-24であることなどから識別することができる。またオウゴンニジギンポ *Meiacanthus atrodorsalis* (Günther, 1877) に体色がよく似るが、吻端が赤褐色で、眼の後部に黒色線がない、腹鰭が小さい、体型がより細長いことなどから識別される。潮通しの良いサンゴ礁域、岩礁域の水深10 m程を遊泳する。

(目黒昌利・木村祐貴)



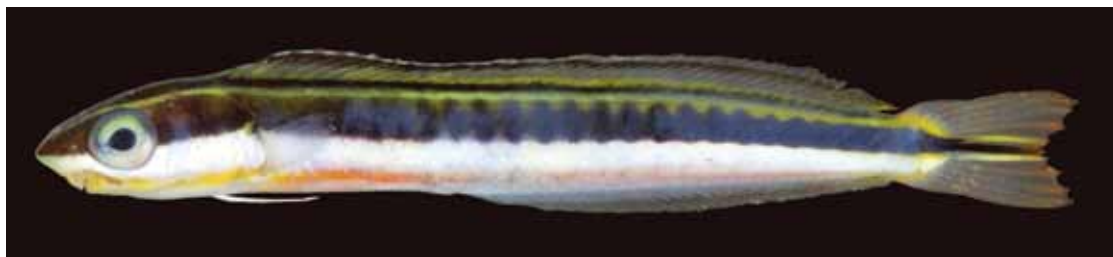
■ テンクロスジギンポ *Plagiotremus tapeinosoma* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ テンクロスジギンボ *Plagiotremus tapeinosoma* KPM-NI 30734, 44.6 mm SL



■ テンクロスジギンボ *Plagiotremus tapeinosoma* KAUM-I. 39883, 41.6 mm SL



■ テンクロスジギンボ *Plagiotremus tapeinosoma* KAUM-I. 40152, 30.9 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 テンクロスジギンボ属

テンクロスジギンボ

Plagiotremus tapeinosoma
(Bleeker, 1857)

形態 背鰭 VII-IX, 34-39; 臀鰭 II, 28-33; 胸鰭 11-12; 腹鰭 I, 3。体は細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。鰓孔は小さい。吻端は円く、口は下位にあり

腹面に開く。下顎後方に大きな犬歯をもつ。背鰭は眼後縁直上から始まり、欠刻しない。背鰭・臀鰭最後軟条は尾柄と鰭膜でつながる。側線はない。

色彩 腹部は白い。吻端から尾柄にかけて小黑斑が並んでできた黒色縦帯がある。頭部下部は橙色。背鰭下部は黄色味を帯びる。

分布 インド・太平洋の熱帯から温帯域に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本種は体側に小黑斑が並んでできた黒色縦帯があることから他種と識別される。活発に遊泳し、他の魚の皮膚の一部をかじり取って食べる。岩礁域やサンゴ礁域の浅所でみられる。

(木村祐貴)



■ タマギンボ *Praealticus bilineatus* KAUM-I. 45914, 45.9 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 タネギンボ属

タマギンボ

Praealticus bilineatus
(Peters, 1868)

形態 背鰭 XII–XIII, 18–19; 臀鰭 II, 20–21; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 4。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。眼上の皮弁は掌状で前鼻孔の皮弁は小さく不分枝。項部

には皮弁はもたない。

色彩 体側は白みがかった褐色で、腹部は白色。頭部と胸鰭に多くの白色小斑が密に散在し、体側にも不規則に散在する。

分布 西太平洋の熱帯域に分布する。国内では千葉県以南の太平洋沿岸、熊本県以南の九州西岸、大隅諸島、琉球列島で報告されている。

備考 本種の学名は、従来 *P. margaritarius* (Snyder, 1908) とされていたが、Bath (1992) によって *P. margaritarius* (Snyder, 1908) は *P. bilineatus* (Peters, 1868) の新参異名とされた。岩礁性タイドプールに多くみられ、タネギンボ *P. tanegasimae* (Jordan & Starks, 1906) と似た生息環境を好むがプールの棲み分けしていることが多い。頭部の白色小斑は興奮時や固定後には黒色に変化する。

(木村祐貴)



■ タネギンボ *Praealticus tanegasimae* FRLM 43034, 60.4 mm SL



■ タネギンボ *Praealticus tanegasimae* FRLM 43035, 48.3 mm SL



■ タネギンポ *Praealticus tanegasimae* KAUM-I. 39751, 18.0 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 タネギンポ属

タネギンポ

Praealticus tanegasimae
(Jordan & Starks, 1906)

形態 背鰭 XIII-XIV, 17-19; 臀鰭 II, 18-20; 胸鰭 14-15; 腹鰭 I, 4。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。眼上の皮弁は長く羽根状で前鼻孔の皮弁は小さく不分枝。項部には皮弁はもたない。雄は頭部に正中線皮弁がある。雌は正中線皮弁をもたない。

色彩 体側は緑がかった濃い灰色で、腹部は白色。体側には暗褐色の横斑がはいる。雄の背鰭と尾鰭は朱色に縁取られる。頬部に褐色の斜走線がはいる。体側後半部には少数の青白色点をもつ。

分布 日本、台湾、グアムに分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、九州西岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 日本で本属魚類は本種以外にタマギンポ *P. billineatus* (Peters, 1868)、カブキ

ギンポ *P. striatus* (Bath, 1992) の 2 種が知られているが、タマギンポとは眼上皮弁の形状が羽根状（タマギンポは掌状）、生鮮時に白色点が少ない（多い）、カブキギンポとは頬の斜走線が下部で合一しない（カブキギンポはする）、体側の白色点が少ない（多い）ことから識別される。

潮あたりのよい水深 1 m 以浅の潮間帯岩礁域のタイドプールで多くみられる。危険を感じると水中を飛び出して安全なプールへと移動する。

(目黒昌利・木村祐貴)



■ ロウソクギンポ *Rhabdoblennius nitidus* KAUM-I. 41124, 35.8 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 ロウソクギンポ属

ロウソクギンポ

Rhabdoblennius nitidus
(Günther, 1861)

形態 背鰭 XII, 18-22; 臀鰭 II, 19-23; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。前鼻孔、眼上に皮弁をもつ。眼上皮弁は長く分枝しない。項部に皮弁はもたない。

色彩 体側は黄褐色。雄の吻部から鰓蓋上部、項部にかけてと腹鰭基部は褐色。

雌の同じ部位は褐色にならない。体側中央に褐色斑が並ぶ。背鰭、臀鰭は黄褐色で、背鰭縁辺は赤く縁取られる。臀鰭は透明で、下部は黄色く縁取られる。頬部、胸鰭基部、背鰭、尾鰭には青白色点が散在し、体側にも青白色の短線がはいる。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、紀伊半島以南の太平洋沿岸、九州西岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 日本でみられる本属魚類は本種のみ。日本産同科他種とは尾鰭軟条の大部分が分枝する、腹鰭が 1 棘 3 軟条、臀鰭

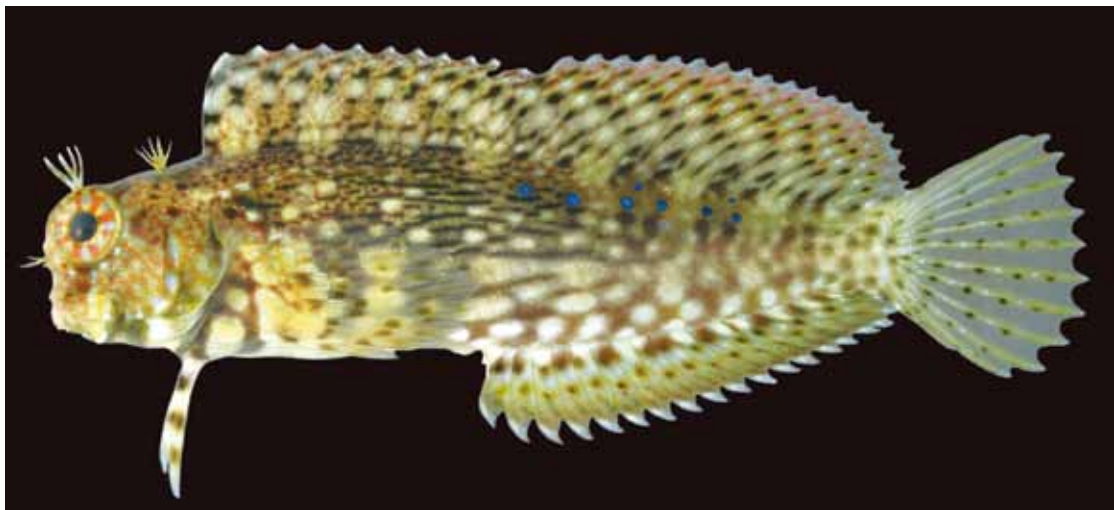
最後軟条の大部分が尾柄部と皮膜でつながる、項部に皮弁がない、長い眼上皮弁をもつことなどから識別される。

ロウソクギンポの学名は *R. ellipse* (Jordan & Starks, 1906) とされていた。しかし、Bath (2004) はそれより以前に記載された *R. nitidus* (Günther, 1861) が有効であるとし、*R. ellipse* を新参異名とした。なお、*R. nitidus* のタイプ産地は“Chinese Sea”であるが、中国南シナ海沿岸における本種の詳しい分布状況は分かっていない。本調査では水深 1 m 以浅の潮間帯岩礁域のタイドプールで多くみられた。

(目黒昌利・木村祐貴)



■ ヤエヤマギンポ *Salaria fasciatus* KAUM-I. 47956, 52.5 mm SL



■ ヤエヤマギンポ *Salaria fasciatus* KAUM-I. 39741, 32.2 mm SL



■ ヤエヤマギンポ *Salaria fasciatus* KAUM-I. 39872, 91.7 mm SL



■ ヤエヤマギンポ *Salaria fasciatus* KAUM-I. 39998, 29.6 mm SL

スズキ目 イソギンポ科 ヤエヤマギンポ属

ヤエヤマギンポ

Salaria fasciatus
(Bloch, 1786)

形態 背鰭 XII, 18-20; 臀鰭 II, 19-21; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 3。体はやや細長く円筒型で、後部に向かうにつれ側扁する。眼上皮弁が長い。眼上皮弁と項部皮弁は分枝

する。背鰭は浅く欠刻する。正中線皮弁はない。

色彩 体側は褐色で腹部は白色。胸鰭付近から体側中央にかけて数本の細い暗色縦帯がある。体側に白色斑が不規則にある。背鰭基部に暗色斑が並ぶ。側線上には小暗斑が並ぶ。胸鰭、臀鰭、尾鰭に小黒斑が散在する。

分布 インド・西太平洋の熱帯域に分布する。国内では三重県、琉球列島から知られる。

備考 サンゴ礁域の水深5m以浅やタイドプール内に生息する。国内でみられる同属他種とは眼上皮弁と項部皮弁が分枝すること、背鰭の欠刻が浅いことから識別される。(木村祐貴)

■ ミサキウバウオ *Lepadichthys frenatus* KAUM-I. 40010, 25.2 mm SL

スズキ目 ウバウオ科 ミサキウバウオ属

ミサキウバウオ

Lepadichthys frenatus
Waite, 1904

形態 背鰭 16-17; 臀鰭 12-14; 胸鰭 27; 尾鰭 11; 脊椎骨 14+20=34。頭部は縦扁し、体後部に向かうにしたがい側扁する。吻はやや上向きに突出し、他種に比べ口唇は厚い。体は無鱗。背鰭は1基。腹鰭は吸盤状で形は単形（前後で二分されない）。背鰭と臀鰭は尾鰭と鰭膜でつな

がる。3対の前鰓蓋感覚管孔を有する。

色彩 体色は暗橙色から褐色で吻端から眼の後ろにかけて暗色の太い縦帯がある。頭部腹面や腹鰭は黄褐色を呈する。背鰭、臀鰭および尾鰭の縁辺は薄い褐色で縁どられる。

分布 西太平洋と南太平洋。国内では伊豆諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、九州西岸、大隅諸島、琉球列島から記録されている。

備考 全長7cmになる。潮溜まりから岩礁域やサンゴ礁の水深6m以浅に生息する。吸盤状の腹鰭を使って岩などに張り付く。ウバウオ *Aspasma minima* (Döderlein, 1887) は生息環境によって体色の個体差が著しく、雌雄の体形にも相違がみられるが、ミサキウバウオには体色や体形に雌雄差はみられないようである。同属のミナミウバウオ *Lepadichthys* sp. とは背鰭軟条数が15-18（ミナミウバウオでは11-12）、臀鰭軟条数が12-14（10）であることから識別される。

(原口百合子)



スズキ目 ウバウオ科 ミサキウバウオ属

ミナミウバウオ

Lepadichthys sp.

形態 背鰭 11-12; 臀鰭 10; 胸鰭 27; 尾鰭 11; 脊椎骨 13 + 19 = 32。頭部はやや縦扁し、体後部は側扁する。吻はやや突出する。腹鰭は吸盤状で、形は前後で二分されず、単形。背鰭と臀鰭は尾鰭と鰭膜でつながる。3対の前鰓蓋感覚管孔を有する。

色彩 体色は赤褐色で頭部腹面側は乳白色。白色の縦線が背中線上と体側および腹側にある。体側の縦線は吻から眼の上縁を通り尾鰭に達する。腹面の縦線は下顎の縫合部から出て肛門付近に達する。いずれの縦線も後方にむかうにしたがい不明瞭となる。体側に淡色の小斑点がある。各鰭膜は透明。

分布 和歌山県、高知県、大隅諸島、琉

■ ミナミウバウオ *Lepadichthys coccinotaenia* KAUM-I. 58305, 19.6 mm SL

球列島から記録されている。

備考 岩礁やサンゴ礁域の潮だまりに生息する。Motomura et al. (2010) は屋久島から17個体のミサキウバウオ *L. frenatus* Waite, 1904 を報告した。しかし、そのうち

の1標本はミナミウバウオと再同定された (Motomura & Aizawa, 2011)。そのため、本項では本種の分布域に大隅諸島を加えた。

(原口百合子)

■ コブヌメリ *Diplogrammus xenicus* KAUM-I. 40418, 33.9 mm SL■ コブヌメリ *Diplogrammus xenicus* KAUM-I. 40393, 26.2 mm SL■ コブヌメリ *Diplogrammus xenicus* KAUM-I. 48111, 24.3 mm SL

スズキ目 ネズツポ科 コブヌメリ属

コブヌメリ

Diplogrammus xenicus
(Jordan & Thompson, 1914)

形態 背鰭 IV-8；臀鰭 7；胸鰭 ii + 15-17；腹鰭 I, 5；尾鰭 i + 7 + ii。体は細長く、扁平する。体全体が無鱗で粘液質におおわれる。眼下管の先端は分枝する。鰓蓋部に大きな皮弁がある。吻は突出し、やや尖る。前鰓蓋骨に強い1棘（前鰓蓋骨棘）がある。この棘は、基部に前向突起が1本、背縁に小棘が3-9本あり、後端が上方に強く曲がる。鰓孔は丸い。体側面下部に体軸方向に走る皮褶が1本ある。雄成魚の第1背鰭第1棘は糸状に伸長する。第2背鰭と臀鰭の軟条は最終軟条のみが分枝する。

色彩 頭部から体背面、側面にかけて、茶色から灰色の大理石模様を呈し、体腹面は白色である。体側面下部にある皮褶に多数の黒点が並ぶ。第1背鰭は茶色から灰色を呈し、複雑な形の白色斑がある。第2背鰭と尾鰭の鰭膜は透明で、軟条上に白色斑がある。臀鰭は半透明である。腹鰭は茶色から灰色で、黒色点が散在し、1黒褐色帯がある。この黒褐色帯は環境によって不明瞭になることもある。雄成魚では、第2背鰭と尾鰭が、それぞれ茶色から灰色の大理石模様で、臀鰭は灰色を呈する。頭部と臀鰭下半部には、青色の虫食い状模様がある。また、体側面、第2背鰭、および尾鰭にはそれぞれ青色点が多数散在する。

分布 日本と南緯30度前後のオーストラリア東西両沿岸に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、山口県以南の日本海沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種はミナミコブヌメリ *D. goramensis* (Bleeker, 1858) によく似る。しかし、コブヌメリでは眼下管の先端が分枝するが、ミナミコブヌメリでは分枝しないことで異なる。また、コブヌメリよりミナミコブヌメリの方が南方に分布し、沖縄島以北ではコブヌメリの生息数が多く、八重山諸島以南ではミナミコブヌメリの生息数が多くなる（岡村、2009）。与論島ではコブヌメリは水深10 m以浅の砂底で生息が確認された。

(岩坪洗樹)



■ヒメテグリ *Minysynchiropus kiyoe* KAUM-I. 41150, 21.1 mm SL

スズキ目 ネズツポ科 ヒメテグリ属

ヒメテグリ

Minysynchiropus kiyoe
(Fricke & Zaiser, 1983)

形態 背鰭 IV-9；臀鰭 8；胸鰭 ii + 15；腹鰭 I, 5；尾鰭 i + 7 + ii。体は細長く、扁平する。体全体が無鱗で粘液質におおわれる。吻は突出し、やや尖る。前鰓蓋骨棘は、背縁に小棘が5本あり、後端が上方に強く曲がる。鰓孔は丸い。側線は体側面後部で下方に大きく湾入し、途中で分枝することなく尾鰭まで続く。腹鰭後縁の鰭膜は胸鰭基底上端付近に接続する。雄成魚の第1背鰭は、各棘がやや伸長する。第2背鰭と臀鰭の軟条は最終軟条のみが分枝する。



■ヒメテグリ *Minysynchiropus kiyoe* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

色彩 体は濃褐色、褐色、および白色が入り混じった大理石模様。腹面は白色を呈する。頭部から胸鰭基底周辺にかけて細長い鮮青色斑が散在する。雄の第1背鰭は半透明で、上部に細長い橙色斑、下部に橙色点散在する。雌の第1背鰭は前

半部が褐色と白色のまだら模様で、後半部は一律に褐色を呈する。

岡山以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

分布 日本とパラオ諸島からのみ記録がある。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静

備考 浅い岩礁域の礫底や砂底に生息する。

(岩坪洗樹)



■ミヤケテグリ *Neosynchiropus moyeri* KAUM-I. 58419, 28.3 mm SL

スズキ目 ネズツポ科 コウワンテグリ属

ミヤケテグリ

Neosynchiropus moyeri
(Zaiser & Fricke, 1985)

形態 背鰭 IV-8；臀鰭 7；胸鰭 18-23；腹鰭 I, 5；尾鰭 i + 7 + ii；脊椎骨数 6 + 12 = 18。体は細長く縦扁し、無鱗で粘液質におおわれる。尾柄は細長く、後方に向かってより細くなる。吻は突出し、吻端は尖る。口は小さく、主上顎骨後端は眼の中央を越えない。前鰓蓋骨に強い1棘（前鰓蓋骨棘）がある。側線は体背側寄り走る。雄の背鰭棘はすべて糸状に伸長する。第2背鰭のすべての軟条および第1軟条を除く臀鰭軟条は、先端が2分枝する。

色彩 体背面から体側面にかけて紅色の大理石模様で、体腹面は白色を呈する。雄の第1背鰭は帯状模様で、眼鏡状模様を含む上部の帯状模様はオリーブ色、下部の帯状模様は明るい赤色を呈する。帯状模様は白色で縁取られ、帯の間は濃緑黄

■ミヤケテグリ *Neosynchiropus moyeri* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

色を呈する。雌の第1背鰭は黒色で、前縁を除く縁辺が白色で縁取られる。第2背鰭の地色は黄色がかった白色で、不規則な紅色斜帯が走る。臀鰭は、雄では灰色がかった白色を呈し、複数の短い鮮青色線が散在する。一方、雌では、白色の地に4-5本の紅色斜帯が走る。尾鰭の地色は白で紅色の斑点が散在する。

分布 西太平洋に分布する。国内では伊

豆諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、鹿児島県東シナ海沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種は通常、藻類被度の高い転石地に生息している。コウワンテグリ *N. ocellatus* (Pallas, 1770) と同所的に分布している場所では、より水深の深い場所に生息する。

(岩坪洗樹)

■コウワンテグリ *Neosynchiropus ocellatus* KPM-NI 30736, 38.2 mm SL

スズキ目 ネズツポ科 コウワンテグリ属

コウワンテグリ

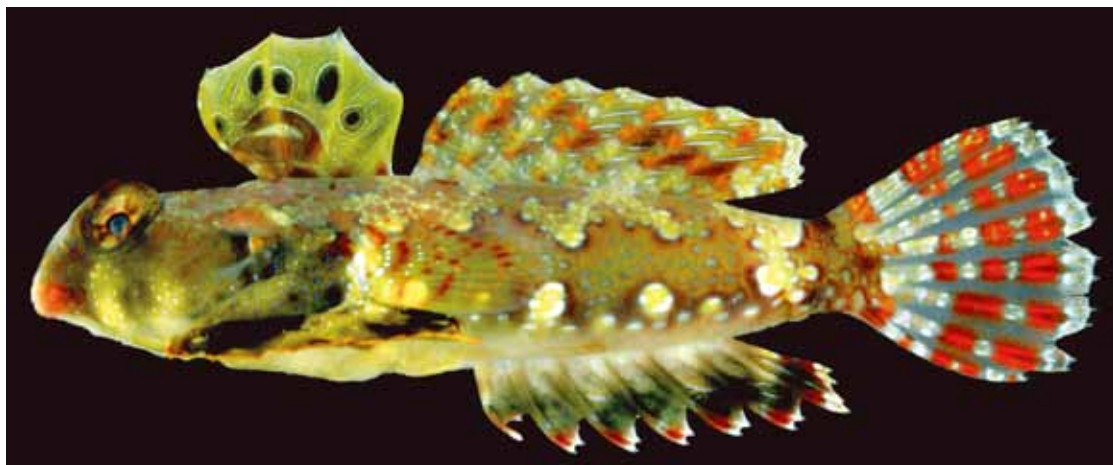
Neosynchiropus ocellatus
(Pallas, 1770)

形態 背鰭 IV-8；臀鰭 7；胸鰭 ii + 17-20；腹鰭 I, 5；尾鰭 i + 7 + ii。体は細長い、ネズツポ科の中では体高が比較的高い。体全体が無鱗で粘液質におおわれる。吻は突出し、やや尖る。前鰓蓋骨棘は、背縁に1小棘があり、後端が上方に曲がる。

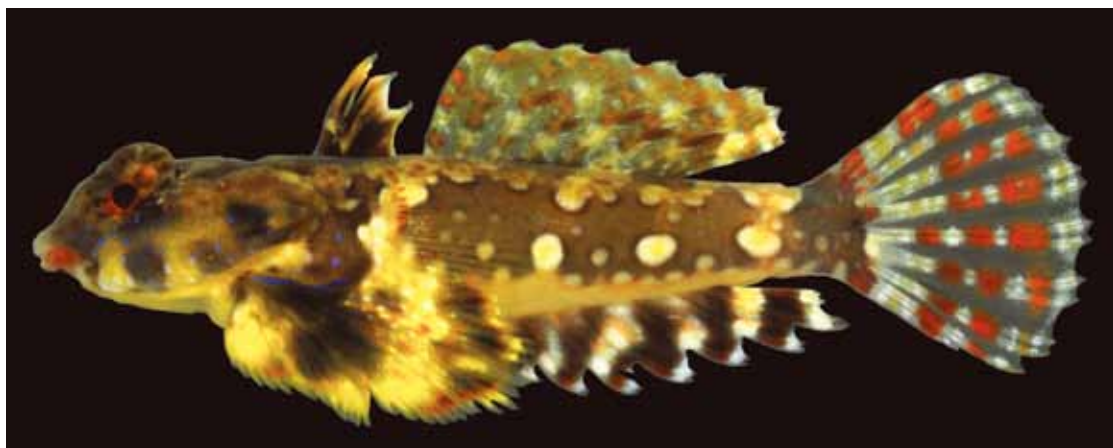
鰓孔は丸い。第1背鰭棘長は雄の成魚では第2背鰭軟条長の2倍程度だが、雄幼魚と雌では第2背鰭軟条長と同程度である。第2背鰭軟条と第1軟条を除く臀鰭軟条は、先端が2分枝する。

色彩 成魚では雌雄ともに以下の共通の色彩をもつ。頭部から体側面にかけて黒褐色の大理石模様で、体腹面は白色である。第2背鰭は褐色斜帯が4-5列ある。胸鰭に橙色線が2-3本ある。腹鰭は黒褐色を呈し、1白色帯があり、橙色で縁取られる。

尾鰭は紅色斑が2列並ぶ。雄成魚は、頭部に青色点が散在する。また、第1背鰭には2-6個の眼状模様がある。この眼状模様より上部では背鰭棘に対しほぼ平行な細い褐色帯が多数あるが、下部では第1棘基部を中心とした円状の褐色帯が4-6列ある。不連続の青色斜線が、第2背鰭に6-9列、臀鰭に2-3列ある。雌成魚は第1背鰭が濃黒褐色で、白色で縁取られる。また、臀鰭に黒褐色斜帯が4本ある。幼魚は体全体が乳白色で、下顎は橙色。褐色帯が尾柄に1本、眼下に3本ある。



■ コウワンテグリ *Neosynchiropus ocellatus* Male KAUM-I. 39730, 35.9 mm SL



■ コウワンテグリ *Neosynchiropus ocellatus* Female KAUM-I. 40410, 22.3 mm SL



■ コウワンテグリ *Neosynchiropus ocellatus* KAUM-I. 47850, 14.2 mm SL

第1背鰭が濃黒褐色で、白色で縁取られる。第2背鰭は、橙色斑が4-5列並ぶ。胸鰭と尾鰭は橙色味を帯びた透明である。腹鰭は橙色帯が2本ある。臀鰭は黒褐色斜帯が4本ある。

分布 東インド洋から太平洋にかけて分布する。国内では伊豆諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本種はミヤケテグリ *N. moyeri* (Zai-

ser & Fricke, 1985) によく似る。しかし、コウワンテグリの成魚では体の大理石模様は黒褐色であることに対し、ミヤケテグリの成魚では紅色であることで異なる。

(岩坪洗樹)



■ チチブモドキ *Eleotris acanthopoma* KAUM-I. 47984, 33.9 mm SL

スズキ目 カワアナゴ科 カワアナゴ属

チチブモドキ

Eleotris acanthopoma
Bleeker, 1853

形態 背鰭 VI-1, 7-8; 臀鰭 I, 7-8; 胸鰭 15-17; 縦列鱗 48-56; 背鰭前方鱗 33-46。体は円筒状で、やや側扁する。頭部は縦扁する。下顎は上顎よりも前方に突出する。前鰓蓋骨の後縁に下を向く棘状突起がある（通常は皮下にあさく埋没）。舌の前縁は丸い。鰓孔はややひろく、その前下端は前鰓蓋後縁下付近にまで達する。胸鰭基部、腹鰭前上部、背鰭前上部、腹部は円鱗で、のこる体側大半は楕円鱗で被われる。頬の後半と鰓蓋に円鱗がある（眼下に数枚の埋没鱗がある個体もいる）。腹鰭は左右完全に分かれ、癒合膜は発達し

ない。尾鰭は円形で、頭長よりもやや短い。頭部に感覚管やその開孔がない。眼下に6本の明瞭な横列孔器列があり、その前から2番目と4番目のものは、頬中央をはしる縦列孔器列よりも下方にまで達する。

色彩 状態により体色は変化に富むが、ふつう灰褐色の地に黒にちかい暗灰色のまだら模様がある。他のカワアナゴ属魚類同様、頭部から尾部にかけての背面が淡色に、その腹方は暗色に、塗り分けられたような状態になることもある。胸鰭基部に2黒色斑がある（明色時に明瞭）。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では伊豆半島から琉球列島にかけての各地から記録されている。

備考 日本産カワアナゴ属魚類は4種が知

られ、さらに吉郷ほか（2005）は沖永良部島の洞穴から同属の1未同定種を報告している。このうちチチブモドキは、琉球列島の河川汽水域やその周辺ではもともとふつうに見られる種のひとつ。やはり琉球列島の河川に見られる同属のオカメハゼ *E. melanosoma* Bleeker, 1853 やテンジクカワアナゴ *E. fusca* (Forster, 1801) に似るが、鰓蓋上部と下部を走る孔器列が鰓蓋後縁で接しないこと、眼下に横列孔器列が6本あり、その前から3番目のものは頬中央を走る縦列孔器列よりも下方に達しないことで識別できる。

本種は与論島において茶花の水路の下流部で見られ、散在する転石の下に単独で生息していることが観察された。同所は、底質がコンクリートで、水深は0.2-0.3 mであった。

(伊川浩一・岩坪洗樹)



■ ヤナギハゼ *Xenisthmus clarus* KPM-NI 30906, 16.5 mm SL



■ ヤナギハゼ *Xenisthmus clarus* KAUM-I. 41151, 13.9 mm SL

スズキ目 ヤナギハゼ科 ヤナギハゼ属

ヤナギハゼ

Xenisthmus clarus
(Jordan & Seale, 1906)

形態 背鰭 VI-I, 12-13; 臀鰭 I, 11-12; 胸鰭 15-17; 縦列鱗 56-65; 背鰭前方鱗 19。体は細長い円筒状で、やや側扁する。下顎は上顎よりも前方につよく突出する。下唇腹側の遊離縁は左右連続し、頤部に付着しない。頬や鰓蓋上部、胸鰭基部、体側前半は円鱗で、体側後半は楯鱗で被われる。腹鰭は左右完全に分かれ、癒合膜は発達しない。尾鰭は円形で、頭長とほぼ同長。頭部の感覚管は良く発達する。前方肩甲管と後眼肩甲管は連続し、開孔 A' B' C' D'(S) E' F' H' I' J' K' がある。前鰓蓋は開孔 M' N' O' P' Q' がある。頬の孔器列は発達程度が悪く、眼の下縁に沿う 1 列を除き、明瞭な列をなさない。

色彩 頭部と体は白色で、背面は淡いベ

■ ヤナギハゼ *Xenisthmus clarus* KPM-NI 30721, 12.8 mm SL

ジュ。下顎の先端付近から吻、眼の中央、胸鰭基部を通りそのまま尾鰭にまで至る 1 本の明瞭な暗褐色縦帯がある。この縦帯のすぐ上方はわずかに暗色がかかり、とくに大型個体では不明瞭な斑状となる。尾鰭には、これら暗色部の上を縁どるような白色縦帯がはいる。その他の鰭は無色。大型個体では、第 2 背鰭に不明瞭な暗色点列をもつことがある。

分布 西部・中部太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では奄美大島以南の

琉球列島から記録されている。

備考 日本産ヤナギハゼ属魚類は、未記載種も含め 5 種が報告されている。多くはサンゴ礁浅所のがレ場に生息し、死サンゴ塊の中から見つかることもよくある。ヤナギハゼは、淡色時の体に吻から尾鰭にかけて 1 本の暗色縦帯がある、という独特の体色により、他の日本産同属既知種とは容易に識別される。

(洪川浩一)

■ クロヤナギハゼ *Xenisthmus* sp. KPM-NI 30813, 22.0 mm SL

スズキ目 ヤナギハゼ科 ヤナギハゼ属

クロヤナギハゼ

Xenisthmus sp.

形態 背鰭 VI-I, 13; 臀鰭 I, 12-13; 胸鰭 15-17; 縦列鱗 69; 背鰭前方鱗 17。体は細長く円筒状で、やや側扁する。下顎は上顎よりも前方につよく突出する。下唇腹側の遊離縁は左右連続し、頤部に付着しない。胸鰭基部および体側前半は円鱗で、体側後半は楯鱗で被われる。頭部は

無鱗。腹鰭は左右完全に分かれ、癒合膜は発達しない。尾鰭は円形で、頭長とほぼ同長。頭部の感覚管は良く発達する。前方肩甲管と後眼肩甲管は連続し、開孔 A' B' C' D'(S) E' F' H' I' J' K' がある。前鰓蓋は開孔 M' N' O' P' Q' がある。頬の孔器列は発達程度が悪く、眼の下縁に沿う 1 列を除き、明瞭な列をなさない。

色彩 頭部と体は、背面が淡灰褐色、側面や腹面が黒褐色と、明瞭に塗り分けられる。胸鰭基板上端に淡いベージュの 1 斑がある。背鰭条の中央に黒色点があり、1

縦点列をなす。臀鰭は基部付近が黒褐色。尾鰭の大半は黒褐色で、不規則な淡褐色部があり、縁辺はほぼ透明。胸鰭と腹鰭はほぼ透明。

分布 奄美大島から報告された未記載種(林ほか、1990)。国内では他に沖縄島や渡嘉敷島、国外ではサイパン島からも知られている。

備考 頭部や体が背面を除きほぼ一様な暗色であるという独特な体色により、同属の既知種とは容易に識別される。

(洪川浩一)



■ ヒメダテハゼ *Amblyeleotris steinitzi* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ハゼ科 ダテハゼ属

ヒメダテハゼ

Amblyeleotris steinitzi
(Klausewitz, 1974)

形態 背鰭 VI-I, 11-12; 臀鰭 I, 12; 胸鰭 18-20; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 65-70; 横列鱗 19-22; 背鰭前方鱗 0; 脊椎骨 10+16。体はやや細長く、側扁する。吻はやや尖る。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開口 K' L'、前鰓蓋管に開口 M' N O' がある。鰓孔は、眼の後縁下と前鰓蓋骨後縁下の中間付近に達する。頭部は無鱗。躯幹部から尾部にかけての前方では小円鱗、後方では後方ほど大きな弱い楕円鱗で覆われる。第1背鰭は第2背鰭とほぼ同じ高さ。

各鰭に伸長鰭条を欠く。腹鰭は膜蓋を欠き、左右に大きく2分するが、基底近くで癒合膜により連結する。

色彩 生時の体色は、体の地色が黄色みを帯びた白色で、地色よりも幅の狭い5本の赤色横帯があり、第1横帯は鰓蓋上、第2横帯は第1背鰭下、第3・第4横帯は第2背鰭下、第5横帯は尾柄上にある。第1-第4横帯はやや斜行する。各横帯間に2-4本の直線状もしくは乱れた線状の淡黄色横線がある。頭部は側面から後部にかけて水色の小斑点が点列をなす。眼下に赤色横帯が発現することがある。両背鰭の鰭膜に1-2列の多数の黄色小斑点が鰭条に沿って並ぶ。第2背鰭の基底に沿って、水色と黄色の破線状細縦線が交互に走る。臀鰭の正中より縁辺側に水色で縁

取られた淡黄色縦帯がある。尾鰭の基底から下縁にかけて、水色で縁取られた淡黄色帯がある。

分布 マーシャル諸島、インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、相模湾以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 ダテハゼ属の計数値は背鰭前方鱗と脊椎骨を除き Yanagisawa (1978) に基づく。本種は、生時、背鰭鰭膜に多数の黄色小斑点があることにより、日本産の同属他種から容易に識別できる。礁池内の浅い砂底や、水深30m以浅のサンゴ礁外縁部のガレ場の砂底などに単独またはペアで生息し、テッポウエビ類と共生する。

(瀬根 宏)



■ クビアカハゼ *Amblyeleotris wheeleri* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ハゼ科 ダテハゼ属

クビアカハゼ

Amblyeleotris wheeleri
(Polunin & Lubbock, 1977)

形態 背鰭 VI-I, 11-12; 臀鰭 I, 11-12; 胸鰭 18-19; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 60-65; 横列鱗 18-23; 背鰭前方鱗 21; 脊椎骨 10+16。体はやや細長く、側扁する。吻はやや尖る。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開口 K' L'、前鰓蓋管に開口 M' N O' がある。鰓孔は、眼の後縁下と前鰓蓋骨後縁下の中間よりもやや前方に達する。頭部は背鰭前方を除いて無鱗。躯幹部から尾部にかけては、前方では小円鱗、後方では後方ほど大きな弱い楕鱗で被われる。第1背鰭は第2背鰭とほぼ同じ高さで、雄の第1背鰭第3棘は伸長する。腹鰭は膜蓋を欠き、左右に大きく2分するが、後縁が大きく湾入する癒合膜により連結する。

色彩 生時の体色は、体の地色が黄色みを帯び、尾鰭基底上のものを含めて6本の紫みを帯びた赤色横帯がある。各横帯は輪郭が明瞭で、第2-第5横帯は地色よりも幅広い。後頭部から口角にかけての横帯は不明瞭。眼下から口角にかけてや

■ クビアカハゼ *Amblyeleotris wheeleri* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

や明瞭な赤色横帯を発現することがある。体側に水色の小斑点が散在し、各横帯を縁取る傾向がある。吻を除く頭部側面や後頭部、両背鰭に橙色あるいは赤橙色の小斑点が散在する。これら斑点のうち、頭部側面や背鰭基底付近のものは赤みが強い。尾鰭は、上葉の基底近くに赤橙色の1小斑があり、下葉には上葉の小斑と対を成す位置から水色の縁取りのある橙色の噴射状縦線が斜め後下方に向かう。臀鰭の正中よりも基底側に幅広い茶色の1縦帯があり、その上・下縁は橙色と水色の2重細縦線で縁取られる。

分布 マーシャル諸島、インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では伊豆・小笠原諸島、相模湾以南の南日本、薩南諸島、琉球列島から知られる。

備考 本種は、生時、体側の横帯が幅広く明瞭で、横帯間の地色は黄色みを帯びること、頭部や両背鰭に橙色あるいは赤橙色の小斑点が散在することにより、日本産の同属他種から容易に識別できる。サンゴ礁外縁部の水深32m以浅のガレ場の砂底に単独またはペアで生息し、テポウエビ類と共生する。

(瀬能 宏)

■ サラサハゼ *Amblygobius phalaena* KAUM-I. 51349, 54.7 mm SL

スズキ目 ハゼ科 サラサハゼ属

サラサハゼ

Amblygobius phalaena
(Valenciennes, 1837)

形態 背鰭 VI-I, 14; 臀鰭 I, 14; 胸鰭 18-19; 縦列鱗 54-57; 背鰭前方鱗 24-28。体はやや短く、側扁する。頭部は側扁する。吻は丸くわずかに突出し、前方で上唇を

さく被う。下顎と上顎はほぼ等位。舌の前縁はほぼ直線的で、くぼまない。鰓孔は狭く、その前端は前鰓蓋後縁下より後方にある。下顎側部に外側を向く左右1-2対の大型歯がある。鰓蓋部や胸鰭基部、腹鰭前方部、背鰭前方部、腹部は円鱗で、この体側大半は楕鱗で被われる。背鰭は三角形。腹鰭は吸盤状で、膜蓋と癒合膜が発達する。尾鰭は円形で、頭長とほぼ同長。頭部の感覚管は良く発達し、前眼

肩甲管に開口 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開口 K' L'、前鰓蓋管に開口 M' L O' がある。眼下に多数の短い横列孔器列がある。

色彩 頭や体は淡い灰褐色で、背部はやや暗色がかかる。体側に5本の暗色横帯がはいり、帯の後縁あるいは前後縁は黒色線状となる。体側腹半にはふつう9-10本ほどの水色横線が並ぶ。頬から鰓蓋にか

けて3-4本ほどの青色斜帯（ふつう不規則な破線状）がはいる。第1背鱗の後半に1黒色斑がある。尾鰭基底上部のすこし後方に1黒色斑があり、それより後方にさらに2-3個ほどの暗色斑がある。雄成魚は体や鰭の暗色みが強くなり、尾鰭は白色みがかる。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に

分布する。国内では伊豆諸島、静岡県以南の本州、四国、九州、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 日本産サラサハゼ属は7種が記録されており、さらにいくつかの未同定種の存在も報告されている（渋川ほか、2011）。そのうちサラサハゼは、サンゴ礁浅所の礁原や礁池の砂礫底でみられる普通種。西

表島から記録のあるスフィンクスサラサハゼ *A. sphynx* (Valenciennes, 1837) に体型や色色が似るが、第1背鱗が三角形で（スフィンクスサラサハゼは四角形）、その後半に目立つ1黒色斑がある（ない）ことにより容易に区別できる。

（渋川浩一）



■ ホシハゼ *Asterropteryx semipunctata* Male KAUM-I. 46074, 28.3 mm SL

スズキ目 ハゼ科 ホシハゼ属

ホシハゼ

Asterropteryx semipunctata
Rüppell, 1830

形態 背鰭 VI-I, 10-11；臀鰭 I, 9；胸鰭 16-18；縦列鱗 23-25；背鰭前方鱗 6-8。体はふと短く、側扁する。頭部は側扁する。前鰓蓋後縁に2-9本（通常3-7本）の短い棘条突起がある。下顎は上顎よりもわずかに前方に突出する。舌の前縁は丸みを帯び、くぼまない。鰓蓋と頬後部は櫛鱗で、頬前部と鰓蓋膜は円鱗で被われる。体側の大半は櫛鱗で被われ、胸鰭基部や腹鰭前方部のみ円鱗。第1背鰭の第3棘条は糸状に伸長する。腹鰭は左右に分かれ、痕跡的な癒合膜があるが、膜蓋はない。尾鰭は円形で、頭長とほぼ同長。頭部の感覚管は良く発達し、前眼肩甲管に開孔 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開孔 K' L'、前鰓蓋管に開孔 M' L O'がある。眼下に5本の短い横列孔器列がある。

色彩 頭部と体は灰褐色かやや赤みがかった暗灰色で、体側に3列ほどの不規則な暗色斑列がはいる（明色時に明瞭）。頬や



■ ホシハゼ *Asterropteryx semipunctata* Female KPM-NI 30821, 19.1 mm SL



■ ホシハゼ *Asterropteryx semipunctata* KAUM-I. 51193, 12.4 mm SL

鰓蓋、体側に多数の輝青点があり、体側のもは各鱗に1つずつ整然と並ぶ。同様の輝青点は、第2背鰭や臀鰭、尾鰭にも散在する。第1背鰭中央に弧状の暗色帯があり、その外側は透明。第2背鰭、臀鰭、尾鰭は茶色みがかかる。

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域にかけて分布する。国内では、千葉県以西の本州、四国、九州、琉球列島、伊豆諸島、

および小笠原諸島から記録されている。

備考 ホシハゼ属には8種が知られ (Shibukawa & Suzuki, 2007)、日本からは7種が記録されている。そのうちホシハゼは、岩礁域やサンゴ礁の浅所にみられる普通種。九州以北からも知られる本属魚類は本種のみ。屋久島あるいは奄美大島以南から知られるヒメホシハゼ *A. ensifera* (Bleeker, 1874) やヤノウキホシハゼ *A.*

atripes Shibukawa & Suzuki, 2002 に似るが、前鰓蓋後縁に棘状突起が複数あることや (ヒメホシハゼは1本)、明色時、体側に多数の暗色斑紋があること (ヤノウキホシハゼは体側に1本の暗色縦帯があるか、全体的に暗色) 等で区別できる。前鰓蓋後縁の棘状突起数は Shibukawa & Suzuki (2002) に基づく。

(洪川浩一)



■ クロヤハズハゼ *Bathygobius coalitus* Male FRLM 43036, 54.3 mm SL

スズキ目 ハゼ科 クモハゼ属

クロヤハズハゼ

Bathygobius coalitus
(Bennett, 1832)

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 9; 胸鰭 19 (遊離鰭条 4); 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 7+6, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 33; 横列鱗 11; 背鰭前方鱗 21。前鼻孔頂部に皮弁がない。上下両唇端は等しい。頤の台形の皮蓋後側端は突出しない。頭部感覚管はよく発達し、前眼肩胛管に開孔 B' C (S) D (S) E F G H', 後眼肩胛管に開孔 K' L', 前鰓蓋管に開孔 M' N' O' があり、H' と K' は融合しない。頬中央に溝が縦走する。胸鰭上部

の遊離分枝鰭条は4本で、2条に枝分かれする。腹鰭は長楕円形で、腹蓋中央部は突出せず、棘と第1軟条間は浅く切れ込む。頬と主鰓蓋部は無鱗、第1背鰭前方、項部、胸鰭基底、腹鰭基底前方、腹部は小円鱗、残りの体側は楡鱗を被る。背鰭前方の鱗は眼後縁と前鰓蓋骨後縁間の中央上方に達する。

色彩 生鮮時、体の地色はにぶい黄、腹面は白である。頭部に白点が散在し、体側に数本の白点列が縦走する。体側正中線上に暗い灰みのブラウン斑が並ぶ。背鰭は灰みの白、臀鰭と尾鰭は明るい青みのグレイ、背鰭と尾鰭上・中央部に暗い赤点が散在する。

分布 インド・西太平洋。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布する。

備考 本項の記載は与論島と論漁港で採集された1標本 (FRLM 43036、体長 54.3 mm) に基づく。観察標本は明仁親王・目黒 (1980) のクロヤハズハゼに一致する。学名は明仁ほか (2013) にしたがった。第1背鰭に赤系の斑点が散在する、体側正中線上に下方に伸びないブラウン系の斑紋が縦列する、胸鰭基底上部に白色点があるなどで近似のクモハゼ *B. fuscus* (Rüppell, 1830) と、吻の傾斜が緩い、鰓蓋部に明瞭な黒斑がないなどで近似のスジクモハゼと区別可能。

(鈴木寿之)

スズキ目 ハゼ科 クモハゼ属

スジクモハゼ

Bathygobius cocosensis
(Bleeker, 1854)

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 18 (遊離鰭条 3); 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 8+7, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 38; 横列鱗 11; 背鰭前方鱗 11。前鼻孔頂部に皮弁がない。上唇はやや突出する。頭部感覚管はよく

発達し、クロヤハズハゼと同様である。頤の台形の皮蓋後側端はつよく突出する。頬中央に溝が縦走する。胸鰭上部の遊離分枝鰭条は3本で、2-3条に枝分かれする。腹鰭は長楕円形で、腹蓋中央部は突出せず、棘と第1軟条間は浅く切れ込む。頬と主鰓蓋部は無鱗、第1背鰭前方、項部、胸鰭基底、腹鰭基底前方、腹部は小円鱗、残りの体側は楡鱗を被る。背鰭前方の鱗は前鰓蓋骨後縁上方に達する。

色彩 繁殖期の生鮮時、雄の体の地色は暗い黄で、体側鱗はオリブみのグレイで縁取られる。垂直鰭はうすい黄からあさい黄で、背鰭中央にオレンジ系の雲状斑があり、臀鰭は黄色みのグレイ、尾鰭鰭条はあさい黄で上葉に黄みのオレンジ点が散在する。

分布 紅海とイースター島を除くインド・太平洋。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、九州、大隅諸

■ スジクモハゼ *Bathygobius cocosensis* Male KAUM-I. 45909, 37.6 mm SL■ スジクモハゼ *Bathygobius cocosensis* KAUM-I. 40047, 27.0 mm SL

島、および琉球列島に分布する。

備考 本項の記載は与論島前浜海岸沖水深 0.3 m で採集された 1 標本 (KAUM-I. 45909、雄、体長 37.6 mm) に基づく。観察標本は明仁親王・目黒 (1980) のスジクモハゼ *B. cocosensis* に一致する。雌および繁殖期以外の雄の生鮮時、体の地色は灰みの白、腹部に 2 個の暗色斑、体側背面に 5 個の暗色鞍状斑、体側正中線上に 9 個の暗色縦列斑がある。

(鈴木寿之)

■ スジクモハゼ *Bathygobius cocosensis* KAUM-I. 45955, 33.5 mm SL

スズキ目 ハゼ科 コモハゼ属

ヤハズハゼ

Bathygobius cyclopterus
(Valenciennes, 1837)

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 20 (遊離鰭条 4); 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 7+6, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 37; 横列鱗 14; 背鰭前方鱗 15。前鼻孔頂部に皮弁がある。上唇は突出する。頤の台形の皮蓋後側端は弱く突出する。頭部感覚管はよく発達し、

クロヤハズハゼとほぼ同様であるが、開孔の前眼肩甲管 H' と後眼肩甲管 K' は融合する。頬中央に溝が縦走り、その上側の皮膚は伸張し溝を被う。胸鰭上部の遊離分枝鰭条は 4 本で、3-4 条に枝分かれする。腹鰭は円形で、膜蓋中央部は突出し、棘と第 1 軟条間は深く切れ込む。頬は無鱗、主鰓蓋部上部、第 1 背鰭前方、項部、胸鰭基底、腹鰭基底前方、腹部は小円鱗、残りの体側は櫛鱗を被る。背鰭前方の鱗は眼の後縁近くまで達する。

色彩 生鮮時、体の地色は白、頭部には明るい黄とにぶい黄の小点が密在し、体側鱗はにぶい黄で縁取られる。頭部に黒点が散在する。軀幹部後半から尾部、尾柄部後部にオリーブの 2 鞍状帯があり、体側正中線上に黒色斑が縦列する。各鰭は無色・半透明、背鰭と尾鰭にブラウン系の斑点が縞模様をなす。

分布 イースター島を除くインド・太平洋。国内では伊豆諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、および琉球列島に分布

■ ヤハズハゼ *Bathygobius cyclopterus* Female KAUM-I. 46096, 37.2 mm SL

する。

備考 本項の記載は与論島茶花水深0.5 mで採集された1標本(KAUM-I. 46096、

雌、体長37.2 mm)に基づく。観察標本は明仁親王・目黒(1980)のヤハズハゼ *B. cyclopterus* に一致する。頭部に黒点が散在する、体側正中線上に黒色斑が縦列す

る、体側背面に2暗色鞍状帯があるなどで近似のクサビハゼと区別可能。

(鈴木寿之)

■ シジミハゼ *Bathygobius petrophilus* Male FRLM 42809, 31.3 mm SL

スズキ目 ハゼ科 コモハゼ属

シジミハゼ

Bathygobius petrophilus
(Bleeker, 1853)

形態 背鰭 VI-I, 10; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 18 (遊離鰭条 4); 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 7+6, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 32; 横列鱗 11; 背鰭前方鱗 10。前鼻孔頂部に皮弁がない。上下両唇端は等しい。頤の台形の皮蓋後側端は弱く突出する。頭部感覚管はよく発達し、クロヤハズハゼとほぼ同様であるが、開孔の前眼肩甲管 C がない。頬中央に溝が縦走する。胸鰭上部の遊離分枝鰭条は

4本で、2条に枝分かれする。腹鰭は長楕円形で、膜蓋中央部は突出せず、棘と第1軟条間は浅く切れ込む。頬と主鰓蓋部は無鱗、第1背鰭前方、項部、胸鰭基底、腹鰭基底前方、腹部は小円鱗、残りの体側は楕鱗に被わる。背鰭前方の鱗は主鰓蓋部中央上方に達する。

色彩 生鮮時、体の地色は黄みのブラウン、体側鱗は暗い灰みのブラウンで縁取られる。吻は黒、胸鰭前部に三角形の黒斑がある。垂直鰭はグレイ系、鰭条はブラウン系である。

分布 バリ島とスラウエシ島。国内では千

葉県以南の太平洋沿岸、奄美大島以南の琉球列島から記録されている。

備考 本項の記載は与論島茶花海岸横河口で採集された1標本(FRLM 42809、雄、体長31.3 mm)に基づく。観察標本は明仁親王・目黒(1980)のシジミハゼ *B. petrophilus* に一致する。両眼間隔が広い、両眼間隔域の感覚管開孔 C がない、頭部背面に横列孔器列があるなどで日本産同属他種から区別可能。西表島では夏季に限って、河川河口付近の海岸に堆積したヒルギ類の枯れ葉の間に多数みられる。その際の体色は枯れ葉とほぼ同色である。その他の生息水深などの情報は極めて少ない。

(鈴木寿之)



■ヨリメハゼ *Cabillus tongarevae* KPM-NI 30834, 15.0 mm SL

スズキ目 ハゼ科 ヨリメハゼ属

ヨリメハゼ

Cabillus tongarevae
(Fowler, 1927)

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 17-18; 縦列鱗 27-28; 背鰭前方鱗 0。体はやや短く、区幹部前部では円筒形に近く、それよりも後方では側扁する。頭部は縦扁する。下顎と上顎はほぼ等位。舌の前縁はくぼむ。鰓孔は狭く、その下端は胸鰭基底の下端付近か、それよりわずか前方にある。腹部は円鱗で、のこる体側大半は楕鱗で被われる。腹鰭前方部はほぼ無鱗だが、円鱗がある個体もある。頭部、胸鰭基部は無鱗。胸鰭上部に遊離軟条はない。腹鰭は吸盤状で、腹蓋と癒合膜が発

達する。尾鰭は円形で、頭長よりやや短い。頭部の感覚管は良く発達し、前眼肩甲管に開孔 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開孔 K' L'、前鰓蓋管に開孔 M' L O' がある。眼下に横列孔器列がなく、すべて縦列。

色彩 頭部と体は白色にちかく、わずかに褐色みを帯びる。頬の前半は暗色となる個体が多い。眼の後背部から両顎を通り頤部に達する暗色斜帯があり、それと垂直に交わる暗色斜帯が瞳から頬上部にかけてある。第1背鰭下に三角形の不明瞭な暗色斑がある。体側上半にはX字状の小黑色斑が散在する。尾鰭基底に黒色の横帯があり、その前縁中央に前方を向く突出部がある。第1背鰭には、通常、基底にそって黒色斑がある。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では静岡県以西の本州、四国、九州、大隅諸島および琉球列島から記録されている。

備考 ヨリメハゼ属にはインド・太平洋の熱帯・亜熱帯から8種が知られ (Kovačić & Bogorodsky, 2013)、日本からは4種と複数の未記載種が報告されている (瀬能ほか、2004; Shibukawa & Aizawa, 2013)。そのうちヨリメハゼはサンゴ礁浅所のガレ場等にみられる小型種。ふだんは死サンゴ塊の下や堆積した死サンゴ片の中に潜む。後眼肩甲管とその開孔 K' L' をもつことでミカゲハゼ *C. lacertops* Smith, 1959 に似るが、尾鰭基底に暗色横帯があること (ミカゲハゼでは尾鰭基底の暗色斑は縦長) などで容易に区別できる。

(洪川浩一)



■ズングリハゼ *Callogobius flavobrunneus* KPM-NI 30812, 34.0 mm SL

■ズングリハゼ *Callogobius flavobrunneus* KPM-NI 30831, 17.0 mm SL■ズングリハゼ *Callogobius flavobrunneus* KPM-NI 30819, 10.6 mm SL

スズキ目 ハゼ科 オキナワハゼ属

ズングリハゼ

Callogobius flavobrunneus
(Smith, 1958)

形態 背鰭 VI-I, 9-10; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 32-40; 横列鱗 12-14; 背鰭前方鱗 12-16; 脊椎骨 10+16。体は太短く、頭部はやや縦扁し、躯幹部から尾部にかけて徐々に側扁する。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' C(S) D(S) E F G H' がある。後眼肩甲管と前鰓蓋管を欠く。前鰓蓋管の位置に3個の単一孔器がある。頭部下方の2縦走孔器列は口角直後で中断しない。鰓孔は前鰓蓋骨と主鰓蓋骨の後縁間の中間下に達しない。体の被鱗域は頬や鰓蓋、後頭部から始まる。被鱗域の前方では円鱗だが、体側鱗は第

2背鰭起部から後方が楯鱗となる。第1背鰭は第2背鰭とほぼ同じ高さで、両背鰭の基底は接する。腹鰭に膜蓋を欠き、左右に2分するが、痕跡的な癒合膜で連結する。

色彩 鮮時の体色は、体は焦げ茶を主体とする白、黒、茶の斑模様。不明瞭な焦げ茶色の3横帯が第1背鰭下および第2背鰭後半下、尾鰭基底上にある。両背鰭、尾鰭は白と茶の斑模様で、全体的に黄色みを帯びる。第1背鰭第1-2棘間に1黒色小斑がある。腹鰭と臀鰭は、縁辺を除いて全体が白い斑入りの焦げ茶色。幼魚は、頭部に眼を中心とする焦げ茶色の3放射状線あり、体の横帯は明瞭で幅が広く、第1背鰭の第1-2棘間の鰭膜に2-3個の小斑点が第1棘に沿って並ぶ。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に

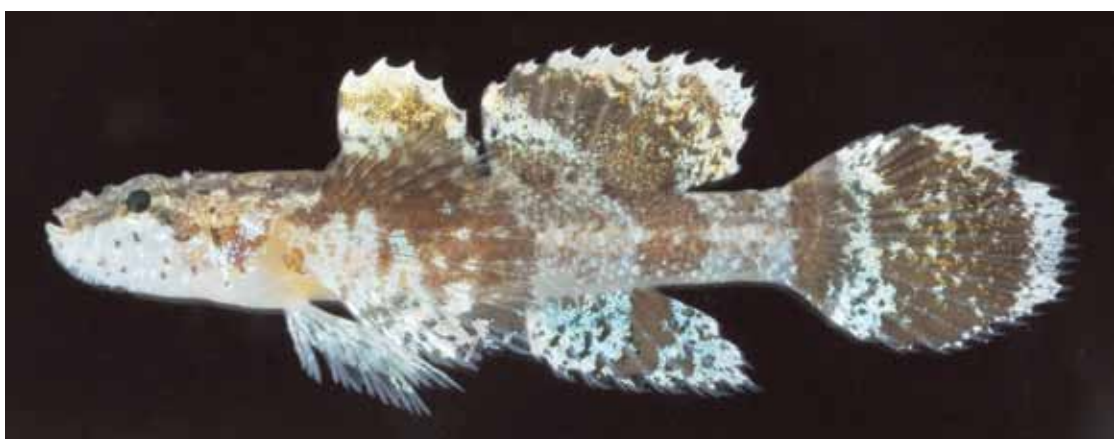
分布する。国内では大隅諸島、与論島以南の琉球列島から知られる。

備考 本種は体が寸詰まりで、腹鰭は左右に2分すること、第1背鰭に1黒色斑があること（幼魚では2-3個）、腹鰭は焦げ茶色であること、成魚の体側の横帯は不明瞭になることなどの特徴により、日本産同属他種から識別できる。幼魚は、同サイズのフタスジハゼ *C. sclateri* (Steindachner, 1879) に似るが、尾鰭基底上の横帯の幅が広く（フタスジハゼでは狭い）、各横帯の色彩は一樣で輪郭が明瞭（斑が入り、形が乱れる）。本種は、礁池内の潮下帯に生息し、密集した細かい死サンゴ片の下にテッポウエビ類が掘削したと考えられる空洞内から多く採集される。

(瀬能 宏)



■ オキナワハゼ *Callogobius hasseltii* KPM-NI 30815, 21.2 mm SL



■ オキナワハゼ *Callogobius hasseltii* KPM-NI 30894, 16.2 mm SL

スズキ目 ハゼ科 オキナワハゼ属

オキナワハゼ

Callogobius hasseltii
(Bleeker, 1851)

形態 背鰭 VI-I, 9-10; 臀鰭 I, 7-8; 胸鰭 16-18; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 32-42; 横列鱗 17-22; 背鰭前方鱗 15-22; 脊椎骨 10+16。体はやや細長く、頭部は縦扁し、躯幹部前部では円筒形に近く、それよりも後方では徐々に側扁する。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' C(S) D(S) E F G H'、前鰓蓋管に開口 M' N' O' がある。後眼肩甲管を欠く。頭部下方の2縦走孔器列は口角直後で中断しない。鰓孔は前鰓蓋骨と主鰓蓋骨の後縁間の中間下に達しない。体の被鱗域は頬と後頭部から始まり、前方では円鱗、後方では楕鱗となる。第1背鰭は第2背鰭とほぼ同じ高さで、両

背鰭の基底は接近する。腹鰭に膜蓋があり、不完全な吸盤状で、癒合膜の後縁は湾入する。

色彩 鮮時の体色は、体は焦げ茶色を主体とした白、黒、茶の斑模様で、胸部から腹部にかけては白い。頭部には眼を中心とする焦げ茶色の3放射状線がある。躯幹から尾部にかけては焦げ茶色の3横帯が第1背鰭下および第2背鰭後部下、尾鰭基底上にある。第2背鰭前部下にも1横帯をもつ場合もある。第1背鰭に1-2本、第2背鰭に2-3本、臀鰭に1本の焦げ茶色の斜走帯があるが、大きな個体では鰭全体が焦げ茶色になる傾向がある。尾鰭は全体が焦げ茶色で、上葉上部に眼径よりもやや大きな1黒色斑がある。腹鰭に茶色の小斑がある。幼魚の体の地色は灰みの白で、放射状線や各横帯は明瞭。尾鰭は白く縁取られ、基底近くに1白色横帯が

ある。

分布 マーシャル諸島、東インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では長崎県香焼・千葉県館山以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本種は体がやや細長く、第1・第2背鰭の基底は接近すること、腹鰭の後縁は湾入すること、成魚でも体の横帯は比較的明瞭であること、尾鰭上葉上部に眼径よりもやや大きな1黒色斑があることなどの特徴により、日本産の同属他種から識別できる。ただし、分類学的に未解決の近似種が複数知られており、同定には注意を要する。本種は潮間帯から潮下帯、河口や礁池など、サンゴ礁域浅所の幅広い環境に生息している。

(瀬能 宏)

■ ナメラハゼ *Callogobius okinawae* KAUM-I. 39996, 33.5 mm SL■ ナメラハゼ *Callogobius okinawae* KAUM-I. 46116, 35.8 mm SL

スズキ目 ハゼ科 オキナワハゼ属

ナメラハゼ

Callogobius okinawae
(Snyder, 1908)

形態 背鰭 VI-I, 10-11; 臀鰭 I, 7-9; 胸鰭 15-19; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 40-49; 横列鱗 16-21; 背鰭前方鱗 3-19; 脊椎骨 10+16。体は細長く、頭部から躯幹前部にかけてやや縦扁し、それよりも後方では徐々に側扁する。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' C(S) D(S) E F G H'、前鰓蓋管に開口 M' N O' がある。後眼肩甲管を欠く。頭部下方の 2 縦走孔器列は口角直後で中断する。鰓孔は前鰓蓋骨と主鰓蓋骨の後縁間のほぼ中間下に達する。体の被鱗域は鰓蓋上部の後頭部から始まり、すべて円

鱗。第 1 背鰭は第 2 背鰭とほぼ同じ高さで、両背鰭の基底は大きく離れる。腹鰭に膜蓋があり、不完全な吸盤状で、癒合膜の後縁は湾入する。

色彩 鮮時の体色は、体の地色はほぼ全体が灰みを帯びた茶色で、胸部から腹部にかけては白い。頭部には眼を中心に焦げ茶色の 3 放射状線がある。体側の鱗は中心が白っぽく、正中では 1 縦点列をなす。両背鰭は縁辺を除き全体が茶色で、基底付近に焦げ茶色の斑点列がある。尾鰭は焦げ茶色で、上葉上部に眼径よりも小さい、やや不明瞭な 1 小黒斑がある。腹鰭と臀鰭は淡い茶色もしくは透明で、鰭条に沿って茶色の小斑がある。幼魚は、体に白、茶、焦げ茶の斑模様があり、小さな個体では躯幹部から尾部にかけて焦げ茶色の 3 横帯

がある。頭部の放射状線は明瞭。尾鰭は焦げ茶色で後縁が白く縁取られ、幅広い 1 白色横帯がある。

分布 マーシャル諸島、西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本種は体が細長く、成魚では横帯を欠くこと、第 1・第 2 背鰭の基底間が大きく離れていること、左右の腹鰭は 2 分しないこと、頭部下方の縦走孔器列が口角後方で中断することなどの特徴により、日本産の同属他種から容易に識別できる。本種は礁池内の浅所に生息し、岸寄りのタイドプールの礫下が多い。

(瀬能 宏)

スズキ目 ハゼ科 オキナワハゼ属

フタスジハゼ

Callogobius sclateri
(Steindachner, 1879)

形態 背鰭 VI-I, 9-10; 臀鰭 I, 7-9; 胸鰭 15-18; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 26-34; 横列鱗 10-12; 背鰭前方鱗 11-15; 脊椎骨 10+16。体は太短く、頭部はやや縦扁し、躯幹部から尾部にかけて徐々に側扁する。頭部の感覚管

は、前眼肩甲管に開口 B' C(S) D(S) E F G H' がある。後眼肩甲管と前鰓蓋管を欠く。前鰓蓋管の位置に 3 個の単一孔器がある。頭部下方の 2 縦走孔器列は口角直後で中断しない。鰓孔は前鰓蓋骨と主鰓蓋骨の後縁間の中間下に達しない。体の被鱗域は頬や鰓蓋、後頭部から始まる。被鱗域の前方では円鱗だが、体側鱗は第 1 背鰭起部から後方が櫛鱗となる。第 1 背鰭は第 2 背鰭とほぼ同じ高さで、両背鰭の基底は接する。腹鰭に膜蓋を欠き、左右に 2

分するが、痕跡的な癒合膜で連結する。

色彩 鮮時の体色は、体の地色が黄みあるいは青みを帯びた白色。頭部は焦げ茶色と白の斑模様、躯幹部から尾部にかけての体側鱗は茶色の網目模様をなし、3 本の焦げ茶色の横帯が第 1 背鰭下、第 2 背鰭後半下、尾鰭基底上にある。尾鰭基底上の横帯の幅は狭い。第 1 背鰭の上縁は淡い黄色で縁取られ、第 1-3 棘間の鰭膜に黒斑がある。黒斑から下方には焦げ茶

■ フタスジハゼ *Callogobius sclateri* KAUM-I. 45908, 25.3 mm SL■ フタスジハゼ *Callogobius sclateri* KAUM-I. 51491, 34.2 mm SL

色で、体側の横帯に連なる。第2背鰭の上縁は淡い黄色で縁取られ、それより下方は焦げ茶色の斑模様で、体側の横帯に連なる。尾鰭は透明で、茶色の小斑が鰭条上に並ぶ。臀鰭は縁辺を除いて茶色。腹鰭は透明。幼魚は、頭部に眼を中心とする焦げ茶色の3放射状線あり、体の横帯は明瞭。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では高知県柏島以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本種は体が寸詰まりで、腹鰭は左右に2分すること、第1背鰭の第1-3棘間の鰭膜に1黒色斑があること、腹鰭はほぼ透明であること、成魚でも体側の横帯は明

瞭であること、体側の櫛鱗域は第1背鰭起部下から始まることなどの特徴により、日本産同属他種から識別できる。

本種は、礁池内の浅所にもみられるが、むしろ水深5-15mの礁斜面の礫下から多く採集される。

(瀬能 宏)

スズキ目 ハゼ科 オキナワハゼ属

オキナワハゼ属の一種 4

Callogobius sp. 4

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 18; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗約 25; 横列鱗 8。体はやや太短く、頭部はやや縦扁し、躯幹部から尾部にかけて徐々に側扁する。頭部の感覚管は未発達。後頭部から項部にかけて、体側は円鱗で被われる。第1背鰭は第1-3棘までがほぼ同じ長さで、第2背鰭とほぼ同じ高さ。両背鰭間はやや離れる。

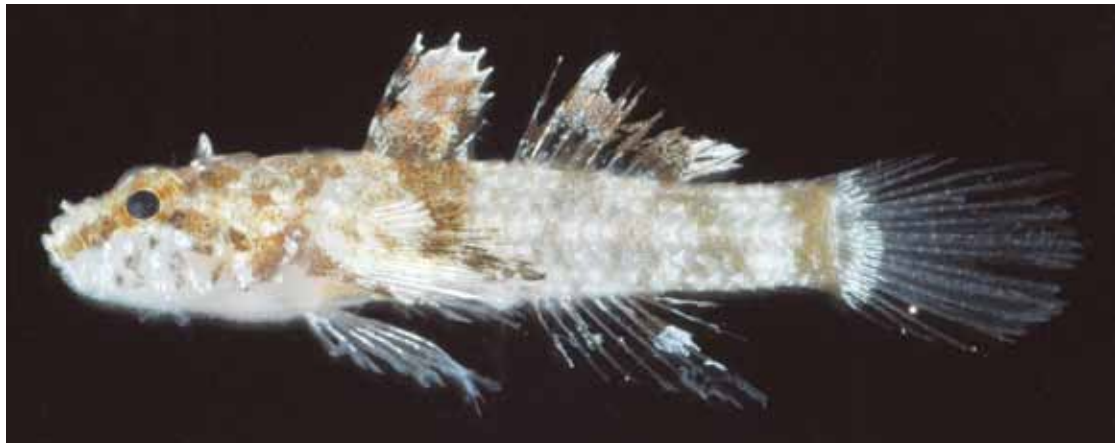
腹鰭は左右に2分し、膜蓋はあるが、癒合膜はない。

色彩 鮮時の体色は、体の地色が灰みを帯びた白色で、頭部には眼を中心とする黄みを帯びた茶色の3放射状線がある。類と、後頭部から項部にかけては白と茶の斑模様。躯幹部から尾部にかけては、黄みを帯びた茶色の2横帯が第1背鰭下と尾鰭基底上にあり、前者の幅は広く、後者は狭い。第2背鰭下の体側には、やや不明瞭な淡い茶色のX字状斑がある。第1背鰭は第1棘に3個の焦げ茶色の小斑点が並び、その後方は白、茶、橙色の斑模様

で、基底近くでは焦げ茶色となり、体側の横帯に連なる。第2背鰭には、やや不規則な淡い茶色の2斜走横帯があり、それぞれは体側のX字状斑に連なる。尾鰭はほぼ全体が透明だが、基底上の横帯の直後は白く、上下1対の淡い茶色の小斑点がある。臀鰭は後部の焦げ茶色斑と白色域を除き透明。胸鰭は鰭条が白く、後方に焦げ茶色の斑紋がある。腹鰭は透明。

分布 与論島。

備考 上記の記載は、与論島の浜前海岸の水深7mの礫下から得られた1標本



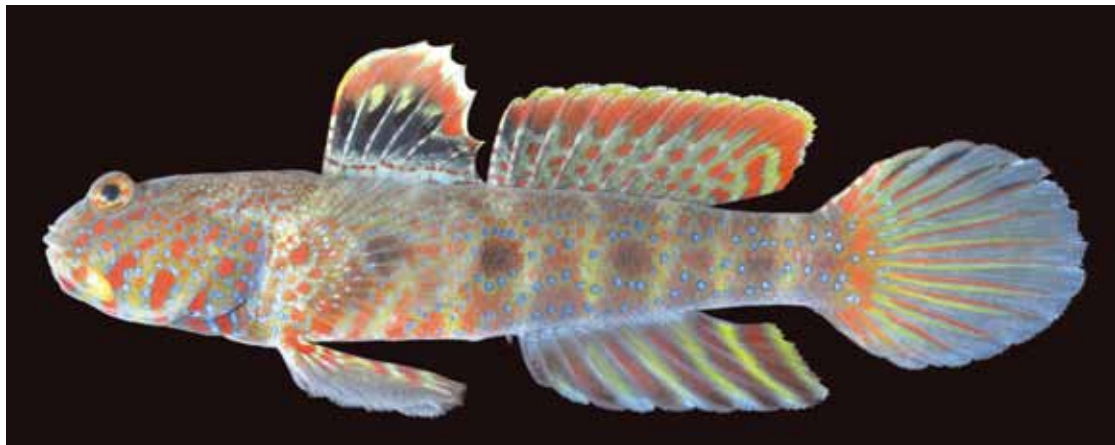
■ オキナワハゼ属の一種 4 *Callogobius* sp. 4 KPM-NI 30898, 9.2 mm SL

(KPM-NI 30898, 体長 9.2 mm) に基づく。この標本は、斑紋の完成度は高いが、体長から判断して幼魚であり、頭部側線系は未完成と考えられる。背鰭前方鱗や縦列鱗は一部が剥離しており、正確に計数できなかった。日本からは、腹鰭が大きく2分し、膜蓋はあるが癒合膜がなく、幼魚期に第

2背鰭下に明瞭な横帯をもたないという特徴を有する種は報告されていないため、学名未確定ではあるが掲載した。Motomura et al. (2010) が報告した *Callogobius* sp. 1 は、鰭や体の斑紋が一見本種に似ているが、腹鰭が完全な吸盤状で明らかに別種である。また、Motomura et al. (2010)

により鈴木ほか (2004) に基づき屋久島から記録された *Callogobius* sp. 2 や *Callogobius* sp. 3 とも色彩が異なるため、与論島産の種を *Callogobius* sp. 4 として区別した。

(瀬能 宏)



■ タカノハハゼ *Cryptocentrus caeruleomaculatus* KPM-NI 30866, 51.6 mm SL

スズキ目 ハゼ科 イトヒキハゼ属

タカノハハゼ

Cryptocentrus caeruleomaculatus
(Herre, 1933)

形態 背鰭 VI-I, 9-10; 臀鰭 I, 8-9; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 58-65; 横列鱗 18-21; 背鰭前方鱗 0; 脊椎骨 10+16。体はやや細長く、側扁する。吻はやや尖る。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開口 K' L'、前鰓蓋管に開口 M' N O' がある。鰓孔は、前鰓蓋骨後縁下に達する。頭部は無鱗。躯幹部から尾部にかけての前

では小円鱗、後方では後方ほど大きな弱い楕円鱗で被われる。第1背鰭は伸長鰭条を欠き、第2背鰭よりもやや高い。腹鰭は吸盤状で、膜蓋と癒合膜が発達する。

色彩 生鮮時の体色は、体の地色は灰みの白から灰みの茶色、あるいは黄色く、頭部には多数の赤色小斑点が斜走点列をなす。体側に灰色から赤みを帯びた茶色のやや不明瞭で幅の広い横帯が6-7本ある。また、ほぼ全域に青色小斑点が散在し、正中に沿って眼径よりやや小さい黒色あるいは暗紫色の小斑が4個並ぶ。これら小斑のうち、少なくとも前方2個はほぼ同大。第1背鰭の鰭膜に1黒色縦列斑がある。臀鰭と腹鰭に赤・青灰・黄からなる鷹の

羽様の縞模様がある。

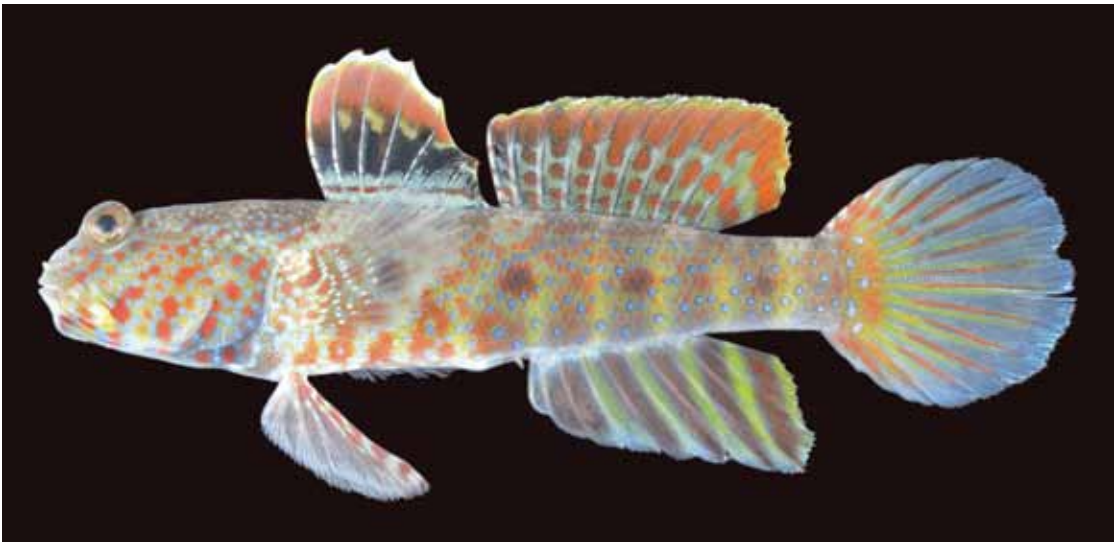
分布 インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 イトヒキハゼ属の計数値は背鰭前方鱗と脊椎骨を除き Yanagisawa (1978) に基づく。本種は、生時、頭部側面に赤色小斑点が斜走点列をなすこと、体側正中の斑紋は少なくとも前方の2個はほぼ同大であることにより、日本産の同属他種から容易に識別できる。河口の周辺や礁池内など、水深8m以浅の砂底や砂泥底に生息し、テッポウエビ類と共生する。

(瀬能 宏)



■ タカノハハゼ *Cryptocentrus caeruleomaculatus* KPM-NI 30868, 45.7 mm SL



■ タカノハハゼ *Cryptocentrus caeruleomaculatus* KPM-NI 30867, 40.8 mm SL



■ タカノハハゼ *Cryptocentrus caeruleomaculatus* KPM-NI 30847, 17.6 mm SL

スズキ目 ハゼ科 イトヒキハゼ属

クロホシハゼ

Cryptocentrus nigrocellatus
(Yanagisawa, 1978)

形態 背鰭 VI-I, 9-10; 臀鰭 I, 8-9; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 70-78; 横列鱗 20-25; 背鰭前方鱗 3; 脊椎骨 10+16。体はやや細長く、側扁する。吻はやや尖る。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開口 K' L'、前鰓蓋管に開口 M' N O' がある。鰓孔は、前鰓蓋骨後縁下に達する。頭部は頂部中央を除き無鱗。躯幹部から尾部にかけては小円鱗で被われる。第 1 背鰭は伸長鰭条を欠き、第 2 背鰭とほぼ同じ高さ。腹鰭は吸盤状で、膜蓋と癒合膜が発達する。

色彩 生時の体色は、体の地色は黄色みあるいは灰みを帯びた茶色で、後頭部から

尾柄背部にかけて白色鞍状斑が 5 個並ぶ。眼隔域から下顎先端にかけては白い。鰓蓋に眼径よりも大きい、白い縁取りの明瞭な黒色眼状斑がある。躯幹部から尾部にかけての体側には、背部に瞳孔大の 4-5 個の黒色小斑が 1 列に並ぶ。背部以外では大小の白・茶・黒の色斑がまだら模様を作るが、体側正中では黒色縦斑列、腹部では白と黒の横帯を形成する傾向がある。背鰭と尾鰭全体に灰みを帯びた茶色の小斑点あるいは小斑点列がある。臀鰭に 5 本の焦げ茶色あるいは黒色の斜走帯がある。腹鰭に焦げ茶色あるいは黒色と白色の縞模様がある。

分布 フィリピン諸島およびスマトラからニューギニア島西部にかけて分布する。国内では駿河湾以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本種は鰓蓋の大きな黒色眼状斑により、日本産の同属他種から容易に識別でき



■ クロホシハゼ *Cryptocentrus nigrocellatus*
16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

る。礁池内や礁斜面などサンゴ礁の水深 18 m 以浅に生息し、砂地に面した岩盤の下でテッポウエビ類と共生する。

(瀬能 宏)



■ オビシノビハゼ *Ctenogobiops aurocingulus* KPM-NI 30865, 19.7 mm SL

スズキ目 ハゼ科 シノビハゼ属

オビシノビハゼ

Ctenogobiops aurocingulus
(Herre, 1935)

形態 背鰭 VI-I, 11; 臀鰭 I, 11; 胸鰭 18-20; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 48-56; 横列鱗 17-22; 背鰭前方鱗 0; 脊椎骨 10+16。体はやや細長く、側扁する。吻はやや尖る。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開口 K' L'、前鰓蓋管に開口 M' N O' がある。鰓孔は、前鰓蓋骨後縁下をわずかに越える。頭部は無鱗。躯幹部から尾部にかけての体側は後方ほど大きい弱い楕円鱗で被われる。腹部は大部分が円鱗で被われる。

第 1 背鰭は第 2 背鰭よりも高く。伸長鰭条を欠き、第 1・第 2 棘は他の棘よりも明らかに長く、前者が最長。腹鰭は吸盤状で、膜蓋と癒合膜が発達する。

色彩 生鮮時の体色は、体の地色はうすい黄色あるいは黄色みを帯びた白色。頬に 2 条の焦げ茶色の小斑点列が斜走し、それぞれの斑点は黄色線で連なる傾向がある。躯幹部から尾部にかけての体側に、灰みを帯びた茶色のやや不明瞭な斑点が 3 縦列斑を形成する。これらのうち、上 2 列は眼径大、下 1 列は瞳孔大で、これらの上を被うように黄色あるいは茶色の明瞭な小斑が散在し、それらは体側下半部では黄色横線となる。第 1 背鰭の基底近くに黄色あるいは黒色の弧状縦線がある。第 2 背

鰭の正中よりやや基底側に橙色と水色の 2 重縦線がある。臀鰭の正中より縁辺側に黄色と水色の 2 重縦線があり、その縁辺側は幅広く黒ずむ。胸鰭に明瞭な 1 白色斑がある。

分布 マーシャル諸島、サモア諸島、東インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本属魚類は胸鰭基底に 1 白色斑が目立つことが特徴。本種は頬の斑紋が 2 条の斜走斑点列であること、第 1 背鰭第 1 棘が最長で、糸状に伸長しないこと、体側下半に黄色横線があることで日本産の同属他種から容易に識別される。

(瀬能 宏)

■ オビシノビハゼ *Ctenogobius aurocingulus* KPM-NI 30809, 40.9 mm SL■ シノビハゼ *Ctenogobius pomastictus* KPM-NI 30870, 46.8 mm SL

スズキ目ハゼ科シノビハゼ属

シノビハゼ

Ctenogobius pomastictus
Lubbock & Polunin, 1977

形態 背鰭 VI-I, 11-12; 臀鰭 I, 11-12; 胸鰭 18-20; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 52-64; 横列鱗 19-26; 背鰭前方鱗 0; 脊椎骨 10+16。体はやや細長く、側扁する。吻はやや尖る。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開口 K' L'、前鰓蓋管に開口 M' N' O' がある。鰓孔は、前鰓蓋骨後縁下をわずかに越える。頭部は無鱗。躯幹部から尾部にかけての体側は後方ほど大きい弱い櫛鱗で被われる。腹部は大部分が円鱗で被われる。

第1背鰭は伸長鰭条を欠き、第2背鰭よりもわずかに高い。第2棘または第3棘が最長。腹鰭は吸盤状で、膜蓋と癒合膜が発達する。

色彩 生鮮時の体色は、体の地色はうすい黄色あるいは黄色みを帯びた白色。頬に2条の橙色あるいは焦げ茶色の小斑点列が縦走し、それぞれの斑点は黄色線で連なる傾向がある。躯幹部から尾部にかけての体側に3縦列斑がある。上2列の斑点は灰みを帯びた茶色で、輪郭が不明瞭。また、背側の1列は瞳孔大、正中の1列は眼径大。腹側の1列は瞳孔大で、青い縁取りのある黄色円形斑からなる。第1背鰭の基底近くに黄色あるいは橙色の弧状縦線がある。第2背鰭の正中よりやや基底

側に黄色縦線がある。臀鰭の正中より基底側に黄色と水色の2重縦線があり、その縁辺側は幅広く黒ずむ。胸鰭に明瞭な1白色斑がある。

分布 マーシャル諸島、インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では駿河湾以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本種は頬の斑紋が2縦列斑であること、尾部の腹側に1縦列斑があること、第1背鰭に伸長鰭条を欠くことにより、日本産の同属他種から容易に識別される。

(瀬能 宏)

■ イソハゼ *Eviota abax* Male KPM-NI 30822, 20.3 mm SL■ イソハゼ *Eviota abax* KPM-NI 30890, 14.6 mm SL■ イソハゼ *Eviota abax* KPM-NI 30849, 17.2 mm SL■ イソハゼ *Eviota abax* KPM-NI 30824, 15.4 mm SL■ イソハゼ *Eviota abax* KPM-NI 30874, 15.2 mm SL■ イソハゼ *Eviota abax* KPM-NI 30889, 14.5 mm SL

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

イソハゼ

Eviota abax
(Jordan & Snyder, 1901)

形態 背鰭 VI-I, 10; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 7+6, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 25; 横列鱗 8; 背鰭前方鱗 0。頭部感覚管は本属魚類としては完全型で、前眼肩胛管に開口 N' O' (S) D(S) E F H'、前鰓蓋管に開口 N' O' がある。第 1 背鰭第 1 棘は糸状に伸長し、後端を倒すと第 2 背鰭第 2 軟条基底に達する。胸鰭第 4-15 軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第 5 軟条は不分枝で短くその長さは第 4 軟条の 14%、第 4 軟条は 4 本の分枝を持ち各分枝間に 9-11 分節がある、第 3 と 4 軟条間の鰭膜は先端近くまで発達する。胸鰭基底上端から第 1 背鰭後端を結ぶ線より前方、胸鰭基底、腹鰭前方は無鱗、腹部は円鱗、残りの体側は楯鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色は黄みから青みの白・半透明、体側鱗の各鱗鞘に明るいオレンジの横斑がある。頭部にこいオレンジ斑が密在、主鰓蓋部上方の項部に 1 黒斑がある。眼下に黒の 3 垂線、後半部に多数の黒斑が、それぞれ皮下にある。胸鰭基部に 2 個の黄みのブラウン斑がある。体側中央に 7 個、体腹側に 9 個の黒斑が皮下に並ぶ。各鰭はグレイ、第 1 背鰭第 1 棘に先端に向かって暗いブラウンの斑点が並ぶ。背鰭と尾鰭に明るいオレンジの点列がある。臀鰭鰭条に明るいオレンジ斑がある。

分布 济州島、日本、台湾。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、青森県から長崎県の日本海・東シナ海沿岸、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本項の記載は与論島茶花水深 2-3 m で採集された 1 標本 (KPM-NI 30822、雄、体長 20.3 mm) に基づく。観察標本

は Lachner & Kamella (1980) の *E. abax* に一致する。腹鰭は第 4 軟条に 4 本の分枝を持ち、第 3 と 4 軟条間の鰭膜は先端近くまで発達する、第 1 背鰭第 1 棘に先端に向かって暗色点と並ぶ、項部の 1 黒斑は背面にあるなどで近似的なミナミイソハゼ *E. japonica* Jewett & Lachner, 1983 と区別可能 (ミナミイソハゼでは同 4 軟条は 13 本の分枝を持ち、同鰭膜の発達は悪い、同棘の上半部に暗点がない、同 1 黒斑は側面にある)。

(鈴木寿之)

■ コビトイソハゼ *Eviota distigma* Male KPM-NI 30850, 16.9 mm SL

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

コビトイソハゼ

Eviota distigma

Jordan & Seale, 1906

形態 背鰭 VI-I, 8; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条破損, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 26; 横列鱗 6; 背鰭前方鱗 0。頭部感覚管はイソハゼと同様。第 1 背鰭棘は伸長しない。胸鰭第 10-16 軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第 5 軟条は不分枝で短くその長さは第 4 軟条の 10%、第 4 軟条は 11 本の分枝をもち各分枝間に 1-2 分節がある、第 3 と 4 軟条間の鰭膜は先端近くまで発達す

る。鰓膜上後端から第 1 背鰭第 5 棘基底を結ぶ線より前方、胸鰭基底、腹鰭前方は無鱗、腹部は円鱗、残りの体側は櫛鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色は青みの白・半透明、黒の微小点が散在し、体側鱗の各鱗鞘にこい赤の横斑がある。頭部にオレンジからブラウン系の斑点が密在する。胸鰭基部に 2 個の黒斑がある。体腹側に 7 個の黒斑が皮下に並ぶ。尾柄部後端付近の中央に 1 個の大きな黒斑が皮下にある。垂直鰭はグレイ、さえた黄みの赤の縁辺に沿う縞模様がある。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋。国

内では小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本項の記載は与論島茶花水深 2 m で採集された 1 標本 (KPM-NI 30850、雄、体長 16.9 mm) に基づく。観察標本は Lachner & Karnella (1980) の *E. distigma* に一致する。尾柄部後端付近の中央に 1 黒斑がある、胸鰭基部に 2 黒斑がある、背鰭に赤系の縞斑紋があるなどで近似のコメツイソハゼ *E. nigramembrana* Greenfield & Suzuki, 2013 と区別可能 (コメツイソハゼでは尾柄部後端付近の背側に 1 黒斑がある、胸鰭基部に赤系の 1 横斑がある、背鰭に縞斑紋がない)。

(鈴木寿之)

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

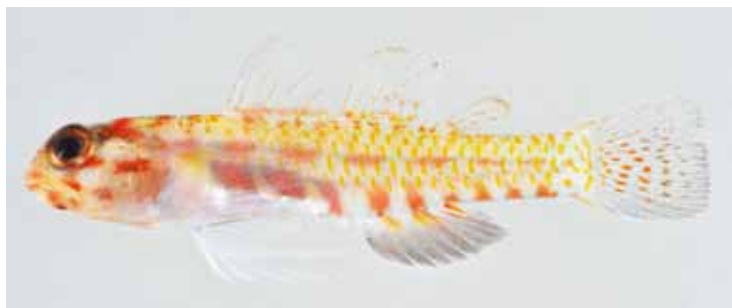
シロイソハゼ

Eviota guttata

Lachner & Karnella, 1978

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 18; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 6+6, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 23; 横列鱗 7; 背鰭前方鱗 0。頭部感覚管はイソハゼと同様。第 1 背鰭棘は伸長しない。胸鰭第 5-17 軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第 5 軟条は不分枝で短くその長さは第 4 軟条の 8%、第 4 軟条は 8 本の分枝を持ち各分枝間に 1 分節がある、第 3 と 4 軟条間の鰭膜は先端近くまで発達する。胸鰭基底上端から第 1 背鰭後端を結ぶ線より前方、胸鰭基底、腹鰭前方は無鱗、腹部は円鱗、残りの体側は櫛鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色は黄みの白・半透明、体腹側をのぞく体側鱗の各鱗鞘にさえた黄の横斑がある。頭部前半部はさえた

■ シロイソハゼ *Eviota guttata* KPM-NI 30769, 13.7 mm SL

黄、さえたオレンジ斑が散在し、眼の後方に 1 黒斑が皮下にある。胸鰭基部にあさい黄とうすいピンクの 2 斑がある。体背面に明るい赤みの黄点が密在する。腹部皮下にさえた黄とつよい赤みのオレンジの斜帯が 3 個ずつ交互に並び、体側中央に 7 個、尾部腹側に 6 個の明るい赤みのオレンジ斑が皮下に並ぶ。垂直鰭は灰みの白

からグレイ、第 2 背鰭と尾鰭にさえた黄点が散在、臀鰭基底にさえた黄斑がある。

分布 西インド洋と西太平洋。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本項の記載は与論島麦屋水深 6-8

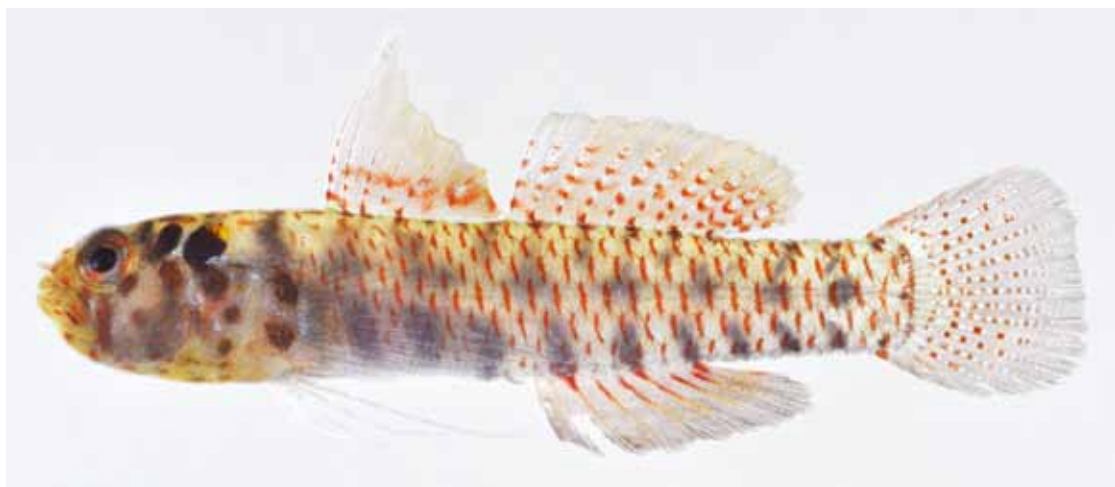


■ シロイソハゼ *Eviota guttata* Male KPM-NI 30791, 17.7 mm SL

mで採集された1標本(KPM-NI 30791、雄、体長17.7 mm)に基づく。観察標本はGreenfield & Randall (2010)の*E. guttata*

に一致する。頭部表面に黒斑がない、体側の赤系斑は長方形などで近似のアカホシイソハゼ*E. melasma* Lachner & Karnella,

1980 やクロホシイソハゼ*E. smaragdus* Jordan & Seale, 1906 と区別できる。(鈴木寿之)



■ ミナミイソハゼ *Eviota japonica* Male KPM-NI 30823, 17.1 mm SL



■ ミナミイソハゼ *Eviota japonica* Male KPM-NI 30825, 13.5 mm SL



■ ミナミイソハゼ *Eviota japonica* KPM-NI 30793, 11.7 mm SL



■ ミナミイソハゼ *Eviota japonica* KPM-NI 30862, 11.5 mm SL



■ ミナミイソハゼ *Eviota japonica* KPM-NI 30891, 12.6 mm SL

ススキ目 ハゼ科 イソハゼ属

ミナミイソハゼ

Eviota japonica

Jewett & Lachner, 1983

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 7+7, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 26; 横列鱗 6; 背鰭前方鱗 0。頭部感覚管はイソハゼとほぼ同様であるが、前眼肩胛管に開孔 H' がない。第 1 背鰭第 1 棘はやや伸長し、後端を倒す

第 2 背鰭第 1 軟条基底に達する。胸鰭第 9-14 軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第 5 軟条は不分枝で短くその長さは第 4 軟条の 12%、第 4 軟条は 13 本の分枝を持ち各分枝間に 1-2 分節がある、第 3 と 4 軟条間の鰭膜の発達が悪い。胸鰭基底上端から第 1 背鰭後端を結ぶ線より前方、胸鰭基底、腹鰭前方は無鱗、腹部は円鱗、残りの体側は楯鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色は黄みから青み

の白・半透明、体側鱗の各鱗鞘にさえたオレンジの横斑がある。頭部先端にさえたオレンジ点が密在、眼の後方と前鰓蓋骨後縁上方に 2 個の黒斑がある。眼下にこい赤の 2 垂線、頭部後半部に多数のこい赤斑が、それぞれ皮下にある。胸鰭基部に 2 個のこい灰みのブラウン斑がある。体背側に 6 個、体側中央に 7 個、体腹側に 10 個の黒斑が皮下に並ぶ。垂直鰭はグレイ、背鰭と尾鰭に明るい黄みの赤の点列がある。臀鰭鰭条に明るい黄みの赤斑がある。

分布 三重県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本項の記載は与論島茶花水深 2-3 m で採集された 1 標本 (KPM-NI 30823、雄、体長 17.1 mm) に基づく。観察標本は Jewett & Lachner (1983) の *E. japonica* の原記載や図に一致する。胸鰭基底下方に黒点がない、臀鰭起部から尾鰭基部下端にかけ 7 黒斑があるなどで近似のホシレイソハゼ *E. queenslandica* Whitley, 1932 と区別可能 (ホシレイソハゼでは胸鰭基底下方に 1 黒点がある、臀鰭起部から尾鰭基部下端にかけ 6 黒斑がある)。(鈴木寿之)



■ アカホシイソハゼ *Eviota melasma* Male KPM-NI 30744, 17.9 mm SL

ススキ目 ハゼ科 イソハゼ属

アカホシイソハゼ

Eviota melasma

Lachner & Karnella, 1980

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 17; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 6+6, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 24; 横列鱗 7; 背鰭前方鱗 0。頭部感覚管はイソハゼと同様。第 1 背鰭棘は伸長しない。胸鰭第 12-16 軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第 5 軟条は不分枝で短くその長さは



■ アカホシイソハゼ *Eviota melasma* KPM-NI 30768, 15.5 mm SL

第4軟条の12%、第4軟条は7本の分枝を持ち各分枝間に1-3分節がある、第3と4軟条間の鰭膜は先端近くまで発達する。胸鰭基底上端から第1背鰭第4棘基底を結ぶ線より前方、胸鰭基底、腹鰭前方は無鱗、腹部は円鱗、残りの体側は楯鱗を被る。

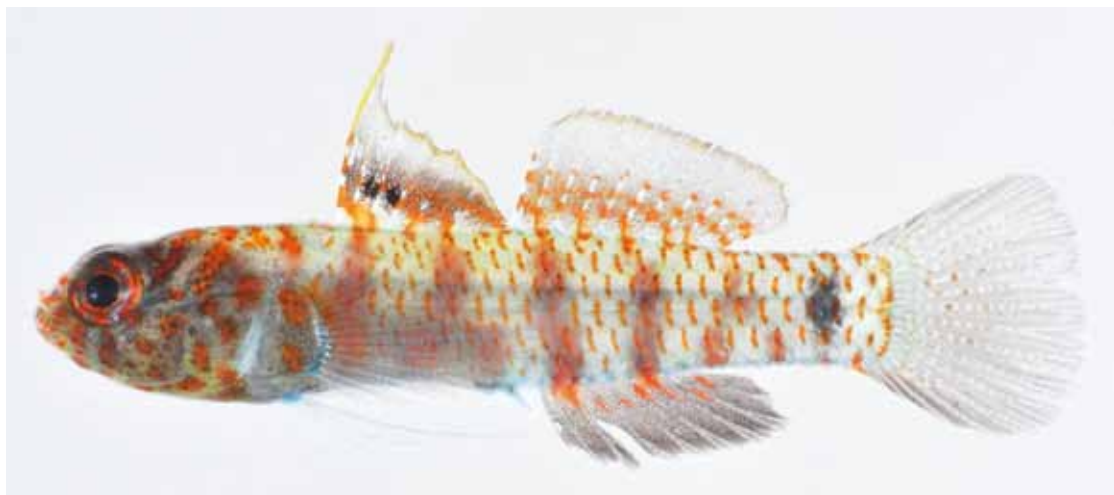
色彩 生鮮時、体の地色は灰みの白・半透明、腹部は白、体腹側をのぞく体側鱗の各鱗鞘に明るいオレンジの横斑がある。頭部に明るい赤みのオレンジ斑が散在し、

鰓蓋部上方に1黒斑がある。胸鰭基部に2個の明るい赤みのオレンジ斑がある。体側中央に7個、体腹側に10個の明るい赤みのオレンジ斑が皮下に並ぶ。垂直鰭は明るいグレイからグレイ、第2背鰭は黄みがあり、尾鰭にオレンジ系の小斑が散在し、臀鰭基底に3個の明るい赤みのオレンジ斑がある。腹鰭は白である。

分布 東インド・西太平洋、サモア諸島、マーシャル諸島。国内では愛媛県、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本項の記載は与論島茶花水深6-8mで採集された1標本(KPM-NI 30744、雄、体長17.9mm)に基づく。観察標本はLachner & Karnella (1980)の*E. melasma*の原記載や図に一致する。項部の1黒斑は側面にある、体側の赤系斑は長方形などで近似のシロイソハゼ*E. guttata* Lachner & Karnella, 1978 やクロホシイソハゼ*E. smaragdus* Jordan & Seale, 1906と区別可能。

(鈴木寿之)



■ ナンヨウミドリハゼ *Eviota prasina* Male KPM-NI 30792, 12.7 mm SL

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

ナンヨウミドリハゼ

Eviota prasina
(Klunzinger, 1871)

形態 背鰭 VI-I, 10; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 17; 腹鰭 I, 4; 尾鰭分枝鰭条 6+6, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 24; 横列鱗 7; 背鰭前方鱗 0。頭部感覚管はイソハゼとほぼ同様であるが、前眼肩胛管に開孔 H' がない。第1背鰭棘は伸長しない。胸鰭第11-16軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第5軟条もない、第4軟条は7本の分枝を持ち各分枝間に2分節がある、第3と4軟条間の鰭膜の発達は悪い。胸鰭基底上端から第1背鰭後端を結ぶ線より前方、胸鰭基底、腹鰭前方は無鱗、腹部は円鱗、残りの体側は楯鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色はうすい緑・半透明、体側鱗の鱗鞘前部につよい赤みの黄の横斑がある。頭部につよい赤みの黄斑が密在、胸鰭基底に同色の横斑がある。体側に5個、体腹側に7個のあさいブラウン斑が皮下に並ぶ。尾柄部後端付近の中央に1個の黒斑が皮下にある。垂直鰭は



■ ナンヨウミドリハゼ *Eviota prasina* Male KAUM-I. 40005, 17.6 mm SL



■ ナンヨウミドリハゼ *Eviota prasina* Female KAUM-I. 40006, 18.0 mm SL

明るいグレイ色、背鰭と尾鰭につよい赤みの黄点が散在する。

分布 インド・西太平洋。国内では伊豆諸島、千葉県以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本項の記載は与論島麦屋水深0.5-1 mで採集された1標本 (KAUM-I. 40005、雄、体長 17.6 mm) に基づく。観察標本は Lachner & Karnella (1980) の *E. prasina* に一致する。頭部の黄系斑が点状で垂帯にならないことで近似のミドリハゼ *E.*

toshiyuki Greenfield & Randall, 2010 と区別可能 (ミドリハゼでは頭部に5-6本の赤系のジグザグ横帯がある)。

(鈴木寿之)



■ ホシヒレイソハゼ *Eviota queenslandica* KPM-NI 30772, 13.7 mm SL



■ ホシヒレイソハゼ *Eviota queenslandica* Male KPM-NI 30771, 14.7 mm SL



■ ホシヒレイソハゼ *Eviota queenslandica* KPM-NI 30773, 12.4 mm SL



■ ホシヒレイソハゼ *Eviota queenslandica* KPM-NI 30722, 14.3 mm SL

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

ホシヒレイソハゼ

Eviota queenslandica
Whitley, 1932

形態 背鰭 VI-1, 10; 臀鰭 I, 9; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 7+6, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 24; 横列鱗 7; 背鰭前方鱗 0。頭部感覚管はイソハゼとほぼ同様であるが、前眼肩胛管に開孔 H' がない。第1背鰭棘は伸長しない。胸鰭第 12-15 軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第 5 軟条は不分枝で短くその長さは第 4 軟条の 8%、第 4 軟条は 9 本の分枝を持ち、第 3 と 4 軟条間の鰭膜の発達が悪い。胸鰭基底上端から第 1 背鰭後端を結ぶ線より前方、胸鰭基底、腹鰭前方は無鱗、腹部は円鱗、残りの体側は楯鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色は黄みから青みの白・半透明、腹部をのぞく体側鱗の各鱗鞘に明るいオレンジの横斑がある。頭部先端にこい黄みのピンク点が密在、眼の後方と前鰓蓋骨後縁上方に 2 個の暗い灰みのブラウン斑がある。眼下にこい黄みのピンクの 2 垂線、頭部後半部に黒小点が密在する多数のオレンジ系斑が、それぞれ皮下にある。胸鰭基部に 2 個、その下方に 1 個、黒小点が密在するこいオレンジ斑がある。体側中央に 6 個、体腹側に 8 個の黒斑が皮下に並ぶ。垂直鰭はグレイ、背鰭と尾鰭に明るい赤みのオレンジの点列がある。

分布 東インド・西太平洋。国内では徳島県、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本項の記載は与論島麦屋水深 6-8

m で採集された 1 標本 (KPM-NI 30771、雄、体長 14.7 mm) に基づく。観察標本は Lachner & Karnella (1980) の *E. queenslandica* に一致する。尾柄部後端付近の中央に黒斑がない、胸鰭基底下方に 1 黒点がある、臀鰭起部から尾鰭基底下端にかけ 6 黒斑があるなどで近似のナンヨウミドリハゼ *E. prasina* (Klunzinger, 1871) と区別可能 (ナンヨウミドリハゼでは尾柄部後端付近の中央に 1 黒斑がある、胸鰭基底下方に 1 黒点がない、臀鰭起部から尾鰭基底下端にかけ 5 黒斑がある)。

(鈴木寿之)

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

ムスジイソハゼ

Eviota saipanensis

Fowler, 1945

形態 背鰭 VI-1, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 4; 尾鰭分枝鰭条 6+6, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 24; 横列鱗 7; 背鰭前方鱗 0。頭部感覚管はイソハゼとほぼ同様であるが、前眼肩胛管に開孔 H' がない。第 1 背鰭第 1 棘は糸状に伸長し、後端を倒すと第 2 背鰭第 7 軟条に達する。胸鰭第 10-15 軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第 5 軟条もない、第 4 軟条は 7 本の分枝を持ち各分枝間に 1-2 分節がある、第 3 と 4 軟条間の鰭膜の発達が悪い。雄の生殖突起基部の左右にヒダ状皮弁がある。胸鰭基底上端から第 2 背鰭起点を結ぶ線より前方、胸鰭基底、腹鰭前方は無鱗、腹部は円鱗、残りの体側は楯鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色はあさい黄緑・半透明である。頭部に 4 本、胸鰭基部に 1

■ ムスジイソハゼ *Eviota saipanensis* Male KAUM-I. 51462, 15.2 mm SL

本のさえた赤の横帯、尾柄部後端付近の中央に 1 個の黒斑がある。体側に 6 本のにぶい赤の横帯が皮下に並ぶ。垂直鰭は紫みのピンク、尾鰭にさえた赤の小点列がある。

分布 台湾南部、マリアナ諸島、パラオ諸島、カロリン諸島、琉球列島、大東諸島。

備考 本項の記載は与論島茶花と論港付近タイドプール水深 0.5 m で採集された 1 標本 (KAUM-I. 51462、雄、体長 15.2 mm) に基づく。観察標本は Lachner & Karnella (1980) の *E. saipanensis* に一致する。頭部に 4 本、胸鰭基部に 1 本、体側皮下に 6 本の赤系の横帯が並ぶことで同属他種と区別できる。

(鈴木寿之)

■ クロホシイソハゼ *Eviota smaragdus* Male KAUM-I. 45934, 21.3 mm SL

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

クロホシイソハゼ

Eviota smaragdus

Jordan & Seale, 1906

形態 背鰭 VI-1, 9; 臀鰭 I, 9; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 6+6, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 23; 横列鱗 7; 背鰭前方鱗 0。頭部感覚管はイソハゼと同様。第 1 背鰭棘は伸長しない。胸鰭第 3-15 軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第 5 軟条は不分枝で短くその長さは第 4 軟条の 13%、第 4 軟条は 7 本の分枝を持ち各分枝間に 4-6 分節がある、第 3 と 4 軟

条間の鰭膜は先端近くまで発達する。胸鰭基底上端から第 2 背鰭第 4 軟条基底を結ぶ線より前方、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部は無鱗、残りの体側は楯鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色はうすい黄緑・半透明である。頭部先端は黒、あさいオレンジ斑が散在し、主鰓蓋部上方の背面に 1 黒斑、胸鰭基部に 2 個のさえたオレンジ斑がある。体背側に 5 個、体側中央に 5 個、体腹側に 9 個のにぶい紫みの赤斑が皮下に並ぶ。垂直鰭はオリーブみのグレイ、背鰭基底にライラックの縦帯、尾鰭ににぶい紫みの赤点が散在する。

分布 マリアナ諸島、ニューヘブリデス諸島、ノーフォーク島、フィジー諸島、サモア諸島、オーストラリア北西岸・北東岸、大隅諸島、琉球列島。

備考 本項の記載は与論島茶花水深 0.5 m で採集された 1 標本 (KAUM-I. 45934、雄、体長、21.3 mm) に基づく。観察標本は Lachner & Karnella (1980) の *E. smaragdus* に一致する。項部の 1 黒斑は背面にある、体側皮下の赤系斑は丸いなどで近似のシロイソハゼ *E. guttata* Lachner & Karnella, 1978 やアカホシイソハゼ *E. melasma* Lachner & Karnella, 1980 と区別可能。

(鈴木寿之)



■ キンホシイソハゼ *Eviota storthynx* Male KPM-NI 30857, 15.6 mm SL



■ キンホシイソハゼ *Eviota storthynx* Male KPM-NI 30859, 16.2 mm SL



■ キンホシイソハゼ *Eviota storthynx* KPM-NI 30858, 17.1 mm SL



■ キンホシイソハゼ *Eviota storthynx* KPM-NI 30878, 13.3 mm SL

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

キンホシイソハゼ

Eviota storthynx
(Rofen, 1959)

形態 背鰭 VI-I, 8; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 6+5, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 23; 横列鱗 6; 背鰭前方鱗 0。頭部感覚管はイソハゼとほぼ同様であるが、前眼肩胛管に開孔 'H' がない。第1背鰭第1-3棘は糸状に伸長し、最長の第2棘の後端を倒すと尾柄部に達する。胸鰭軟条は全て分枝しない。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第5軟条は不分枝で短くその長さは第4軟条の12%、第4軟条は7本の分枝を持ち各分枝間に3-4分節がある、第3と4軟条間の鰭膜は先端近くまで発達する。胸鰭基底上端から第1背鰭第5棘基底を結ぶ線より前方、胸鰭基底、腹鰭前方は無鱗、腹部は円鱗、残りの体側は楯鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色は灰みの白・半透明、腹部をのぞく体側鱗の各鱗軸にあざ

■ キンホシイソハゼ *Eviota storthynx* KPM-NI 30861, 15.1 mm SL

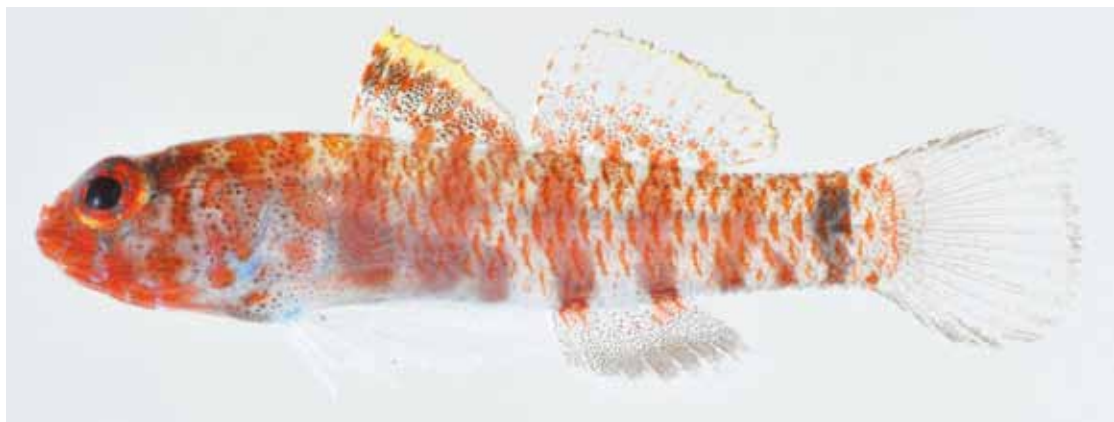
い黄の横斑がある。鼻管は明るい赤、頭部側・腹面はピンク、眼の後方と前鰓蓋骨下縁にこい青斑、胸鰭基部に2個の明るい黄みのオレンジ斑がある。腹腔上部は黒、尾部下半部に1本梯子状の黒斑がある。第1背鰭下半部、第2背鰭、臀鰭、尾鰭下部は紫みのピンク、第1背鰭前4棘は先端に向かって赤から黒の点列がある。第2背鰭に明るいオレンジの点列がある。尾鰭にさえた黄と黒の点列の縞模様がある。

分布 東インド・西太平洋。国内では小笠

原諸島、伊豆諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、長崎県、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本項の記載は与論島茶花水深5mで採集された1標本(KPM-NI 30857、雄、体長15.6mm)に基づく。観察標本はLachner & Kamella (1980)の*E. storthynx*に一致する。尾鰭基部に3個の黒点が横に並び、尾鰭に黒と黄系の縞模様があるなどで近似のハナグロイソハゼ*E. shimadai* Greenfield & Randall, 2010と区別可能(ハナグロイソハゼではないずれもない)。

(鈴木寿之)

■ ミドリハゼ *Eviota toshiyuki* KPM-NI 30774, 11.7 mm SL

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

ミドリハゼ

Eviota toshiyuki
Greenfield & Randall, 2010

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 4; 尾鰭分枝鰭条 6+6, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 23; 横列鱗 6; 背鰭前方鱗 0。頭部感覚管はイソハゼと同様。第1背鰭棘は伸長しない。胸鰭第11-15軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第5軟条もない、第4軟条は5本の分枝を持ち各分枝間に1-2分節がある、第3と4軟条間の鰭膜の発達は悪い。胸鰭基底上端から第2背鰭起部を結ぶ線よ

り前方、胸鰭基底、腹鰭前方は無鱗、腹部は円鱗を、残りの体側は楯鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色は灰みの白・半透明、腹部をのぞく体側鱗の各鱗軸にさえた黄みの赤の横斑がある。頭部に5-6本のさえた黄みの赤のジグザグ横帯がある。胸鰭基部に2個さえた黄みの赤斑がある。体側に5本のこい赤の横帯、体腹側に8個の暗いグレイ斑が皮下に並び、尾柄部後端付近の背側に1黒斑が皮下にある。垂直鰭は無色・透明、背鰭に黒点とさえた黄みの赤斑が散在し、あさい黄と黒の帯で縁取られる。臀鰭に黒点が密在し、基底に2個のさえた黄みの赤斑がある。

分布 伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島、南大東島。

備考 本項の記載は与論島屋水水深6-8mで採集された1標本(KPM-NI 30774、体長11.7mm)に基づく。観察標本はGreenfield & Randall (2010)の*E. toshiyuki*の原記載や図に一致する。前眼肩胛管に開孔 'H' がある、頭部に赤系のジグザグ横帯がある、胸鰭基部の斑紋は円形、尾柄部後端付近に大きな1黒斑がある、尾鰭に赤点はないなどで近似のイソハゼ属の一種4と区別可能。

(鈴木寿之)

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

イソハゼ属の一種 1

Eviota sp. 1

形態 背鰭 VI-I, 8; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 4; 尾鰭破損; 縦列鱗 24; 横列鱗 5; 背鰭前方鱗 0。頭部感覚管はイソハゼとほぼ同様であるが、前眼肩胛管に開孔 H' がない。第 1 背鰭第 2 棘が最長であるが伸長しない。胸鰭第 9-13 軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第 5 軟条もない、第 4 軟条は 8 本の分枝を持ち各分枝間に 1 分節がある。第 3 と 4 軟条間の鰭膜の発達が悪い。胸鰭基底上端から第 2 背鰭起部を結ぶ線より前方、胸鰭基底、腹鰭前方は無鱗、腹部は円鱗、残りの体側は楯鱗を被る。

■ イソハゼ属の一種 1 *Eviota* sp. 1 KAUM-I. 40383, 12.0 mm SL

色彩 死後、やや時間を経た体の地色は白である。眼から上後方に 2 本のブラウン系斜線、項部に数本のブラウン系横帯、胸鰭基部に 1 個のブラウン系斑がある。躯幹部に 2 本、臀鰭上方の尾部に 2 本の太いブラウン系横帯、尾柄部に 2 個の X 字状のブラウン系斑がある。

備考 本項の記載は与論島前浜海岸沖水深 2-10 m で採集された 1 標本 (KAUM-I. 40383、体長 12.0 mm) に基づく。未記載種と考えられ、現在著者らにより研究が進められている。眼から上後方に走る 2 暗色斜線や胸鰭基部にある 1 暗色斑などが特徴である。

(鈴木寿之)

分布 与論島と西表島。

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

イソハゼ属の一種 2

Eviota sp. 2

形態 背鰭 VI-I, 8; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 4; 尾鰭分枝鰭条 6+6, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 21 (右側); 横列鱗 5; 背鰭前方鱗 0。頭部感覚管は本属魚類としては未発達で、前眼肩胛管に開孔 B' C(S) D(S) E' があり、前鰓蓋管はない。第 1 背鰭第 1 棘が最長で、糸状によく伸長し、後端は倒すと第 2 背鰭基底後端に達する。胸鰭軟条は全て分枝しない。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第 5 軟条もない、第 4 軟条は 2 本の分枝を持ち、第 3 と 4 軟条間の鰭膜の発達が悪い。第 1 背鰭前部下方の体側中央から第 2 背鰭第 4 棘基底と、臀鰭起部をそれぞれ結ぶ線より前は無鱗、残りの体側には楯鱗を被る。

■ イソハゼ属の一種 2 *Eviota* sp. 2 Male KAUM-I. 50855, 11.3 mm SL

る。躯幹部に 2 本、尾部に 1 本の太い黄みのブラウン横帯、3 個の X 字状の黄みのブラウン斑がある。

分布 与論島と西表島からのみ知られている。

備考 本項の記載は与論島茶花漁港水深 15-17 m で採集された 1 標本 (KAUM-I. 50855、雄、体長 11.3 mm) に基づく。西表島産の体長 9.8 mm の幼魚の生鮮時の体の地色はうすいベージュで微小黒点が密在する。イソハゼ属の 1 種 1 に斑紋が類似するが、本種の腹鰭第 4 軟条は 2 本の

分枝をもつ、胸鰭基部に 2 個の暗色斑をもつなどで区別可能 (イソハゼ属の一種 1 では第 4 軟条は 8 本の分枝をもち、胸鰭基部に 1 個の暗色斑がある)。未記載種と考えられ現在著者により研究中である。またヤミイソハゼ *E. lacrimae* Sunobe, 1988 にも類似するが、生時や鮮時、体が黄系、第 1 背鰭第 1 棘の上方は白くない、前眼肩胛管に開孔 F がないなどで区別可能 (ヤミイソハゼでは体はグレイ系、第 1 背鰭第 1 棘の上方は白い、前眼肩胛管に開孔 F がある)。

(鈴木寿之)

色彩 生鮮時、体と鰭の地色はこい黄である。頭部に黄みのブラウン点が密在する。胸鰭基部に 2 個の黄みのブラウン斑があ

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

イソハゼ属の一種 3

Eviota sp. 3

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 6+6, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 24; 横列鱗 6; 背鰭前方鱗 0。頭部感覚管はイソハゼとほぼ同様であ

■ イソハゼ属の一種 3 *Eviota* sp. 3 Female NSMT-P 110521, 16.1 mm SL

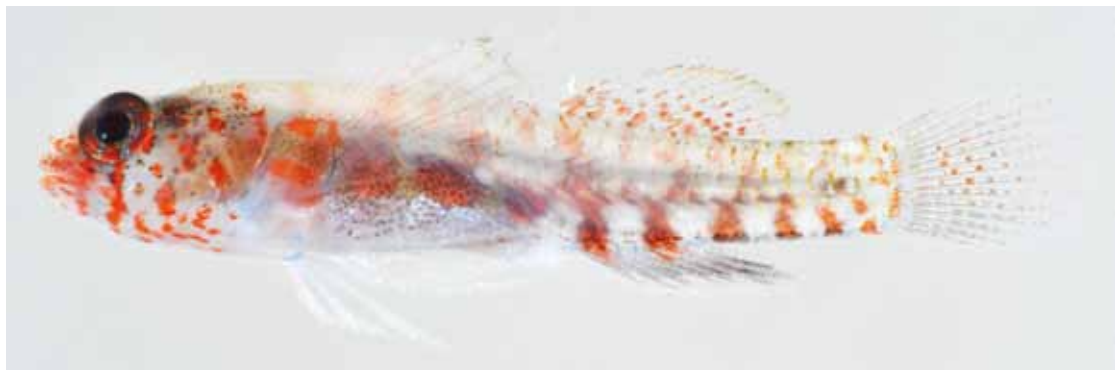
るが、前眼肩胛管に開孔 H' がない。第 1 背鰭第 1 棘が最長であるが伸長しない。胸鰭第 11-16 軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第 5 軟条は不分枝で短くその長さは第 4 軟条の 12%、第 4 軟条は 4 本の分枝を持ち各分枝間に 3 分節がある、第 3 と 4 軟条間の鰭膜の発達は悪い。胸鰭基底上端から第 1 背鰭第 4 棘基底を結ぶ線より前方、胸鰭基底、腹鰭前方は無鱗、腹部は円鱗、残りの体側は櫛鱗を被る。

色彩 死後、やや時間を経た体の地色は白、腹部をのぞく体側鱗の各鱗鞘に明るい黄みのオレンジの横斑がある。虹彩に明るい赤の放射帯がある。頭部に明るい黄みのオレンジ斑が散在する。胸鰭基部に 2 個の明るい赤斑がある。体側に数本の不明瞭なさえたオレンジの横帯がある。体腹側に 8 個の赤みのブラウン斑が並ぶ。背鰭は明るい黄、さえた赤点が散在する。臀鰭はこい黄みのピンク、尾鰭はうすいピンクである。

分布 与論島。

備考 本項の記載は与論島茶花漁港沖で採集された 1 標本 (NSMT-P 110521、雌、体長 16.1 mm) に基づく。胸鰭に分枝軟条がある、前鰓蓋管に開孔がある、生鮮時、体側鱗の鱗鞘縁辺は赤系、主鰓蓋部上方に黒斑はない、尾柄部後端付近に暗点はない、腹鰭鰭膜は未発達などで、すくなくとも和名のある本属魚類に一致する種はない。複数の標本による比較研究が必要である。

(鈴木寿之)



■ イソハゼ属の一種 4 *Eviota* sp. 4 Female KPM-NI 30770, 12.7 mm SL

スズキ目 ハゼ科 イソハゼ属

イソハゼ属の一種 4

Eviota sp. 4

形態 背鰭 VI-1, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 4; 尾鰭分枝鰭条 7+6, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 23; 横列鱗 5; 背鰭前方鱗 0。頭部感覚管はイソハゼとほぼ同様であるが、前眼肩胛管に開孔 H' がない。第 1 背鰭第 2 棘が最長で、わずかに伸長する。胸鰭第 11-15 軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜はなく、第 5 軟条もない、第 4 軟条は 5 本の分枝を持ち各分枝

間に 1-2 分節がある、第 3 と 4 軟条間の鰭膜の発達は悪い。胸鰭基底上端から第 1 背鰭第 6 棘基底を結ぶ線より前方、胸鰭基底、腹鰭前方は無鱗、腹部は円鱗、残りの体側は櫛鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色は青みの白・半透明である。頭部にさえた黄みの赤斑が散在する。胸鰭基部に 2 個のさえた黄みの赤の縦斑がある。腹膜に微小黒点が密在する。体側に 5 個、体腹側に 9 個のさえた黄みの赤斑が皮下に並ぶ。背鰭と尾鰭は無色・透明、さえた黄みの赤点が散在する。臀鰭にグレイ、基底に 2 個のさえた黄みの赤斑がある。

分布 与論島。

備考 本項の記載は与論島麦屋水深 6-8 m で採集された 1 標本 (KPM-NI 30770、雌、体長 12.7 mm) に基づく。前眼肩胛管に開孔 H' がない、頭部後半部の赤斑が繋がらない、胸鰭基部の斑紋が縦斑である、尾柄部後端付近の皮下に黒点や斑がない、尾鰭に赤点が散在するなどで近似のミドリハゼ *E. toshiyuki* Greenfield & Randall, 2010 と区別可能。今後、大小複数の標本でミドリハゼとの比較が必要である。

(鈴木寿之)

スズキ目 ハゼ科 サンカクハゼ属

セホシサンカクハゼ

Fusigobius duospilus
Hoese & Reader, 1985

形態 背鰭 VI-1, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 18-20; 縦列鱗 23-25; 背鰭前方鱗 0。体はやや短く、側扁する。吻は三角形にとがる。下顎は上顎よりわずかに前方にまで突出する。舌の前縁はほぼ直線的で、くぼまない。鰓孔は狭く、その前端は前鰓蓋後縁下より

後方にある。胸鰭基部や腹鰭前方部は円鱗で、のこる体側大半は櫛鱗を被われる。頭部は無鱗。背鰭の棘条は伸長しない。胸鰭上部に遊離軟条はない。腹鰭は左右癒合する。腹鰭の膜蓋はなく、癒合膜の後縁はやや湾入する。尾鰭は円形で、頭長とほぼ同長。頭部の感覚管は良く発達し、前眼肩胛管に開孔 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩胛管に開孔 K' L'、前鰓蓋管に開孔 M' L' O' がある。眼下の孔器列はほぼ縦列で、明瞭な横列とはならない。

色彩 頭部と体はほぼ白色で、わずかにベージュみがあり、橙色あるいは褐色の小点が散在する。生時は体の透明感が強く、脊椎骨に沿って交互にはいる白色と黒色の線状模様が透けて見える。尾鰭基底中央の黒色斑は三角形に近い。第 1 背鰭には、第 1 棘上部から第 3 棘の基部付近にかけてはいる 1 本の黒色垂線があり、第 5 棘と第 6 棘の間に瞳大ほどの明瞭な黒斑がある。

分布 インド・太平洋の温帯から熱帯域に

■ セホシサンカクハゼ *Fusigobius duospilus* KPM-NI 30901, 18.2 mm SL

かけて分布する。国内では静岡県以西の本州、四国、九州、大隅諸島、琉球列島、伊豆諸島、小笠原諸島から記録されている。

備考 サンカクハゼ属にはインド・太平洋の熱帯・亜熱帯域から 11 種が知られる。日本からは 9 種が報告されており、いずれもサンゴ礁や岩礁域の砂底にみられる。セホシサンカクハゼは第 1 背鰭の前部に 1 本の黒色垂線があることでセスジサンカクハゼ *F. gracilis* (Randall, 2001) に似るが、第 1 背鰭後部に明瞭な 1 黒色斑をもつことや、尾鰭基部の黒色斑がふつう三角形に近いこと等で区別できる。

(洪川浩一)

■ セホシサンカクハゼ *Fusigobius duospilus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ハゼ科 サンカクハゼ属

カタボシサンカクハゼ

Fusigobius humeralis
(Randall, 2001)

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 17-19; 縦列鱗 25; 背鰭前方鱗 0。体はやや短く、側扁する。吻は、同属他種に比べ丸みを帯びる。下顎は上顎よりわずかに前方にまで突出する。舌の前縁はほぼ直線的で、くぼまない。鰓孔は狭く、前端は前鰓蓋後縁下より後方にある。胸鰭基部や腹鰭前方は円鑿で、のこる体側大半は楯鱗で被われる。頭部は無鱗。背鰭の棘条は伸長しない。胸鰭上部に遊離軟条はない。腹鰭は左右癒合した吸盤状で、後縁はやや湾入し、膜蓋がある。尾鰭は円形で、頭長とほぼ同長。頭部の感覚管は良く発達し、前眼肩甲管に開孔 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開孔 K' L'、前鰓蓋管に開孔 M' L O' がある。眼下の孔器列はほぼ縦列で、明瞭な横列とはならない。

色彩 頭部と体はほぼ白色で、わずかにベージュあるいは淡灰褐色みがかかり、橙色あるいは褐色の小点が散在する。生時は

■ カタボシサンカクハゼ *Fusigobius humeralis* KAUM-I. 45917, 27.8 mm SL

体の透明感がやや強く、脊椎骨に沿って交互にはいる白色と黒色の破線状模様はわずかに透けて見える。胸鰭の上方に、腫大かそれよりやや小さな 1 暗色斑がある。尾鰭基底中央の黒色斑は楕円形に近い。第 1 背鰭には、ふつう第 1 棘上部から第 3 棘の基部付近にかけて 1 本の暗色垂線があるが、鰭の後部には明瞭な黒色斑がない。

分布 インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、大隅諸島および琉球列島から記録されている。

備考 カタボシサンカクハゼは、吻が短く丸み強いこと、体つきもズングリした印象があること、胸鰭上方に明瞭な 1 暗色斑があること等により、同属他種と区別できる。第 1 背鰭前部に不明瞭な暗色垂線をもつ個体が多く、そうした個体は、やはり胸鰭上部に 1 暗色斑をもつセスジサンカクハゼ *F. gracilis* (Randall, 2001) に似るが、セスジサンカクハゼの吻はより長く尖り、体つきもよりほっそりとしており、腹鰭の膜蓋はふつう発達せず、体側に散在する褐色点はより細かい。計数形質の値は Randall (2001) に従った。

(洪川浩一)



■ ハタテサンカクハゼ *Fusigobius inframaculatus* KAUM-I. 40374, 49.5 mm SL



■ ハタテサンカクハゼ *Fusigobius inframaculatus* KAUM-I. 40366, 46.8 mm SL

スズキ目 ハゼ科 サンカクハゼ属

ハタテサンカクハゼ

Fusigobius inframaculatus
(Randall, 1994)

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 17-19; 縦列鱗 23-24; 背鰭前方鱗 0。体はやや短く、側扁する。吻は三角形にとがる。下顎は上顎よりわずか前方にまで突出する。舌の前縁はほぼ直線的で、くぼまない。鰓孔は狭く、その前端は前鰓蓋後縁より後方にある。胸鰭基部や腹鰭前方部は円鱗、のこる体側大半は楕鱗で被われる。頭部は無鱗。第1背鰭の第1棘条が糸状に伸長する。胸鰭上部に遊離軟条はない。腹鰭は左右癒合した吸盤状で、後縁はやや湾入し、膜蓋がある。尾鰭は円形で、頭長よりやや短い。頭部の感覚管は良く発達し、前眼肩甲管に開孔 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開孔 K' L'、前鰓蓋管に開孔 M' L O'がある。眼下の孔器列はほぼ縦列で、明瞭な横列とはならない。

色彩 頭部と体はほぼ白色で、わずかに黄色みあるいはベージュミがかり、周囲また



■ ハタテサンカクハゼ *Fusigobius inframaculatus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

は後部が細く暗褐色で縁どられた橙色の小点が散在する。生時は体の透明感が強く、脊椎骨に沿って交互にはいる白色と黒色の線状模様が透けて見える。尾鰭基底中央の黒色斑は眼径大かそれよりやや小さく、三角形に近い。第1背鰭および第2背鰭には橙色点が散在し、とくに基部付近のものは大型。

分布 インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域にかけて分布する。国内では伊豆諸島、静岡県以西の本州、四国、九州、大隅諸島、琉球列島および小笠原諸島から記録されている。

備考 ハタテサンカクハゼは、雄の第1背鰭の第1棘が糸状に伸長することで、日本産の同属他種との区別は容易。紅海から知られる *F. longipinnis* Goren, 1978 に酷似し、尾鰭基部の黒色斑がやや大きいことや、雄の第1背鰭第1棘条がやや短いこと、胸鰭条数の最頻値が19 (*F. longipinnis* では18) であること等により区別できるとされる。ただしその差は微妙であり、中間的な状態を示す場合もあるため、両種の分類学的扱いにはさらなる検討が必要。

(渋川浩一)

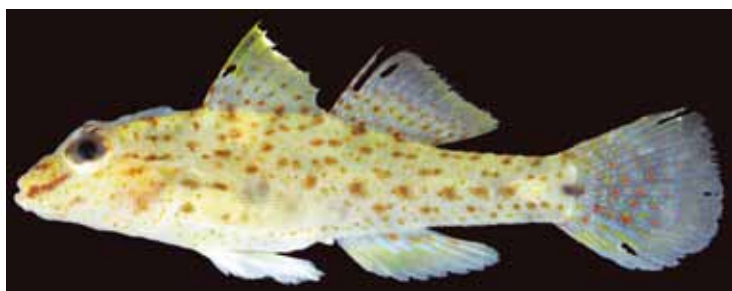
■ サンカクハゼ *Fusigobius neophytus* KAUM-I. 46075, 32.2 mm SL

スズキ目 ハゼ科 サンカクハゼ属

サンカクハゼ

Fusigobius neophytus
(Günther, 1877)

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 16-19; 縦列鱗 24-25; 背鰭前方鱗 0。体はやや短く、側扁する。吻は三角形にとがる。下顎は上顎よりわずかに前方にまで突出する。舌の前縁は直線のかやや丸みを帯び、くぼまない。鰓孔は狭く、前端は前鰓蓋後縁下より後方にある。胸鰭基部や腹鰭前方部は円鱗で、このる体側大半は楯鱗で被われる。頭部は無鱗（鰓蓋上部に小円鱗をもつものもいる）。背鰭の棘条は伸長しない。胸鰭上部に遊離軟条はない。左右の腹鰭は癒合するが、後縁がやや湾入し、膜蓋は痕跡的。尾鰭は円形で、頭長とほぼ同長。頭部の感覚管は良く発達し、前眼肩甲管に開孔 B' C(S) D(S) E F G H J'、後眼肩甲管に開孔 K' L'、前鰓蓋管に開孔 M' L O' がある。眼下の孔器列はほぼ縦列で、明瞭な横列とはならない。

■ サンカクハゼ *Fusigobius neophytus* KAUM-I. 46062, 42.6 mm SL

色彩 頭部と体は淡いベージュあるいは黄色みがかつた淡褐色で、微小な褐色点が散在する。生時は体の透明感がやや強く、脊椎骨に沿って交互にはいる白色と黒色の線状模様がわずかに透けて見える。尾柄部中央側面に、下を向くくさび形の1暗色斑がある（生時および鮮時はふつう不鮮明）。尾鰭基底中央の黒色斑は小さく、縦長の楕円形に近い。第1背鰭は、上縁が細く白色で縁どられ、第1棘と第2棘の間に明瞭な黒色点がある（生時や鮮時はふつう不明瞭）等で、同属他種と区別できる。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、四国、大隅諸島および琉球列島から記録されている。

備考 サンカクハゼは、第1背鰭が三角形に近く、その上縁が細く白色で縁どられ、第1棘と第2棘の間に明瞭な黒色点があること、尾柄部中央側部にくさび形の1暗色斑があること（生時や鮮時はふつう不明瞭）等で、同属他種と区別できる。

(洪川浩一)

■ オオモンハゼ *Gnatholepis anjerensis* KPM-NI 30846, 25.3 mm SL



■ オオモンハゼ *Gnatholepis anjerensis* KAUM-I, 51192, 25.1 mm SL

スズキ目 ハゼ科 オオモンハゼ属

オオモンハゼ

Gnatholepis anjerensis
(Bleeker, 1851)

形態 背鰭 VI-I, 10-11; 臀鰭 I, 10-12; 胸鰭 14-17; 縦列鱗 25-29; 背鰭前方鱗 7-13。体はややふと短い円筒状で、側扁する。頭部はやや側扁する。吻は丸く、上顎より前方に突出する。上顎は下顎よりわずかに前方にまで突出する。下唇の後端はやや肥大する。舌の前縁は丸い。鰓孔はやや狭く、前縁は前鰓蓋後縁下より後方にある。頬や鰓蓋、後頭部、胸鰭基部、腹鰭前方部は通常円鱗で被われ（腹鰭前方部をのぞき、ときに櫛鱗が混じる）、項部およびのこる体側大半は櫛鱗で被われる。胸鰭上部に遊離軟条はない。腹鰭は左右癒合した吸盤状で、膜蓋と癒合膜は発達す

る。膜蓋の後縁は鋸歯状に切れ込む。尾鰭は円形で、頭長とほぼ同長。頭部の感覚管は良く発達し、前眼肩甲管に開孔 B' C D(S) F H'、後眼肩甲管に開孔 K' L'、前鰓蓋管に開孔 M' L O'がある。眼下に複数の短い横列孔器列がある。

色彩 頭部と体は灰褐色で、背方はやや暗色がかかる。体側には多数の暗色点が散在し、多くは不規則な破線状となる。体側中央には6個の眼径大ほどの暗色斑点が縦走する。眼下に細く明瞭な1黒色垂線がある。胸鰭基部の上方に暗色で縁どられた赤色小斑がある個体も多い。第1背鰭には数列の暗色点列が縦走する。臀鰭は下縁が暗色がかかるが、明瞭な斑紋はない。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では静岡県以西の本州、四国、大隅諸島および琉球列島から記録

されている。

備考 オオモンハゼ属にはインド・太平洋の熱帯・亜熱帯域から10種が知られる。日本からは4種が報告されており、いずれもサンゴ礁の砂底やガレ場、内湾の砂泥底等にみられる。オオモンハゼは体形や体色がアデオオモンハゼ *G. ophthalmotaenia* (Bleeker, 1854) やヒシヒレオオモンハゼ *G. yoshinoi* Suzuki & Randall, 2009 に似るが、第1背鰭が第2背鰭とほぼ同高であること（ヒシヒレオオモンハゼでは第2背鰭より明らかに高い）、臀鰭に顕著な斑紋がないこと（アデオオモンハゼには赤色や黄色の円形斑点が散在する）等で区別できる。オオモンハゼ属魚類の計数値は、Larson & Buckle (2012) に従った。

(洪川浩一)



■ カタボンオオモンハゼ *Gnatholepis cauerensis* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

■カタボシオオモンハゼ *Gnatholepis cauerensis* KPM-NI 30767, 41.9 mm SL

スズキ目 ハゼ科 オオモンハゼ属

カタボシオオモンハゼ

Gnatholepis cauerensis
(Bleeker, 1853)

形態 背鰭 VI-I, 10-11; 臀鰭 I, 10-12; 胸鰭 12-18; 縦列鱗 24-30; 背鰭前方鱗 7-12。体はややふと短い円筒状で、側扁する。頭部はやや側扁する。吻は丸く、上顎より前方に突出する。上顎は下顎よりわずかに前方にまで突出する。下唇の後端はやや肥大する。舌の前縁は丸い。鰓孔は狭く、前縁は前鰓蓋後縁下より後方にある。頬や鰓蓋、背鰭前方部、胸鰭基部、腹鰭前方部は通常円鱗で被われ（鰓蓋や胸鰭基部ではときに楕鱗が混じる）、のこる体側大半では楕鱗で被われる。胸鰭上部に遊

離軟条はない。腹鰭は左右相合した吸盤状で、腹鰭と癒合膜は発達する。膜蓋の後縁は鋸歯状に切れ込む。尾鰭は円形で、頭長とほぼ同長。頭部の感覚管は良く発達し、前眼肩甲管に開孔 B' C D(S) F H'、後眼肩甲管に開孔 K' L'、前鰓蓋管に開孔 M' L O' がある。眼下に複数の短い横列孔器列がある。

色彩 頭部と体は淡褐色あるいはベージュで、背方はやや暗色がかかる。体側には5-7本ほどの赤色あるいは暗色の破線が縦走し、体側中央には6個の眼径大ほどの暗色斑点が縦走する。眼下に細く明瞭な1黒色垂線がある。胸鰭基部の上方には眼径大ほどの1黒色斑があり、ふつうその中央に小さな1黄色点がある。背鰭には、基部付近に赤みを帯びた暗色縦帯があり、

その上方に同色の斑点列が数列縦走する。臀鰭は下縁が暗色がかかり、基部付近に暗赤色の縦線あるいは点列をもつ個体も多い。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では千葉県以西の本州、四国、九州、大隅諸島、琉球列島および小笠原諸島から記録されている。

備考 カタボシオオモンハゼは日本産の同属他種に比べ体形がやや細長いこと、ふつう体側に赤色あるいは暗色の明瞭な破線模様があること、胸鰭基部の上方に1黒色斑があり、その中央にふつう黄色点があること等で区別できる。

(伊川浩一)

スズキ目 ハゼ科 コバンハゼ属

ヒメクロコバンハゼ (新称)

Gobiodon ater

Herler, Bogorodsky & Suzuki, 2013

標本 KAUM-I. 41075、雌、体長 15.2 mm、鹿児島県大島郡与論町シゴー沖（北緯 27 度 01 分 20 秒、東経 128 度 25 分 47 秒）、水深 2-10 m、2011 年 8 月 18 日、タモ網、目黒昌利・片山英里。

形態 背鰭 VI-I, 10; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 18; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 8+7, 分節鰭条 9+8, 上・下不分節鰭条 7・6。体高と尾柄高は低く、それぞれ体長の 35% と 14%。両顎はほぼ同長、後端は眼中央にわずかに達しない。鰓孔は狭く、胸鰭基底間に限られる。頭部感覚管は前眼肩胛管に開孔 B' C(S) D(S) E F H'、前鰓蓋管に開孔 M' N O' がある。頭部腹面の左右に深い溝がある。第 1 背鰭は半円形で、棘は伸張し

■ヒメクロコバンハゼ (新称) *Gobiodon ater* Female KAUM-I. 41075, 15.2 mm SL

ない。胸鰭下端の 1 軟条は不分枝。腹鰭はカップ状で、後端は腹鰭起点と臀鰭起点間の中央に達する。体に鱗はない。

色彩 生鮮時、体の地色はブラウンみの

オリーブ、背面は暗いブラウンみのグレイ、体に斑紋はない。垂直鰭はベージュで縁辺は黒、対鰭は暗いブラウンみのグレイである。

分布 エジプト(紅海)、モルジブ(インド洋)、台湾、与論島。

備考 本項の記載は与論島シゴー沖水深2-10 mで採集された1標本(KAUM-I. 41075、雌、15.2 mm)に基づく。観察

標本は Herler et al. (2013) の *G. ater* の原記載や図に一致する。小型種で体長は最大で約 30 mm、体が一律に暗色である。頭部腹面の左右に深い溝がある、第1背鰭は半円形で棘は伸張しない、体と尾柄が低いなどで同属他種と区別できる。

本報告は *G. ater* の日本における初めての記録となる。本種の体が一律に暗色であること、小型種であることに因み新標準和名ヒメクロコバンハゼを提唱する。

(鈴木寿之)



■ セアコバンハゼ *Gobiodon axillaris* Male KAUM-I. 51577, 24.2 mm SL

スズキ目 ハゼ科 コバンハゼ属

セアコバンハゼ

Gobiodon axillaris
De Vis, 1884

形態 背鰭 VII-I, 10; 臀鰭 I, 9; 胸鰭 20; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 9+7, 分節鰭条 9+8, 上・下不分節鰭条 7・6。上唇はやや突出する。両顎後端は瞳の前縁下に達する。鰓孔は狭く、胸鰭基底間に限られる。頭部感覚管の開孔はヒメクロコバンハゼと同様。頭部腹面の左右に溝はない。第1

背鰭は台形で、棘は伸張しない。胸鰭下端の1軟条は不分枝。腹鰭はカップ状で、後端は腹鰭起点と臀鰭起点間の中央にわずかに達しない。体に鱗はない。

色彩 生鮮時の体と鰭の地色は明るい黄である。頭部に5本、胸鰭基底に1本の明るい赤の横帯があり、前より2本目の横帯は眼を通る。鰓孔上端付近に1黒点、頭部背面から背鰭基底に沿って7個の明るい赤点が並ぶ。

分布 サイパン島、フィジー諸島、ソネット

島(タイ)。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に生息する。

備考 本項の記載は与論島前浜海岸水深8 mで採集された1標本(KAUM-I. 51577、雄、体長24.2 mm)に基づく。観察標本はRandall (2005) の *G. axillaris* に一致する。体は黄系で、頭部から胸鰭基底にかけ数本の赤系の横線がある、頭部背面から背鰭基底に沿って数個の赤点が並ぶなどで同属他種と区別可能。

(鈴木寿之)

スズキ目 ハゼ科 コバンハゼ属

ムジコバンハゼ

Gobiodon fuscuber
Herler, Bogorodski & Suzuki, 2013

形態 背鰭 VI-I, 10; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 18; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 9+8, 分節鰭条 9+8, 上・下不分節鰭条 7・7。両顎はほぼ同長、後端は眼の中央にわずかに達しない。鰓孔は狭く、胸鰭第1軟条基底から胸鰭基底下端やや下方間に限られる。頭部感覚管の開孔はヒメクロコバンハゼとほぼ同様であるが、前鰓蓋管に開孔Nがない



■ ムジコバンハゼ *Gobiodon fuscuber* KAUM-I. 51262, 18.1 mm SL



■ ムジコバンハゼ *Gobiodon fuscuber* Female KAUM-I. 41118, 20.6 mm SL

い。頭部腹面の左右に深い溝がある。第1背鰭は台形で、棘は伸張しない。胸鰭上の1軟条は不分枝。腹鰭はカップ状で、後端は腹鰭起点と臀鰭起点間の中央に達する。体に鱗はない。

色彩 生鮮時、体の地色は灰みのブラウン、背面は暗いブラウンみのグレイである。眼下に不明瞭な1本の暗いブラウンみのグレイの垂線がある。各鰭は暗いブラウンみのグレイである。

分布 インド・西太平洋。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本項の記載は与論島シゴ沖水深2-10 mで採集された1標本 (KAUM-I. 41118、雌、体長20.6 mm) に基づく。観察標本はHerler et al. (2013) の *G. fuscuber* の原記載や図にほぼ一致する。ただし原記載では前鰓蓋管に3開孔があるとしているが、観察標本では2開孔しかなかった。しかしここでは個体変異と

考えた。体は一律にブラウン系である、頭部腹面の左右に深い溝がある、第1背鰭は台形で棘は伸張しない、体はよく側扁し体高が高く尾柄部がやや細いなどで同属他種と区別可能。これまで本種は *G. unicolor* (Castelnau, 1873) とされてきたが、*G. unicolor* は *G. histrio* (Valenciennes, 1837) の新参異名とされた (Herler et al., 2013)。Herler et al. (2013) によれば、ヒトスジコバンハゼ *Gobiodon* sp. D (鈴木ほか、2004) は本種の幼魚であり、和名をムジコバンハゼに統一することを提唱する。(鈴木寿之)

スズキ目 ハゼ科 コバンハゼ属

タスジコバンハゼ

Gobiodon rivulatus
(Rüppell, 1830)

形態 背鰭 VI-I, 10; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 19; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 9+8, 分節鰭条 9+8, 上・下不分節鰭条 7・6。両顎はほぼ同長、後端は瞳の前縁下をやや越える。鰓孔は狭く、胸鰭第1-16軟条基底間に限られる。頭部感覚管の開孔はヒメクロコバンハゼと同様。頭部腹面の左右に溝はない。第1背鰭は半円形で、棘は伸張しない。胸鰭下端の1軟条は不分枝。腹鰭はカップ状で、後端は腹鰭起点と臀鰭起点間の中央をやや越える。体に鱗はない。

色彩 生鮮時、体の地色はこいオレンジ、頭部腹面と腹部は明るい緑みの黄である。頭部から胸鰭基底にかけて7本、体側に多数のグレイに縁取られた灰みの白の横線がある。各鰭は灰みの白色、背鰭の基底にあさい黄と白の2縦帯、臀鰭の基底



■ タスジコバンハゼ *Gobiodon rivulatus* KAUM-I. 51261, 16.1 mm SL

に白の1縦線がある。

分布 インド・西太平洋。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本項の記載は与論島シゴ沖水深2-10 mで採集された1標本 (KAUM-

I. 41120、雌、体長16.9 mm) に基づく。観察標本はWinterbottom & Emery (1986) の *G. rivulatus* に一致する。頭部から尾部にかけ多数の白の横線があることで同属他種と区別可能。

(鈴木寿之)



■ タスジコバンハゼ *Gobiodon rivulatus* Male KAUM-I. 41120, 16.9 mm SL



■ タスジコバンハゼ *Gobiodon rivulatus* KAUM-I. 41119, 17.7 mm SL

スズキ目 ハゼ科 コバンハゼ属

アイコバンハゼ

Gobiodon sp. 1

形態 背鰭 VI-I, 10; 臀鰭 I, 9; 胸鰭 20; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 9+8, 分節鰭条 9+8, 上・下不分節鰭条 7・6。両顎はほぼ同長、後端は眼の中央にやや達しない。鰓孔は狭く、胸鰭第 1-17 軟条基底間に限られる。頭部感覚管の開孔はヒメクロコバンハゼと同様。頭部腹面左右に溝はない。第 1 背鰭は台形で、棘は伸張しない。胸鰭下端の 1 軟条は不分枝。腹鰭は皿状で、後端は腹鰭起点と臀鰭起点間の中央に達しない。体に鱗はない。

色彩 生鮮時、体の地色は灰みのブラウン、頭部腹面は明るい青である。眼の上縁か



■ アイコバンハゼ *Gobiodon* sp. 1 KPM-NI 30729, 23.8 mm SL

ら下方にかけて 1 本の灰みのブラウンの垂線、鰓孔上端付近に腫大の 1 黒点がある。各鰭は明るい灰みブラウンで、背鰭の基底

ににぶい黄の縦帯、臀鰭基底に明るい青みのグレイの縦帯がある。



■ アイコバンハゼ *Gobiodon* sp. 1 Female KAUM-I. 41182, 24.7 mm SL

分布 和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本項の記載は与論島供利漁港沖水深 1-10 m で採集された 1 標本 (KAUM-I. 41182、雌、体長 24.7 mm) に基づく。観察標本は Aoyagi (1943) のアイコバンハゼ

に一致する。本種はこれまで *G. micropus* Günther, 1861 とされることが多かったが、*G. micropus* のホロタイプ (BMNH 1848.2.16) を調査したところ、背鰭 VI-I, 13、臀鰭 I, 11、頭部腹面左右に溝があり、両背鰭はよく発達した鰭膜でつながり、本種とは異なる。また Winterbottom &

Emery (1986) は *G. micropus* の体色はオレンジであるとしており、本種とは異なる。体の地色はブラウン系、頭部腹面は青系で、体と同色の眼下垂線がある。鰓孔上端に 1 黒点があるなどで同属他種と区別可能。未記載種と考えられ、現在、著者らにより記載が進められている。

(鈴木寿之・渋川浩一)



■ フタスジコバンハゼ *Gobiodon* sp. 2 Female KAUM-I. 41122, 23.0 mm SL

スズキ目 ハゼ科 コバンハゼ属

フタスジコバンハゼ

Gobiodon sp. 2

形態 背鰭 VI-I, 10; 臀鰭 I, 9; 胸鰭 18; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 8+7, 分節鰭条

9+8, 上・下不分節鰭条 4・4。両顎はほぼ同長、後端は眼の中央にやや達しない。鰓孔は狭く、胸鰭基底上端やや上方から下端やや上方間に限られる。頭部感覚管の開孔はヒメクロコバンハゼと同様。頭部腹面の左右に深い溝がある。第 1 背鰭は台形で、棘は伸張しない。胸鰭下端の 1 軟条は不分枝。腹鰭はカップ状で、後端

は腹鰭起点と臀鰭起点間の中央に達する。体に鱗はない。

色彩 生鮮時、体と鰭の地色は暗いブラウンみのグレイ、頭部の側面と腹面、腹部はベージュである。虹彩はこい黄みのピンクで、眼の上縁から頭部腹面にかけ 2 本のグレイに縁取られた灰みの白の横線があ



■ フタスジコバンハゼ *Gobiodon* sp. 2
KAUM-I. 41121, 23.5 mm SL

る。背鰭と臀鰭の基底に灰みの白の縦線がある。尾鰭後縁は太い無色半透明帯で縁取られる。

分布 西沙群島、サイパン島、日本。国内では小笠原諸島、徳島県以南、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本項の記載は与論島シゴー沖水深2-10 m で採集された1標本 (KAUM-I. 41122、雌、体長23.0 mm) に基づく。観察標本は明仁親王ほか (1984) のフタスジコバンハゼに一致する。本種はこれまで *G. fulvus* Herre, 1927 とされることが多かったが、原記載によると *G. fulvus* は生時、体はオレンジ色で、頭部に横線はなく、鰓蓋上後端に1黒色点があり、本種とは異なる。本種は体と鰭がグレイ系、眼の上縁から頭部腹面にかけ白の2本の垂線があり、尾鰭後縁は太く無色半透明であるなどで同属他種と区別可能。未記載種と考えられ、現在、著者らにより研究が進められている。

(鈴木寿之)



■ フタスジコバンハゼ *Gobiodon* sp. 2 KAUM-I. 42725, 18.8 mm SL



■ フタスジコバンハゼ *Gobiodon* sp. 2 KAUM-I. 40051, 20.4 mm SL

スズキ目 ハゼ科 シロズキンハゼ属

シロズキンハゼ

Heteroleotris poecila
(Fowler, 1946)

形態 背鰭 VI-I, 9-11; 臀鰭 I, 8-9; 胸鰭 15-18; 縦列鱗 32-35; 背鰭前方鱗 0。体はふと短い円筒状で、やや側扁する。頭部は縦扁する。下顎は上顎よりもわずかに前方に突出する。前鼻孔と後鼻孔はともに短い管の先端に開孔する。舌の前縁は浅くくぼむ。鰓孔は狭く、その下端は胸鰭基部の下端付近にある。第1鰓弓下肢外側の大部分は皮膜で覆われ、第一鰓裂が閉じた状態になっている。体側の鱗は円鱗。背鰭前方部や腹鰭前方部、頭部は無鱗。胸鰭上部の2軟条は糸状に遊離する。腹鰭は左右完全に分かれ、膜蓋や癒合膜は発達しない。尾鰭は円形で、頭長よりやや短い。頭部の感覚管は比較的よく発達し、前眼肩甲管が開孔 B' C(S) D(S) E F H' をもつ。前鰓蓋管と後眼肩甲管はない。眼下に4本の明瞭な横列孔器列がある。

色彩 頭部と体は茶褐色で、不規則な暗色



■ シロズキンハゼ *Heteroleotris poecila* KAUM-I. 40008, 21.5 mm SL

斑がはいる。頭部背面に幅広い淡灰褐色の鞍状斑がある。尾鰭基底に沿って細い黒褐色縦帯がはいる。胸鰭には不規則な暗褐色の帯模様がはいり、基部の上端には1黒褐色斑がある。

分布 和歌山県以西の本州、四国、九州、琉球列島および小笠原諸島から採集されている。国外では台湾、スリランカおよびコモロ諸島からの記録がある。

備考 計数値は明仁親王・目黒 (1981) に従った。日本を含む西太平洋から知られるシロズキンハゼ属魚類は、シロズキン

ハゼとササガキハゼ *H. exilis* Shibukawa, 2010 の2種のみである (Shibukawa, 2010)。ササガキハゼはシロズキンハゼに比べ体が細長く、第2背鰭条数が1, 12、臀鰭条数が1, 11であること、体側の被鱗域が尾柄部からそのやや前方にまでしか達しないこと、頭部感覚管がないこと等で、容易に区別できる。生息環境もまったく異なり、シロズキンハゼが潮間帯の潮だまりや周辺の転石帯で見られるのに対して、ササガキハゼはより深所 (ホロタイプは水深53 m) から採集されている。

(洪川浩一)



■ シロズキンハゼ *Heteroleotris poecila* KAUM-I. 39995, 30.0 mm SL



■ ホシカザリハゼ *Istigobius decoratus* KPM-NI 30808, 39.7 mm SL

スズキ目 ハゼ科 クツワハゼ属

ホシカザリハゼ

Istigobius decoratus
(Herre, 1927)

形態 背鰭 VI-I, 10; 臀鰭 I, 9; 胸鰭 17-19; 縦列鱗 27-29; 背鰭前方鱗 8-10。体は円筒状で、側扁する。吻は丸く、上顎よりやや前方に突出する。上顎は下顎よりわずかに前方にまで突出する。舌の前縁はほぼ直線的で、くぼまない。鰓孔は狭く、前端は前鰓蓋後縁下より後方にある。胸鰭基部や腹鰭前方部、後頭部は円鱗で、のこる体側大半は櫛鱗で被われる。頭部は無鱗。背鰭の棘条は伸長しない。胸鰭上部に遊離軟条はない。腹鰭は左右癒合した吸盤状で、膜蓋と癒合膜が発達する。

尾鰭は円形で、頭長とほぼ同長。頭部の感覚管は良く発達し、前眼肩甲管に開孔 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開孔 K' L'、前鰓蓋管に開孔 M' L O'がある。眼下に横列孔器列がなく、すべて縦列。

色彩 頭部と体は淡い灰褐色で、腹面は白色に近い。体側には小黑点（背部のものはときに赤みを帯びる）が散在し、とくに体側中央を縦走る1点列のものはやや大型が目立つ。体側の背半に細く不規則な褐色の格子状模様がある。第1背鰭の第1棘と第2棘の間の鰭膜に明瞭な小黑点がある（第2棘と第3棘間にも同様の黒色点がある個体もある）。尾鰭基部中央の黒色点は、体側中央を縦に並ぶ黒色点とほぼ同大。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、静岡県以西の本州、四国、九州、大隅諸島および琉球列島から記録されている。

備考 クツワハゼ属にはインド・太平洋の熱帯・亜熱帯・温帯域から10種が知られる。日本からは7種が報告されており、多くはサンゴ礁や岩礁域の砂底にみられるが、河川下流のマングローブ帯に侵入するものもある。ホシカザリハゼは第1背鰭の第1棘と第2棘の間の鰭膜中央に明瞭な1黒色点があることで日本産同属他種と区別できる。小型個体にはヒメカザリハゼ *I. goldmanni* (Bleeker, 1852) に似て区別の難しいものもあるが、ふつう尾鰭に散在する黒色点がやや大型でより明瞭。
(洪川浩一)

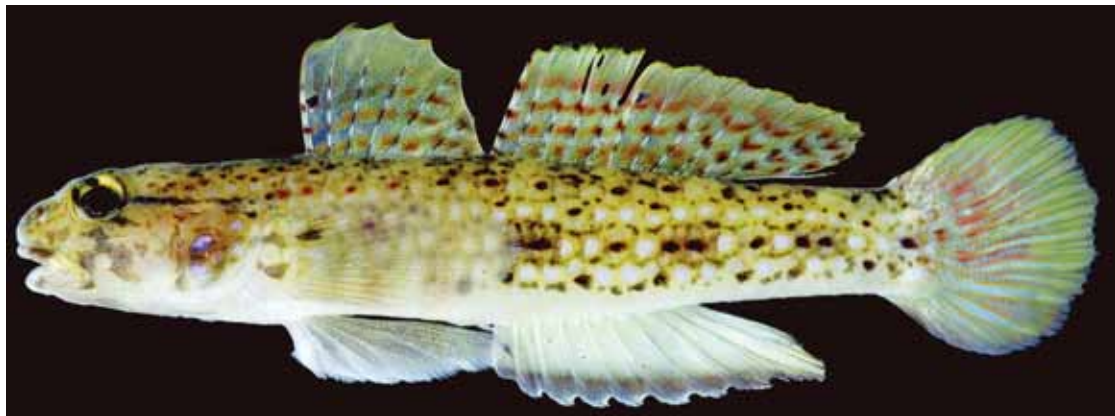
スズキ目 ハゼ科 クツワハゼ属

ヒメカザリハゼ

Istigobius goldmanni
(Bleeker, 1852)

形態 背鰭 VI-I, 9-10; 臀鰭 I, 9; 胸鰭 18-19; 縦列鱗 28-29; 背鰭前方鱗 7-8。体は円筒状で、側扁する。吻は丸く、上顎よりやや前方に突出する。上顎は下顎よりわずかに前方にまで突出する。舌の前縁

はほぼ直線的で、くぼまない。鰓孔は狭く、前端は前鰓蓋後縁下より後方にある。胸鰭基部や腹鰭前方部、背鰭前方部は円鱗で、のこる体側大半は櫛鱗で被われる。頭部は無鱗。背鰭の棘条は伸長しない。胸



■ ヒメカザリハゼ *Istigobius goldmanni* KAUM-I. 48025, 50.1 mm SL

鱗上部に遊離軟条はない。腹鱗は左右癒合した吸盤状で、膜蓋と癒合膜が発達する。尾鱗は円形で、頭長とほぼ同長。頭部の感覚管は良く発達し、前眼肩甲管に開孔 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開孔 K' L'、前鰓蓋管に開孔 M' L O' がある。眼下に横列孔器列がなく、すべて縦列。

色彩 頭部と体は淡い灰褐色で、腹面は白色に近い。体側には小黑点（背部のもの

はときに赤みを帯びる）が散在し、体側中央を縦走する1点列のものはふつうやや大型で目立つ。第1背鱗には数本の茶褐色縦線がはいり、鱗膜に明瞭な黒点はない。尾鱗基部中央の黒色点は、体側中央を縦に並ぶ黒色点とほぼ同大。

分布 西太平洋、アンダマン海、オーストラリア北西岸の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では大隅諸島および琉球列島から記

録されている。

備考 ヒメカザリハゼはホシカザリハゼ *I. decoratus* (Herre, 1927) (とくに小型個体) に似るが、第1背鱗の第1棘と第2棘の間の鱗膜中央に明瞭な黒点がないこと、項部に多数の小黒色点散在すること、尾鱗の黒色点はより細かいこと等で区別できる。

(洪川浩一)



■ アカヒレハダカハゼ *Kelloggella cardinalis* KAUM-I. 51463, 17.5 mm SL

スズキ目 ハゼ科 ハダカハゼ属

アカヒレハダカハゼ

Kelloggella cardinalis
Jordan & Seale, 1906

形態 背鱗 VI-I, 12; 臀鱗 I, 8; 胸鱗 13-15; 縦列鱗 0; 背鱗前方鱗 0。体は細長い円筒状で、側扁する。吻は丸いが、上顎より前方へは突出しない。上下両顎はほぼ等位か、上顎が下顎よりわずかに前方に突出する。鰓孔は狭く、その下端は胸鱗基部付近か、そのわずか下方にある。鱗はない。顎歯は三尖頭。背鱗の棘条は伸長しない。胸鱗上部に遊離軟条はない。腹鱗は左右癒合した吸盤状で、膜蓋と癒

合膜が発達する。尾鱗は円形で、頭長とほぼ同長。頭部に感覚管やその開孔がない。眼下の孔器列は退縮的で、明瞭な列をなすものは、眼の下縁にそって並ぶ1列のみ。

色彩 頭部と体は褐色みを帯びた黄緑色で、ときにつよく黒みがかかる。ふつう眼下に不規則な暗色模様はいれる。背鱗は上部が細く黄色で縁どられ、その縁どりの下縁に細い暗褐色あるいは暗赤褐色の1縦帯がある。尾鱗後部も細く黄色で縁どられる。大型個体では、背鱗や尾鱗がつよく赤みや橙色みを帯びる。

分布 西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布

する。国内では伊豆諸島、大隅諸島および琉球列島から記録されている。

備考 ハダカハゼ属にはインド・太平洋の熱帯・亜熱帯域から5種が知られる。日本から記録のあるものは2種。ふつう岩礁性海岸のタイドプールや周辺浅所に見られ、そうした生息環境や、体が細長く側扁し、頭が丸みを帯びること、鱗がないこと、顎歯が3尖頭であること等、ハゼというよりむしろイソギンポ類に似る。アカヒレハダカハゼは、体側に暗色横帯をもたないことにより同属他種との区別は容易。本種の生態に関しては、Larson (1983) に詳しい。

(洪川浩一)

■ ミミズハゼ属の一種 *Luciogobius* sp. KAUM-I. 40013, 34.6 mm SL

スズキ目 ハゼ科 ミミズハゼ属

ミミズハゼ属の一種

Luciogobius sp.

形態 背鰭 9；臀鰭 12；胸鰭 12；縦列鱗 0；背鰭前方鱗 0。体は極めて細長いミミズ状。頭部は縦扁する。眼は退縮的で小さく、皮下に浅く埋没する。舌の先端は深く切れ込む。鰓孔は狭く、下端は胸鰭基部下端付近にある。鱗はない。背鰭起点は臀鰭起点を通る垂線よりも明らかに後方にある。胸鰭は円形で、上部に1遊離軟条がある。腹鰭は左右癒合した小さな皮弁状

で、膜蓋と癒合膜が発達する。頭部に感覚管がない。眼下に横列孔器列がなく、すべて縦列。脊椎骨数は21+22=43。背鰭の最初の2担鰭骨は、第26脊椎骨の神経棘にまたがる。

色彩 頭や体は明るい緑みの黄で、腹側は淡い。頭や体の背半には、細かく不明瞭な暗褐色の色素胞が散在する。鰓弁の赤が鰓蓋を通して透けて見える。背鰭や尾鰭の基部付近が黄色みを帯びるほか、鰭はほぼ透明。

分布 与論島。

備考 今回の調査により採集された1個体のみが知られる未記載種。体型や脊椎骨数の似る同属のナガミミズハゼ *L. elongatus* Regan, 1905 は、背鰭や臀鰭、胸鰭の鰭条数がいずれも少なく（ナガミミズハゼではそれぞれ6-9、7-10、7-10）、体色も異なる。やはり近似するホソミミズハゼ（明仁ほか、2013の *Luciogobius* sp. 3）は、脊椎骨数が少ない（16-17+21-23=38-39）。ナガミミズハゼやホソミミズハゼに近似する種は、この他にも、未報告のものを含め複数の未記載種が存在することが明らかとなっており（Yamada et al., 2009）、現在、分類学的検討がすすめられている。

(洪川浩一)

■ パンダダルマハゼ *Paragobiodon lacunicolus* Female KAUM-I. 51194, 14.3 mm SL

スズキ目 ハゼ科 ダルマハゼ属

パンダダルマハゼ

Paragobiodon lacunicolus
(Kendall & Goldsborough, 1911)

形態 背鰭 VI-I, 9；臀鰭 I, 8；胸鰭 22；腹鰭 I, 5；尾鰭分枝鰭条 10+9, 分節鰭条 10+9, 上・下不分節鰭条 3・3；縦列鱗 24；横列鱗 6；背鰭前方鱗 0。第1背鰭は丸い。腹鰭はカップ状で、膜蓋と癒合膜はよく発達し、後端は肛門にわずかに達しない。頭部感覚管は前眼肩胛管に開孔 B' C(S) E F H'、前鰓蓋管に開孔 M' N' O' が

■ パンダダルマハゼ *Paragobiodon lacunicolus* KAUM-I. 40392, 13.0 mm SL

ある。後頭部、項部、頬上部、主鰓蓋部上部をのぞき頭部に髭状皮質突起が密在する。鰓孔は狭く、胸鰭第2-17軟条基底間前方に限られる。胸鰭基底上端から第1背鰭基底中央を結ぶ線より前方、背鰭基底下方、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部腹中線上は無鱗、残りの体側は櫛鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色はうすい黄、頭部

はうすい黄のブラウンである。垂直鰭は暗い灰みのブラウン、胸鰭は黒、腹鰭はグレイである。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋。国内では小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島。

備考 本項の記載は与論島茶花海岸水

深2 mで採集された1標本(KAUM-I. 51194、雌、体長14.3 mm)に基づく。Suzuki & Randall (2011)の*P. lacunicolus*に一致する。体が淡色で斑紋がない、成魚の各鰭が暗色である、チリメンハナヤサイサンゴなどの枝間の狭いハナヤサイサンゴ属のサンゴを宿主にする(鈴木ほか、2004)などで同属他種と区別可能。

(鈴木寿之)



■ ヨゴレダルマハゼ *Paragobiodon modestus* Male KPM-NI 30835, 10.3 mm SL

スズキ目 ハゼ科 ダルマハゼ属

ヨゴレダルマハゼ

Paragobiodon modestus
(Regan, 1908)

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 20; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 9+8, 分節鰭条 9+8, 上・下不分節鰭条 4・3; 縦列鱗 25; 横列鱗 7; 背鰭前方鱗 0。第1背鰭は丸い。腹鰭はカップ状で、膜蓋と癒合膜はよく発達し、後端は生殖突起部に達する。頭部感覚管はパンダダルマハゼと同様。後頭部、項部、頬上部、主鰓蓋部上部をのぞき頭部に髭状皮質突起が密在する。鰓孔は狭く、胸鰭第2-17軟条基底間前方に限られる。胸鰭基底上端から第1背鰭基底中央を結ぶ線より前方、背鰭基底下方、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部腹面は無鱗、残りの体側は櫛鱗を被る。

色彩 生鮮時、頭部はあさい赤みのブラウン、体側と鰭は黒である。



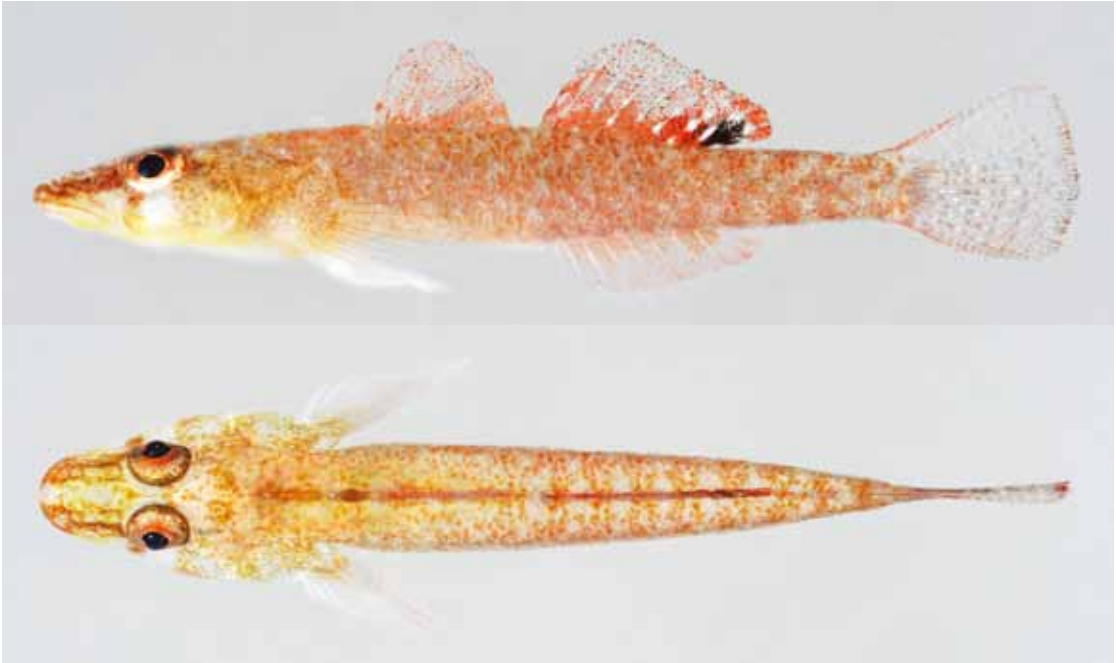
■ ヨゴレダルマハゼ *Paragobiodon modestus* Male KPM-NI 30728, 13.9 mm SL

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋。国内では小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本項の記載は与論島麦屋で採集された1標本(KPM-NI 30728、雄、体長13.9 mm)に基づく。Winterbottom & Emery (1986)の*P. modestus*に一致する。腹部腹中線付近に鱗がないことで、そこに円鱗が分布する近似のダルマハゼ*P. echinocephalus* (Rüppell, 1830)と区別可

能。また頭部の輪郭が角張り、項部と頭部腹面のヒゲが短く、ヘラジカハナヤサイサンゴなどの枝間の空いたハナヤサイサンゴ属のサンゴを宿主にするなどで、頭部輪郭が丸く、項部と頭部腹面のヒゲが長く、ショウウガサンゴを宿主とするダルマハゼと区別可能(鈴木ほか、2004)。両種は体色で区別できるとされているが、体色は個体の状態により変化がみられる。現在、本属魚類の分類学的研究が著者らにより行われている。

(鈴木寿之)



■ ウミシヨウブハゼ *Pleurosicya bilobata* Male KMP-NI 30882, 16.9 mm SL



■ ウミシヨウブハゼ *Pleurosicya bilobata* Female KMP-NI 30884, 15.7 mm SL

スズキ目 ハゼ科 ウミシヨウブハゼ属

ウミシヨウブハゼ

Pleurosicya bilobata
(Koumans, 1941)

形態 背鰭 VI-I, 7-9; 臀鰭 I, 7-9; 胸鰭

16-19; 縦列鱗 23-29; 背鰭前方鱗 0。体はやや細長い円筒状で、やや側扁する。吻は尖る。上顎は下顎よりわずか前方にまで突出する。舌の前縁は、ふつうくぼむ。鰓孔は広く、その前端は前鰓蓋後縁下よりはるか前方にある。体側鱗は櫛鱗。頭部、胸鰭基部、背鰭前方部、腹鰭前方部およ

び腹部は無鱗。背鰭の棘条は伸長しない。胸鰭上部に遊離軟条はない。腹鰭は左右癒合した吸盤状で、膜蓋と癒合膜が発達する。尾鰭は円形で、頭長とほぼ同長。頭部の感覚管は良く発達し、前眼肩甲管に開孔 B' C(S) D(S) E F G H'、前鰓蓋管に開孔 M' L O' がある。後眼肩甲管とその開孔

はない。眼下に横列孔器列がなく、すべて縦列。

色彩 頭部と体は透明感が強く、茶褐色のまだら模様がいり、小白色斑が散在する。上顎の先端付近から眼にかけての吻部に暗褐色の斜帯がはいり、同色の1横帯が眼下にもある。雄は体や背鰭、臀鰭が赤みがあり、第2背鰭の後端付近に瞳大か

それよりやや大きな1黒色斑がある。

分布 インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では琉球列島から記録されている。

備考 ウミシヨウブハゼ属にはインド・太平洋の熱帯・亜熱帯から17種が知られる。日本からは9種が記録され、さらに複数

の未同定種が報告されている。ウミシヨウブハゼは、吻の傾斜が緩く、細く尖ること、体が細長いこと、雄の第2背鰭後端付近に黒色斑があること等により、日本産の同属他種との区別は容易。その名の通りウミシヨウブやリュウキュウスガモ等の海藻類に着生する。ウミシヨウブハゼ属魚類の計数値はLarson (1990)に従った。

(洪川浩一)

スズキ目 ハゼ科 ウミシヨウブハゼ属

セボシウミタケハゼ

Pleurosicya mossambica
Smith, 1959

形態 背鰭 V-VI-I, 6-8; 臀鰭 I, 7-9; 胸鰭 16-20; 縦列鱗 20-27; 背鰭前方鱗 6-13。体はやや細長い円筒状で、やや側扁する。吻は尖る。上顎は下顎よりわずかに前方にまで突出する。舌の前縁は丸みを帯びるか、わずかにくぼむ。鰓孔は広く、その前端は前鰓蓋後縁下よりはるか前方にある。体側鱗は櫛鱗。頭部、胸鰭基部、腹鰭前方部および腹部は無鱗。項部側面は鱗で被われるが、背鰭前方の背中線上はふつつ無鱗（鱗で被われる個体もある）。背鰭の棘条は伸長しない。胸鰭上部に遊離軟条はない。腹鰭は左右癒合した吸盤状で、膜蓋と癒合膜が発達する。尾鰭は円形で、頭長とほぼ同長。頭部の感覚管は良く発達し、前眼肩甲管に開孔 B' C(S) D(S) E F G H'、前鰓蓋管に開孔 M' L O'がある。後眼肩甲管とその開孔はない。



■ セボシウミタケハゼ *Pleurosicya mossambica* BSKU 108270, 13.1 mm SL

眼下に横列孔器列がなく、すべて縦列。

色彩 着生宿主により、様々。頭部や体は透明感の強い淡いピンク色や灰褐色あるいは淡緑色。上顎の先端付近から吻にかけて赤色や黄褐色の1縦帯がはいり、眼の後方や体の腹半も同色に染まる。脊椎骨に沿って交互にはいる白色と赤色あるいは黒色の破線状模様が並ぶ。第1背鰭には、基底にそって半円形の1黒色斑がある。

分布 インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域

に分布する。国内では伊豆諸島、千葉県以南の本州から琉球列島にかけての地域より記録されている。

備考 セボシウミタケハゼは、第1背鰭の基底にそって半円形の黒色斑があることにより日本産の同属他種と区別できる。本種には体色や体形、被鱗域等に様々なものが見られることから、今後さらなる分類学的検討が必要とされる。ウミサカ類やカイメン類、スリパチサンゴ類に着生する。計数値はLarson (1990)に従った。

(洪川浩一)

スズキ目 ハゼ科 イレズミハゼ属

ベンケイハゼ

Priolepis cincta
(Regan, 1908)

形態 背鰭 VI-I, 10-11; 臀鰭 I, 9; 胸鰭 17-18; 縦列鱗 33-39; 背鰭前方鱗 19-22。体はふと短く、側扁する。下顎は上顎よりわずかに前方にまで突出する。舌の前縁はほぼ直線的か、ごくわずかくぼむ。鰓孔は広く、前端は前鰓蓋後縁下より前方にある。胸鰭基部や腹鰭前方部は円鱗で、のこる体側大半は櫛鱗で被われる。鰓蓋に円鱗か櫛鱗がある。頬は無鱗。背鰭の棘条は伸長しない。胸鰭上部に遊離軟条はない。腹鰭は左右癒合するが、後縁がやや湾入し、膜蓋はない。尾鰭は円形で、頭長よりやや短い。頭部に感覚管やその開孔がない。眼下に横列孔器列がなく、すべて縦列。



■ ベンケイハゼ *Priolepis cincta* KAUM-I. 51573, 33.6 mm SL

色彩 頭部と体は黄褐色で、12本ほどの淡いベージュあるいは淡灰褐色の細い横帯がはいり（第2背鰭起点下より後方には6本）。体側鱗のスケールポケット外縁はやや暗色がかかるが、それにより形成される網目模様は不明瞭。背鰭や臀鰭、尾鰭はくすんだ黄色で、外縁は青みを帯びた白色。尾鰭には数列の小暗色点列がある。幼魚

は第1背鰭の前下角に1黒斑がはいり。

分布 インド・西太平洋の温帯から熱帯域にかけて分布する。国内では、伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以西の本州、四国、九州、大隅諸島および琉球列島から記録されている。



■ ベンケイハゼ *Priolepis cincta* KPM-NI 30752, 26.2 mm SL



■ ベンケイハゼ *Priolepis cincta* KAUM-I. 51492, 18.4 mm SL

備考 ベンケイハゼ属にはインド・太平洋および大西洋の熱帯・亜熱帯・温帯域から35種が知られ、日本からは10種が報告されている。そのうちベンケイハゼは体形や体色がコベンケイハゼ *P. fallacincta*

Winterbottom & Burrige, 1992 やコクテンベンケイハゼ *P. akihitai* Hoese & Larson, 2010 に似るが、第2背鰭起点下より後方に6本の淡色横帯があること（コベンケイハゼは5本）、尾鰭に数本の小暗色点列

がはいること（コクテンベンケイハゼには暗色斑点列がなく、上縁付近に数個の黒色斑がある）等により区別できる。

（渋川浩一）

ススキ目 ハゼ科 イレズミハゼ属

コベンケイハゼ

Priolepis fallacincta
Winterbottom & Burrige, 1992

形態 背鰭 VI-I, 8-9; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 18-19; 縦列鱗 27-31; 背鰭前方鱗 14-16。体はふと短く、側扁する。下顎は上顎よりわずかに前方にまで突出する。舌の前縁はほぼ直線的か、ごくわずかくぼむ。鰓孔は広く、前端は前鰓蓋後縁下より前方にある。胸鰭基部、腹鰭前方部および腹部腹中線付近は円鱗で、このる体側大半は楕鱗で被われる。頬には円鱗と楕鱗が混在する。頬は無鱗。背鰭の棘条は伸長しない。胸鰭上部に遊離軟条はない。腹鰭は左右癒



■ コベンケイハゼ *Priolepis fallacincta* BSKU 108268, 13.0 mm SL

合するが、後縁がやや湾入し、膜蓋はない。尾鰭は円形で、頭長よりやや短い。頭部に感覚管やその開孔がない。眼下に6本の横列孔器列がある。

色彩 頭部と体は暗茶褐色で、11本ほどのベージュあるいは淡灰褐色の細い横帯がはいる（第2背鰭起点下より後方には5本）。体側鱗のスケールポケット外縁はや

や暗色がかかるが、それにより形成される網目模様は不明瞭。背鰭や臀鰭、尾鰭は赤褐色あるいはくすんだ黄色で、外縁は白色。尾鰭には小暗色点列が散在するが、明瞭な列をなさない。

分布 西太平洋の熱帯・亜熱帯域にかけ

て分布する。国内では四国、九州、大隅諸島および琉球列島から記録されている。

備考 コクテンペンケイハゼは体形や体色がペンケイハゼ *P. cincta* (Regan, 1908) やコクテンペンケイハゼ *P. akihitoi* Hoese & Larson, 2010 に似るが、第2背鰭起点

下より後方に淡色横帯が5本しかないことや（他2種では6本）、体側の淡色帯がくすみ、縁どりもやや不明瞭であること（他2種ではより明瞭）等により区別できる。体長は最大でも3 cmほどと、他2種に比べやや小さい。

(洪川浩一)



■ フトスジイレズミハゼ *Priolepis latifascima* KAUM-I. 42697, 14.0 mm SL

スズキ目 ハゼ科 イレズミハゼ属

フトスジイレズミハゼ

Priolepis latifascima

Winterbottom & Burrigge, 1993

形態 背鰭 VI-I, 8-9; 臀鰭 I, 7-8; 胸鰭 18-19; 縦列鱗 28-29; 背鰭前方鱗 0。体はふと短く、側扁する。下顎は上顎よりわずか前方にまで突出する。舌の前縁はほぼ直線的。鰓孔は広く、前端は前鰓蓋後縁より前方にある。腹部は円鱗で、のこる体側大半は櫛鱗で被われる。背鰭前方部、腹鰭前方部、胸鰭基部、頭部は無鱗。第1背鰭の第1-4棘条は糸状に伸長する。胸鰭上部に遊離軟条はない。腹鰭は左右癒合するが、後縁がやや湾入し、腹蓋はない。尾鰭は円形で、頭長よりやや短い。頭部に感覚管やその開孔がない。眼下に横列孔器列がなく、すべて縦列。

色彩 頭部は黄色あるいは橙色で、暗色で縁どられた4-5本のベージュの横帯がはいる。最後の横帯は鰓蓋上後端付近で2分岐し、後方の分枝は胸鰭基部にいたる。分岐点付近での前後両分枝の太さは、後



■ フトスジイレズミハゼ *Priolepis latifascima* KPM-NI 30727, 13.1 mm SL

方の分枝の方がやや太い。体はくすんだ黄褐色で、体側鱗のスケールポケット外縁が暗色にならないため、それにより形成される網目模様がほとんどない。背鰭や臀鰭、尾鰭はややくすんだ黄色。

分布 日本（伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以西の本州、大隅諸島、琉球列島）および台湾から記録されている。

備考 フトスジイレズミハゼはイレズミハゼ *P. semidoliata* (Valenciennes, 1837) に体形や体色が酷似するが、体側に網目模様がほとんどないこと、背鰭の軟条数が通常8であること、頭部の淡色横帯の最後のものが2分岐し、その分岐点付近での前後両分枝の太さは、後方の分枝の方がやや太いこと等で区別できる。

(洪川浩一)

■ イレズミハゼ *Priolepis semidoliata* KPM-NI 30817, 23.1 mm SL

ススキ目 ハゼ科 イレズミハゼ属

イレズミハゼ

Priolepis semidoliata
(Valenciennes, 1837)

形態 背鰭 VI-I, 9-10; 臀鰭 I, 7; 胸鰭 17-18; 縦列鱗 31-32; 背鰭前方鱗 0。体はふと短く、側扁する。下顎は上顎よりわずかに前方にまで突出する。舌の前縁はほぼ直線的。鰓孔は広く、前端は前鰓蓋後縁下より前方にある。腹部、は円鱗で、のこる体側大半は櫛鱗で被われる。背鰭前方部、腹鰭前方部、胸鰭基部、頭部は無鱗。第1背鰭の第1-4棘条は糸状に伸

長する。胸鰭上部に遊離軟条はない。腹鰭は左右癒合するが、後縁がやや湾入し、膜蓋はない。尾鰭は円形で、頭長よりやや短い。頭部に感覚管やその開孔がない。眼下に横列孔器列がなく、すべて縦列。

色彩 頭部は黄褐色で、暗色で縁どられた5本のベージュの横帯がはいる。最後の横帯は鰓蓋上後端付近で2分岐し、後方の分枝は胸鰭基部にいたる。分岐点付近での前後両分枝の太さはほぼ同じか、後方の分枝の方がやや細い。体はくすんだ黄褐色で、体側鱗のスケールポケット外縁がわずかに暗色であるため、それにより形成される網目模様はやや明瞭。背鰭や臀鰭、

尾鰭はややくすんだ黄色。

分布 日本（伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以西の本州、大隅諸島、琉球列島）および台湾から記録されている。

備考 イレズミハゼはフトスジイレズミハゼ *P. latifascima* Winterbottom & Burridge, 1993 に体形や体色が酷似するが、体側にやや明瞭な網目模様があること、背鰭の軟条数が通常9であること、頭部の淡色横帯の最後のものが2分岐し、その分岐点付近での前後両分枝の太さはほぼ同じか、後方の分枝の方がやや細いこと等で区別できる。

(渋川浩一)

ススキ目 ハゼ科 ベニハゼ属

ベニハゼ

Trimma caesiura
Jordan & Seale, 1906

形態 背鰭 VI-I, 8; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 17; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 6+5, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 27; 横列鱗 6; 背鰭前方鱗 6。両眼間と眼後方に深い溝がある。第1背鰭棘は伸長しない。胸鰭中央7軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋はなく、癒合膜は痕跡的、腹鰭第5軟条は二叉し長さは第4軟条の55%である。頬は無鱗、主鰓蓋部上部、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部

前部腹中線上は円鱗、第1背鰭前方、項部、残る体側は櫛鱗を被る。背鰭前方の鱗は左右の眼後縁を結ぶ線に達する。

色彩 生鮮時、体と鱗の地色は明るいグレイ、鱗鞘前部と鱗縁は明るい赤と黒で二層に縁取られる。頭部腹面は明るい赤、背面・側面に同色の斑紋が散在する。眼の後方から第1背鰭基底下方の鱗は縁取りがなく、ジクザクのグレイの縦線をなす。第2背鰭基底後端に1カ所、尾柄部背面に1カ所、尾柄部腹面に1から2カ所、体側中央数カ所も鱗は縁取りがなくグレイ斑となる。胸鰭基底にグレイの2斑、尾鰭基底上・下部に白斑がある。垂直鰭にはオレンジから赤の斑点が密在する。

分布 西太平洋、マーシャル諸島、サモア諸島。国内では伊豆諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本項の記載は与論島麦屋水深6-8mで採集された1標本（KPM-NI 30778、雄、体長28.0mm）に基づく。観察標本は Winterbottom & Villa (2003) の *T. caesiura* に一致する。第1背鰭第2棘が糸状に伸長しない、生時に吻に青系の微小点が生じない、体側の白斑が小さい、腹部や臀鰭基底上方の体側に白斑がないなどで近似のチゴベニハゼ *T. naudei* Smith, 1957 と区別可能である。

(鈴木寿之)

■ ベニハゼ *Trimma caesiura* Male KPM-NI 30778, 28.0 mm SL■ ベニハゼ *Trimma caesiura* KPM-NI 30777, 28.7 mm SL■ ベニハゼ *Trimma caesiura* KPM-NI 30899, 27.9 mm SL■ ベニハゼ *Trimma caesiura* KPM-NI 30738, 26.2 mm SL■ ベニハゼ *Trimma caesiura* KPM-NI 30739, 16.9 mm SL

スズキ目 ハゼ科 ベニハゼ属

アオギハゼ

Trimma caudomaculatum
Yoshino & Araga, 1975

形態 背鰭 VI-I, 8; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 14; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 6+5, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 27; 横列鱗 8; 背鰭前方鱗 10。両眼間と眼後方に溝がない。第1背鰭前方に皮質隆起がない。第1背鰭第2棘が糸状に著しく伸長し、倒すと尾柄部まで達する。胸鰭中央4軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋はなく、癒合膜は痕跡的、第5軟条は不分枝で長さは第4軟条の約56%である。頬、主鰓蓋部上部、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部前部腹中線上は円鱗、第1背鰭前方、項部、残る体側は楕鱗を被る。背鰭前方の鱗は左右の眼中央を結ぶ線に達する。

■ アオギハゼ *Trimma caudomaculatum* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ アオギハゼ *Trimma caudomaculatum* Male KAUM-I. 51572, 21.9 mm SL

色彩 生鮮時、体の地色はさえた赤み黄色、頭部と軀幹部の腹面は白、背側の鱗はグレイで縁取られる。ライラックの2縦帯が、吻から尾柄部末端、上顎後端から臀鳍基底後端まで走る。尾鳍基底に大きなこい赤紫斑がある。背鳍、腹鳍、臀鳍は明るい紫、中央に太い明るい黄の縦帯がある。尾鳍は前半部の鳍条は明るい赤紫とさえた赤みの黄である。

分布 台湾南部と日本。国内では伊豆諸島、和歌山県、高知県、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本項の記載は与論島前浜海岸水深15 mで採集された1標本(KAUM-I. 51572、雄、体長21.9 mm)に基づく。観察標本はYoshino & Araga (1975)の*T. caudomaculata*の原記載や図にほぼ一致する。ただし、原記載では胸鳍軟条は分

枝しないとされているが、観察標本では中央4軟条が分枝していた。しかし、ここでは個体変異と考えた。体側を青系の2縦帯が走る、尾鳍基底に大きなこ紫系斑があるなどで同属他種と区別可能。最近まで、近似の*T. tevegae* Cohen & Davis, 1969の新参異名とされてきたが、本種の第1背鳍第2棘が著しく伸張することで、伸張しない*T. tevegae*と区別可能(Winterbottom, 2011)。

(鈴木寿之)

スズキ目 ハゼ科 ベニハゼ属

アオベニハゼ

Trimma maiandros

Hoes, Winterbottom & Reader, 2011

形態 背鳍VI-I, 9; 臀鳍I, 8; 胸鳍17; 腹鳍I, 5; 尾鳍分枝鳍条6+5, 分節鳍条9+8; 縦列鱗25; 横列鱗7; 背鳍前方鱗0。両眼間と眼後方に浅い溝がある。第1背鳍前方に皮質隆起がない。第1背鳍棘は伸長しない。胸鳍中央5軟条は分枝する。左右の腹鳍間に膜蓋と癒合膜はなく、第5軟条は不分枝で長さは第4軟条の34%である。頬、主鰓蓋部、第1背鳍前方、項部、胸鳍基底は無鱗、腹鳍前方、腹部前部腹中線上は円鱗、残る体側は櫛鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色はうすい黄、頭部はグレイ、体側鱗はグレイで縁取られる。頭部から胸鳍基部にかけ6個の大きなあさい黄の斑紋がある。体背側に8個のあさい黄の斑紋、体側中央から腹側に9本



■ アオベニハゼ *Trimma maiandros* KAUM-I. 41104, 13.0 mm SL

のあさい黄の横帯がある。背鳍と尾鳍の地色は灰みの白、背鳍中央にあさい黄の1縦帯、尾鳍前部にあさい黄の斑紋がある。臀鳍はあさい黄である。

分布 西太平洋、カロリン諸島、マーシャル諸島、サモア諸島。国内では伊豆諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本項の記載は与論島シゴウ沖水深

2-10 mで採集された1標本(KAUM-I. 41104、体長13.0 mm)に基づく。生時、体の地色は青系、斑紋はオレンジ系である。観察標本はHoes et al. (2011)の*T. maiandros*の原記載や図にほぼ一致する。ただし、原記載では項部と胸鳍基部に鱗があるとされているが、観察標本では無鱗であった。しかしこれは個体が小さいことから未発達と考えられる。生時の体の地色が青系であることで同属他種と区別可能。

(鈴木寿之)

■ チゴベニハゼ *Trimma naudei* KAUM-I. 40002, 12.2 mm SL

スズキ目 ハゼ科 ベニハゼ属

チゴベニハゼ

Trimma naudei
Smith, 1957

形態 背鰭 VI-I, 8; 臀鰭 I, 8; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 6+5, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 26; 横列鱗 7; 背鰭前方鱗 1。両眼間と眼後方に深い溝がある。第1背鰭前方に低い皮質隆起がある。第1背鰭第2棘がやや伸長する。胸鰭中央数軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋はなく、癒合膜は痕跡的、第5軟条は二又し長さは第4軟条の51%である。頬、主鰓蓋部は無鱗、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部前部腹中線上は円鱗、項部側面と残る体側は櫛鱗を被る。背鰭前方の鱗は主鰓蓋部上方に1鱗のみ、後部側面の鱗の前端は前鰓蓋部後端上方をやや越える。

色彩 生鮮時、体の地色は明るい黄みの赤、体側鱗はにぶい赤で縁取られる。頭部背面に白の網目状斑、第1背鰭基底下方にジクザクの白斑がある。第2背鰭の起部下と後端下に各1個、尾柄部背面に1個、腹部から尾部腹側にかけて5個、尾鰭基

■ チゴベニハゼ *Trimma naudei* KPM-NI 30740, 8.9 mm SL

底上・下部に各1個の白斑がある。胸鰭基底にうすいスカイの2斑がある。垂直鰭はうすいピンク、基底に明るい黄みの赤斑がある。

分布 インド・西太平洋、マーシャル諸島。国内では大隅諸島と琉球列島からのみ知られる。

備考 本項の記載は与論島麦屋水深0.5-1 mで採集された1標本(KAUM-I. 40002、体長12.2 mm)に基づく。観察標本は

Winterbottom & Villa (2004) の *T. naudei* にほぼ一致する。ただし、記載では主鰓蓋部に鱗があるとされているが、観察標本ではなかった。しかし、これは個体が小さいことから未発達と考えた。第1背鰭第2棘が糸状に伸長する、生時、吻に青系の微小点が密在する、腹部から尾部腹側にかけて白斑が縦列するなどで近似のベニハゼ *T. caesiura* Jordan & Seale, 1906 と区別可能。胸鰭基底の弓形の黒斑や眼下の垂線の有無には個体変異があり識別形質にはならない。

(鈴木寿之)

スズキ目 ハゼ科 ベニハゼ属

オキナワベニハゼ

Trimma okinawae
(Aoyagi, 1949)

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 9; 胸鰭 17; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 6+5, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 26; 横列鱗 7; 背鰭前方鱗 1。両眼間と眼後方に深い溝がある。第1背鰭前方に皮質隆起がない。第1背鰭棘は伸長しない。胸鰭中央8軟条は分枝する。左右の腹鰭間に膜蓋はなく、癒合膜は痕跡的、第5軟条は不分枝で長さは第4軟

■ オキナワベニハゼ *Trimma okinawae* KPM-NI 30737, 24.0 mm SL



■ オキナワベニハゼ *Trimma okinawae* Female KPM-NI 30900, 22.4 mm SL

条の50%である。頬、主鰓蓋部は無鱗、胸鰭基底、腹鰭前方、腹部前部腹中線上は円鱗、項部側面と残る体側は櫛鱗を被る。背鰭前方の鱗は主鰓蓋部上方に1鱗のみ、項部側面の鱗の前端は前鰓蓋部後端上方にわずかに達しない。

色彩 生鮮時、体の地色はこいピンク、明るい赤みのオレンジ斑が密在する。眼下と前鰓蓋骨後縁に3本の明るい赤みのオレンジの垂帯がある。各鰭は灰みのピンク、鰭膜には微小白点が密在し、垂直鰭にはあさい黄の斑紋が散在する。

分布 西太平洋、オーストラリア北西岸。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、静岡県以南の南日本、大隅諸島、琉球列島に分布する。



■ オキナワベニハゼ *Trimma okinawae* KPM-NI 30743, 10.1 mm SL

備考 本項の記載は与論島麦屋水深7 mで採集された1標本（KPM-NI 30900、雌、体長22.4 mm）に基づく。観察標本はAoyagi (1949)のオキナワベニハゼ *Eviota*

*caesiura okinawae*の原記載に一致する。頭部に3本のオレンジ系の垂帯がある、体にオレンジ系斑が密在するなど同属他種と区別可能。

(鈴木寿之)

スズキ目 ハゼ科 シマイソハゼ属

アシナガシマイソハゼ (新称)

Trimmatom macropodus
Winterbottom, 1989

標本 KPM-NI 30775、体長11.4 mm、鹿児島県大島郡与論町麦屋沖（北緯27度01分13秒、東経128度26分30秒）、水深6–8 m、2012年8月14日、タモ網、瀬能 宏・内野啓道。

形態 背鰭VI-I, 8; 臀鰭I, 7; 胸鰭12; 腹鰭I, 5; 尾鰭分枝鰭条6+5, 分節鰭条9+8; 縦列鱗23; 横列鱗4; 背鰭前方鱗0。鰓孔はやや狭く、下端は前鰓蓋骨後縁下に達する。頭部感覚管はない。第1背鰭2棘は最長であるが糸状に伸張しない。第2背鰭と臀鰭は最後の軟条をのぞく全ての軟条、胸鰭は全ての軟条が分枝しない。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜がなく、第1–2軟条（右側は1–3軟条）は二叉、

第3–4棘は不分枝（右側は4軟条）、第4軟条は著しく伸張して後端は尾柄部に達し、第5軟条は短くその長さは第4軟条の15%、各軟条間の鰭膜は発達が悪い。胸鰭基底上端と第2背鰭後端を結ぶ線より前方、胸鰭基底、腹鰭前方、臀鰭基底上方は無鱗、残りの体側は櫛鱗、腹部は円鱗を被る。

色彩 生鮮時、体と鰭の地色は半透明・灰みの白である。躯幹表面に明るい赤の小点が密在し、尾部表面はうすい黄がかり、尾柄部の体側鱗のいくつかはグレイで縁取られる。虹彩は明るい赤みのオレンジ、眼から2本のグレイの小点が混じったあさい黄の垂線、頭部後半部にグレイとあさい黄の小点が散在する。腹膜上部はあさいブラウンから黒、脊柱はグレイで所々に同色の棘状模様がある。臀鰭基底上方に2個、尾柄部腹中線上に3個のグレイ斑がある。垂直鰭基底はつよい赤みのオレンジである。

分布 台湾、フィリピン、サンゴ海、グレイトバリアリーフ。国内では与論島と西表島から記録された。

備考 本項の記載は与論島麦屋水深6–8 mで採集された1標本（KPM-NI 30775、体長11.4 mm）に基づく。観察標本は *T. macropodus*の原記載や図にほぼ一致する。ただし、原記載では腹鰭第3軟条は分枝するとされているが、観察標本の左側では不分枝であった。しかし、右側が分枝することからこれを変異と考えた。色彩は鈴木ほか（2004）のシマイソハゼ属の1種2に一致する。体側鱗がある、腹鰭第1–3軟条が分枝するなど同属他種と区別可能。本報告は *T. macropodus*の日本における初めての記録となる。本種の腹鰭第4軟条が著しく長いことに因み新標準和名アシナガシマイソハゼを提唱する。

(鈴木寿之)



■ アシナガシマイソハゼ (新種) *Trimmatom macropodus* KPM-NI 30775, 11.4 mm SL



■ シマイソハゼ *Trimmatom* sp. Male KAUM-I. 51570, 18.4 mm SL

スズキ目 ハゼ科 シマイソハゼ属

シマイソハゼ

Trimmatom sp.

形態 背鰭 VI-I, 9; 臀鰭 I, 10; 胸鰭 19; 腹鰭 I, 5; 尾鰭分枝鰭条 6+5, 分節鰭条 9+8; 縦列鱗 23; 横列鱗 6; 背鰭前方鱗 0。鰓孔は広く、下端は眼の後縁下に達する。頭部感覚管はない。第1背鰭第2棘は糸状に伸張し、後端は倒すと尾柄部に達する。第2背鰭と臀鰭は最後の軟条をのぞく全ての軟条、胸鰭は全ての軟条が分枝しない。左右の腹鰭間に膜蓋と癒合膜がなく、

第1-4軟条は二又し、第5軟条は不分岐で短くその長さは第4軟条の18%、各軟条間の鰭膜は発達が悪い。胸鰭基底上端と第1背鰭第6棘基部を結ぶ線より前方、胸鰭基底、腹鰭前方、臀鰭基底上方は無鱗、残りの体側には櫛鱗、腹部には円鱗を被る。

色彩 生鮮時、体の地色はグレイ、吻から頭部腹側はあさい黄みのオレンジである。頭部に2本、体側に6本のさえた黄みの赤の横帯がある。体側の最初の横帯は第1背鰭起点に始まり、最後の2横帯は下半分ずつつながる。胸鰭基底にさえた黄みの赤の横斑がある。各鰭の鰭条はさえた黄

みの赤、鰭膜は半透明である。

分布 大隅諸島と琉球列島。

備考 本項の記載は与論島前浜海岸水深15 mで採集された1標本 (KAUM-I. 51570、雄、体長18.4 mm) に基づく。観察標本は明仁ほか (2013) や鈴木ほか (2004) のシマイソハゼ *Trimmatom* sp. に一致する。第1背鰭第2棘が伸張する、生時や鮮時に第1背鰭前部下の赤系横帯は同鰭起部より前に出ないなどで、同棘が伸張せず、同横帯が起部より前に出る近似のスジシマイソハゼ *T. pharus* Winterbottom, 2001と区別可能。

(鈴木寿之)



■ サザナミハゼ *Valenciennes longipinnis* KPM-NI 30837, 72.6 mm SL



■ サザナミハゼ *Valenciennes longipinnis* KAUM-I. 47953, 79.4 mm SL



■ サザナミハゼ *Valenciennes longipinnis* NSMT-P 110341, 68.3 mm SL



■ サザナミハゼ *Valenciennes longipinnis* KAUM-I. 47947, 65.1 mm SL

スズキ目 ハゼ科 クロイトハゼ属

サザナミハゼ

Valenciennes longipinnis
(Lay & Bennett, 1839)

形態 背鰭 VI-I, 12-13; 臀鰭 I, 11-13; 胸鰭 19-22; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 80-121; 横列鱗 30-46; 背鰭前方鱗 0; 脊椎骨 10+16。体は細長く、前部では円筒形に近く、後方ほど側扁する。吻は丸い。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開口 K' L'、前鰓蓋管に開口 M' N' O' がある。鰓孔は狭く、主鰓蓋骨中央下に達しない。頭部は無鱗だが、体側被鱗域の前部は主鰓蓋上方に達する。体は後方のものほどやや大きくなる小さな櫛鱗で被われる。ただし、体側被鱗域の前部、胸部、腹部では埋没傾向のある円鱗。第1背鰭は第2背鰭よりもやや高く、伸長鰭条を欠き、外縁は概ね丸い。左右の腹鰭は2分し、膜蓋や癒合膜を欠く。尾鰭は大きな個体では菱形。

色彩 生時の体色は、体の地色が灰みの白から黄色あるいは茶色みを帯びた灰色。頭部側面に3本の赤橙色縦線がある。後頭部から尾柄にかけての体側背部に3本

■ サザナミハゼ *Valenciennes longipinnis* KAUM-I. 47952, 42.8 mm SL

の赤橙色縦線あるいは縦点列がある。同様な1縦線が胸鰭基底から尾鰭基底にかけての体側正中よりやや下方を走る。この縦線上に眼径よりやや小さな赤色楕円形斑が5個並び、それぞれの斑は上部を除き逆Ω字状の水色線で縁取られる。第1背鰭は3-5本の赤橙色の斜走縦線があるが、部分的に虫食い状になることもある。上縁前部は白く縁取られ、第4棘の先端付近に1小黑斑を持つ場合が多い。

分布 オーストラリア北西岸、西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では駿河湾以南の南日本、大隅諸島、与論島以

南の琉球列島から知られる。

備考 本種を含めてクロイトハゼ属の計数値は背鰭前方鱗数と脊椎骨数を除き、Hoesle & Larson (1994)に基づく。本種は、体側に逆O字状の水色線で縁取られる楕円形斑が並ぶことで、日本産の同属他種から容易に識別できる。本種は礁池内の汀線近くのごく浅い砂底に単独またはペアで生息する。海底に巣穴を掘り、巣穴のすぐ近くでホバリングするが、危険を察知すると素早く巣穴に逃げ込む。

(瀬能 宏)

■ オトメハゼ *Valenciennes puellaris* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ハゼ科 クロイトハゼ属

オトメハゼ

Valenciennes puellaris
(Tomiya, 1956)

形態 背鰭 VI-I, 11-13; 臀鰭 I, 11-13; 胸鰭 19-22; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 72-91; 横列鱗 21-33; 背鰭前方鱗 0; 脊椎骨 10+16。体は細長く、前部では円筒形に近く、後方ほど側扁する。吻は丸い。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開口 K' L'、前鰓蓋管に開口 M' N' O' がある。鰓孔は狭く、主鰓蓋骨中央下に達しない。頭部は無鱗。体は後方のものほどやや大きくなる小さな櫛鱗で被われる。ただし、体側被鱗域の前部、胸部、

腹部では埋没傾向のある円鱗。第1背鰭は三角形で、第2背鰭よりも高く、第3棘が糸状に伸長する。左右の腹鰭は2分し、膜蓋や癒合膜を欠く。

色彩 生時の体色は、体の地色が灰みの白から黄色あるいは茶色みを帯びた灰色。頭部側面に水色の点状あるいは破線状の縦列斑が3列ある。鰓蓋上部から尾柄上部にかけての体側に、眼径大の橙色の1縦列斑がある。体背部には瞳孔大の橙色の小斑点が散在する。鰓蓋後縁から胸鰭基底中央よりわずか下を通り尾鰭基底に至る橙色の1縦線あるいは縦点列がある。これら体の橙色斑や橙色縦線は水色で縁取られる傾向がある。第1背鰭に橙色の小斑点が散在する。第2背鰭の基底近く

に橙色の1縦点列がある。幼魚は体側の斑紋がすべて斑点状で、背鰭第3棘の伸長部が白い。

分布 ポナペ島、サモア諸島、インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、千葉県館山以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本種は体側上半に橙色の斑点、下半に橙色の縦点列あるいは縦線があることで、日本産の同属他種からの識別は容易である。礁池や礁斜面などサンゴ礁の砂底あるいは砂礫底に単独またはペアで生息する。海底に巣穴を掘り、巣穴のすぐ近くでホバリングするが、危険を察知すると素早く巣穴に逃げ込む。

(瀬能 宏)

■ アカハチハゼ *Valenciennea strigata* BSKU 106110, 85.0 mm SL

スズキ目 ハゼ科 クロイトハゼ属

アカハチハゼ

Valenciennea strigata
(Broussonet, 1782)

形態 背鰭 VI-I, 17-19; 臀鰭 I, 16-19; 胸鰭 20-23; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 101-126; 横列鱗 28-40; 背鰭前方鱗 0; 脊椎骨 10+16。体は細長く、前部では円筒形に近く、後方ほど側扁する。吻は丸い。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' C(S) D(S) E F G H'、後眼肩甲管に開口 K' L'、前鰓蓋管に開口 M' N O' がある。鰓孔は狭く、主鰓蓋骨中央下に達しない。頭部は無鱗。体は後方のものほどやや大きくなる小さな櫛鱗で被われる。ただし、体側被鱗域の前部、胸部、腹部では埋没傾向のある円鱗。第1背鰭は三角形で、第2背鰭よりもわずかに高い程度だが、第2-4棘が糸状に伸長する。左右の腹鰭は2分し、鰓蓋や癒合膜を欠く。

色彩 生時の体色は、体がほぼ一様に灰色で、わずかに青みあるいは赤みを帯びる。後頭部から項部にかけてやや濃く、腹部は淡い。成魚は吻から眼、鰓蓋にかけて黄色いが、稀に黄色くない場合もある。頬から鰓蓋上部にかけて黒い縁取りのある水色の1斜走縦線がある。第1背鰭に3本、第2背鰭に4本、尾鰭の上・下葉に1本ずつ、臀鰭の縁辺近くに1本の淡い桃色縦線があるが、水中では目立たない。幼魚は頭部の地色全体が黄色い。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。伊豆・小笠原諸島、千葉県鴨川以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本種は頭部に水色の1斜走縦線があること、躯幹部から尾部にかけて特徴的な斑紋を欠くことで、日本産の同属他種か

■ アカハチハゼ *Valenciennea strigata* KAUM-I. 40351, 83.9 mm SL■ アカハチハゼ *Valenciennea strigata* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

ら容易に識別できる。礁池や礁斜面などサンゴ礁の砂底あるいは砂礫底に単独またはペアで生息する。海底に巣穴を掘り、巣穴

のすぐ近くでホバリングするが、危険を察知すると素早く巣穴に逃げ込む。

(瀬能 宏)



■ コモンヤツシハゼ *Vanderhorstia* sp. 2 KPM-NI 30852, 49.1 mm SL



■ コモンヤツシハゼ *Vanderhorstia* sp. 2 KPM-NI 30814, 27.7 mm SL



■ コモンヤツシハゼ *Vanderhorstia* sp. 2 KPM-NI 30842, 26.3 mm SL



■ コモンヤツシハゼ *Vanderhorstia* sp. 2 KPM-NI 30845, 22.6 mm SL



■ コモンヤツシハゼ *Vanderhorstia* sp. 2 KPM-NI 30844, 22.5 mm SL

スズキ目 ハゼ科 ヤツシハゼ属

コモンヤツシハゼ

Vanderhorstia sp. 2
sensu Akihito et al. (2013)

形態 背鰭 VI-I, 12-13; 臀鰭 I, 13; 胸鰭 17-19; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗 50-58; 横列鱗 14-16; 背鰭前方鱗 0; 脊椎骨 10+16。体は細長く、前方では円筒形に近く、後方ほど側扁する。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' C(S) D(S) E F G H', 後眼肩甲管に開口 K' L', 前鰓蓋管に開口 M' N O' がある。鰓孔は前鰓蓋骨後縁と眼の後縁の中央下に達する。頭部は無鱗。軀幹部から尾部にかけて後方ほど大きい円鱗で被われる。第1背鰭は第2背鰭よりもやや高く、第1背鰭第3棘は糸状に伸長する。尾鰭は前後に長く、上葉後縁はやや尖る。腹鰭は吸盤状で、腹蓋と癒合膜が発達する。

色彩 鮮時の体色は、体の地色が緑みを帯びた黄色で、体側下半では淡く、胸部や腹部は白い。頭部は青く縁取られた黄色小斑が側面から背面にかけて斜走縦列斑を形成する。軀幹部から尾部にかけての

側に黄色や茶色、あるいは部分的に赤みを帯びた小斑が多数ある。背部の斑紋は小さく、部分的に青く縁取られ、対状の斑紋が1縦点列をなす。体側正中の斑紋はやや大きく、1縦点列をなし、それぞれの斑紋の青い縁取りは横線状。腹部にも同様な3個の斑紋があり、それぞれの斑紋は青い縁取りも含めて横带状。第1背鰭には基底近くに茶色と水色の弧状2重縦線があり、その後端は第5棘上で茶色の1小斑として終わる。第2背鰭正中に黄色あるいは橙色の小縦列斑がある。尾鰭には基底近くに青く縁取られる橙色小斑が1横帯を形成する。臀鰭は正中付近に水色と橙色の2重縦線があり、その縁辺側は灰みを帯びる。腹鰭は縁辺が灰みを帯びた白色で、黄色の地に青色小斑点が密在する。

分布 ボルネオ島、バリ島、サイパン島。国内では伊豆諸島、相模湾以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本種は鈴木ほか(2004)にヤツシハゼ属の1種-2として掲載されたハゼで、標準和名は明仁ほか(2013)により与えられた。鈴木ほか(2004)では *V.*

ornatissima Smith, 1959 に同定される可能性が示唆されたが、明仁ほか(2013)によれば Smith(1959)の原記載とは縦列鱗数や横列鱗数に違いがあり、学名については検討中であるという。本種の腹鰭の縁辺は灰みを帯びた白色で、橙色の縁取りや環状の青色線がなく、黄色の地に青色小斑点が密在する。また、体側の斑紋は細かくて大小の差が小さく、成魚では青色の縁取りと合わせて横帯あるいは横列斑を作る傾向がある。しかしながら、分類学的に未解決の種が複数知られており、腹鰭の色彩以外の特徴で識別することは難しい場合がある。礁池内の藻場など、サンゴ礁域浅所の砂泥底に単独またはペアで生息し、テッポウエビ類と共生する。危険を察知すると巣穴に逃げ込むが、巣穴を放棄することもある。

(瀬能 宏)



■ オオメワラスボ *Gunnellichthys pleurotaenia* KPM-NI 30851, 58.5 mm SL

スズキ目 オオメワラスボ科 オオメワラスボ属

オオメワラスボ

Gunnellichthys pleurotaenia
Bleeker, 1858

形態 背鰭 XX, 38-40; 臀鰭 37-38; 胸鰭 12-13; 腹鰭 I, 4; 脊椎骨 24-25+33。体は著しく細長く、やや側扁する。口は上位で、口裂は斜行する。下顎は厚く、先端は軟らかく丸い。前鼻孔と後鼻孔は互いに離れ、それぞれ短い鼻管を備える。頭部に感覚管の開口を欠く。鰓孔は狭く、前端は鰓蓋中央下に達する。頬から鰓蓋および後頭部から項部、体側に微細な埋没鱗が敷石状に散在する。背鰭は1基で、胸鰭基底上方よりもわずかに後方から始まり、尾鰭基底よりもわずかに前方で終わる。棘条部は軟条部よりもわずかに低い。臀鰭は背鰭軟条部よりもわずかに高く、背鰭最後軟条と相

対した位置で終わる。胸鰭は長卵形。腹鰭は小さく、左右に2分する。それぞれの基底は接近するが、癒合膜を欠く。尾鰭は円く、後縁中央がわずかに角張る。

色彩 体色は、頭部から軀幹部にかけての地色が白あるいは黄色みを帯びた白。尾部は、前方では軀幹部と同色で、後方ほど黄色みを増し、後半では鮮やかな黄色。下顎先端から眼、鰓孔上端直上を経て、尾鰭基底中央に至る灰みを帯びた茶色い1縦線がある。この縦線は軀幹部でやや淡く、尾部後方ではほぼ黒色。同様な1縦線が上唇を除く吻背面から背鰭基底にかけての背中線上にあり、頭部では濃い。背鰭は透明で、第1棘先端付近から後方へ、灰みを帯びた茶色い1縦線が鰭の中央付近を走り、背鰭軟条部後方まで延長する。この縦線よりも下方の鰭は黄色。臀鰭は全体が黄色く、縁辺側の約3分の1が透明。

尾鰭は上・下葉のそれぞれ外側が透明で、残りの部分は黄色。基底中央から後方に向かって、始部に黒斑を持つ橙色の噴射状斑がある。胸鰭は透明。腹鰭は白い。

分布 西・中央太平洋の熱帯・亜熱帯海域に分布する。国内では与論島以南の琉球列島から記録されている。

備考 尾鰭基底を被う1黒斑がないこと、鰓蓋上部に1黒斑がないこと、下顎先端が丸いこと、体側に灰みを帯びた茶色(固定後は黒)の1縦線があることで、日本産の同属他種からの識別は容易である。礁池などごく浅いサンゴ礁域の藻場やその周辺の砂底に単独で生息し、海底からわずかに上方を体をくねらせながら泳ぐ。危険を察知すると垂直に掘られた無脊椎動物の巣穴などに素早く逃げ込む。

(瀬能 宏)

スズキ目 クロユリハゼ科 ハタタテハゼ属

ハタタテハゼ

Nemateleotris magnifica
Fowler, 1938

形態 背鰭 VI-I, 28-32; 臀鰭 I, 27-30; 胸鰭 19-20; 腹鰭 I, 5; 縦列鱗約 110-130; 背鰭前方鱗 0; 脊椎骨 10+16。体はやや細長く、よく側扁する。吻端は丸い。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' C D(S) E F H'。前鰓蓋管に開口 M' N O' がある。眼隔域から第1背鰭起部までの背中線上に肉質の隆起縁が発達する。鰓孔は前鰓蓋後縁下に達する。体前半は埋没傾向のある小円鱗で被われる。後半は後方ほど大きい弱い楕円鱗で被われる。第1背鰭は前半の鰭条が長く、特に第1・第2棘は著しく伸長する。後半は第2背鰭よりも著しく低い。腹鰭はやや長く、左右に2分する。左右の基底は接近するが、癒合膜はない。

色彩 頭部は前半が黄色い。頭部後半から体側前半にかけて淡い紅紫色。眼の後方の頭部側面に赤紫色の小斑点が散在する。体側後半は橙色で、後方ほど赤みを増し、尾柄部では黒ずむ。第1背鰭は前縁が橙色で、伸長部の鰭膜は淡黄色。背・臀・尾鰭は橙黄色あるいは赤橙色で、背・臀鰭から尾鰭にかけて青灰色の縦線がある。これら縦線の外側の鰭は黒ずむ。



■ ハタタテハゼ *Nemateleotris magnifica* KAUM-I. 41105, 28.3 mm SL

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では伊豆・小笠原諸島、千葉県鴨川以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 背鰭前方鱗数と脊椎骨数を除く計数値はRandall & Allen (1973)に基づく。本種は、第1背鰭前部の鰭条が著しく伸長する、背鰭伸長部は前縁を除いて全体が

淡黄色、腹鰭全体が淡黄色、体側後半は明るい橙色といった特徴により、日本産の同属他種から容易に識別できる。礁斜面のガレ場の砂底に単独またはペアで生息し、海底から少し上でホバリングしながら潮に乗って流れてくるプランクトン動物を捕食する。危険を察知すると大きな礫下に素早く隠れる。

(瀬能 宏)



■ ハタタテハゼ *Nemateleotris magnifica* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ クロユリハゼ *Ptereleotris evides* KAUM-I. 58486, 81.3 mm SL

スズキ目 クロユリハゼ科 クロユリハゼ属

クロユリハゼ

Ptereleotris evides
(Jordan & Hubbs, 1925)

形態 背鰭 VI-I, 23-26; 臀鰭 I, 23-26; 胸鰭 21-24; 腹鰭 I, 4; 縦列鱗 >150; 横列鱗 >40; 背鰭前方鱗 25; 脊椎骨 10+16。体はやや細長く、側扁する。吻端はやや尖る。頭後方に肉質突起がない。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' D(S) E F H'、前鰓蓋管に開口 M' O' がある。背鰭前方の背中線上に肉質隆起縁がない。鰓孔は鰓蓋中央下と前鰓蓋後縁下の間に達する。



■ クロユリハゼ *Ptereleotris evides* BSKU 106109, 88.0 mm SL



■ クロユリハゼ *Ptereleotris evides* KAUM-I. 41229, 31.9 mm SL



■ クロユリハゼ *Ptereleotris evides* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

体は埋没傾向のある小円鱗で被われるが、体後方の鱗には少数の弱い櫛鱗が混在する。垂直鰭は比較的高いが、伸長鰭条を欠く。尾鰭後縁は湾入する。左右の基底は接近するが、癒合膜はない。

色彩 生時、体色は体前半が淡い青緑色、後半は第2背鰭と臀鰭を含めて黒い。第1背鰭は淡い赤みを帯びた灰色で、上部に淡い黄色域がある。尾鰭は透明で、上・下縁は黒く縁取られる。幼魚は垂直鰭の縁辺が黒く、第1背鰭、第2背鰭の前部、尾柄から尾鰭基底の上部にかけて黄色。また、尾鰭基底下部に眼径もしくはそれよりも大きい1黒色縦斑がある。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では伊豆・小笠原諸島、千葉県勝浦以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 本種を含めてクロユリハゼ属の計数値は鱗数と脊椎骨数を除き、Randall & Hoese (1985)に基づく。本種は、尾鰭上・下縁が黒く縁取られること、成魚は体後半が第2背鰭・臀鰭とともに黒ずむこと、幼魚は尾鰭基底下部に1黒色縦斑をもつことにより、同属他種から容易に識別できる。サンゴ礁域浅所の底層から中層に単独またはペアで生息する。幼魚は群れを作る。
(瀬能 宏)



■ クロユリハゼ *Ptereleotris evides* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 クロユリハゼ科 クロユリハゼ属

オグロクロユリハゼ

Ptereleotris heteroptera
(Bleeker, 1855)

形態 背鰭 VI-I, 29-33; 臀鰭 I, 27-30; 胸鰭 21-24; 腹鰭 I, 4; 縦列鱗 >150; 横列鱗 >40; 背鰭前方鱗 28; 脊椎骨 10+16。体は細長く、側扁する。吻端はやや尖る。頭後方に肉質突起がない。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' D(S) E F H'、前鰓蓋管に開口 M' O' がある。背鰭前方の背中線上に肉質隆起縁がない。鰓孔は鰓蓋中央下に達する。体は埋没傾向のある小円鱗で被われる。垂直鰭は低く、伸長鰭条を欠く。尾鰭後縁は湾入する。左右の基底は接近するが、癒合膜はない。

色彩 生時、体色は淡い青緑色で、腹部は白い。第1・第2背鰭と臀鰭はほぼ無



■ オグロクロユリハゼ *Ptereleotris heteroptera* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

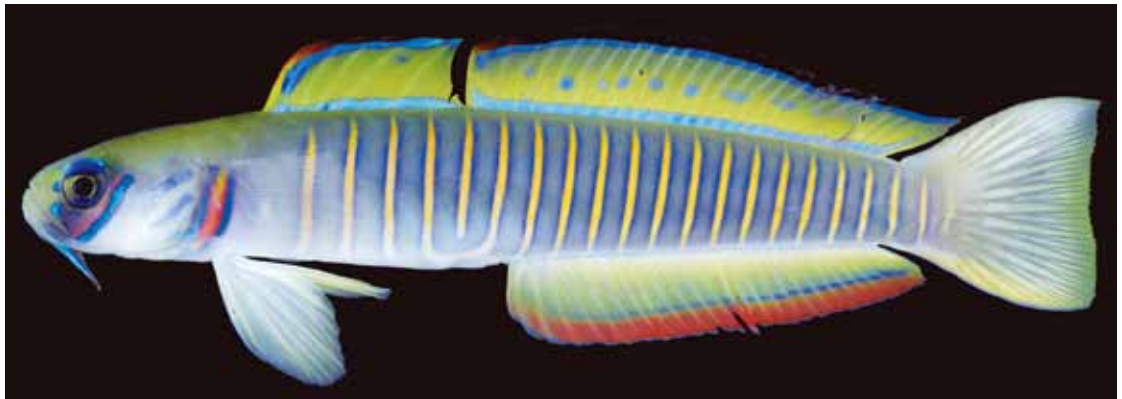
色透明で、各鰭の基底付近に沿って不明瞭な黄色縦線がある。尾鰭はわずかに黄色みを帯び、中央後方に眼径よりも大きな1黒色縦斑がある。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では伊豆・小笠原諸島、千葉県館山以南の南日本、大隅諸島、琉

球列島から知られる。

備考 尾鰭中央後半に1黒色縦斑をもつことで同属他種から容易に識別できる。サンゴ礁域浅所の底層から中層を群れて遊泳する。危険を察知すると大きな礫などに一斉に逃げ込む。

(瀬能 宏)



■ ゼブラハゼ *Ptereleotris zebra* KAUM-I. 51385, 65.6 mm SL

スズキ目 クロユリハゼ科 クロユリハゼ属

ゼブラハゼ

Ptereleotris zebra
(Fowler, 1938)

形態 背鰭 VI-I, 27-29; 臀鰭 I, 25-28; 胸鰭 23-26; 腹鰭 I, 4; 縦列鱗 >130; 横列鱗 >35; 背鰭前方鱗 0; 脊椎骨 10+16。体はやや細長く、側扁する。吻端はやや尖る。頭後方に肉質突起がある。頭部の感覚管は、前眼肩甲管に開口 B' D(S) E F H'、前鰓蓋管に開口 M' O' がある。背鰭前方の背中線上に肉質隆起縁がない。鰓孔は鰓蓋中央下に達する。体は埋没傾向のある小円鱗で被われる。背鰭は低く、第1背鰭は横長の平行四辺形に近い。垂直鰭に伸長鰭条を欠く。尾鰭後縁は截形もしくはわずかに湾入する。左右の基底は接近するが、癒合膜はない。



■ ゼブラハゼ *Ptereleotris zebra* NSMT-P 110462, 30.9 mm SL

色彩 生時、体色は青緑色で、体側に多数の黄色あるいは桃色横線がある。各横線は青色で縁取られる。眼から下顎後部にかけて斜走横帯状に黒ずむ。胸鰭基底に2本の青色横線があり、その間は赤い。第1・第2背鰭は黄色く、縁辺は濃赤紫色と水色の2重縦線によって縁取られる。また、基底に沿って水色の縦線がある。臀鰭は黄色く、縁辺は幅広い赤色縦帯によって縁取られる。尾鰭はわずかに黄色みを帯び、特徴的な斑紋を欠く。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では伊豆・小笠原諸島、相模湾以南の南日本、琉球列島から知られる。

備考 本種は、体側に多数の横線をもつことで、同属他種から容易に識別できる。サンゴ礁域浅所の底層から中層を群れて遊泳する。危険を察知すると大きな礫などに一斉に逃げ込む。

(瀬能 宏)



■ ナンヨウツバメウオ *Platax orbicularis* FRLM 43005, 42.2 mm SL



■ ナンヨウツバメウオ *Platax orbicularis* KAUM-I. 51316, 34.6 mm SL

スズキ目 マンジュウダイ科 ツバメウオ属

ナンヨウツバメウオ

Platax orbicularis
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 V, 35-37; 臀鰭 III, 26-27; 胸鰭 17-18; 側線有孔鱗 46-50。体は強く側扁し、吻はやや尖る。背鰭の棘条部と軟条部の間に欠刻がない。下顎下面に5対の小孔がある。最外列顎歯の中央尖頭は左右両脇の歯より大きい。

色彩 幼魚は黄色もしくは赤茶色。20 cm以上の成魚は茶褐色で、眼と胸鰭基底上を走る2本の暗色横帯がある。暗色横帯に小黑斑がみられる。成魚の腹鰭は黒色。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋。国内では岩手県以南の太平洋沿岸、伊豆諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 幼魚は落ち葉に擬態して漂流する。マングローブ域にもみられる。全長 50 cmに達する。

(西 大樹)



■ アカククリ *Platax pinnatus* KAUM-I. 47991, 22.5 mm SL

スズキ目 マンジュウダイ科 ツバメウオ属

アカククリ

Platax pinnatus
(Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 V-VI, 34-37; 臀鰭 III, 25-27; 胸鰭 18-19; 側線有孔鱗 44-53。体

は強く側扁し、前頭部は窪む。吻はわずかに突出する。背鰭の棘条部と軟条部の間に欠刻がない。下顎下面に4対の小孔がある。

色彩 幼魚の体は全体的に黒色で、周縁に鮮やかな朱色の縁取りがある。体色は成長に伴い黄色味がかかった銀色になる。

分布 インド・西太平洋。国内では千葉県、琉球列島から知られる。

備考 美しい姿の幼魚は鑑賞魚として人気がある。食用にもなるが、さほど好まれない。全長 40 cm に達する。

(西 大樹)



■ ハナアイゴ *Siganus argenteus* FRLM 43060, 247.3 mm SL



■ ハナアイゴ *Siganus argenteus* KAUM-I. 51343, 241.8 mm SL



■ ハナアイゴ *Siganus argenteus* KAUM-I. 51522, 254.7 mm SL



■ ハナアイゴ *Siganus argenteus* KAUM-I. 46011, 218.2 mm SL



■ ハナアイゴ *Siganus argenteus* KAUM-I. 40342, 167.7 mm SL

スズキ目 アイゴ科 アイゴ属

ハナアイゴ

Siganus argenteus
(Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 XIII, 10 ; 臀鰭 VII, 9 ; 胸鰭 16

-18. 体は紡錘形で、側扁している。尾鰭は強く二又する。背鰭棘・軟条間の欠刻は深い。腹鰭前の胸部に無鱗域がある。背鰭棘と臀鰭棘は細い。吻はやや長い。背鰭軟条の先端は2分枝。

色彩 体色はオリーブグリーンで体側にくす

んだ黄色の点が不規則に並び、縦線を形成する場合もある。鰓蓋上部後縁は暗色になる。背鰭は、鰭条は体と同色であり鰭膜はほぼ透明。背鰭軟条は、鰭条は体側とほぼ同色であり、不明瞭な縞模様が入り、鰭膜は透明。臀鰭と腹鰭も背鰭にほぼ準じた色彩である。腹鰭と尾鰭は体側とほぼ同

色である。胸鰭はくすんだ黄色。

分布 インド・太平洋に広く分布しており、アイゴ属の中ではもっとも広域（アフリカ西岸：東経 40° 付近－ビトケアン諸島：西経 130° 付近；Woodland, 1990）に分布する種。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本種は形態上、セダカハナアイゴ *S. woodlandi* Randall & Kulbicki, 2005 とひじょうに似ているが、体高が低く、体長は背鰭最終棘・臀鰭最終棘基底間の長さの 3.6 倍以下（セダカハナアイゴでは 3.5 倍以上）、背鰭軟条先端が 2 分枝し、鰭膜は透明である（背鰭軟条は多分枝で鰭膜は軟条に沿ってくすんだ橙色になる）ことにより識別が可能である。

本種は主にサンゴ礁周辺で中層を遊泳しており、与論島では周辺海域でごく普通に確認されている。なお本調査では日本国内に広く分布（青森県から琉球列島）するアイゴ *S. fuscescens* (Houttuyn, 1782) が与論島から確認されなかった。

（桜井 雄）



■ ブチアイゴ *Siganus punctatus* KAUM-I. 45785, 308.8 mm SL

スズキ目 アイゴ科 アイゴ属

ブチアイゴ

Siganus punctatus
(Schneider & Forster, 1801)

形態 背鰭 XIII, 10；臀鰭 VII, 9；胸鰭 16-17。体は体高の高い小判形で、側扁している。尾鰭は深く二叉し、その先端は丸みを帯びることも多い。背鰭棘・軟条間の欠刻は浅い。腹鰭前の胸部は有鱗である。背鰭棘と臀鰭棘は幅広い。吻はやや突出する。

色彩 体色は濃茶褐色であり、体側全体に暗橙色の小点が密に分布する。この斑紋は幼魚ではやや大きく、成長に伴い相対的に小さくなる。鰓蓋上部に眼よりやや大きい不明瞭な 1 暗色斑がある。背鰭、腹鰭、臀鰭および尾鰭は体側と同じく茶褐色で明瞭な斑紋をもたない。胸鰭は透明。

分布 オーストラリア西岸と西太平洋に分布



■ ブチアイゴ *Siganus punctatus* KAUM-I. 47893, 287.6 mm SL

する。国内では小笠原諸島、高知県柏島、琉球列島から知られる。

備考 本種は体高の高い小判型体型であ

ること、尾鰭が深く二叉すること、鰓蓋上部に眼より大きい 1 暗色斑をもつことからチリメンアイゴ *S. punctatissimus* Fowler & Bean, 1929 や *S. stellatus* (Forsskal,

1775)と似ているが、体側に暗橙色点が密にある(チリメンアイゴでは小白色点、*S. stellatus*では濃茶褐色の小点が密に分布する)ことから識別される。なお、*S.*

*stellatus*は紅海を含むインド洋に分布しており、アンダマン海付近を除くとプチアイゴと分布は重なっていない(Woodland, 1990)。本種は主にサンゴ礁域や藻場等

に生息しており、与論島では周辺海域で漁獲されている。

(桜井 雄)



■ アミアイゴ *Siganus spinus* KAUM-I. 40332, 119.3 mm SL



■ アミアイゴ *Siganus spinus* KAUM-I. 39809, 67.9 mm SL



■ アミアイゴ *Siganus spinus* FRLM 42785, 70.0 mm SL



■ アミアイゴ *Siganus spinus* NSMT-P 110376, 53.8 mm SL



■ アミアイゴ *Siganus spinus* BSKU 108226, 68.7 mm SL

スズキ目 アイゴ科 アイゴ属

アミアイゴ

Siganus spinus
(Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 XIII, 10; 臀鰭 VII, 9; 胸鰭 16-18。体は細長い紡錘形で、体高は低く、側扁している。尾鰭はごく浅い湾入型、背

鰭棘 - 軟条間の欠刻は深い。腹鰭前の胸部に無鱗域がある。背鰭棘と臀鰭棘は細い。後鼻孔の皮弁は比較的長い。吻は短い。

色彩 体色はオリーブグリーンで腹部はやや白みがかかる。体側には淡色線が不規則に走り、虫食い状の斑紋をなす。背鰭は、鰭条は体と同色であり鰭膜はやや白い。腹

鰭、臀鰭共に白く、各鰭とも不規則なまだら模様がある。尾鰭は体と同色であり、横帯状の模様が入る。胸鰭は透明。

分布 ハワイ諸島を除く東インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、静岡県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。アイゴ属の中ではハナアイゴ *S. argenteus* (Quoy & Gaimard, 1825) に次いで広く分布（スリランカ：東経 80° 付近からソシエテ諸島：西経 150° 付近）する種（Woodland, 1990）。

備考 本種は形態上 *S. luridus* (Rüppell, 1829) とひじょうに似るが、体側に明瞭な強い虫食い模様があること（後者では不明瞭な弱い虫食い模様）、尾鰭基部に明瞭な1白色斑があること（ない）により識別される。なお *S. luridus* は西インド洋、紅海、ペルシャ湾、地中海東岸に分布しており、アマアイゴと分布が重なることはない



■ アマアイゴ *Siganus spinus* KAUM-I. 39743, 37.7 mm SL

(Woodland, 1990)。本種は主にサンゴ礁域周辺の水深の浅いガレ場に生息している。与論島では寺崎海岸や茶花漁港、麦

屋漁港、宇勝海岸などの水深 0.5–6 m 付近で採集されている。

(桜井 雄)

スズキ目 アイゴ科 アイゴ属

ヒメアイゴ

Siganus virgatus
(Valenciennes, 1835)

形態 背鰭 XIII, 10; 臀鰭 VII, 9; 胸鰭 16–17。体は体高の高い小判形で、側扁している。尾鰭は截形もしくはゆるい湾入形。背鰭棘 - 軟条間の欠刻は浅い。腹鰭前の胸部は有鱗である。背鰭棘と臀鰭棘は幅広い。吻は丸く突出しない。

色彩 体色はややくすんだ白色であり、背鰭始部から尾鰭にかけて体側上縁は黄色い。この黄色の部分に不規則な青点と破線状の横線が並ぶ。背鰭始部前方から眼を通り下顎後方までと背鰭第 4 棘後方から胸鰭基部上部を通り鰓孔部までに斜めの暗色の斜め横帯が 2 本ある。吻部はくすんだ白色。背鰭と尾鰭は黄色。腹鰭と臀鰭は白色。胸鰭は透明。

分布 東インド洋・西太平洋（ニューギニア東部まで）に分布する。国内では大隅諸島と琉球列島に分布する。

備考 本種は形態上、オーストラリア西岸のインド洋と南西太平洋に分布する *S. doliatus* (Guérin-Méneville, 1829) とひじょうに似ているが、体側上部に不規則な青色の点や破線状模様が入ること（*S. doliatus* は体側全体に細い青色の横線が入る）ことにより識別される。なおヒメアイゴと *S. doliatus* はオーストラリアのポーターダーウィンやニューギニア島東端付近のみで同所的



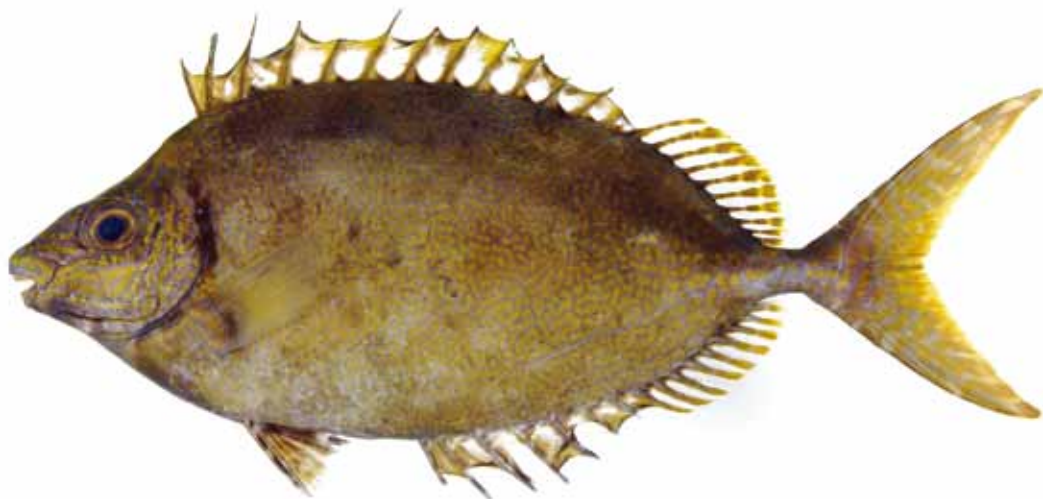
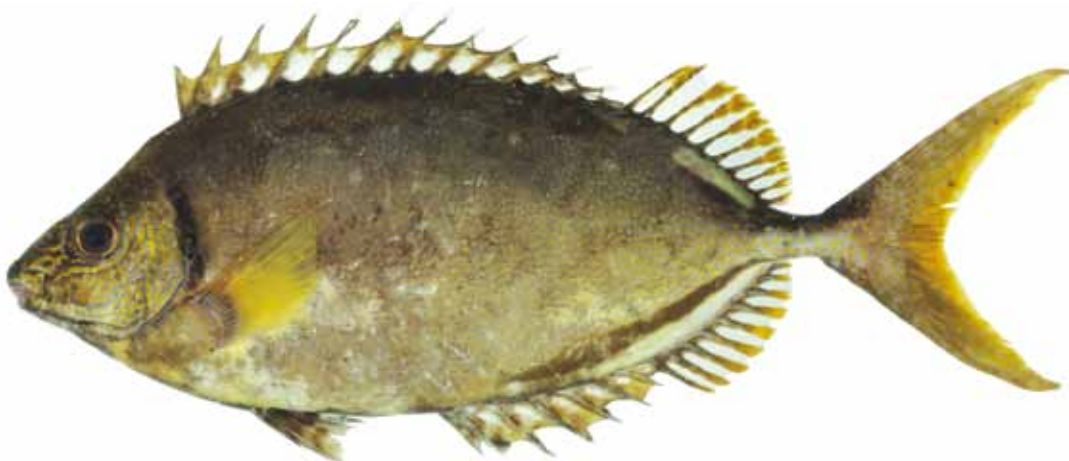
■ ヒメアイゴ *Siganus virgatus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

に生息している以外は分布が重なっていない（Woodland, 1990）。

本種は主にサンゴ礁域周辺に生息してお

り、与論島では前浜沖の水深 15 m 付近で確認されている。

(桜井 雄)

■ セダカハナアイゴ *Siganus woodlandi* KAUM-I. 51518, 209.1 mm SL

スズキ目 アイゴ科 アイゴ属

セダカハナアイゴ

Siganus woodlandi
Randall & Kulbicki, 2005

形態 背鰭 XIII, 10; 臀鰭 VII, 9; 胸鰭 16-18。体はやや体高の高い紡錘形で、側扁している。尾鰭は強く二又し、大きい。背鰭棘・軟条間の欠刻は深い。腹鰭前の胸部に無鱗域がある。背鰭棘と臀鰭棘は細い。吻はやや長い。背鰭軟条の先端が多分枝している。

色彩 体色はオリーブグリーンで体側には橙色線が不規則に走り、虫食い状の斑紋や横線模様を形成する。鰓蓋上部後縁は暗色になる。背鰭は、鰭条は体と同色であり鰭膜はほぼ透明。背鰭軟条の分枝部は橙色をなしており、その色彩は周辺の鰭膜にも及ぶ。臀鰭も背鰭にほぼ準じた色彩。腹鰭と尾鰭は体側とほぼ同色であり、尾鰭の後縁部はやや橙色みを帯びる。胸鰭は橙色。

■ セダカハナアイゴ *Siganus woodlandi* FRLM 43059, 284.7 mm SL

分布 フィリピン、インドネシア、ニューカレドニア、フィジー諸島に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、茨城県以南の太平洋沿岸、男女群島、大隅諸島、琉球列島に分布する。過去に岩手県三陸沖からの記録もあるが無効分散と考えられる(岡本ほか、2001)。

備考 本種は形態上、インド・西太平洋に広く分布するハナアイゴ *S. argenteus*

(Quoy & Gaimard, 1825) とひじょうに似ており、2005年に新種記載されるまでハナアイゴと混同されていた可能性が高い(例えば Woodland, 1990)。ハナアイゴとの識別については同種の項を参照のこと。本種は主にサンゴ礁域周辺で中層を遊泳して生息しており、与論島ではシゴー沖の水深8mの地点からハナアイゴとともに採集された。

(桜井 雄)

■ ツノダシ *Zanclus cornutus* FRLM 42718, 108.6 mm SL

スズキ目 ツノダシ科 ツノダシ属

ツノダシ

Zanclus cornutus
(Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 VII, 40-43; 臀鰭 III, 33-36; 胸鰭 18-19; 腹鰭 1, 5。体は側扁し、体高は著しく高い。口は小さく、ブラシ状の歯をもつ。吻部は成長にともない突出する。眼隔部に1対の突起がある(幼魚にはない)。背鰭棘は伸長し、特に第3棘は長く糸状。幼魚の口角上方に1棘がある。

色彩 体の地色は前半部が白色で、後半部は黄色。頭部と尾柄にそれぞれ太い黒色横帯が入る。尾鰭は黒色で、縁辺は白色。

分布 インド・汎太平洋に分布する。国内では青森県以南の太平洋沿岸、山口県以南の日本海・東シナ海沿岸、伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 ツノダシ科は1属1種からなり、ニザダイ科にもっとも近縁とされる。水中では体形と色彩が似ていることからチョウチョウウオ科のハタタテダイ *Heniochus acuminatus* (Linnaeus, 1758) と混同されることが多いが、尾鰭が黒色であることで容易に区別できる。特徴的な体形と鮮やかな色彩もつことから、観賞魚として人気が高い。

(田代郷国・千葉 悟)

■ ツノダシ *Zanclus cornutus* KAUM-I. 39963, 58.6 mm SL



■ オスジクロハギ *Acanthurus blochii* KAUM-I. 51490, 269.6 mm SL

ススキ目 ニザダイ科 クロハギ属

オスジクロハギ

Acanthurus blochii
Valenciennes, 1835

形態 背鰭 IX, 25–27; 臀鰭 III, 23–25; 胸鰭 17; 腹鰭 I, 5。体長は吻長の約 5.5 倍以下。下顎歯数は 22 以下。顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内側に倒すことができない。尾柄部に内外に可動な 1 棘がある。

色彩 体側に顕著な縦帯や横帯がない。背鰭と臀鰭の基底後端に黒色斑がない。頭部に白色域がない。眼後部、鰓蓋部、または胸鰭上方部に暗色斑がない。尾柄の可動棘を被う被膜は暗色。生時の背鰭は暗色で後半部に 5–8 本の縦帯がある（固定後は不明瞭になる場合がある）。尾鰭に顕著な斑点がない。胸鰭は暗色。生時の眼の直後に暗色黄域がある（固定後は暗色）。



■ オスジクロハギ *Acanthurus blochii* FRLM 43056, 279.8 mm SL

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 全長 40 cm になる。岩礁域やサンゴ礁域に生息する。

(千葉 悟)

ススキ目 ニザダイ科 クロハギ属

スジクロハギ

Acanthurus leucopareius
(Jenkins, 1903)

形態 背鰭 IX, 25–27; 臀鰭 III, 23–25; 胸鰭 16–17; 腹鰭 I, 5。下顎歯数は 22 以下。顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内側に倒すことができない。尾柄部に内外に

可動な 1 棘がある。体長は吻長の約 5.5 倍以下。

色彩 体側に顕著な横帯・縦帯がない。背鰭と臀鰭の基底後端に黒色斑がない。鰓蓋部に白色域がある。

分布 太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島、大東諸島、

尖閣諸島に分布する。

備考 全長 25 cm になる。岩礁やサンゴ礁域に生息する。ゴマニザ *A. guttatus* Forster, 1801 に似るが、腹鰭が黒色であること、体側の斑点は青褐色で目立たないことなどから識別できる。供利港沖で撮影された個体は、臀鰭基部に青色の眼状斑が認められるがスジクロハギの若魚と思われる。

(千葉 悟)



■ スジクロハギ *Acanthurus leucopareus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ニジハギ *Acanthurus lineatus* KAUM-I. 39805, 180.5 mm SL

■ ニジハギ *Acanthurus lineatus* KAUM-I. 39953, 32.4 mm SL

スズキ目 ニザダイ科 クロハギ属

ニジハギ

Acanthurus lineatus
(Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 IX, 27-30 ; 臀鰭 III, 25-28 ; 胸鰭 16-17 ; 腹鰭 I, 5。体長は吻長の約 5.5 倍以下。下顎歯数は 22 以下。顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内側に倒せない。尾柄部に内外に可動な 1 棘がある。

色彩 体側に 7-8 本の縦帯がある。背鰭と臀鰭の基底後端に黒色斑がない。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では相模湾以南の南日本、伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 全長 30 cm になる。岩礁やサンゴ礁域に生息する。幼魚は内湾など潮間帯付近でみられる。特徴的な色彩により幼魚・成魚共に他種との識別は容易。

(千葉 悟)

■ ニジハギ *Acanthurus lineatus* KAUM-I. 47905, 35.3 mm SL

スズキ目 ニザダイ科 クロハギ属

ヒラニザ

Acanthurus mata
(Cuvier, 1829)

形態 背鰭 IX, 24-26 ; 臀鰭 III, 23-24 ;

胸鰭 16-17 ; 腹鰭 I, 5。吻は極端に短く、体長は吻長の約 6.0-7.1 倍。頭長は尾柄高の約 2.7-3.0 倍。下顎歯数は 22-26 で、顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内側に倒すことができない。尾柄部に内外に可動な 1 棘がある。

色彩 成魚の体は暗色で尾鰭も同色。体と頭部に多数の青色縦帯がある。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では千葉県館山以南の南日本、伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 全長 40 cm になる。岩礁域やサンゴ礁域に生息する。

(千葉 悟)

■ ヒラニザ *Acanthurus mata* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ニザダイ科 クロハギ属

メガネクロハギ

Acanthurus nigricans
(Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 IX, 28–32; 臀鰭 III, 26–29; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 5。顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内側に倒すことができない。下顎歯数は 22 以下。尾柄部に内外に可動な 1 棘がある。

色彩 体は暗色で顕著な縦帯や横帯がない。背鰭と臀鰭の基底後端に黒色斑がない。眼下部に白色斑がある。尾柄部は黒く可動棘付近のみが黄色。背鰭および臀鰭の基部付近に黄色域がある。尾鰭は白色で黄色横帯がある。

分布 インド・汎太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県串本以南の南日本、大隅諸島、琉球列島、大東諸島に分布する。

■ メガネクロハギ *Acanthurus nigricans* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

備考 全長 25 cm になる。岩礁やサンゴ礁域に生息する。ナミダクロハギ *A. japonicus* (Schmidt, 1931) に似るが、眼下部の白色域が上顎まで広がらない（ナミ

ダクロハギでは上顎付近まで広がる）、尾柄部が黒い（全体的に黄色）、胸鰭基部が暗色（黄色。固定後は淡色）であることから識別される。

(千葉 悟)

スズキ目 ニザダイ科 クロハギ属

ナガニザ

Acanthurus nigrofuscus
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 IX, 24–27; 臀鰭 III, 22–24; 胸鰭 16–17; 腹鰭 I, 5。顎歯の幅は広く両

側が鋸歯状となり、口内側に倒すことができない。下顎歯数は 22 以下。尾柄部に内外に可動な 1 棘がある。

色彩 頭部と胸部に橙色斑点が多数ある。背鰭と臀鰭の基底後端に 1 黒色斑がある。

分布 インド・太平洋に分布する。国内で

は伊豆諸島、小笠原諸島、三浦半島以南の南日本、大隅諸島、男女群島、琉球列島、大東諸島、尖閣諸島に分布する。

備考 全長 20 cm になる。岩礁やサンゴ礁域に生息する。

(千葉 悟)



■ ナガニザ *Acanthurus nigrofuscus* FRLM 43057, 100.5 mm SL



■ ナガニザ *Acanthurus nigrofuscus* KAUM-I. 51486, 63.9 mm SL



■ ナガニザ *Acanthurus nigrofuscus* KAUM-I. 51483, 98.4 mm SL



■ ナガニザ *Acanthurus nigrofuscus* KAUM-I. 45751, 79.5 mm SL



■ ナガニザ *Acanthurus nigrofuscus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ナガニザ *Acanthurus nigrofuscus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ナガニザ *Acanthurus nigrofuscus* KAUM-I. 40096, 36.2 mm SL



■ モンツキハギ *Acanthurus olivaceus* KAUM-I. 51488, 181.8 mm SL



■ モンツキハギ *Acanthurus olivaceus* FRLM 43061, 143.4 mm SL



■ モンツキハギ *Acanthurus olivaceus* KAUM-I. 40353, 31.3 mm SL

スズキ目 ニザダイ科 クロハギ属

モンツキハギ

Acanthurus olivaceus
Bloch & Schneider, 1801

形態 背鰭 IX, 23-25; 臀鰭 III, 22-24; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 5。下顎歯数は22以下。顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内側に倒すことができない。尾柄部に内外に可動な1棘がある。

色彩 体側に顕著な縦帯や横帯がない。胸鰭上部に暗色斑に囲まれた橙色域がある。尾柄部可動棘周辺の暗色域は前方へのびない。尾鰭後端に白色の三日月紋がある。幼魚の体色は全身黄色で、体長が約6 cm になると胸鰭上部に橙色の色素が現れ始め、体長約12 cm 以上になると体色が成魚の色彩に似てくる。

分布 東インド・太平洋に分布する。国内

では伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾以南の南日本、男女群島、大隅諸島、琉球列島、大東諸島に分布する。千葉県館山湾では幼魚の記録がある。

備考 全長35 cm になる。岩礁やサンゴ礁域に生息する。

(千葉 悟)

スズキ目 ニザダイ科 クロハギ属

クログチニザ

Acanthurus pyroferus
Kittlitz, 1834

形態 背鰭 VIII, 27-30; 臀鰭 III, 24-28; 胸鰭 16; 腹鰭 I, 5。下顎歯数は22以下で、顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内側に倒すことができない。尾柄部に内外に可動な1棘がある。

色彩 体側に顕著な縦帯や横帯がない。背鰭と臀鰭の基底後端に黒色斑がない。頭部に白色域がなく鰓蓋部に暗色斑がある。

分布 東インド・太平洋に分布する。国内



■ クログチニザ *Acanthurus pyroferus* KAUM-I. 45789, 167.4 mm SL



■ クログチニザ *Acanthurus pyroferus*
16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ クログチニザ *Acanthurus pyroferus* KAUM-I. 45869, 170.0 mm SL

では伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島に分布する。伊豆半島以南の南日本では幼魚の記録がある。

備考 岩礁域に生息する。幼魚の尾鰭後縁は丸い。幼魚の色彩には二型があり、全身が黄色くキンチャクダイ科のコガネヤッコ *Centropyge flavissima* (Cuvier, 1831) やヘラルドコガネヤッコ *C. heraldi* Woods & Schultz, 1953 に類似するもの、体側の前3分の2ほどがオリーブ色、それより後が暗色でキンチャクダイ科のナメラヤッコ *C. vrolikii* (Bleeker, 1853) に類似するものがある。臆病なために巣穴から離れず、鰓蓋に鋭い棘をもつ小型のキンチャクダイ類に擬態することで被捕食者となる危険性を低くしていると想像される。

(千葉 悟)



■ クログチニザ *Acanthurus pyroferus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ オハグロハギ *Acanthurus thompsoni* KAUM-I. 45994, 147.5 mm SL



■ オハグロハギ *Acanthurus thompsoni* KAUM-I. 45996, 107.4 mm SL



■ オハグロハギ *Acanthurus thompsoni*
18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ オハグロハギ *Acanthurus thompsoni*
18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ オハグロハギ *Acanthurus thompsoni*
18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ オハグロハギ *Acanthurus thompsoni*
18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ オハグロハギ *Acanthurus thompsoni*
18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ニザダイ科 クロハギ属

オハグロハギ

Acanthurus thompsoni
(Fowler, 1923)

形態 背鰭 IX, 23–26 ; 臀鰭 III, 23–26 ;
胸鰭 16–19 ; 腹鰭 I, 5。吻は極端に短く、

体長は吻長の約 6.5 倍以上。下顎歯数は
22 以上で、顎歯の幅は広く両側が鋸歯状
となり、口内側に倒すことができない。尾
柄部に内外に可動な 1 棘がある。成魚の
尾鰭後縁は湾入するが幼魚では湾入しな
い。

色彩 成魚の体は暗色で尾鰭は淡色。幼

魚は眼後部、鰓蓋部、胸部を除いて透明
な白色。

分布 インド・太平洋に分布する。国内
では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県串本
以南の南日本、琉球列島、大東諸島に分
布する。

(千葉 悟)

■ シマハギ *Acanthurus triostegus* FRLM 42784, 69.8 mm SL■ シマハギ *Acanthurus triostegus* KAUM-I. 39705, 22.3 mm SL■ シマハギ *Acanthurus triostegus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ニザダイ科 クロハギ属

シマハギ*Acanthurus triostegus*
(Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 IX, 22-24 ; 臀鰭 III, 19-22 ; 胸鰭 14-16 ; 腹鰭 I, 5。顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内側に倒すことができない。尾柄部に内外に可動な1棘がある。

色彩 体に5-6本の黒色横帯がある。

分布 インド・汎太平洋、アフリカ西岸に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県館山湾以南の南日本、男女群島、琉球列島、尖閣諸島、大東諸島に分布する。

備考 全長 25 cm になる。岩礁やサンゴ礁域に生息する。幼魚、成魚ともに体側にある5-6本の黒色横帯があることで容易に識別できる。

(千葉 悟)

■ クロハギ *Acanthurus xanthopterus* KAUM-I. 48135, 164.4 mm SL■ クロハギ *Acanthurus xanthopterus* KAUM-I. 39839, 53.8 mm SL■ クロハギ *Acanthurus xanthopterus* NSMT-P 110372, 39.1 mm SL

スズキ目 ニザダイ科 クロハギ属

クロハギ

Acanthurus xanthopterus
Valenciennes, 1835

形態 背鰭 IX, 25-27; 臀鰭 III, 23-25; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 5。下顎歯数は22以下。顎歯の幅は広く両側が鋸歯状となり、口内側に倒すことができない。尾柄部に内外に可動な1棘がある。

色彩 体側に顕著な縦帯や横帯がない。背鰭と臀鰭の基底後端に黒色斑がない。頭部に白色域がない。眼後部、鰓蓋部、または胸鰭上方部に暗色斑がない。尾鰭の可動棘を被う被膜は暗色。生時、背鰭は暗色で後半部に3-5本の縦帯があり、胸鰭は黄色から透明で、眼の直前および直後部に黄色から暗黄色域がある。尾鰭に顕著な斑点がない。

分布 紅海を除くインド・汎太平洋に分布する。国内では茨城県以南の南日本、伊豆諸島、小笠原諸島、大隅諸島、琉球列島、大東諸島に分布する。

備考 全長50 cmになる。岩礁域やサンゴ礁域に生息する。幼魚は内湾や河口で見られるが、成魚は礁湖やサンゴ礁外縁の斜面などでみられる。

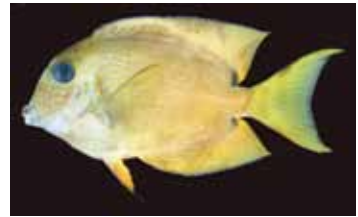
(千葉 悟)



■ コクテンサザナミハギ *Ctenochaetus binotatus* KAUM-I. 40134, 87.9 mm SL



■ コクテンサザナミハギ *Ctenochaetus binotatus* KAUM-I. 45967, 66.2 mm SL



■ コクテンサザナミハギ *Ctenochaetus binotatus* BSKU 108287, 47.4.9 mm SL



■ コクテンサザナミハギ *Ctenochaetus binotatus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ コクテンサザナミハギ *Ctenochaetus binotatus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

スズキ目 ニザダイ科 サザナミハギ属

コクテンサザナミハギ

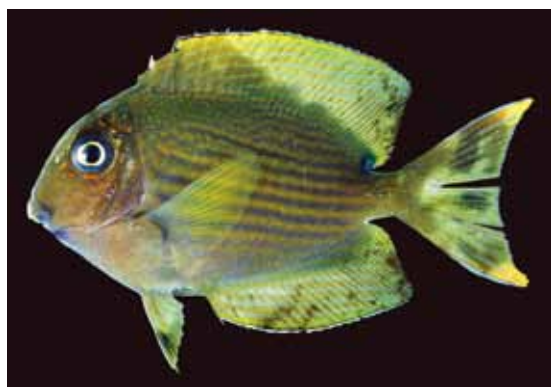
Ctenochaetus binotatus
Randall, 1955

形態 背鰭 VIII, 24-27; 臀鰭 III, 22-25; 胸鰭 15-16; 腹鰭 I, 5。顎歯の幅が狭く先端の片側だけが鋸歯状となり、口内側に倒すことができる。尾柄部に内外に可動な1棘がある。

色彩 眼の外周は青い。背鰭と臀鰭の基底後端に1黒色斑がある(背鰭基底後端の黒色斑がない個体もある)。成魚の尾鰭は体色と同色であるが、幼魚では尾鰭が黄色。

分布 フィリピン、モルッカ諸島、マリアナ諸島、台湾、小笠原諸島、静岡県以南の南日本、琉球列島に分布する。

(千葉 悟)

■ サザナミハギ *Ctenochaetus striatus* KAUM-I. 45750, 51.6 mm SL■ サザナミハギ *Ctenochaetus striatus* KAUM-I. 48148, 35.1 mm SL■ サザナミハギ *Ctenochaetus striatus* KAUM-I. 45966, 51.7 mm SL

スズキ目 ニザダイ科 サザナミハギ属

サザナミハギ*Ctenochaetus striatus*
(Quoy & Gaimard, 1825)

形態 背鰭 VIII, 27-31; 臀鰭 III, 24-28; 胸鰭 16-17; 腹鰭 I, 5。顎歯の幅が狭く先端の片側だけが鋸歯状となり、口内側に倒すことができる。尾柄部に内外に可動な1棘がある。成魚の尾鰭は湾入型。

色彩 頭部の斑点は頬部全体に広がらない。背鰭と臀鰭の基底後端に1黒色斑がない。

分布 ハワイ諸島・マルケサス諸島・イースター島を除くインド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、千葉県館山湾以南の南日本、大隅諸島、琉球列島、大東諸島に分布する。

(千葉 悟)

■ サザナミハギ *Ctenochaetus striatus*
16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

■ テングハギモドキ *Naso hexacanthus* KAUM-I. 46007, 232.9 mm SL■ テングハギモドキ *Naso hexacanthus* KAUM-I. 46006, 176.6 mm SL■ テングハギモドキ *Naso hexacanthus* KAUM-I. 46008, 198.1 mm SL

スズキ目 ニザダイ科 テングハギ属

テングハギモドキ

Naso hexacanthus
(Bleeker, 1855)

形態 背鰭 VI, 25-29; 臀鰭 II, 27-31; 胸鰭 17-18; 腹鰭 I, 3。前頭部に角状突起がない。口および吻の背縁は丸い。吻

部は前方へ膨出しない。顎歯は、細く先端は尖る。頭長は第1背鰭棘長の約2.0倍以上。体は比較的丸く、体長は体高の約2.9倍以下。体側背部は隆起しない。尾柄部に不可動な骨質板が2個ある。

色彩 体側に顕著な斑紋がない。背鰭軟条部外縁に白色帯がない。舌は成長につれて黒くなる。

分布 インド・太平洋、クリップarton島、ココ島に分布する。国内では千葉県館山湾以南の南日本、大隅諸島、琉球列島、大東諸島に分布する。

備考 全長70 cmになる。岩礁域に生息し、大きな群れで中層を遊泳する。雄は婚姻色を示す。

(千葉 悟)

スズキ目 ニザダイ科 テングハギ属

ミヤコテングハギ

Naso lituratus
(Forster, 1801)

形態 背鰭 VI-VII, 27-30; 臀鰭 II, 28-30; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 3。前頭部に角状突起がないか、または吻部が膨出する。吻部は前方へ膨出しない。吻は尖り、その背縁はややくぼむ。顎歯は幅広く先端は丸い。頭長は第1背鰭棘長の約1.7倍以下。

体は比較的丸く、体長は体高の約2.9倍以下。体側背部は隆起しない。尾柄部に不可動な骨質板が2個ある。

色彩 背鰭軟条部外縁に白色帯がある。

分布 モーリシャス諸島以東のインド・太平洋（イースター島を除く）、クリップarton島に分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、神奈川県三浦半島以南の南日本、大隅諸島、琉球列島、大東諸島、尖閣諸島に分布する。

■ ミヤコテングハギ *Naso lituratus* 15 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki

(千葉 悟)



■ ミヤコテングハギ *Naso lituratus* KAUM-I. 45763, 209.6 mm SL



■ ミヤコテングハギ *Naso lituratus* KAUM-I. 51482, 229.4 mm SL



■ ミヤコテングハギ *Naso lituratus* KAUM-I. 51386, 91.4 mm SL



■ ミヤコテングハギ *Naso lituratus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ミヤコテングハギ *Naso lituratus* 18 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki



■ ミヤコテングハギ *Naso lituratus* 18 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki

スズキ目 ニザダイ科 テングハギ属

キビレボウズハギ

Naso minor
(Smith, 1966)

形態 背鰭 V；臀鰭 II, 27-29；胸鰭 17-18；腹鰭 I, 3。尾柄部に不可動な骨質板が1個ある。

色彩 骨質板基部は暗色、尾鰭両葉に黄色域がある。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では伊豆諸島、静岡県沼津、与論島、久米島、八重山諸島に分布する。

備考 最近まで稀種であると考えられていたが、八重山諸島やフィリピンでは多く採集されている。

(千葉 悟)

■ キビレボウズハギ *Naso minor* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki■ テングハギ *Naso unicornis* KAUM-I. 41079, 70.2 mm SL

スズキ目 ニザダイ科 テングハギ属

テングハギ

Naso unicornis
(Forsskål, 1775)

形態 背鰭 V-VI, 27-30；臀鰭 II, 27-29；胸鰭 17-19；腹鰭 I, 3。前頭部に角状突起がある。角状突起基部下縁から吻端までの距離は眼窩部前縁までの距離の約2

倍。体側背部は隆起しない。尾柄部に不可動な骨質板が2個ある。大型個体では尾鰭両葉端が糸状にのびる。

色彩 背鰭と臀鰭の先端は青い。尾柄部の骨質板は青い。尾鰭は暗色で後縁のみ白い。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では青森から九州南岸、伊豆諸島、小笠原

諸島、男女群島、大隅諸島、琉球列島、尖閣諸島、大東諸島に分布する。

備考 宇勝海岸沖から体長70.2 mmの幼魚が採集された。テングハギ属の幼魚は特徴が成魚とは異なるために同定が難しい。この個体は吻が尖ること、尾柄部の骨質板が2個で青いこと、臀鰭先端が青いこと、尾鰭後縁が白いことからテングハギに同定された。

(千葉 悟)

■ サザナミトサカハギ *Naso vlamingii* 13 Aug. 2013 Photo by T. An

スズキ目 ニザダイ科 テングハギ属

サザナミトサカハギ

Naso vlamingii
(Valenciennes, 1835)

形態 背鰭 VI, 26–27; 臀鰭 II, 26–29; 胸鰭 16–19; 腹鰭 I, 3。前頭部に角状突起がない。吻部は前方へ膨出する。頭長は第1背鰭棘長の約1.7倍以下。体は比較

的に丸く、体長は体高の約2.9倍以下。体側背部は隆起しない。尾柄部に不可動な骨質板が2個ある。大型個体では尾鰭両葉端が糸状にのびる。

色彩 吻部から眼に達する青色帯がある。体側中央部には多数の青色のさざなみ状の横線が走る。頬部と体側の背側と腹側には多数の青色の斑点がある。背鰭と臀鰭の先端は青い。腹鰭は黄色。尾鰭前方

に青色横帯がある。

分布 紅海、ハワイ諸島、イースター島を除くインド・太平洋とガラパゴス諸島に分布する。国内では伊豆諸島、三浦半島以南の南日本、佐渡島、奄美大島以南の琉球列島に分布する。

備考 写真は水深50mから採集した個体で標本は残っていない。

(千葉 悟)

スズキ目 ニザダイ科 ヒレナガハギ属

キイロハギ

Zebrasoma flavescens
(Bennett, 1828)

形態 背鰭 V, 23–26; 臀鰭 III, 19–22; 胸鰭 14–16; 腹鰭 I, 5。体側後半部に楕円形の絨毛域がある。尾柄部に内外に可動な1棘がある。

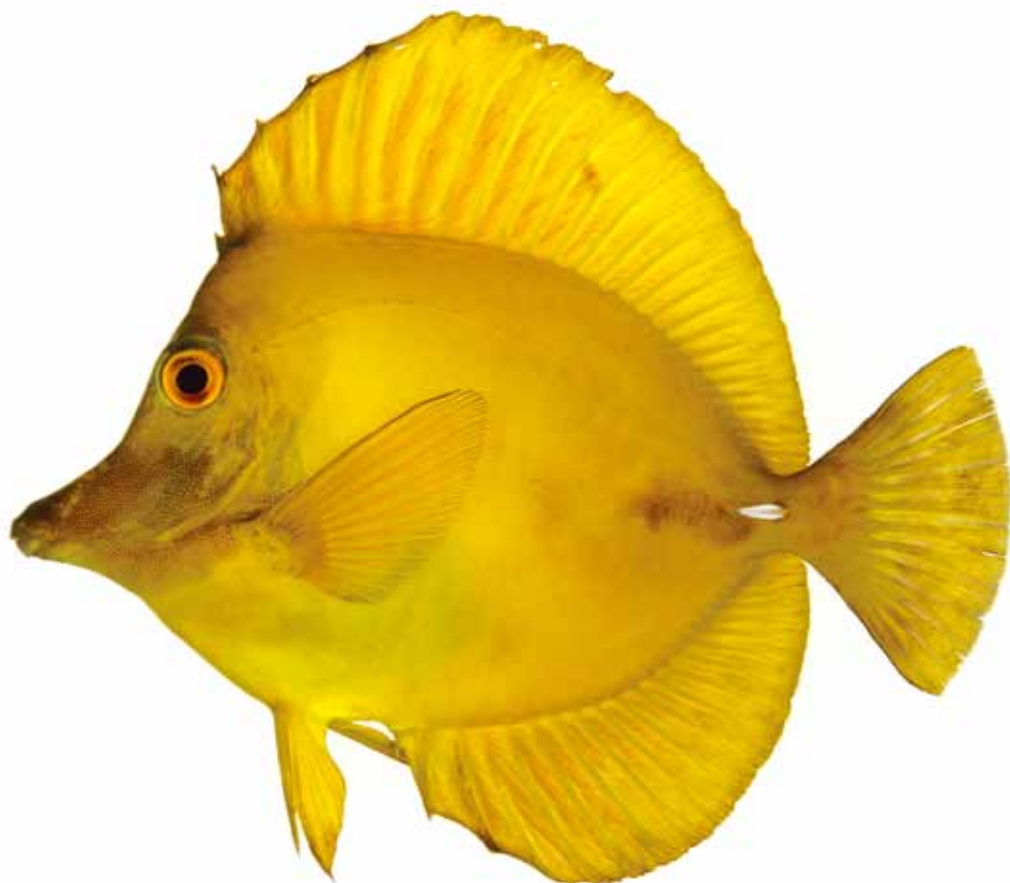
色彩 生時の体色は一樣に黄色であるが、固定後は淡色。

分布 北太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆半島、紀伊半島、柏島、奄美大島以南の琉球列島、南大東島に分布する。

備考 本種とゴマハギ *Z. scopas* (Cuvier, 1829) の計数形質には明確な差異がない。ゴマハギの黄色個体や本種とゴマハギの交雑個体と思われるものも確認されているため、今後の詳細な比較検討が必要である。

(千葉 悟)

■ キイロハギ *Zebrasoma flavescens* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ キイロハギ *Zebrasoma flavescens* KAUM-I. 42259, 115.9 mm SL

スズキ目 ニザダイ科 ヒレナガハギ属

ゴマハギ

Zebrasoma scopas
(Cuvier, 1829)

形態 背鰭 V, 23–26; 臀鰭 III, 19–21; 胸鰭 14–16; 腹鰭 I, 5。体側後半部に楕円形の絨毛域がある。尾柄部に内外に可動な1棘がある。

色彩 体側後半部の体色は生時・固定後とも淡色。

分布 インド・太平洋（紅海、ハワイ諸島、ジョンストン島、ウエーク島、マルケサス諸島を除く）に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、奄美大島以南の琉球列島、南大東島に分布する。
(千葉 悟)



■ ゴマハギ *Zebrasoma scopas* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ゴマハギ *Zebrasoma scopas* KAUM-I. 42260, 122.7 mm SL



■ ゴマハギ *Zebrasoma scopas* KAUM-I. 41240, 27.9 mm SL



■ ゴマハギ *Zebrasoma scopas* KAUM-I. 41241, 23.3 mm SL



スズキ目ニザダイ科ヒレナガハギ属

ヒレナガハギ

Zebrasoma veliferum
(Bloch, 1795)

形態 背鰭 IV, 28-32; 臀鰭 III, 22-26; 胸鰭 15-17; 腹鰭 I, 5。体側後半部に絨毛域がない。尾柄部に内外に可動な1棘がある。背鰭と臀鰭が長い。

色彩 頭部と体側に黒褐色および白色の横帯が多数はしる。

分布 西・中央太平洋（マルケサス諸島を除く）、オーストラリア西岸、レユニオン島、スリランカに分布する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、三浦半島以南の南日本、男女群島、大隅諸島、琉球列島、大東諸島、

尖閣諸島に分布する。

備考 幼魚はゴマハギ *Z. scopas* (Cuvier, 1829) に似るが、ヒレナガハギは頭部に眼と鰓蓋を横切る黒色縦帯がある（ゴマハギにはない）ことによって識別される。西インド洋には形態的に酷似する *Z. desjardini* (Bennett, 1836) が分布しており、長らく本種とは同種または同種別亜種関係にあると考えられていたが、現在では本種とは遺伝的にも分化した別種であることが明らかになった。

(千葉 悟)

■ ヒレナガハギ *Zebrasoma veliferum* KAUM-I. 51489, 176.2 mm SL



■ ヒレナガハギ *Zebrasoma veliferum* KAUM-I. 40354, 19.9 mm SL

■ オオヤマトカマス *Sphyraena africana* KAUM-I. 55091, 126.3 mm SL

スズキ目 カマス科 カマス属

オオヤマトカマス

Sphyraena africana
Gilchrist & Thompson, 1909

形態 背鰭 V-I, 9; 臀鰭 II, 8; 側線有孔鱗 129-138; 側線上方横列鱗 11; 鰓耙 1。体は細長く円筒形に近い。上顎後端は鼻孔下に達する。第 1 鰓弓に鰓耙が 1 本ある。腹鰭起部は第 1 背鰭起部直下にある。

色彩 体色は上半部が青みを帯びた灰色で、背部では濃い。下半部は銀白色から白色。胸鰭基底上端付近から尾柄にかけての体側下部に暗灰色の 1 縦帯がある。

腹鰭基底近くの体側に 1 暗灰色斑がある。

分布 インド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では琉球列島から記録されている。

備考 日本産カマス属魚類のうち、鰓耙数が 1 本で、腹鰭起部が第 1 背鰭起部直下付近にある種には、ホソカマス *S. helleri* Jenkins, 1901 およびヤマトカマス *S. japonica* Bloch & Schneider, 1801、オオヤマトカマスの 3 種が知られている。与論島産の標本 (KAUM-I. 55091、体長 126.3 mm) は幼魚で、標徴として重要な体側の縦帯や腹鰭基底付近の斑紋は発現していない。しかし、上顎後端が前鼻孔下

にあること、側線有孔鱗数が 136 枚であることを重視し、オオヤマトカマスに同定した。ホソカマスは上顎後端が鼻孔下に達せず、側線有孔鱗数は 140-150 枚の範囲にある。また、ヤマトカマスは上顎後端が鼻孔下を越えて眼の前縁付近に達し、幼魚の尾鰭基底には黒色斑がない (与論島産の標本には尾鰭基底上部から後縁にかけて黒色斑がある)。今回の標本は腹鰭起部が第 1 背鰭起部よりもわずかに前方に位置し (オオヤマトカマスは直下にあるとされている)、側線上方横列鱗数が 15 枚 (11 枚) と若干多い値を示したが、これらは個体変異の範囲内とみなした。

(瀬能 宏)

■ オニカマス *Sphyraena barracuda* KAUM-I. 39859, 48.1 mm SL

スズキ目 カマス科 カマス属

オニカマス

Sphyraena barracuda
(Edwards, 1771)

形態 背鰭 V-I, 9; 臀鰭 II, 7-8; 側線有孔鱗 75-87; 側線上方横列鱗 11-12; 鰓耙 0。体は細長く円筒形に近いが、躯幹部ではやや側扁する。第 1 鰓弓に鰓耙を欠く。第 2 背鰭と臀鰭の最後の軟条は伸長しない。尾鰭後縁は湾入し、中央に 1 対の葉状部がある。幼魚の尾鰭は二叉あるいは湾入

し、葉状部を欠く。

色彩 体色は上半部が青みを帯びた灰色で、背部では濃い。下半部は銀白色から白色。体背部から体側中央にかけて暗灰色の横帯が多数並ぶ。各鰭は黒く、第 2 背鰭前縁上端と後方の鰭条、臀鰭前縁上端と後方の鰭条、尾鰭上・下葉の後端はそれぞれ白い。幼魚の体背部には濃いオリーブ色あるいは黒色の環状斑が並ぶ。体側中央にも同様な斑紋が並ぶが、より小型の個体では黒斑列あるいは黒色縦帯を形成する。幼魚の各鰭は透明。

分布 インド・太平洋、大西洋の熱帯・亜熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、若狭湾・相模湾以南の南日本、大隅諸島、琉球列島、尖閣諸島から記録されている。

備考 体長 1.65 m に達する大型種で、成魚はサンゴ礁外縁部やさらに沖合に生息するが、幼魚は河川汽水域や港などに出現する。幼魚は頭部をやや上に向けて中層をホバリングしているが、これはヒルギ類の種子など植物片に擬態したものと考えられている。

(瀬能 宏)

■ アオスマヤキ *Epinnula magistralis* KAUM-I. 51544, 780.0 mm SL

スズキ目 クロタチカマス科 アオスマヤキ属

アオスマヤキ

Epinnula magistralis
Poey, 1854

形態 背鰭 XV-XVI-I, 17-20; 臀鰭 III, 13-17; 胸鰭 15; 腹鰭 I, 5; 脊椎骨 16 + 16 = 32。体は側扁し、体高はやや高い。頭は大きく、吻端は尖る。口は大きく、下顎先端部は上顎先端部よりも前に突出する。両顎側歯列は円錐歯で、間隔は広く、下顎のものが上顎のものより大きい。また牙状の歯が上顎先端部に4-5本、下顎先端部に1対存在する。口蓋骨には小型の円錐歯が1列に並ぶ。鋤骨に歯はない。背鰭は基底が長く、第1背鰭は高い。臀鰭の基底は第2背鰭の基底よりもわずかに短い。背鰭と臀鰭ともに小離鰭はない。胸鰭は短く、丸い。腹鰭は成長とともに退化し、体長188 mmでは著しく長く、その長さは胸鰭長よりも明らかに長い、すく

なくとも体長335 mm以降では胸鰭のほうが長い。主鰓蓋骨には2本の隆起線がある。側線は体の背縁と腹縁に沿って2本あり、背縁のものは背鰭第5棘から第6棘の直下付近で分枝し、下降する。

色彩 体はほぼ一様に青みがかった淡褐色。鰭は第1背鰭、第2背鰭の背縁、腹鰭、胸鰭、および尾鰭両葉の後部は黒く、その他は淡褐色。

分布 カリブ海、インド洋東部、台湾、日本。国内では三重県尾鷲沖、土佐湾、与論島沖。

備考 本種は広域分布種であるにもかかわらず、採集例が少なく、とくに本標本(体長780 mm)のような体長50 cmを越える個体の採集例は極めて稀。これにともない、各海域の標本にもとづく詳細な形態比較は行われておらず、とくに日本産の標本と大西洋産の標本とでは鰭条数にやや違

いがあるため、亜種、もしくは別種の可能性が指摘されている(Nakamura & Parin, 1993)。アオスマヤキの腹鰭は小型個体で長く、大型個体になると短いため、これはクロタチカマス科魚類に一般的に見られる成長にともなった鰭の退縮と考えられているが、この形態変化も含めて前記同様、今後の分類学的研究が必要である。

アオスマヤキ属は本種のみを含む1属1種で、側線が2本あり、そのうちの1本は腹側付近を走ること、背側の側線が背鰭第5棘から第6棘の直下付近で分枝すること、および鋤骨に歯がないことによって、同科他属と識別される。最大体長は1 mに達する。

日本における本種の採集記録は、三重県尾鷲沖と土佐湾のみが知られており、本調査では、与論島沖で漁獲され、茶花漁港で水揚げされた1標本を得た。これは本種の鹿児島県における初記録となる。

(岡本 誠)

■ クロシビカマス *Promethichthys prometheus* FRLM 42850, 397.3 mm SL

スズキ目 クロタチカマス科 クロシビカマス属

クロシビカマス

Promethichthys prometheus
(Cuvier, 1832)

形態 背鰭 XVII-XIX-I, 18-20 + 2; 臀鰭 II, 15-18 + 2; 胸鰭 14-15; 腹鰭 I, 0-1; 脊椎骨 34。体は側扁し、短剣状。口は

大きく、両顎の側歯列は小型の犬歯状歯。上顎の前端に長い牙状歯が3-4本、下顎の前端に1対の小さい牙状歯がある。舌には絨毛歯帯があり、口蓋骨には小型の犬歯状歯が1列に並ぶ。鋤骨に歯はない。側線は1本で、胸鰭の上方で急激に下方へと湾曲し、その後方では直線状。背鰭の基底は長く、後頭部から尾柄部まで連続する。背鰭と臀鰭の後端には2本の小離

鰭がある。腹鰭は成長に伴って退化し、大型個体では消失する。体表は円滑。

色彩 体はほぼ一様に銅褐色。各鰭は黒い。

分布 インド・西部太平洋、および大西洋の温帯から熱帯域の水深100-800 mに分布する。国内では福島県以南の太平洋側



■ クロシビカマス *Promethichthys prometheus* KAUM-I. 51150, 458.9 mm SL

と、山陰以南の日本海側の沖合に分布する。

備考 本種は日周鉛直移動を行い、夜間

はイカ、小魚および甲殻類などを捕食するため水深 50–150m 付近まで浮上し、昼は水深 100–700m の底層付近に生息する。クロシビカマス属は世界で本種のみを含む

1 属 1 種で、最大体長は 1 m に達する。本調査では、与論島沖で漁獲され、茶花漁港で水揚げされていた 2 標本を得た。(岡本 誠)



■ オオメカゴカマス *Rexea nakamurai* KAUM-I. 51280, 382.5 mm SL

スズキ目 クロタチカマス科 カゴカマス属

オオメカゴカマス

Rexea nakamurai
Parin, 1989

形態 背鰭 XVIII-I, 14–16 + 2; 臀鰭 I, 12–13 + 2; 胸鰭 12–13; 腹鰭 I; 脊椎骨 18–19 + 15 = 33–34。体は側扁し、短剣状。口は大きく、下顎先端部は上顎よりも長い。両顎の側歯列は小型の犬歯状歯。上顎の前端に長い牙状歯が 3–6 本、下顎の前端に 1 対のやや短い牙状歯がある。口蓋骨には小型の犬歯状歯が 1 列に並ぶ。鋤骨に歯はないか、もしくはまれに先端部に 1 対の小型の円錐歯がある。側線は後頭部から背鰭第 5 棘と第 6 棘の間の直下付近までは単線で、それ以降は分枝し、上部のものは背縁に沿って尾柄部まで続く。一方、下部の側線は背鰭第 14 棘から第 19 棘の直下付近まで後下方へとカーブを描き、それ以降はほぼ直線状で尾鰭基部直前まで続く。背鰭と臀鰭の後端には 2 本の小離鰭がある。腹鰭は成長に伴って退化し、およそ体長 150 mm の個体までは小棘状



■ オオメカゴカマス *Rexea nakamurai* FRLM 42849, 339.8 mm SL

の腹鰭が確認できるが、それ以降の大型個体では消失する。鱗は小さい円鱗で、尾柄部を含む尾部のおよそ 2/3 のみが鱗域。

色彩 体は青味を帯びた銀褐色。第 1 背鰭の前部と上縁は黒い。

分布 インド洋、ハワイ、九州・パラオ海嶺、与論島沖の水深 340–370 m に分布する。

備考 本種は同属のカゴカマス *R. prometheoides* (Bleeker, 1856) に似ているが、分枝した上部の側線が小離鰭まで達するこ

と(カゴカマスでは第 2 背鰭後端付近まで)、分枝した下部の側線がやや波打つこと(ほぼ直線)、鱗域が尾部の後部に限ること(躯幹部から尾柄部まで)、および鰓耙が 1–2 尖頭(2–4 尖頭)であることによって識別できる。

日本における本種の採集記録は、九州・パラオ海嶺(北緯 26 度 11 分; 東経 135 度 48 分)のみが知られている。本調査では、与論島沖で漁獲され、茶花漁港で水揚げされていた 2 標本を得たが、これは本種の北限記録となり、また鹿児島県における初記録となる。

(岡本 誠)

■ オキナワオオタチ *Trichiurus* sp. NSMT-P 110455, 735.0 mm TL

スズキ目 タチウオ科 タチウオ属

オキナワオオタチ

Trichiurus sp.

形態 背鰭 40–42 (肛門前)；胸鰭 11。体は帯状に伸長し、強く側扁する。体高は低く、肛門前長の 13.5–17.6%。口は大きく、上顎先端には鉤状部を備えた大型の犬歯状歯をもち、後方には大型の鋭

い歯が並ぶ。下顎前端には先端がわずかに鉤状となる大型の犬歯状歯をもつ。両眼の眼隔域は窪む。眼は大きく、頭長の 12.8–17.3%。鰓蓋部の後下方は凹む。腹鰭と臀鰭を欠く。尾鰭がなく、尾部末端は糸状に伸長する。側線は胸鰭後方で急に下降し、腹側近くを走る。

色彩 体は一樣に銀色で、背鰭は乳白色で、その前縁は黒色。

分布 大隅諸島、奄美群島、琉球列島から標本に基づく記録がある。

備考 本種は 1995 年に沖縄近海の深みから得られた標本に基づき、オキナワオオタチの仮称が与えられた (中坊・土居内、2013)。本標本は水深 140 m から漁獲された。本種は両眼の眼隔域が窪むこと、眼径が大きいことにより、日本周辺に分布する同属他種とは明瞭に異なる未記載種とされ、現在分類学的研究が進められている。(遠藤広光・片山英里)

■ カマスサワラ *Acanthocybium solandri* NSMT-P 110455, 735.0 mm SL

スズキ目 サバ科 カマスサワラ属

カマスサワラ

Acanthocybium solandri
(Cuvier, 1832)

形態 背鰭 XXIII–XXVIII-12-16+8-9；臀鰭 12-14+8-9；胸鰭 23-24；腹鰭 I, 5；脊椎骨 30-32+31-33=62-64。体はよく伸長した紡錘形で、やや側扁する。口は大きく、両顎には細かな鋸状の 1 歯列を備える。上顎の後端は、涙骨下に隠れる。下顎先

端は上顎先端よりわずかに突出する。吻はよく尖り、吻長は頭長の 2 分の 1。鰓耙はない。背鰭は 2 基で、第 1 背鰭の高さはほぼ一樣で、後端部で急に低くなる。背鰭と臀鰭の後方には、それぞれ 8-9 基の小離鰭をもつ。腹鰭間棘は 2 本。尾柄の中央部には発達した長い隆起をもち、その後方は尾鰭の基底付近にある短い 1 対の隆起に挟まれる。側線は 1 本で、背鰭中央下付近で急激に下降する。体は小鱗で覆われる。鰓をもつ。

色彩 生鮮時には、頭と体の背側は青黒く、体側から腹部の地色は銀色。体側には 24 本から 30 本の細かな暗色の横縞をもつ。鰭は臀鰭と腹側の小離鰭を除き黒色。

分布 世界の温帯から熱帯域に分布する。国内では、秋田県と青森県以南の日本沿岸に分布する。

備考 本種は表層遊泳性で、全長 2.2 m に達する。

(遠藤広光)

スズキ目 サバ科 ソウダガツオ属

ヒラソウダ

Auxis thazard thazard
(Lacepède 1800)

形態 背鰭 XI–XII, 10–12 + 7–8；臀鰭 12–14 + 7–8；胸鰭 22–25；腹鰭 I, 5；鰓耙 38–42。体は細長い楕円形で、やや側扁した円筒形。有鱗域は胸硬部と側線周辺に限られ、胸甲部の有鱗域は第 1 背鰭と

第 2 背鰭の間で急に狭くなる。尾柄中央は隆起する。

色彩 頭部背面および体背面は黒色。体側面の地色は青色で、第 1 背鰭基底後端直下から尾柄部前方にかけての体側上部に多数の黒色斜走帯が入る。腹面は一樣に銀色。鰓蓋上方に体背面の黒色域とは不連続な小黒色斑が入る。臀鰭は白色で、その他の鰭は黒色。

分布 東太平洋を除いた全世界の温帯から熱帯にかけて広く分布する。国内でも北海道以南に広く分布するが、日本海・東シナ海では稀である。

備考 全長 60 cm に達する。本種には東太平洋に分布する 1 亜種が知られ、本亜種と比較して鰓耙数が 40–48 と多く、臀鰭起部における体高が低いこと、胸鰭が短いことなどから識別される。

(畑 晴陵)

■ ヒラソウダ *Auxis thazard thazard* KAUM-I. 58546, 359.2 mm SL

スズキ目 サバ科 イソマグロ属

イソマグロ

Gymnosarda unicolor
(Rüppell, 1836)

形態 背鰭 XIII-XV-II, 12-14+6-7; 臀鰭 12-13+6; 胸鰭 25-28; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 11-14; 脊椎骨 19+19=38。体はやや長い紡錘形で、やや側扁する。口は大きく、両顎には大きく、鋭い円錐歯がまばらに並ぶ。第1背鰭は低く、前端で高くなる。両背鰭はよく接近する。背鰭と臀鰭の後方には6-7基の小離鰭をもつ。尾鰭の両葉はやや細い鎌状。腹鰭間棘は1本で大きい。尾柄の中央部には発達した長い隆起をもち、その後方は尾鰭の基底付近にある短い1対の隆起に挟まれる。側線は後方で波打つ。体は胸甲部を除いて無鱗。鰓は大きい。

色彩 体の背面は青黒く、体側から腹側は銀白色。各鰭は暗灰色から黒色で、第2背鰭と臀鰭の先端は白色。

■ イソマグロ *Gymnosarda unicolor* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

分布 インド・西太平洋の熱帯から亜熱帯域に分布する。国内では佐渡島、長崎県野母崎、相模灘以南の日本の太平洋岸に分布する。

備考 本種は沿岸表層性で、最大で体長2 mに達する。

(遠藤広光)

スズキ目 サバ科 カツオ属

カツオ

Katsuwonus pelamis
(Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 XV-XVIII-II, 12-14+8; 臀鰭 II, 13-15+6-7; 胸鰭 26-28; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 56-65; 脊椎骨 41。体は紡錘形で、断面は楕円形。口は中程度の大きさで、両顎には1列の小円錐歯を備える。口蓋

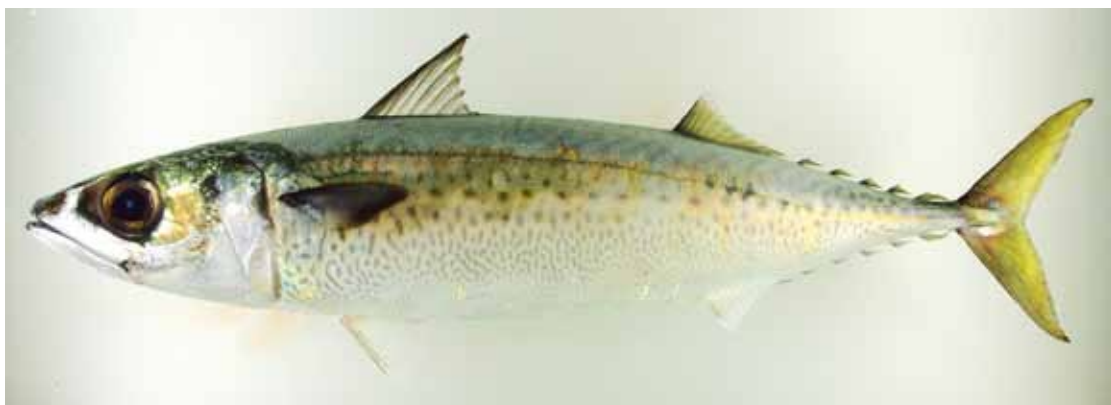
骨歯がない。下顎先端は上顎先端よりわずかに突出する。吻は尖る。第1背鰭の前端は著しく高く、その後急に低くなる。背鰭と臀鰭の後方には、それぞれ6-8基の小離鰭を備える。尾柄の中央部には発達した長い隆起をもち、その後方は尾鰭の基底付近にある短い1対の隆起に挟まれる。側線は1本で、前半部では緩やかに下降し、後半部では直線的。体は小鱗で覆われる胸甲部を除いて無鱗。鰓をもたない。

色彩 生鮮時には、頭と体の背側は青黒く、体側から腹部の地色は銀色。死後、体側に暗色の縦縞があらわれる。垂直鰭は臀鰭を除き暗色で、やや黄色みを帯びる。胸鰭の上縁は黒色、他は灰色。臀鰭は灰色。

分布 世界の温帯から熱帯域。日本近海。

備考 本種は沿岸表層遊泳性で、全長1.1 mに達する。

(遠藤広光)

■ カツオ *Katsuwonus pelamis* KAUM-I. 45781, 349.9 mm SL■ ゴマサバ *Scomber australasicus* KAUM-I. 50843, 365.4 mm SL

スズキ目 サバ科 サバ属

ゴマサバ

Scomber australasicus
Cuvier, 1832

形態 背鰭 XI-XII-I, 11-12+5; 臀鰭 I, 11-13+5; 胸鰭 18-21; 腹鰭 I, 5; 鰓耙 33-40; 脊椎骨 14+17=31。体は長い紡錘形で、断面は楕円形。口はやや大きく、両顎、前鋤骨と口蓋骨には微小な円錐歯の1列を備える。吻はやや尖る。眼瞼はよく発達する。鰓蓋後縁は直線的で、やや前傾する。背鰭は2基でよく離れる。第1背鰭は前方部が高い三角形。第2背鰭と臀鰭の後方には5基の小離鰭を備える。

胸鰭は短く、尖る。腹鰭間突起は1本で小さい。尾柄中央部に顕著な隆起がなく、尾鰭の基底付近には短い1対の隆起をもつ。側線は1本で、前半部は緩やかに下降し、後方ではほぼ直線的。体はすべて小円鱗で覆われる。鰭をもつ。

色彩 生鮮時の体の地色は、背側ではやや緑青色、側面から腹側にかけて銀白色。眼の後方と体側は黄色みを帯びる。体の背側には虫食い状の暗色斑紋をもつ。体側中央にはやや大きな暗色斑点が1列に並び、その下方には多数の小暗色斑点が密に分布する。背鰭、小離鰭と尾鰭は暗色で、第2背鰭と尾鰭後縁は黄色みを帯びる。胸鰭は黒色。腹鰭と臀鰭は白色で、

前縁には暗色域がある。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では、北海道南部以南の日本海沿岸、北海道以南の太平洋沿岸、東シナ海沿岸、瀬戸内海に分布する。

備考 本種はマサバ *S. japonicus* Houttuyn, 1782 とは体側下方に多くの小暗色斑点をもつこと（マサバにはない）、背鰭第1-9棘間の基底長が尾叉長の12%未満と短いこと（マサバでは12%以上）で識別される（中坊・土居内、2013）。全長およそ50 cmに達する。

（遠藤広光）

■ キハダ *Thunnus albacares* KAUM-I. 45782, 367.5 mm SL

スズキ目 サバ科 マグロ属

キハダ

Thunnus albacares
(Bonnaterre, 1788)

形態 背鰭 XII-XIV-14-15+8-9；臀鰭 14-15+8-9；胸鰭 32-35；腹鰭 I, 5；鰓耙 27-34；脊椎骨 18+21=39。体はやや細長い紡錘形で、断面は楕円形。口は大きく、両顎には大きく、鋭い円錐歯がまばらに並ぶ。第1背鰭は前端で高くなり、後方では

低い。両背鰭はよく接近する。背鰭と臀鰭の後方には8-9基の小離鰭をもつ。大型個体では第2背鰭と臀鰭が著しく伸長する。胸鰭は長く、その後端は第2背鰭起部の直下を越える。腹鰭間棘は2本。尾柄の中央部には発達した長い隆起をもち、その後方部は尾鰭の基底付近にある短い1対の隆起に挟まれる。側線は緩やかに下降する。体は胸甲部を除いて無鱗。鰭をもつ。

色彩 体の背面は青黒く、体側と腹側は銀白色。各鰭は暗灰色で黄色みを帯び、大

型個体では第2背鰭、臀鰭と小離鰭は鮮明な黄色。小離鰭の縁辺は黒色。若魚の体側下方には白色の斜線と点列が並ぶ。

分布 世界の温帯から熱帯域に分布する（地中海には出現しない）。太平洋岸沖に分布し、日本海では稀。

備考 本種は外洋表層性で、最大で全長2 mに達する。

(遠藤広光)

■ ミナミメダイ *Ariomma brevimanum* KAUM-I. 47837, 698.0 mm SL

スズキ目 オオメダイ科 オオメダイ属

ミナミメダイ

Ariomma brevimanum
(Klunzinger, 1884)

形態 背鰭 X + I, 15；臀鰭 II, 15；胸鰭 23；腹鰭 I, 5；側線鱗 53。体は細長く、

やや側扁する。頭部背面の有鱗域の先端は眼の後縁に達する。

色彩 体背面は黒色。体側面および体腹面は一樣に銀色。臀鰭は白色で、他の鰭は黒色。

分布 国外ではハワイ、インドネシア、紅

海などから知られる。国内では神奈川県以南の太平洋側と熊本県から知られる。

備考 全長70 cm以上に成長する。生態は不明な点が多い。ミナミメダイの和名は南半球の冷水域に広く分布するメダイ科の *Hyperoglyphe antarctica* (Carmichael, 1818) にあてられることもある。

(畑 晴陵)



■ セイテンピラメ *Asterorhombus intermedius* BSKU 108303, 23.0 mm SL

カレイ目 ダルマガレイ科 セイテンピラメ属

セイテンピラメ

Asterorhombus intermedius
(Bleeker, 1865)

形態 背鰭 79–86；臀鰭 60–65；胸鰭 11（有眼側）；有孔側線鱗 53–54；脊椎骨 35–37。口は大きく、眼の前端に達する。両眼間隔は狭い。体高は高く、体長の41.3–50.2%。背鰭第1軟条は長く遊離

し、基底付近は細く、鰭膜に皮弁がある。その長さは体長の8.4–19.5%。

色彩 成魚は体全体が褐色を帯び、鰭条と鰭膜には褐色と黒色、白色の斑点が規則的に散在する。有眼側の上下に黄色に黒色の縁取りがある斑紋が3対、胸鰭後方に1対ある。尾柄のやや前方に眼径大の黒色眼状斑がある。若魚では、白色の体の地色に瞳孔大の眼状斑が約4対あり、尾柄前方にある眼状斑は朱色。

分布 インド・西太平洋に広く分布し、国内では相模湾以南の南太平洋沿岸、山口県、長崎県、琉球列島に生息する。

備考 本種は珊瑚礁域の砂底に生息する。摂餌の際に、背鰭第1鰭条を動かすが、ルアーとしての役割については解明されていない（中坊・土居内、2013）。与論島では水深約20mの砂底から1個体の若魚が採集された。

（片山英里）

カレイ目 ダルマガレイ科 ホシダルマガレイ属

モンダルマガレイ

Bothus mancus
(Broussonet, 1782)

形態 背鰭 96–102；臀鰭 74–81；有眼側胸鰭 11–13；腹鰭 6；側線上方横列鱗 76–89。体は著しく側扁し、丸みを帯びる。眼は片方の体側のみ存在する。口は小さく、上顎の後端は下眼の中央部に達しない。両眼間隔が広く、眼の前方に位置する頭部背縁が窪む。有眼側の鱗は側線鱗を除いて櫛鱗であり、著しく小さい。有眼側の腹鰭の起部は下眼の後端よりも前方にある。腹鰭の基底は無眼側より有眼側が長い。有眼側の胸鰭はやや長く、体側の中央付近に達する。

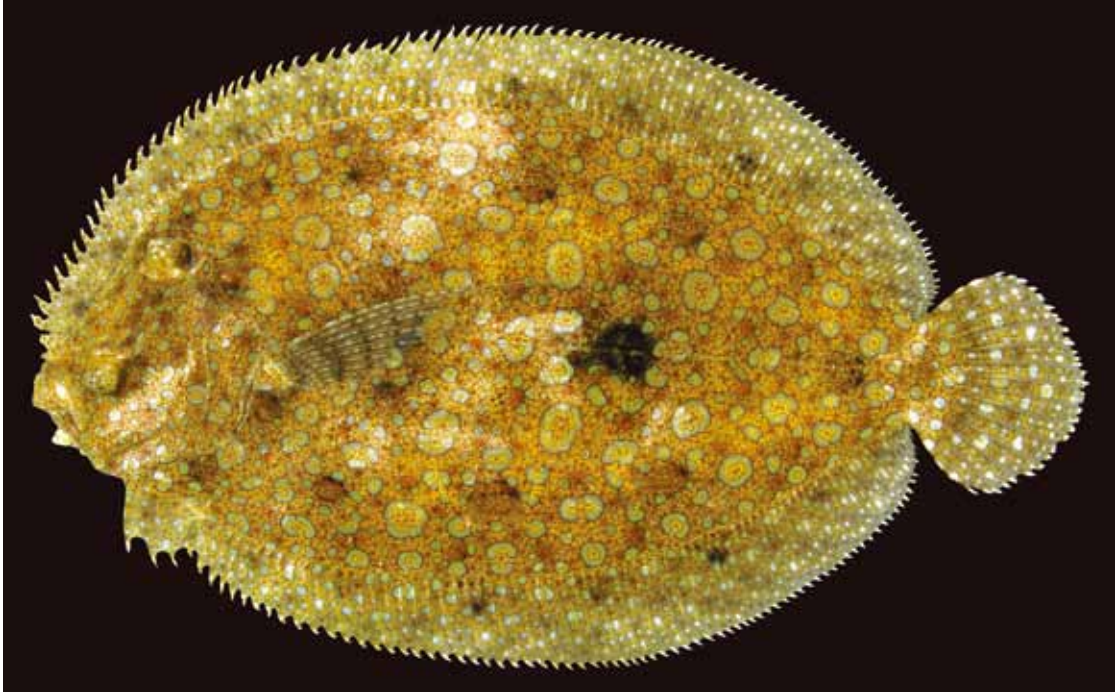
色彩 有眼側の体側は茶褐色であり、黒色で縁取られた水色の環状紋が散在する。有眼側の背鰭、臀鰭、胸鰭、尾鰭には、水色斑と黒色斑が散在する。有眼側の側線鱗上には、やや輪郭が不明瞭な円形の黒色模様が存在する。無眼側の体側は一



■ モンダルマガレイ *Bothus mancus* KAUM-I. 42702, 275.4 mm SL

様に乳白色であるが、雄の無眼側体側には、無数の小黑斑が散在する。無眼側の背鰭、臀鰭、胸鰭、尾鰭には白色斑が散在する。

分布 インド・西太平洋に生息する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、和歌山県以南の太平洋沿岸、大隈諸島、琉球列島に分布する。



■ モンダルマガレイ *Bothus mancus* KAUM-I. 42702, 275.4 mm SL

備考 本種は同属のトゲダルマガレイ *B. pantherinus* (Rüppell, 1830) に類似するが、眼の前方付近に位置する頭部背縁が

窪むこと、背鰭軟条数がやや多いこと（トゲダルマガレイでは 88-93）、臀鰭軟条数がやや多いこと（65-72）、雄の眼の前縁

には多くの小棘がないこと、雄の無眼側に小黒斑が散在することから識別される。トゲダルマガレイよりもやや南方に分布する。
(大橋祐太)

カレイ目 ダルマガレイ科 ホンダルマガレイ属

トゲダルマガレイ

Bothus pantherinus
(Rüppell, 1830)

形態 背鰭 88-93；臀鰭 65-72；有眼側胸鰭 10-11；腹鰭 6；側線上方横列鱗 70-78。体は著しく側扁し、丸みを帯びる。眼は片方の体側のみが存在する。口は小さく、上顎の後端は下眼の中央部に達しない。両眼間隔が広く、雄の眼の前縁には多くの小棘がある。眼の前方に位置する頭部背縁は窪まない。有眼側の鱗は側線鱗を除いて櫛鱗であり、著しく小さい。有眼側の腹鰭の起部は下眼の後端よりも前方にある。腹鰭の基底は無眼側より有眼側が長い。有眼側の胸鰭は著しく長く、尾鰭付近に達する。

色彩 有眼側の体側は薄い黄土色であり、白色の環状紋と黄色や橙色の小斑紋が散在する。有眼側の背鰭、臀鰭、胸鰭、尾鰭は薄い黄土色であり、小白斑が散在する。有眼側体側のやや後方には、黄土色、黒色、小黒斑で形成された輪郭が不明瞭



■ トゲダルマガレイ *Bothus pantherinus* FRLM 42995, 70.7 mm SL

なハート型の模様が存在する。無眼側の体側は一樣に薄い黄土色。無眼側の背鰭、臀鰭、胸鰭、尾鰭は薄い黄土色をしており小白斑や小黒斑が散在する。

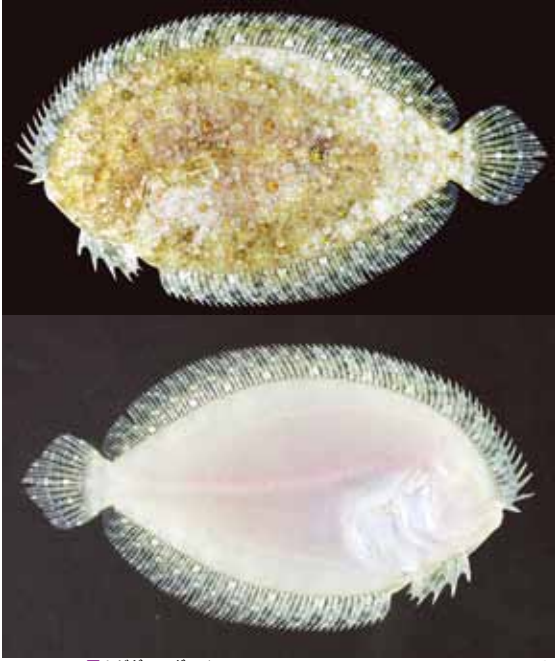
分布 インド・西太平洋に生息する。国内では伊豆諸島、小笠原諸島、島根県・相模湾以南の南日本、大隈諸島、琉球列島に分布する。

(大橋祐太)

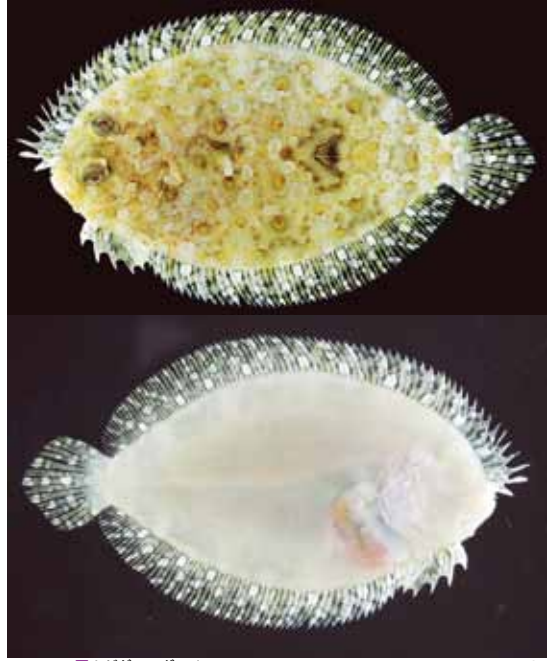
Lefteye flounders

Bothidae

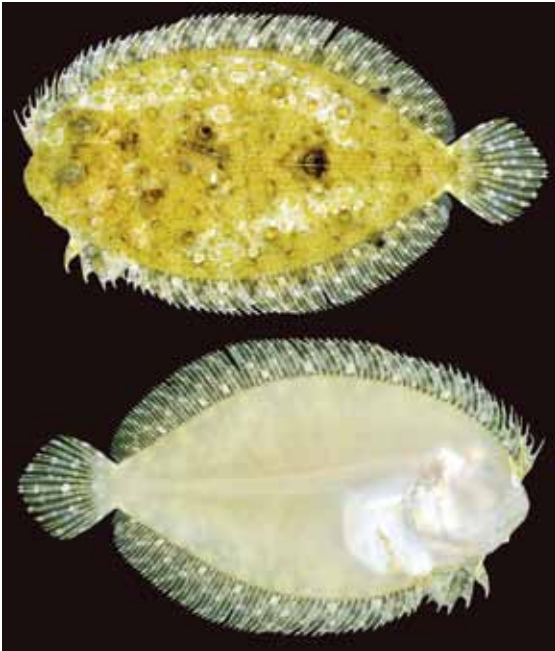
ダルマガレイ科



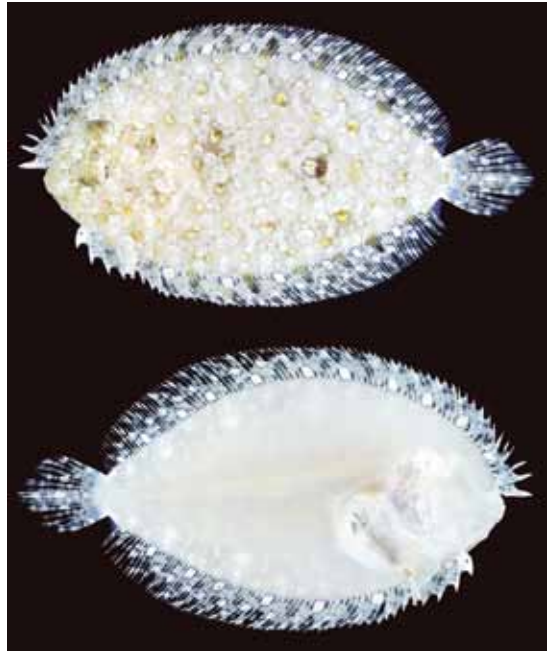
■ トゲダルマガレイ *Bothus pantherinus* KAUM-I. 48024, 70.9 mm SL



■ トゲダルマガレイ *Bothus pantherinus* KAUM-I. 48062, 50.4 mm SL



■ トゲダルマガレイ *Bothus pantherinus* KAUM-I. 39944, 47.1 mm SL



■ トゲダルマガレイ *Bothus pantherinus* KAUM-I. 51314, 35.9 mm SL



■ トゲダルマガレイ *Bothus pantherinus* NSMT-P 110323, 29.9 mm SL



■ ジャノメツキノワガレイ *Samariscus triocellatus* NSMT-P 110509, 80.0 mm SL

カレイ目 ベロガレイ科 ツキノワガレイ属

ジャノメツキノワガレイ

Samariscus triocellatus
Woods, 1960

形態 背鰭 64-70; 臀鰭 51-57; 胸鰭 4; 腹鰭 5; 側線有孔鱗 71-75; 脊椎骨 39。体は長円形で、体の後半に進むに従って緩やかに低くなる。眼は体の右側にあり、下眼は上眼よりわずかに前方に位置する。上顎後縁は下眼の前縁をわずかに越える。背鰭鰭条は不分枝で、上眼前縁よりも前

方から始まり、その起部は頭部背中線よりもやや無眼側の方にずれる。背鰭第 1-3 軟条は基底から 3 分の 1 が鰭膜で連続する。有眼側の胸鰭は頭長より少し長い。無眼側は胸鰭がない。腹鰭と臀鰭は不分枝軟条である。尾鰭は後縁が丸く、鰭条は上下の各 2 本を除き分枝する。

色彩 有眼側の体色は茶色のまだら模様。体側の中央には眼径より少し大きい明瞭な 3 環状斑がある。環状斑は側線より下方にあり、斑の上縁は側線に接する。有眼側胸鰭の後縁は黒い。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では伊豆諸島と琉球列島から報告されている。

備考 本種はサンゴ礁や岩礁の近接した砂底に生息する。与論島では水深 20 m の岩礁間の砂底で採集された。本種は時々黒い胸鰭を振りながらゆっくりと海底を移動する。おそらく扁形動物に擬態していると思われる。

(ジョン ビョル)



■ トウヨウササウシノシタ *Aseraggodes orientalis* KAUM-I. 48063, 43.2 mm SL

カレイ目 ササウシノシタ科 トビササウシノシタ属

トウヨウササウシノシタ

Aseraggodes orientalis
Randall & Senou, 2007

形態 背鰭 66-72; 臀鰭 45-47; 腹鰭 5 (有眼側)、5 (無眼側); 尾鰭 18; 側線鱗 75-86; 脊椎骨 35-36。体は長楕円形。眼は体の右側にあり、両眼間隔は狭く、上眼が下眼よりもわずかに前方に位置する。有眼側の前鼻管は長く下眼の前縁か、それよりわずかに後方に達する。口はわずかに曲がる。背鰭と臀鰭は尾鰭と離れる。尾柄部は短い。両体側ともに胸鰭がない。腹鰭は長く、臀鰭の第 3-4 鰭条に達する。尾鰭後縁は丸い。

色彩 有眼側は薄い黄色であり、不定形な乳白色の斑紋が散在する。その斑紋の間に褐色や黒色の小斑点が散在する。無眼側は白色。

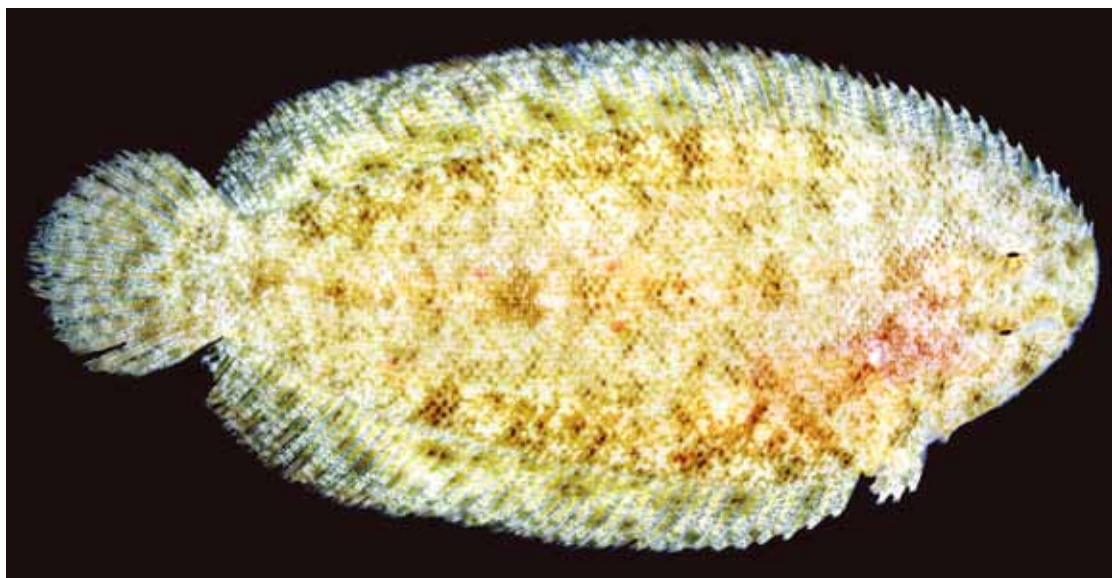
■ トウヨウササウシノシタ *Aseraggodes orientalis* KAUM-I. 48063, 43.2 mm SL

分布 日本と台湾に生息する。国内では高知県柏島と鹿児島県と論島から知られる。

備考 トウヨウササウシノシタは同属のムシクイササウシノシタ *A. cheni* Randall

& Senou, 2007 に似るが、側線鱗数が 81-86 で多いこと (ムシクイササウシノシタでは 73-76) から識別される。与論島では水深 2-3 m の岩礁間の砂底から採集された。国内では 2 番目の記録となる。

(ジョン ビョル)



カレイ目 ササウシノシタ科 トビササウシノシタ属

ムスメウシノシタ

Aseraggodes sp.

形態 背鰭 69; 臀鰭 50; 腹鰭 5 (有眼側)・5 (無眼側); 側線鱗 67。体は長楕円形。眼は体の右側にあり、両眼間隔は狭く、上眼が下眼よりもわずかに前方に位置する。有眼側の前鼻管は長く下眼の前縁か、それよりわずかに後方に達する。口はわずかに

に曲がる。両体側ともに胸鰭がない。

色彩 有眼側の体色は薄い黄土色あるいは茶色であり、不定形な白色斑と小黒点が散在する。側線上には眼径より大きい、輪郭のやや不明瞭な黒色斑が 3-4 個存在する。

分布 伊豆諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 本項の記載は与論島産の 1 標本に

■ ムスメウシノシタ *Aseraggodes* sp. KAUM-I. 48060, 33.9 mm SL

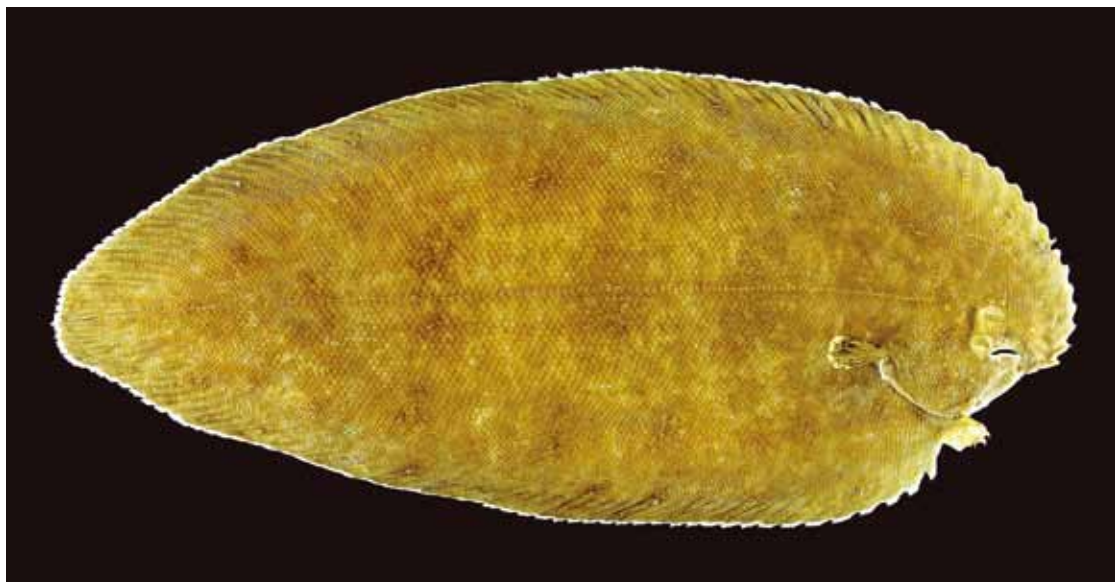
基づく。与論島では水深 2-5 m の岩礁域の砂底から採集された。これまでムスメウシノシタが属していたオトメウシノシタ

属 *Parachirus* Matsubara & Ochiai, 1963 は、Randall (2005) によってトビササウシノシタ属 *Aseraggodes* Kaup, 1854 の新参異名とされた。ムスメウシノシタは同属の

オトメウシノシタ *A. xenicus* (Matsubara & Ochiai, 1963) と似るが、有眼側の側線上に輪郭のやや不明瞭な眼径より大きい黒色斑が3-4個存在すること、背鰭鰭条数

が69-74と多いこと(オトメウシノシタでは57-69)、臀鰭鰭条数が50-54と多いこと(オトメウシノシタでは39-47)から識別される。

(ジョン ピョル)



カレイ目 ササウシノシタ科 アマミウシノシタ属

アマミウシノシタ

Dagetichthys marginata
(Boulenger, 1900)

形態 背鰭 71-74；臀鰭 56-57；胸鰭 5-6（有眼側）・4-6（無眼側）；腹鰭 5（有眼側）・4（無眼側）；尾鰭 14；側線鱗 103-109；脊椎骨 42。体は楕円形。口はゆるく曲がって前方に開く。吻端は丸い。有眼側の前鼻管の先端に三角形の小皮弁がある。背鰭と臀鰭は尾鰭と完全に連続し、切れ込みない。有眼側に柔らかい小皮弁が散在する。

色彩 有眼側は黄褐色で不定形の大きな暗色斑が散在する。横帯はない。

分布 西インド洋と西太平洋に分布する。国内では大隅諸島と琉球列島から報告されている。

備考 サンゴ礁域の砂底に生息する。浅海の砂底で砂を被って身を隠している。与論島では水深2mの岩礁域の砂底から採集された。



■ アマミウシノシタ *Dagetichthys marginata* NSMT-P 110409, 327.7 mm SL

日本産ミナシマウシノシタ属 *Synaptura* の中で、ワモンウシノシタ *S. annularis* (Fowler, 1934) とミナシマウシノシタ *S. orientalis* (Bloch & Schneider, 1801) が *Brachirus* に帰属された (Desoutter-Meniger et al., 2001) ことに伴い、中坊・土居内 (2013) は *Brachirus* をミナシマウシノシタ属とし、*Synaptura* をア

マミウシノシタ属 (新称) とした。しかし、*S. marginata* Boulenger, 1900 は *Dagetichthys* に帰属されたため (Vachon et al., 2008)、アマミウシノシタ属という属の和名は *Synaptura* ではなく *Dagetichthys* に適用される。

(ジョン ピョル)



■ ミナミウシノシタ *Pardachirus pavoninus* KAUM-I. 48068, 118.0 mm SL



■ ミナミウシノシタ *Pardachirus pavoninus*
BSKU 108255, 156.0 mm SL



■ ミナミウシノシタ *Pardachirus pavoninus*
NSMT-P110390, 119.8 mm SL



■ ミナミウシノシタ *Pardachirus pavoninus*
NSMT-P110391, 73.1 mm SL

カレイ目 ササウシノシタ科 ミナミウシノシタ属

ミナミウシノシタ

Pardachirus pavoninus
(Lacepède, 1802)

形態 背鰭 66-70；臀鰭 50-53；腹鰭 5；側線鱗 75-82；脊椎骨 38。体は楕円形。眼は体の右側にある。口はわずかに曲がる。有眼側の前鼻管は短く、下眼の前縁を越えない。背鰭と臀鰭の軟条は分枝する。背鰭、臀鰭、腹鰭の各軟条の基部に毒腺の開孔部がある。両体側ともに胸鰭がない。

色彩 有眼側は薄い黄土色あるいは茶色であり、楕円形に近い不定形な白色斑が散在する。白色斑の中には小黒点がある。白色斑の間に茶色と黄色の小斑点が散在する。無眼側は白色。

分布 東インド洋と西太平洋に分布する。国内では千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から報告されている。

備考 与論島では水深 3 m の岩礁域の砂底から採集された。サメ類は本種の毒液が苦手なことが知られており、そのためにミナミウシノシタの毒を用いたサメの被害対策に関する研究が行われたこともある。ミナミウシノシタの稚魚とオトメウシノシタ *Aseraggodes xenicus* (Matsubara & Ochiai, 1963) の成魚は体形や色彩が酷似する。

ミナミウシノシタは西インド洋に生息する同属の *P. marmoratus* (Lacepède, 1802) と似るが、側線鱗数が 75-82 と少ないこと（後者では 83-102）、背鰭と臀鰭に鱗がないこと（鱗がある）から識別される。

(ジョン ビョル)

カレイ目 ササウシノシタ科 サザナミウシノシタ属

サザナミウシノシタ

Soleichthys heterorhinos
(Bleeker, 1856)



■ サザナミウシノシタ *Soleichthys heterorhinos* KAUM-I. 51506, 36.8 mm SL

形態 背鰭 92–102；臀鰭 77–87；胸鰭 7–9（有眼側）・6–8（無眼側）；腹鰭 4；側線鱗 99–105；脊椎骨 50。体は低くて長楕円形。眼は突出し、両眼間隔は狭い。有眼側の前鼻管は長く、後方に倒すと下眼の中央に達する。口はゆるく曲がって前方に開く。背鰭と臀鰭は尾鰭と連続しない。

色彩 有眼側は薄い黄土色あるいは茶色であり、楕円形に近い不定形な白色斑が散在する。白色斑の中には小黒点がある。白色斑の間に茶色と黄色の小斑点が散在する。無眼側は白色。

分布 インド・西太平洋に広く分布する。国内では山口県の日本海側、大隅諸島、琉球列島から報告されている。

備考 やや目の粗い砂地や転石帯などのサンゴ礁域や岩礁域に生息する。タイドプールでも観察される。与論島では水深 2–8 m の岩礁域から採集された。稚魚時にはさざ波模様がなく、体は白色で体後方は黄色で



■ サザナミウシノシタ *Soleichthys heterorhinos* BSU 108251, 46.2 mm SL

ある。

本種は同属の *S. dori* Randall & Munroe, 2008 と似るが、背鰭鰭条数が 92–102 で多いこと（後者では 87–95）、眼径より吻長が短いこと（眼径は吻長の 1.35–2.22 倍；*S. dori* では 0.65–0.95 倍）から識別される。（ジョン ビョル）



■ サザナミウシノシタ *Soleichthys heterorhinos* NSMT-P 110396, 45.4 mm SL



■ イトヒキオキハギ *Abalistes filamentosus* KAUM-I. 51370, 260.7 mm SL

フグ目 モンガラカワハギ科 オキハギ属

イトヒキオキハギ

Abalistes filamentosus
Matsuura & Yoshino, 2004

形態 背鰭 III+25-27；臀鰭 22-25；胸鰭 14-15；縦列鱗 33-39。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。尾柄は縦扁し、幅の方が高さより大きい。第1背鰭は3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。筒状の鞘状鱗は前後方向に4節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾鰭の背部と腹部の鰭条が糸状に伸長する。

色彩 体の背方は褐色で、背部に3個の白色斑がある。最初の白色斑は第1背鰭基部の周囲にあり、2番目の白色斑は背鰭第3棘の直後にある。3番目の白色斑は第2背鰭基部の中央にある。頬は緑褐



■ イトヒキオキハギ *Abalistes filamentosus* FRLM 42900, 332.0 mm SL

色で3-4本の褐色の溝が水平に走る。第1背鰭の鰭膜には大きな1暗褐色斑がある。第2背鰭と臀鰭は淡色で、水平方向に4-5本の波状の褐色線が走る。尾鰭は黄褐色で、3-4本の褐色の波状線が上下方向に走る。

分布 オーストラリア北部、ニューカレドニア、与論島以南の琉球列島から知られている。

備考 オキハギ *A. stellatus* (Anonymous, 1798) に似るが、イトヒキオキハギでは尾鰭が糸状に伸長し、体に小黄色点や小青色点をもたないことにより識別される。与論島の沖合の水深90-105 mから3個体が釣りによって採集された。イトヒキオキハギは日本では沖縄島以南から知られていた。今回の与論島産の標本は北限更新記録となる。

(松浦啓一)



■ クマドリ *Balistapus undulatus* Male FRLM 42965, 167.7 mm SL



■ クマドリ *Balistapus undulatus* Female FRLM 42865, 133.4 mm SL



■クマドリ *Balistapus undulatus* Male KAUM-I. 51403, 176.2 mm SL

フグ目モンガラカワハギ科クマドリ属

クマドリ

Balistapus undulatus
(Park, 1797)

形態 背鰭 III+24-27 (通常 25 か 26) ; 臀鰭 20-24 ; 胸鰭 13-15 (通常 14) ; 縦列鱗 36-40。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。雄では吻の背縁は直線的かやや凸状で、雌ではやや凹む。眼の前方に 1 縦溝がない。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第 1 背鰭は 3 棘から構成され、第 1 棘は頑丈

で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。筒状の鞘状鱗は前後方向に 4 節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾柄側面に 2 列に並ぶ前方を向いた棘がある。

色彩 体と頭部は暗緑色で、やや茶色味を帯び、多数の橙色の波状線に覆われる。口から胸鰭下方にかけて赤橙色線が 2-3 本走る。雄の吻部は茶色で、橙色の波状線がない。雌の吻部には波状線がある。第 1 背鰭の鰭膜は淡橙色で、第 1 棘と 2 棘の間の鰭膜の縁付近は黒い。第 2 背鰭、臀鰭及び尾鰭の鰭条は橙黄色を呈す

る。尾柄側面の逆向棘周辺に楕円形の黒色斑がある。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、和歌山県以南の南日本、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 全長 30 cm になる。繁殖期になるとサンゴ礁の底にすり鉢状の穴を作り産卵する。小型の魚類、ウニ類、カニ類、ゴカイ類、貝類などを食べる。サンゴ礁でごく普通に見られる種である。与論島では水深 10-40 m から採集された。

(松浦啓一)

フグ目モンガラカワハギ科モンガラカワハギ属

モンガラカワハギ

Balistoides conspicillum
(Bloch & Schneider, 1801)

形態 背鰭 III+25-27 ; 臀鰭 21-23 ; 胸鰭 14-15 ; 縦列鱗 39-50。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われ、吻部の鱗は他の鱗より小さい。眼の前方に 1 縦溝がある。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第 1 背鰭は 3 棘から構成され、第 1 棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。筒状の鞘状鱗は前後方向に 4 節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾柄側面



■モンガラカワハギ *Balistoides conspicillum* 15 Apr. 2012. Photo by S. Harazaki

■ モンガラカワハギ *Balistoides conspicillum* FRLM 43021, 150.6 mm SL

に3-4列に並ぶ前方を向いた小棘がある。

色彩 体と頭部は黒い。口より下方の体と頭部に楕円状の白色斑が多数ある。鰓孔の上方から第2背鰭前部に至る体背部には、橙色の網目状模様がある。口の周辺は橙黄色で、その直後を細い黄色線が環状に取り囲む。眼の前方を黄色の帯が横切る。尾柄背面に橙色の網目状模様がある。第2背鰭、臀鰭及び胸鰭の基部に橙黄色の線がある。尾鰭は黒く、中央部に背腹方向に走る黄色帯がある。

分布 紅海を除くインド洋と西太平洋の熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、岩手県・新潟県以南の南日本、大隅諸島、琉球列島などに広く分布する。

備考 全長30 cmになる。サンゴ礁外縁部で、群れを作らず単独か2尾で行動する。与論島では水深40 m以浅から採集された。甲殻類、カニ類、ウニ類、貝類などを食べる。

(松浦啓一)

■ モンガラカワハギ *Balistoides conspicillum* KAUM-I. 45793, 125.9 mm SL

フグ目 モンガラカワハギ科 モンガラカワハギ属

ゴマモンガラ

Balistoides viridescens
(Bloch & Schneider, 1801)

形態 背鰭 III+25-26；臀鰭 23-24；胸鰭 14；縦列鱗 29-32。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。眼の前方に1縦溝がある。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第1背鰭

は3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。鞘状鱗は4節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾柄側面に4-6列に並ぶ前方を向いた小棘がある。

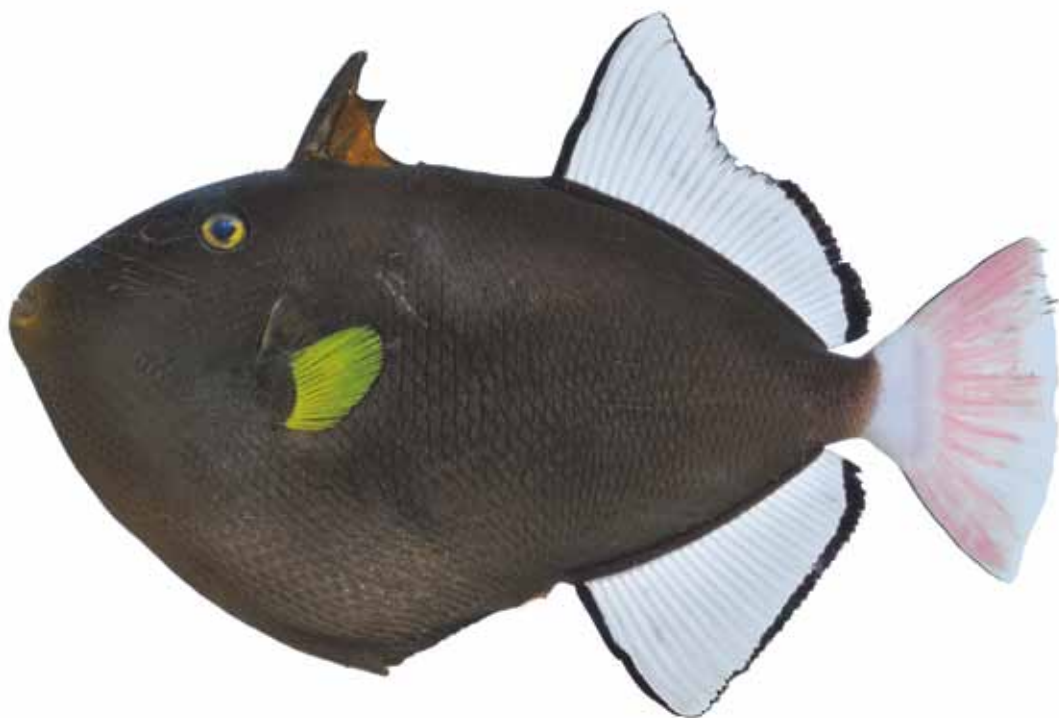
色彩 体は灰緑色で鱗の縁が黄色いため、格子状の模様を形成する。頬は暗黄色で、眼から鰓孔と胸鰭基部にかけて幅広い暗緑色の横帯がある。上顎の縁辺は暗緑色。第1背鰭の鰭膜には暗緑色の線と斑点がある。第2背鰭と臀鰭、胸鰭は暗黄色で、縁辺は黒く縁取られる。尾鰭は黄色で、基部と縁辺は黒い。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋の熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島に分布する。

備考 全長 60 cm になる。群を作らず、単独で行動する。与論島では幼魚が採集された。ウニ類、カニ類、貝類などを食べる。(松浦啓一)



■ゴマモンガラ *Balistoides viridescens* KAUM-I. 51175, 34.2 mm SL



■クロモンガラ *Melichthys vidua* FRLM 42886, 139.8 mm SL

フグ目 モンガラカワハギ科 ソロイモンガラ属

クロモンガラ

Melichthys vidua
(Richardson, 1845)

形態 背鰭 III+31-35；臀鰭 27-31；胸鰭

14-15；縦列鱗 50-59。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。眼の前方に1縦溝がある。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第1背鰭は3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。鞘状鱗は4節に分かれ、背腹

方向に動かすことができる。

色彩 体と頭部、第1背鰭は黒い。第2背鰭と臀鰭は淡色で、黒く縁取られる。胸鰭は黄色。尾鰭後部は淡桃色で、基部は白い。



■ クロモンガラ *Melichthys vidua* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

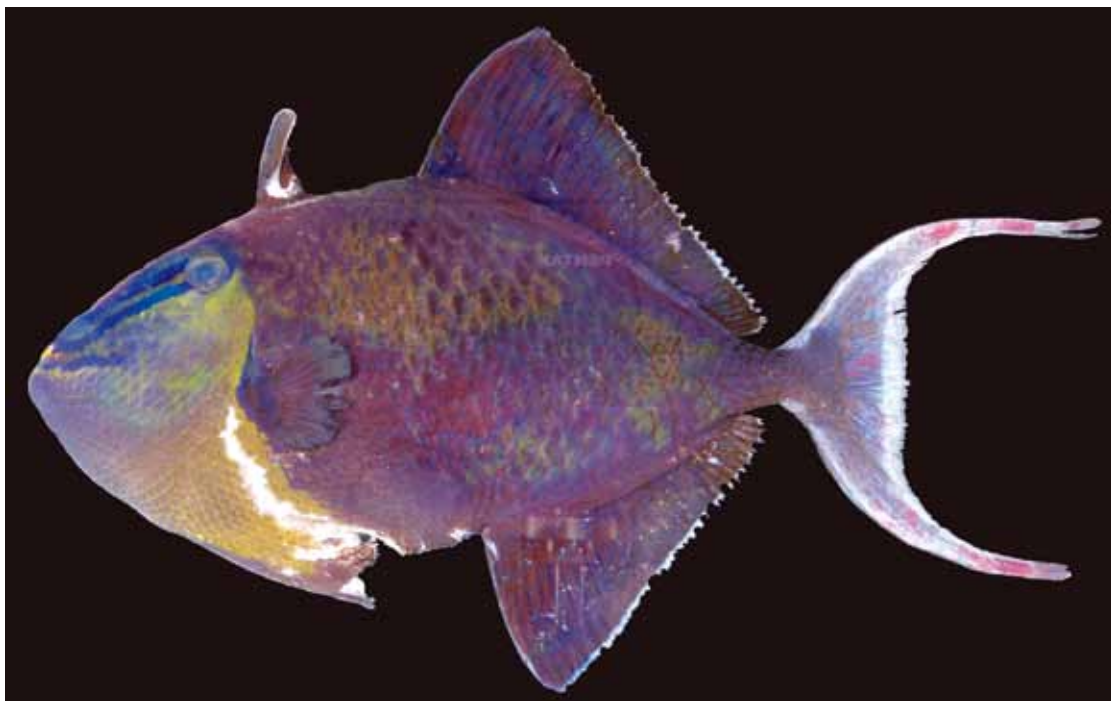
分布 インド・太平洋と東太平洋の熱帯域に分布する。国内では北海道以南の太平洋沿岸、小笠原諸島、伊豆諸島、大隅諸島、

琉球列島から知られている。

備考 全長 30 cm になる。サンゴ礁外縁

部にみられる。与論島では水深 10–30 m から採集された。海藻、ウニ類、カニ類、貝類などを食べる。

(松浦啓一)



■ アカモンガラ *Odonus niger* KAUM-I. 42709, 149.5 mm SL

フグ目 モンガラカワハギ科 アカモンガラ属

アカモンガラ

Odonus niger
(Rüppell, 1836)

形態 背鰭 III+33-36；臀鰭 28-31；胸鰭 14-15；縦列鱗 29-34。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。眼の前方に1縦溝がある。1対の犬歯が口から外部に突出する。下顎は上顎より前方に位置し、口は上を向く。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第1背鰭は3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。第2背鰭と臀鰭の前部は後部よ

り明らかに高い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。筒状の鞘状鱗は4節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾鰭の上葉と下葉は後方に伸長する。尾柄から第2背鰭前部下方に至る体側に、小棘が6-7縦列を形成して並ぶ。

色彩 体は紺色を帯びた黒色。口から鰓孔までの頭部の色は体よりも淡く、灰青色を呈する。第2背鰭、臀鰭及び尾鰭は淡青色に縁取られる。眼から口にかけて、2本の青色線が斜めに走る。口から後方に1本の青色線が水平に走る。歯は赤い。

分布 ハワイ諸島とイースター島を除くイン

ド・太平洋に広く分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、琉球列島から知られている。

備考 全長 50 cm になる（尾鰭の伸長部を含む）。サンゴ礁外縁部で大きな群れを作ることが多い。与論島では水深 5-8 m の浅い所から採集された。動物プランクトンや海綿を食べる。背鰭第1棘を第2棘で固定して、垂直に立てることができる。敵に襲われそうになると、サンゴ礁の隙間や穴に逃げ込んで、背鰭第1棘と腰骨後端の鞘状鱗を隙間や穴の壁に突っ張り、体を固定する。このような防御行動はモンガラカワハギ科特有のものである。

(松浦啓一)

■ ムラサメモンガラ *Rhinecanthus aculeatus* BSKU 106143, 127.3 mm SL

フグ目 モンガラカワハギ科 ムラサメモンガラ属

ムラサメモンガラ

Rhinecanthus aculeatus
(Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 III+23-26；臀鰭 21-22；胸鰭 13；縦列鱗 32-39。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。眼の前方に1縦溝がない。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第1背鰭は3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。筒状の鞘状鱗は4節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾柄に前方を向く小棘が3列に並び、最下段の小棘列

の長さは上段の2列の小棘列の半分しかない。

色彩 体の背方は薄茶色で腹方は白い。体側の鰓孔から第2背鰭前部の下方にかけて大きな楕円形の黒色斑がある。この黒色斑から1黒色帯が斜め後方に第2背鰭前部へと走り、やや細い2本の黒色線が臀鰭前部と中央へ斜走する。細い2本の黒色線が黒色斑から臀鰭に向かって斜走する。吻部は薄茶色。眼から鰓孔へと黒色帯が走り、黒色帯の前後は青く縁取られる。また、この黒色帯からやや前方に眼と胸鰭基部の下部を結ぶ青色線が走る。両眼を結ぶように眼隔域に3本の黒色線が横に走り、黒色線の前後は青く縁取られる。

口から胸鰭基部の下部に向かって、1本の橙黄色線が斜めに走る。尾柄の小棘列は黒い。第1背鰭は黒褐色。第2背鰭と臀鰭、胸鰭、尾鰭に模様はない。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 全長 30 cm になる。サンゴ礁の砂地で普通にみられる。与論島では多くの個体がみられ、20個体以上が採集された。雑食性で海藻やデトリタス、ウニ類、カニ類、貝類などを食べる。

(松浦啓一)



■ ムラサメモンガラ *Rhinecanthus aculeatus* FRLM 42782, 91.3 mm SL



■ ムラサメモンガラ *Rhinecanthus aculeatus* BSKU 106144, 70.2 mm SL



■ ムラサメモンガラ *Rhinecanthus aculeatus* KAUM-I. 39744, 29.3 mm SL



■ ムラサメモンガラ *Rhinecanthus aculeatus* KAUM-I. 39782, 88.3 mm SL



■ ムラサメモンガラ *Rhinecanthus aculeatus* NSMT-P 110369, 26.4 mm SL



■ ムラサメモンガラ *Rhinecanthus aculeatus* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ムラサメモンガラ *Rhinecanthus aculeatus* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■タスキモンガラ *Rhinecanthus rectangulus* KAUM-I. 39878, 109.4 mm SL



■タスキモンガラ *Rhinecanthus rectangulus* KAUM-I. 45965, 70.8 mm SL



■タスキモンガラ *Rhinecanthus rectangulus* KAUM-I. 41157, 45.3 mm SL

フグ目 モンガラカワハギ科 ムラサメモンガラ属

タスキモンガラ

Rhinecanthus rectangulus
(Bloch & Schneider, 1801)

形態 背鰭 III+23-24；臀鰭 20-21；胸鰭 13；縦列鱗 33-39。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。眼の前方に1縦溝がない。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第1背鰭は3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。筒状の鞘状鱗は4節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾柄に前方を

向く小棘が4列に並び、最上方の小棘列は他の3列より短い。

色彩 体の背方は薄茶色で腹方は白い。眼から鰓孔と胸鰭基部を通り、臀鰭の前部に向かって斜めに走る幅広い黒色帯がある。この黒色帯の背縁は黄色線で縁取られる。この黄色線は体側中央の、鞘状鱗の背方で枝分かれして、第2背鰭後部へと斜め背方へ走り、Y字状の模様を形成する。尾柄には前方が尖る細長い三角形の黒色斑があり、三角形の背縁、腹縁および後縁は黄色線で縁取られる。両眼を結ぶ3本の黒色線があり、黒色線の前後は青白色線で縁取られる。尾柄の小棘列は

黒い。第1背鰭は暗褐色。第2背鰭と臀鰭、胸鰭、尾鰭に模様はない。

分布 イースター島を除くインド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島などから知られている。

備考 全長30 cmになる。サンゴ礁の外縁に生息する。与論島では3個体が水深10 m以浅から採集された。雑食性で海藻やデトリタス、ウニ類、カニ類、貝類などを食べる。

(松浦啓一)



■ クラカケモンガラ *Rhinecanthus verrucosus* KAUM-I. 51318, 57.8 mm SL

フグ目 モンガラカワハギ科 ムラサメモンガラ属

クラカケモンガラ

Rhinecanthus verrucosus
(Linnaeus, 1758)

形態 背鰭 III+23-26；腎鰭 21-23；胸鰭 13-14；縦列鱗 34-37。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。眼の前方に1縦溝がない。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第1背鰭は3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。筒状の鞘状鱗は4節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾柄に前方を向く小棘が4列に並び、最上方の小棘列は他の3列より明らかに短い。

色彩 体の背方は薄茶色で腹方は白い。鞘状鱗の上方から腎鰭前部の体側に大き

な楕円形の黒色斑がある。眼から胸鰭基部にかけて、前後縁が青白く縁取られた茶褐色の帯が走り、帯の中央部を青白色線が眼から胸鰭基部へと走る。茶褐色の帯を前後で縁取る青白色線はさらに黄色線で縁取られる。両眼をつなぐ2本の茶褐色帯があり、帯の前後は青白線で縁取られる。口角から胸鰭基部の下部にかけて赤色線が斜めに走る。尾柄に淡黄色の楕円形の斑紋があり、この斑紋を1本の黒色線が横切る。尾柄の小棘列は黒い。背鰭と腎鰭、尾鰭に模様はない。尾鰭の背縁と腹縁は橙色。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 全長30 cmになる。与論島からは



■ クラカケモンガラ *Rhinecanthus verrucosus*
FRLM 42993, 26.3 mm SL

2個体が2 m以浅で採集された。サンゴ礁内の浅所に生息する。群は作らない。雑食性で海藻やデトリタス、ウニ類、カニ類、貝類などを食べる。

(松浦啓一)

フグ目 モンガラカワハギ科 メガネハギ属

ムスメハギ

Sufflamen bursa
(Bloch & Schneider, 1801)

形態 背鰭 III+27-30；腎鰭 25-27；胸鰭

13-14；縦列鱗 43-50。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。眼の前方に1縦溝がある。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第1背鰭は3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。筒状の鞘状鱗は4節に分かれ、

背腹方向に動かすことができる。尾柄から第1背鰭下方までの体側に鋭い小棘があり、多数の縦列を形成する。

色彩 頭部と体は茶色。白色線が口から肛門にかけて走り、肛門付近で前方に向きを変え、腹鰭基部で終わる。弧状の褐色帯



■ ムスメハギ *Sufflamen bursa* KAUM-I. 51377, 138.7 mm SL



■ ムスメハギ *Sufflamen bursa* FRLM 42888, 131.6 mm SL



■ ムスメハギ *Sufflamen bursa* 17 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

が第1背鰭の基部付近から眼を通り、胸鰭基部下端に走る。この褐色帯の後に、もう1本の褐色帯が眼の後方から胸鰭基部の上部へ走る。

分布 アラビア海を除くインド・太平洋の熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 全長 25 cm になる。与論島では茶花海岸の水深 7-35 m から 8 個体が採集された。雑食性。藻類より底生動物を食べることが多い。

(松浦啓一)

フグ目 モンガラカワハギ科 メガネハギ属

ツマジロモンガラ

Sufflamen chrysopteron
(Bloch & Schneider, 1801)

形態 背鰭 III+26-28；臀鰭 23-26；胸鰭 12-14；縦列鱗 41-47。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆わ

れる。眼の前方に1縦溝がある。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第1背鰭は3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞍状鱗がある。筒状の鞍状鱗は4節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾柄から第2背鰭中央部までの体側に鋭い小棘があり、多数の縦列を形成する。

色彩 頭部と体は褐色。眼の腹方後端から鰓孔直前の胸鰭基部まで淡黄色線が走る。尾鰭の大部分は褐色で背縁と腹縁は白く、後端も白い。雄の口から腹部膜状部にかけて濃紫色の帯が縦に走る。

分布 紅海を除くインド・西太平洋の熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、千葉県以南の南日本、大隅諸島、



■ ツマジロモンガラ *Sufflamen chrysopteron* Male FRLM 42901, 133.4 mm SL



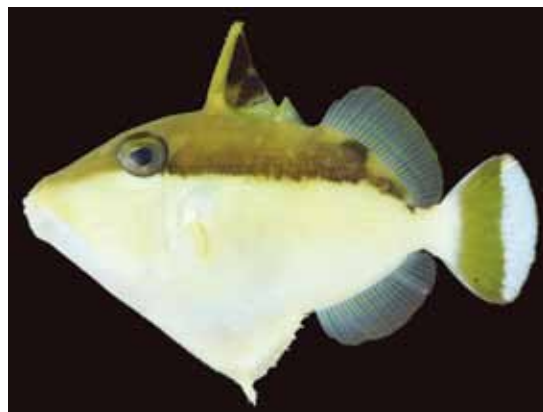
■ ツマジロモンガラ *Sufflamen chrysopteron* Female KAUM-I. 45872, 98.7 mm SL



■ ツマジロモンガラ *Sufflamen chrysopteron* Female KAUM-I. 41068, 70.4 mm SL



■ ツマジロモンガラ *Sufflamen chrysopteron* KAUM-I. 40371, 38.2 mm SL



■ ツマジロモンガラ *Sufflamen chrysopteron* KAUM-I. 48149, 32.5 mm SL



■ ツマジロモンガラ *Sufflamen chrysopteron* Male 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ツマジロモンガラ *Sufflamen chrysopteron* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

琉球列島から知られている。

備考 サンゴ礁で普通にみられる種で、全長 25 cm になる。ウニ類、カニ類、貝類などを食べる。与論島でも多くの個体が見られ、水深 10–50 m から採集された。群

れは作らず、単独で行動することが多い。第 1 背鰭棘を立て、第 2 背鰭棘によって固定することができる。敵に襲われそうになると、サンゴ礁の隙間や穴に逃げ込んで、背鰭第 1 棘と腰骨後端の鞘状鱗を隙間や穴の壁に突っ張り、体を固定する。このよ

うな防御行動を取った場合でも、体の後半部は露出していることが多く、「頭隠して尻隠さず」の状態となる。しかし、体後半部の鱗には小棘が多数あるため、手でつかんで引き出すことはできない。

(松浦啓一)



■ メガネハギ *Sufflamen fraenatum* KAUM-I. 45788, 203.3 mm SL

フグ目 モンガラカワハギ科 メガネハギ属

メガネハギ

Sufflamen fraenatum
(Latreille, 1804)

形態 背鰭 III+27–31；臀鰭 24–28；胸鰭 14–15；縦列鱗 43–54。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆わ

れる。眼の前方に 1 縦溝がある。鰓孔の上端周辺に大きな鱗が数枚ある。第 1 背鰭は 3 棘から構成され、第 1 棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。筒状の鞘状鱗は 4 節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。尾柄から第 2 背鰭起部までの体側に鋭い小棘があり、多数の縦列を形成する。

色彩 体は褐色で、雄では 1 本の淡黄色線が口角から斜め後方に走り、鼻孔の下方で終わる。この淡黄色線は、口角のやや後方で腹方向に向かう分岐を発生し、反対側の分岐と連続する。雌には淡黄色線はない。

分布 イースター島を除くインド・太平洋の熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、

伊豆諸島、千葉県以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 全長 38 cm になる。多くの場合水深 50 m 以浅のサンゴ礁外縁部に単独で生息する。与論島では水深 40–60 m から多くの個体が採集された。さらに、2 個体が供利沖の水深 80 m から釣りによって採集された。ウニ類、カニ類、貝類などを食べる。(松浦啓一)



■ マガネハギ *Sufflamen fraenatum* 17 Apr. 2012
Photo by S. Harazaki



■ マガネハギ *Sufflamen fraenatum* FRLM 42861, 155.5 mm SL



■ ホシモンガラ *Xanthichthys auromarginatus* Male 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

フグ目モンガラカワハギ科ナメモンガラ属

ホシモンガラ

Xanthichthys auromarginatus
(Bennett, 1832)

形態 背鰭 III+27–30；臀鰭 25–27；胸鰭 12–14；縦列鱗 43–54。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆わ

れる。眼の前方に 1 縦溝がある。鰓孔の上端周辺に大きな鱗がない。第 1 背鰭は 3 棘から構成され、第 1 棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。筒状の鞘状鱗は 4 節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。5 本の狭い溝が頬をやや斜めに走る。体側の鱗に小突起があり、多数の縦列を形成する。

色彩 雌雄で色が異なる。雌の体と頭部は暗褐色で、背鰭と臀鰭、尾鰭は茶褐色に縁取られる。雄の体は茶褐色で、頭部は暗褐色。口より下の頬は青い。背鰭と臀鰭、尾鰭は黄色く縁取られる。

分布 インド・西太平洋の熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、福岡県、与論島以南の琉球列島から知られている。

備考 全長 22 cm になる。水深 100 m 以下のサンゴ礁外縁部に単独で生息する。

与論島の茶花沖の水深 30 m で水中写真によって確認されたが、標本は採集されて

いない。主に動物プランクトンを食べる。
(松浦啓一)



■ アオスジモンガラ *Xanthichthys caeruleolineatus* KAUM-I. 51474, 264.1 mm SL



■ アオスジモンガラ *Xanthichthys caeruleolineatus* FRLM 43046, 140.4 mm SL

フグ目 モンガラカワハギ科 ナメモンガラ属

アオスジモンガラ

Xanthichthys caeruleolineatus
Randall, Matsuura & Zama, 1978

形態 背鰭 III+26-28；臀鰭 26-28；胸鰭 12-13；縦列鱗 40-43。体は側扁し、楕

円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。眼の前方に 1 縦溝がある。鰓孔の上端周辺に大きな鱗がない。第 1 背鰭は 3 棘から構成され、第 1 棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。筒状の鞘状鱗は 4 節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。6 本の狭い溝が頬をやや斜めに走る。

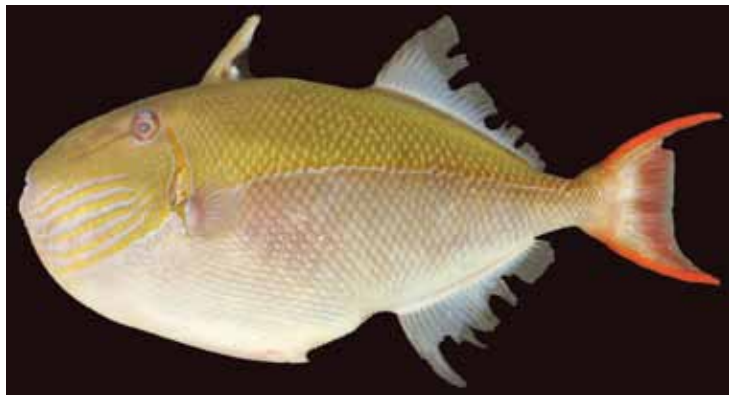
色彩 体の背方と頭部は橙色を帯びた薄茶色で、腹方は白い。体側の背方と腹方を分けるように不規則な 1 青色縦線が胸鰭腋部から尾柄背部に向かって走る。この青色線の背縁に沿って橙色線が走る。眼の直後から鰓孔を通り、胸鰭基部の下部へと橙色を帯びた茶色の帯が走る。茶色の帯の前後は青色線で縁取られる。頬の 6 本の

溝は青白い。溝の間は黄褐色。第1背鰭の鰭膜は灰白色で縁辺は黒い。第2背鰭と臀鰭の鰭条は褐色。尾鰭の後縁は赤褐色に幅広く縁取られ、背縁と腹縁は赤い。

分布 インド・西太平洋の熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、与論島以南の琉球列島から知られている。

備考 全長 30 cm になる。モンガラカワハギ科魚類としては、深い所に生息するため、サンゴ礁のみかけられる機会は少ない。沖縄では一本釣り漁法によって漁獲される。サンゴ礁の水深 50–200 m に生息する。与論島での採集水深は 78 m であった。

(松浦啓一)



■ アオスジモンガラ *Xanthichthys caeruleolineatus* KAUM-I. 47838, 278.5 mm SL



■ スジナモンガラ *Xanthichthys lienopunctatus* FRLM 43046, 140.4 mm SL

フグ目 モンガラカワハギ科 ナメモンガラ属

スジナモンガラ

Xanthichthys lienopunctatus
(Hollard, 1854)

形態 背鰭 III+27–29；臀鰭 25–27；胸鰭 13–14；縦列鱗 44–46。体は側扁し、楕円形を呈する。体は板状の骨質鱗に覆われる。眼の前方に1縦溝がある。鰓孔の上端周辺に大きな鱗がない。第1背鰭は

3棘から構成され、第1棘は頑丈で長い。腹鰭は単一で、後端に筒状の鞘状鱗がある。筒状の鞘状鱗は4節に分かれ、背腹方向に動かすことができる。3本の狭い溝が頬をやや斜めに走る。

色彩 体の背方と頭部は茶色を帯びた灰色で、腹方はやや白い。鰓孔下端より背方の体側に多数の褐色縦線が走る。体側腹方には多数の褐色点が散在する。頬の3本の溝は暗褐色。第1背鰭の鰭膜と背鰭

と臀鰭の基部は暗褐色。尾鰭の中央部は白く、後縁・背縁・腹縁は赤い。

分布 インド・西太平洋の熱帯域に分布する。国内では伊豆諸島、静岡県、奄美大島以南の琉球列島から知られている。

備考 全長 30 cm になる。サンゴ礁の外縁部に生息する。与論島における採集水深は 78 m であった。主に動物プランクトンを食べる。

(松浦啓一)



■ ハクセイハギ *Cantherhines dumerilii* 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

フグ目 カワハギ科 センウマツラハギ属

ハクセイハギ

Cantherhines dumerilii
(Hollard, 1854)

形態 背鰭 II+34-39；臀鰭 28-35；胸鰭 12-14。体は強く側扁し、やや長い菱形を呈する。第1背鰭は2棘で構成され、第1棘は長い。第2棘は短くて、皮下に隠れている。腹鰭は単一で、筒状を呈する小さな

鞘状の鱗から構成される。鞘状鱗は前後方向に3節に分かれているが、背腹方向に動かすことはできない。尾柄に2対の前方を向いた棘がある。

色彩 幼魚と若魚の体には多数の白色点がある。成魚になると体は褐色で、白色点はない。背鰭、臀鰭、胸鰭は黄色。尾鰭は暗褐色。

分布 インド・太平洋と東太平洋の熱帯域

のサンゴ礁にみられる。国内では伊豆諸島、茨城県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られている。北海道の日本海沿岸からも記録がある。

備考 全長 35 cm になる。水深 30 m 以浅のサンゴ礁を2尾で泳いでいることが多い。与論島の前浜沖の水深 10 m で確認され、水中写真が撮影された。小型甲殻類、ゴカイ類、貝類、サンゴのポリプなどを食べる。(松浦啓一)

フグ目 カワハギ科 センウマツラハギ属

アミメウマツラハギ

Cantherhines pardalis
(Rüppell, 1837)

形態 背鰭 II+32-36；臀鰭 29-32；胸鰭 12-14。体は強く側扁し、やや長い菱形を呈する。第1背鰭は2棘で構成され、第1棘は長い。第2棘は短くて、皮下に隠れ

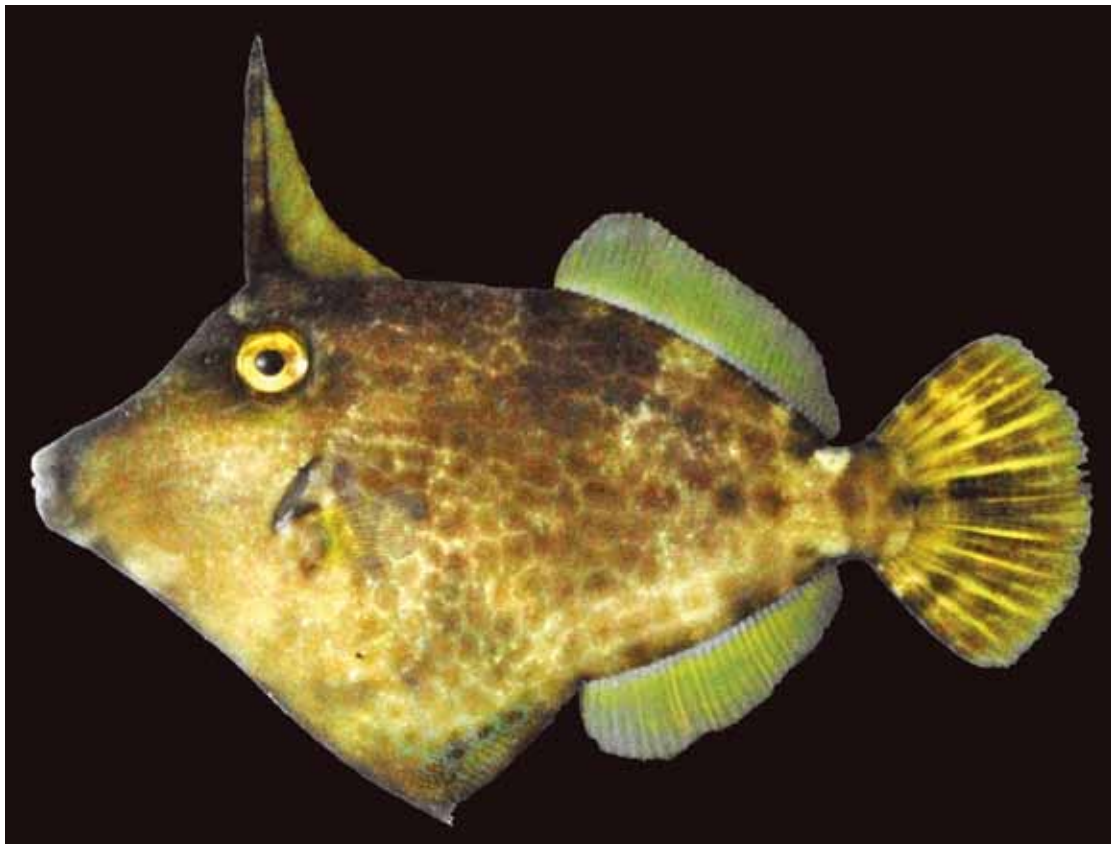
ている。腹鰭は単一で、筒状を呈する小さな鞘状の鱗から構成される。鞘状鱗は3節に分かれているが、背腹方向に動かすことはできない。

色彩 体は褐色で、網目状を呈する淡黄色の模様がある。尾柄上部に1白色斑がある。

分布 インド・西太平洋の熱帯域のサンゴ

礁にみられる。国内では小笠原諸島、茨城県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 全長 35 cm になる。水深 30 m 以浅のサンゴ礁外縁を単独で泳いでいることが多い。与論島では水深 10 m 以浅から採集された。小型甲殻類、ゴカイ類、貝類、サンゴのポリプなどを食べる。(松浦啓一)

■ アミメウマヅラハギ *Cantherhines pardalis* KAUM-I. 41132, 57.8 mm SL

フグ目 カワハギ科 テングカワハギ属

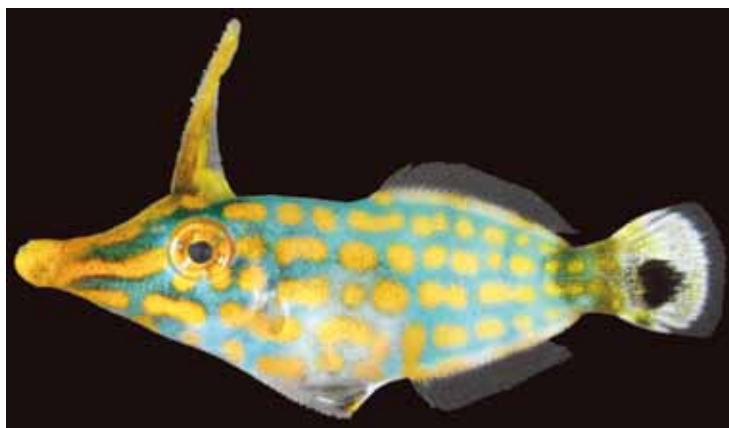
テングカワハギ

Oxymonacanthus longirostris
(Bloch & Schneider, 1801)

形態 背鰭 II+31-35；臀鰭 29-32；胸鰭 10-12。体はやや長く、強く側扁する。吻は管状になり、前方に突出する。腹部膜状部は小さく、鞘状鱗はない。

色彩 体は緑青色で、多数の細長い橙色点に覆われる。第1背鰭棘は橙色。第2背鰭、臀鰭、胸鰭は淡色。尾鰭は淡色で後部に1黒色斑がある。腹部膜状部は黒く、雄では小白色点が散在する。

分布 インド・西太平洋の熱帯域のサンゴ礁にみられる。国内では小笠原諸島、四国、琉球列島から知られている。

■ テングカワハギ *Oxymonacanthus longirostris* KAUM-I. 40350, 20.1 mm SL

備考 全長 10 cm。与論島では体長 2 cm の1個体が品覇沖の水深 3 m から採集された。サンゴ礁を2尾で泳いでいることが多い。サンゴのポリプを食べる。

(松浦啓一)

フグ目 カワハギ科 ノコギリハギ属

ノコギリハギ

Paraluteres prionurus
(Bleeker, 1851)

形態 背鰭 II+25-28；臀鰭 22-25；胸鰭 10-11。体は楕円形で、強く側扁する。第1背鰭は鰭膜で体背部に結合しているため、十分に立てることができない。腰骨後端に鞘状鱗はない。雄の尾柄には前方を向いた棘が2対あり、尾柄から第2背鰭の中央下まで剛毛帯がある。

色彩 体の地色は白く、体に4本の斜めの黒色帯がある。1番目の黒色帯は眼から背方に伸び、反対側の帯と連結する。2番目の黒色帯は胸鰭基部から背腹方向に伸長し、体背縁に向かう黒色帯の幅は広くなり、腹方に向かう黒色帯の幅は狭くなる。3番目の黒色帯は臀鰭起部の背方の体中部から背方と腹方に伸び、背方に向かう帯は幅広く、腹方に向かう帯の幅は狭い。4番目の黒色帯は臀鰭中央の背方から尾柄背部にかけてほぼ水平に走る。体側面には

■ ノコギリハギ *Paraluteres prionurus* KAUM-I. 48105, 19.8 mm SL

多数の褐色点が散在する。第1背鰭の鰭膜は黒色。第2背鰭、臀鰭、胸鰭は淡色。尾鰭は黄色く、縁辺は黒い。

分布 インド・西太平洋の熱帯域のサンゴ礁にみられる。国内では小笠原諸島、伊

豆諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 フグ科のシマキンチャクフグ *Canthigaster valentini* (Bleeker 1853) に擬態する。群は作らず、単独で行動する。与論島では1個体が採集された。

(松浦啓一)

■ コクテンハギ *Pseudomonacanthus macrurus* KAUM-I. 51413, 113.0 mm SL

フグ目 カワハギ科 コクテンハギ属

コクテンハギ

Pseudomonacanthus macrurus
(Bleeker, 1857)

形態 背鰭 II+29-30；臀鰭 27-30；胸鰭 11-12。体は楕円形で、強く側扁する。第1背鰭は眼の中央上方より後方に位置する。腹鰭は単一で、筒状を呈する小さな鞘状の鱗から構成される。鞘状鱗は2節に

分かれているが、背腹方向に動かすことはできない。鰓孔は眼の後半部下方から始まり、斜め前方に伸長し、眼の前縁下方より前で終わる。

色彩 体は淡黄褐色で多数の小黒色点に覆われる。尾鰭の基部と後端に幅広い暗褐色の横帯がある。さらに、尾鰭には多くの波状の淡黄色線が上下方向に走る。

分布 西太平洋の熱帯域のサンゴ礁内の

ラグーンや藻場の水深10 m以浅に生息する。国内では沖縄島から幼魚が採集されていた。与論島から得られた標本は本種の国内における成魚の初記録である。

備考 全長23 cm。与論島の皆田沿岸の水深1 mから体長11.3 cmの個体が採集された (Matsuura & Chiba, 2013)。コクテンハギ属の分類には問題があり、今後の検討を要する。

(松浦啓一)



■ ミナミハコフグ *Ostracion cubicus* KAUM-I. 39775, 73.0 mm SL



■ ミナミハコフグ *Ostracion cubicus*
KAUM-I. 39774, 13.3 mm SL

フグ目 ハコフグ科 ハコフグ属

ミナミハコフグ

Ostracion cubicus
Linnaeus, 1758

形態 背鰭9；臀鰭9；胸鰭10-11。体は骨板で構成される「箱」に収まっており、横断面は四角形を呈する。体の表面に棘はない。

色彩 成魚の体は淡黄褐色で、多くの骨板には黒色点があり、黒色点で囲まれた部分は白い。尾柄は黄色。幼魚の体は鮮やかな黄色で、眼よりやや小さい黒色点が多散在する。

分布 インド・太平洋の熱帯域のサンゴ礁や岩礁に生息する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、茨城県・新潟県以南の南日本、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 全長40 cmになる。サンゴ礁でごく普通にみられる。与論島では水深8 m以浅から採集された。小型甲殻類、ゴカイ類、貝類などを食べる。体の表面から粘液毒を出す。ハコフグ *O. immaculatus* Temminck & Schlegel, 1850 に似るが、色彩が異なる。ハコフグの体側面には眼径大の白色斑が多散在するが、ミナミハコフグにはない。両者の幼魚は黄色い体に多数の黒色点をもつのでよく似ている。このため両者を混同する可能性がある。しかし、



■ ミナミハコフグ *Ostracion cubicus* FRLM 42720, 42.9 mm SL



■ ミナミハコフグ *Ostracion cubicus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

ミナミハコフグの体は鮮やかな黄色である
のに対して、ハコフグの体はくすんだ黄褐色である。

(松浦啓一)



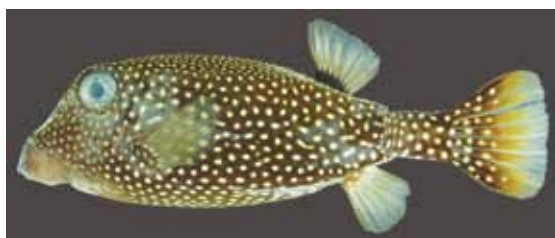
■ クロハコフグ *Ostracion meleagris* Male BSKU 106147, 92.5 mm SL



■ クロハコフグ *Ostracion meleagris* Female KAUM-I. 39987, 81.6 mm SL



■ クロハコフグ *Ostracion meleagris* Male KAUM-I. 40155, 104.0 mm SL



■ クロハコフグ *Ostracion meleagris* Female BSKU 106146, 78.2 mm SL

フグ目 ハコフグ科 ハコフグ属

クロハコフグ

Ostracion meleagris
Shaw, 1796

形態 背鰭 7-8；腎鰭 8；胸鰭 11。体は骨板で構成される「箱」に収まっており、

横断面は四角形を呈する。体の表面に棘はない。

色彩 雌雄で体色が異なる。雄の体は青く、多数の黄色点に覆われる。雌の体は暗褐色で、多数の白色点に覆われる。

分布 インド・汎太平洋の熱帯域のサンゴ

礁や岩礁に生息する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、伊豆半島以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られる。

備考 全長 18 cm になる。与論島では 9 個体が水深 3 m 以浅から採集された。皮膚から粘液毒を出す。

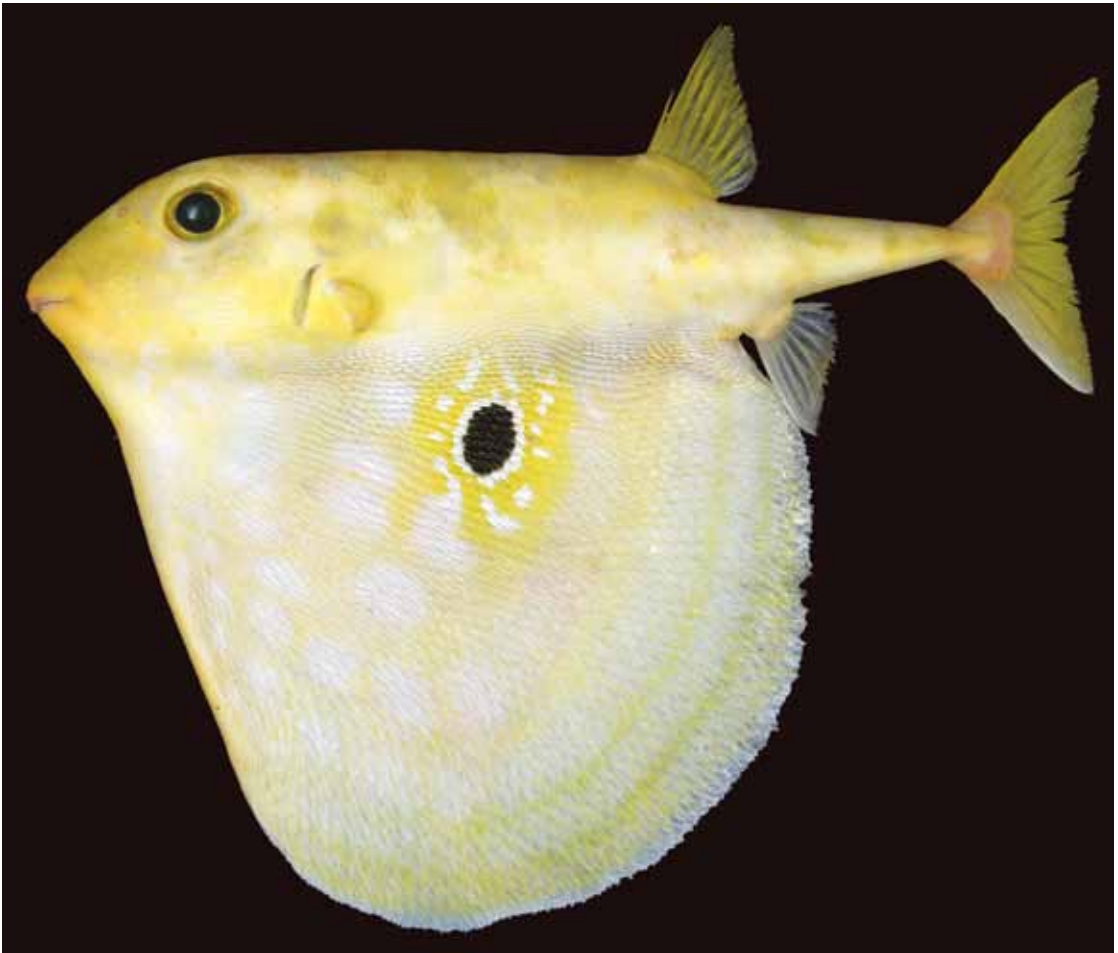
(松浦啓一)



■ クロハコフグ *Ostracion meleagris* Female 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ クロハコフグ *Ostracion meleagris* Male 16 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ ウチワフグ *Triodon macropterus* KAUM-I. 41221, 306.6 mm SL

フグ目 ウチワフグ科 ウチワフグ属

ウチワフグ

Triodon macropterus
Lesson, 1831

形態 背鰭 0 または II + 10-12 ; 臀鰭 9-10 ; 胸鰭 14-16。体はやや長く、側扁する。腹部膜状部は大きい。尾柄は細長く、

縦扁する。上顎に大きな歯板が 2 枚ある。下顎の歯板は癒合して 1 枚となっている。

色彩 体は全体として鮮黄色を呈する。背部は暗黄色で、腹部に向かって淡黄色となる。腹部膜状部に大きな眼状黒色斑がある。

分布 インド洋と西太平洋の熱帯域に生息

し、水深 100 m 以深から採集されることが多い。国内では福島県以南の太平洋沿岸、富山湾、琉球列島から知られている。

備考 全長 40 cm になる。上顎に 2 枚、下顎に 1 枚の歯板があるため *Triodon* (3 枚の歯) という属名が付いた。与論島の沖合の水深 130-250 m から 2 個体が採集された。

(松浦啓一)



■ サザナミフグ *Arothron hispidus* FRLM 42808, 43.4 mm SL



■ サザナミフグ *Arothron hispidus* KAUM-I. 48110, 23.6 mm SL



■ サザナミフグ *Arothron hispidus* 18 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

フグ目 フグ科 モヨウフグ属

サザナミフグ

Arothron hispidus
Linnaeus, 1758

形態 背鰭 10-11；臀鰭 10-11；胸鰭 16-19。体は卵形を呈する。上顎と下顎に大きな歯板が2枚ずつある。腹鰭はない。体に多数の小棘がある。鼻孔の皮弁は明

瞭に2つに分かれる。

色彩 体の背方は緑褐色で、腹方は白い。体側方と背方に多数の白色点がある。腹部には多数の暗褐色線が縦走する。尾鰭は緑褐色で、白色点が散在する。

分布 インド・汎太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、青森県以南の太平洋沿岸、九州西岸、大隅諸島、琉

球列島から記録されている。

備考 全長 45 cm。胃に大量の水を飲んで体を膨らませることができる。サンゴ礁に生息するが、河口部のマングローブ域にも出現する。群は作らない。与論島の茶花海岸の水深 1-2 m から 2 個体が採集された。貝類、ウニ類、サンゴ、海綿、クモヒトデ類、ヒトデ類、海藻など様々な餌を食べる。
(松浦啓一)

■ コクテンフグ *Arothron nigropunctatus* KAUM-I. 45865, 169.6 mm SL■ コクテンフグ *Arothron nigropunctatus* BSKU 108306, 167.4 mm SL

■ コクテンフグ *Arothron nigropunctatus* BSKU 106131, 112.7 mm SL■ コクテンフグ *Arothron nigropunctatus* KAUM-I. 39888, 183.0 mm SL

フグ目 フグ科 モヨウフグ属

コクテンフグ

Arothron nigropunctatus
(Bloch & Schneider, 1801)

形態 背鰭 10-12 (通常 10); 臀鰭 10-12 (通常 11); 胸鰭 17-20 (通常 18)。体は卵形を呈する。上顎と下顎に大きな歯板が2枚ずつある。腹鰭はない。体に多数の小棘がある。鼻孔にある皮弁は明瞭に2つに分かれる。

色彩 体の地色は暗褐色あるいは濃い灰色で、小さな黒色の斑紋をもつ個体が多いが、色彩は変化に富む。体が黄色で小さな黒色の斑紋をもつ個体もいる。

分布 インド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、神奈川県以南の太平洋沿岸、福岡県、大隅諸島、琉球列島から記録されている。

備考 全長 25 cm。胃に大量の水を飲んで体を膨らませることができる。サンゴ礁で普

通にみられる。与論島でも多くの個体が確認され、水深 10 m 以浅から 6 個体が採集された。群は作らない。貝類、ウニ類、サンゴ、海綿、海藻、デトリタスなど様々な餌を食べる。ミゾレフグ *A. meleagris* (Anonymous, 1798) にも黄色い個体がいるので、コクテンフグの黄色個体と混同される場合がある。コクテンフグでは口の周囲が黒いが、ミゾレフグの口の周囲は黒くないことで両者を識別することができる。

(松浦啓一)

■ モヨウフグ *Arothron stellatus* KAUM-I. 51417, 45.8 mm SL

フグ目 フグ科 モヨウフグ属

モヨウフグ

Arothron stellatus
(Anonymous, 1798)

形態 背鰭 11-12；臀鰭 11；胸鰭 17-20。体は卵形を呈する。上顎と下顎に大きな歯板が2枚ずつある。腹鰭はない。体に多数の小棘がある。鼻孔の皮弁は明瞭に2つに分かれる。

色彩 体は白く、多数の小黒色点に覆われる。成長によって色彩は大いに変化する。成魚では腹部は白いが、幼魚では腹部の地色は黒で、黄色や橙色の不規則な線が走る。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、新潟県・茨城県以南の南日本、琉球列島から知られている。

備考 全長 80 cm。胃に大量の水を飲んで体を膨らませることができる。サンゴ礁に生息する。与論島では幼魚が採集された。群は作らない。貝類、カニ類、ウニ類、サンゴ、海綿、海藻など様々な餌を食べる。本種の学名の著者は Bloch & Schneider (1801)とされていたが、Anonymous (1798)である (Fricke, 1999)。

(松浦啓一)

■ ゴマフキンチャクフグ *Canthigaster amboinensis* KPM-NI 30731, 76.6 mm SL

フグ目 フグ科 キタマクラ属

ゴマフキンチャクフグ

Canthigaster amboinensis
(Bleeker, 1864)

形態 背鰭 11-12；臀鰭 10-11；胸鰭 16-17 (通常 17)。上顎と下顎に大きな歯板が2枚ずつある。腹鰭はない。体はやや側扁し、眼の後ろから背鰭起部までの背中線にキール状隆起がある。吻はやや突出し、側面から見ると三角形を呈する。

色彩 体は褐色で多数の淡青色点に覆われる。眼から放射状に青色線が走る。頬に多数の褐色点や青色点がある。

分布 インド・汎太平洋に分布する。国内では伊豆諸島と琉球列島から知られている。

備考 全長 14 cm。胃に大量の水を飲んで

■ ゴマフキンチャクフグ *Canthigaster amboinensis* KAUM-I. 45980, 58.3 mm SL

て体を膨らませることができる。サンゴ礁外縁の波当たりの強い場所に生息する。与論島では茶花海岸のタイドプールと与論港

の水深 1 m から 1 個体ずつ採集された。群は作らない。サンゴ、ゴカイ類、ウニ類、クモヒトデ類など様々な餌を食べる。

(松浦啓一)



■ ハナキンチャクフグ *Canthigaster axiologus* KAUM-I. 55127, 69.6 mm SL

フグ目 フグ科 キタマクラ属

ハナキンチャクフグ

Canthigaster axiologus
Whitley, 1931

形態 背鰭 9-10 (通常 10); 臀鰭 9-10 (通常 9); 胸鰭 16-17 (通常 17)。上顎と下顎に大きな歯板が 2 枚ずつある。腹鰭はない。体はやや側扁し、眼の後ろから背鰭起部までの背中線にキール状隆起がある。吻はやや突出し、側面から見ると三角形を呈する。

色彩 体は白く、4 本の黒色帯が背部を横切る。1 番目の横帯は後頭部にあり、2 番目の横帯は鰓孔の背方から鰓孔下端にかけて走り、3 番目の横帯は背鰭基部の前半部から体側面の中部に達する。最後の横帯は尾柄背面から斜め前方に走り、体側面の中部に達する。これらの横帯は橙黄色や淡青色の点や短い線で交互に縁取られる。橙黄色や淡青色の点が下顎から尾柄腹部までの体側面に並び、縦列を形



■ ハナキンチャクフグ *Canthigaster axiologus* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki

成する。吻の背部は淡褐色で、橙黄色点が散在する。眼の周縁は淡青色線で縁取られる。短い橙黄色線と淡青色線が、眼から放射状に走る。尾鰭は淡黄色で、背縁と腹縁は黒褐色。尾鰭中央の鰭条には淡黄色点が数個散在する。

分布 西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 全長 14 cm になる。通常、サンゴ礁外縁部の水深 10-20 m でみられる。与論島では前浜沖の水深 12-15 m から 1 個体が採集された。雑食性で、海綿、貝類、カニ類、クモヒトデ類、海藻などを食べる。本種に対して *C. coronata* (Vaillant & Sauvage, 1875) という学名が用いられていたが、*C. coronata* はハワイ固有種である (Randall et al., 2008)。

(松浦啓一)

フグ目 フグ科 キタマクラ属

シボリキンチャクフグ

Canthigaster janthinoptera
(Bleeker, 1855)

形態 背鰭 9-10 (通常 9); 臀鰭 9-10 (通常 9); 胸鰭 16-18 (通常 17)。上顎と下顎に大きな歯板が 2 枚ずつある。腹鰭はない。体はやや側扁し、眼の後ろから背鰭起部までの背中線にキール状の隆起がある。吻はやや突出し、側面から見ると三角形を呈する。



■ シボリキンチャクフグ *Canthigaster janthinoptera* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ シボリキンチャクフグ *Canthigaster janthinopectus* KAUM-I. 39873, 54.1 mm SL



■ シボリキンチャクフグ *Canthigaster janthinopectus* KAUM-I. 50827, 49.1 mm SL



■ シボリキンチャクフグ *Canthigaster janthinopectus* BSKU 106135, 51.0 mm SL



■ シボリキンチャクフグ *Canthigaster janthinopectus* KAUM-I. 51332, 24.2 mm SL

色彩 体は褐色で多数の小白色点に覆われる。眼から放射状に10本前後の淡青色線が走る。

分布 インド・太平洋（東はピトケアン諸島

まで）の熱帯域に分布する。1個体がガラパゴス諸島から得られている。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、神奈川県、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 全長10 cmになる。与論島では多くの個体が確認され、水深1–10 mから5個体が採集された。水深10–20 mにすることが多い。

（松浦啓一）



■ シマキンチャクフグ *Canthigaster valentini* FRLM 43362, 93.2 mm SL

フグ目 フグ科 キタマクラ属

シマキンチャクフグ

Canthigaster valentini
(Bleeker, 1853)

形態 背鰭9；臀鰭9；胸鰭16–17（通常17）。上顎と下顎に大きな歯板が2枚ずつある。腹鰭はない。体はやや側扁し、眼の後ろから背鰭起部までの背中線上にキール状の隆起がある。吻はやや突出し、側面から見ると三角形を呈する。

色彩 体は白く、4本の黒色帯が背方を横切る。最前部の横帯は後頭部にあり、2番目の横帯は胸鰭上部にある。3番目の横帯は背鰭起部を包む。最後の横帯は尾柄背面にある。2番目と3番目の横帯は体腹部に達する。

分布 インド・太平洋（東はトウアモトウ諸島まで）の熱帯域に分布する。国内では小笠原諸島、伊豆諸島、相模湾以南の太平洋沿岸、大隅諸島、琉球列島から知られている。

備考 全長11 cmになる。与論島では多くの個体が確認され、水深15 m以下から7個体が採集された。

（松浦啓一）



■ シマキンチャクフグ *Canthigaster valentini* KAUM-I. 40337, 79.6 mm SL



■ シマキンチャクフグ *Canthigaster valentini* KAUM-I. 39776, 55.9 mm SL



■ シマキンチャクフグ *Canthigaster valentini* 15 Apr. 2012 Photo by S. Harazaki



■ オキナワフグ *Chelonodon patoca* KAUM-I. 39849, 86.1 mm SL

フグ目 フグ科 オキナワフグ属

オキナワフグ

Chelonodon patoca
(Hamilton, 1822)

形態 背鰭 8；臀鰭 8；胸鰭 15-16。体は長楕円形を呈する。上顎と下顎に大きな歯板が2枚ずつある。腹鰭はない。鼻孔の前縁と後縁に三角形の皮弁がある。

色彩 体背部は淡褐色で、多数の白色点に覆われる。体腹部は白い。体側下部を1黄色縦線が眼下から尾柄下部に走る。

分布 インド・西太平洋に分布する。国内では小笠原諸島、紀伊半島、琉球列島から知られている。

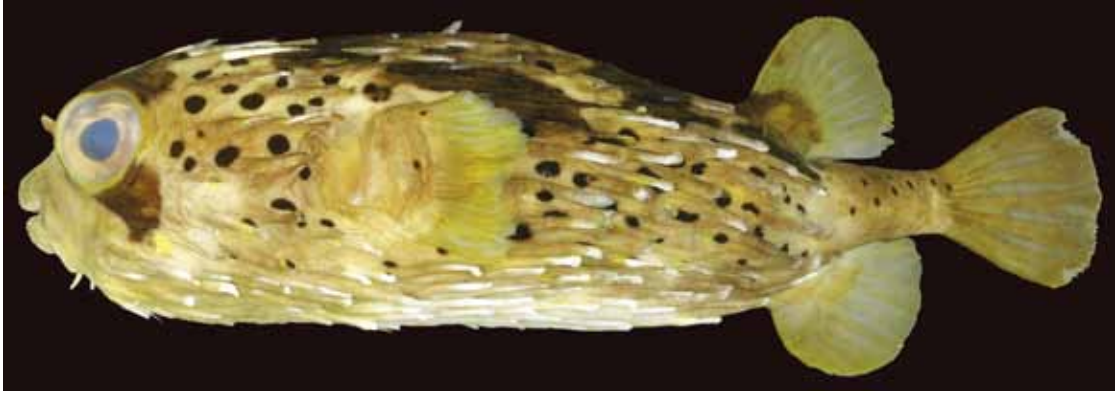


■ オキナワフグ *Chelonodon patoca* KAUM-I. 39848, 40.9 mm SL

備考 全長 30 cm になる。マングローブが

は茶花海岸の水深 1 m 以浅から 3 個体が採集された。

(松浦啓一)

■ハリセンボン *Diodon holocanthus* KAUM-I. 40322, 180.5 mm SL

フグ目ハリセンボン科ハリセンボン属

ハリセンボン

Diodon holocanthus
Linnaeus, 1758

形態 背鰭 13-15；臀鰭 13-15；胸鰭 20-25。上顎と下顎に大きな歯板が1枚ずつある。腹鰭はない。体に多数の長くて、鋭い棘がある。棘は立てることができる。吻

から背鰭起部までの棘は12-16横列を形成する。

色彩 体の背方は淡褐色で、腹方は白い。体に多数の小黒色点があるが、鰭には黒色点がない。眼を横切る褐色の横帯がある。鰓孔直前の背部に1褐色横帯がある。胸鰭の背方に褐色の斑紋がある。背鰭の直前にも褐色斑紋がある。

分布 全世界の温帯・熱帯の浅海に分布

する。国内でも北海道から琉球列島まで広く分布する。

備考 与論島では茶花海岸の水深3mで浅から2個体が採集された。胃に大量の水を飲んで体を膨らませ、棘を立てることができる。ヒトヅラハリセンボン *D. liturosus* Shaw, 1804 に似るが、ハリセンボンには鰓孔の直前の側面に褐色の横帯がないので区別できる。

(松浦啓一)

■ヒトヅラハリセンボン *Diodon liturosus* KAUM-I. 47894, 259.9 mm SL

フグ目ハリセンボン科ハリセンボン属

ヒトヅラハリセンボン

Diodon liturosus
Shaw, 1804

形態 背鰭 14-16；臀鰭 14-16；胸鰭 21-25。上顎と下顎に大きな歯板が1枚ずつある。腹鰭はない。体に多数の長くて、鋭い棘がある。棘は立てることができる。吻から背鰭起部までの棘は16-21横列を形成する。

色彩 体の背方は褐色で、腹方は白い。眼の下に白く縁取られた黒色横帯がある。鰓孔の直前の鰓蓋に白く縁取られた黒色斑がある。この黒色斑の上方の体背面に白く縁取られた黒色横帯がある。胸鰭の背方に白く縁取られた大きな黒色斑がある。背鰭前方の体背面と背鰭基部にそれぞれ白く縁取られた大きな黒色斑がある。鰭に黒色点はない。

分布 ハワイ諸島を除くインド・太平洋に分

布する。国内では小笠原諸島、青森県、富山湾、和歌山県、琉球列島から記録されている。

備考 与論島では茶花海岸と宇勝海岸の水深2mからそれぞれ1個体が採集された。胃に大量の水を飲んで体を膨らませ、棘を立てることができる。サンゴ礁、砂地、礫底、岩礁域に生息する。貝類、ウニ類、甲殻類などを食べる。

(松浦啓一)



与論島における魚類の名称は代々口頭伝承されている。特殊な発音を文字として記すのは困難であるが、なるべく発音に忠実に文字で表記した。多くの魚で科や属レベルの総称のみが使用されているが、一部の種（特に水産上重要種）には固有の呼称がある。すでに語源が不明な呼称も多いが、分かる範囲で備考欄に意味と由来を記した。メギス科やハゼ科など多くの小型魚には呼称がない。与論における呼称とその意味は与論町の原田洋和氏と与論町漁業協同組合の方々の知見に基づく。

本書に掲載された魚類の与論における呼称一覧

標準和名(科名・属名・種名)	与論名	備考
ヌタウナギ科	うなぎ	
アイザメ科	あいざめ	
カラスザメ科・オンデンザメ科	くろぶか	深海性の黒色のサメの総称。小型の個体は(くろぶかか)と呼ぶ
ウツボ科	うなぎ	
クモウツボ・ゴマウツボ・ハワイウツボ・ミナミウツボ・ワカウツボ	うじうなぎ	黄色味を帯びた地色に褐色の「もじゃもじゃした」模様のウツボの呼称
ニシン科		
ヤマトミズン・ホシヤマトミズン・ミズン	みじゅん	
リュウキュウキビナゴ	するる	
サバヒー科	さばひー	
ゴンズイ科	ふぐ	
エソ科	をういしちや	
ハダカイワシ科	はだかいわし	
ギンメダイ科	ぎんめ	
カクレウオ科	しっきーぬくわあ	「ナマコ(しっきー)の子供」の意
ボラ科	ぶら	
トビウオ科	とうびゅー	
サヨリ科	うわーぐちきらー	ダツに似ているが「上の口が切られている」の意
マルサヨリ	あみゅー	
ダツ科	しじー	
キンメダイ科		
ナンヨウキンメ	あーみんたま	「赤い(あー) + 目玉(みんたま)」の意
キンメダイ	ながみんたま	「体高が低いキンメダイ」の意。「長い目玉」ではない。
イトウダイ科		
アカマツカサ属・イトウダイ属	あひょー	
アオスジエビス	まじる	
ウケグチイトウダイ属	ばまひょー	
ヨウジウオ科		
タツノオトシゴ属	たつのおとしご	
ヘラヤガラ科	ばいぶき	「ばい」はパイプが語源の可能性が高い
ヤガラ科	みだふ	
フサカサゴ科		
ミノカサゴ亜科	みょー	
オニカサゴ属・オニオコゼ科	あふあ	
メバル科		
ユメカサゴ	あらかぶ	鹿児島での呼称をそのまま使用
ハタ科		
アオノメハタ	がらしみーばい	
アザハタ	あーば	
ミナミイソハタ	にーばい	
ニジハタ	あーみ	
マハタ属	にーばい	
アカハタ	しるっちゃ	
カンモンハタ	いのーにーばい	(いのー)は「リーフの内側」の意味
スジアラ	あーでいん	
キントキダイ科		
チカメキントキ	ちょうちん・いきくさらー	口腔内が臭いため
ゴマヒレキントキ	あひょー・いーきぐまー	「鱗(いーき) + 細かい(ぐまー)」の意
アカネキントキ・ホウセキキントキ	いきくさらー	口腔内が臭いため
オキナワクルマダイ	あひょー	
テンジクダイ科	みーぶつくら	「眼がふつくらした」の意
ムツ科	みゃーぬばー	「猫の歯」の意
シイラ科	びゅーぬいゅー	「平べったい魚」の意

本書に掲載された魚類の与論における呼称一覧（つづき）

標準和名（科名・属名・種名）	与論名	備考
アジ科	さじ	
クサヤモロ	ながいゆー	
ツムフリ	やまとうながいゆー	
オキアジ	ゆなだい	ヌルヌルの粘液を指す
シマガツオ科	つばめ・はたぎゃー	「はたぎゃー」はハタンボ科の呼称でもある。シマガツオ科は30年ほど前から漁獲が始まった“最近の魚”であるため、古来からの呼称がなく、形態の似た？ハタンボの呼称を流用
ハチビキ科	あかぼう	
フエダイ科		
イシフエダイ	さいなが	
バラフエダイ	あかなー・あーな	
ヒメフエダイ	みみじゃー	
ヨスジフエダイ	やまとういゆー	
イッテンフエダイ	いってんふえだい・いなふく	
アオダイ	おーみ	（おー）は「青」の意味
ハナフエダイ	あほーみ	
オオヒメ	しらまち	
ヒメダイ	しろーみ	
タカサゴ科	むれーじ	
ウメイロモドキ	あかじゅー	
イサキ科		
チョウチョウコシヨウダイ・アジアカシヨウダイ	ていんなが	
フエフキダイ科		
ノコギリダイ	むちんか	
シロダイ・サザナミダイ	ばんた	
ナガメイチ	さーみばんた	
ハマフエフキ	たまん	白みの強い小型個体は「しるたまん」と呼ぶ
タテシマフエフキ	やきたまん	
ホオアカクチビ・ムネアカクチビ	うんなが・うむながー	「面長」の意
ヨコシマクロダイ	だるまー	
タイ科		
キビレアカレンコ	れんこだい	
ヒメジ科	はたーし	
ホウライヒメジ	あまん	ヤドカリのことも「あまん」と呼ぶが、関係は不明
コバンヒメジ・オジサン	だふみ	
ハタンボ科	はたぎゃー	
イスズミ科	ばば	
メジナ科	しばち	
チョウチョウウオ科・キンチャクダイ科	さびちら	ただし、アカハラヤッコ、スマレヤッコ、トサヤッコ、ナメラヤッコ、ヒレナガヤッコ、ヘラルドコガネヤッコ、ヤイトヤッコは「さびちら」と呼ばない
カワビシャ科		
ツボダイ	さびちら	30年ほど前から漁獲され始めた魚。形態の似ている？キンチャクダイから命名された
イシダイ科		
イシガキダイ	いしがきだい	
スズメダイ科	びき	
シチセンスズメダイ・ロクセンスズメダイ・シマスズメダイ・オヤビッチャ	いやびき	「いや」は「綾（模様）の意」がなまったもの。
クラカオスズメダイ・ナミスズメダイ・デバスズメダイ	うるぬくあー	枝サングに隠れるスズメダイ科の総称
アマミスズメダイ・シコクスズメダイ・モンクスズメダイ	どーすーびき	「尾（どー）+白（すー）+スズメダイ（びき）」の意
ミスジリュウキュウスズメダイ	しろくろうるぬくあー・しましうるぬくあー	

本書に掲載された魚類の与論における呼称一覧（つづき）

標準和名（科名・属名・種名）	与論名	備考
ペラ科		
カンムリペラ	なべーら	
ホンペラ属・ノドグロペラ属・ カミナリペラ属・ニシキペラ属	くさび	細長いペラ類の総称
トカラペラ	すーくさび	「白い（すー）+ペラ（くさび）」の意
ミツボシキュウセン	さーくさび	「砂（さー）+ペラ（くさび）」の意
ヤマブキペラ	きんくさび	「黄色（きん）+ペラ（くさび）」の意
ブダイ科	いらぶち	
ヒブダイ	やしな	
スジブダイ（オス）	かまチャー	
トラギス科	わにぶ	
イソギンボク科	うまぬばな	正面から見た顔が馬の鼻に見えることに由来
マンジュウダイ科		
ナンヨウツバメウオ	ぼーびちゃ	
アイゴ科	あいなー	
セダカハナアイゴ・ハナアイゴ	あい	
ツノダシ科	ぼーびちゃ	
ニザダイ科		
シマハギ	にーむし	
オスジクロハギ・ナガニザ・クログチニザ・ メガネクロハギ・コクテンサザナミハギ・あーばた サザナミハギ		
モンツキハギ	みんばたあー・あーばた	「胸鰭（みんばた）+赤い（あー）」の意
ニジハギ	たちぐすく	
クロハギ・オハグロハギ・ゴマハギ・ ヒレナガハギ・キイロハギ	ぶしく	
テングハギ	ちぬまる	「角（ちぬ）+とがっていない（まる）」の意
ミヤコテングハギ	きんちる	「黄色（きん）+角（ちる）」の意
キビレボウズハギ	わじし	
トサカハギ	とうかじゃー	
カマス科	はまし	
小型のカマス属	まーがまし	「真の（まー）+カマス（がまし）」の意
クロタチカマス科	くるがまし	「黒（くる）+カマス（がまし）」の意
タチウオ科		
オキナワオオタチ	おーるばた	
サバ科		
カマスサワラ	そーら	サワラが訛ったもの
イソマグロ	とうかきん	
カツオ	かち	
ゴマサバ	さば	
キハダ	しび	市場では 10 kg 未満のものを「しび」、それ以上のものを「まぐる」と呼ぶ
カレイ目	びびき	
モンガラカワハギ科	ぶっくるび	
イトヒキオキハギ	ゆしちやぶっくるび	
モンガラカワハギ	なるかんぶっくるび	「カボチャ（なるかん）+モンガラカワハギ（ぶっくるび）」の意
クロモンガラ	どーすーぶっくるび	「尾（どー）+白い（すー）+モンガラカワハギ（ぶっくるび）」の意
アカモンガラ	ばにぶっくるび	
ムラサメモンガラ・クラカケモンガラ・ タスキモンガラ	さーぶっくるび	「砂（さー）+モンガラカワハギ（ぶっくるび）」の意
メガネハギ	うむながぶっくるび	「面長な（うむなが）+モンガラカワハギ（ぶっくるび）」の意
ハコフグ科	ばふ	「箱（ばふ）」の意
フグ科		
ウチワフグ	おーぎぶっくるび	
オキナワフグ	びじし	
ハリセンボン科		
ハリセンボン	せんぼんばり	

- 藍澤正宏・土居内龍. 2013. ムネエソ科. 中坊徹次(編), pp. 374-380, 1836-1838. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目. 中坊徹次(編), pp. 1347-1608, 2109-2211. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 明仁親王・林 公義・吉野哲夫・島田和彦・山本隆司・瀬能 宏. 1984. ハゼ亜目. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫(編), pp. 228-276, pls. 235-258, 353-355. 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 明仁親王・目黒勝介. 1980. 日本で採集されたクモハゼ属 *Bathygobius* 6種について. 魚類学雑誌, 27: 215-236.
- Allen, G. R. & J. E. Randall. 2002. Four new Indo-Pacific species of cardinalfishes (Apogonidae). *Aqua, J. Ichthyol.*, 5: 115-126.
- Anonymous. 1798. Paris b. Plassan: Histoire naturelle des poissons par le Cit. La Cepède, etc. (Beschluss der im vorigen Stücke abgebrochenen Recension). *Allgemeine Literatur-Zeitung*, 3 (288): 681-685.
- 青沼佳方・柳下直己. 2013. ニシン科. 中坊徹次(編), pp. 297-301, 1811-1812. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Aoyagi, H. 1943. Coral fishes. Part 1. Maruzen, Tokyo. viii + xii + 224 pp.
- Aoyagi, H. 1949. Studies on the coral fishes of the Riu-Kiu Islands. Notes on gobioid fishes of Riu Kiu Islands. *Dobutsugaku Zasshi*, 58: 171-173.
- Bath, H. 1992. Revision der Gattung *Praealticus* Schultz & Chapman 1960 (Pisces: Blenniidae). *Senck. Biol.*, 72: 237-316.
- Bath, H. 2004. Revision of the genus *Rhabdoblennius* Whitley (Pisces: Blenniidae: Salariae), with descriptions of two new species. *Stuttg. Beitr. Naturk., Ser. A (Biol.)*, (669): 1-26.
- Bellwood, D. R. & J. H. Choat. 1989. A description of the juvenile phase colour patterns of 24 parrotfish species (family Scaridae) from the Great Barrier Reef, Australia. *Rec. Aust. Mus.*, 41: 1-41.
- Bloch, M. E. & J. G. Schneider. 1801. M. E. Blochii, *Systema Ichthyologiae Iconibus ex Illustratum*. Post obitum auctoris opus inchoatum absolvit, correxit, interpolavit Jo. Gottlob Schneider, Saxo. Berolini, Berlin. i-ix + 1-584.
- Böhlke, E. B. & J. E. Randall. 2000. A review of the moray eels (Anguilliformes: Muraenidae) of the Hawaiian Islands, with descriptions of two new species. *Proc. Acad. Nat. Sci. Phila.*, 150: 203-278.
- Carpenter, K. E. 1988. FAO species catalogue. Vol. 8. Fusilier fishes of the world. An annotated and illustrated catalogue of caesionid species known to date. FAO Fisheries Synopsis No. 125, 8: i-iv + 1-75.
- Carvalho-Filho, A., G. Marcovaldi, C. L. S. Sampaio, M. I. G. Paiva & L. A. G. Duarte. 2009. First report of rare pomfrets (Teleostei, Bramidae) from Brazilian waters, with a key to western Atlantic species. *Zootaxa*, 2290: 1-26.
- Chiang, M.-C. & I.-S. Chen. 2008. Taxonomic review and molecular phylogeny of the triplefin genus *Enneapterygius* (Teleostei: Tripterygiidae) from Taiwan, with description of two new species. *Raffles Bull. Zool., Suppl.*, (19): 183-201.
- Dawson, C. E. 1985. Indo-Pacific pipefishes (Red Sea to the Americas). *Gulf Coast Res. Lab., Ocean Springs*. vi + 230 pp.
- Ebert, D. A., L. J. V. Compagno & M. J. De Vries. 2011. A new lanternshark (Squaliformes: Etmopteridae: *Etmopterus*) from southern Africa. *Copeia*, 2011: 379-384.
- Endo, H., E. Katayama, M. Miyake & K. Watase. 2010. New records of a triplefin, *Enneapterygius leucopunctatus*, from southern Japan (Perciformes: Tripterygiidae). Pages 9-16 in Motomura, H. & K. Matsuura, eds. *Fishes of Yaku-shima island - A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan*. *Natl. Mus. Nat. Sci.*, Tokyo.
- Eschmeyer, W. N. (ed.). 2013. Catalog of fishes, online version (updated 5 August 2013). *Calif. Acad. Sci.*, San Francisco: <http://research.calacademy.org/research/ichthyology/catalog/fishcatmain.asp>
- Fraser, T. H. & J. E. Randall. 2008. Two new species of *Foa* (Apogonidae) from the Pacific Plate, with redescrptions of *Foa brachygrana* and *Foa fo*. *Zootaxa*, 2988: 1-27.
- Fricke, R. 1994. Tripterygiid fishes of Australia, New Zealand and the southwest Pacific Ocean (Teleostei). *Koeltz Scientific Books, Königstein*. ix + 585 pp.
- Fricke, R. 1997. Tripterygiid fishes of western and central Pacific with descriptions of 15 new species, include an annotated checklist of world Tripterygiidae (Teleostei). *Koeltz Scientific Books, Königstein*. ix + 607 pp.
- Fricke, R. 1999. Fishes of the Mascarene Islands (Réunion, Mauritius, Rodriguez). An annotated checklist with descriptions of new species. *Koeltz Scientific Books, Königstein*. viii + 759 pp.
- Fricke, R. 2009. Systematics of the Tripterygiidae (triplefins). Pages 31-67 in Patzner, R. A., E. J. Gonçalves, P. A. Hastings & B. G. Kapoor, eds. *The Biology of Blennies*. Science Publishers, Enfield.
- 藤井英一. 1984. ムネエソ科. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫(編), p. 137, pl. 349. 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- Gill, A. C. & D. F. Hoese. 2004. Three new Australian species of the fish genus *Xenisthmus* (Gobioidi: Xenisthmidae). *Rec. Aust. Mus.*, 56: 241-246.
- Greenfield, D. W. & J. E. Randall. 2010. Four new gobiid fishes of the genus *Eviota* from the western Pacific, with clarification of *Eviota guttata* and *Eviota albolineata* (Teleostei: Gobiidae). *Proc. Calif. Acad. Sci.*, 61: 269-289.
- Harold, A. S. 1994. A taxonomic revision of the sternoptychid genus *Polyipnus* (Teleostei: Stomiiformes) with an analysis of phylogenetic relationships. *Bull. Mar. Sci.*, 54: 428-534.
- Hatooka, K. 1988. New record of the moray *Gymnothorax pindae* from the Amami Islands, Japan. *Japan. J. Ichthyol.*, 35: 87-89.
- 波戸岡清峰. 2000. ツノザメ科. 中坊徹次(編), pp. 155-156, 1445. 日本産魚類検索 全種の同定 第2版. 東海大学出版会, 東京.

- 波戸岡清峰. 2000. ハタンボ科. 中坊徹次(編), pp. 878–880, 1570–1571. 日本産魚類検索 全種の同定 第2版. 東海大学出版会, 東京.
- 波戸岡清峰. 2013. ハリガネウミヘビ科. 中坊徹次(編), pp. 241, 1784–1785. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 波戸岡清峰. 2013. ウツボ科. 中坊徹次(編), pp. 244–261, 1786–1792. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 波戸岡清峰. 2013. アナゴ科. 中坊徹次(編), pp. 279–287, 1802–1806. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 波戸岡清峰・柳下直己. 2013. ハタンボ科. 中坊徹次(編), pp. 983–984, 2020–2021. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 波戸岡清峰・柳下直己・山口敦子. 2013b. カラスザメ科. 中坊徹次(編), pp. 183–185, 1764–1765. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 波戸岡清峰・山口敦子・柳下直己. 2013a. ツノザメ科. 中坊徹次(編), pp. 194–196, 1767–1768. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義. 2013. テンジクダイ科. 中坊徹次(編), pp. 826–864, 1979–1986. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・藍澤正宏・伊藤 孝・新井良一. 1990. 奄美大島の海産ハゼ科魚類相. 国立科学博物館専報, (23): 123–149.
- Heemstra, P. C. & J. E. Randall. 1977. A revision of the Emmelichthyidae (Pisces: Perciformes). Aust. J. Mar. Freshwater Res., 28: 361–396.
- Heemstra, P. C. & J. E. Randall. 1993. FAO species catalogue. Vol. 16. Groupers of the world (family Serranidae, subfamily Epinephelinae). An annotated and illustrated catalogue of the grouper, rockcod, hind, coral grouper and lyretail species known to date. FAO Fisheries Synopsis No. 125, 16: i–viii + 1–382.
- Hensley, D. A. 2005. Revision of the genus *Asterorhombus* (Pleuronectiformes: Bothidae). Copeia, 2005: 445–460.
- Herler, J., S. V. Bogorodsky & T. Suzuki. 2013. Four new species of coral gobies (Teleostei: Gobiidae: *Gobiodon*), with comments on their relationships within the genus. Zootaxa, 3709: 301–329.
- Herre, A. W. C. T. 1927. Gobies of the Philippines and the China Sea. Bureau Sci. Manila Monogr., 23: 1–352.
- 日比野友亮・木村清志. 2013. イワアナゴ科クロヒゲイワアナゴ *Kaupichthys atronasus* およびイワアナゴ *Kaupichthys japonicus* の日本沿岸からの記録. 日本生物地理学会会報, 68: 107–111.
- 日比野友亮・本村浩之・木村清志. 2013. 鹿児島県与論島から得られた日本初記録のホムラトラギス(新称) *Parapercis randalli*. 魚類学雑誌, 60: 129–134.
- Hoese, D. F. & H. K. Larson. 1994. Revision of the Indo-Pacific gobiid fish genus *Valenciennea*, with descriptions of seven new species. Indo-Pac. Fishes, (23): 1–71.
- Hoese, D. F., R. Winterbottom & S. Reader. 2011. *Trimma maiandros*, a new species of pygmy goby (Gobiidae) from the Indo-West Pacific. Aqua, J. Ichthyol. Aquatic Biol., 17: 103–110.
- 井田 齊. 2009. チョウチウウオ科. 岡村 収・尼岡邦夫(編), pp. 382–401. 日本の海水魚 第3版. 山と溪谷社, 東京.
- Iwatsubo, H. & H. Motomura. 2013. Redescription of *Chromis notata* (Temminck and Schlegel, 1843) and *C. kennensis* Whitley, 1964 with the description of a new species of *Chromis* (Perciformes: Pomacentridae). Species Diversity, 18: 193–213.
- Jewett, S. L. & E. A. Lachner. 1983. Seven new species of the Indo-Pacific genus *Eviota* (Pisces: Gobiidae). Proc. Biol. Soc. Washington, 96: 780–806.
- 片山正夫. 1998. ヌノサラン科. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫(編), p. 135. 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 加藤昌一. 2011. ネイチャーウォッチングガイドブック 海水魚〜ひと目で特徴がわかる図解付き〜. 誠文堂新光社, 東京. 303 pp.
- 岸本浩和. 1997. ブダイ科. 岡村 収・尼岡邦夫(編), pp. 520–535. 日本の海水魚 山と溪谷社, 東京.
- Koeda, K., H. Imai, T. Yoshino & K. Tachihara. 2010. First and northernmost record of *Pempheris oualensis* (Pempheridae), from Ryukyu Archipelago, Japan. Biogeography, 12: 71–75.
- 小枝圭太・吉野哲夫・立原一憲. 2013. リュウキュウハタンボの識別的特徴と用いるべき学名. 魚類学雑誌, 60: 123–128.
- 小西英人. 2011. 釣り人のための遊遊さかなシリーズ 釣魚1400種図鑑 海水魚・淡水魚 完全見分けガイド. 株式会社エンターブレイン, 東京. 541 pp.
- Kotlyar, A. N. 1992. A new species of the genus *Polymixia* from the submarine Kyushu-Palau Ridge, and on other representatives of the genus (Polymixiidae, Beryciformes). J. Ichthyol., 33: 30–49.
- Kovačić, M. & S. V. Bogorodsky. 2013. Two new species of *Cabillus* (Perciformes: Gobiidae) and the first record of *Cabillus macrophthalmus* from the western Indian Ocean. Zootaxa, 3717: 179–194.
- Kuiter, R. H., 2012. Labridae fishes: wrasses. Second edition. Aquatic Photographics, Seaford. 398 pp.
- Lachner, E. A. & S. J. Karnella. 1980. Fishes of the Indo-Pacific genus *Eviota* with descriptions of eight new species (Teleostei: Gobiidae). Smithsonian Contrib. Zool., (315): i–iii + 1–127.
- Larson, H. K. 1983. Notes on the biology of the goby *Kelloggella cardinalis* (Jordan & Seale). Micronesica, 19 (1–2): 157–164.
- Larson, H. K. 1990. A revision of the commensal gobiid genera *Pleurosicya* and *Luposicya* (Gobiidae), with descriptions of eight new species of *Pleurosicya* and discussion of related genera. Beagle, Rec. Northern Territory Mus. Arts Sci., 7: 1–53.
- Larson, H. K. & D. J. Buckle. 2012. A revision of the goby genus *Gnatholepis* Bleeker (Teleostei, Gobiidae, Gobionellinae), with description of a new species. Zootaxa, 3529: 1–69.
- Last, P. R. & J. D. Stevens. 2009. Sharks and rays of Australia. Second edition. CSIRO Publishing, Collingwood. x + 644 pp.

- Lee, S.-C. 1990. A revision of the serranid fish (family Serranidae) of Taiwan. *J. Taiwan Mus.*, 43 (2): 1-72.
- Mabuchi, K., N. Okuda & M. Nishida. 2004. Genetic differentiation between two color morphs of *Apogon taeniphorus* from southern Japan. *Ichthyol. Res.*, 51: 180-183.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚初版. 東海大学出版会, 東京, 379 pp.
- 松沼瑞樹・瀬能 宏・本村浩之. 2013. 琉球列島から得られた日本初記録のヨウジウオ科ヒメトゲウミヤッコ (新称) *Halicampus spinirostris*. *魚類学雑誌*, 60: 157-161.
- Matsuura, K. & S. N. Chiba. 2013. First record of the filefish, *Pseudomonacanthus macrurus* (Bleeker, 1856), from Yoron-jima Island, Ryukyu Islands (Actinopterygii, Tetraodontiformes, Monacanthidae). *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A*, 39: 211-213.
- Matsuura, K. & H. Tachikawa. 1994. Fishes washed up on beaches in Chichi-jima, Ogasawara Island. *Bull. Natl. Sci. Mus., Ser. A, Zool.*, 20: 131-147.
- McCosker, J. E. & R. H. Rosenblatt. 1975. The moray eels (Pisces: Muraenidae) of the Galapagos Islands, with new records and synonymies of extralimital species. *Proc. Calif. Acad. Sci. Ser. 4*, 40: 417-427.
- Meléndez, C. R. & D. F. Markle. 1997. Phylogeny and zoogeography of *Laemonema* and *Guttigadus* (Pisces; Gadiformes; Moridae). *Bull. Mar. Sci.*, 61: 593-670.
- Miyahara, H. & O. Okamura. 1997. *Erythrocles microceps*, a new emmelichthyid fish from Kochi, Japan. *Ichthyol. Res.*, 45: 85-88.
- Møller, P. R. & W. Schwarzhans. 2008. Review of the Dinematichthyini (Teleostei: Bythitidae) of the Indo-Pacific. Part IV. *Dinematichthys* and two new genera with descriptions of nine new species. *Beagle, Rec. Northern Territory Mus. Arts Sci.*, 24: 87-146.
- Moteki, M. 2005. Distinctive characters between *Eumegistus brevorti* (Poey, 1860) and *Eumegistus illustris* Jordan and Jordan, 1922 (Perciformes: Bramidae). *Ichthyol. Res.*, 52: 202-203.
- 本村浩之 (編). 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 70 pp.
- Motomura, H., P. Béarez & R. Causse. 2011. Review of Indo-Pacific specimens of the subfamily Scorpaeninae (Scorpaenidae), deposited in the Museum national d'Histoire naturelle, Paris, with description of a new species of *Neomerinthe*. *Cybio*, 35: 55-73.
- 本村浩之・羽田慎一・古田和彦・松浦啓一 (編). 2013. 鹿児島県三島村一 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば, 390 pp.
- 本村浩之・橋本 司・西山一彦. 2012. 奄美大島沖から得られたベラ科魚類 *Oxycheilinus orientalis* カタグロホホスジモチノウオ (新称) の記録および日本における分布と生息の状況. *日本生物地理学会会報*, 67: 75-80.
- Motomura, H. & S. Ishikawa. 2013. Fish collection building and procedures manual. English edition. Kagoshima Univ. Mus., Kagoshima and Res. Inst. Humanity Nat., Kyoto. 70 pp.
- Motomura, H., Y. Sakurai, H. Senou & H.-C. Ho. 2009. Morphological comparisons of the Indo-West Pacific scorpionfish, *Parascorpaena aurita*, with a closely related species, *P. picta*, with first records of *P. aurita* from East Asia (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). *Zootaxa*, 2191: 41-57.
- 本村浩之・吉野哲夫・高村直人. 2004. 日本産フサカサゴ科オニカサゴ属魚類 (Scorpaenidae: Scorpaenopsis) の分類学的検討. *魚類学雑誌*, 51: 89-115.
- 中坊徹次. 1993. フサカサゴ科. 中坊徹次 (編), pp. 491-518, 1295-1298. 日本産魚類検索 全種の同定初版. 東海大学出版会, 東京.
- 中坊徹次. 2000. フサカサゴ科. 中坊徹次 (編), pp. 565-595, 1524-1528. 日本産魚類検索 全種の同定第2版. 東海大学出版会, 東京.
- 中坊徹次・土居内龍. 2013. タチウオ科・サバ科. 中坊徹次 (編), pp. 1644-1654, 2221-2224. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中坊徹次・土居内龍. 2013. ダルマガレイ科. 中坊徹次 (編), pp. 1662-1674, 2227-2229. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中坊徹次・土居内龍. 2013. ササウシノシタ科. 中坊徹次 (編), pp. 2231-2233. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. ハダカイワシ科・フサイタチウオ科. 中坊徹次 (編), pp. 446-473, 1859-1864, 529-532, 1881-1883. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Nakamura, I. & N. V. Parin. 1993. FAO species catalogue. Vol. 15. Snake mackerels and cutlassfishes of the world (families Gempylidae and Trichiuridae). An annotated and illustrated catalogue of the snake mackerels, snoeks, escolars, gemfishes, sackfishes, domine, oilfish, cutlassfishes, scabbardfishes, hairtails, and frostfishes known to date. FAO Fisheries Synopsis No. 125, 15: i-vii + 1-136.
- 西山 肇・渡井幹雄・瀬能 宏・本村浩之. 2012. 鹿児島県と論島から採集されたスズメダイ科魚類 *Stegastes insularis* ヨロンスズメダイ (新称) とその分布特性. *魚類学雑誌*, 59: 155-162.
- 西山一彦・本村浩之. 2012. 日本のベラ大図鑑. 東方出版, 大阪市. 303 pp.
- Okada, Y. 1938. A catalogue of vertebrates of Japan. Maruzen, Tokyo. iv + 412 pp.
- 岡本 誠・桜井 雄・諏訪 仁・青沼佳方. 2001. 三陸沿岸における無効分散型魚類セダカハナアイゴの出現. *伊豆海洋公園通信*, 12 (8): 5-7.
- 岡村 収. 1982. チゴダラ科. 岡村収・尼岡邦夫・三谷文夫 (編), pp. 118-139. 九州-パラオ海嶺ならびに土佐湾の魚類. 大陸棚斜面未利用資源精密調査. 日本水産資源保護協会, 東京.
- 岡村 収. 2009. ネズツボ科. 岡村収・尼岡邦夫 (編), pp. 574-581. 日本産海水魚 第3版. 山と溪谷社, 東京.
- 大城直雅・新垣和代・照屋菜津子・古謝あゆ子・玉那覇康二. 2004. I 海産毒による食中毒に関する聴きとり調査. 沖縄県衛生環境研究所 (編), pp. 1-3. 平成 13 ~ 15 年度食品自然毒対策事業報告書.

- Paulin, C. D. 1989. Review of the morid genera *Gadella*, *Physiculus*, and *Salilota* (Teleostei: Gadiformes) with descriptions of seven new species. *N. Z. J. Zool.*, 16: 92–133.
- Randall, J. E. 1980. Revision of the fish genus *Plectranthias* (Serranidae: Anthiinae) with descriptions of 13 new species. *Micronesica*, 16: 101–187.
- Randall, J. E. 1992. A review of the labrid fishes of the genus *Cirrhilabrus* from Japan, Taiwan and the Mariana Islands, with description of two new species. *Micronesica*, 25: 99–121.
- Randall, J. E. 1996. Two new anthiine fishes of the genus *Plectranthias* (Perciformes: Serranidae), with a key to the species. *Micronesica*, 29: 113–131.
- Randall, J. E. 1999. *Halichoeres orientalis*, a new labrid fish from southern Japan and Taiwan. *Zool. Stud.*, 38: 295–300.
- Randall, J. E. 2001. Five new Indo-Pacific gobiid fishes of the genus *Coryphopterus*. *Zool. Stud.*, 40: 206–225.
- Randall, J. E. 2005. A review of soles of the genus *Aseraggodes* from the South Pacific, with descriptions of seven new species and a diagnosis of *Synclidopus*. *Mem. Mus. Victoria*, 62: 191–212.
- Randall, J. E. 2005. Reef and shore fishes of the South Pacific. New Caledonia to Tahiti and the Pitcairn Islands. Univ. Hawai'i Press, Honolulu. xii + 707 pp.
- Randall, J. E. 2013. Seven new species of labrid fishes (*Coris*, *Iniistius*, *Macropharyngodon*, *Novaculops*, and *Pteragogus*) from the western Indian Ocean. *J. Ocean Sci. Found.*, 7: 1–43.
- Randall, J. E. & G. R. Allen. 1973. A revision of the gobiid fish genus *Nemateleotris*, with descriptions of two new species. *Quart. J. Taiwan Mus.*, 26: 347–367.
- Randall, J. E. & C. C. Baldwin. 1997. Revision of the serranid fishes of the subtribe Pseudogrammina, with descriptions of five new species. *Indo-Pac. Fishes*, (26): 1–56.
- Randall, J. E. & P. C. Heemstra. 1991. Revision of Indo-Pacific groupers (Perciformes: Serranidae: Epinephelinae), with descriptions of five new species. *Indo-Pac. Fishes*, (20): 1–332.
- Randall, J. E. & D. F. Hoese. 1985. Revision of the Indo-Pacific dartfishes, genus *Ptereleotris* (Perciformes: Gobioidae). *Indo-Pac. Fishes*, (7): 1–36.
- Randall, J. E., H. Ida, K. Kato, R. L. Pyle & J. L. Earle. 1997. Annotated checklist of inshore fishes of the Ogasawara Islands. *Natl. Sci. Mus. Monogr.*, (11): 1–74.
- Randall, J. E., J. T. Williams & L. A. Rocha. 2008. The Indo-Pacific tetraodontid fish *Canthigaster coronata*, a complex of three species. *Smithiana, Publ. Aquatic Biodiv.*, Bull., (9): 3–13.
- Robins, C. H. & C. R. Robins. 1976. New genera and species of dysommene and synaphobranchine eels (Synaphobranchidae) with an analysis of the Dysommeneae. *Proc. Acad. Nat. Sci. Philad.*, 127: 249–280.
- Schultz, L. P. 1953. Muraenidae. Pages 98–159, pls. 6, 11–16 in Schultz, L. P. & collaborators, eds. *Fishes of the Marshall and Marianas Islands*. Vol. 1. Family Asymmetronidae through Siganidae. *Bull. U. S. Natl. Mus.*, 202.
- Schwarzshans, W., P. R. Møller & J. G. Nielsen. 2005. Review of the Dine-matichthyini (Teleostei: Bythitidae) of the Indo-West Pacific. Part I. *Diancistrus* and two new genera and 26 new species. *Beagle, Rec. Northern Territory Mus. Arts Sci.*, 21: 73–163.
- 瀬能 宏. 1993. ヌノサラン科. 中坊徹次 (編), pp. 635–636, 1313. 日本産魚類検索 全種の同定. 東海大学出版会, 東京.
- 瀬能 宏. 1997. ハタ科. 岡村 収・尼岡邦夫 (編), pp. 251–277. 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 瀬能 宏. 2000. ハタ科. 中坊徹次 (編), pp. 690–731, 1539–1547. 日本産魚類検索 全種の同定 第2版. 東海大学出版会, 東京.
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科. 中坊徹次 (編), pp. 757–802, 1960–1971. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 瀬能 宏・今井圭介・加藤昌一. 2004. 伊豆諸島八丈島から採集された日本初記録のジャンメツキノワガレイ (新称). *伊豆海洋公園通信*, 15 (2): 2–5.
- Senou, H., Y. Kobayashi & N. Kobayashi. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. *Bull. Kanagawa Pref. Mus. (Nat. Sci.)*, (36): 47–74.
- 瀬能 宏・島田和彦. 2001. ムスジコシヨウダイおよびその近縁種の斑紋変化と分類. *伊豆海洋公園通信*, 2 (12): 2–6.
- 瀬能 宏・鈴木寿之・大沼久之・森田康弘. 1994. パラフエダイ稚魚の攻撃擬態における新たなモデル例. *伊豆海洋公園通信*, 5 (12): 4–5.
- Shen, S.-C. 1994. A revision of the tripterygiid fishes from coastal waters of Taiwan with descriptions of two new genera and five new species. *Acta Zool. Taiwan.*, 5 (2): 1–32.
- Shibukawa, K. 2010. *Heteroleotris exilis*, a new goby (Perciformes: Gobiidae: Gobiinae) from the Ryukyu Islands, Japan. *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, Suppl.*, (4): 89–95.
- Shibukawa, K. & M. Aizawa. 2013. *Cabillus pexus*, a new marine goby (Teleostei: Gobiidae) from Amami-oshima, Ryukyu Islands, Japan. *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci. (Ser. A)*, 39: 133–142.
- Shibukawa, K. & T. Suzuki. 2002. *Asterropteryx atripes*, a new gobiid fish from the western Pacific Ocean (Perciformes: Gobioidae). *Ichthyol. Res.*, 49: 274–280.
- Shibukawa, K. & T. Suzuki. 2007. Two new species of the cheek-spine goby genus *Asterropteryx* (Perciformes: Gobiidae: Gobiinae) from the western Pacific. *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci., Ser. A, Suppl.*, (1): 109–121.
- 渋川浩一・鈴木寿之・瀬能 宏. 2011. 琉球列島から得られた日本初記録のハゼ科3種. 大阪市立自然史博物館研報, 65: 25–38.
- 島田和彦. 2009. キンチャクダイ科. 岡村 収・尼岡邦夫 (編), pp. 402–412. 日本の海水魚 第3版. 山と溪谷社, 東京.
- 島田和彦. 2013. ベラ科. 中坊徹次 (編), pp. 1088–1136, 2045–2056. 日本産魚類検索 全種の同定 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 清水 長. 1984. フサカサゴ属・オニカサゴ属. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編), pp. 300–301. 日本産魚類大図鑑 (解説・図版). 東海大学出版会, 東京.
- 篠原現人. 1998. フサカサゴ科の1種 *Scorpaenodes varipinnis* の日本からの記録. *魚類学雑誌*, 45: 37–41.

- Smith, D. G. 2012. A checklist of the moray eels of the world (Teleostei: Anguilliformes: Muraenidae). *Zootaxa*, 3474: 1–64.
- Smith, J. L. B. 1959. Gobioid fishes of the families Gobiidae, Periophthalmidae, Trypauchenidae, Taenioididae and Kraemeriidae of the western Indian Ocean. *Ichthyol. Bull., Depart. Ichthyol., Rhodes Univ.*, (13): 185–225.
- Smith-Vaniz, W. F. 1999. Carangidae. Pages 2659–2756 in Carpenter, K. E. & V. H. Niem, eds. *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 4. Bony fishes part 2 (Mugilidae to Carangidae)*. FAO, Rome.
- Snyder, J. O. 1912. The fishes of Okinawa, one of the Riu Kiu Islands. *Proc. U. S. Natl. Mus.*, 42: 487–519.
- Sogabe, A. & M. Takagi. 2013. Population genetic structure of the messmate pipefish *Corythoichthys haematopterus* in the northwest Pacific: evidence for a cryptic species. *Springer Plus*, 2: 1–12.
- Suzuki, T. & J. E. Randall. 2011. *Paragobiodon kasaii*, a new gobioid fish from Japan and Palau. *Bull. Natl. Mus. Nat. Sci. (Ser. A)*, 37: 155–161.
- 鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾・瀬能 宏. 2004. 決定版 日本のハゼ. 平凡社, 東京. 534 pp.
- 高田陽子・渋川浩一・篠原現人. 2008. ヨウジウオ科カスミオイランヨウジ (新称) *Dunckerocampus naja* の日本からの記録. *魚類学雑誌*, 55: 135–138.
- Tighe, K. A. 2000. Family Chlopsidae. Page 584 in J. E. Randall & K. K. P. Lim, eds. *A checklist of the fishes of the South China Sea*. *Raffles Bull. Zool., Suppl.*, (8).
- Tominaga, Y. 1968. Internal morphology, mutual relationships and systematic position of the fishes belonging to the family Pempheridae. *Japan. J. Ichthyol.*, 15: 43–95.
- Vachon, J., F. Chapleau & M. Desoutter-Meniger. 2008 (dated as 2007). Révision taxonomique et phylogénie de *Dagetichthys* et *Synaptura* (Soleidae). *Cybium*, 31: 401–416.
- White, W. T. & S. P. Iglésias. 2011. *Squalus formosus*, a new species of spurdog shark (Squaliformes: Squalidae), from the western North Pacific Ocean. *J. Fish Biol.*, 79: 958–968.
- Whitehead, P. J. P. 1985. *FAO species catalogue. Vol. 7. Clupeoid fishes of the world (suborder Clupeoidei). An annotated and illustrated catalogue of the herrings, sardines, pilchards, sprats, anchovies and wolf-herrings. Part 1 – Chirocentridae, Clupeidae and Pristigasteridae*. *FAO Fisheries Synopsis No. 125, 7 (1): i–x + 1–303*.
- Winterbottom, R. 1989. A revision of the *Trimmatom nanus* species complex (Pisces, Gobiidae), with descriptions of three new species and redefinition of *Trimmatom*. *Canadian J. Zool.*, 67: 2403–2410.
- Winterbottom, R. 2011. Six new species of the genus *Trimma* (Percomorpha: Gobiidae) from the Raja Ampat Islands, Indonesia, with notes on cephalic sensory papillae nomenclature. *Aqua, Inter. J. Ichthyol.*, 17: 127–162.
- Winterbottom, R. & A. R. Emery. 1986. Review of the gobioid fishes of the Chagos Archipelago, central Indian Ocean. *Royal Ontario Mus. Life Sci. Contrib.*, 142: i–v + 1–82.
- Winterbottom, R. & C. A. Villa. 2003. A new species of the *Trimma caesiura* species complex (Teleostei: Gobiidae) from the northeastern margin of the Australian Plate, with a redescription of the other nominal species in the complex. *Aqua, J. Ichthyol. Aquatic Biol.*, 7: 13–28.
- Wongratana, T., T. A. Monroe & M. S. Nizinski. 1999. Order Clupeiformes. Engraulidae. anchovies. Pages 1698–1753 in Carpenter, K. E. & V. H. Niem, eds. *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 3. Batoid fishes, chimaeras and bony fishes part 1 (Elopidae to Linophrynidae)*. FAO, Rome.
- Woodland, D. J. 1990. Revision of the fish family Siganidae with descriptions of two new species and comments on distribution and biology. *Indo-Pac. Fishes*, (19): 1–136.
- Yamada, T., T. Sugiyama, N. Tamaki, A. Kawakita & M. Kato. 2009. Adaptive radiation of gobies in the interstitial habitats of gravel beaches accompanied by body elongation and excessive vertebral segmentation. *BMC Evol. Biol.*, 9: 145–176.
- Yanagisawa, Y. 1978. Studies on the interspecific relationship between gobioid fish and snapping shrimp. I. Gobioid fishes associated with snapping shrimps in Japan. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 24 (4/6): 269–325.
- Yoshida, T., S. Harazaki & H. Motomura. 2010. Apogonid fishes (Teleostei: Perciformes) of Yaku-shima island, Kagoshima Prefecture, southern Japan. Pages 27–64 in Motomura, H. & K. Matsuura, eds. *Fishes of Yaku-shima island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan*. *Natl. Mus. Nat. Sci., Tokyo*.
- 吉田朋弘・中村千愛・本村浩之. 2013. 鹿児島県のメギス科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 39: 31–45.
- 吉郷英範. 2014. 琉球列島産陸水性魚類相および文献目録. *Fauna Ryukyuan*, 9: 1–153.
- 吉郷英範・田村常雄・巖 道治・島田展人. 2005. 沖永良部島(琉球列島・奄美諸島)の洞穴で確認された動物. *比和科学博物館館報*, 44: 37–59.
- Yoshino T. & C. Araga. 1975. *Trimma caudomaculata*. Page 272, pl. 89-M. in Masuda, H., C. Araga & T. Yoshino, eds. *Coastal fishes of southern Japan*. Tokai Univ. Press, Tokyo.
- 吉野雄輔. 2008. 山溪ハンディ図鑑 13 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京. 543 pp.



ア

アイコバンハゼ	525
アオギハゼ	537
アオスジエビス	100
アオスジスズメダイ	347
アオスジテンジクダイ	186
アオスジモンガラ	605
アオスマヤキ	578
アオダイ	237
アオノメハタ	142
アオベニハゼ	538
アオヤガラ	112
アカイサキ	142
アカオビベラ	418
アカククリ	551
アカテンモチノウオ	381
アカトビ	79
アカニジベラ	396
アカネイタチウオ	67
アカネキントキ	183
アカハタ	148
アカハチハゼ	544
アカハナ	145
アカハラヤッコ	299
アカヒメジ	263
アカヒレハダカハゼ	529
アカフジテンジクダイ	189
アカホシイソハゼ	510
アカマツカサ	86
アカモンガラ	597
アケボノチョウチヨウウオ	286
アサドスズメダイ	365
アザハタ	144
アジアカシヨウダイ	248
アシナガシマイソハゼ (新称)	540
アセウツボ	35
アツクチスズメダイ	332
アマミウシノシタ	589
アマミカクレウオ	63
アマミスズメダイ	335
アマミタナバタウオ	181
アマミハナダイ	160
アミアイゴ	554
アミメウマツラハギ	607
アミメミノカエルウオ	468
アヤヘビギンポ	460
アラハダカ	59

イ

イケカツオ	221
イシガキカエルウオ	472
イシガキスズメダイ	357
イシガキダイ	315
イシガキハタ	149
イシフエダイ	230
イシヨウジ	104

イスズミ	274
イセゴイ	22
イソハゼ	507
イソハゼ属の一種1	516
イソハゼ属の一種2	516
イソハゼ属の一種3	516
イソハゼ属の一種4	517
イソマグロ	581
イチモンジブダイ	431
イチモンズズメダイ	352
イッテンチョウチヨウウオ	291
イッテンフエダイ	236
イッテンフサカサゴ	118
イトヒキアジ	214
イトヒキオキハギ	592
イトヒキベラ属の一種	385
イナズマベラ	399
イナセギンポ	480
イヌカサゴ	131
イレズミオオメエソ	58
イレズミハゼ	536
イロブダイ	426
イワアナゴ	24
イワサキスズメダイ	357
インドカエルウオ	464

ウ

ウケグチイットウダイ	92
ウスジマイシモチ	186
ウチウミマダラエソ	55
ウチワフグ	612
ウミショウブハゼ	532
ウミヅキチョウチヨウウオ	279
ウミテング	101
ウメイロモドキ	241
ウルマカサゴ	129

エ

エドアブラザメ	12
エリグロギンポ	469
エリマキヘビギンポ	448

オ

オイランヨウジ	106
オウゴンニジギンポ	477
オウムブダイ	437
オオクチユゴイ	314
オオスジイシモチ	189
オオスジヒメジ	264
オオヒメ	238
オオヒレテンスモドキ	413
オオメカゴカマス	579
オオメタナバタメギス	169
オオメナツトビ	80
オオメワラスボ	546
オオモンハゲブダイ	426

オオモンハゼ	521
オオヤマトカマス	577
オカムラギンメ	60
オキアジ	225
オキザヨリ	82
オキナメジナ	275
オキナワオオタチ	580
オキナワククルマダイ	185
オキナワスズメダイ	370
オキナワトウゴロウ	77
オキナワハゼ	500
オキナワハゼ属の一種4	502
オキナワフグ	620
オキナワベニハゼ	539
オキフエダイ	232
オグロクロユリハゼ	549
オグロトラギス	442
オグロブダイ	433
オグロヘビギンポ	452
オグロペラ	416
オジサン	268
オジロスズメダイ	363
オスジクロハギ	558
オトメハゼ	543
オナガスズメダイ	333
オニカマス	577
オニダルマオコゼ	137
オニヒラアジ	217
オニペラ	419
オニボラ	73
オハグロハギ	565
オビシノビハゼ	505
オビテンスモドキ	411
オビブダイ	439
オヤビツチャ	324

カ

カイエビス	94
カガミチヨウチヨウウオ	276
カクレクマノミ	330
カクレテンジクダイ	199
カスミアジ	217
カスミオイランヨウジ	106
カスミチヨウチヨウウオ	294
カスリイシモチ	192
カスリカエルアンコウ	68
カスリフサカサゴ	131
カスリヘビギンポ	462
カタグロホホスジモチノウオ	413
カタボシオオモンハゼ	522
カタボシサンカクハゼ	518
カダヤシ	83
カツイロニセスズメ	177
カツオ	581
カノコペラ	397
カマスサワラ	580

カマスベラ	383
カミソリウオ	102
カモハラギンポ	477
カラスザメ	19
カンムリペラ	387
カンムリヨウジ	108
カンモンハタ	152

キ

キイロハギ	573
キオビスズメダイ	371
キカイカエルウオ	473
キシマイシヨウジ	103
キスジキュウセン	393
ギチペラ	391
キツネアマダイ	212
キツネフエフキ	256
キツネペラ	379
キヌペラ	423
キハダ	583
キビレアカレンコ	260
キビレハタ	151
キビレボウスハギ	572
キホシスズメダイ	343
キミオコゼ	119
キリンミノ	114
ギンガメアジ	219
キンギョハナダイ	165
キンセンイシモチ	195
キンホシイソハゼ	515
キンメダイ	84
ギンユゴイ	313

ク

グアムカサゴ	124
クギペラ	391
クサギンポ	450
クサヤモロ	219
クダリボウスギスモドキ属の一種	211
クチナガイシヨウジ	105
クビアカハゼ	493
クマササハナムロ	243
クマドリ	593
クマノミ	327
クモウツボ	25
クラカオスズメダイ	325
クラカケモンガラ	600
クレナイニセスズメ	171
クレナイヘビギンポ	451
クロナナゴ	44
クロウミウマ	108
クロオビエビス	98
クロオビマツカサ	87
クログチニザ	563
クロコシヨウダイ	246
クロシビカマス	578

クロシマゴチ	140
クロスジギンポ	464
クロスズメダイ	355
クロソラスズメダイ	376
クロダラ	61
クロトガリザメ	11
クロハギ	567
クロハコフグ	611
クロヒゲイワアナゴ	24
クロヒラアジ	215
クロヘリイトヒキベラ	384
クロホシイソハゼ	513
クロホシハゼ	505
クロマスク	458
クロメガネスズメダイ	369
クロモンガラ	595
クロヤナギハゼ	491
クロヤハズハゼ	495
クロユリハゼ	547

ケ

ゲンロクザメ	16
--------	----

コ

ゴイシギンポ	472
コウワンテグリ	488
コガシラベラ	420
コガネニセスズメ	175
コクテンカタギ	281
コクテンサザナミハギ	568
コクテンニセヘビギンポ	461
コクテンハギ	609
コクテンフグ	615
コクハンアラ	161
コスジハナスズキ	158
コトヒキ	311
コバンアジ	222
コバンヒメジ	267
コビトイソハゼ	508
コブヌメリ	486
コベンケイハゼ	534
コボラ	70
ゴマウツボ	29
ゴマサバ	582
ゴマチョウチョウウオ	279
ゴマハギ	574
ゴマヒレキントキ	182
ゴマフキンチャクフグ	616
ゴマモンガラ	594
コミナトテンジクダイ	193
コモンクダリボウズギス	208
コモンヤツシハゼ	545
コロダイ	245
コンゴウアナゴ	41
ゴンズイ	51

サ

サクラテンジクダイ	202
ササズメダイ	337
サザナミウシノシタ	590
サザナミダイ	253
サザナミトサカハギ	573
サザナミハギ	569
サザナミハゼ	543
サザナミフグ	614
サザナミヤッコ	308
ササムロ	240
サツマカサゴ	127
サバヒー	50
サビウツボ	38
サラサゴンベ	316
サラサハゼ	493
サンカクハゼ	520
サンギルイシモチ	198
サンゴイタチウオ	66
サンゴイタチウオ属の一種	66
サンゴトラギス	442

シ

シイラ	213
シコクスズメダイ	338
シジミハゼ	497
シチセンスズメダイ	321
シチセンチョウチョウウオ	290
シチセンベラ	383
シチセンムスメベラ	387
シテンヤッコ	298
シノビハゼ	506
シボリ	207
シボリキンチャクフグ	617
シマイソハゼ	542
シマウツボ	28
シマキンチャクフグ	619
シマスズメダイ	323
シマタレクチベラ	402
シマハギ	566
シマヒメヤマノカミ	114
シモフリタナバタウオ	179
ジャンメツキノワガレイ	587
シロイソハゼ	508
シロズキンハゼ	527
シロダイ	251
シロタスキベラ	404
シロブチハタ	151
シンジュウツボ	33

ス

スジアラ	162
スジイシモチ	187
スジギンポ	474
スジクモハゼ	495
スジクロハギ	558

スジナメモンガラ	606
スジブダイ	436
スジブチスズメダイ	344
スジベラ	388
スズメダイ属の一種	344
スズランヒメウツボ (新称)	30
スタレヤライイシモチ	202
スナゴチ	138
スミツキアトヒキテンジクダイ	201
スミツキカノコ	97
スミツキトノサマダイ	288
スミツキベラ	379
スミレナガハナダイ	164
スミレヤッコ	306
ズングリハゼ	499

セ

セアカコバンハゼ	523
セイテンビラメ	584
セグロチョウチョウウオ	281
セグロヘビギンポ	454
セグロマツカサ	90
セジロノドグロベラ	410
セダカギンポ	474
セダカスズメダイ	372
セダカハナアイゴ	556
セダカヘビギンポ	455
セナキルリスズメダイ	351
ゼブラウツボ	26
ゼブラハゼ	549
セボシイソカサゴ	125
セボシウミタケハゼ	533
セホンサンカクハゼ	517
センカエルウオ	476

ソ

ソメワケヘビギンポ	454
ソメワケベラ	407
ソメワケヤッコ	298
ソラスズメダイ	364

タ

ダイナンアナゴ	43
タイワンブダイ	425
タイワンマトイシモチ	204
タイワンメナダ	73
タカサゴ属の一種	241
タカノハハゼ	503
タキベラ	380
タスキモンガラ	599
タスジイシモチ	195
タスジコバンハゼ	524
タテガミカエルウオ	467
タテジマキンチャクダイ	307
タテシマフエフキ	255
タナバタウオ	180

タナバタメギス	177
タネギンポ	483
タマカエルウオ	463
タマギンポ	482
タレクチベラ	403
ダンゴオコゼ	136
ダンダラトラギス	440

チ

チカメエチオピア	226
チカメキントキ	182
チゴダラ属の一種	62
チゴベニハゼ	539
チゴヨウジ	103
チチブモドキ	490
チビブダイ	425
チブルネツタイフサカサゴ	116
チャバネトビウオ	79
チュラプシホウネンエソ (新称)	52
チョウチョウウオ	278
チョウチョウコショウダイ	245
チョウハン	283

ツ

ツキベラ	400
ツノダシ	557
ツバメタナバタウオ	178
ツボダイ	310
ツマジロオコゼ	137
ツマジロモンガラ	601
ツマリツノザメ	13
ツマリマツカサ	87
ツムブリ	220
ツユベラ	390

テ

テバスズメダイ	341
テリエビス	95
テングカワハギ	608
テングハギ	572
テングハギモドキ	570
テングヘビギンポ	461
テングロスジギンポ	481
テンジクイサキ	273
テンジクダツ	82
テンスモドキ	424
テンス属の一種	406

ト

トウウササウシノシタ	588
トカラベラ	395
トガリツノザメ	15
トゲイタチウオ	65
トゲタナバタウオ	179
トゲダルマガレイ	585
トゲチョウチョウウオ	277

トゲナガイシモチ	187
トゲメギス	166
トゲヨウジ	110
トサヤッコ	303
トビウオ	78
トビギンポ	445
トビハリガネウミヘビ	23

ナ

ナイルティラピア	320
ナガサギ	244
ナガサキスズメダイ	366
ナガニザ	561
ナガブダイ	438
ナガメイチ	253
ナハマトイシモチ	205
ナミスズメダイ	326
ナミダテンジクダイ	210
ナメラハゼ	501
ナメラベラ	403
ナメラヤッコ	302
ナンヨウアゴナシ	261
ナンヨウカイワリ	215
ナンヨウキンメ	84
ナンヨウツバメウオ	550
ナンヨウブダイ	428
ナンヨウミドリハゼ	511

ニ

ニジエビス	95
ニシキイトヒキベラ	384
ニシキキュウセン	393
ニシキヤッコ	309
ニジギンポ	478
ニジハギ	560
ニジハタ	146
ニセカエルウオ	475
ニセタカサゴ	242
ニセネッタイスズメダイ	361
ニセフウライチヨウチヨウウオ	283
ニセヘビギンポ	462
ニセモチノウオ	414
ニセモンツキスズメダイ	367
ニテンエソ	57
ニホンヤモリザメ	10
ニライカサゴ	126
ニラミカサゴ	134

ヌ

ヌノサラシ	157
ヌメリテンジクダイ	211

ネ

ネズスズメダイ	349
ネッタイスズメダイ	366
ネッタIFサカサゴ	116

ノ

ノコギリウツボ	37
ノコギリウミヤッコ	107
ノコギリダイ	251
ノコギリハギ	609
ノドグロベラ	410

ハ

ハクセイハギ	607
ハクセンスズメダイ	359
ハクテンヘビギンポ	450
ハゲブダイ	431
ハシナガベラ	424
ハダカハオコゼ	135
ハタタテギンポ	478
ハタタテサンカクハゼ	519
ハタタテダイ	296
ハタタテハゼ	546
ハチジョウアカムツ	231
ハチジョウボウヨウジ	109
ハチビキ	229
ハナアイゴ	552
ハナキンチャクフグ	617
ハナグロチヨウチヨウウオ	287
ハナゴイ	163
ハナゴンベ	167
ハナビラクマノミ	331
ハナフエダイ	237
ハナミノカサゴ	120
ハマクマノミ	328
ハマフエフキ	254
ハラスジベラ	417
バラハタ	168
バラフエダイ	232
ハリセンボン	621
ハワイウツボ	27
ハワイマトイシモチ	201
バンダイシモチ	209
パンダダルマハゼ	530

ヒ

ヒトスジエソ	58
ヒトスジギンポ	471
ヒトヅラハリセンボン	621
ヒトミハタ	155
ヒバシヨウジ	105
ヒブダイ	434
ヒメアイゴ	555
ヒメカザリハゼ	528
ヒメクロコバンハゼ (新称)	522
ヒメゴンベ	317
ヒメサンゴカサゴ	124
ヒメスズメダイ	340
ヒメダイ	239
ヒメダテハゼ	492

ヒメテグリ	487
ヒメトゲウミヤッコ	107
ヒメニセモチノウオ	414
ヒメヒラタカエルアンコウ	68
ヒメフエダイ	234
ヒラソウダ	580
ヒラニザ	560
ヒレグロイットウダイ	91
ヒレグロコショウダイ	247
ヒレグロスズメダイ	333
ヒレグロハタ	150
ヒレジロアナゴ	40
ヒレジロマンザイウオ	228
ヒレナガカンパチ	222
ヒレナガスズメダイ	356
ヒレナガハギ	576
ヒレナガヤッコ	305
ピロウドザメ	21

フ

フィリピンズメダイ	367
フウライチョウチョウウオ	291
フウライボラ	71
フウリュウウオ	69
フエヤッコダイ	294
フカミスズメダイ	337
フサクチゴチ	138
フジナハナダイ (新称)	160
フタイロカエルウオ	470
フタスジコバンハゼ	526
フタスジタマガシラ	249
フタスジハゼ	501
フチアイゴ	553
フチススキベラ	377
フチドリズメダイ	373
フチドリタナバタウオ	178
フチフサカサゴ	133
フチブダイ	435
フトカラスザメ	18
フトスジイレズミハゼ	535

へ

ヘコアユ	112
ベニゴンベ	318
ベニハゼ	536
ベニヒレイトヒキベラ	386
ヘビギンポ	447
ヘビギンポ属の一種1	456
ヘビギンポ属の一種2	457
ヘビギンポ属の一種3	458
ベラギンポ属の一種	445
ヘラヤガラ	111
ヘラルドコガネヤッコ	300
ベンケイハゼ	533
ベンテンウオ	226

ホ

ホウセキキントキ	184
ホウライヒメジ	265
ホオアカクチビ	257
ホクトハダカ	59
ホシエビス	99
ホシカザリハゼ	528
ホシゴンベ	319
ホシススキベラ	378
ホシテンス	405
ホシニセスズメ	175
ホシハゼ	494
ホシヒレイソハゼ	512
ホシモンガラ	604
ホシヤマトミズン	45
ホソオビヤクシマイワシ	76
ホソスジナミダテンジクダイ	209
ホソフジクジラ	17
ホホグロギンポ	466
ホムラトラギス	443
ボラ	74
ホンソメワケベラ	408

マ

マダラエソ	55
マダラトラギス	444
マダラハタ	155
マダラフサカサゴ	133
マトシボリ	200
マメサンゴカサゴ	122
マルクチヒメジ	266
マルコバン	224
マルサヨリ	81
マルスズメダイ	339

ミ

ミサキウバウオ	485
ミスジアカヒレイシモチ	198
ミスジチョウチョウウオ	285
ミスジテンジクダイ	196
ミスジテンジクダイL型	197
ミスジリュウキュウスズメダイ	353
ミズン	46
ミゾレチョウチョウウオ	282
ミツバモチノウオ	381
ミツボシキュウセン	401
ミツボシクロスズメダイ	353
ミドリハゼ	515
ミナミアカエソ	57
ミナミイソスズメダイ	370
ミナミイソハゼ	510
ミナミイソハタ	144
ミナミウシノシタ	590
ミナミウツボ	28
ミナミウバウオ	485
ミナミキビナゴ	48

ミナミクロサギ	244
ミナミクロダイ	260
ミナミトビギンボ	446
ミナミハコフグ	610
ミナミハタタテダイ	296
ミナミハタンボ	271
ミナミフトスジイシモチ	193
ミナミミゾレウツボ	31
ミナミミズアナゴ	42
ミナミメダイ	583
ミノカエルウオ	469
ミズハゼ属の一種	530
ミトゲオニカサゴ	130
ミヤケテグリ	488
ミヤコイシモチ	191
ミヤコキセンスズメダイ	346
ミヤコテングハギ	570

ム

ムジコバンハゼ	523
ムシベラ	377
ムスジイソハゼ	513
ムスメウシノシタ	588
ムスメハギ	600
ムツ	213
ムナテンベラ	398
ムネアカクチビ	257
ムラサキヌタウナギ	9
ムラサメモンガラ	597

メ

メアジ	221
メガネクロハギ	561
メガネゴンベ	318
メガネスズメダイ	362
メガネハギ	603
メギス	170

モ

モヨウフグ	616
モンガラカワハギ	593
モンスズメダイ	342
モンダルマガレイ	584
モンツキアカヒメジ	262
モンツキカエルウオ	466
モンツキハギ	563

ヤ

ヤイトヤッコ	303
ヤエヤマギンボ	484
ヤクシマイワシ	76
ヤスジニセモチノウオ	415
ヤセアマダイ	212
ヤナギハゼ	491
ヤハズハゼ	496
ヤマシロベラ	416

ヤマトミズン	45
ヤマブキハタ	166
ヤマブキベラ	421
ヤミスズキ	141
ヤライイシモチ	204
ヤリイシモチ	189
ヤンセンニシキベラ	420

ユ

ユカタイシモチ	190
ユゴイ	312
ユメカサゴ	136
ユメザメ	20
ユリウツボ	38

ヨ

ヨコシマクロダイ	258
ヨゴレダルマハゼ	531
ヨゴレマツカサ	89
ヨスジフエダイ	235
ヨダレカケ	464
ヨツメトラギス	440
ヨリメハゼ	498
ヨロンスズメダイ	374

リ

リュウキュウイシモチ	190
リュウキュウイタチウオ属の一種1	63
リュウキュウイタチウオ属の一種2	64
リュウキュウエビス	94
リュウキュウキビナゴ	47
リュウキュウダツ	81
リュウキュウニセズメ	172
リュウキュウハタンボ	270
リュウキュウヒメジ	269
リュウキュウヤライイシモチ	203

ル

ルリスズメダイ	348
ルリホシズメダイ	358
ルリヤッコ	299

レ

レモンスズメダイ	349
----------	-----

ロ

ロウソクギンボ	483
ロウソクチビキ	229
ロクセンスズメダイ	321

ワ

ワカウツボ	34
ワニグチボラ	74
ワヌケトラギス	441

A	
<i>Abalistes filamentosus</i>	592
<i>Ablabys taenianotus</i>	137
<i>Abudefduf septemfasciatus</i>	321
<i>Abudefduf sexfasciatus</i>	321
<i>Abudefduf sordidus</i>	323
<i>Abudefduf vaigiensis</i>	324
<i>Acanthocybium solandri</i>	580
<i>Acanthopagrus sivicolus</i>	260
<i>Acanthoplesiops psilogaster</i>	178
<i>Acanthurus blochii</i>	558
<i>Acanthurus leucopareius</i>	558
<i>Acanthurus lineatus</i>	560
<i>Acanthurus mata</i>	560
<i>Acanthurus nigricans</i>	561
<i>Acanthurus nigrofasciatus</i>	561
<i>Acanthurus olivaceus</i>	563
<i>Acanthurus pyroferus</i>	563
<i>Acanthurus thompsoni</i>	565
<i>Acanthurus triostegus</i>	566
<i>Acanthurus xanthopterus</i>	567
<i>Aeoliscus strigatus</i>	112
<i>Alectis ciliaris</i>	214
<i>Alionemataichthys</i> sp. 1	63
<i>Alionemataichthys</i> sp. 2	64
<i>Alticus saliens</i>	463
<i>Amblyeleotris steinitzi</i>	492
<i>Amblyeleotris wheeleri</i>	493
<i>Amblygaster leiogaster</i>	45
<i>Amblygaster sirm</i>	45
<i>Amblyglyphidodon curacao</i>	325
<i>Amblyglyphidodon leucogaster</i>	326
<i>Amblygobius phalaena</i>	493
<i>Amphiprion clarkii</i>	327
<i>Amphiprion frenatus</i>	328
<i>Amphiprion ocellaris</i>	330
<i>Amphiprion perideraion</i>	331
<i>Amsichthys knighti</i>	169
<i>Anampses caeruleopunctatus</i>	377
<i>Anampses geographicus</i>	377
<i>Anampses twistii</i>	378
<i>Andamia tetradactyla</i>	464
<i>Antennarius dorehensis</i>	68
<i>Antennarius randalli</i>	68
<i>Aphareus furca</i>	230
<i>Apogon angustatus</i>	186
<i>Apogon aureus</i>	186
<i>Apogon caudicinctus</i>	187
<i>Apogon</i> cf <i>taeniophorus</i>	197
<i>Apogon cookii</i>	187
<i>Apogon crassiceps</i>	189
<i>Apogon doederleini</i>	189
<i>Apogon doryssa</i>	189
<i>Apogon exostigma</i>	190
<i>Apogon indicus</i>	190
<i>Apogon ishigakiensis</i>	191
<i>Apogon kallopterus</i>	192
<i>Apogon kominatoensis</i>	193
<i>Apogon nigrofasciatus</i>	193
<i>Apogon novemfasciatus</i>	195
<i>Apogon properuptus</i>	195
<i>Apogon taeniophorus</i>	196
<i>Apogon thermalis</i>	198
<i>Apogon trimaculatus</i>	198
<i>Apogonichthyoides timorensis</i>	199
<i>Apogonichthys ocellatus</i>	200
<i>Apogonichthys perdix</i>	201
<i>Apoemichthys trimaculatus</i>	298
<i>Archamia fucata</i>	201
<i>Ariomma brevimanum</i>	583
<i>Arothron hispidus</i>	614
<i>Arothron nigropunctatus</i>	615
<i>Arothron stellatus</i>	616
<i>Aseraggodes orientalis</i>	588
<i>Aseraggodes</i> sp.	588
<i>Aspidontus dussumieri</i>	464
<i>Assessor randalli</i>	178
<i>Asterorhombus intermedius</i>	584
<i>Asterropteryx semipunctata</i>	494
<i>Atherinomorus lacunosus</i>	76
<i>Atherinomorus pinguis</i>	76
<i>Atrosalaria holomelas</i>	464
<i>Aulostomus chinensis</i>	111
<i>Auxis thazard thazard</i>	580
B	
<i>Balistapus undulatus</i>	593
<i>Balistoides conspicillum</i>	593
<i>Balistoides viridescens</i>	594
<i>Bathygobius coalitus</i>	495
<i>Bathygobius cocosensis</i>	495
<i>Bathygobius cyclopterus</i>	496
<i>Bathygobius peterophilus</i>	497
<i>Belonepterygion fasciolatum</i>	179
<i>Belonoperca chabanaudi</i>	141
<i>Benthosema fibulatum</i>	59
<i>Beryx decadactylus</i>	84
<i>Beryx splendens</i>	84
<i>Blenniella bilitonensis</i>	466
<i>Blenniella chrysospilus</i>	466
<i>Bodianus axillaris</i>	379
<i>Bodianus bilunulatus</i>	379
<i>Bodianus perditio</i>	380
<i>Bothus mancus</i>	584
<i>Bothus pantherinus</i>	585
C	
<i>Cabillus tongarevae</i>	498

- Caesio caeruleaurea* 240
Caesio sp. 241
Caesio teres 241
Callogobius flavobrunneus 499
Callogobius hasseltii 500
Callogobius okinawae 501
Callogobius sclateri 501
Callogobius sp. 4 502
Calloplelesops altivelis 179
Calostomus carolinus 425
Calostomus spinidens 425
Cantherhines dumerilii 607
Cantherhines pardalis 607
Canthigaster amboinensis 616
Canthigaster axiologus 617
Canthigaster janthinoptera 617
Canthigaster valentini 619
Caprodon schlegelii 142
Caracanthus maculatus 136
Carangoides ferdau 215
Carangoides orthogrammus 215
Caranx melampygus 217
Caranx papuensis 217
Caranx sexfasciatus 219
Carcharhinus falciformis 11
Centrophorus tessellatus 16
Centropyge bicolor 298
Centropyge bispinosa 299
Centropyge ferrugata 299
Centropyge heraldi 300
Centropyge vrolikii 302
Centroscymnus owstonii 20
Cephalopholis argus 142
Cephalopholis leopardus 144
Cephalopholis sonnerati 144
Cephalopholis spiloparaea 145
Cephalopholis urodeta 146
Cercamia eremia 202
Cetoscarus ocellatus 426
Chaetodon argentatus 276
Chaetodon auriga 277
Chaetodon auripes 278
Chaetodon bennetti 279
Chaetodon citrinellus 279
Chaetodon ephippium 281
Chaetodon guentheri 281
Chaetodon kleinii 282
Chaetodon lineolatus 283
Chaetodon lumula 283
Chaetodon lumulatus 285
Chaetodon melannotus 286
Chaetodon ornatissimus 287
Chaetodon plebeius 288
Chaetodon punctatofasciatus 290
Chaetodon unimaculatus 291
Chaetodon vagabundus 291
Chanos chanos 50
Cheilinus chlorourus 381
Cheilinus trilobatus 381
Cheilio inermis 383
Cheilodipterus intermedius 202
Cheilodipterus macrodon 203
Cheilodipterus quinquelineatus 204
Cheiloprion labiatus 332
Chelon macrolepis 70
Chelonodon patoca 620
Chlorurus boweri 426
Chlorurus microrhinos 428
Chlorurus sordidus 431
Choerodon fasciatus 383
Choeroichthys sculptus 103
Chromis alleni 333
Chromis atripes 333
Chromis chrysurus 335
Chromis lepidolepis 337
Chromis leucura 337
Chromis margaritifer 338
Chromis ovatiformis 339
Chromis sp. 344
Chromis vanderbilti 340
Chromis viridis 341
Chromis xanthura 342
Chromis yamakawai 343
Chrysiptera biocellata 344
Chrysiptera brownriggii 346
Chrysiptera caeruleolineata 347
Chrysiptera cyanea 348
Chrysiptera glauca 349
Chrysiptera rex 349
Chrysiptera starcki 351
Chrysiptera unimaculata 352
Cirrhilabrus cyanopleura 384
Cirrhilabrus exquisitus 384
Cirrhilabrus lyukyuensis 385
Cirrhilabrus rubrimarginatus 386
Cirrhitiichthys falco 316
Cirrhitiichthys oxycephalus 317
Cirripectes castaneus 467
Cirripectes imitator 468
Cirripectes polyzona 469
Conger erebennus 43
Conger japonicus 44
Cookeolus japonicus 182
Coris aygula 387
Coris batuensis 387
Coris dorsomacula 388
Coris gaimard 390
Coryphaena hippurus 213

<i>Corythoichthys flavofasciatus</i>	103
<i>Corythoichthys haematopterus</i>	104
<i>Corythoichthys schultzi</i>	105
<i>Crenimugil crenilabris</i>	71
<i>Crossosalarias macrospilus</i>	469
<i>Cryptocentrus caeruleomaculatus</i>	503
<i>Cryptocentrus nigrocellatus</i>	505
<i>Ctenochaetus binotatus</i>	568
<i>Ctenochaetus striatus</i>	569
<i>Ctenogobiops aurocingulus</i>	505
<i>Ctenogobiops pomasticus</i>	506
<i>Cypselurus agoo</i>	78
<i>Cypselurus atrisignis</i>	79
<i>Cypselurus spilonotopterus</i>	79
<i>Cypselurus unicolor</i>	80

D

<i>Dagetichthys marginata</i>	589
<i>Dascyllus aruanus</i>	353
<i>Dascyllus trimaculatus</i>	353
<i>Decapterus macarellus</i>	219
<i>Dendrochirus brachypterus</i>	114
<i>Dendrochirus zebra</i>	114
<i>Dentex abei</i>	260
<i>Diagramma picta picta</i>	245
<i>Diancistrus erythraeus</i>	65
<i>Diancistrus fuscus</i>	66
<i>Diancistrus sp.</i>	66
<i>Dinematichthys iluocoeteoides</i>	67
<i>Diodon holocanthus</i>	621
<i>Diodon lituosus</i>	621
<i>Diplogrammus xenicus</i>	486
<i>Doryrhamphus (Doryrhamphus) excisus excisus</i>	105
<i>Dunckerocampus dactyliophorus</i>	106
<i>Dunckerocampus naia</i>	106

E

<i>Echidna nebulosa</i>	25
<i>Ecsenius bicolor</i>	470
<i>Ecsenius lineatus</i>	471
<i>Ecsenius oculus</i>	472
<i>Ecsenius yaeyamaensis</i>	472
<i>Elagatis bipinnulata</i>	220
<i>Eleotris acanthopoma</i>	490
<i>Ellochelone vaigiensis</i>	73
<i>Emmelichthys struhsakeri</i>	229
<i>Encheliophis vermicularis</i>	63
<i>Enneapterygius etheostoma</i>	447
<i>Enneapterygius flavoccipitis</i>	448
<i>Enneapterygius leucopunctatus</i>	450
<i>Enneapterygius philippinus</i>	450
<i>Enneapterygius rhabdotus</i>	451
<i>Enneapterygius signicauda</i>	452
<i>Enneapterygius similis</i>	454

<i>Enneapterygius sp. 1</i>	456
<i>Enneapterygius sp. 2</i>	457
<i>Enneapterygius sp. 3</i>	458
<i>Enneapterygius tutuilae</i>	454
<i>Enneapterygius unimaculatus</i>	455
<i>Entomacrodus decussatus</i>	473
<i>Entomacrodus striatus</i>	474
<i>Epibulus insidiator</i>	391
<i>Epinephelus fasciatus</i>	148
<i>Epinephelus hexagonatus</i>	149
<i>Epinephelus howlandi</i>	150
<i>Epinephelus macrospilos</i>	151
<i>Epinephelus maculatus</i>	151
<i>Epinephelus merra</i>	152
<i>Epinephelus polyphkadion</i>	155
<i>Epinephelus tauvina</i>	155
<i>Epinnula magistralis</i>	578
<i>Eptatretus okinoseanus</i>	9
<i>Erythrocles schlegelii</i>	229
<i>Etelis carbunculus</i>	231
<i>Etmopterus brachyurus</i>	17
<i>Etmopterus princeps</i>	18
<i>Etmopterus pusillus</i>	19
<i>Eumegistus illustris</i>	226
<i>Eurypegasis draconis</i>	101
<i>Eviota abax</i>	507
<i>Eviota distigma</i>	508
<i>Eviota guttata</i>	508
<i>Eviota japonica</i>	510
<i>Eviota melasma</i>	510
<i>Eviota prasina</i>	511
<i>Eviota queenslandica</i>	512
<i>Eviota saipanensis</i>	513
<i>Eviota smaragdus</i>	513
<i>Eviota sp. 1</i>	516
<i>Eviota sp. 2</i>	516
<i>Eviota sp. 3</i>	516
<i>Eviota sp. 4</i>	517
<i>Eviota storthynx</i>	515
<i>Eviota toshiyuki</i>	515
<i>Exallias brevis</i>	474

F

<i>Fistularia commersonii</i>	112
<i>Foa fo</i>	204
<i>Forcipiger flavissimus</i>	294
<i>Fowleria isostigma</i>	205
<i>Fowleria variegata</i>	207
<i>Fusigobius duospilus</i>	517
<i>Fusigobius humeralis</i>	518
<i>Fusigobius inframaculatus</i>	519
<i>Fusigobius neophytus</i>	520

G

<i>Galeus nipponensis</i>	10
<i>Gambusia affinis</i>	83
<i>Genicanthus melanospilos</i>	303
<i>Genicanthus semifasciatus</i>	303
<i>Genicanthus watanabei</i>	305
<i>Gerres oblongus</i>	244
<i>Gerres oyena</i>	244
<i>Girella mezinga</i>	275
<i>Gnathodentex aureolineatus</i>	251
<i>Gnatholepis anjerensis</i>	521
<i>Gnatholepis cauerensis</i>	522
<i>Gobiodon ater</i>	522
<i>Gobiodon axillaris</i>	523
<i>Gobiodon fuscuber</i>	523
<i>Gobiodon rivulatus</i>	524
<i>Gobiodon</i> sp. 1.....	525
<i>Gobiodon</i> sp. 2.....	526
<i>Gomphosus varius</i>	391
<i>Grammistes sexlineatus</i>	157
<i>Gunnellichthys pleurotaenia</i>	546
<i>Gymnapogon urospilotes</i>	208
<i>Gymnocranius euanus</i>	251
<i>Gymnocranius grandoculis</i>	253
<i>Gymnocranius microdon</i>	253
<i>Gymnomuraena zebra</i>	26
<i>Gymnosarda unicolor</i>	581
<i>Gymnothorax berndti</i>	27
<i>Gymnothorax chilospilus</i>	28
<i>Gymnothorax enigmaticus</i>	28
<i>Gymnothorax flavimarginatus</i>	29
<i>Gymnothorax fuscomaculatus</i>	30
<i>Gymnothorax intesi</i>	31
<i>Gymnothorax margaritophorus</i>	33
<i>Gymnothorax meleagriss</i>	34
<i>Gymnothorax pictus</i>	35
<i>Gymnothorax pindae</i>	37
<i>Gymnothorax prionodon</i>	38
<i>Gymnothorax thyrsoideus</i>	38

H

<i>Halicampus brocki</i>	107
<i>Halicampus spinirostris</i>	107
<i>Halichoeres biocellatus</i>	393
<i>Halichoeres hartzfeldii</i>	393
<i>Halichoeres hortulanus</i>	395
<i>Halichoeres margaritaceus</i>	396
<i>Halichoeres marginatus</i>	397
<i>Halichoeres melanocheir</i>	398
<i>Halichoeres nebulosus</i>	399
<i>Halichoeres orientalis</i>	400
<i>Halichoeres trimaculatus</i>	401
<i>Helcogramma fuscipectoris</i>	458
<i>Helcogramma inclinata</i>	460

<i>Helcogramma rhinoceros</i>	461
<i>Helicolenus hilgendorffii</i>	136
<i>Hemigymnus fasciatus</i>	402
<i>Hemigymnus melapterus</i>	403
<i>Hemitaenichthys polylepis</i>	294
<i>Heniochus acuminatus</i>	296
<i>Heniochus chrysostomus</i>	296
<i>Heptranchias perlo</i>	12
<i>Herklotsichthys quadrimaculatus</i>	46
<i>Heteroleotris poecila</i>	527
<i>Heteropriacanthus cruentatus</i>	182
<i>Hippocampus kuda</i>	108
<i>Hologymnosus annulatus</i>	403
<i>Hologymnosus doliatus</i>	404
<i>Hypoatherina lunata</i>	77
<i>Hyporhamphus dussumieri</i>	81

I

<i>Iniistius pavo</i>	405
<i>Iniistius</i> sp.	406
<i>Istiblennius edentulus</i>	475
<i>Istiblennius lineatus</i>	476
<i>Istigobius decoratus</i>	528
<i>Istigobius goldmanni</i>	528

K

<i>Katsuwonus pelamis</i>	581
<i>Kaupichthys atronasmus</i>	24
<i>Kaupichthys japonicus</i>	24
<i>Kelloggella cardinalis</i>	529
<i>Kuhlia marginata</i>	312
<i>Kuhlia mugil</i>	313
<i>Kuhlia rupestris</i>	314
<i>Kyphosus cinerascens</i>	273
<i>Kyphosus vaigiensis</i>	274

L

<i>Labracinus cyclophthalmus</i>	170
<i>Labroides bicolor</i>	407
<i>Labroides dimidiatus</i>	408
<i>Laemonema robustum</i>	61
<i>Lepadichthys frenatus</i>	485
<i>Lepadichthys</i> sp.	485
<i>Lethrinus nebulosus</i>	254
<i>Lethrinus obsoletus</i>	255
<i>Lethrinus olivaceus</i>	256
<i>Lethrinus rubrioperculatus</i>	257
<i>Lethrinus xanthochilus</i>	257
<i>Limnichthys fasciatus</i>	445
<i>Limnichthys nitidus</i>	446
<i>Liopropoma susumi</i>	158
<i>Luciogobius</i> sp.	530
<i>Lutjanus bohar</i>	232
<i>Lutjanus fulvus</i>	232

<i>Lutjanus gibbus</i>	234
<i>Lutjanus kasmira</i>	235
<i>Lutjanus monostigma</i>	236

M

<i>Macropharyngodon meleagris</i>	410
<i>Macropharyngodon negrosensis</i>	410
<i>Malacanthus brevirostris</i>	212
<i>Malacanthus latovittatus</i>	212
<i>Malthopsis kobayashii</i>	69
<i>Meadia abyssalis</i>	40
<i>Megalops cyprinoides</i>	22
<i>Meiacanthus atrodorsalis</i>	477
<i>Meiacanthus kamoharai</i>	477
<i>Melichthys vidua</i>	595
<i>Micrognathus andersonii</i>	108
<i>Minysynchiropus kiyoeae</i>	487
<i>Monotaxis grandoculis</i>	258
<i>Moolgarda seheli</i>	73
<i>Moringua javanica</i>	23
<i>Mugil cephalus cehalus</i>	74
<i>Mulloidichthys flavolineatus</i>	262
<i>Mulloidichthys vanicolensis</i>	263
<i>Muraenichthys schultzei</i>	42
<i>Myctophum asperum</i>	59
<i>Myripristis berndti</i>	86
<i>Myripristis greenfieldi</i>	87
<i>Myripristis kuntee</i>	87
<i>Myripristis murdjan</i>	89
<i>Myripristis violacea</i>	90

N

<i>Naso hexacanthus</i>	570
<i>Naso lituratus</i>	570
<i>Naso minor</i>	572
<i>Naso unicornis</i>	572
<i>Naso vlamingii</i>	573
<i>Nectamia bandanensis</i>	209
<i>Nectamia fusca</i>	209
<i>Nectamia savayensis</i>	210
<i>Nemateleotris magnifica</i>	546
<i>Neocirrhites armatus</i>	318
<i>Neoglyphidodon melas</i>	355
<i>Neoglyphidodon nigroris</i>	356
<i>Neoniphon opercularis</i>	91
<i>Neoniphon samara</i>	92
<i>Neosynchiropus moyeri</i>	488
<i>Neosynchiropus ocellatus</i>	488
<i>Norfolkia brachylepis</i>	461
<i>Norfolkia thomasi</i>	462
<i>Novaculichthys taeniourus</i>	411
<i>Novaculoides macrolepidotus</i>	413

O

<i>Odonus niger</i>	597
<i>Oedalechilus labiosus</i>	74
<i>Oplegnathus punctatus</i>	315
<i>Oreochromis niloticus</i>	320
<i>Ostichthys kaianus</i>	94
<i>Ostracion cubicus</i>	610
<i>Ostracion meleagris</i>	611
<i>Oxycheilinus orientalis</i>	413
<i>Oxymonacanthus longirostris</i>	608

P

<i>Paracaesio caerulea</i>	237
<i>Paracentropyge venusta</i>	306
<i>Paracirrhites arcatus</i>	318
<i>Paracirrhites forsteri</i>	319
<i>Paragobiodon lacunicolus</i>	530
<i>Paragobiodon modestus</i>	531
<i>Paraluteres prionurus</i>	609
<i>Parapercis clathrata</i>	440
<i>Parapercis cylindrica</i>	440
<i>Parapercis millepunctata</i>	441
<i>Parapercis multiplicata</i>	442
<i>Parapercis pacifica</i>	442
<i>Parapercis randalli</i>	443
<i>Parapercis tetracantha</i>	444
<i>Parascorpaena aurita</i>	116
<i>Parascorpaena mossambica</i>	116
<i>Parascorpaena moultoni</i>	118
<i>Pardachirus pavoninus</i>	590
<i>Parupeneus barberinus</i>	264
<i>Parupeneus ciliatus</i>	265
<i>Parupeneus cyclostomus</i>	266
<i>Parupeneus indicus</i>	267
<i>Parupeneus multifasciatus</i>	268
<i>Parupeneus pleurostigma</i>	269
<i>Pempheris adusta</i>	270
<i>Pempheris schwenkii</i>	271
<i>Pentaceros japonicus</i>	310
<i>Petroscirtes breviceps</i>	478
<i>Petroscirtes mitratus</i>	478
<i>Phoxocampus diacanthus</i>	109
<i>Physiculus</i> sp.	62
<i>Pictichromis porphyrea</i>	171
<i>Plagiotremus laudandus</i>	480
<i>Plagiotremus tapeinosoma</i>	481
<i>Platax orbicularis</i>	550
<i>Platax pinnatus</i>	551
<i>Plectorhinchus chaetodonoides</i>	245
<i>Plectorhinchus gibbosus</i>	246
<i>Plectorhinchus lessonii</i>	247
<i>Plectorhinchus picus</i>	248
<i>Plectranthias wheeleri</i>	160
<i>Plectranthias yamakawai</i>	160

- Plectroglyphidodon dickii* 357
Plectroglyphidodon imparipennis 357
Plectroglyphidodon lacrymatus 358
Plectroglyphidodon leucozonus 359
Plectropomus laevis 161
Plectropomus leopardus 162
Plectrypops lima 94
Plesiops coeruleolineatus 180
Plesiops verecundus 181
Pleurosicya bilobata 532
Pleurosicya mossambica 533
Plotosus japonicus 51
Polydactylus sexfilis 261
Polyipnus ovatus 52
Polymixia sazónovi 60
Pomacanthus imperator 307
Pomacanthus semicirculatus 308
Pomacentrus amboinensis 361
Pomacentrus bankanensis 362
Pomacentrus chrysurus 363
Pomacentrus coelestis 364
Pomacentrus lepidogenys 365
Pomacentrus moluccensis 366
Pomacentrus nagasakiensis 366
Pomacentrus nigromarginatus 367
Pomacentrus philippinus 367
Pomacentrus sp. 370
Pomacentrus vaiuli 369
Pomachromis richardsoni 370
Praealticus bilineatus 482
Praealticus tanegasimae 483
Priacanthus blochii 183
Priacanthus hamrur 184
Priolepis cincta 533
Priolepis fallacincta 534
Priolepis latifasciata 535
Priolepis semidoliata 536
Pristigenys meyeri 185
Pristipomoides argyrogrammicus 237
Pristipomoides filamentosus 238
Pristipomoides sieboldii 239
Promethichthys prometheus 578
Pseudamia gelatinosa 211
Pseudamiops sp. 211
Pseudanthias pascualis 163
Pseudanthias pleurotaenia 164
Pseudanthias squamipinnis 165
Pseudocheilinus evanidus 414
Pseudocheilinus hexataenia 414
Pseudocheilinus octotaenia 415
Pseudochromis cyanotaenia 172
Pseudochromis luteus 175
Pseudochromis marshallensis 175
Pseudochromis tapeinosoma 177
Pseudocoris yamashiroi 416
Pseudogramma polyacantha 166
Pseudojuloides cerasinus 416
Pseudomonacanthus macrurus 609
Pseudopleiopsis rosae 177
Pteraclis aesticola 226
Ptereleotris evides 547
Ptereleotris heteroptera 549
Ptereleotris zebra 549
Pterocaesio marri 242
Pterocaesio tile 243
Pterois radiata 119
Pterois volitans 120
Pygoplites diacanthus 309
- R**
- Rexea nakamurai* 579
Rhabdoblemmius nitidus 483
Rhinecanthus aculeatus 597
Rhinecanthus rectangulus 599
Rhinecanthus verrucosus 600
- S**
- Salarias fasciatus* 484
Saloptia powelli 166
Samariscus triocellatus 587
Sargocentron diadema 95
Sargocentron itodai 95
Sargocentron melanospilos 97
Sargocentron praslin 98
Sargocentron punctatissimum 99
Sargocentron tiere 100
Saurida gracilis 55
Saurida nebulosa 55
Scarus forsteni 431
Scarus fuscocaudalis 433
Scarus ghobban 434
Scarus niger 435
Scarus psittacus 437
Scarus rivulatus 436
Scarus rubroviolaceus 438
Scarus schlegeli 439
Scolopsis bilineata 249
Scomber australasicus 582
Scomberoides lysan 221
Scombrops boops 213
Scorpaenodes guamensis 124
Scorpaenodes hirsutus 122
Scorpaenodes parvipinnis 124
Scorpaenodes varipinnis 125
Scorpaenopsis diabolus 126
Scorpaenopsis neglecta 127
Scorpaenopsis papuensis 129
Scorpaenopsis possi 130

<i>Scorpaenopsis ramaraoi</i>	131
<i>Sebastapistes cyanostigma</i>	131
<i>Sebastapistes fowleri</i>	133
<i>Sebastapistes strongia</i>	133
<i>Sebastapistes tinkhami</i>	134
<i>Selar crumenophthalmus</i>	221
<i>Seriola rivoliana</i>	222
<i>Serranocirrhitis latus</i>	167
<i>Siganus argenteus</i>	552
<i>Siganus punctatus</i>	553
<i>Siganus spinus</i>	554
<i>Siganus virgatus</i>	555
<i>Siganus woodlandi</i>	556
<i>Simenchelys parasitica</i>	41
<i>Soleichthys heterorhinos</i>	590
<i>Solenostomus cyanopterus</i>	102
<i>Sphyræna africana</i>	577
<i>Sphyræna barracuda</i>	577
<i>Spratelloides atrofasciatus</i>	47
<i>Spratelloides delicatulus</i>	48
<i>Squalus brevirostris</i>	13
<i>Squalus japonicus</i>	15
<i>Stegastes albifasciatus</i>	371
<i>Stegastes altus</i>	372
<i>Stegastes fasciolatus</i>	373
<i>Stegastes insularis</i>	374
<i>Stegastes nigricans</i>	376
<i>Stethojulis bandanensis</i>	418
<i>Stethojulis strigiventer</i>	417
<i>Stethojulis trilineata</i>	419
<i>Strongylura incisa</i>	81
<i>Sufflamen bursa</i>	600
<i>Sufflamen chrysopterum</i>	601
<i>Sufflamen fraenatum</i>	603
<i>Sunagocia arenicola</i>	138
<i>Sunagocia otaitensis</i>	138
<i>Synanceia verrucosa</i>	137
<i>Syngnathoides biaculeatus</i>	110
<i>Synodus binotatus</i>	57
<i>Synodus dermatogenys</i>	57
<i>Synodus oculus</i>	58
<i>Synodus variegatus</i>	58

T

<i>Taenianotus triacanthus</i>	135
<i>Taractichthys steindachneri</i>	228
<i>Terapon jarbua</i>	311
<i>Thalassoma amblycephalum</i>	420
<i>Thalassoma janseni</i>	420
<i>Thalassoma lutescens</i>	421
<i>Thalassoma purpureum</i>	423
<i>Thunnus albacares</i>	583
<i>Thysanophrys chiltonae</i>	140
<i>Trachinotus baillonii</i>	222

<i>Trachinotus blochii</i>	224
<i>Trichiurus</i> sp.	580
<i>Trichonotus</i> sp.	445
<i>Trimma caesiura</i>	536
<i>Trimma caudomaculatum</i>	537
<i>Trimma maiandros</i>	538
<i>Trimma naudei</i>	539
<i>Trimma okinawae</i>	539
<i>Trimmatom macropodus</i>	540
<i>Trimmatom</i> sp.	542
<i>Triodon macropterus</i>	612
<i>Tylosurus acus melanotus</i>	82
<i>Tylosurus crocodilus crocodilus</i>	82

U

<i>Ucla xenogrammus</i>	462
<i>Uraspis helvola</i>	225

V

<i>Valencienna longipinnis</i>	543
<i>Valencienna puellaris</i>	543
<i>Valencienna strigata</i>	544
<i>Vanderhorstia</i> sp. 2	545
<i>Variola louti</i>	168

W

<i>Wetmorella nigropinnata</i>	424
--------------------------------	-----

X

<i>Xanthichthys auromarginatus</i>	604
<i>Xanthichthys caeruleolineatus</i>	605
<i>Xanthichthys lienopunctatus</i>	606
<i>Xenisthmus clarus</i>	491
<i>Xenisthmus</i> sp.	491
<i>Xyrichthys sciistius</i>	424

Z

<i>Zameus squamulosus</i>	21
<i>Zanclus cornutus</i>	557
<i>Zebrosoma flavescens</i>	573
<i>Zebrosoma scopas</i>	574
<i>Zebrosoma veliferum</i>	576

著者一覽

- 伊東正英 Masahide Ito**
1968年、長野県生まれ。鹿児島県南さつま市笠沙町漁業協同組合・丸世大吉漁業生産組合。鹿児島大学総合研究博物館ボランティア。
- 岩坪洗樹 Hiroki Iwatsubo**
1989年、鹿児島県生まれ。鹿児島大学大学院水産学研究所修了。鹿児島県漁業協同組合連合会。専門はズメダイ科魚類の分類学。
- 遠藤広光 Hiromitsu Endo**
1964年、福岡県生まれ。博士（水産学）。高知大学自然科学系理学部門・教授。専門は底生性魚類の分類学・タラ目魚類の系統学。
- 大石一樹 Kazuki Oishi**
1992年、新潟県生まれ。鹿児島大学水産学部・学部3年。鹿児島大学総合研究博物館ボランティア。
- 大橋祐太 Yuta Ohashi**
1988年、新潟県生まれ。鹿児島大学水産学部卒業。新潟県柏崎市農林水産課水産係。専門はカレイ目の分類学。
- 岡本 誠 Makoto Okamoto**
1974年、京都府生まれ。博士（水産学）。西海区水産研究所・研究支援職員。専門はやセムツ科などの中深層性魚類と仔稚魚の分類学。
- 片山英里 Eri Katayama**
1982年、岡山県生まれ。博士（理学）。国立科学博物館・支援研究員。専門はベラギンボ科・トビギンボ科魚類の分類学。
- 木村清志 Seishi Kimura**
1953年、京都府生まれ。農学博士。三重大学大学院生物資源学研究所水産実験所・教授。現在の専門はトウゴロウイワシ科、アジ科、ヒイラギ科の分類学。
- 木村祐貴 Yuki Kimura**
1988年、兵庫県生まれ。広島大学大学院生物圏科学研究科・博士課程1年。専門はイソギンボ科魚類の行動生態学。
- 桜井 雄 You Sakurai**
1969年、奈良県生まれ。琉球大学大学院理学研究科修了。沖縄環境調査株式会社。専門は熱帯性魚類の分類学。
- 笹木大地 Daichi Sasaki**
1988年、愛知県生まれ。三重大学大学院生物資源学研究所修了。専門はトウゴロウイワシ科魚類の分類学。
- 渋川浩一 Koichi Shibukawa**
1969年、兵庫県生まれ。博士（水産学）。公益財団法人長尾自然環境財団・上席研究員。専門はハゼ亜目魚類の分類学。
- ジョン・ビョル Byeol Jeong**
1988年、大韓民国生まれ。鹿児島大学大学院水産学研究所・修士課程1年。専門はコイ目とササウシノシタ科魚類の分類学。
- 鈴木寿之 Toshiyuki Suzuki**
1955年、大阪府生まれ。兵庫県立川西緑台高等学校・教諭。専門はハゼ亜目魚類の分類学。
- 瀬能 宏 Hiroshi Senou**
1958年、東京都生まれ。農学博士。神奈川県立生命の星・地球博物館・専門学芸員。専門は魚類分類学、生物地理学。
- 田代郷国 Satokuni Tashiro**
1990年、東京都生まれ。鹿児島大学大学院水産学研究所・修士課程1年。専門はヘビギンボ科魚類の分類学。
- 武内 俊 Shun Takeuchi**
1989年、大阪府生まれ。三重大学大学院生物資源学研究所・修士課程2年。専門はアジ科魚類の系統分類学。
- 千葉 悟 Satoru N. Chiba**
1980年、宮城県生まれ。博士（理学）。国立科学博物館・特定非常勤研究員。専門はタイ科魚類の分子系統地理学。
- 中村麻理子 Mariko Nakamura**
1976年、鹿児島県生まれ。鹿児島大学大学院水産学研究所修了。鹿児島大学総合研究博物館ボランティア。
- 西 大樹 Hiroki Nishi**
1970年、鹿児島県生まれ。鹿児島大学博物館ボランティア。
- 西山 肇 Hajime Nishiyama**
1988年、大阪府生まれ。鹿児島大学大学院水産学研究所修了。専門はズメダイ科魚類の分類学。
- 畑 晴陵 Harutaka Hata**
1991年、ドイツ生まれ。鹿児島大学水産学部・学部4年。専門はニシン目魚類の分類学。
- 原口百合子 Yuriko Haraguchi**
1962年、鹿児島県生まれ。鹿児島大学総合研究博物館ボランティア。
- 原崎 森 Shigeru Harazaki**
1970年、山梨県生まれ。屋久島ダイビングサービス「もりとうみ」・代表。
- 日比野友亮 Yusuke Hibino**
1988年、愛知県生まれ。三重大学大学院生物資源学研究所・博士課程1年。専門はウミヘビ科魚類の分類学。
- 福井美乃 Yoshino Fukui**
1990年、鹿児島県生まれ。鹿児島大学総合研究博物館・研究推進支援員。専門はベラ科魚類の分類学。
- 松浦啓一 Keiichi Matsuura**
別掲
- 松沼瑞樹 Mizuki Matsunuma**
1986年、栃木県生まれ。博士（農学）。鹿児島大学総合研究博物館・研究推進支援員。専門はフサカサゴ科ミノカサゴ亜科魚類の分類学。
- 三ヶ島由梨 Yuri Mikajima**
1994年、福岡県生まれ。鹿児島大学法文学部・学部1年。鹿児島大学総合研究博物館ボランティア。
- 日黒昌利 Masatoshi Meguro**
1985年、岐阜県生まれ。鹿児島大学大学院連合農学研究科・博士課程4年。専門はヘビギンボ科魚類の分類学。
- 本村浩之 Hiroyuki Motomura**
別掲
- 山下真弘 Masahiro Yamashita**
1987年、岐阜県生まれ。鹿児島大学大学院水産学研究所修了。専門はヒメジ科魚類の分類学。
- 吉田朋弘 Tomohiro Yoshida**
1986年、大阪府生まれ。鹿児島大学大学院連合農学研究科・博士課程2年。専門はテンジクダイ科魚類の分類学。

編 者

本村浩之 Hiroyuki Motomura

1973年、静岡県生まれ。博士(農学)。国立科学博物館、オーストラリア博物館を経て、現在、鹿児島大学総合研究博物館、副館長、教授(鹿児島大学大学院連合農学研究科教授を兼任)。日本魚類学会編集委員、日本動物分類学会編集委員、鹿児島県自然愛護協会編集理事。日本魚類学会奨励賞、日本動物分類学会奨励賞受賞。専門は魚類分類学。主な著書に『Threadfins of the world (family Polynemidae)』(国連食糧農業機関)、『Fishes of Australia's southern coast』(分担、ニューホーランドプレス)、『魚類標本の作製と管理マニュアル』(鹿児島大学総合研究博物館)、『Fishes of Yaku-shima Island』(国立科学博物館)、『Fishes of Terengganu』(トレンガヌ大学他)、『黒潮の魚たち』(分担、東海大学出版会)、『日本のベラ大図鑑』(監修、東方出版)などがある。

松浦啓一 Keiichi Matsuura

1948年、東京都生まれ。水産学博士。1979年に国立科学博物館動物研究部研究員となり、同主任研究官、室長、コレクションディレクター、研究調整役(動物研究部長と昭和記念筑波研究資料館長を兼任)を歴任。東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻教授を兼任。GBIF(地球規模生物多様性情報機構副議長)、日本魚類学会会長、日本分類学会連合代表などを歴任。日本動物分類学会賞受賞、アメリカ魚類・両生爬虫類学会名誉会員。専門は魚類分類学と生物多様性情報学。主な著書に『魚の自然史—水中の進化学』(北海道大学図書刊行会)、『動物分類学』(東京大学出版会)、『虫の名、貝の名、魚の名』(東海大学出版会)、『魚の形を考える』(東海大学出版会)、『Fishes of Bitung』(国立科学博物館)、『Fishes of Yaku-shima Island』(国立科学博物館)、『黒潮の魚たち』(東海大学出版会)などがある。





奄美群島最南端の島 与論島の魚類

Field guide to fishes of Yoron Island
in the middle of the Ryukyu Islands, Japan

発行日 2014年3月31日

編著者 本村浩之・松浦啓一

DTP 本村浩之

発行所 鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30
Tel: 099-285-8141; fax: 099-285-7267
<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

国立科学博物館
〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1

印刷所 株式会社朝日印刷
〒890-0055 鹿児島市上荒田町55-1
Tel: 099-251-2191; fax: 099-253-7331

©2014 The Kagoshima University Museum
Printed in Japan ISBN978-4-905464-04-4

Citation:
本村浩之・松浦啓一(編). 2014. 奄美群島最南端の島—与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市・国立科学博物館, つくば市. 648 pp., 1808 figs.
Motomura, H. and K. Matsuura (eds.). 2014. Field guide to fishes of Yoron Island in the middle of the Ryukyu Islands, Japan. The Kagoshima University Museum, Kagoshima and the National Museum of Nature and Science, Tsukuba. 648 pp., 1808 figs.

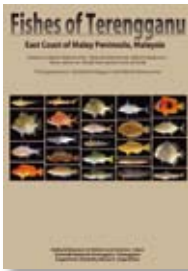
鹿児島大学総合研究博物館発行の魚類学シリーズ



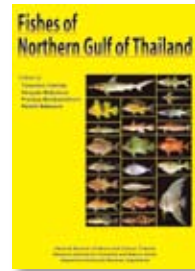
【英語版】Motomura, H. and S. Ishikawa (eds.). 2013. Fish collection building and procedures manual. English edition. The Kagoshima University Museum, Kagoshima and the Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto. 70 pp.



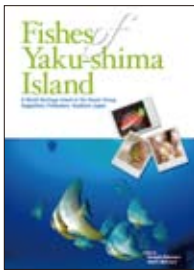
【日本語版】本村浩之(編著). 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市. 70 pp.



Matsunuma, M., H. Motomura, K. Matsuura, N. A. M. Shazili and M. A. Ambak (eds.). 2011. Fishes of Terengganu - east coast of Malay Peninsula, Malaysia. National Museum of Nature and Science, Tokyo, Universiti Malaysia Terengganu, Terengganu, and Kagoshima University Museum, Kagoshima. viii + 251 pp., 678 figs.



Yoshida, T., H. Motomura, P. Musikasinthorn and K. Matsuura (eds.). 2013. Fishes of northern Gulf of Thailand. National Museum of Nature and Science, Tsukuba, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto, and Kagoshima University Museum, Kagoshima. viii + 239 pp., 621 figs.



Motomura, H. and K. Matsuura (eds.). 2010. Fishes of Yaku-shima Island - A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo. viii + 264 pp., 704 figs.



本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一(編). 2013. 鹿児島県三島村一 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市・国立科学博物館, つくば市. 390 pp., 883 figs.



本村浩之・松浦啓一(編). 2014. 奄美群島最南端の島 - 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市・国立科学博物館, つくば市. 648 pp., 1808 figs.



鹿児島大学総合研究博物館発行の魚類学シリーズは以下のサイトからダウンロードできます。
<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>

Field guide to fishes of Yoron Island in the middle of the Ryukyu Islands, Japan

